岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第432集

館（たて）遺跡発掘調査報告書

国道397号道路整備事業関連遺跡発掘調査

岩手県大船渡地方振興局土木部

（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第432集

館遺跡発掘調査報告書　正誤表

頁	掲載No.など	誤	正
210	No.775	2D1C	ⅡD1c
230	No.1333・1339・1342・1346・1347・1350・1351・1355	礫石錐	礫石錘
248	No.345	附加条縄文(R+●・縦回転)	附加条縄文(R+LR縦回転)
	No.351	附加条縄文(R+R●横回転)	附加条縄文(縄巻R+LR横回転)

館（たて）遺跡発掘調査報告書

国道397号道路整備事業関連遺跡発掘調査

序

岩手県は、埋蔵文化財の宝庫と言われておりますが、先人達が遺したこの貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えていくことは、県民に課せられた責務であります。また一方では、幹線道路網や農業基盤整備など、社会資本を充実させることもまた行政上の重要な施策であり、このため埋蔵文化財の保存・保護と調整・調和のとれた地域開発の進展が今日的な課題でもあります。

こうした見地から、財団法人岩手県文化振興事業団では埋蔵文化財センターの創設以来、岩手県教育委員会生涯学習文化課による調整と指導のもとに、道路建設などによってやむを得ず消滅していく遺跡について発掘調査を実施し、記録保存する処置をとって参りました。

本書は、気仙郡住田町の国道397号道路整備事業に関連して平成13年度から翌14年度の２ヵ年に渡って発掘調査を実施した館遺跡の調査成果をまとめたものであります。調査の結果、遺跡は縄文時代前期中葉から中期末葉にかけての集落跡であることが明らかとなりました。中でもこれまで出土例の少なかった大木３・４～５式土器を伴う大形住居跡が検出され、同時期の様相を考える上で貴重な資料を提供することができました。

本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解を一層深めることに役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、発掘調査および報告書作成にご協力とご指示を賜りました大船渡地方振興局土木部、住田町教育委員会をはじめとする関係機関・関係各位に衷心より感謝申し上げます。

平成16年２月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　　合　田　　武

例　言

1．本報告書は、気仙郡住田町世田米字小股地内に所在する館遺跡の発掘調査成果を収録したものである。

2．本遺跡の調査は、国道397号道路整備事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は大船渡地方振興局土木部と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、岩手県大船渡地方振興局土木部の委託を受けた財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3．本遺跡の岩手県遺跡台帳における遺跡番号はＮＦ14－0159、遺跡略号はＴＴ－01・02である。

4．野外調査及び室内整理期間、調査担当者等は次の通りである。

野外調査　第一次　期間　平成13年４月12日～８月23日
面積　2,500㎡
担当者　吉田　充、佐藤あき子、丸山浩治、川又　晋
第二次　期間　平成14年４月11日～８月12日
面積　3,000㎡
担当者　北田　勲、川又　晋

室内整理　第一次　期間　平成13年11月１日～平成14年３月31日
担当者　丸山浩治、川又　晋
第二次　期間　平成14年11月１日～平成15年３月31日
担当者　北田　勲、川又　晋

5．報告書の執筆は、第Ⅰ章を大船渡地方振興局土木部が担当し、その他を丸山（第一次調査分）、川又、北田（第二次調査分ほか）が担当した。編集は北田が担当した。項目毎の文責は文末に氏名を記した。

6．遺物の分析・鑑定及び平成14年度出土剥片石器実測・トレース図作成は次の機関に委託した。

石器・石製品の石材鑑定　：　花崗岩研究会
テフラ分析　：　株式会社古環境研究所
放射性炭素年代測定　：　株式会社古環境研究所
剥片石器実測・トレース　：　株式会社シン技術コンサル

7．座標原点の測量及び空中写真撮影は次の機関に委託した。

座標原点の測量　：　中井測量設計株式会社
空中写真撮影　：　東邦航空株式会社

8．本書では、国土地理院及び岩手県宇宙航空開発推進協議会発行の以下の地形図を使用した。

1/25,000地形図　人首　陸中大原
1/200,000地形図　宇宙から見た岩手県付録

9．野外調査及び本報告書の作成にあたり、次の機関・方々から御指導・ご助言をいただいた（敬称略）。
小向裕明（遠野市教育委員会）、佐藤浩彦（遠野市教育委員会）、住田町教育委員会

10．発掘調査資料は、全て岩手県立埋蔵文化財センターが保管している。

11．調査成果の一部については現地説明会資料・岩手県埋蔵文化財発掘調査略報（平成13・14年度）等に発表してきたが、本書の記載内容が優先するものである。

凡　例

1．遺構図の用例は次の通りである（第１図参照）。

(1) 遺構実測図の縮尺は竪穴住居跡・竪穴住居状遺構の平面・断面図1/60、竪穴住居跡の炉1/30、焼土遺構の平面・断面図1/40、土器埋設遺構の平面・断面図1/60、土坑の平面・断面図1/60、柱穴の平面・断面図1/60で表した。ただし規模の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。

(2) 推定線は破線で表した。また、重複遺構については実線・破線で表した。

(3) 層位は、基本層序にローマ数字、各遺構覆土等にアラビア数字を使用した。

(4) 土層色調の観察には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を使用した。

(5) 遺構図中の「P」は土器、「S」は石器を表している。

2．遺物実測図の用例は次の通りである（第２図参照）。

(1) 遺物実測図の縮尺は土器1/3、土製品1/2、石器（尖頭器・石鏃）3/4、石器（剥片）2/3、石器（礫）1/3、石製品1/2、銭貨1/1で表した。ただし法量の関係上これに合わないものもあるため、各図版にスケール及び縮尺を付した。

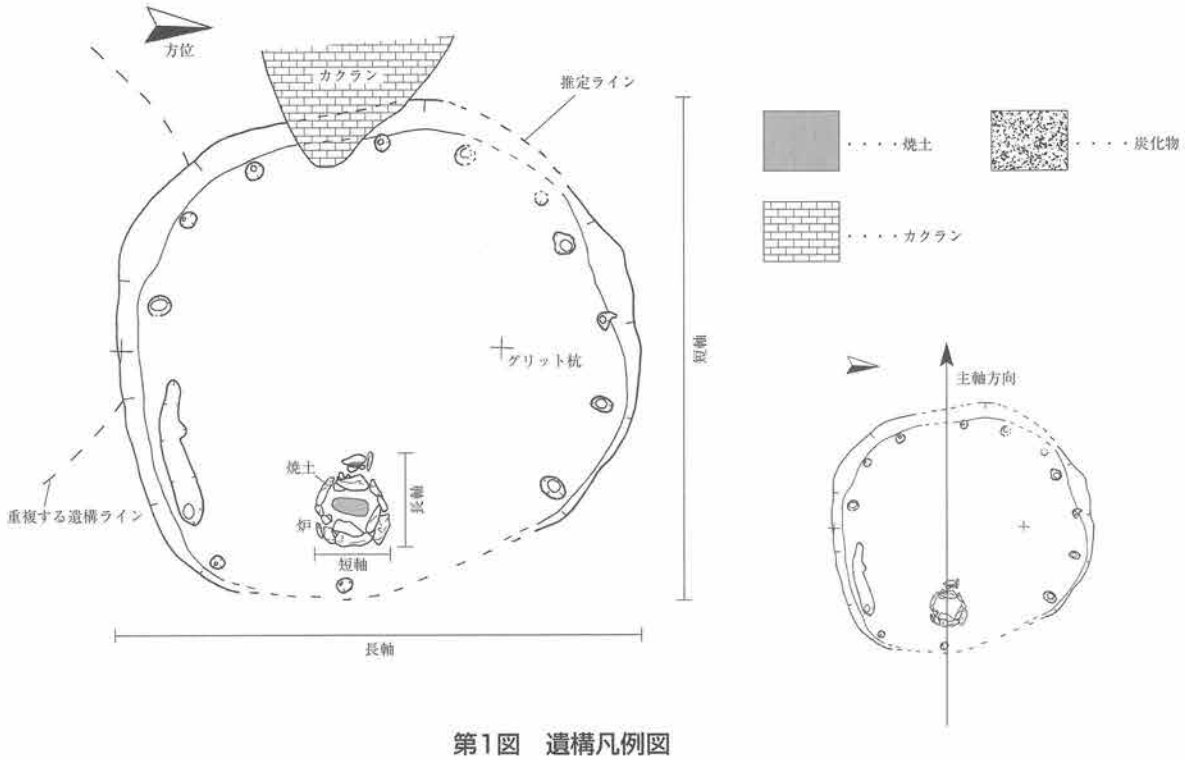
(2) 剥片石器については、折れ面が存在する場合、その部分の実測図も付した。

(3) 礫石器の磨痕については、観察により密な磨痕と粗な磨痕に分け、スクリーントーンで示した。また、敲打痕についても、実測図で表現できない場合については、スクリーントーンで示した。

3．写真図版の用例は次の通りである。

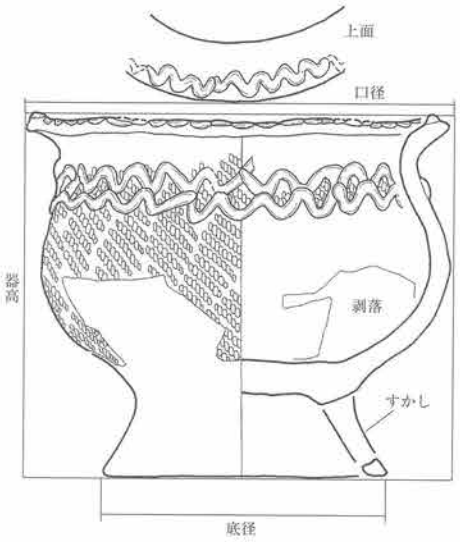
(1) 遺構写真図版については基本的に平面及び断面写真をセットとし、遺構種別に合わせて遺物出土状況などを掲載した。

(2) 遺物写真図版については、縮尺は基本的に遺物実測図に準じている。撮影面はほとんどの場合１面のみとしているが、正面のほかに裏面などを撮影し、掲載したものもある。

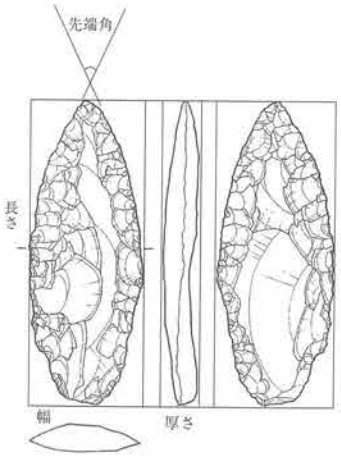


第1図　遺構凡例図

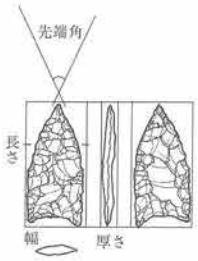
土器



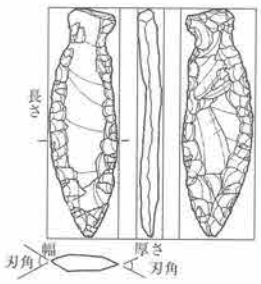
尖頭器



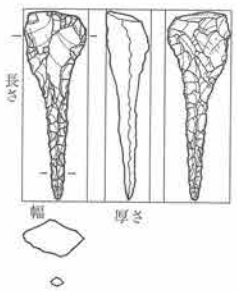
石鏃



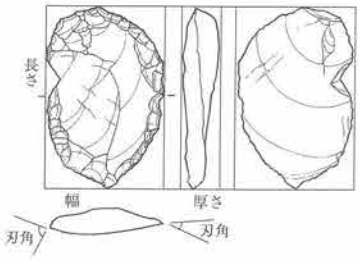
石匙



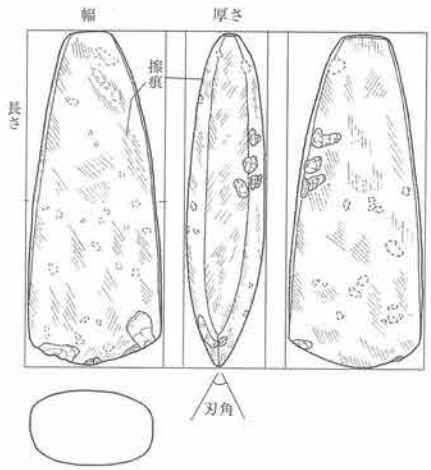
石錐



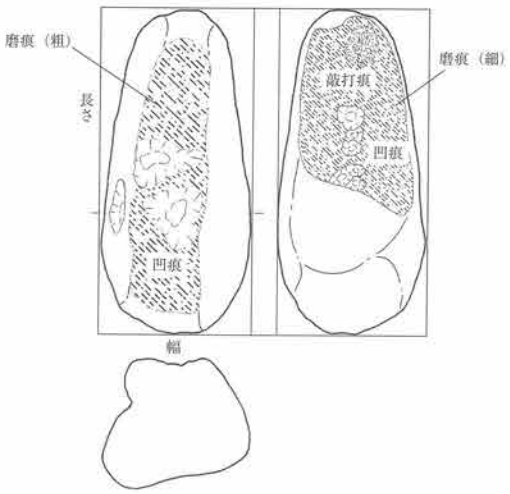
スクレイパー類



石斧類



敲磨器類



第2図　遺物凡例図

目次

序
例言
凡例

〈本文〉
Ⅰ　調査に至る経過 …… 1
Ⅱ　遺跡の立地と環境
　1．遺跡の位置 …… 1
　2．地理的環境 …… 1
　3．歴史的環境 …… 5
　4．基本層序と調査区内の地形 …… 9
Ⅲ　調査と整理の方法
　1．野外調査方法
　　（1）　グリッド設定 ……15
　　（2）　試掘調査 ……15
　　（3）　重機及び人力による粗掘・遺構検出 …… 16
　　（4）　遺構の調査方法 ……16
　　（5）　遺物の取り上げ方 ……16
　2．整理方法
　　（1）　遺構 ……17
　　（2）　遺物 ……17
　　（3）　掲載図版の構成 ……17
Ⅳ　検出遺構
　1．記述方法
　　（1）　基本方針 ……20
　　（2）　平面・断面形態について ……20
　　（3）　図化の方法 ……20
　2．遺構各説
　　（1）　竪穴住居跡 ……21
　　（2）　竪穴住居状遺構 ……85
　　（3）　土坑 ……96
　　（4）　土器埋設遺構 ……122
　　（5）　焼土遺構 ……122
　　（6）　柵列 ……126
　　（7）　ピット ……129
Ⅴ　出土遺物各説
　1．土器
　　（1）　出土状況について ……134
　　（2）　所属時期について ……134
　　（3）　土器各説 ……136
　2．土製品
　　（1）　出土状況について ……141
　　（2）　所属時期について ……141
　　（3）　土製品各説 ……141
　3．石器
　　（1）　出土状況について ……142
　　（2）　所属時期について ……142
　　（3）　石器組成と石材 ……142
　　（4）　石器各説 ……142
　4．石製品
　　（1）　出土状況について ……153
　　（2）　所属時期について ……153
　　（3）　石製品各説 ……153
　5．銭貨 ……154
Ⅵ　まとめと考察
　1．遺構 ……277
　2．遺物 ……280
Ⅶ　自然科学分析
　1．テフラ分析 ……287
　2．放射性炭素年代測定 ……290
　報告書抄録 ……433
　職員名簿 ……434

〈表〉

第１表　周辺の遺跡 …… 8
第２表　竪穴住居跡一覧表 …… 22
第３表　竪穴住居状遺構一覧表 …… 85
第４表　土坑一覧表 …… 97
第５表　土器埋設遺構一覧表 ……122
第６表　焼土遺構一覧表 ……122
第７表　柵列一覧表 ……126
第８表　ピット一覧表 ……130
第９表　土器分類表 ……135
第10表　石器石材表 ……143
第11表　土器観察表 ……234
第12表　土製品観察表 ……253
第13表　剥片石器観察表 ……254
第14表　石斧類観察表 ……260
第15表　礫石器観察表 ……261
第16表　石製品観察表 ……276
第17表　銭貨観察表 ……276

〈図版〉

第１図　遺構凡例図
第２図　遺物凡例図
第３図　岩手県全図 …… 2
第４図　遺跡位置図 …… 3
第５図　地形分類図 …… 4
第６図　周辺の遺跡分布図 …… 6・7
第７図　グリッド配置図 ……10
第８図　基本層序（１）……11
第９図　基本層序（２）……12
第10図　基本層序（３）……13
第11図　基本層序（４）……14
第12図　遺構配置図 ……18・19
第13図　ＳＩ０１・０２竪穴住居跡 ……23
第14図　ＳＩ０３・０４竪穴住居跡 ……25
第15図　ＳＩ０５・０６竪穴住居跡 ……28
第16図　ＳＩ０７・０８竪穴住居跡 ……31
第17図　ＳＩ０９・１０竪穴住居跡 ……33
第18図　ＳＩ１１・１２竪穴住居跡 ……18
第19図　ＳＩ１３・１４竪穴住居跡 ……37
第20図　ＳＩ１５・１６竪穴住居跡・ＳＸ０５・０８竪穴住居状遺構 ……39
第21図　ＳＩ１７・１９竪穴住居跡 ……41
第22図　ＳＩ１８竪穴住居跡（１）……42
第23図　ＳＩ１８竪穴住居跡（２）……43
第24図　ＳＩ２０・２１竪穴住居跡・ＳＸ０６竪穴住居状遺構 ……47
第25図　ＳＩ２３竪穴住居跡 ……49
第26図　ＳＩ２４竪穴住居跡 ……51
第27図　ＳＩ２２・２５竪穴住居跡 ……53
第28図　ＳＩ２６竪穴住居跡 ……55
第29図　ＳＩ２７竪穴住居跡（１）……56
第30図　ＳＩ２７竪穴住居跡（２）……57
第31図　ＳＩ２７竪穴住居跡（３）……58
第32図　ＳＩ２７竪穴住居跡（４）……59
第33図　ＳＩ２８竪穴住居跡 ……61
第34図　ＳＩ２９竪穴住居跡 ……63
第35図　ＳＩ３０・３２竪穴住居跡 ……65
第36図　ＳＩ３１竪穴住居跡 ……66
第37図　ＳＩ３３～３５竪穴住居跡（１）……69
第38図　ＳＩ３３～３５竪穴住居跡（２）……71
第39図　ＳＩ３３～３５竪穴住居跡（３）……73
第40図　ＳＩ３６・３７竪穴住居跡（１）……77
第41図　ＳＩ３６・３７竪穴住居跡（２）……78
第42図　ＳＩ３８・３９竪穴住居跡 ……81
第43図　ＳＩ４０・４１竪穴住居跡（１）……83
第44図　ＳＩ４０・４１竪穴住居跡（２）……84
第45図　ＳＸ０１・０２竪穴住居状遺構 ……86
第46図　ＳＸ０３・０４竪穴住居状遺構 ……89

第47図　ＳＸ０７・０９・１０竪穴住居状遺構　91
第48図　ＳＸ１１・１２竪穴住居状遺構 ……95
第49図　ＳＫ０１～０５土坑 ……99
第50図　ＳＫ０６～１０土坑 ……101
第51図　ＳＫ１１～１４土坑 ……103
第52図　ＳＫ１５～１８土坑 ……105
第53図　ＳＫ１９・２０土坑 ……107
第54図　ＳＫ２１～２６土坑 ……109
第55図　ＳＫ２７～３０土坑 ……111
第56図　ＳＫ３１～３４土坑 ……113
第57図　ＳＫ３５～３９土坑 ……115
第58図　ＳＫ４０～４４土坑 ……117
第59図　ＳＫ４５～５０土坑 ……120
第60図　ＳＫ５１～５４土坑・ＳＲ０１土器埋設遺構 ……123
第61図　ＳＦ０１～０６焼土遺構 ……125
第62図　ＳＡ０１～０５柵列 ……127
第63図　ピット（１） ……131
第64図　ピット（２） ……132
第65図　ピット（３） ……133
第66図　土器（１） ……155
第67図　土器（２） ……156
第68図　土器（３） ……157
第69図　土器（４） ……158
第70図　土器（５） ……159
第71図　土器（６） ……160
第72図　土器（７） ……161
第73図　土器（８） ……162
第74図　土器（９） ……163
第75図　土器（１０） ……164
第76図　土器（１１） ……165
第77図　土器（１２） ……166
第78図　土器（１３） ……167
第79図　土器（１４） ……168
第80図　土器（１５） ……169
第81図　土器（１６） ……170
第82図　土器（１７） ……171
第83図　土器（１８） ……172
第84図　土器（１９） ……173
第85図　土器（２０） ……174
第86図　土器（２１） ……175
第87図　土器（２２） ……176
第88図　土器（２３） ……177
第89図　土器（２４） ……178
第90図　土器（２５） ……179
第91図　土器（２６） ……180
第92図　土器（２７） ……181
第93図　土器（２８） ……182
第94図　土器（２９） ……183
第95図　土器（３０） ……184
第96図　土器（３１） ……185
第97図　土器（３２） ……186
第98図　土器（３３） ……187
第99図　土器（３４） ……188
第100図　土器（３５） ……189
第101図　土器（３６） ……190
第102図　土器（３７） ……191
第103図　土製品（１） ……192
第104図　土製品（２） ……193
第105図　石器（１） ……194
第106図　石器（２） ……195
第107図　石器（３） ……196
第108図　石器（４） ……197
第109図　石器（５） ……198
第110図　石器（６） ……199
第111図　石器（７） ……200
第112図　石器（８） ……201
第113図　石器（９） ……202
第114図　石器（１０） ……203
第115図　石器（１１） ……204
第116図　石器（１２） ……205
第117図　石器（１３） ……206
第118図　石器（１４） ……207
第119図　石器（１５） ……208
第120図　石器（１６） ……209
第121図　石器（１７） ……210

第122図　石器（１８）……211
第123図　石器（１９）……212
第124図　石器（２０）……213
第125図　石器（２１）……214
第126図　石器（２２）……215
第127図　石器（２３）……216
第128図　石器（２４）……217
第129図　石器（２５）……218
第130図　石器（２６）……219
第131図　石器（２７）……220
第132図　石器（２８）……221
第133図　石器（２９）……222
第135図　石器（３１）……223
第134図　石器（３０）……224
第136図　石器（３２）……225
第137図　石器（３３）……226
第138図　石器（３４）……227
第139図　石器（３５）……228
第140図　石器（３６）……229
第141図　石器（３７）……230
第142図　石製品（１）……231
第143図　石製品（２）……232
第144図　石製品（３）……233
第145図　時期別遺構分布図 ……279
第146図　土器集成図 ……281
第147図　石器組成図 ……283

〈写真図版〉

写真図版１　調査区全景航空写真（H13年度）…293
写真図版２　調査区全景航空写真（H14年度）…294
写真図版３　基本層序（１）……295
写真図版４　基本層序（２）……296
写真図版５　基本層序（３）……297
写真図版６　ＳＩ０１竪穴住居跡……298
写真図版７　ＳＩ０２竪穴住居跡……299
写真図版８　ＳＩ０３竪穴住居跡……300
写真図版９　ＳＩ０４竪穴住居跡……301
写真図版10　ＳＩ０５竪穴住居跡……302
写真図版11　ＳＩ０６竪穴住居跡……303
写真図版12　ＳＩ０７竪穴住居跡……304
写真図版13　ＳＩ０８竪穴住居跡……305
写真図版14　ＳＩ０９竪穴住居跡……306
写真図版15　ＳＩ１０竪穴住居跡……307
写真図版16　ＳＩ１１竪穴住居跡……308
写真図版17　ＳＩ１２竪穴住居跡……309
写真図版18　ＳＩ１３竪穴住居跡……310
写真図版19　ＳＩ１４竪穴住居跡……311
写真図版20　ＳＩ１５竪穴住居跡……312
写真図版21　ＳＩ１６竪穴住居跡……313
写真図版22　ＳＩ１７竪穴住居跡……314
写真図版23　ＳＩ１８竪穴住居跡……315
写真図版24　ＳＩ１９竪穴住居跡……316
写真図版25　ＳＩ２０竪穴住居跡……317
写真図版26　ＳＩ２１竪穴住居跡……318
写真図版27　ＳＩ２２竪穴住居跡……319
写真図版28　ＳＩ２３竪穴住居跡……320
写真図版29　ＳＩ２４竪穴住居跡……321
写真図版30　ＳＩ２５竪穴住居跡……322
写真図版31　ＳＩ２６竪穴住居跡……323
写真図版32　ＳＩ２７竪穴住居跡（１）……324
写真図版33　ＳＩ２７竪穴住居跡（２）……325
写真図版34　ＳＩ２８竪穴住居跡……326
写真図版35　ＳＩ２９竪穴住居跡……327
写真図版36　ＳＩ３０竪穴住居跡……328
写真図版37　ＳＩ３１竪穴住居跡……329
写真図版38　ＳＩ３２竪穴住居跡……330
写真図版39　ＳＩ３３竪穴住居跡……331
写真図版40　ＳＩ３４・３５竪穴住居跡……332
写真図版41　ＳＩ３６・３７竪穴住居跡……333
写真図版42　ＳＩ３８竪穴住居跡……334
写真図版43　ＳＩ３９竪穴住居跡……335
写真図版44　ＳＩ４０・４１竪穴住居跡……336

写真図版45　ＳＸ０１・０２竪穴住居状遺構…337
写真図版46　ＳＸ０３・０４竪穴住居状遺構…338
写真図版47　ＳＸ０５竪穴住居状遺構……339
写真図版48　ＳＸ０７・０８竪穴住居状遺構…340
写真図版49　ＳＸ０９竪穴住居状遺構……341
写真図版50　ＳＸ１０竪穴住居状遺構……342
写真図版51　ＳＸ１１竪穴住居状遺構……343
写真図版52　ＳＸ１２竪穴住居状遺構……344
写真図版53　ＳＫ０１～０４土坑……345
写真図版54　ＳＫ０５～０８土坑……346
写真図版55　ＳＫ０９～１２土坑……347
写真図版56　ＳＫ１３～１６土坑……348
写真図版57　ＳＫ１７～２０土坑……349
写真図版58　ＳＫ２１～２５土坑……350
写真図版59　ＳＫ２６～２９土坑……351
写真図版60　ＳＫ３０～３３土坑……352
写真図版61　ＳＫ３４～３７土坑……353
写真図版62　ＳＫ３８～４１土坑……354
写真図版63　ＳＫ４２～４６土坑……355
写真図版64　ＳＫ４７～５０土坑……356
写真図版65　ＳＫ５１・５２・５４土坑、ＳＲ０１
土器埋設遺構……357
写真図版66　ＳＦ０１・０２焼土遺構……358
写真図版67　ＳＦ０４・０５・０６焼土遺構…359
写真図版68　ＳＡ０１・０２柵列……360
写真図版69　ＳＡ０３～０５柵列……361
写真図版70　ピット（１）……362
写真図版71　ピット（２）……363
写真図版72　土器（１）……364
写真図版73　土器（２）……365
写真図版74　土器（３）……366
写真図版75　土器（４）……367
写真図版76　土器（５）……368
写真図版77　土器（６）……369
写真図版78　土器（７）……370
写真図版79　土器（８）……371
写真図版80　土器（９）……372
写真図版81　土器（１０）……373
写真図版82　土器（１１）……374
写真図版83　土器（１２）……375
写真図版84　土器（１３）……376
写真図版85　土器（１４）……377
写真図版86　土器（１５）……378
写真図版87　土器（１６）……379
写真図版88　土器（１７）……380
写真図版89　土器（１８）……381
写真図版90　土器（１９）……382
写真図版91　土器（２０）……383
写真図版92　土器（２１）……384
写真図版93　土器（２２）……385
写真図版94　土器（２３）……386
写真図版95　土器（２４）……387
写真図版96　土器（２５）……388
写真図版97　土器（２６）……389
写真図版98　土器（２７）……390
写真図版99　土器（２８）……391
写真図版100　土器（２９）……392
写真図版101　土器（３０）……393
写真図版102　土製品（１）……394
写真図版103　石器（１）……395
写真図版104　石器（２）……396
写真図版105　石器（３）……397
写真図版106　石器（４）……398
写真図版107　石器（５）……399
写真図版108　石器（６）……400
写真図版109　石器（７）……401
写真図版110　石器（８）……402
写真図版111　石器（９）……403
写真図版112　石器（１０）……404
写真図版113　石器（１１）……405
写真図版114　石器（１２）……406
写真図版115　石器（１３）……407
写真図版116　石器（１４）……408
写真図版117　石器（１５）……409
写真図版118　石器（１６）……410
写真図版119　石器（１７）……411

写真図版120　石器（１８）……412
写真図版121　石器（１９）……413
写真図版122　石器（２０）……414
写真図版123　石器（２１）……415
写真図版124　石器（２２）……416
写真図版125　石器（２３）……417
写真図版126　石器（２４）……418
写真図版127　石器（２５）……419
写真図版128　石器（２６）……420
写真図版129　石器（２７）……421
写真図版130　石器（２８）……422
写真図版131　石器（２９）……423
写真図版132　石器（３０）……424
写真図版133　石器（３１）……425
写真図版134　石器（３２）……426
写真図版135　石器（３３）……427
写真図版136　石器（３４）……428
写真図版137　石器（３５）……429
写真図版138　石器（３６）……430
写真図版139　石器（３７）……431
写真図版140　石製品（１）……432

Ⅰ　調査に至る経過

館遺跡は、「一般国道397号地域活性化支援道路整備事業」の実施に伴い、その事業区域内に存することから、発掘調査を実施することになったものである。

本事業は、一般国道397号小股～下大股地区において、線形改良を行い安全で円滑な交通環境を確保するものである。当区間は幅員が狭いうえ、急カーブ、急勾配が連続し車輪交通の走行速度や安全走行の低下を招いており、幹線道路の機能が十分に確保されていない。このため、道路改良による安全で円滑な交通環境確保を整備目的とし、平成３年度は、大船渡地方振興局と協議を行い、発掘調査を財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターの受託事業とすることとした。

（岩手県大船渡地方振興局土木部）

Ⅱ　遺跡の立地と環境

１．遺跡の位置

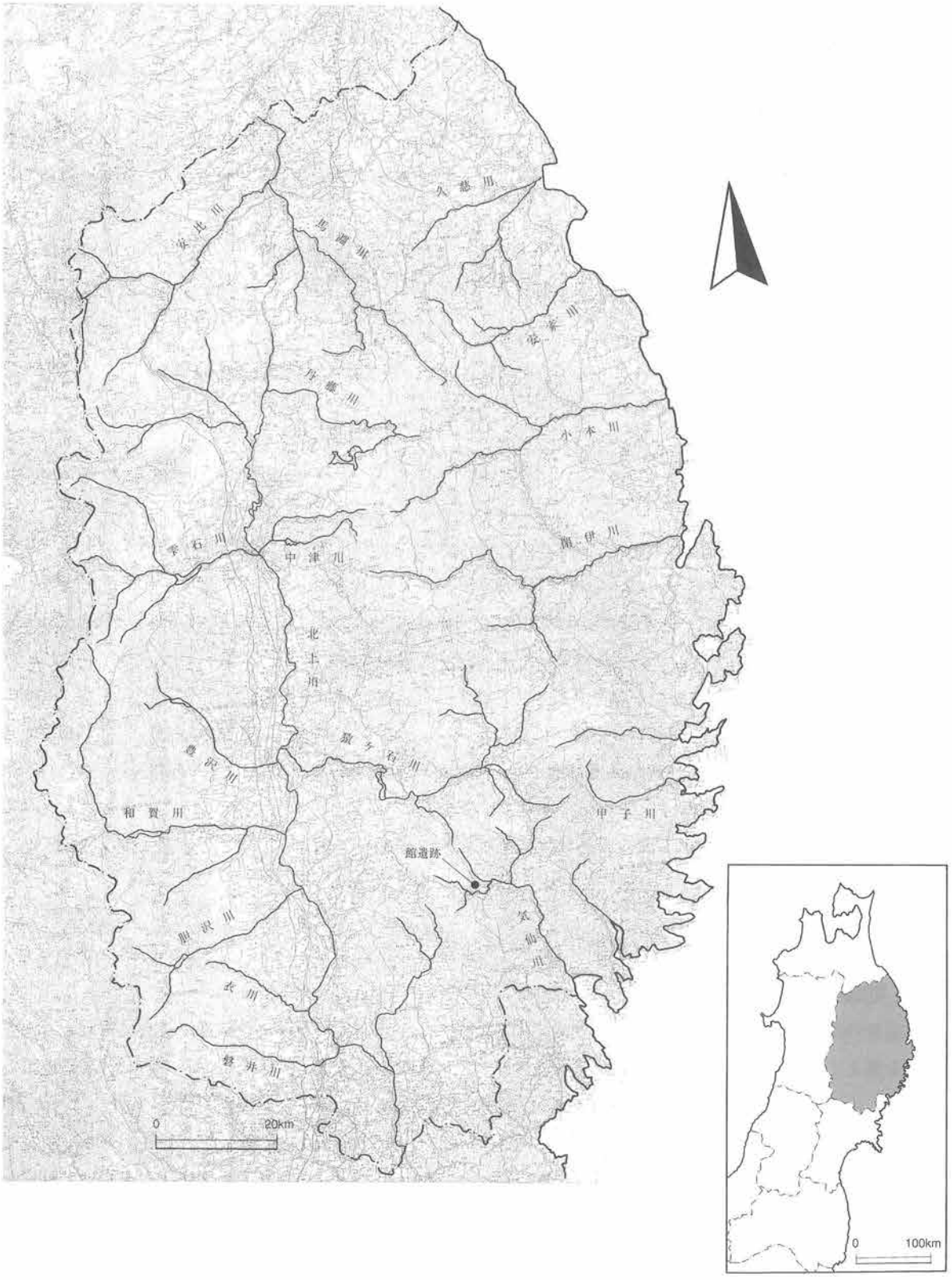
館遺跡は岩手県気仙郡住田町世田米字小股地内ほかに所在し、国土地理院発行25,000分の１地形図「陸中大原」および「盛」の図幅に含まれ、北緯39度9分27秒、東経141度30分1秒（世界測地系）に位置する。今回の調査区は、住田町役場から西に約6.8㎞の場所にあり、大股川及び小股川に挟まれた舌状河岸段丘の東向き緩斜面上に立地している。標高は183～190mで、現況は水田・畑地である。

遺跡の位置する住田町の古来からの主生業は農林業であり、かつては産金地帯としても知られた。近世の幕政時代には、仙台藩領と盛岡藩領との藩境の地に位置し、内陸部と気仙沿岸の中継地であり、盛街道や同街道から遠野方面や江刺方面へ向かう道が通る交通上の要地でもあった。現在は、東西に国道107号が、南北に国道340号が通り、世田米で交差する基幹道路となっている。また、国道107号沿いの小股から西へ国道397号が分岐し、この道からは水沢～人首～住田線の主要地方道が分かれている。そして、町の北端部をJR釜石線が通り、上有住駅がある。遺跡はちょうど国道107号と国道397号が分岐するところから、南西に約300mに位置する。

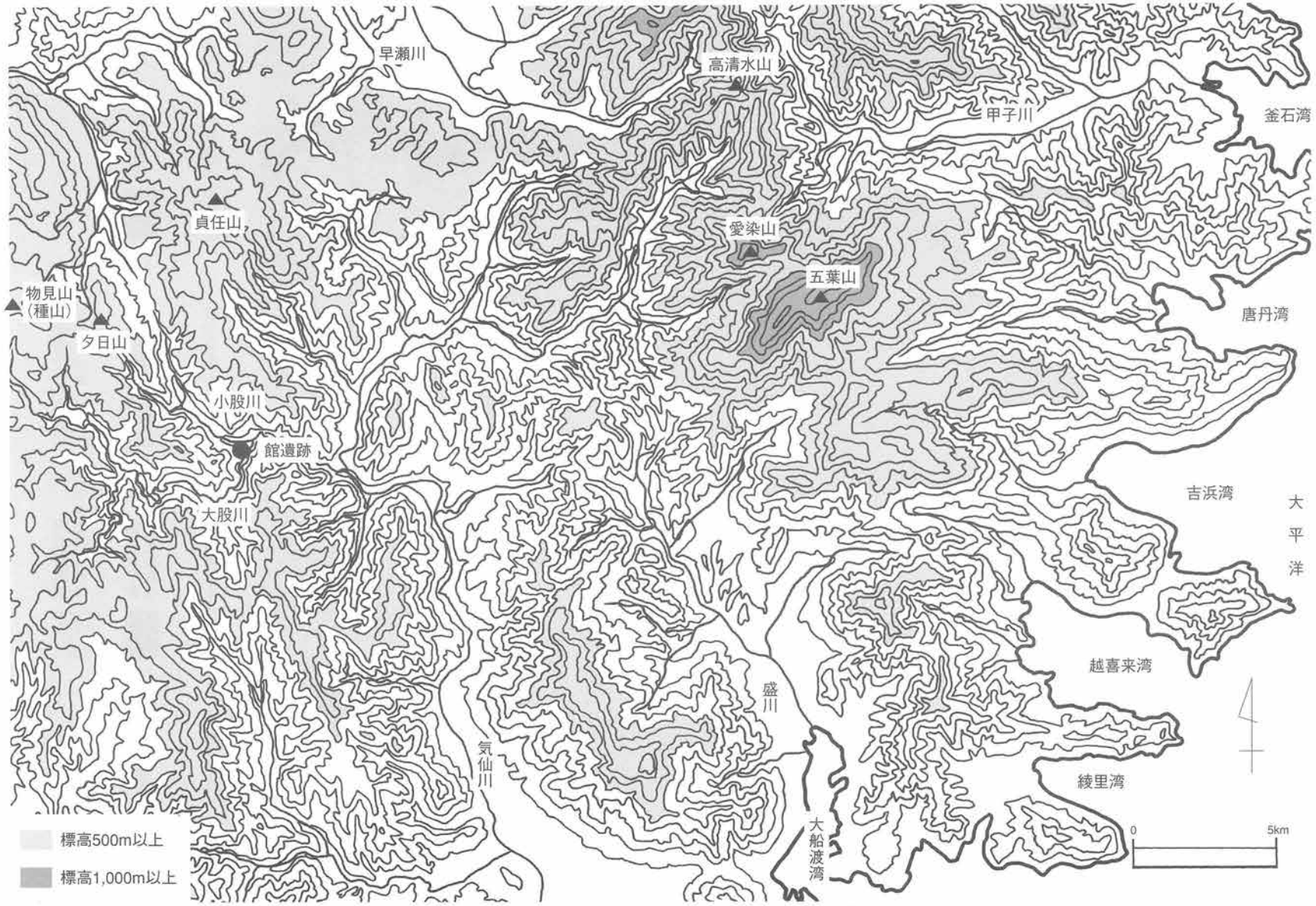
２．地理的環境

本遺跡の所在する気仙郡住田町は岩手県沿岸南部に位置し、西側に北上山地を望み、東側は釜石市・大船渡市を越えて太平洋に至る。北は夕日山・貞任山、赤羽峠を境に遠野市、東は箱根峠を境に釜石市、南東は五葉山、小松峠・白石峠を境に大船渡市、南は太平山、生出山を境に陸前高田市、南西は内野峠、蛇山・鷹ノ巣山・大鉢森山を境に大東町、西は物見山（種山）、姥石峠を境に江刺市にそれぞれ接している。北緯39度19分52秒（極北）～39度5分2秒（極南）、東経141度44分40秒（極東）～141度23分19秒（極西）に位置している。面積は335.95㎢、東西33.68㎞、南北19.02㎞である。

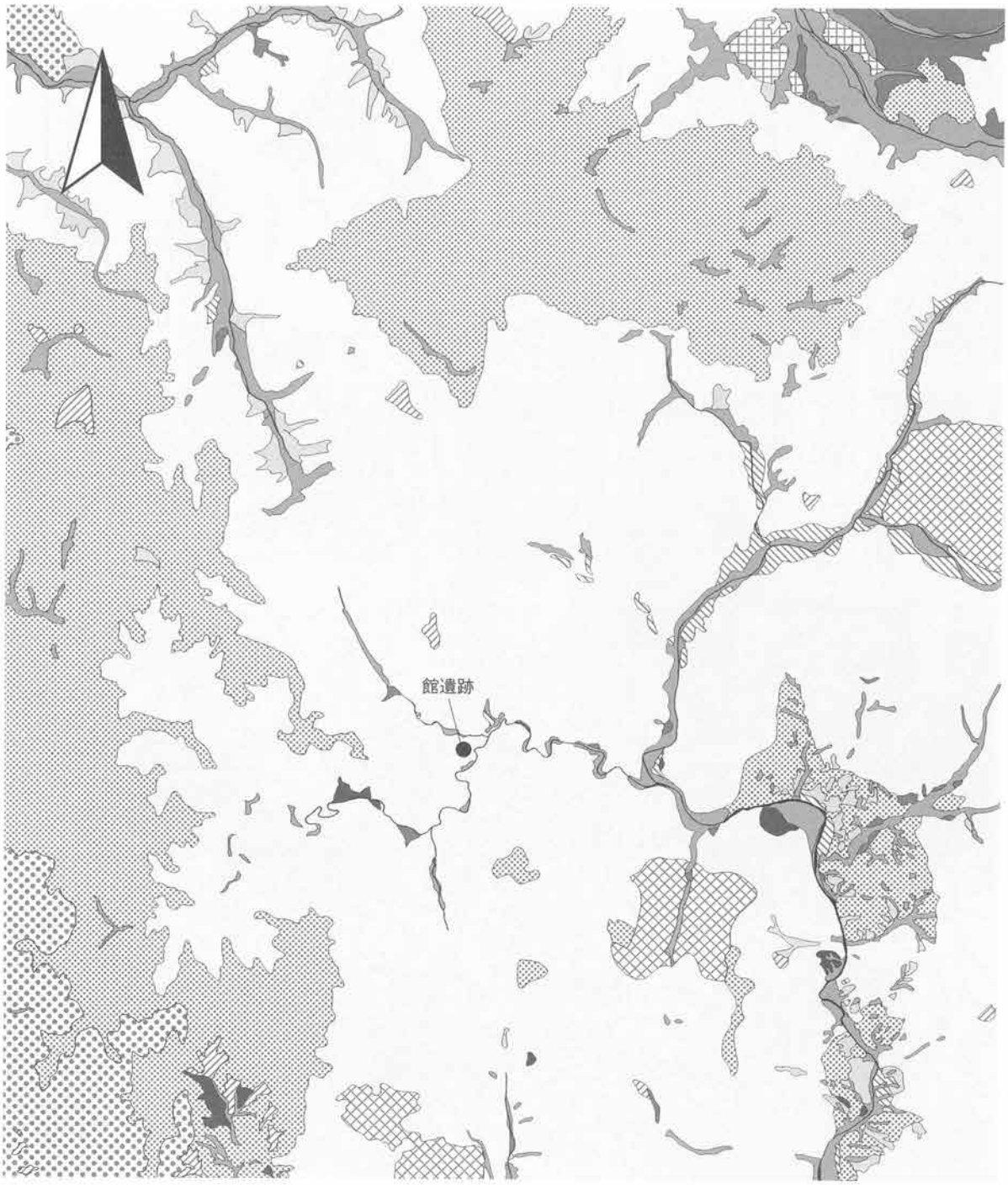
町面積の91.2%が林野で、北は北上山系の主脈である高清水山（1,013.9m）、貞任山（884.2m）、夕日山（745.9m）などによる分水嶺に沿って遠野市に境し、東は愛染山（1,228.5m）・五葉山（1,341.3m）を主峰とする分水嶺により釜石市に接している。西には種山高原、姥石峠などの北上山地があり、これらの支脈が四


久慈川
安比川
馬淵川
安家川
丹藤川
小本川
季石川
中津川
閉伊川
北上川
猿ヶ石川
豊沢川
和賀川
甲子川
館遺跡
胆沢川
気仙川
衣川
磐井川
0
20km
0
100km

第3図　岩手県全図


早瀬川
高清水山
甲子川
釜石湾
貞任山
愛染山
五葉山
物見山
(種山)
夕日山
唐丹湾
小股川
館遺跡
吉浜湾
大
平
洋
大股川
越喜来湾
盛川
気仙川
綾里湾
大船渡湾
0
5km
標高500m以上
標高1,000m以上

第4図　遺跡位置図


館遺跡
大起伏山地
中起伏山地
小起伏山地
丘陵地Ⅰ
丘陵地Ⅱ
山麓地及び
他の緩斜面
砂礫段丘
谷底平野
扇状地
崖錐性扇状地及び
山麓緩斜面
崖錐及び麓屑面
他の緩斜面部

第5図　地形分類図

方に延びていて、山岳に囲まれている。ただ、高清水山を発源地とし、北東から南に向かって流れる気仙川の流域、及びその支流である坂本川、新切川、火の土川、大股川、中沢川などに沿ってわずかに平地が開けている。またこれらの河川にはさらに多数の渓流が流入し、アユ、イワナ、ヤマメなどの川魚を多く育んでいる。本遺跡の所在する小股地区には、赤坂山を発源地とし、本遺跡北東側で大股川と合流する小股川（全長4,200m）と、種山を発源地とし、川口にて気仙川と合流する大股川（全長18,600m）が流れている。

本遺跡は住田町世田米の小股地区に所在し、西側に遠野市境となる荷沢峠、南側に江刺市境となる種山高原があり、その傾斜合流点にあたっており、ここから東側へ向かって緩やかに下っていく地形となっている。

住田町を含む気仙地方の地質について概観すると、その地質年代は大きく古生代・中生代・新生代に3区分され、古生代ではシルル紀・デボン紀・石炭紀・二畳紀、中生代では三畳紀・白亜紀、新生代では第三紀・第四紀の地質が見られる。また、地質構造は西から東に向かって、「日詰－気仙沼構造線」、「遠野－高田構造線」、「氷上構造線」、「土淵－盛構造線」がほぼ南北に走り、北東部には「早池峰構造帯」を挟んで西に「早池峰－五葉山構造線」、東に「盛岡－五葉山構造線」が走っている。

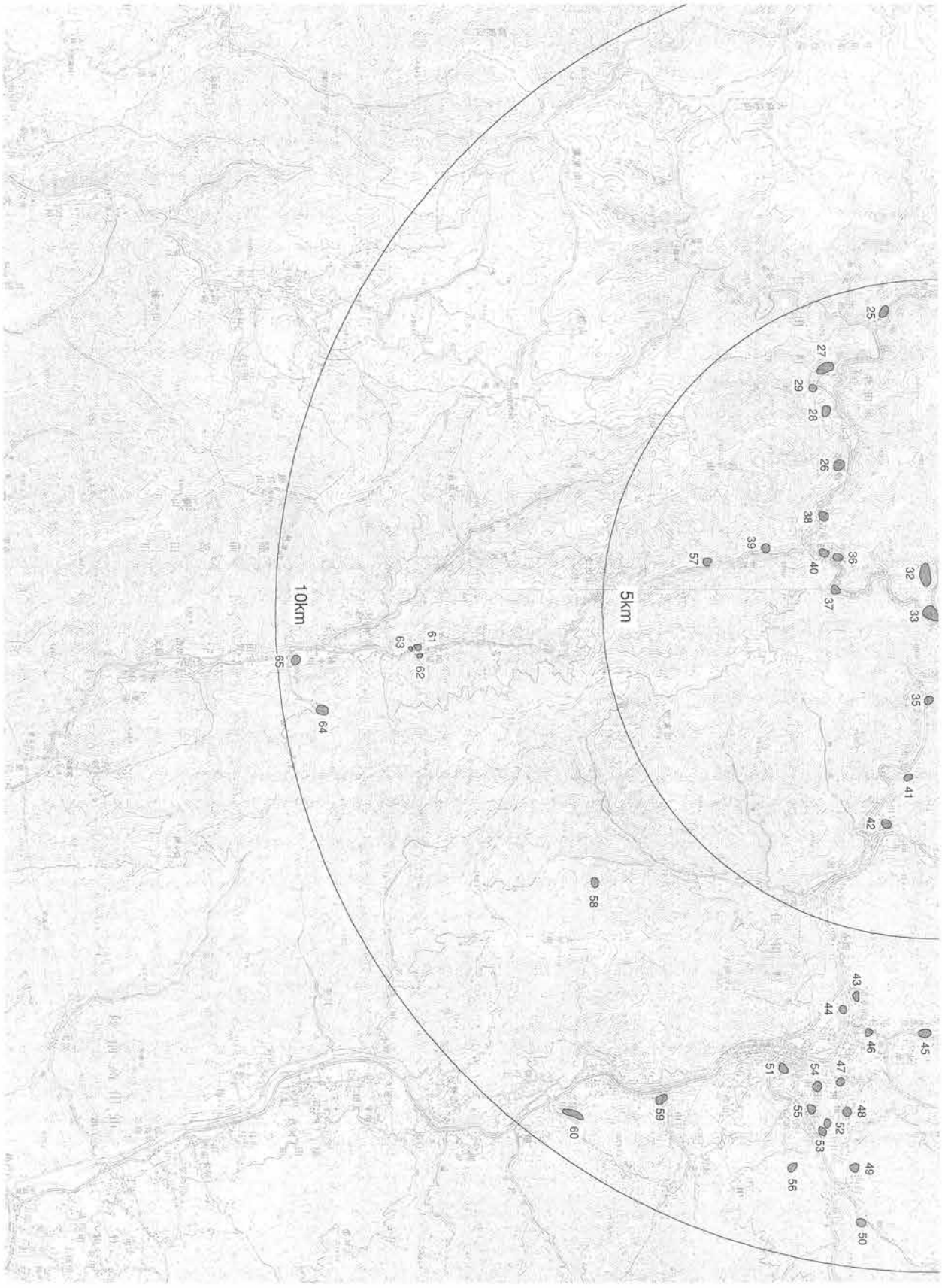
3．歴史的環境

住田町では岩手県教育委員会によると、平成13年4月現在で121遺跡が報告されている。本項ではこの中で本遺跡の中心的な所属時期である縄文時代の遺跡についてのみ掲載する。掲載しているのは、本遺跡を中心として同心円状に半径10km圏内に位置する縄文時代の遺跡で、計65箇所を第6図・第1表に示した（№61～65については陸前高田市に所在する遺跡であるが、圏内に入ることから掲載した）。

遺跡の立地している住田町は、町全体の91.2%が林野であり、平野は河川流域に集中している。各遺跡もこの部分にほぼ限られ、本遺跡も大股川及び小股川合流域に位置している。また、住田町は岩手県の中でも洞穴遺跡が多いことでも知られている。

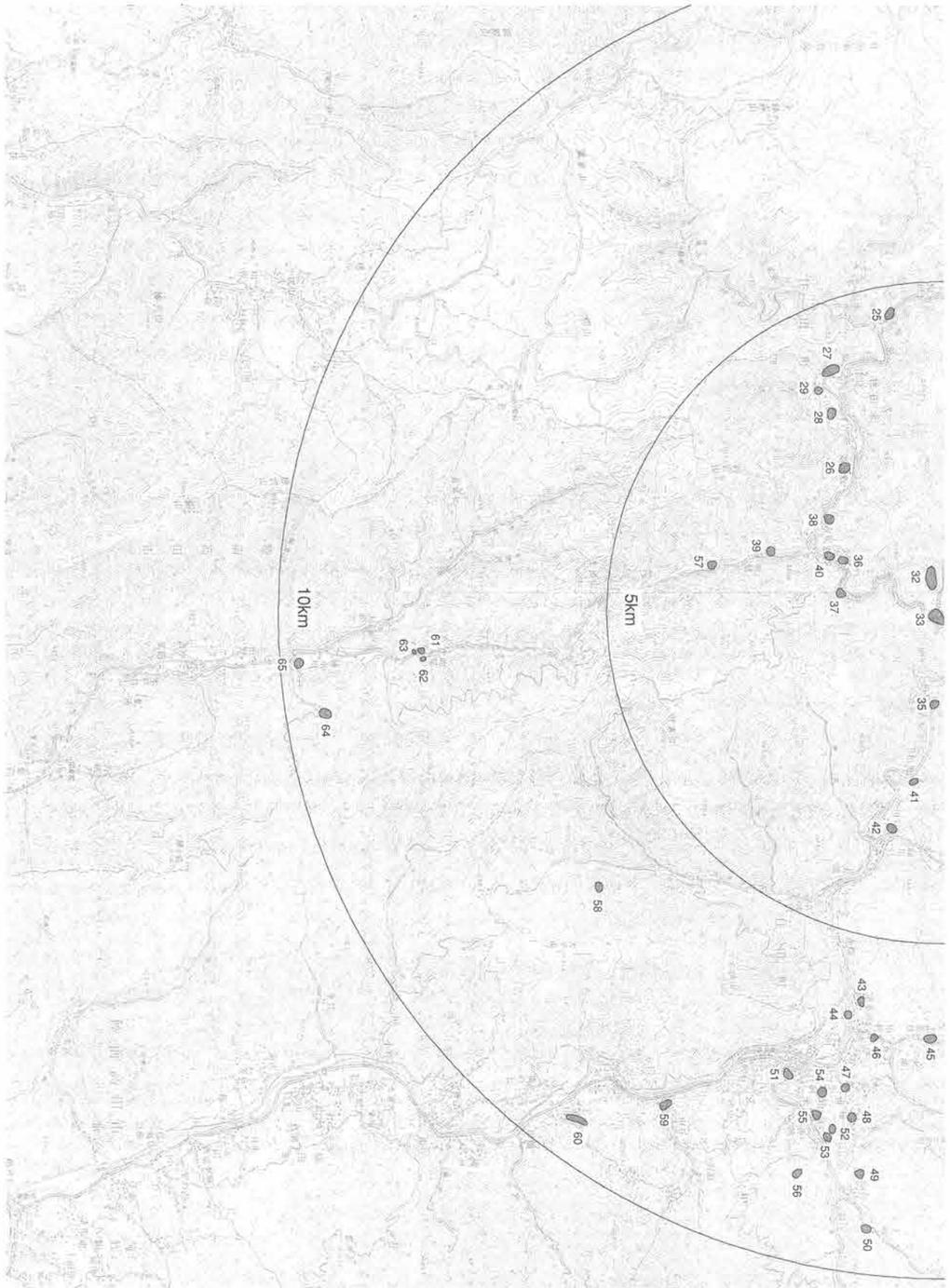
今回掲載した計65遺跡のうち、本調査が行われたのは、№16蔵王洞穴（蛇王洞洞穴）のみである。1963年に東北大学考古学研究所が調査を行い、縄文時代早期の遺物が層位的に検出されたことで、学術的に著名である。また、掲載した以外で、湧清水洞穴や小松洞穴などで本調査が行われ、近年では平成11～14年の間に中和田遺跡（岩文振埋文報第355集）、小松Ⅰ遺跡（岩文振埋文報第433集）、小松Ⅱ遺跡（岩文振埋文報第392集）の調査が(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって行われている。

[参考文献]
1．岩手県立博物館　2000　『気仙郡住田町小松洞穴発掘調査報告書』　岩手県立博物館調査研究報告書第16冊
2．岩手県教育委員会　2000　『平成13年度遺跡台帳』
3．住田町　1997　『住田町史』　第1巻自然考古偏
4．住田町　1997　『住田町史』　第2巻通史偏
5．芹沢長介・林謙作　1965　「岩手県住田町蛇王洞洞穴」『石器時代』7　pp.1-16
6．及川千代松　1965　『遺跡を尋ねて』　社教シリーズ　第13集　大船渡市教育委員会

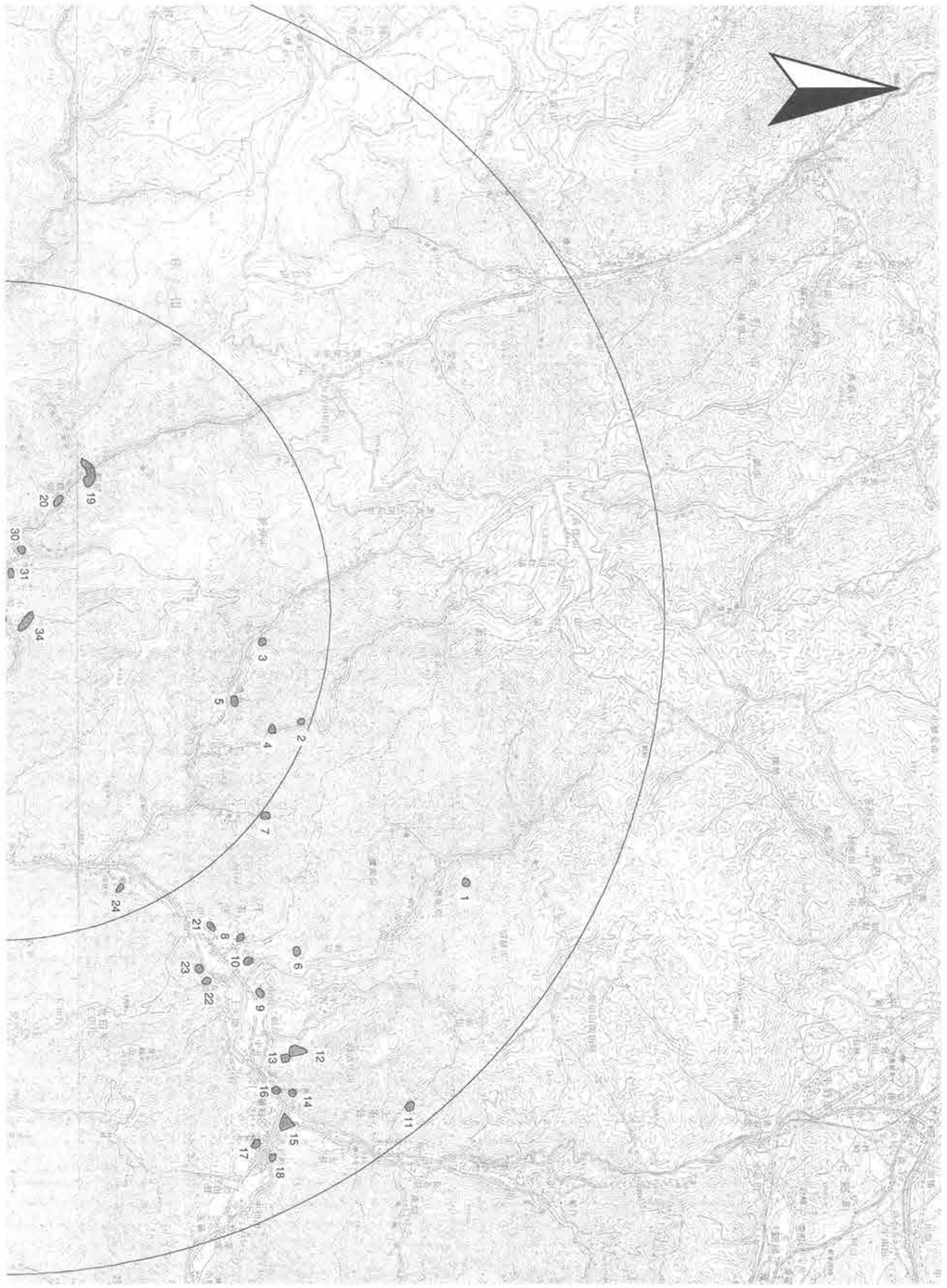


第6図　周辺の遺跡分布図

第6図　周辺の遺跡分布図



第6図　周辺の遺跡分布図



第6図　周辺の遺跡分布図

第1表　周辺遺跡表

番号	遺跡コード	市町村名	遺跡名	種別	時代	遺構・遺物	所在地	備考
1	MF85-2139	住田町	梨ノ木	散布地	縄文	縄文土器(前期)	下有住字新切	
2	MF94-2379	住田町	横川	散布地	縄文	縄文土器(後期)	下有住字火の土	
3	MF94-2279	住田町	石神手	散布地			下有住字奥火の土	
4	NF05-0000	住田町	的場	散布地	縄文	縄文土器(後期)	下有住字火の土	
5	MF94-2392	住田町	中村	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)	下有住字奥火の土	
6	MF95-1279	住田町	羽穴	散布地	縄文	縄文土器(後期)	下有住字新切	
7	MF95-2099	住田町	尻高沢	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	下有住字火の土	
8	MF95-2238	住田町	苗代沢	散布地	縄文	縄文土器(中期)	下有住字十文字	
9	MF95-2356	住田町	根岸	散布地			下有住字根岸	水田化
10	MF95-2372	住田町	十文字	散布地			下有住字十文字	
11	MF96-0123	住田町	二度成木	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	上有住字二度成木	
12	MF96-1094	住田町	沢田	散布地	縄文	縄文土器(後期)	上有住字中井	
13	MF96-2024	住田町	熊野山常光寺	散布地	縄文	縄文土器(後期)	上有住字中井	
14	MF96-2110	住田町	御殿平	散布地	縄文	縄文土器	上有住字葉山	
15	MF96-2116	住田町	山脈地	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	上有住字山脈地	一部消滅
16	MF96-2121	住田町	蔵王洞穴	洞穴	縄文	縄文土器(前～晩期)	上有住字葉山	
17	MF96-2158	住田町	八日町	散布地	縄文	縄文土器(後期)	上有住字八日町	
18	MF96-2231	住田町	八日町裏	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	上有住字八日町	
19	NF03-2308	住田町	笹畑	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	世田米字小股	水田化
20	NF04-2052	住田町	畷畑	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	世田米字畷畑	水田化
21	NF05-0226	住田町	中上	散布地	縄文	縄文土器(後期)	下有住字中上	水田化
22	NF05-0334	住田町	菅の下	散布地	縄文	縄文土器(後期)	上有住字大畑	
23	NF05-0343	住田町	菅岩洞穴	洞穴	縄文	縄文土器(後期)	上有住字大畑	
24	NF05-1261	住田町	下清水	散布地	縄文	縄文土器(後期)	下有住字高瀬	水田化
25	NF13-1135	住田町	落合	散布地	縄文	縄文土器(後期)	世田米字子飼沢	水田化
26	NF13-1387	住田町	津付Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	世田米字高屋敷	水田化
27	NF13-1293	住田町	津付Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器(後期)	世田米字津付	水田化
28	NF13-2226	住田町	猫渕	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	世田米字津村	水田化
29	NF13-2247	住田町	蝦夷	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	世田米字津村	水田化
30	NF14-0009	住田町	清水	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	世田米字小股清水	水田化
31	NF14-0134	住田町	中島	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	世田米字小股清水	水田化
32	NF14-0250	住田町	高屋敷	散布地	縄文	縄文土器(中期)	世田米字小股	水田化
33	NF14-0241	住田町	館	散布地	縄文	縄文土器(中期)	世田米字小股	平成13・14年調査
34	NF14-0211	住田町	小股	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)	世田米字小股	水田化
35	NF14-0353	住田町	上柏里	散布地	縄文	縄文土器	世田米字柏里	
36	NF14-1180	住田町	名洞	散布地	縄文	縄文土器(後期)	世田米字下大股	水田化
37	NF14-1195	住田町	すい沢	散布地	縄文	縄文土器(後期)	世田米字下大股	
38	NF14-2005	住田町	里古屋	散布地	縄文	縄文土器(前・中・後期)	世田米字里古屋	平成15年調査
39	NF14-2099	住田町	奥折壁	散布地	縄文	縄文土器(後期)	世田米字奥折壁	
40	NF14-2100	住田町	下大股	散布地	縄文	石器、石槍	世田米字大股	
41	NF15-0092	住田町	下柏里	散布地	縄文	縄文土器	世田米字柏里	
42	NF15-1121	住田町	川口	散布地	縄文	縄文土器	世田米字川口	
43	NF15-1375	住田町	赤畑	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)	世田米字赤畑	
44	NF15-1399	住田町	川向	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	世田米字川向	
45	NF16-1032	住田町	浄福寺	散布地	縄文	縄文土器(後期)	世田米字柿中村	
46	NF16-1077	住田町	満歳寺	散布地	縄文	縄文土器	世田米字本町	
47	NF16-2019	住田町	小口洞	散布地	縄文	縄文土器	世田米字小口洞	
48	NF16-2116	住田町	中沢上根	散布地	縄文	縄文土器(後、晩期)	世田米字日向	
49	NF16-1264	住田町	麦平	散布地	縄文	縄文土器(晩期)	世田米字向村	水田化
50	NF16-1288	住田町	城内	散布地	縄文	縄文土器(中期)	世田米字城内	水田化
51	NF16-2078	住田町	大崎	散布地	縄文	縄文土器	世田米字大崎	
52	NF16-2126	住田町	上根前	散布地	縄文	縄文土器(中・後期)	世田米字上日向	
53	NF16-2117	住田町	上日向	散布地	縄文	縄文土器(後・晩期)	世田米字上日向	
54	NF16-2140	住田町	小枝	散布地	縄文	縄文土器	世田米字鉢ケ森	
55	NF16-2133	住田町	下日向	散布地	縄文	縄文土器(後期)	世田米字日向	
56	NF16-2262	住田町	杉山	散布地	縄文	縄文土器(後期)	世田米字西風	
57	NF24-0182	住田町	折壁	散布地			世田米字下大股	
58	NF25-2039	住田町	鬼丸洞穴	洞穴	縄文	縄文土器(後期)	世田米字合地沢	
59	NF26-1153	住田町	山谷	散布地	縄文	縄文土器	世田米字山谷	
60	NF26-2184	住田町	伝桜	散布地	縄文	縄文土器(後期)	世田米字窪田	
61	NF34-2224	陸前高田市	宝龍洞窟	洞窟		土器、人骨	矢作町字的場	
62	NF34-2225	陸前高田市	宝龍第二岩陰	岩影			矢作町字的場	
63	NF34-2234	陸前高田市	宝龍第一岩陰	岩影		人骨？	矢作町字的場	
64	NF44-0363	陸前高田市	三の戸沢	集落跡？		磨石、石斧、石剣、炉跡	矢作町字三の戸	
65	NF44-1207	陸前高田市	角地	集落跡？		石剣	矢作町字三の戸	

第1表　周辺の遺跡

4．基本層序と調査区内の地形

本遺跡の基本層序は以下の通りである。

Ⅰ層	現耕作土		層厚10～50cm
Ⅱ層	黒褐色土	（遺構検出面）	層厚10～40cm
Ⅲ層	黄褐色粘土質土		層厚不明
Ⅳ層	岩盤（スレート）		層厚不明

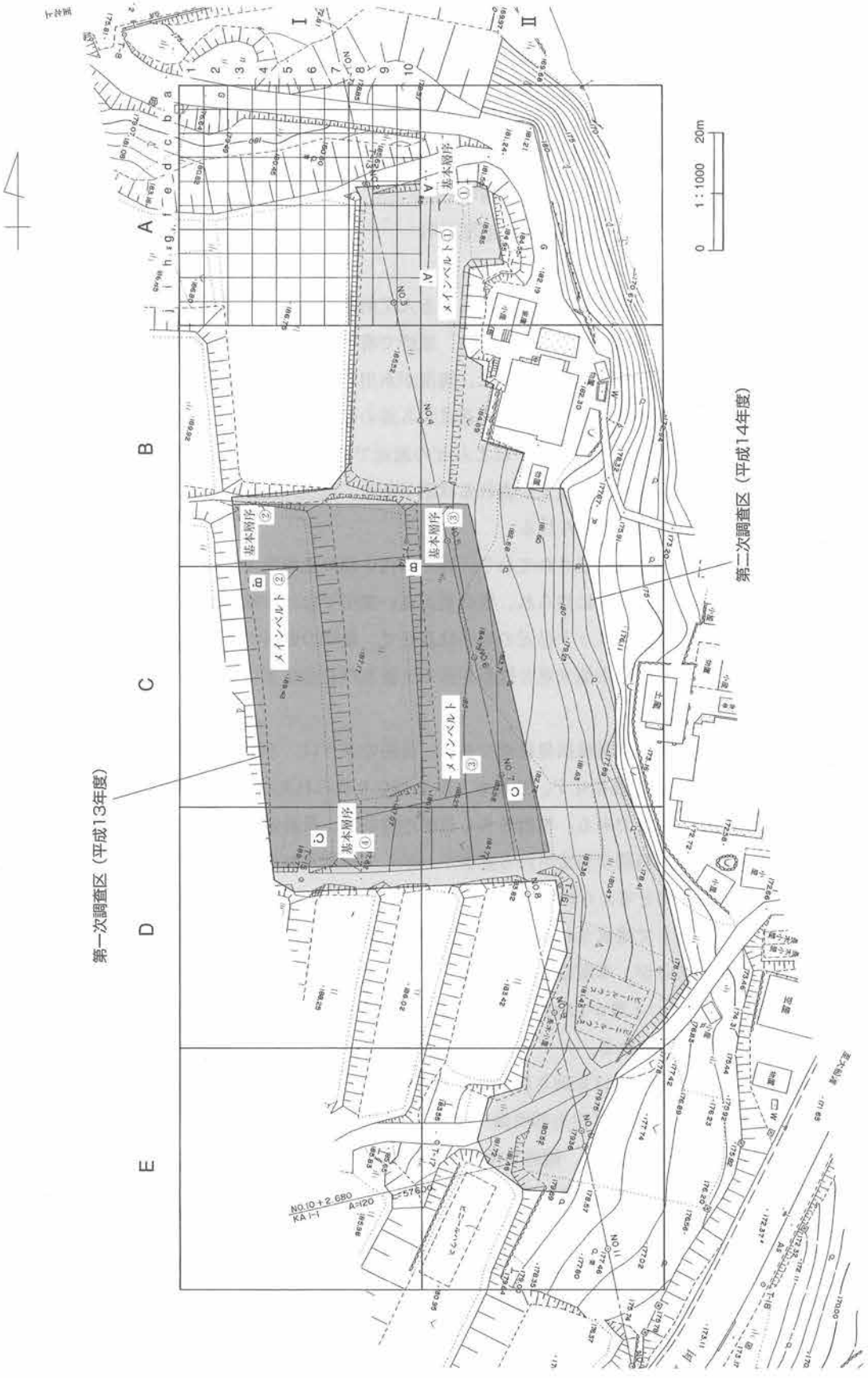
Ⅰ層は近年（昭和20～30年代、またはそれ以降）による人工的に形成された現耕作土層で、遺構の残存は皆無である。調査区は現況の地形により、水田、畑地、原野で構成されており、それによる攪乱、削平が下層にまで大きく及んでいる。調査区中央及び北側は、現況が水田であり、水田耕作土が層厚10～30cm、水田床土が層厚10～20cm、盛土が層厚20～50cm、水田を造成する前の旧耕作土が10～20cm堆積している。遺構や遺物が検出されるのはⅡ層から下層であるが、ほとんどの地点では水田造成時にⅢ層まで削平されており、Ⅰ層現耕作土の直下からⅢ層黄褐色粘土質土が表れる状態である。調査区南側は、現況が畑地であり、Ⅰ層現耕作土直下にⅢ層黄褐色粘土質土が見られる。

Ⅱ層は黒褐色土（シルト）主体に構成されており、縄文時代中期の遺構検出面である。しかし、この層位が見られるのは調査区全体のごく一部に限られ、標高値が高い箇所ではほぼ残存せず、削平されている。一方、標高値が低い部分、特にⅡＢグリッド付近の残存は良好で、最厚の箇所で約40cm、平均で20～30cmの層厚が見られる。本層位には縄文時代中期末葉と観察される土器及び石器を主に含んでおり、この堆積が遺構内覆土にも見られる。

Ⅲ層は黄褐色粘土質土であり、遺構検出最終面である。前述のように、本調査区は削平・攪乱の影響を多分に受けており、Ⅱ層より上層は残存せず、Ⅲ層も上位をかなり削られた状態で検出している。このため、遺構の大半は本層位上面での検出である。検出される遺構の時期は、最終面であるため、縄文時代早期・前期・中期、また近代～近現代の時期が想定される遺構が一括して確認される。層厚は不明であるが、厚い部分では１ｍ以上は見られるものと考えられる。

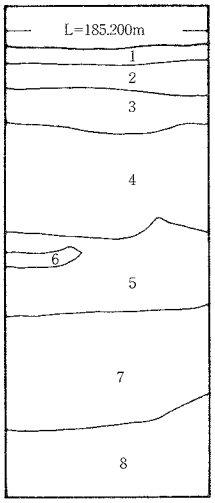
Ⅳ層は岩盤であり、スレートで構成される。遺構及び遺物は全く含まれず、この地域の基盤層を呈すると考えられる。層厚は不明であるが、本層位より下層は、スレート層と砂礫層が互層を成して観察される。調査区中央の東側斜面下方では、Ⅰ層が1.5ｍ～2.5ｍ堆積している直下に、大礫を多量に含む層位が存在し、さらにその下層に本層位が観察される。

調査区内の地形を見ると、調査区は東向き河岸段丘緩斜面上にあり、西から東に向かって傾斜しており、現況での標高最高値は189.4ｍ（調査区中央部西側）、標高最低値は178.0ｍ（調査区南側）を計る。調査区は南北に約170ｍ、東西に約60ｍの範囲で、傾斜角度は旧地形が残存している箇所で、約10°である。調査区の北側は水田造成により土地を大きく改変しており、旧地形が観察されるのはⅡＢグリッド付近のみである。調査区中央は旧地形を見ることができるが、遺構が集中する中位付近について、かなりの地形改変が行われており、全体にⅢ層黄褐色粘土質土も濁った土色を成している。調査区南側は旧地形を残存してはいるが、全体に薄く削平、または南端部に至っては近年の重機による掘削と見られる攪乱が大きく、一部の遺構を著しく破壊している。傾斜は南東方向に下っており、このことからも遺跡が大股川と小股川に挟まれた舌状の段丘地形をなしていることが理解される。


第一次調査区（平成13年度）
第二次調査区（平成14年度）
メインベルト①
メインベルト②
メインベルト③
基本層序
0 1:1000 20m

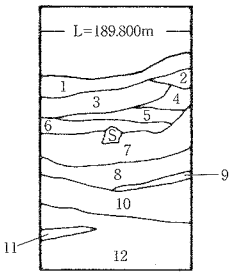
第7図　グリッド配置図

基本層序①



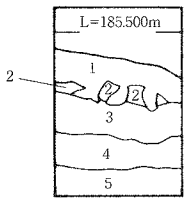
基本層序 ①
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
2 10YR2/3 黒褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混土
3 10YR2/3 黒褐色 シルト
4がブロック状に10%
4 10YR4/6 褐色 シルト
礫多量混入
5 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
礫少量混入
6 10YR3/3～2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
礫少量混入
7 10YR4/6 褐色 シルト 粘性強 しまり強
礫3%
8 10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまり強
小礫3%
1～6・・・Ⅰ層 7～8・・・Ⅲ層

基本層序②



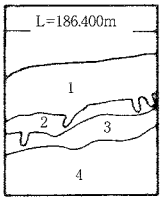
基本層序 ②
1 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強
グライ化層 酸化鉄がアミ状に10%、褐色礫(パミス？)1～2cm5%
2 10YR4/6 褐色 シルト 粘性中 しまり強
黒褐色土ブロック(～5cm)5%、角礫(1～10m)3%
3 10YR2/1 黒色シルトと10YR4/6褐色シルトの混土(7：3)
粘性中 しまり強 破砕礫(角)10%
4 3と同様で比率 5：5
5 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
黒色、褐色ブロック各10% 破砕礫5%
6 4と同じ
7 5と同じ
8 10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
黒色土ブロック(2～3cm)1%以下、亜角(1～5cm)礫3%、
盛り土？(影響層)
9 10YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
褐色土ブロック(6層～3cm)1%、亜角礫～角礫(～3cm)2%
10 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり強
11 10YR4/6 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱
円～亜角礫(～2cm)2% 砂質強い
12 10YR5/6 黄褐～明黄褐色 粘土 粘性強 しまり強
水の影響有か？
1～9・・・Ⅰ層 10～12・・・Ⅲ層

基本層序③

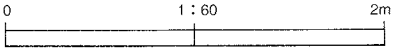


基本層序 ③
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱
耕作土(盛り土)
2 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
黒色土ブロック(2～3cm)20%、盛り土
3 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強 しまり強
4 10YR5.5/6 黄褐～明黄褐色 粘土 粘性強 しまり強
5 2.5Y5/4 黄褐色 粘土 粘性弱 しまり強
水の影響あり
1～2・・・Ⅰ層 3～5・・・Ⅲ層

基本層序④

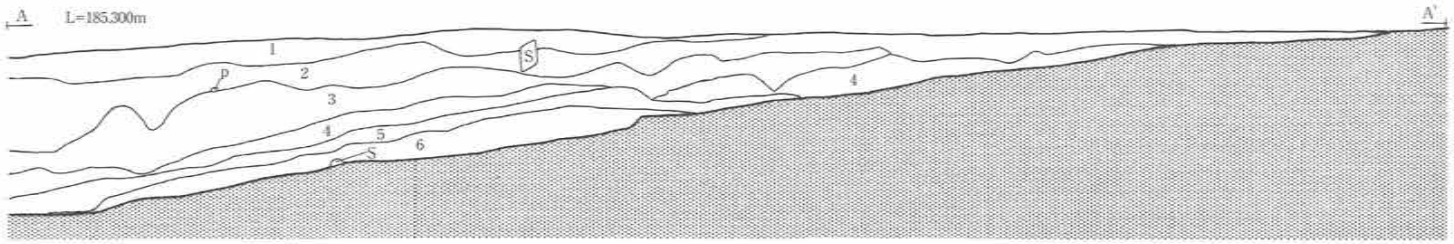


基本層序 ④
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
盛り土 角礫(1～3cm)10%
2 1と3の混土
3 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性中 しまり強
4 7.5YR5/6 明褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強
南東の5に類似 ただし水の影響少ない
1～2・・・Ⅰ層 3～4・・・Ⅲ層



第8図 基本層序（1）

メインベルト ①



0　1：60　2m

メインベルト①
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
2　10YR2/3黒褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混土

3　10YR2/3　黒褐色　シルト
　4がブロック状に10%
4　10YR4/6　褐色　シルト
　礫多量混入
5　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
　礫少量混入
6　10YR3/3～2/3 黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
　礫少量混入
　1～5・・・Ⅰ層　　6・・・Ⅱ層

メインベルト②　東部分
1　2.5Y4/1　黄灰色　シルト　粘性中　かたくしまる
　2.5Y6/8の明黄褐色土粒
2　10YR5/6　黄褐色　粘土 粘性強　しまり強
　3～4cmの礫10%
3　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　しまり中
　10YR5/6 黄褐色粘土ブロック10%
4　基本的に2と同じ
　10YR3/3 暗褐色土ブロック20%
5　10YR2/1　黒色　シルト　粘性中　しまり中
6　10YR3/3暗褐色シルトと 10YR5/6黄褐色粘土との混土

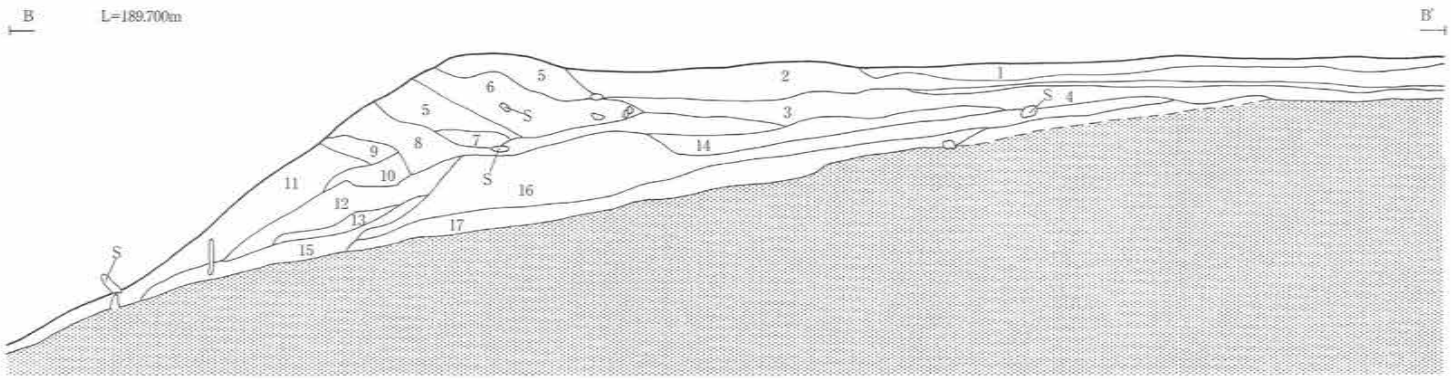
　粘性中　しまり中
7　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　しまり中
8　2と同じ
9　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
10 10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　しまり中
　10YR5/6 黄褐色粘土ブロック5%
11 6と同じ
12 10YR2/3　黒褐色　粘土質シルト　粘性強　しまり強
　小礫(1～2cm)・10YR5/6 黄褐色土粒、部分的に混入

13 10YR2/3　暗褐色　粘土質シルト　粘性強　しまり強
　10YR4/4 褐色粘土50%
14 10YR4/3　褐色　粘土　粘性強　しまり強
　角礫(5cm)5%
15 10YR5/8　明褐色　粘土　粘性強　しまり強

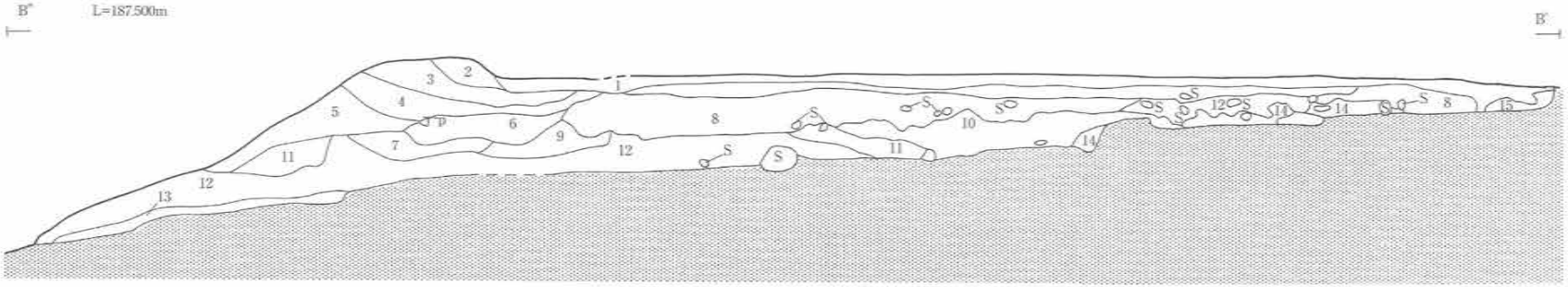
メインベルト③
　1～15　盛り土
1　10YR4/2　灰黄褐色　シルト　粘性弱　かたくしまる
2　10YR5/8　黄褐色　シルト　粘性弱　かたくしまる
　10YR3/3 暗褐色土まだらに30%
3　10YR3/2　黒褐色　シルト　粘性弱　かたくしまる
　10YR5/8 黄褐色土まだらに20%
4　10YR5/8　黄褐色　シルト　粘性弱　かたくしまる
　角礫(5～6cm)10%
5　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　かたくしまる
　角礫(5～6cm)10%
6　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　かたくしまる
7　10YR5/8　黄褐色　シルト　粘性弱　かたくしまる
　角礫(2～3cm)5%、暗褐色土10%
8　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　かたくしまる
　角礫(2～3cm)5%
9　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性弱　かたくしまる
　角礫(5～6cm)20%
10 10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　小礫(1～2cm)全体に20%
11 10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　小礫(1～2cm)全体に40%
12 10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　小礫(1～2cm)全体に20%
13 10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　角礫(5～6cm)10%
14 10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　かたくしまる
　小礫(2～3cm)10%
15 10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性弱　かたくしまる
　小礫(2～3cm)10%
16 10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
17 10YR4/6　褐色　　粘性強　しまり強

第9図　基本層序（2）

メインベルト　②　西部分



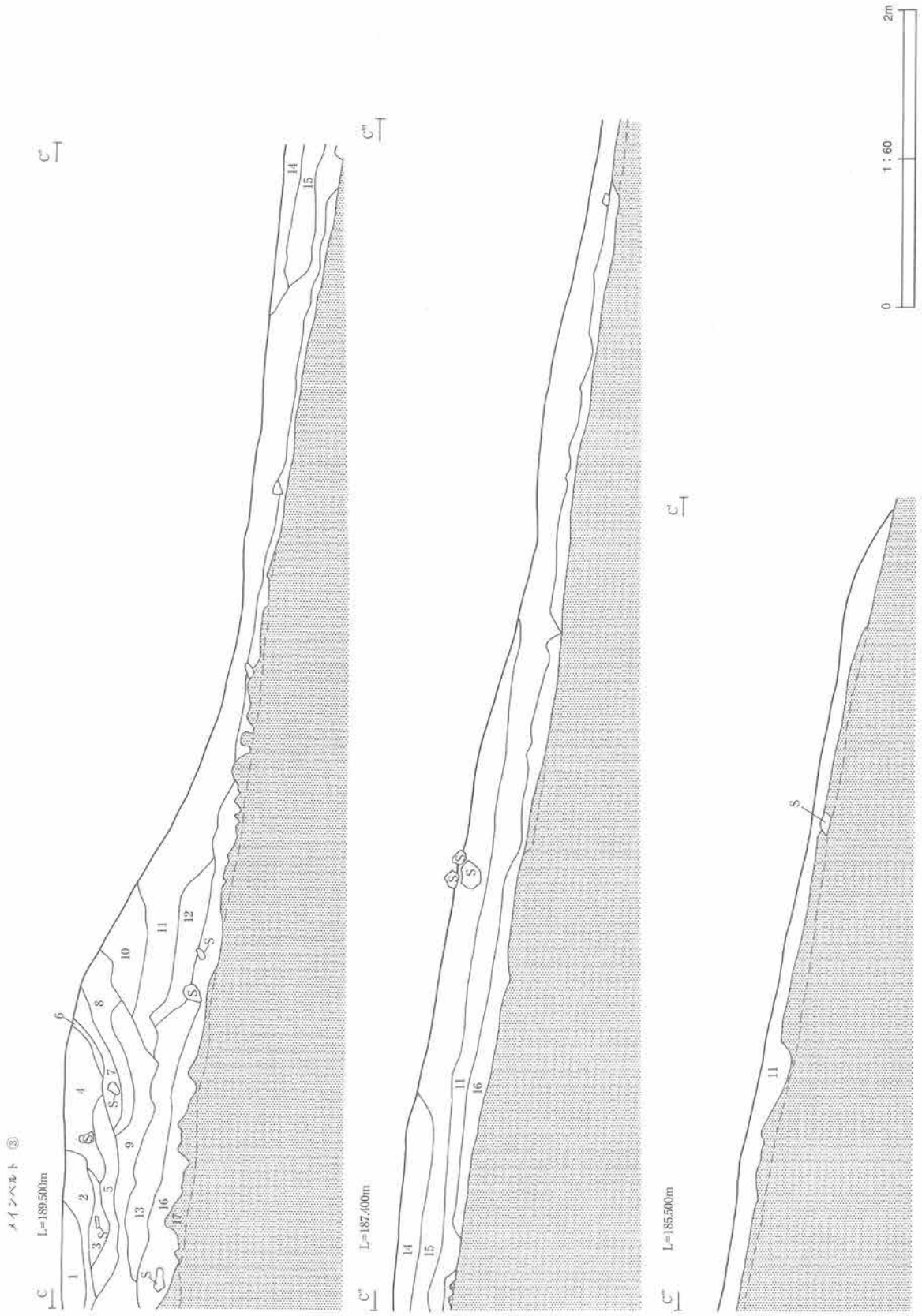
メインベルト　②　東部分



メインベルト②　西部分
1～16　盛り土
1　2.5Y3/1　黒褐色　粘土質シルト　粘性中　かたくしまる
2　2.5Y4/1　黄灰色　粘土質シルト　粘性中　かたくしまる
　10YR6/8　明黄褐色土　雫降り状に20%
3　基本的に2と同じ
　10YR6/8　明黄褐色土粒50%
4　2.5Y3/1　黒褐色　粘土質シルト　粘性中　かたくしまる
　西側に炭化物粒、3～4cmの礫20%
5　10YR5/6　黄褐色　粘土　粘性強　しまり強
　10YR2/3　黒褐色土ブロック10%
6　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまり強
　小礫(1～2cm)10%
7　6と同じ
8　10YR5/6　黄褐色　粘土　粘性強　しまり強
　小礫(1～2cm)10%
9　6と同じ
10　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　しまり中
　10YR5/6　黄褐色粘土ブロック10%
11　10YR5/6　黄褐色粘土と 10YR3/3暗褐色土の混土
12　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　しまり中
　小礫(1～2cm)10%
13　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
14　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまり強
　小礫(1～2cm)20%
15　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　粘性強　しまり中
　小礫(1～2cm)10%
16　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　しまり強
　小礫(1～2cm)20%
17　10YR2/3　黒褐色　粘土質シルト　粘性強　しまり強
　10YR4/6　褐色粘土50%
18　10YR4/6　褐色　粘土　粘性強　しまり強

0　1：60　2m

第10図　基本層序（3）



第11図　基本層序（4）

Ⅲ　調査と整理の方法

１．野外調査方法

（１）グリッド設定

・平成13年度第一次調査分のグリッド設定方法

国土座標第Ｘ系に合わせ基準点１、基準点２を設定し、これを基に４×４ｍのメッシュを組む形で行った。グリッドの名称は北から南に向かってアルファベット小文字のａ～ｚ、西から東に向かって算用数字１～15をつけ、その組み合わせによりａ１グリッド、ｂ２グリッドのように呼称した。なお、平成13年度の基準点の成果値は以下の通りである（日本測地系・世界測地系の両座標を併記する）。

基準点１　Ｘ＝-93600.000　Ｙ＝57960.000　Ｈ＝185.996
基準点２　Ｘ＝-93560.000　Ｙ＝57940.000　Ｈ＝189.603　（日本測地系）
基準点１　Ｘ＝-93291.3957　Ｙ＝57658.6806　Ｈ＝185.996
基準点２　Ｘ＝-93251.3961　Ｙ＝57638.6808　Ｈ＝189.603　（世界測地系）

・平成14年度第二次調査分のグリッド設定方法

平成14年度の調査も前年度と同様に国土座標第Ｘ系に合わせ基準点１、基準点２を設定し、これを基に４×４ｍのメッシュを組む形で行ったが、調査範囲が前年度調査範囲を南北に延長した区域となっており、前年度においてそれを想定した大グリッドを組んでいなかったため、新たに調査区全域をカバー出来るグリッド名称に改めた。大グリッド（40×40m）は北西隅から長軸方向をアルファベット大文字Ａ～Ｅ、短軸方向をローマ数字Ⅰ～Ⅱとし、また小グリッドは北西隅を起点として40に分割し、東西ラインを算用数字１～10、南北ラインをアルファベット小文字ａ～ｊとした（例：ⅠA1aグリッド）。
従って、本報告書に記載しているグリッドは平成14年度に改めたグリッド名称となっている。なお、平成14年度の基準点の成果値は以下の通りである（日本測地系・世界測地系の両座標を併記する）。

基準点１　Ｘ＝-93520.000　Ｙ＝57960.000　Ｈ＝185.326
基準点２　Ｘ＝-93656.000　Ｙ＝57980.000　Ｈ＝180.110　（日本測地系）
基準点１　Ｘ＝-93211.3962　Ｙ＝57658.6805　Ｈ＝185.326
基準点２　Ｘ＝-93347.3962　Ｙ＝57678.6804　Ｈ＝180.110　（世界測地系）

（２）試掘調査

最初に、地形の状況と地層の堆積状況、遺構の有無、遺構・遺物集中区域の確認と把握を目的として、任意に十数箇所の２×10mトレンチを設定し、人力でトレンチ調査を行った。また合わせて、岩手県教育委員会生涯学習文化課が事前に行った試掘調査の時に掘削したトレンチも掘り下げを行った。

この結果、Ⅰａ層現代耕作土（層厚10～30cm）、Ⅰｂ層現代水田床土（層厚10～30cm）、Ⅰｃ層現代水田造成時の盛土（層厚20～50cm）、Ⅰｄ層現代旧耕作土（層厚10～20cm）の下層にⅡ層黒褐色土があり、この層が遺構検出面及び希薄な遺物包含層であることを確認した。また、多くのトレンチではⅠ層を掘り下げた時

点でⅢ層黄褐色粘土質シルト層が確認され、水田造成時の影響がかなりの部分に及んでいると判断された。しかし、調査区東側の標高が低い部分はⅡ層黒褐色土の残存が良好で、この部分に遺構・遺物が集中するであろうことも予想された。

調査区中央東側の斜面下ⅡB3h～j・4g～j・5g～j・6g～j・7h～j、ⅡC3a～b・4a～g・5a～j・6a～j・7a～j・8b～j・9i～j、ⅡD6･7･8･9･10a～eについては、傾斜に沿って7箇所のトレンチを設定した。しかし、いずれもⅠ層耕作土（層厚50～100cm）、Ⅲ層黄褐色粘土質シルト層（層厚40～100cm）、Ⅳ層基盤層のみで遺構・遺物は検出されず、そのまま斜面下に落ち込んでいく地形となっていたため、写真撮影などの記録をした後、埋め戻しを行ってこの部分の調査を終了した（約1,000㎡）。

また、調査区南西側のⅠC2b～6bグリッド以南には3箇所のトレンチを設定したが、初回目標層位に至っても遺構・遺物が未検出であったためさらにⅢ層まで層位毎に掘り下げ、順次遺構検出を行った。その結果どの層位においても遺構・遺物が全く検出されなかったため調査終了とし、排土置場とした。

（3）重機及び人力による粗掘・遺構検出

試掘調査の成果をもとに、トレンチ調査で終了した部分以外の全面において、Ⅱ層黒褐色土及びⅢ層黄褐色粘土質シルト層上面までのⅠ層耕作土を重機（バックホー）により掘削した。

この後、人力による遺構検出などを行い、これによって遺構が検出された付近に関しては精査を行い、それ以外の区域に関してはさらに第Ⅲ層上面までの掘り下げを行った。Ⅲ層上面以下については、重機を使用せず、幅2mのトレンチを地形の傾斜を考慮して設定し、人力によって層位毎に掘り下げ、遺構検出をⅢ層上面まで行うという方法をとったが、Ⅲ層上面以下からは遺構・遺物とも検出されなかった。

（4）遺構の調査方法

竪穴住居跡及び竪穴住居状遺構の調査は四分法で、その他の遺構については原則的に二分法で行い、それぞれ堆積土層観察用のセクションベルトを設け、土層を観察しながら精査を進めた。この際、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の完掘状況を中心に写真撮影及び実測を随時行った。

遺構については、その性格により分類化した記号を用いた。また、遺構記号は調査を進めていく段階で付記した性格の遺構が検出された場合は、室内整理作業において記号・番号を付け直している。

SI	：竪穴住居跡	SX	：竪穴住居状遺構	SK	：土坑
SF	：焼土遺構	SR	：土器埋設遺構	P	：ピット
SA	：柵列				

遺跡・遺構・出土遺物の写真撮影については、フィルムは35mmモノクローム・カラーリバーサルを併用し、6×9cmモノクロームは竪穴住居跡・竪穴住居状遺構平面完掘写真及び遺跡全景・調査終了写真などに限って使用した。また、各年度に調査区域全体の航空写真撮影を1回ずつ実施した。

実測図の縮尺は1/20を基本としたが、遺構の種類や規模の大小により1/10、1/40、1/50などを用いた。なお、調査の進行上土層断面の写真や実測を省略し、状態の記録や計測等のみにとどめた遺構もある。

（5）遺物の取り上げ方

遺物の取り上げ方は、遺構内出土分については出土遺構名と出土層位（上位・中位・下位・床面直上・床面・底面など）を記し、このうち床面・底面出土分については出土位置も記録した。遺構外出土分はグリッド毎に層位を記した。ただしⅠ層出土分及び表採分については大グリッド名のみのものもある。

2．整理方法

平成13年11月１日～平成14年３月31日（約５ヵ月：整理作業員４名）、平成14年11月１日～平成15年３月31日（約５ヵ月間：整理作業員８名）の期間で室内整理作業を行った。整理作業は各年度毎に行い、平成14年度に編集を行った。

（1） 遺構

遺構については現場で図化してきた遺構図面を第一原図とし、註記や遺構の切り合い、配置などを検討しながら担当調査員が遺構毎に第二原図を作成し、その上でトレースを行った。各遺構については、位置・規模・形態などの基礎データを抽出し、遺構一覧表を作成した。遺構図版は各遺構種別に、竪穴住居跡・竪穴住居状遺構・土坑・焼土遺構・土器埋設遺構・柱穴の順で掲載した。

（2） 遺物

ａ．土器

水洗・註記を行った後、グリッド毎・遺構毎に仕分けを行い、接合作業を行った。その後、復元作業、掲載遺物の選別、登録作業、実測、拓影、トレース、写真撮影といった手順で行った。

掲載遺物については、住居跡床面から出土したものを最優先とし出来る限り掲載するよう努めた。それ以外については遺構内出土遺物を原則とし、遺構外出土遺物については立体土器・口縁部破片・器形復元可能な破片を優先とし、胴部に特徴的な文様を持つ破片、多量に出土している文様の代表的な破片を掲載した。また、上記の基準を満たさないものでも出来る限り図化し、掲載した。

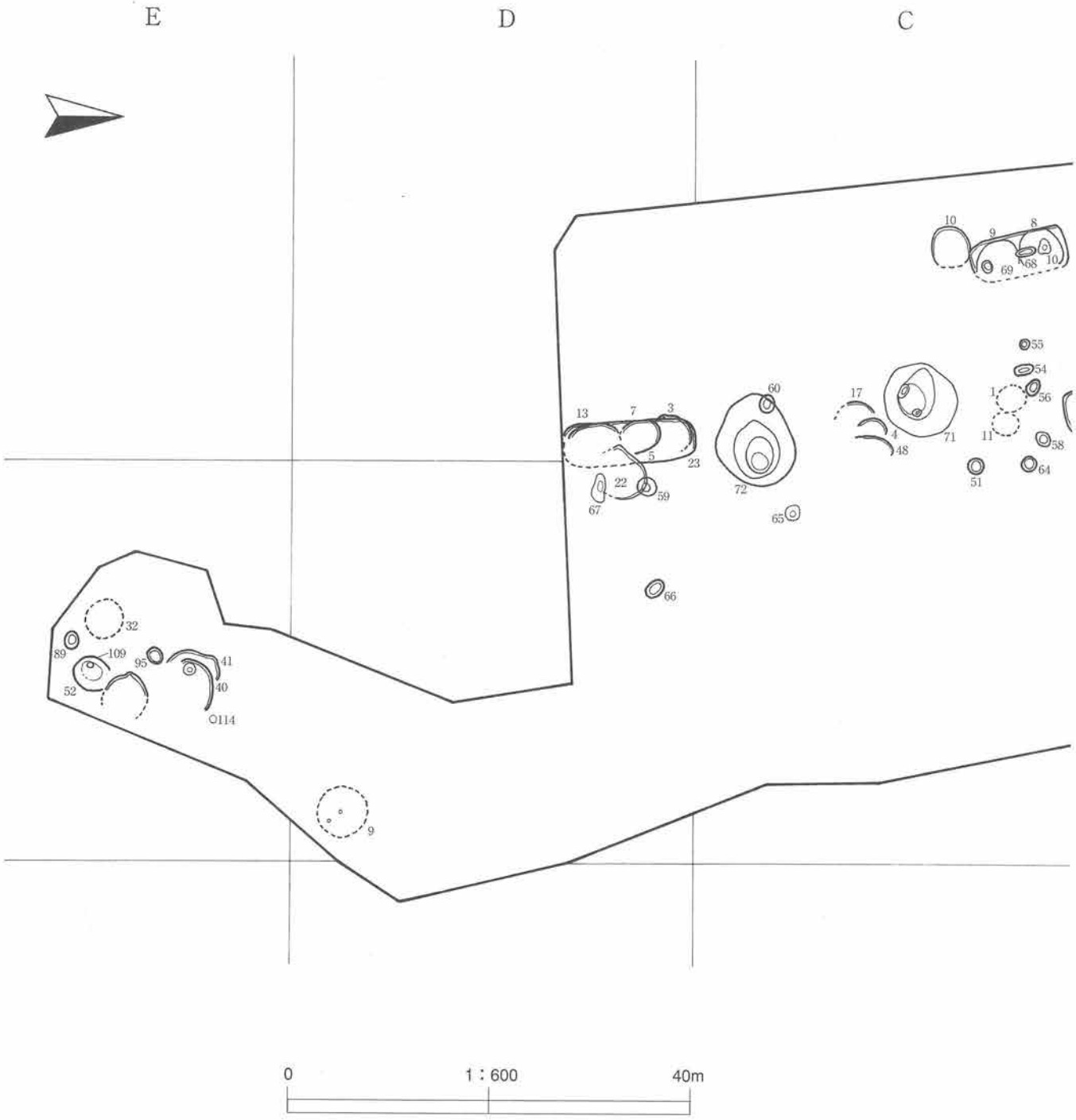
ｂ．石器

水洗・註記を行った後、担当調査員が石器全点を観察し、分類・計測・登録作業を行い一覧表を作成した。その後、実測、トレース、写真撮影を行った。平成14年度は、剥片石器の実測・トレース作業を（株）シン技研コンサルに外部委託した（100点）。

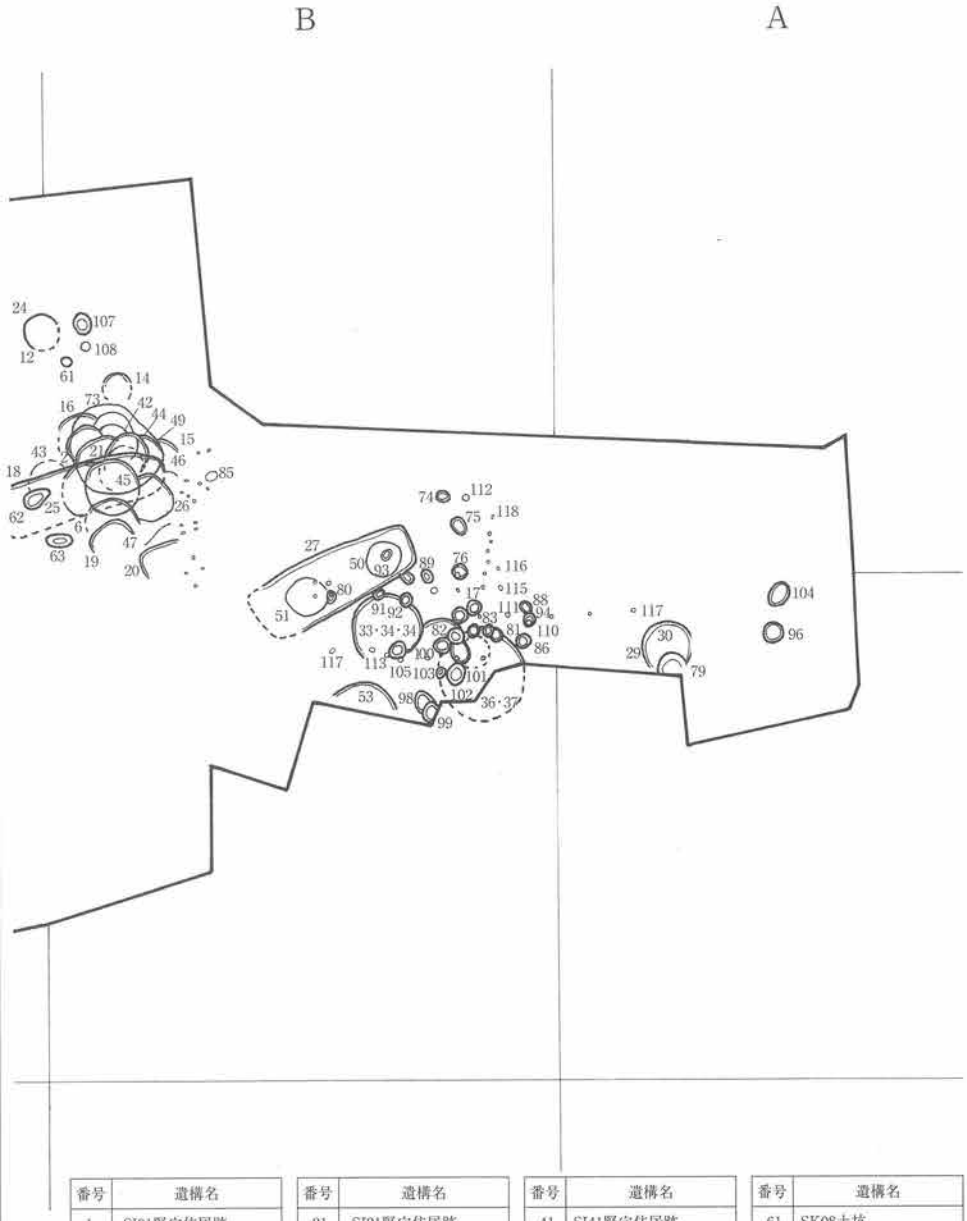
掲載遺物については、器種別に分けた石器から、遺構内を優先的に選別して図化した。また、バラツキがないように心掛けた。掲載できなかった石器についても法量計測を行い、点数・重量を計測した。

（3） 掲載図版の構成

掲載図版は遺構と遺物を分け、遺構図版は遺構の種別毎に掲載し、遺物図版は土器・土製品・石器・石製品など種別毎に掲載した。登録番号については、平成13年度出土土器・土製品が0001～、平成13年度出土石器・石製品が1001～、平成14年度出土土器・土製品が2001～、平成14年度出土石器・石製品が3001～である。これに加えて、掲載遺物については全遺物について通し番号（掲載番号）を付している。このほかに、図版番号・写真番号も合わせて記載している。観察表の（　）内数値は推定値である。


E
D
C
10
9
8
69
68
10
55
54
56
1
11
58
64
51
17
4
48
71
60
72
65
13
7
3
5
23
22
59
67
66
32
89
109
95
41
40
52
114
9
0
1：600
40m

第12図　遺構配置図



番号	遺構名
1	SI01竪穴住居跡
2	SI02竪穴住居跡
3	SI03竪穴住居跡
4	SI04竪穴住居跡
5	SI05竪穴住居跡
6	SI06竪穴住居跡
7	SI07竪穴住居跡
8	SI08竪穴住居跡
9	SI09竪穴住居跡
10	SI10竪穴住居跡
11	SI11竪穴住居跡
12	SI12竪穴住居跡
13	SI13竪穴住居跡
14	SI14竪穴住居跡
15	SI15竪穴住居跡
16	SI16竪穴住居跡
17	SI17竪穴住居跡
18	SI18竪穴住居跡
19	SI19竪穴住居跡
20	SI20竪穴住居跡

番号	遺構名
21	SI21竪穴住居跡
22	SI22竪穴住居跡
23	SI23竪穴住居跡
24	SI24竪穴住居跡
25	SI25竪穴住居跡
26	SI26竪穴住居跡
27	SI27竪穴住居跡
28	SI28竪穴住居跡
29	SI29竪穴住居跡
30	SI30竪穴住居跡
31	SI31竪穴住居跡
32	SI32竪穴住居跡
33	SI33竪穴住居跡
34	SI34竪穴住居跡
35	SI35竪穴住居跡
36	SI36竪穴住居跡
37	SI37竪穴住居跡
38	SI38竪穴住居跡
39	SI39竪穴住居跡
40	SI40竪穴住居跡

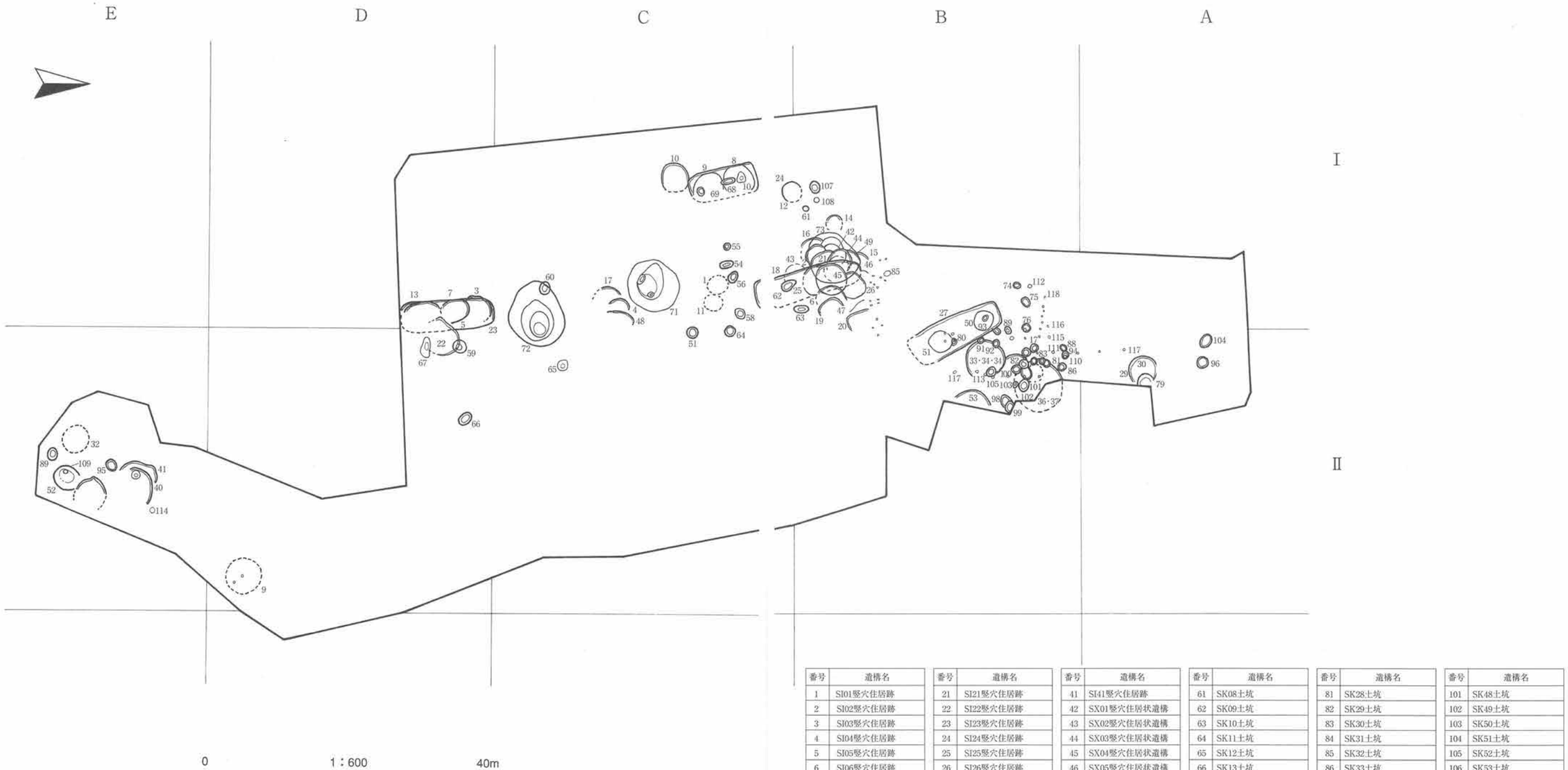
番号	遺構名
41	SI41竪穴住居跡
42	SX01竪穴住居状遺構
43	SX02竪穴住居状遺構
44	SX03竪穴住居状遺構
45	SX04竪穴住居状遺構
46	SX05竪穴住居状遺構
47	SX06竪穴住居状遺構
48	SX07竪穴住居状遺構
49	SX08竪穴住居状遺構
50	SX09竪穴住居状遺構
51	SX10竪穴住居状遺構
52	SX11竪穴住居状遺構
53	SX12竪穴住居状遺構
54	SK01土坑
55	SK02土坑
56	SK03土坑
57	SK04土坑
58	SK05土坑
59	SK06土坑
60	SK07土坑

番号	遺構名
61	SK08土坑
62	SK09土坑
63	SK10土坑
64	SK11土坑
65	SK12土坑
66	SK13土坑
67	SK14土坑
68	SK15土坑
69	SK16土坑
70	SK17土坑
71	SK18土坑
72	SK19土坑
73	SK20土坑
74	SK21土坑
75	SK22土坑
76	SK23土坑
77	SK24土坑
78	SK25土坑
79	SK26土坑
80	SK27土坑

番号	遺構名
81	SK28土坑
82	SK29土坑
83	SK30土坑
84	SK31土坑
85	SK32土坑
86	SK33土坑
87	SK34土坑
88	SK35土坑
89	SK36土坑
90	SK37土坑
91	SK38土坑
92	SK39土坑
93	SK40土坑
94	SK41土坑
95	SK42土坑
96	SK43土坑
97	SK44土坑
98	SK45土坑
99	SK46土坑
100	SK47土坑

番号	遺構名
101	SK48土坑
102	SK49土坑
103	SK50土坑
104	SK51土坑
105	SK52土坑
106	SK53土坑
107	SK54土坑
108	SR01土器埋設遺構
109	SF01焼土遺構
110	SF02焼土遺構
111	SF03焼土遺構
112	SF04焼土遺構
113	SF05焼土遺構
114	SF06焼土遺構
115	SA01柵列
116	SA02柵列
117	SA03柵列
118	SA04柵列
119	SA05柵列

第12図　遺構配置図



第12図　遺構配置図

番号	遺構名
1	SI01竪穴住居跡
2	SI02竪穴住居跡
3	SI03竪穴住居跡
4	SI04竪穴住居跡
5	SI05竪穴住居跡
6	SI06竪穴住居跡
7	SI07竪穴住居跡
8	SI08竪穴住居跡
9	SI09竪穴住居跡
10	SI10竪穴住居跡
11	SI11竪穴住居跡
12	SI12竪穴住居跡
13	SI13竪穴住居跡
14	SI14竪穴住居跡
15	SI15竪穴住居跡
16	SI16竪穴住居跡
17	SI17竪穴住居跡
18	SI18竪穴住居跡
19	SI19竪穴住居跡
20	SI20竪穴住居跡

番号	遺構名
21	SI21竪穴住居跡
22	SI22竪穴住居跡
23	SI23竪穴住居跡
24	SI24竪穴住居跡
25	SI25竪穴住居跡
26	SI26竪穴住居跡
27	SI27竪穴住居跡
28	SI28竪穴住居跡
29	SI29竪穴住居跡
30	SI30竪穴住居跡
31	SI31竪穴住居跡
32	SI32竪穴住居跡
33	SI33竪穴住居跡
34	SI34竪穴住居跡
35	SI35竪穴住居跡
36	SI36竪穴住居跡
37	SI37竪穴住居跡
38	SI38竪穴住居跡
39	SI39竪穴住居跡
40	SI40竪穴住居跡

番号	遺構名
41	SI41竪穴住居跡
42	SX01竪穴住居状遺構
43	SX02竪穴住居状遺構
44	SX03竪穴住居状遺構
45	SX04竪穴住居状遺構
46	SX05竪穴住居状遺構
47	SX06竪穴住居状遺構
48	SX07竪穴住居状遺構
49	SX08竪穴住居状遺構
50	SX09竪穴住居状遺構
51	SX10竪穴住居状遺構
52	SX11竪穴住居状遺構
53	SX12竪穴住居状遺構
54	SK01土坑
55	SK02土坑
56	SK03土坑
57	SK04土坑
58	SK05土坑
59	SK06土坑
60	SK07土坑

番号	遺構名
61	SK08土坑
62	SK09土坑
63	SK10土坑
64	SK11土坑
65	SK12土坑
66	SK13土坑
67	SK14土坑
68	SK15土坑
69	SK16土坑
70	SK17土坑
71	SK18土坑
72	SK19土坑
73	SK20土坑
74	SK21土坑
75	SK22土坑
76	SK23土坑
77	SK24土坑
78	SK25土坑
79	SK26土坑
80	SK27土坑

番号	遺構名
81	SK28土坑
82	SK29土坑
83	SK30土坑
84	SK31土坑
85	SK32土坑
86	SK33土坑
87	SK34土坑
88	SK35土坑
89	SK36土坑
90	SK37土坑
91	SK38土坑
92	SK39土坑
93	SK40土坑
94	SK41土坑
95	SK42土坑
96	SK43土坑
97	SK44土坑
98	SK45土坑
99	SK46土坑
100	SK47土坑

番号	遺構名
101	SK48土坑
102	SK49土坑
103	SK50土坑
104	SK51土坑
105	SK52土坑
106	SK53土坑
107	SK54土坑
108	SR01土器埋設遺構
109	SF01焼土遺構
110	SF02焼土遺構
111	SF03焼土遺構
112	SF04焼土遺構
113	SF05焼土遺構
114	SF06焼土遺構
115	SA01柵列
116	SA02柵列
117	SA03柵列
118	SA04柵列
119	SA05柵列

第12図　遺構配置図

Ⅳ　検出遺構

1．記述方法

(1) 基本方針

個々の遺構を説明するにあたっては、観察表・遺構各説・遺構実測図版・遺構写真図版を用いた。観察表ですべての遺構の記載を行い、遺構各説では観察表で記述できない箇所も含めて記載した。遺構番号は基本的に発掘調査時に付したものを用いているが、室内整理の検討によって当初と異なった性格の遺構であった場合は、種別及び番号を付け直している。

(2) 平面・断面形態について

遺構を表現する上で主に、以下のような形態分類基準を用いた。

① 平面形態

円形　：　長軸及び短軸にほとんど差が無く、同心円状の開口部径または底部径をもつもの。

楕円形：　長軸及び短軸に大きく差があり、円形よりもやや幅広の開口部または底部径をもつもの。

方形　：　長軸及び短軸にほとんど差が無く、隅丸角がある四角形の開口部または底部径をもつもの。

長方形：　長軸及び短軸に大きく差があり、方形よりも幅広の隅丸角がある四角形の開口部または底部径をもつもの。

不整形：　上記の形態に当てはまらず、長軸や短軸などが計測される箇所を複数もつもの。

② 断面形態

皿形　　：　開口部径と底部径の差がほとんど無く、深さが開口部径の約1/3程度のもの。

擂鉢形　：　開口部径に対して、底部径が狭く、壁面がやや外湾しながら立ち上がるもの。

袋形　　：　開口部径に対して、底部径がやや幅広で、壁面がやや内湾しながら立ち上がるもの。

ビーカー形：　開口部径と底部径にほとんど差が無く、壁面はほぼ直立しながら立ち上がり、深さが開口部径と同様もしくは以上もの。

フラスコ形：　底部径に対して、開口部径が極端に狭くなり、大きく内湾しながら立ち上がるもの。

(3) 図化の方法

① 全体図（遺構配置図）

調査区内における遺構配置を示す図面。

② 個別図

遺構を個々に示した実測図。図化にあたっては、平面図・断面図をセットで提示することを基準とした。また、この他にも必要において、遺物出土状況図・変遷図・エレベーション図を用いた。

2．遺構各説

検出遺構数は、竪穴住居跡41棟、竪穴住居状遺構12基、土坑54基、土器埋設遺構１基、焼土遺構６基、柵列５列、ピット74基である。遺構説明については、竪穴住居跡→竪穴住居状遺構→土坑→土器埋設遺構→焼土遺構→柵列→ピットの順で記載する。

（1） 竪穴住居跡（ＳＩ）

竪穴住居跡は計41棟検出している。遺構分布をみると、遺構の多くは調査区中央から北側にかけて集中しており、南側にかけては散漫かつ希薄になる傾向がある。時期的にみると、縄文時代前期中～後葉と推定される竪穴住居跡が２棟、縄文時代前期後葉と推定される竪穴住居跡が２棟、縄文時代中期末葉と推定される竪穴住居跡が12棟、確定的な時期は不明であるが縄文時代中期に所属するとみられる竪穴住居跡が20棟、縄文時代に所属する竪穴住居跡が５棟である。本来は検出層位・遺構プラン・出土遺物などから時期を想定するが、ＩB8h～10hグリッドは重複が著しく、古期の遺構を破壊して、新期の遺構が作られているものが多いこと、また近年の開田工事に伴い大きく削平・攪乱を受けている遺構が多いため、遺構プランが不確定(炉のみが残存するなど)、出土遺物が僅少または皆無など帰属時期を推定することが難しいものがあった。

これを踏まえて、各竪穴住居跡を説明するために、遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、遺構の規模及び平面形、主軸方向、覆土の状態、壁・床面の状態、遺構に伴うピットと柱穴の判別、炉の形態、出土遺物、推察される遺構の所属時期について記載を行う。

なお、主軸方向については、基本的に炉の長軸方向と遺構プラン、柱穴配置などから推察を行っている。また、同プラン内で「建て替え」を行っている場合、炉を作り替えている場合は１遺構と認定し、作り替えがない場合は同一遺構として処理している。

ＳＩ０１竪穴住居跡

遺構（第13図・写真図版６）

[位置・検出状況] ＩC9cグリッド付近に位置する。Ｉ層直下のⅢ層上面で石囲炉を検出した。現代の削平が著しく、炉の上部が消失しており、床面は２／３以上が消失している。

[重複関係] 東側でSI11竪穴住居跡と、北側でSK03土坑と重複し、これらに切られている。

[規模・平面形] 北～南（450）cm、東～西（400）cm以上で、円形基調と推定される。

[主軸方向] Ｎ－90°－Ｅ。

[覆土] 黒褐色土が堆積していたと考えられるが、削平により不明である。

[壁・床面] 壁は削平され残存しない。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面は全体的に堅緻である。

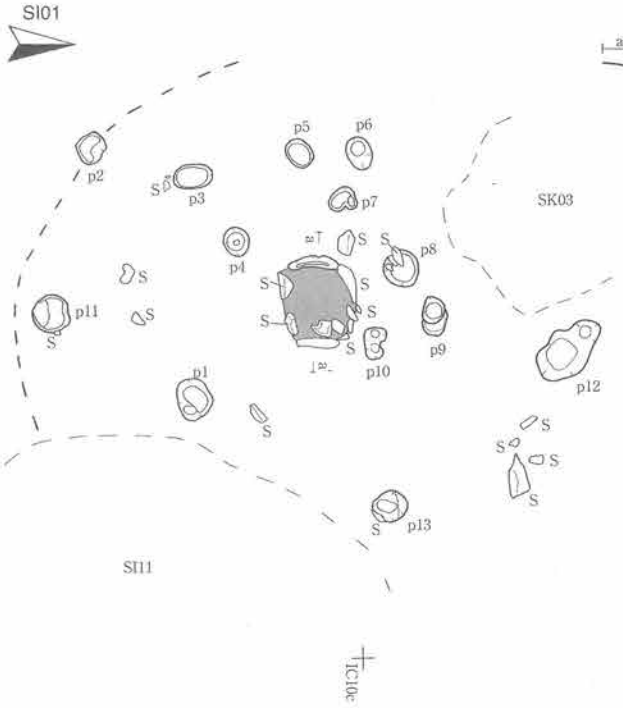
[ピット] 本遺構推定範囲内（SI11竪穴住居跡範囲を除く）から13基検出された。配置及び深さに規則性は見られない。他遺構のピットを含んでいる可能性がある。

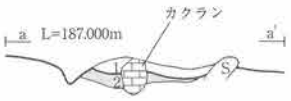
[炉] 72×58cmの長方形を呈する石囲炉で、上部が削平され石組が移動している。焼成面は56×52cmの長方形で、厚さは最厚10cmで、強変している。

[小結] 炉が床面中央に位置することから、これを住居跡と判断したが削平が著しく、プランを把握することは困難であり、規模も推定値となっている。

第2表　竪穴住居跡一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)			床面積(㎡)	平面形	主軸方向	炉			柱穴		重複関係
				長軸	短軸	深さ				形態	炉規模(cm)	燃焼範囲(cm)	個数	配置	
SI	1	Ⅰ C9c	Ⅲ層上面	(450)	(400)	不明	不明	不明	N-90° -E	石囲炉	72×58	56×52	13	不規則	SI11 SK03
SI	2	Ⅰ C8j	Ⅲ層上面	(350)	(300)	不明	不明	円形	N-50° -E	土器埋設炉	不明	58×50	5	不規則	SI16 SI21より新
SI	3	Ⅰ C10a	Ⅲ層上面	(420)	(380)	32	不明	円形	不明	地床炉	—	55×32 32×24	15	不規則	SI23より新・SI07より古
SI	4	Ⅰ C10f	Ⅲ層上面	(330)	(330)	6	不明	不明	不明	地床炉	—	75×45	1	不明	SI17・SX07
SI	5	Ⅱ D1b	Ⅲ層上面	(450)	(450)	17	不明	不明	不明	石囲炉？	？	32×30	2	不明	SI22・SI23・SK06・SK14より新
SI	6	Ⅰ B9i	Ⅲ層上面	(400)	(400)	10	不明	円形	不明	石囲炉	？	50×45	9	円形(一部を除く)	SI19・SI25・SX04より新
SI	7	Ⅰ D10b	Ⅲ層上面	(320)	(320)	15	不明	楕円形	不明	石囲炉	？	60×35	13	不規則	SI03・SI23より新
SI	8	Ⅰ C6b	Ⅲ層上面	(420)	(400)	5	5.3	不明	不明	地床炉(3基)	—		13	不規則	SI24より新
SI	9	Ⅰ C6c	Ⅲ層上面	(390)	(390)	15	不明	不明	不明	地床炉	—	50×30	12	不規則	SI24より新
SI	10	Ⅰ C6d	Ⅲ層上面	(410)	(360)	12	不明	不明	不明	土器埋設炉	—	50×25	7	不規則	なし
SI	11	Ⅰ C9c	Ⅲ層上面	(400)	(400)	不明	不明	不明	不明	地床炉	—	70×42	8	不規則	SI01より新
SI	12	Ⅰ C6a	Ⅲ層上面	(350)	(350)	15	不明	不明	不明	地床炉	—	75×65	8	不規則	なし
SI	13	Ⅰ D10c	Ⅲ層上面	不明	不明	22	7.3	不明	不明	地床炉(3基)	—		なし	不明	SI23より新
SI	14	Ⅰ B7i	Ⅲ層上面	不明	不明	20	不明	不明	不明	地床炉	—	75×32	1	不明	なし
SI	15	Ⅰ B8h	Ⅲ層上面	不明	不明	8	不明	不明	不明	地床炉	—		3	不規則	SI18・SX05・SX08より古
SI	16	Ⅰ B8j	Ⅲ層上面	310	290	15	不明	円形	不明	地床炉	—	45×25	6	円形	SI02より古・SI21・SK20より新
SI	17	Ⅰ C9g	Ⅲ層上面	不明	不明	18	不明	不明	不明	地床炉	—	23×23	3	不明	SI04より古
SI	18	Ⅰ B9i・9j・Ⅰ C9a	Ⅲ層上面	1250	480	20	47.8	長方形	N-15° -W	地床炉(5基)	—		40	不規則(一部は周る)	SI06・15・21・25・26・SX01・03・04・05・08・SK09・20
SI	19	Ⅰ B10i	Ⅲ層上面	(310)	(310)	10	7.0	円形	不明	地床炉	—	？×18	9	不規則	SI06より古
SI	20	Ⅰ B10h	Ⅲ層上面	(350)	(350)	25	6.0	楕円形	不明	石囲炉			4	不規則	SX06より新
SI	21	Ⅰ B8j	Ⅲ層上面	(430)	(430)	12	不明	円形？	N-60° -E	石囲炉(複式炉？)	140×50	15×15	7	円形	SI02・SI16・18・25・SX01・03・04・SK20
SI	22	Ⅱ D1b	Ⅲ層上面	410	390	12	11.4	円形	不明	地床炉	—	60×55	9	不規則	SI05より古 SK06
SI	23	Ⅰ D10a～c	Ⅲ層上面	1100	470	23	30.3	長方形	N-10° -W	地床炉(2基)	—		22	不規則	SI03・SI05・SI07・SI13より古
SI	24	Ⅰ C6b・c	Ⅲ層上面	1000	370	10	29.0	長方形	N-20° -W	地床炉	—	50×35	26	周る	SI08・SI09より古
SI	25	Ⅰ B9j	Ⅲ層上面	(420)	(420)	32	不明	円形	不明	地床炉	—	？	8	周る	SI06・18・22・SX03・04
SI	26	Ⅰ B9h	Ⅲ層上面	(440)	(400)	5	不明	円形	N-70° -W	石囲炉	80×60	40×25	15	不規則	SI06・SI18・SX03・SX04より古
SI	27	Ⅰ B10c～e・Ⅱ B1d～f	Ⅲ層上面	1300	500	40	49.2	長方形	N-27° -W	地床炉(5基)	—	50×25 20×20	47	周る	SX09・SX10より古
SI	28	Ⅱ B2b	Ⅲ層上面	(330)	(320)	不明	(10.6)	不明	N-23° -E	土器埋設石囲炉		37×28	6	周る	SI36・SI37・SI38より新
SI	29	Ⅱ A2h～i	Ⅲ層上面	430	420	45	(15.2)	円形	S-82° -E	石囲炉	76×66	42×40	4		SI30・SK26より古
SI	30	Ⅱ A2h～i	SI29覆土	330	320	25	6.0	円形	不明	地床炉	—	45×40	なし		SI29・SK26より新
SI	31	Ⅱ E6d～e	Ⅲ層上面	440	370	30	14.1	円形	N-75° -W	土器埋設複式炉		97×85			SX11より新
SI	32	Ⅱ E4～5e	Ⅲ層上面	不明	不明	不明	不明	不明	N-87° -E	石囲炉	60×55	40×40	なし		なし
SI	33	Ⅱ B1～2d	Ⅲ層上面	555	495	40	20.1	円形	N-87° -W	複式炉		95×75	13	周る	SI34・SI35・SI38より新 SK38・SK39より古
SI	34	Ⅱ B1～2d	Ⅲ層上面	555	495	40	20.1	円形	N-62° -E	複式炉？(SI33が破壊)		107×50	9	周る	SI33より古 SI35・SI38より新 SK38・SK39より古
SI	35	Ⅱ B1～2d	Ⅲ層上面	555	495	40	20.1	円形	S-64° -W	土器埋設複式炉		150×75	9	周る	SI33・SI34より古 SI38より新 SK38・SK39より古
SI	36	Ⅱ B2～3b	Ⅲ層上面	590	350	40	19.0	円形	N-50° -W	土器埋設複式炉		200×90	16	不規則、周る	SI28・37・38 SK28・29・34・48・49・50
SI	37	Ⅱ B2～3b	Ⅲ層上面	590	350	40	19.0	円形	S-50° -E	複式炉？(SI36が破壊)		130×30	16	不規則、周る	SI28・37・38 SK28・29・34・48・49・50
SI	38	Ⅱ B2c	Ⅲ層上面	不明	不明	35	不明	円形	不明	地床炉	—	55×30	なし		SI33・SI34・SI35・SI36・SI37より古
SI	39	Ⅱ D6i	Ⅲ層上面	不明	不明	不明	不明	不明	不明	地床炉(2基)	—	40×18 18×13	なし		なし
SI	40	Ⅱ E6b～c	Ⅲ層上面	(550)	(550)	40	不明	不整円形	不明	土器埋設炉		90×35	7	周る	SI41より新・SK53より古
SI	41	Ⅱ E6b～c	Ⅲ層上面	(400)	(400)	40	不明	不整円形	不明	石囲炉		57×40	5	周る	SI40・SK53より古

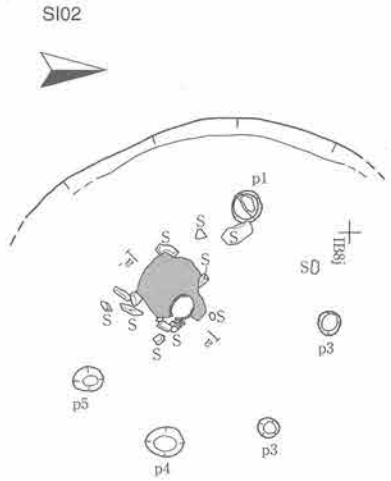


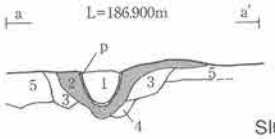


SI01炉
1　10YR3/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまり強
　焼土粒3%
2　5YR4/4　にぶい赤褐色　粘性なし　しまり強
　焼土

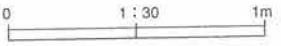
SI01　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	34	23	12	186.78
p2	26	22	7	186.90
p3	31	25	20	186.96
p4	23	6	16	186.79
p5	24	20	7	186.93
p6	27	11	14	186.74
p7	21	16	9	186.88
p8	29	22	20	186.62
p9	32	13	27	186.61
p10	25	7	14	186.74
p11	30	25	17	186.72
p12	60	22	19	186.54
p13	29	16	14	186.53





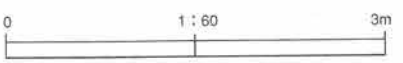
SI01・SI02炉



SI02炉
1　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
　7.5YR2/3　黒褐色シルトブロック10%、焼土粒・炭化物粒10%
2　5YR4/6　赤褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　焼土
3　10YR2/1　黒褐色　粘土質シルト　粘性中　しまり中
　褐色土粒(2～3mm)・焼土粒・炭化物粒3%
4　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　粘性強　しまり強
5　10YR1.7/1　黒色　シルト　粘性弱　しまり強
　円礫(1cm)1%、焼土・炭化物粒2%、SI16の覆土

SI02　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	26	16	39	186.30
p2	20	13	19	186.47
p3	18	10	－	－
p4	31	18	－	－
p5	24	12	－	－



第13図　SI01・02 竪穴住居跡

遺物

[出土状況] 覆土がほとんど残存していないため、少ない。

[土器] なし。

[石器] No.1364自然礫。

時期　炉の形態から縄文時代中期と考えられる。　（丸山）

ＳＩ０２竪穴住居跡

遺構（第13図・写真図版７）

[位置・検出状況] ＩC8jグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で土器埋設石囲炉を検出した。上部の大半が削平されており、炉の上部及び床面東側２／３以上が消失している。

[重複関係] 東側でSI16・21竪穴住居跡と重複し、これらを切っている。

[規模・平面形] 規模はいずれも推定値で、長軸（350）cm、短軸（300）cmである。平面形は円形基調であったものと考えられる。

[主軸方向] Ｎ－50°－Ｅ。

[覆土] 黒褐色土が堆積していたと考えられるが、削平により不明である。

[壁・床面] 西側壁が５cm残存するのみ。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われており、床面残存部分は堅緻である。

[ピット] ５基検出されている。平面形・深さに規則性はない。

[炉] 土器埋設石囲炉で、中央からやや南西寄りに位置する。削平により石組の大半は移動しているため規模は不明で、土器の上半は消失している。焼成面は58×50cmの楕円形で北東―南西に長軸を持ち、埋設土器はこの北東寄りに設置されている。設置時の掘り方は焼成面下18cmに及ぶ。焼土は焼成面下全域及び埋設土器周辺で発達しており、厚さは最厚８cmを測り、強変している。

[小結] 炉が床面中央に位置することと斜面上部にわずかに壁を残存することから、これを住居跡と判断したが削平が著しく、プランを把握することは困難であり、規模も推定値となっている。

遺物（第66図・写真図版72･82･86･103･124）

[出土状況] 住居跡覆土、炉などから遺物が出土している。確実に住居に伴う資料と考えられるのは、No.1炉埋設土器で、中期末葉（大木10式期）に比定される。

[土器] No.1～15。No.1は炉、No.2～15は覆土からの出土。

[石器] No.484石鏃、1062敲磨器類、1365自然礫。

時期　炉の形態から縄文時代中期末葉と考えられる。　（丸山）

ＳＩ０３竪穴住居跡

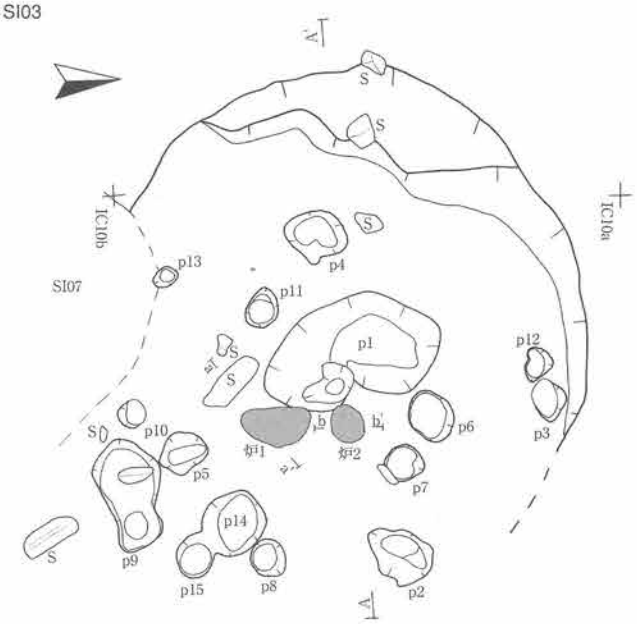
遺構（第14図・写真図版８）

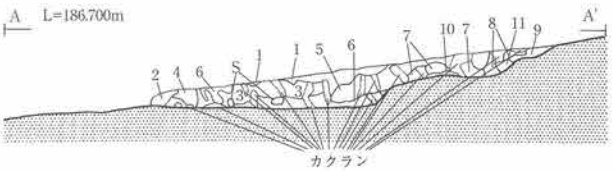
[位置・検出状況] ＩC10aグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。上部の大半が削平されている。

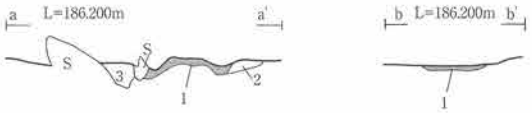
[重複関係] 南側でSI07竪穴住居跡と重複しており、これに切られている。また全域がSI23竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。

[規模・平面形] いずれも推定値で、長軸（420）cm、短軸（380）cmで、かなり削平されている。平面形は

SI03







SI03　ピット計測表

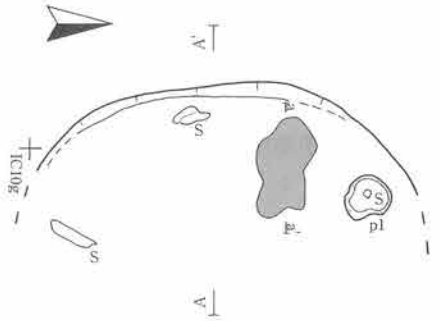
番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高 (m)
p 1	146	70	22	185.83
p 2	57	31	15	185.86
p 3	36	32	9	186.02
p 4	52	35	11	186.07
p 5	43	31	16	185.87
p 6	43	37	16	185.89
p 7	31	25	20	185.84
p 8	30	23	17	185.81
p 9	89	78	20	185.75
p 10	24	21	6	185.87
p 11	32	21	7	186.02
p 12	28	24	8	186.06
p 13	18	13	10	186.07
p 14	81	46	17	185.82
p 15	81	25	21	185.75

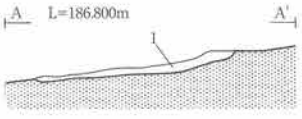
SI03
1　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
2　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　しまり強
3　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
4　10YR3/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
　5YR3/6暗赤褐色焼土が床面近くに混入
5　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　しまり強
6　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　しまり強
　10YR5/8黄褐色土粒3%混入
7　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　しまり中
8　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　しまり中
　10YR5/6黄褐色土粒3%、10YR2/3黒褐色土5%混入
9　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　しまり強
　10YR5/6黄褐色土粒10%混入
10　10YR4/6　褐色　シルト 粘性中　しまり中
11　10YR5/6　黄褐色　粘土 粘性強　しまり中

SI03炉1
1　5YR4/8　赤褐色　シルト　粘性なし　しまり強
　焼土
2　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　粘性中　しまり中
3　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性強　しまり中

SI03炉2
1　5YR3/6　暗赤褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　焼土

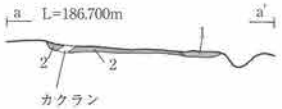
SI04





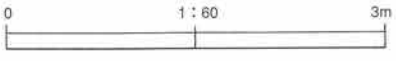
SI04　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高 (m)
p1	38	24	11	186.37



SI04
1　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　しまり強

SI04炉
1　5YR5/8　明赤褐色　シルト　粘性なし　しまり強
　焼土
2　5YR3/4　暗赤褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　うすい焼土



第14図　SI03・04 竪穴住居跡

円形基調と推定される。
［主軸方向］不明である。
［覆土］黒褐色土主体で構成される。植物痕による攪乱が著しい。
［壁・床面］壁は北西側１／３程度のみ残存し、残存最厚部は32cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。南東半は削平され残存しない。残存部は全体的に堅緻である。
［ピット］本遺構推定範囲内（SI07竪穴住居跡範囲を除く）から15基検出した。配置及び深さに規則性は見られない。
［炉］同一面で４基の焼土を検出したが、南西部の１基、東部の１基の計２基は位置及び付随遺物からSI23竪穴住居跡に伴う炉と判断した。他の２基は全て地床炉状を呈するが、焼成は弱い。炉１及び炉２は中央やや東寄りに位置する。平面形・最厚はそれぞれ、炉１：55×32cmの楕円形で被熱深度は３cm（弱変）、炉２：32×24cmの楕円形で被熱深度は２cm（弱変）を計る。
［小結］炉が床面中央やや東寄りに２基位置することと本遺構に伴う柱穴が15基存在することから、これを住居跡と判断したが削平が著しく、プランを把握することは困難であり、規模も推定値となっている。
遺物（第67･106･119図・写真図版82･86･103･106･139）
［出土状況］住居跡覆土、床面などから出土している。
［土器］№16～18。№16は床面、№17,18は覆土からの出土。
［石器］№467石鏃、583スクレイパー類、755磨製石斧。
時期　出土遺物及び重複関係から縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＩ０４竪穴住居跡

遺構（第14図・写真図版９）
［位置・検出状況］ＩC10fグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で暗褐色土の広がりとして検出した。東側に壁状の立ち上がりを確認したが断定できない。重複及び削平により大半が消失している。
［重複関係］南西側でSI17竪穴住居跡と、東側でSX07竪穴住居状遺構と重複しているが、新旧関係は判別できない。
［規模・平面形］規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で（330）cm以上の円形基調であったものと推定される。
［主軸方向］不明である。
［覆土］大半が削平され、暗褐色土がわずかに残存するのみである。
［壁・床面］西側壁がごくわずか残存しており、残存最厚部は６cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面も西端部以外は残存しない。残存部は全体的に堅緻である。
［ピット］北側で１基を検出した。
［炉］中央やや北西寄りに１基検出しており、地床炉状を呈するが上部が削平を受けておりかなり薄く、他形態であった可能性がある。焼成面は75×45cmの楕円形で、東西方向に長軸を持つ。最厚部で２cmを測り、弱変である。
［小結］炉が床面中央やや北西寄りに１基位置することから、これを住居跡と判断したが削平が著しく、プランを把握することは困難であり、規模も推定値となっている。
遺物（第67図・写真図版86）

[出土状況] 住居跡覆土、床面から出土している。
[土器] No.19～21。No.19,20は床面、No.21は覆土からの出土。
[石器] なし。
時期　出土遺物から縄文時代中期に想定される。（丸山）

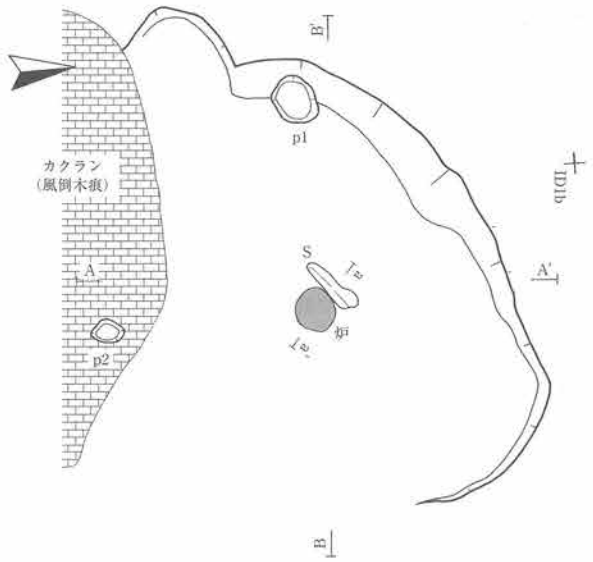
ＳＩ０５竪穴住居跡

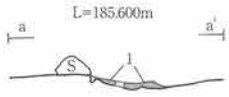
遺構（第15図・写真図版10）
[位置・検出状況] ⅡD1bグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。上部の大半は削平されており、東半は消失している。また、南側も風倒木痕により消失している。
[重複関係] 北東側でSK06土坑と、南東側でSK14土坑と重複し、これらを切っている。また、西側でSI23竪穴住居跡と、SI22竪穴住居跡とは東側で重複しており、これも切っている。
[規模・平面形] 規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で（450）cm以上の円形基調であったものと推定される。
[主軸方向] 不明である。
[覆土] 黒褐色土主体で構成される。植物痕による攪乱が著しい。
[壁・床面] 壁は北西側１／３程度のみ残存し、残存最厚部は17cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。南東半側は削平され残存しない。残存部は全体的に堅緻である。
[ピット] 本遺構推定範囲内から２基検出した。配置及び深さに規則性は見られない。
[炉] 推定範囲のほぼ中央、及び東側に計２基検出したが、位置及び付随遺物から東側の１基をSI22竪穴住居跡に伴う炉と判断した。本遺構に伴う炉は削平されており、周囲には大礫が数点存在する。石囲炉であった可能性があるが、礫が他に比べかなり大きいため判然としない。焼成面の平面形・最厚は32×30cmの楕円形で、被熱深度は３cmを測り、弱変している。
[小結] 炉が床面ほぼ中央に１基位置することから、これを住居跡と判断したが削平が著しく、プランを把握することは困難であり、規模も推定値となっている。
遺物（第67･129･137図・写真図版83・86･119･130･132）
[出土状況] 住居跡覆土などから出土している。
[土器] No.22～26。いずれも覆土からの出土。No.24～26の須恵器は表土から覆土までが薄いために混入したものと考えられる。
[石器] No.945,1208敲磨器類、No.1233～1236台石類、No.1366,1367自然礫。
時期　覆土上部に須恵器が混入しているが遺構に伴うものではなく、混入したものである。遺構は縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＩ０６竪穴住居跡

遺構（第15図・写真図版11）
[位置・検出状況] ⅠB9iグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。上部の大半が削平されており、東半は消失している。
[重複関係] 西側でSX04竪穴住居状遺構、SI25竪穴住居跡、東側でSI19竪穴住居跡と重複しており、これらを切っている。

SI05



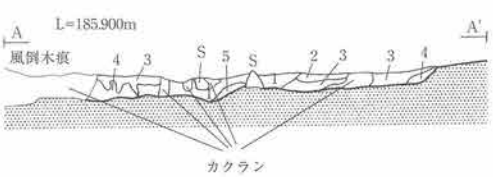


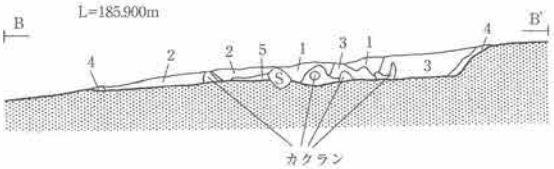
SI05
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
2 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中～強 しまり強
3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
4 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強
5 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
10YR5/8黄褐色土10%、炭化物・焼土粒1%

SI05炉
1 5YR4/6 赤褐色 焼土

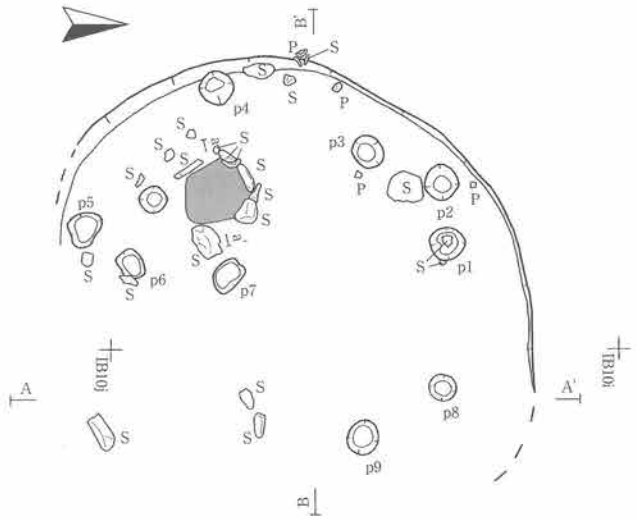
SI05 ピット計測表

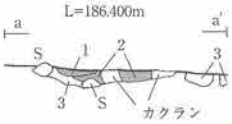
番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	38	32	14	185.41
p2	27	18	8	185.31

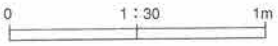




SI06







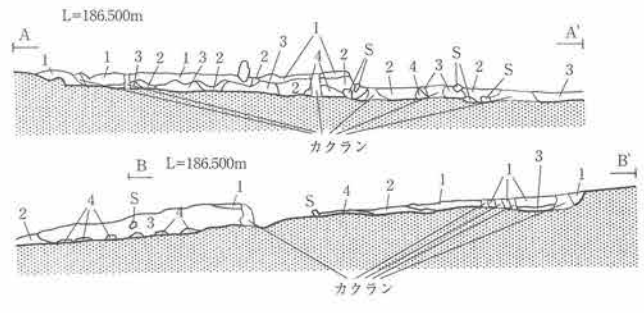
SI05・SI06炉....

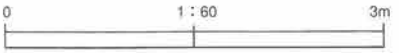
SI06
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
焼土・炭化物粒1%
2 10YR2/1黒色シルトと10YR4/4褐色シルトの混土(7：3)
粘性中 しまり中
3 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
焼土・炭化物粒1%以下
4 7.5YR5/6 明褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強
基盤層 掘り過ぎ

SI06炉
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土・炭化物粒2%
2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
混入物 1層と同じ
3 10YR2/2黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトと10YR4/6褐色シルトの混土
粘性中 しまり中 混入物1層と同じ

SI06 ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	28	17	20	185.97
p2	29	14	32	185.90
p3	25	14	24	185.99
p4	27	13	31	185.92
p5	28	21	7	185.89
p6	24	17	7	186.16
p7	25	21	6	186.15
p8	21	14	4	186.03
p9	28	17	6	185.85





第15図 SI05・06 竪穴住居跡

[規模・平面形] 規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で（400）cm以上の円形基調であったものと推定される。
[主軸方向] 不明である。
[覆土] 黒褐色土主体で構成される。
[壁・床面] 西壁の残存最厚部で10cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。東半は削平され残存しない。残存部は全体的に堅緻である。
[ピット] 本遺構推定範囲内から９基検出された。配置は壁に巡る傾向が見られるが、深さに規則性は無い。
[炉] 石囲炉を１基検出しており、中央やや南西寄りに位置する。南半が攪乱を受け石組が崩壊している。焼成面は50×45cmの楕円形で、最厚６cmを測り、弱変している。
[小結] 石囲炉を中央やや南西寄りに１基検出していることと、壁に沿って巡る傾向を持つ柱穴配置から住居跡と判断したが、削平が著しい。
遺物（第67･68･106･114･124図・写真図版83･86･103･107･114･132）
[出土状況] 住居跡覆土、床面などから出土している。
[土器] №27～36。№27,28が床面、そのほかは覆土からの出土。
[石器] №485石鏃、№599二次加工ある剥片、№831,832敲磨器類、№1237～1239台石類。
時期　出土遺物及び遺構形態から、縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＩ０７竪穴住居跡

遺構（第16図・写真図版12）
[位置・検出状況] ＩＤ10bグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で、南半が欠けた半楕円形の黒褐色土プランとして検出した。南半が攪乱により消失している。
[重複関係] ほぼ全域がSI23竪穴住居跡と重複し、これを切っている。また、SI03竪穴住居跡と重複し、これを切っている。
[規模・平面形] 規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で（320）cm以上の楕円形と推定される。
[主軸方向] 不明である。
[覆土] 黒褐色土主体で構成され、最厚15cmを測る。
[壁・床面] 壁の残存値は北壁で８cm、西壁で15cmを測り、東壁は削平、南壁は攪乱を受け残存しない。西壁は緩やかに立ち上がる。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面は堅緻である。
[ピット] 本遺構推定範囲内から13基検出された。うちｐ２とｐ10は一部が焼土と重複しており、異時期の可能性がある。配置及び深さに規則性は見られない。
[炉] 地床炉をほぼ中央に１基検出した。規模は60×35cmの楕円形で、厚さは最厚４cmを計り、弱変している。南西側に大礫が１点存在する。
[小結] 床面ほぼ中央に地床炉を検出しており、不規則であるが13基の柱穴を検出していることから、住居跡と判断した。本遺構も著しい削平を受けている。
遺物（第68図・写真図版82･87）
[出土状況] 住居跡覆土、床面などから少量出土している。
[土器] №37,38。№37が床面、№38は覆土からの出土。

［石器］なし。

時期　出土遺物及び重複関係から、縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＩ０８竪穴住居跡

遺構（第16図・写真図版13）

［位置・検出状況］ＩC6bグリッド付近に位置する。Ｉ層直下のⅢ層上面で焼土を検出した。上部の大半が削平されており、覆土はほとんど残存しない。東半が消失している。

［重複関係］全域がSI24竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。

［規模・平面形］規模は推定値で、長軸（420）cm、短軸（400）cmで、平面形は円形基調と推定される。

［主軸方向］不明である。

［覆土］黒色土が最厚５cm程度堆積するのみである。

［壁・床面］壁はほとんど残存していない。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われていたものと思われる。床面残存部は全体的に堅緻である。

［ピット］13基検出された。配置・深さに規則性は見られない。

［炉］同一面で３基の焼土を検出した。全て地床炉状を呈するが削平のため断定できない。炉１はほぼ中央に、炉２及び炉３は南東側に位置している。平面形・最大厚はそれぞれ、炉１：70×60cmの不整形・被熱深度７cm（弱変）、炉２：37×37cmの円形・被熱深度４cm（弱変）、炉３：40×30cmの楕円形・被熱深度不明（弱変）である。

［小結］床面に３基の地床炉を検出しているが、炉１以外の所属は確定的ではない。柱穴と考えられるピットも13基検出しているが、規則性は見られない。

遺物（第68･139図・写真図版87･111･132）

［出土状況］住居跡覆土、床面などから出土している。

［土器］№39。床面から出土。

［石器］№750石核、№1240台石類。

時期　出土遺物及び遺構形態から、縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＩ０９竪穴住居跡

遺構（第17図・写真図版14）

［位置・検出状況］ＩC6cグリッド付近に位置する。Ｉ層直下のⅢ層で焼土を検出した。上部の大半が削平されており、覆土はほとんど残存しない。南東半が消失している。

［重複関係］全域がSI24竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。

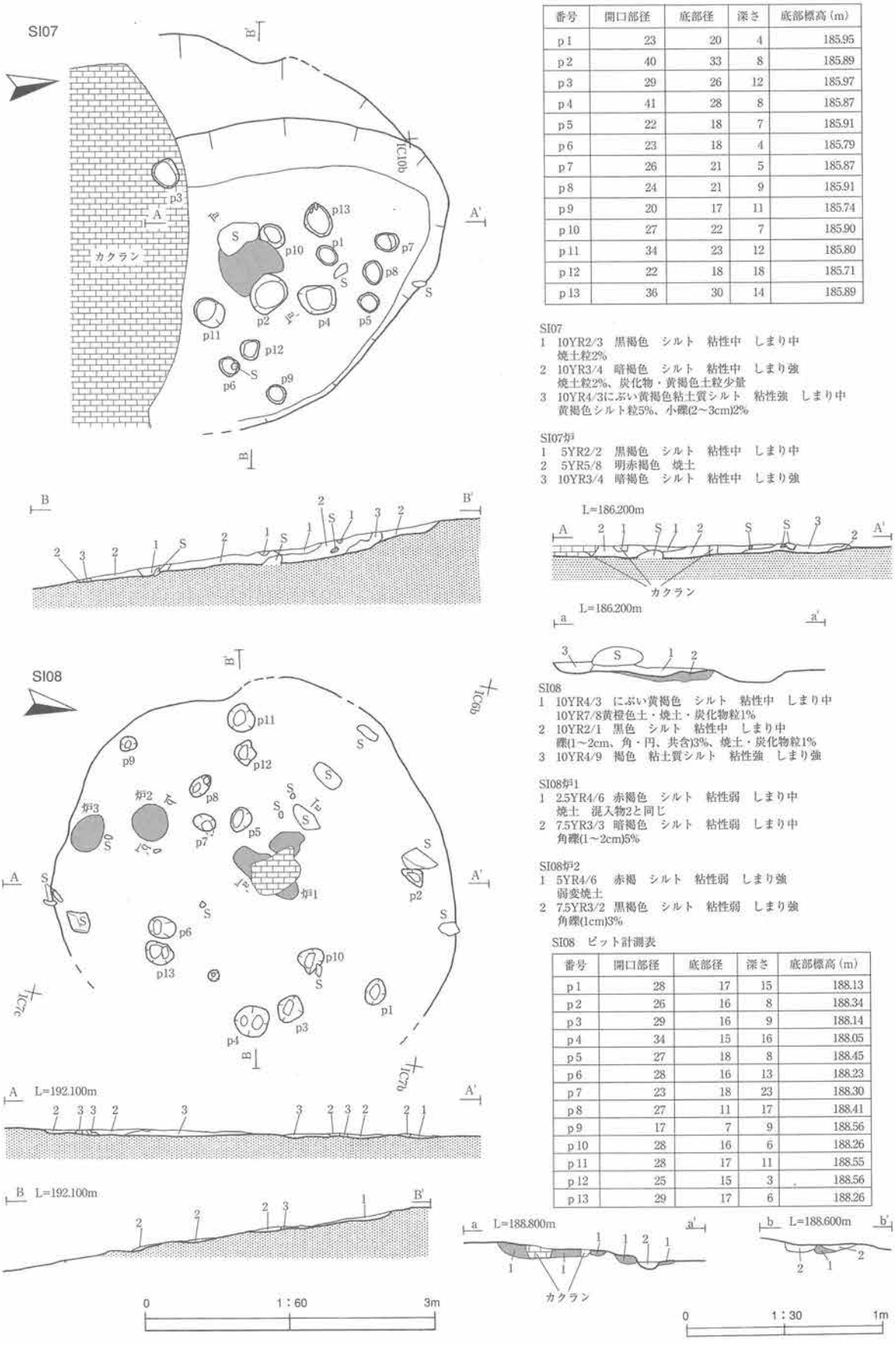
［規模・平面形］規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で（390）cm以上の円形基調と推定される。

［主軸方向］不明である。

［覆土］黒色土主体で構成される。

［壁・床面］壁は北西側１／３のみ残存し、残存最厚部は15cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。南東半は削平され残存しない。残存部は全体的に堅緻である。

［ピット］12基検出された。配置・深さに規則性は見られない。



SI07　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	23	20	4	185.95
p2	40	33	8	185.89
p3	29	26	12	185.97
p4	41	28	8	185.87
p5	22	18	7	185.91
p6	23	18	4	185.79
p7	26	21	5	185.87
p8	24	21	9	185.91
p9	20	17	11	185.74
p10	27	22	7	185.90
p11	34	23	12	185.80
p12	22	18	18	185.71
p13	36	30	14	185.89

SI07
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
　焼土粒2%
2　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　しまり強
　焼土粒2%、炭化物・黄褐色土粒少量
3　10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト　粘性強　しまり中
　黄褐色シルト粒5%、小礫(2～3cm)2%

SI07炉
1　5YR2/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
2　5YR5/8　明赤褐色　焼土
3　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　しまり強

SI08
1　10YR4/3　にぶい黄褐色　シルト　粘性中　しまり中
　10YR7/8黄橙色土・焼土・炭化物粒1%
2　10YR2/1　黒色　シルト　粘性中　しまり中
　礫(1～2cm、角・円、共含)3%、焼土・炭化物粒1%
3　10YR4/9　褐色　粘土質シルト　粘性強　しまり強

SI08炉1
1　2.5YR4/6　赤褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　焼土　混入物2と同じ
2　7.5YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　角礫(1～2cm)5%

SI08炉2
1　5YR4/6　赤褐　シルト　粘性弱　しまり強
　弱変焼土
2　7.5YR3/2　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　角礫(1cm)3%

SI08　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	28	17	15	188.13
p2	26	16	8	188.34
p3	29	16	9	188.14
p4	34	15	16	188.05
p5	27	18	8	188.45
p6	28	16	13	188.23
p7	23	18	23	188.30
p8	27	11	17	188.41
p9	17	7	9	188.56
p10	28	16	6	188.26
p11	28	17	11	188.55
p12	25	15	3	188.56
p13	29	17	6	188.26

第16図　SI07・08竪穴住居跡

［炉］１基検出しており、中央やや北西寄りに位置する。地床炉状を呈するが削平のため断定できない。焼成面は50×30cmの楕円形で、被熱深度は５cmを測り、弱変している。

［小結］床面ほぼ中央に地床炉を１基検出しており、不規則であるが12基の柱穴を検出していることから、住居跡と判断した。本遺構も著しい削平を受けている。

遺物（第124･131･133図・写真図版115･121･125）

［出土状況］住居跡床面などから出土している。

［土器］なし。

［石器］No.833,834,998,1085敲磨器類。

時期　重複関係から、縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＩ１０竪穴住居跡

遺構（第17図・写真図版15）

［位置・検出状況］ＩC6dグリッド付近に位置する。Ｉ層直下のⅢ層上面で土器埋設炉を検出した。上部の大半が削平されており覆土はほとんど残存せず、炉の上半部及び床面北東半部も消失している。

［重複関係］なし。

［規模・平面形］規模は推定値で、長軸（410）cm、短軸（360）cmで、平面形は円形基調と推定される。

［主軸方向］不明である。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。

［壁・床面］壁は西側１／３のみ残存し、残存最厚部は12cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面は東半が削平され残存しない。残存部は全体的に堅緻である。

［ピット］７基検出された。配置・深さに規則性は見られない。

［炉］土器埋設炉で中央やや東寄りに位置する。周囲に炉石と思われる被熱礫が散見されることから、石囲部分があった可能性がある。焼成面は50×25cmの長楕円形で、北西―南東に長軸を持つ。土器埋設位置はこの南東側である。焼土は土器周囲にも発達しており、被熱深度は５cmで、弱変している。

［小結］床面中央に土器埋設石囲炉が１基検出されており、また柱穴と考えられるピットを７基検出していることから住居跡と判断した。遺構はかなり削平されている。

遺物（第69･131図・写真図版72･83･115･121･132）

［出土状況］住居跡覆土、炉などから出土している。

［土器］No.40,41。No.40は炉埋設土器、No.41は覆土からの出土である。

［石器］No.835,836,999,1000敲磨器類。No.1241台石類。No.1368自然礫。この他、下層中に含まれる角礫が多数出土している。

時期　炉埋設土器・炉形態から、縄文時代中期末葉に想定される。（丸山）

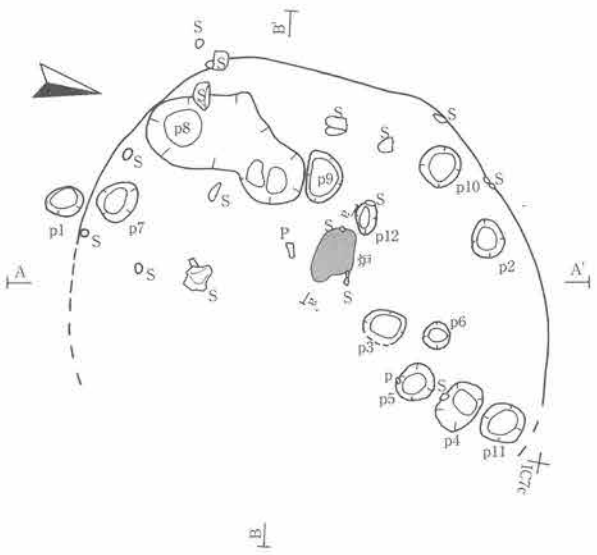
ＳＩ１１竪穴住居跡

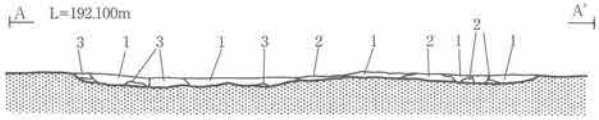
遺構（第18図・写真図版16）

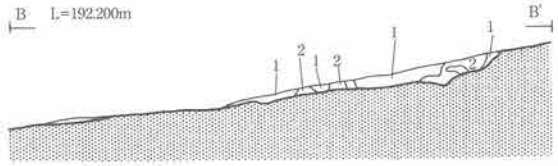
［位置・検出状況］ＩC9cグリッド付近に位置する。Ｉ層直下のⅡ層下位で地床炉状の焼土を検出した。上部の大半が削平されており、覆土はほとんど残存しない。

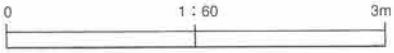
［重複関係］西側でSI01竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。

SI09







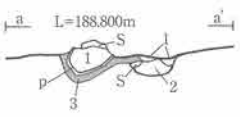


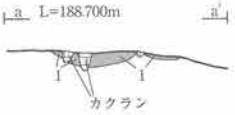
SI10　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高（m）
p1	27	18	25	188.40
p2	34	8	21	188.39
p3	49	28	9	188.31
p4	36	24	4	188.61
p5	30	20	5	188.79
p6	32	16	18	188.68
p7	33	9	6	188.81

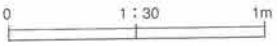
SI10
1　10YR3/1　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり弱
　褐色土粒5%、亜角礫(1～3cm)1%、焼土・炭化物粒1%
2　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　亜角礫(1～3cm)3%
3　10YR1.7/1 黒色　粘土質シルト　粘性中　しまり中
　亜角礫(1～3cm)3%

SI10炉
1　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
2　10YR5/8　黄褐色　粘土質シルト　粘性強　しまり強
　10YR3/3暗褐色土粒10%
3　5YR4/8　赤褐色　粘性中　しまり中
　焼土





SI09・SI10炉



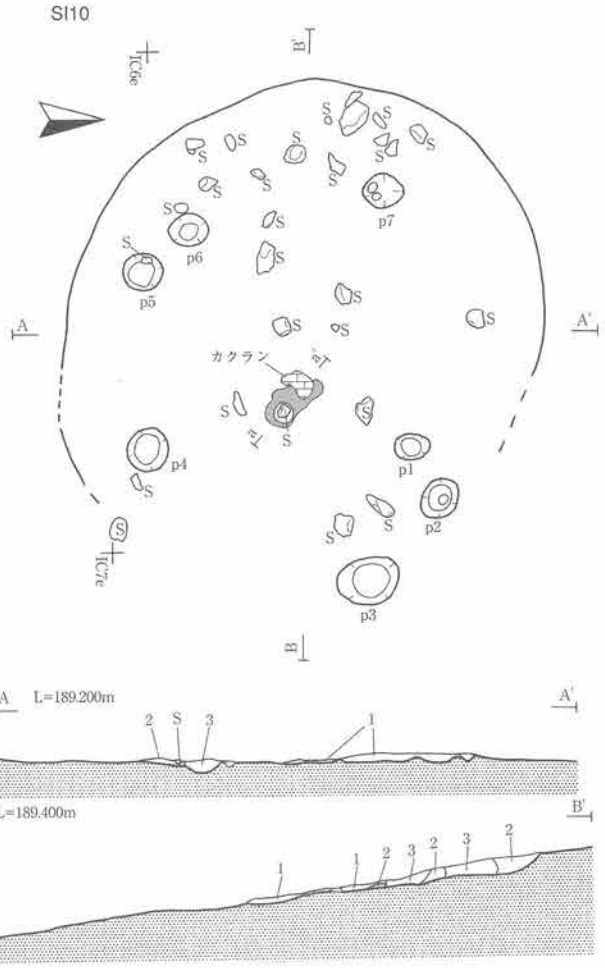
SI09
1　10YR2/1　黒色　シルト　粘性中　しまり中
　礫(1～2cm、角・円、共含)3%、焼土・炭化物粒1%
2　基盤層(褐色)他と同様
3　10YR2/2　黒褐色　粘土質シルト　粘性中　しまり中
　礫(1～2cm、角・円、共含)2%

SI09炉1
1　5YR4/8　赤褐色　粘性中　しまり強
　焼土

SI09　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高（m）
p1	28	19	7	188.46
p2	30	20	6	188.49
p3	33	23	10	188.39
p4	42	21	2	188.25
p5	31	20	14	188.30
p6	22	14	15	188.34
p7	36	23	14	188.21
p8	135	28	20	188.39
p9	42	32	10	188.46
p10	33	23	3	188.48
p11	36	24	7	188.26
p12	27	18	9	188.48

SI10

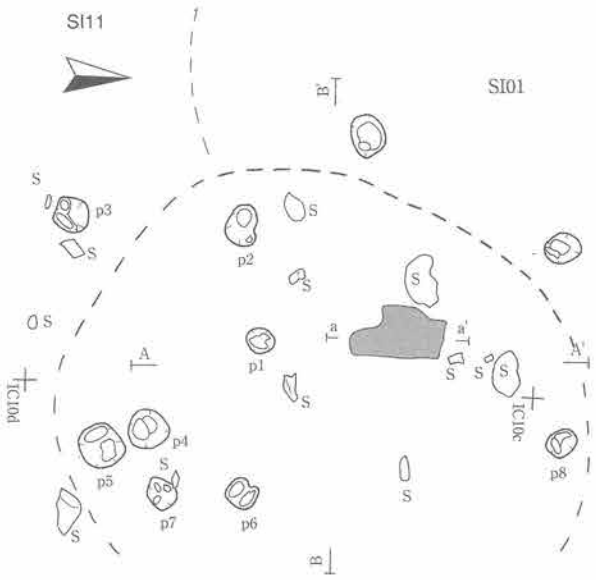


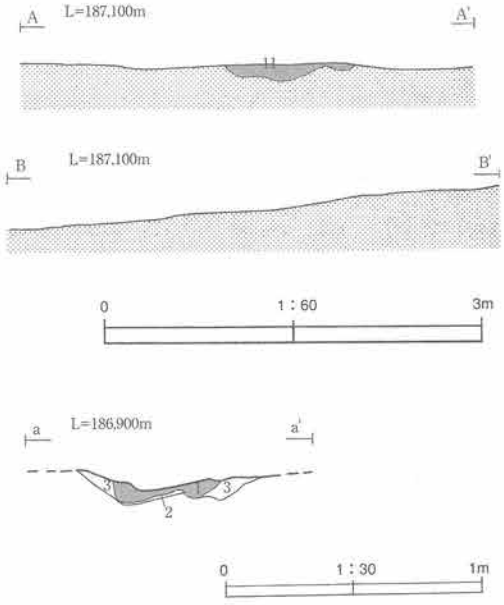
第17図　SI09・10 竪穴住居跡

［規模・平面形］規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で（400）cm以上である。平面形は不明である。
［主軸方向］不明である。
［覆土］残存せず、不明である。
［壁・床面］壁は残存しない。構築時の掘り込みはⅡ層下位まで行われている。床面は全体的に軟質である。
［ピット］８基検出された。配置・深さに規則性は見られない。
［炉］床面中央北西寄りに１基検出しており、地床炉状を呈するが周囲に大小の礫が散見され、石囲炉であった可能性がある。焼成面は72×42cmで、被熱深度は８cmを計り、強変している。
［小結］床面中央北西寄りに地床炉が１基検出されており、また柱穴と考えられるピットを８基検出していることから住居跡と判断した。遺構はかなり削平されている。
遺物（写真図版129）
［出土状況］覆土がほとんど残存していないため、少ない。
［土器］なし。
［石器］No.1187敲磨器類。
時期　遺構形態から縄文時代と想定されるが、詳細は不明である。（丸山）

ＳＩ１２竪穴住居跡

遺構（第18図・写真図版17）
［位置・検出状況］ＩC6aグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。上部の大半が削平されており、北側及び東側は消失している。
［重複関係］なし。
［規模・平面形］規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で（350）cm以上である。平面形は不明である。
［主軸方向］不明である。
［覆土］黒褐色土主体で構成される。
［壁・床面］壁は南西半１／２のみ残存し、残存最厚部は15cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面は北東半が削平され残存しない。残存部は全体的に堅緻である。
［ピット］８基検出された。配置・深さに規則性は見られない。
［炉］床面中央やや北東寄りに１基検出しており、地床炉状を呈するが削平のため断定できない。焼成面は75×65cmの不整形で、被熱深度は10cmを測り、弱変している。
［小結］床面中央北東寄りに地床炉が１基検出されており、また柱穴と考えられるピットを８基検出していることから住居跡と判断した。遺構はかなり削平されている。
遺物（第69図・写真図版87）
［出土状況］住居跡床面、覆土などから出土している。
［土器］No.42～44。No.42,43が床面、No.44が覆土からの出土。
［石器］なし。
時期　床面出土遺物から、縄文時代中期に想定される。（丸山）





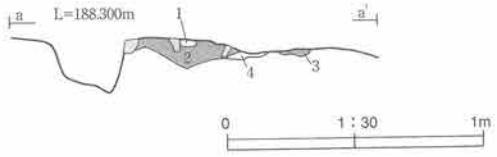
SI11・SI11炉
1　5YR4/8　赤褐色　粘性弱　しまり中
　焼土
2　炭
3　5YR2/3　極暗赤褐色　粘性強　しまり中

SI11　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	22	16	14	186.53
p2	32	14	9	186.60
p3	30	15	15	186.60
p4	32	16	17	186.36
p5	36	19	16	186.38
p6	24	14	7	186.41
p7	24	7	13	186.36
p8	25	13	12	186.35

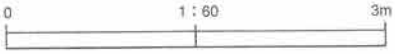
SI12　ピット計測表

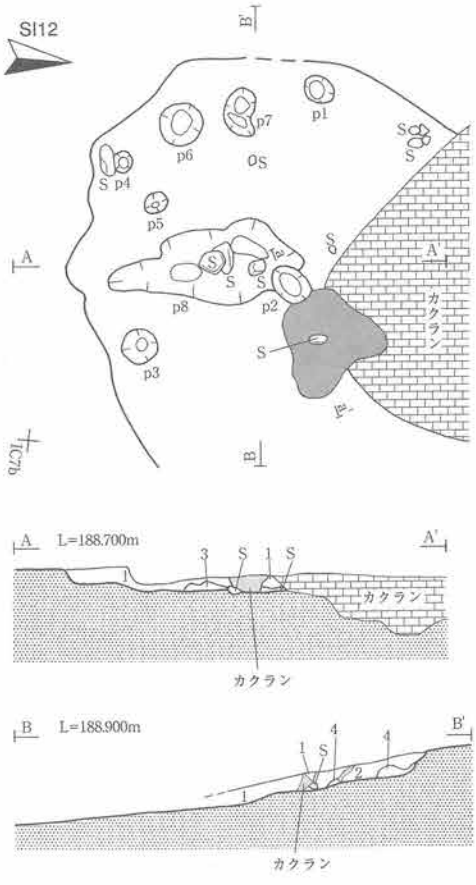
番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	24	20	9	188.45
p2	30	22	14	188.02
p3	30	10	14	188.07
p4	16	8	11	188.40
p5	19	7	10	188.31
p6	34	20	20	188.32
p7	39	17	11	188.45
p8	157	24	20	188.13



SI12
1　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　粘性中　しまり弱
　礫(1～2mm、角・円、混)3%
2　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　4層が粒状に5%、礫(同上)3%、焼土粒1%
3　10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルトと1層の混土
　粘性中　締まり中　礫(同上)3%
4　7.5YR5/6　明褐色　粘土質シルト　粘性中　しまり強
　掘り過ぎ

SI12炉
1　7.5YR3/3　暗褐色　シルト　粘性なし　しまり強
　焼土・炭化物粒5%
2　5YR4/6　赤褐色　シルト　粘性なし　しまり強
　焼土　角礫(1～3cm)3%
3　7.5YR4/3.5　褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　弱い焼土　角礫(1～3cm)3%
4　7.5YR3.5/3　暗褐～褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　焼土粒2%、角礫(1～3cm)3%





第18図　SI11・12竪穴住居跡

ＳＩ１３竪穴住居跡

遺構（第19図・写真図版18）

［位置・検出状況］ＩD10cグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。東側は風倒木痕、北側は近年の攪乱によって消失している。

［重複関係］全域がSI23竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。

［規模・平面形］規模・平面形とも不明である。

［主軸方向］不明である。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。

［壁・床面］壁は西側のみ残存し、残存最厚部22cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面残存部は全体的に堅緻である。

［ピット］検出されていない。

［炉］楕円形を呈する地床炉状の焼土が３基近接して検出された。周辺に礫が散見されることから石囲炉であった可能性もある。平面形・最大厚はそれぞれ、炉１：42×22cmの楕円形・被熱深度３cm（弱変）、炉２：50×25cmの楕円形・被熱深度４cm（弱変）、炉３：23×20cmの楕円形・被熱深度２cm（弱変）である。

［小結］床面から焼土を３基検出しているが、攪乱による削平で住居跡プランは明確でない。

遺物（第69図・写真図版87･108･132）

［出土状況］住居跡覆土、床面から出土している。

［土器］No.45,46。いずれも覆土からの出土。

［石器］No.646二次加工ある剥片、No.1242台石類、No.1369,1370自然礫。

時期　遺構形態から縄文時代と想定されるが、詳細は不明である。（丸山）

ＳＩ１４竪穴住居跡

遺構（第19図・写真図版19）

［位置・検出状況］ＩB7iグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。北側は攪乱、東側は削平によって消失しており、南西側１／４程度が残存するのみである。

［重複関係］なし。

［規模・平面形］規模は不明である。平面形は円形基調であったものと推定される。

［主軸方向］不明である。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。

［壁・床面］壁は西側150cm程度のみ残存し、残存最厚部は20cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面残存部は全体的に堅緻である。

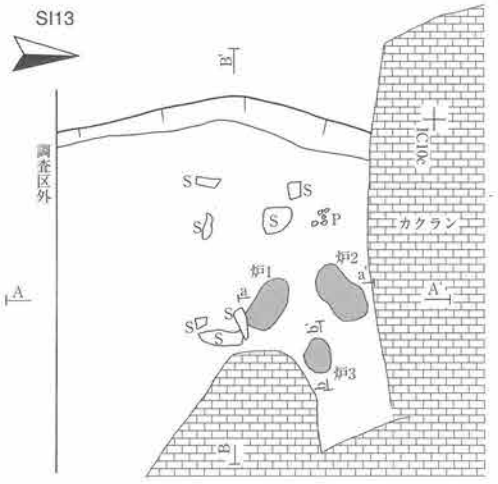
［ピット］西壁近くから1基検出した。柱穴であるかは不明である。

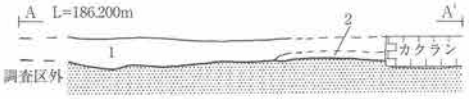
［炉］北西隅近くから２基の焼土を検出した。間隔10cmと近接しており、同一炉（地床炉）であったものと考えられる。平面形・最大厚は75×32cmの楕円形で、被熱深度６cmを測り、弱変している。

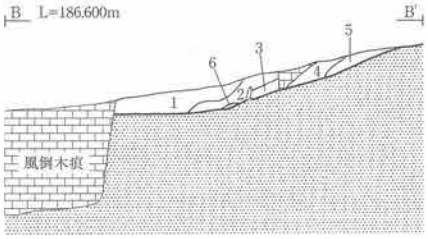
［小結］床面北西隅から地床炉２基を検出しているが、本遺構に伴うものかは不明確である。削平が著しく、住居跡プランは不明である。

遺物（第69･70･106･109図・写真図版72･83･103･104･115）

［出土状況］住居跡覆土などから出土している。

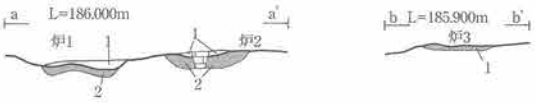


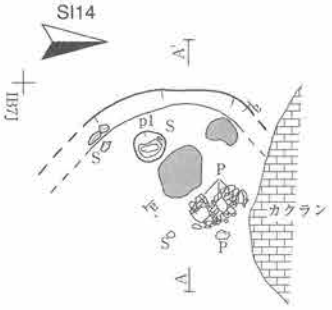




SI13
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性強 しまり中
2 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまり中
3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
4 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
10YR5/6黄褐色土ブロック2%
5 10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまり強
6 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土粒2%

SI13炉
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土ブロック1%
2 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
3 5YR4/4 にぶい赤褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土



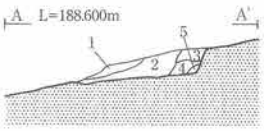


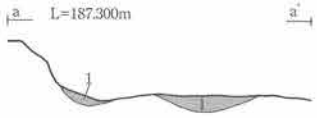
SI14 ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	26	15	30	187.40

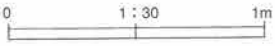
SI14
1 7.5YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中
礫(1～2mm、角・丸)、焼土・炭化物粒1%
2 7.5YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土・炭化物粒2%
3 7.5YR4/3 褐色 シルト 粘性中 しまり強
7.5YR2/1 黒色土モヤ状に10%、礫(同上)
4 7.5YR3/2 黒褐 粘土質シルト 粘性中 しまり強
礫(同上)
5 7.5YR4/3 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強

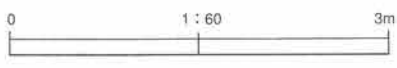
SI14炉
1 2.5YR4/8 赤褐色 シルト 粘性弱 しまり強
焼土





SI13・SI14炉





第19図 SI13・14竪穴住居跡

[土器] No.47～50。いずれも覆土からの出土である。

[石器] No.486石鏃、No.520石匙、No.837敲磨器類。

時期　出土遺物から、縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＩ１５竪穴住居跡

遺構（第20図・写真図版20）

[位置・検出状況] ＩB8hグリッドに位置する。Ｉ層直下のⅢ層上面で暗褐色土の広がりとして検出した。上部の大半が削平されており、覆土はほとんど残存しない。

[重複関係] 南側がSX08竪穴住居状遺構と、東側がSX05竪穴住居状遺構と重複しており、これらに切られている。また、SI18竪穴住居跡を切っている。

[規模・平面形] 規模、平面形ともに不明である。

[主軸方向] 不明である。

[覆土] 暗褐色土主体で構成される。

[壁・床面] 壁は北西側のみ残存しており、最厚部は４cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面は北西側１／４程度が残存しており、全体的に堅緻である。

[ピット] 北西隅から３基検出された。配置・深さに規則性は見られない。

[炉] 床面ほぼ中央に１基検出している。規模、平面形、深さともに不明である。

[小結] 他遺構に大きく切られており、住居跡プランは不明確である。

遺物（第70図・写真図版87）

[出土状況] 覆土がほとんど残存していないため、少ない。

[土器] No.51～53。いずれも床面から出土している。

[石器] なし。

時期　遺構形態から、縄文時代と想定されるが、詳細は不明である。（丸山）

ＳＩ１６竪穴住居跡

遺構（第20図・写真図版21）

[位置・検出状況] ＩB8jグリッド付近に位置する。SI02竪穴住居跡精査後、Ⅲ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。北東側１／３程度は削平により消失している。

[重複関係] ほぼ全域がSI02竪穴住居跡と重複しており、これに切られている。また東側がSI21竪穴住居跡と、全域がSK20土坑と重複しており、これらを切っている。

[規模・平面形] 長軸方向で310cm、短軸方向で290cmである。平面形は円形基調と推定される。

[主軸方向] 不明である。

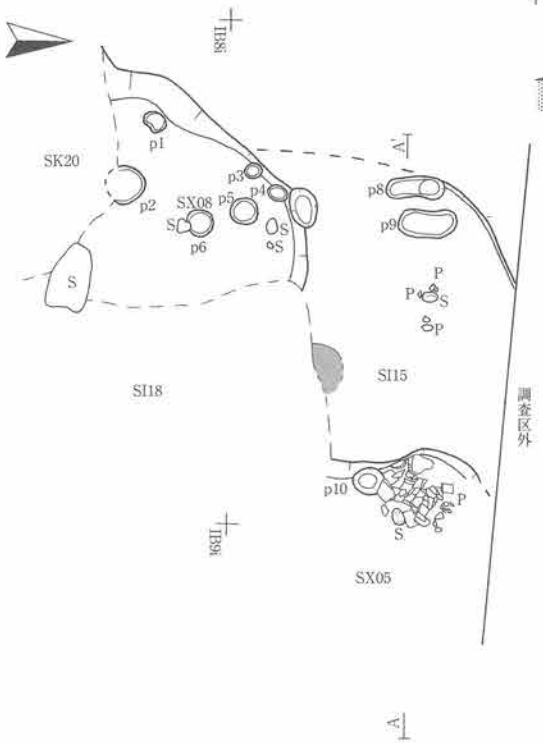
[覆土] 黒褐色土主体で構成される。

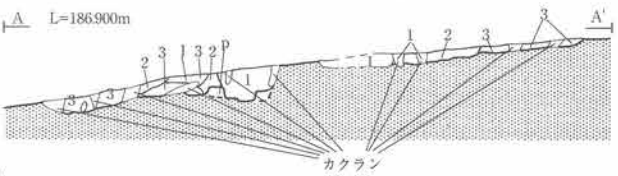
[壁・床面] 壁は南側及び北西側の一部が残存しており、残存最厚部は15cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層（一部Ⅱ層下位）まで行われている。床面は北東側１／４程度が削平され残存しない。残存部中、南西半は堅緻であるが、他部分は軟質である。

[ピット] ６基検出された。いずれも壁を巡る形で配置されている。

[炉] 床面中央やや西寄りに地床炉を１基検出している。焼成面は45×25cmの楕円形で、東西に長軸を持つ。

SI15・SX05・SX08





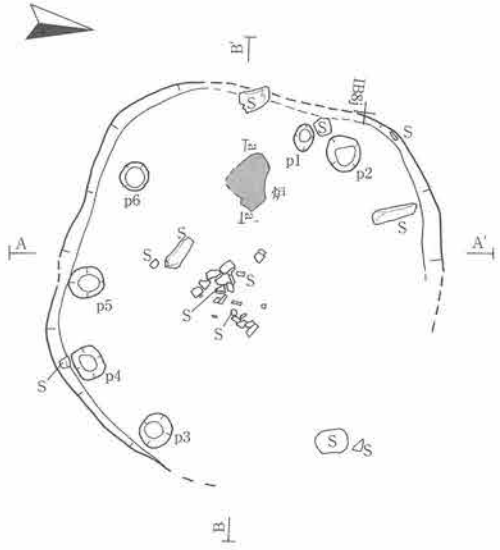
SI15
1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性なし しまり強
焼土・炭化物粒1%
2 10YR3/4 暗褐 シルト 粘性なし しまり強
褐色土粒(2～3mm)20%、焼土・炭化物粒1%
3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性なし しまり強
焼土・炭化物粒1%

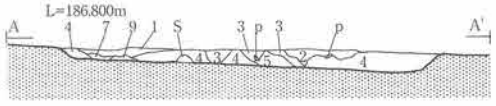
SX05
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
褐色土粒(1～2mm)1%、焼土・炭化物粒1%
2 10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中
褐色土粒(1～2mm)1%以下
3 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
褐色土粒(2～3mm)5%、焼土・炭化物粒1%以下

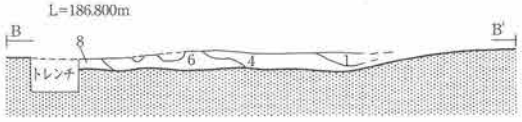
SI15・SX05・SX08 ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	17	14	4	186.45
p2	30	26	3	186.26
p3	13	9	1	186.52
p4	16	12	14	186.52
p5	22	16	10	186.40
p6	21	16	8	186.31
p7	33	23	11	186.54
p8	45	15	13	186.54
p9	45	40	3	186.27
p10	25	14	10	186.27

SI16





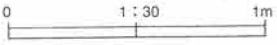


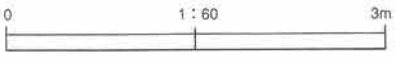
SI16
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり強
円礫(1cm)1% 焼土・炭化物粒2%
2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
10YR2/1黒色土・10YR4/6褐色土ブロック10%、1cm程の円礫・
焼土・炭化物粒1%
3 10YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
焼土・炭化物粒1%
4 10YR3/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中
円礫(1cm)2%、焼土・炭化物粒1%以下
5 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
円礫(1cm)、焼土・炭化物粒1%
6 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土・炭化物粒1%以下
7 7.5YR3/2 黒褐色 シルト(9層)と
8 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱
焼土・炭化物粒1%以下
9 5YR3/2 暗赤褐 シルト 粘性中 しまり強
亜角・円礫(1～2cm)5%、焼土・炭化物粒3%

SI16炉
1 5YR4/6 赤褐色 シルト 粘性中 しまり強
焼土

SI16 ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	22	10	14	186.45
p2	30	18	4	186.51
p3	26	16	9	186.48
p4	27	17	13	186.45
p5	28	17	6	186.57
p6	24	16	8	186.53





第20図 SI15・16竪穴住居跡、SX05・08竪穴住居状遺構

被熱深度は４cmを測り、弱変している。

[小結] 床面中央やや西寄りに地床炉を１基検出しており、また柱穴が壁際に巡るように配置されていることから、住居跡と判断される。

遺物（第70･115･136･143図・写真図版82･87･107･121･129･133･140）

[出土状況] 住居跡覆土、床面などから出土している。

[土器] №54～58。№54,55が床面、№56～58が覆土からの出土。

[石器] №610二次加工ある剥片、№1001,1188敲磨器類、№1243台石類、№1371,1372自然礫。

[石製品] №1469石剣。

時期　床面出土遺物及び遺構形態から、縄文時代中期末葉に想定される。（丸山）

ＳＩ１７竪穴住居跡

遺構（第21図・写真図版22）

[位置・検出状況] ＩC9gグリッド付近に位置する。Ｉ層直下のⅢ層上面で暗褐色土の広がりとして検出した。残存しているのは西側の一部のみで、大部分は削平され消失している。

[重複関係] 北東側でＳＩ０４竪穴住居跡と重複しており、これに切られている。

[規模・平面形] 規模・平面形とも不明である。

[主軸方向] 不明である。

[覆土] 暗褐色土主体で構成される。耕作痕等による攪乱が著しい。

[壁・床面] 壁残存最厚部は18cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面残存部は全体的に堅緻である。

[ピット] ３基検出された。配置・深さに規則性はない。

[炉] 床面中央やや北東寄りで地床炉状の焼土１基を検出した。上部が削平を受けかなり薄化しており、他形態の炉であった可能性がある。平面形は23×23cmの円形で、被熱深度２cmを測り、弱変している。

[小結] 床面中央やや北東寄りで地床炉を１基検出しているが、柱穴配置は不規則で全体のプランは掴めない。削平が著しい。

遺物

[出土状況] 攪乱が多く、遺物は出土しなかった。

[土器] なし。

[石器] なし。

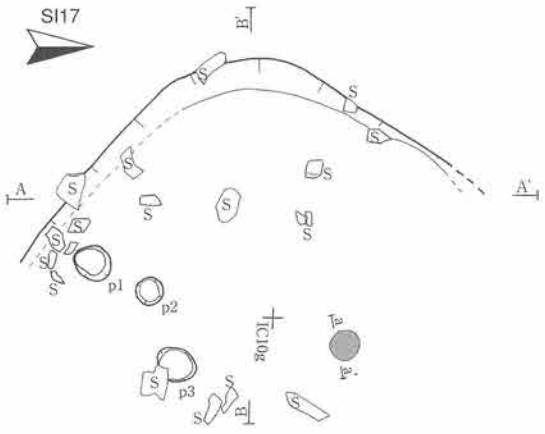
時期　遺構形態から、縄文時代と想定されるが、詳細は不明である。（丸山）

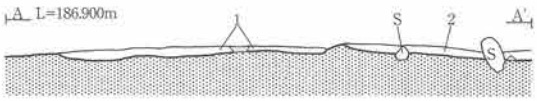
ＳＩ１８竪穴住居跡

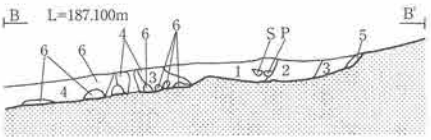
遺構（第22・23図・写真図版23）

[位置・検出状況] ＩB9i～ＩC9aグリッド付近に位置する。南半部はＩ層直下のⅢ層上面で暗褐色土の広がりとして検出した。北半部は上部重複遺構の精査後、濁った褐色土を覆土とする周溝を検出したことにより住居跡を想定して、精査を行った。

[重複関係] 北半部でＳＩ０６・１５・２１・２５・２６竪穴住居跡、ＳＸ０１・０３・０４・０５・０８竪穴住居状遺構と重複しており、これらに切られている。また、ＳＫ２０土坑と重複しており、これを切っ





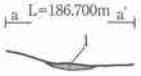


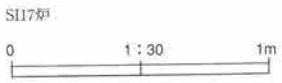
SI17
1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
10YR5/6黄褐色土粒30%
2 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり強
10YR5/6黄褐色土粒1%
3 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり強
10YR5/6黄褐色土モヤ状に5%
4 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
10YR4/3にぶい黄褐色土モヤ状に5%
5 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性強 しまり強
10YR5/6黄褐色土モヤ状に5%
6 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性強 しまり強
地山

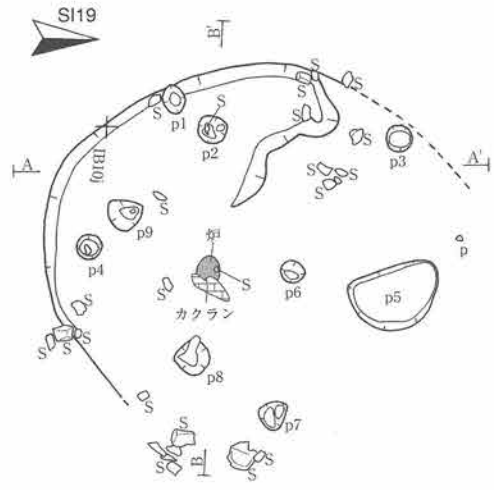
SI17炉
1 5YR3/4 暗赤褐色 シルト 粘性中 しまり中
弱変焼土

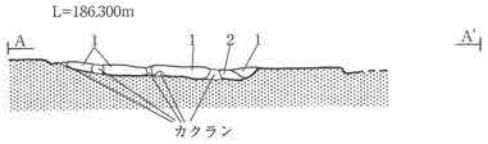
SI17 ピット計測表

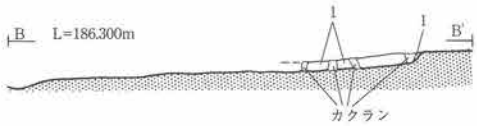
番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	32	23	9	186.52
p2	22	16	6	186.49
p3	32	24	13	186.45







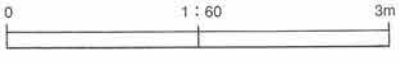




SI19
1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
亜角～円礫(～1cm)3%、焼土・炭化物粒1%以下、
7.5YR6/6橙色ブロック(地山)1%所々に混入
2 1層と10YR3/1 黒褐色の混土シルト 粘性中 しまり弱
炭化物粒1%以下、SI06の柱穴？

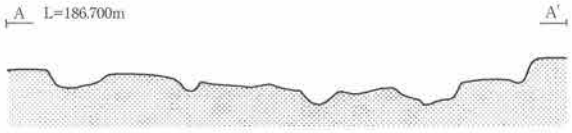
SI19 ピット計測表

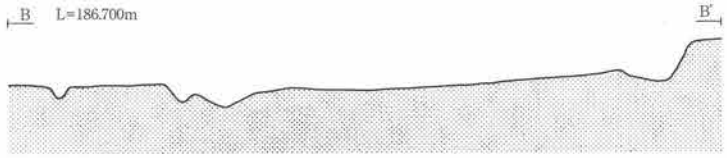
番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	23	10	10	186.03
p2	22	13	16	185.91
p3	21	16	25	185.85
p4	20	14	8	185.98
p5	72	66	9	185.90
p6	19	12	21	185.80
p7	23	15	7	185.86
p8	15	23	21	185.77
p9	28	15	40	185.66

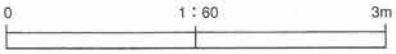


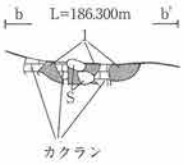
第21図　SI17・19 竪穴住居跡

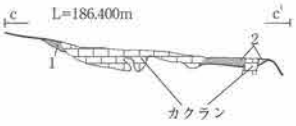
第22図　SI18 竪穴住居跡（1）



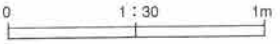








SI08炉



SI18　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高（m）
p1	23	12	29	186.36
p2	84	23	30	185.83
p3	16	11	23	186.33
p4	27	21	18	185.87
p5	44	26	17	185.18
p6	22	17	14	185.21
p7	33	18	19	186.16
p8	36	28	2	186.07
p9	35	88	12	185.72
p10	120	14	23	185.90
p11	32	21	8	185.82
p12	43	15	29	185.82
p13	29	15	17	186.24
p14	50	10	15	186.13
p15	25	19	7	186.31
p16	35	14	41	185.97
p17	24	19	3	186.25
p18	67	33	15	185.75
p19	48	37	8	186.14
p20	32	20	10	186.71
p21	23	16	11	186.04
p22	43	31	10	186.03
p23	30	26	10	186.11
p24	27	19	10	186.12
p25	57	22	16	185.90
p26	19	14	13	185.96
p27	67	56	16	186.01
p28	50	33	6	186.04
p29	24	12	11	186.25
p30	30	15	5	186.33
p31	26	12	25	186.12
p32	16	7	12	186.25
p33	33	25	7	185.98
p34	24	17	12	186.01
p35	18	13	16	185.95
p36	25	14	12	186.25
p37	14	12	14	186.11
p38	18	13	12	186.23
p39	17	13	5	186.27
p40	38	31	4	186.36

SI18炉1
1　7.5YR4/3　褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　亜円礫(褐色)2%、炭化物粒3%
2　5YR4/4　にぶい赤褐色　シルト　粘性微弱　しまり強
　焼土　亜円～亜角礫(1～2cm)5%

SI18炉2
1　5YR4/4　にぶい赤褐色　シルト　粘性微弱　しまり強
　焼土(弱変)　亜角礫(1～2cm)3%、焼土・炭化物粒1%

SI18炉3
1　2.5YR4/6　赤褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　焼土
2　5YR4/3　にぶい赤褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　非常に弱い焼土(影響層)　亜角礫(1～2cm)5%、焼土・炭化物粒1%

第23図　SI18竪穴住居跡

ている。一方南半部ではSX02竪穴住居状遺構、SK09土坑と重複しており、前者には切られ、後者は切っている。

［規模・平面形］長軸方向で約1250cm、短軸方向で約480cmの長方形プランを呈する。長軸方向はN－15°－Wである。

［主軸方向］N－15°－W。

［覆土］北半部は重複遺構により攪乱されており不明である。南半部は暗褐色～褐色土主体、周溝は褐色土主体で構成される。

［壁・床面］壁は南西辺及び南東辺のみ残存している。周溝が住居端となり、周溝外側の立ち上がりがそのまま壁となっていたようである。残存最厚部は床面から20cm、周溝底面からは34cmを測る。床面積は約47.8㎡である。住居構築時の掘り込みはⅢ層まで行われており、床面残存部は全体的に堅緻である。

［周溝］南西・南東辺のほぼ全域及び北東辺の一部で検出した。北東辺には周溝が切れている部分があり、この箇所が出入り口施設部分に当たる可能性がある。なお、周溝の幅は最大60cm・最小16cmで、床面からの深さは最大34cmを測る。

［ピット］床面から12基、周溝内及びその延長・周辺から28基の合計40基を検出した。床部検出分については、中央部に少なく外側に集中するという特徴あるものの、その配置に規則性は見られない。また、中心部で直径１ｍ前後の大形ピット（ｐ９）が１基検出されている。

［炉］同一面で５基の焼土を検出した。炉２、炉３、炉４は南西壁側に寄っている。いずれも地床炉であるが、攪乱が著しく、削平を受けている可能性がある。それぞれの炉の燃焼範囲及び被熱深度は以下の通り。

	規模	深度	形状	焼成
炉１	190×90cm	6 cm	不整形	弱変
炉２	40×30cm	5 cm	不整形	弱変
炉３	80×70cm	3 cm	不整形	弱変
炉４	52×40cm	不明	楕円形	弱変
炉５	20×15cm	不明	楕円形	弱変

［小結］他遺構の重複、攪乱などが著しく、全体の住居跡プランを大きく切っている。長方形の大形住居跡で、等高線に沿うように作られている。

遺物（第71･108･109･114･115･119図・写真図版72･83･87･103･104･106･107･139ほか）

［出土状況］住居跡覆土、床面などから出土している。

［土器］No.59～68。No.59～63が床面、No.64,65が覆土下位、No.66～68が覆土からの出土。

［石器］No.487石鏃、No.512，524石匙、No.591スクレイパー類、No.600,611二次加工ある剥片、No.756磨製石斧、No.767打製石斧、No.814,838～844,905,925～932,952～956,964,1002,1064,1065,1086～1089,1176,1177,1189，1199～1201,1216,1217,1229敲磨器類、No.1244～1249台石類、No.1357,1358球石、No.1373,1374,1451,1452自然礫。

［石製品］No.1496赤色顔料付着石。

時期　遺構平面形及びNo.59などの床面出土土器から、縄文時代前期後葉に比定される。

（丸山）

ＳＩ１９竪穴住居跡

遺構（第21図・写真図版24）

［位置・検出状況］ＩB10iグリッド付近に位置する。SI06竪穴住居跡精査中、西側壁付近を暗褐色土の広がりとして検出した。東半の覆土は検出出来ず、掘り過ぎてしまったらしく、不明である。

［重複関係］西側がSI06竪穴住居跡と重複しており、これに切られている。

［規模・平面形］規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で（310）cm以上である。平面形は円形基調である。

［主軸方向］不明である。

［覆土］暗褐色土主体で構成される。植物痕による攪乱が著しい。

［壁・床面］壁は南西側約１／３のみ残存し、残存最厚部は８cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面残存部は全体的に堅緻である。

［ピット］本遺構推定範囲内から９基検出された。配置・深さに規則性は見られない。

［炉］中央やや南東寄りで１基検出された。地床炉状を呈するがSI06竪穴住居跡構築時及び近年の削平により薄化しており、別形態であった可能性がある。焼成面の残存値は20×18cm、被熱深度は不明で、弱変している。

［小結］中央やや南東寄りで地床炉を１基検出しており、また柱穴と考えられるピットを９基検出していることから、住居跡と判断した。

遺物（第71図・写真図版87）

［出土状況］住居跡覆土などから出土している。

［土器］№69。覆土からの出土。

［石器］なし。

時期　遺構形態から、縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＩ２０竪穴住居跡

遺構（第24図・写真図版25）

［位置・検出状況］ＩB10hグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。

［重複関係］西側がSX06竪穴住居状遺構と重複しており、これを切っている。

［規模・平面形］規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で（350）cm以上である。平面形は楕円形基調である。

［主軸方向］不明である。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。植物痕による攪乱が著しい。

［壁・床面］壁は西側のみ残存し、残存最厚部は25cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面は南東側が削平され残存しない。残存部は全体的に堅緻である。

［ピット］４基検出された。配置・深さに規則性は見られない。

［炉］床面東側で１基検出された。周囲に礫が散在していることから、石囲炉あるいは複式炉であった可能性がある。焼土は攪乱の影響を受けているが、全体の範囲は125×78cmの楕円形で北西―南東に長軸を持つ。被熱深度は最厚で５cm、弱変している。

［小結］床面東側で石囲炉を１基検出しているが、壁面にかなり近接しているため、本遺構の炉ではない可能性もあるが、複式炉などは壁に偏る傾向もあるため、本遺構のものとした。

遺物（第72･130･138･142図・写真図版88･120･131･133･138･140）

［出土状況］住居跡覆土、床面などから出土している。

［土器］№70～80。№71～74が床面、№75～77が床面直上、№70,78～80が覆土からの出土。

［石器］№961,1218敲磨器類、№1250～1253台石類、№1359球石、№1375,1453自然礫。

［石製品］№1470石剣。

時期　床面出土土器及び遺構形態から、縄文時代中期末葉に想定される。（丸山）

ＳＩ２１竪穴住居跡

遺構（第24図・写真図版26）

［位置・検出状況］ＩB8jグリッド付近に位置する。SI02竪穴住居跡の直下で検出された。

［重複関係］全域がSI02竪穴住居跡と重複、またSI16竪穴住居跡、SX01竪穴住居状遺構と重複し、これに切られている。また、SI18・25竪穴住居跡、SX03・04竪穴住居状遺構と重複しており、これを切っている。北側がSK20土坑と重複しており、これを切っている。

［規模・平面形］規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で（430）cm以上である。平面形は円形基調である。

［主軸方向］Ｎ－60°－Ｅ。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。

［壁・床面］壁は西側１/２が残存し、残存最厚部は12cmを測る。構築時の掘り込みは西側がⅢ層まで、東側が重複しているSK20土坑の覆土中まで行われている。床面は、西側は堅緻であるが東側は軟質である。

［ピット］７基検出された。壁に沿って配置される傾向があり、各ピットの平面形は30cm前後である。

［炉］床面中央やや南西寄りに１基検出した。掘り込んで構築されており、同部分の平面形は140×50cmの長円形で、北東―南西に長軸を持つ。内部構造は長軸中央付近を境に異なり、南西側は石囲状で焼成面が存在し、北東側は扁平礫が２個立位で設置されるが焼土は形成されない。複式炉の残存したものである可能性がある。焼成面は15×15cmの円形で、被熱深度６cmを測り、弱変している。

［小結］床面中央やや南西寄りに石囲炉（複式炉？）を１基検出し、また７基検出されたピットはいずれも柱穴と考えられ、壁に沿って巡ることから住居跡であると判断した。

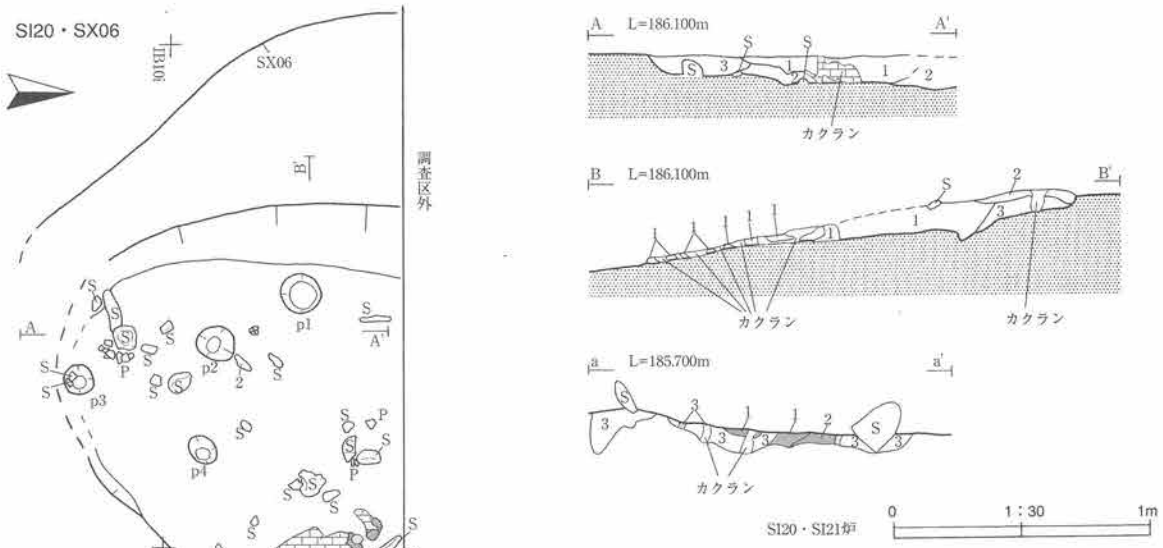
遺物（第72･106･119･125･129･133･135･138図・写真図版88･103･139･115･119･121･125･129･131･133･138）

［出土状況］住居跡炉、床面、覆土などから出土している。

［土器］№81～86。№84が炉覆土、№81,82が床面、№85が覆土下位、№86が覆土中位、№83が覆土からの出土。

［石器］№468,475石鏃、№757磨製石斧、№845,933,1003,1090,1170,1219敲磨器類、№1254～1256台石類、№1345礫石錘、№1376～1378,1454自然礫。

時期　出土遺物及び遺構形態から、縄文時代中期末葉に想定される。（丸山）

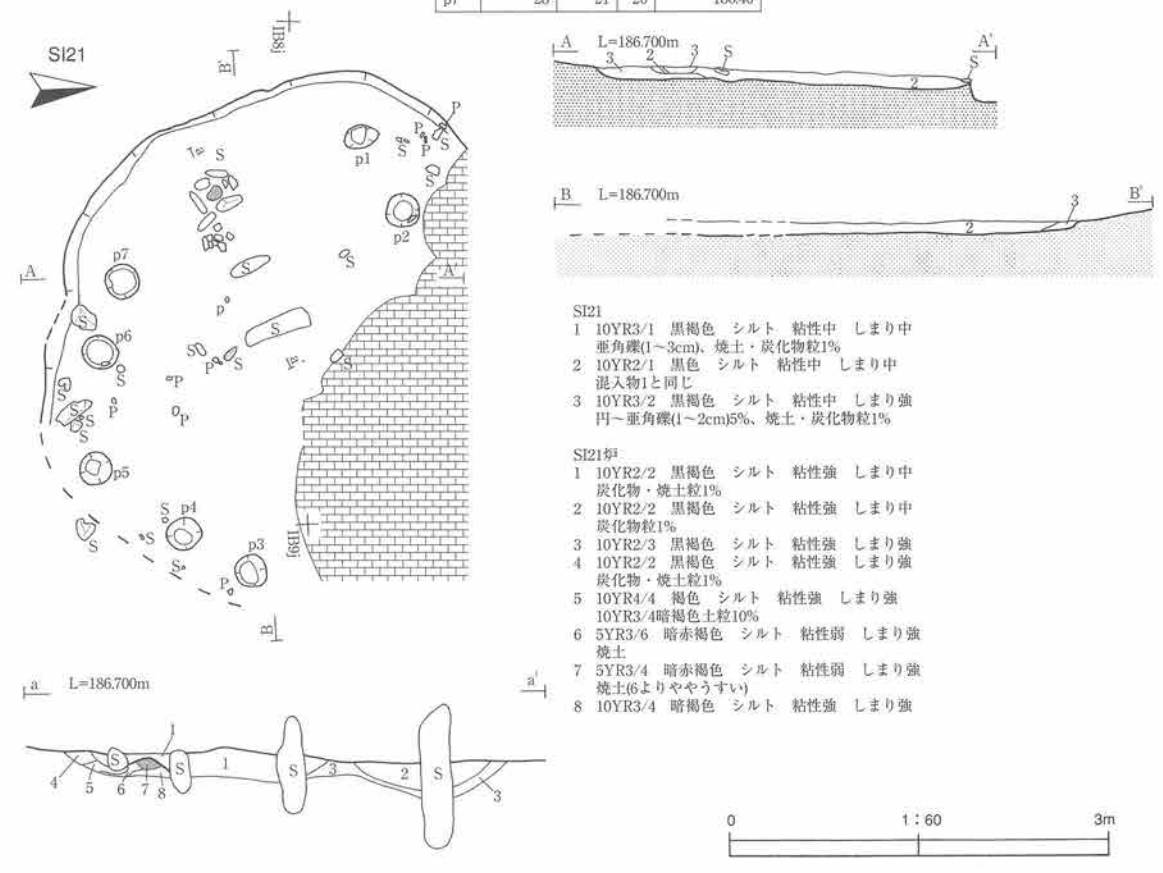


SI20　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	31	22	14	185.58
p2	30	12	15	185.56
p3	23	11	16	185.57
p4	25	11	16	185.51

SI21　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	28	13	22	186.16
p2	28	16	7	186.31
p3	26	18	22	186.22
p4	27	14	24	186.17
p5	26	13	12	186.28
p6	29	22	27	186.39
p7	28	21	20	186.40



SI21
1　10YR3/1　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
　亜角礫(1～3cm)、焼土・炭化物粒1%
2　10YR2/1　黒色　シルト　粘性中　しまり中
　混入物1と同じ
3　10YR3/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまり強
　円～亜角礫(1～2cm)5%、焼土・炭化物粒1%

SI21炉
1　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性強　しまり中
　炭化物・焼土粒1%
2　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性強　しまり中
　炭化物粒1%
3　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性強　しまり強
4　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性強　しまり強
　炭化物・焼土粒1%
5　10YR4/4　褐色　シルト　粘性強　しまり強
　10YR3/4暗褐色土粒10%
6　5YR3/6　暗赤褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　焼土
7　5YR3/4　暗赤褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　焼土(6よりややうすい)
8　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性強　しまり強

第24図　SI20・21竪穴住居跡・SX06竪穴住居状遺構

ＳＩ２２竪穴住居跡

遺構（第27図・写真図版27）

［位置・検出状況］ⅡD1bグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で暗褐色土の広がりとして検出した。南西側の一部が風倒木痕により消失している。

［重複関係］北西側がSI05竪穴住居跡と重複しており、これに切られている。

［規模・平面形］長軸方向で約410cm、短軸方向で約390cmを計り、平面形は円形を呈する。

［主軸方向］不明である。

［覆土］暗褐色土主体で構成されるが、SI05竪穴住居跡に切られており、ほとんど残存せず、また攪乱も著しい。

［壁・床面］南西側以外は残存しているもののほとんど残っておらず、残存最厚部は12cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面は全体的に堅緻である。

［ピット］９基検出された。配置及び深さに規則性はない。

［炉］中央やや北東寄りで１基検出された。地床炉状を呈するが、周辺に礫が存在すること、削平が著しいことから石囲炉など別形態であった可能性がある。焼成面は60×55cmの楕円形で、被熱深度は12cmを測り、弱変している。

［小結］中央やや北東寄りで地床炉を１基検出し、また規則性は見られないが柱穴と考えられるピットを９基検出したことから、住居跡と判断した。

遺物

［出土状況］攪乱が多く、遺物は出土しなかった。

［土器］なし。

［石器］なし。

時期　遺構形態から、縄文時代と想定されるが、詳細は不明である。　（丸山）

ＳＩ２３竪穴住居跡

遺構（第25図・写真図版28）

［位置・検出状況］ⅠD10a～ⅠD10cグリッド付近に位置する。SI03・05・07・13竪穴住居跡精査後、暗褐色土の広がりとして検出した。南東側が風倒木痕により消失している。

［重複関係］SI03・05・07・13竪穴住居跡と重複しており、これらに切られている。

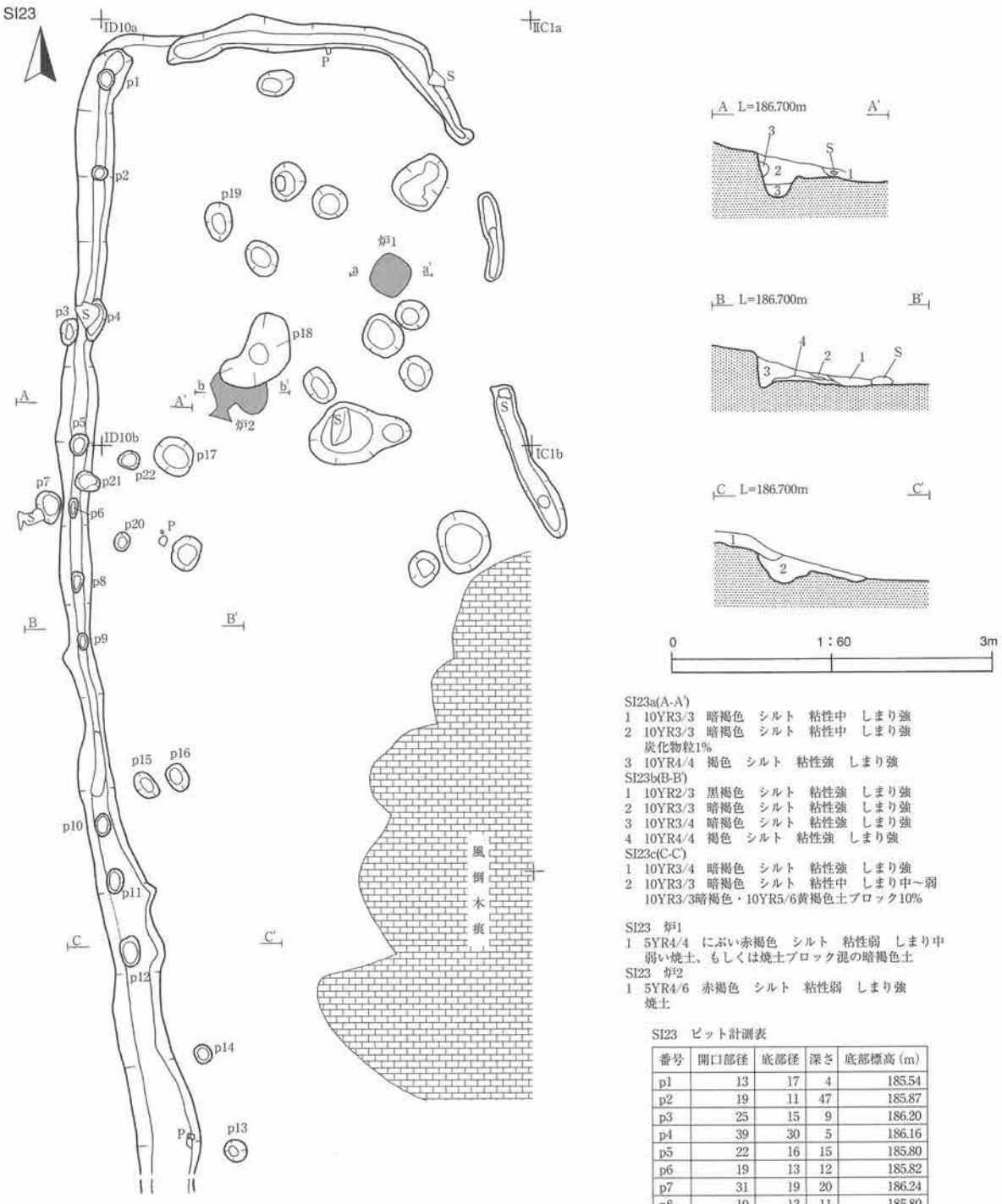
［規模・平面形］平面形は南北方向に長軸を持つ長方形である。規模は長･短軸ともに残存値で、それぞれ長軸方向で約（1100）cm、短軸方向で約（470）cmを測る。

［主軸方向］Ｎ－10°－Ｗ。

［覆土］暗褐色土主体で構成されるが、重複する住居跡が存在するため薄い。

［壁・床面］壁は西～北側が残存している。壁際に周溝が廻っており、周溝外側の立ち上がりがそのまま壁となっていたようである。残存最厚部は西側にあり、床面から23cm、周溝底面からは41cmを測る。住居構築時の掘り込みはⅢ層まで行われており、床面残存部は全体的に堅緻である。

［周溝］西・北辺のほぼ全域及び東辺北半の一部で検出された。東辺は途切れる箇所があり、斜面下側にあたることから出入り口施設が存在した可能性がある。周溝の幅は最大58cm（西辺南側）・最小20cm（西辺中央）で、床面からの深さは最大18cmを測る。



SI23a(A-A')
1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
炭化物粒1%
3 10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまり強
SI23b(B-B')
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
4 10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまり強
SI23c(C-C')
1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中～弱
10YR3/3暗褐色・10YR5/6黄褐色土ブロック10%

SI23 炉1
1 5YR4/4 にぶい赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中
弱い焼土、もしくは焼土ブロック混の暗褐色土
SI23 炉2
1 5YR4/6 赤褐色 シルト 粘性弱 しまり強
焼土

SI23 ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	13	17	4	185.54
p2	19	11	47	185.87
p3	25	15	9	186.20
p4	39	30	5	186.16
p5	22	16	15	185.80
p6	19	13	12	185.82
p7	31	19	20	186.24
p8	19	13	11	185.80
p9	17	11	11	185.79
p10	22	16	17	185.75
p11	24	18	9	185.83
p12	28	20	10	185.81
p13	20	10	14	185.65
p14	18	12	10	185.79
p15	28	14	6	185.81
p16	26	14	8	185.76
p17	38	24	6	185.96
p18	80	20	23	185.73
p19	37	19	28	185.59
p20	22	19	5	186.25
p21	18	3	6	186.03
p22	20	15	13	186.14

第25図　SI23竪穴住居跡

［ピット］床面部分から９基、周溝内及びその延長・周辺から13基の合計22基を検出した。床面部分検出分は、北半から多く検出されているものの規則性は見られず、規模にもばらつきがある。一方、南西側では壁沿いからのみ検出された。周溝内ピットは、全体で見るとばらつきがあるが、西側中央付近は50～60cm間隔とある程度等間隔に位置している。

［炉］地床炉が２基検出されており、炉１は北東寄り、炉２は中央北寄りに位置している。規模などは、炉１：40×38cmで円形を呈し、被熱深度５cmで弱変、炉２：40×30cmの不整形を呈し、被熱深度５cmで弱変の焼土である。

［小結］他遺構の重複、攪乱などが著しく、全体の住居跡プランを大きく切っている。長方形の大形住居跡で、等高線に沿うように作られている。

遺物（第72･106･109･112･115･125･132･143図・写真図版88･103･104･105･107･115･118･122･133･137･140）

［出土状況］住居跡覆土、床面などから出土している。

［土器］No.87～90。いずれも床面からの出土である。

［石器］No.488石鏃、No.525石匙、No.552スクレイパー類、No.612二次加工ある剥片、No.846,847,906,962，1004～1007,1066敲磨器類、No.1257,1317台石類、No.1379～1381,1455自然礫。

［石製品］No.1481鰹節形石製品、No.1495線刻礫。

時期　遺構平面形及び床面出土土器から、縄文時代前期中～後葉に比定される。（丸山）

ＳＩ２４竪穴住居跡

遺構（第26図・写真図版29）

［位置・検出状況］ＩC6b・cグリッド付近に位置する。SI08・09・10竪穴住居跡直下のⅢ層上面で暗褐色土の広がり及び周溝を検出した。

［重複関係］SI08・09竪穴住居跡と重複しており、これらに切られている。

［規模・平面形］平面形は南北方向に長軸を持つ長方形プランである。規模は長軸方向で約1000cmで、短軸方向は斜面下方にあたる東側が残存しないため不明であるが、柱穴の検出状況から約370cmに及ぶものと推定される。

［主軸方向］Ｎ－20°－Ｗ。

［覆土］暗褐色土主体で構成されるが、重複する住居跡が存在するためほとんど残存しない。

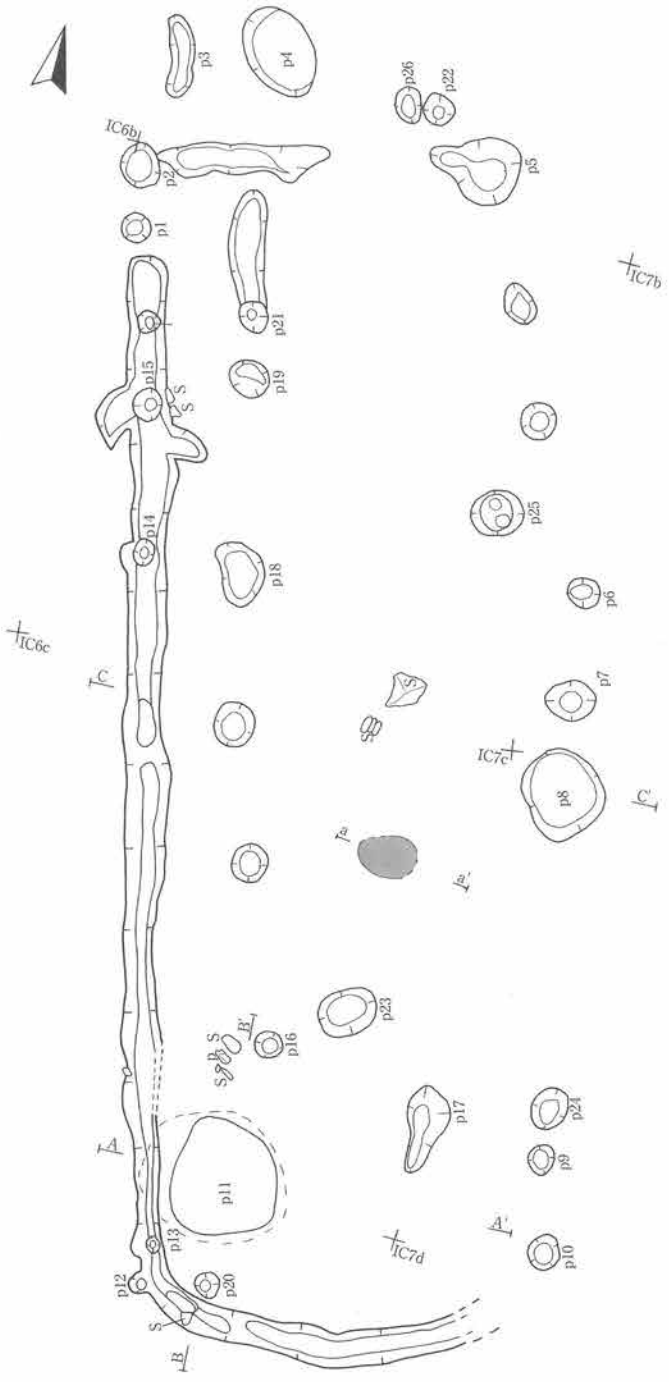
［壁・床面］壁は残存していない。住居構築時の掘り込みはⅢ層まで行われており、床面残存部は全体的に堅緻である。

［周溝］西辺のほぼ全域、及び北・南辺の西側一部が検出された。幅は最大35cm（西辺中央）・最小14cm（西辺南端）で、床面からの深さは最大10cmを測る。

［ピット］床面部分から14基、周溝内及びその延長・周辺から12基の合計26基を検出した。床面部検出分は、西辺周溝に沿って規則的な配置が確認され、柱穴間の間隔は80～120cm、周溝との距離は50cm前後を測る。各ピットの平面規模は30cm前後である。東側は同様ではないものの集中して検出され、また中央部からの検出が少ないことから西側と同様のあり方をしていたものと推定される。周溝内ピットは検出数が少なく、位置に規則性は見られない。

［炉］床面中央やや南よりで１基検出された。地床炉状を呈するが削平・攪乱のためそれ以外の可能性もある。平面形は50×35cmの楕円形で、被熱深度は４cmを測り、弱変している。

SI24

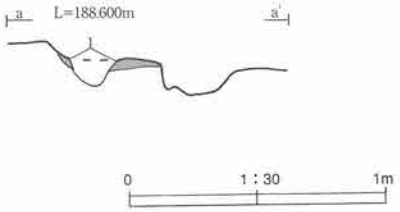


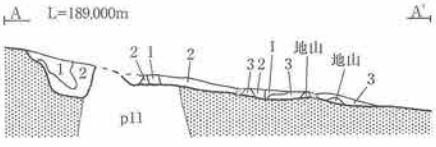
SI24 ピット計測表

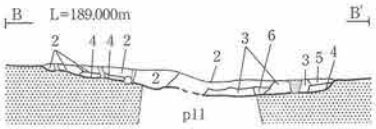
番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	23	13	19	188.56
p2	37	25	12	188.56
p3	66	56	15	188.50
p4	76	64	11	188.40
p5	71	53	17	188.09
p6	27	17	8	188.08
p7	41	16	12	188.06
p8	68	57	13	188.12
p9	21	15	8	188.11
p10	29	18	8	188.09
p11	92	96	110	187.32
p12	16	9	28	188.51
p13	13	6	40	188.35
p14	20	8	42	188.32
p15	27	10	31	188.24
p16	22	11	23	188.17
p17	69	52	19	188.10
p18	51	37	12	188.43
p19	32	24	18	188.31
p20	21	9	15	188.42
p21	25	95	20	188.35
p22	26	8	14	188.13
p23	47	33	8	188.28
p24	34	21	9	187.97
p25	43	28	10	188.03
p26	30	17	13	188.24

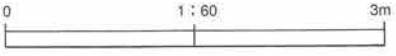
SI24
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
2 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまり中
小礫(1cm)1%
3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
4 10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまり強
5 10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強
6 基本的に2と同じ 10YR4/6褐色ブロック1%混入

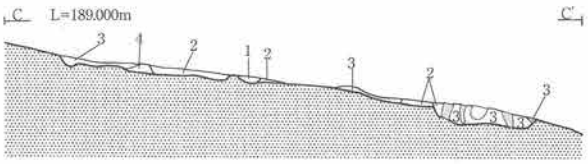
SI24炉
1 5YR4/4 にぶい赤褐色 粘性弱 しまり強
焼土











第26図 SI24 竪穴住居跡

[小結] 他遺構の重複、攪乱などが著しく、全体の住居跡プランを大きく切っている。長方形の大形住居跡で、等高線に沿うように作られており、柱穴は規則的な配置が見られる。炉は1基のみが検出されているが、他遺構による重複のため、他の炉は削平された可能性がある。

遺物（第73·125図・写真図版72·83·105·106·115·120·122·125）

[出土状況] 住居跡覆土などから出土している。

[土器] No.91～93。No.91が覆土下位、No.93が覆土上位、No.92が覆土からの出土。

[石器] No.538,592スクレイパー類、No.848,957,1008,1091敲磨器類。

時期　遺構覆土及び平面形から、縄文時代前期後葉に比定される。（丸山）

ＳＩ２５竪穴住居跡

遺構（第27図・写真図版30）

[位置・検出状況] ＩB9jグリッド付近に位置する。SX04竪穴住居状遺構精査後、西壁及び焼土の検出により確認した。南側の一部は風倒木痕により消失している。

[重複関係] 北半がSX04竪穴住居状遺構と重複しており、これに切られている。また全域がSI18竪穴住居跡と、北西側がSK20土坑と重複しており、これを切る。

[規模・平面形] 規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で（420）cm以上である。平面形は円形基調である。

[主軸方向] 不明である。

[覆土] 黒褐色土主体で構成される。

[壁・床面] 壁は南西・南東部分が残存しており、最厚部は32cmを測る。構築時の掘り込みはSI18覆土中まで行われている。床面は暗褐色土で構成され、覆土に比べ締まるが、堅緻ではない。

[ピット] 8基検出された。形態に規則性は見られないが、配置は壁際に集中する。

[炉] 中央やや北西寄りで1基検出された。地床炉状を呈するが、柱穴等に切られ平面形は不明である。残存規模は70×50cmの不整形で、被熱深度は5cmを測り、弱変である。

[小結] 中央やや北西寄りで地床炉を1基検出し、また柱穴と考えられるピットが壁際に巡ることから住居跡と判断した。

遺物（第73·125図・写真図版88·103·107·115）

[出土状況] 住居跡覆土、床面などから出土している。

[土器] No.94～97。No.94が床面、No.95が覆土下位、No.96,97が覆土からの出土である。

[石器] No.505石鏃、No.595スクレイパー類、No.849,850敲磨器類、No.1382,1440自然礫。

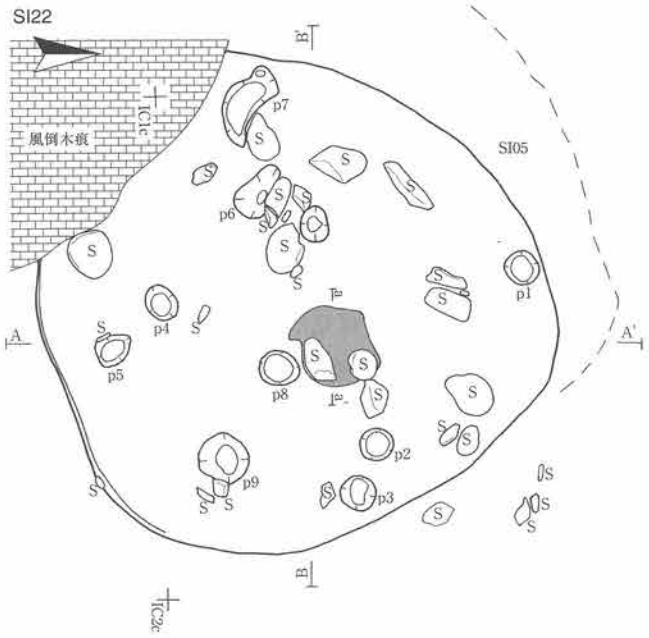
時期　出土遺物は前期後葉に比定されるが、これは重複遺構に伴う遺物と判断される。遺構は形態から、縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＩ２６竪穴住居跡

遺構（第28図・写真図版31）

[位置・検出状況] ＩB9hグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で石囲炉を検出したことにより確認した。炉の北西側が風倒木痕により消失している。

[重複関係] 南東側でSI06竪穴住居跡と、南西側でSX03・04竪穴住居状遺構と重複しており、これらに切ら

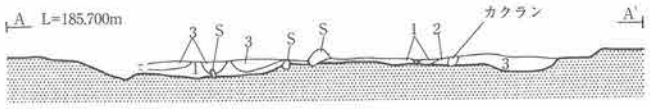


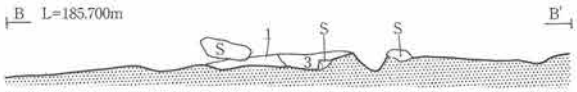
SI22　ピット計測表

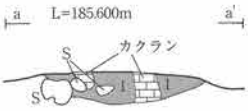
番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	28	21	32	185.20
p2	27	19	7	185.21
p3	29	20	26	185.13
p4	29	58	13	185.19
p5	30	21	3	185.27
p6	44	11	18	185.22
p7	60	44	9	185.32
p8	31	14	40	185.44
p9	41	23	10	185.14

SI22
1　10YR3/4　暗褐色　粘性中　しまり中
　礫(～1cm)1%
2　10YR5/8　黄褐色　粘性強　しまり強
3　10YR2/3　黒褐色　粘性中　しまり強
　黒色土2%

SI22炉
1　5YR3/6　暗赤褐色　粘性なし　しまり中
　焼土

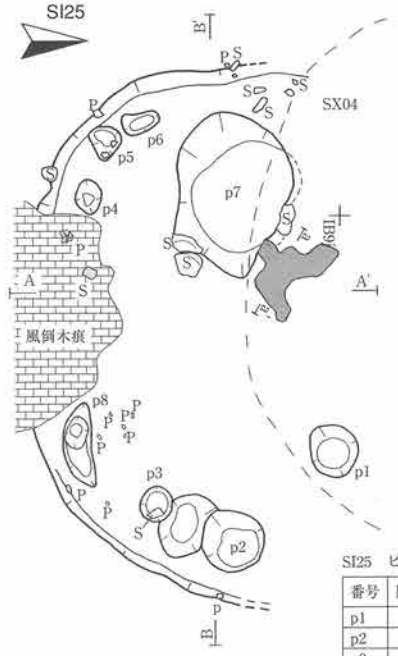


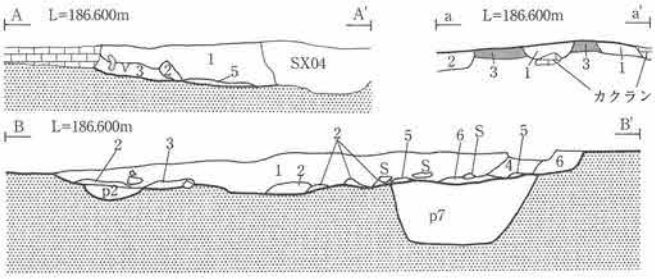




SI22炉・SI25炉

0　1：30　1m





SI25
1　10YR2/1　黒色　シルト　粘性弱　しまり中
　10YR3/3暗褐色ブロックがモヤ状に5%
　亜角礫(～1cm)3%、焼土粒・炭化物粒1%
2　10YR2/1　黒色　シルト　粘性弱　しまり中
　暗褐色土ブロック(5cm)20%
3　10YR3/2　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　亜角礫(～1cm)3%、焼土粒・炭化物粒1%
4　10YR3/1　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　亜角礫(～1cm)1%、焼土粒・炭化物粒1%
5　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　焼土・炭化物粒1%
6　10YR4/2　灰黄褐と10YR3/1　黒褐色の混土(7：3)
　粘性弱　しまり中　焼土・炭化物粒1%

SI25炉
1　7.5YR3/3　暗褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　焼土粒(細)5%、炭化物粒1%　焼土を切る
2　10YR3/1　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　焼土・炭化物粒2% 焼土を切る
3　2.5YR4/6　赤褐色　シルト　粘性なし　しまり強
　焼土

SI25　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	43	25	30	185.84
p2	50	34	15	186.00
p3	28	20	23	185.97
p4	28	8	10	186.18
p5	25	18	13	186.16
p6	30	20	11	186.17
p7	132	89	50	185.65
p8	67	50	20	185.99

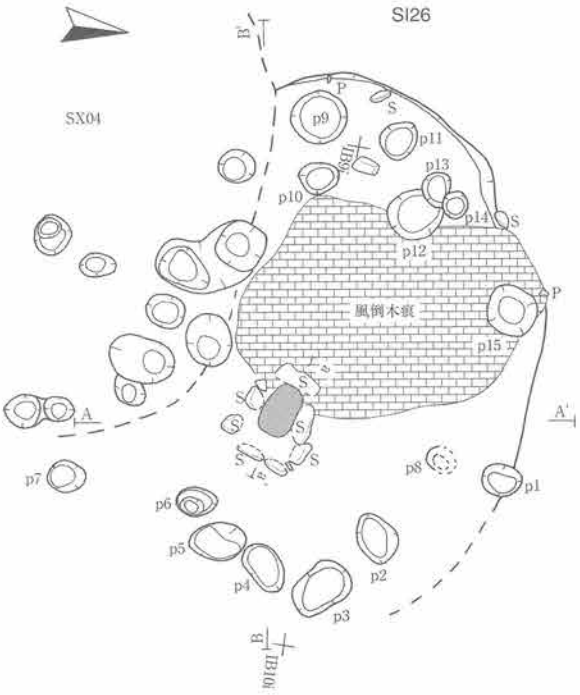
0　1：60　3m

第27図　SI22・SI25竪穴住居跡

れている。西側でSI18竪穴住居跡、北西側でSX05竪穴住居状遺構と重複しており、これを切っている。
[規模・平面形] 長軸方向で約（440）cm、短軸方向は残存不良のため不明であるが、ピットの検出状況から約（400）cm以上と推定され、円形プランを呈すると見られる。
[主軸方向] N－70°－W。
[覆土] 黒褐色土で構成されるが、ほとんど残存しない。
[壁・床面] 壁は北西壁1／4のみが残存しており、最厚部で5cmである。床面範囲は西側以外不明で、残存部は全体的に堅緻である。
[ピット] 本遺構推定範囲内から15基検出された。配置及び深さに規則性は見られない。
[炉] 床面やや南東寄りで石囲炉が1基検出された。北西側が風倒木痕の影響により若干崩れている。平面形は北西－南東方向に長軸を持つ方形を呈し、規模は約80×70cm、焼成面は40×25cmで、被熱深度5cmを測り、弱変である。
[小結] 中央やや南東寄りで石囲炉を1基検出し、また柱穴と考えられるピットが不規則ながら、15基検出されたことから住居跡と判断した。
遺物（写真図版133･137）
[出土状況] 覆土がほとんど残存していないため、少ない。
[土器] なし。
[石器] No.1258,1318台石類。
時期　土器が出土していないため、詳細は不明であるが、重複関係から縄文時代中期に想定される。（丸山）

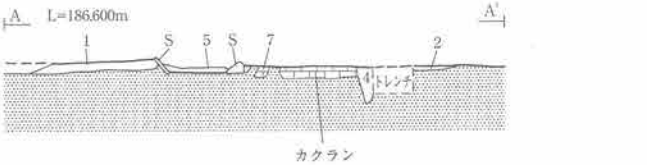
ＳＩ２７竪穴住居跡

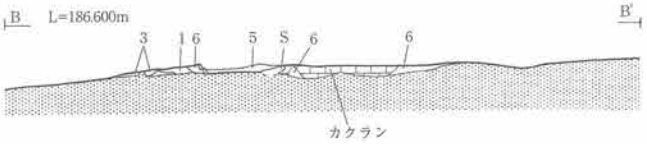
遺構（第29～32図・写真図版32・33）
[位置・検出状況] ⅠB10d～e・ⅡB1d～fグリッドに位置する。Ⅲ層上面で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が長方形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを長軸方向に対して1本、短軸方向に対して3本設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約40cmの深さで床面に達し、長軸方向に床面に並ぶ焼土を確認したため、住居跡と判断して精査を進めた。また、本住居跡精査に先行して上部に重複していたSX09・10竪穴住居状遺構の精査を行っており、重複関係があることも確認された。
[重複関係] SX09・10竪穴住居状遺構と重複しており、これらに切られている。また、SK40土坑とも重複しており、これにも切られている。本住居跡南端部は、風倒木による攪乱の影響を著しく受けており、300×250cm、深さ80cmに及んでいる。これにより、遺構南端の形状を確認することが出来なかった。
[規模・平面形] 長軸方向で約1300cm、短軸方向で約500cmの長方形プランを呈する。中央部はやや幅広になっており、船形を呈している。深さは最深で約40cm、床面積は約49.2㎡である。
[主軸方向] 炉の位置と遺構プランから判断される主軸方向は、N-27°-Wである。
[覆土] 黒褐色土主体で構成される。
[壁・床面] 壁は東壁、西壁、北壁は残存しているが、南壁は前述のように攪乱により壊されている。壁高は残存値で、東壁約30cm、西壁約25cm、北壁約20cmである。床面はほぼ水平に構築されており、堅緻である。
[周溝] 周溝は、東辺、西辺、北辺で検出されており、南辺は前述のように攪乱により壊されている。周溝の床面からの深さは、東辺で約20cm、西辺で約20cm、北辺で約12cmである。周溝はピットと合わせて、「建て替え」の際に作り替えられた形跡があり、2重または3重に検出された箇所がある。

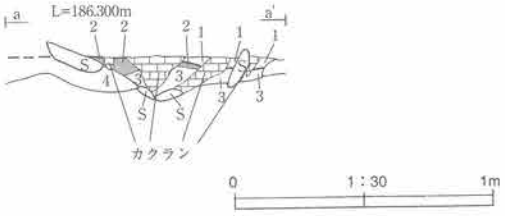


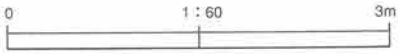
SI26　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	32	23	16	185.83
p2	42	33	34	185.83
p3	49	41	19	185.75
p4	42	34	12	185.82
p5	45	36	7	185.89
p6	32	12	11	185.89
p7	29	18	9	185.91
p8	22	8	13	185.90
p9	44	33	8	185.13
p10	29	20	9	185.90
p11	32	23	9	186.01
p12	32	34	20	185.92
p13	28	18	13	186.01
p14	21	14	13	186.02
p15	44	22	68	185.47





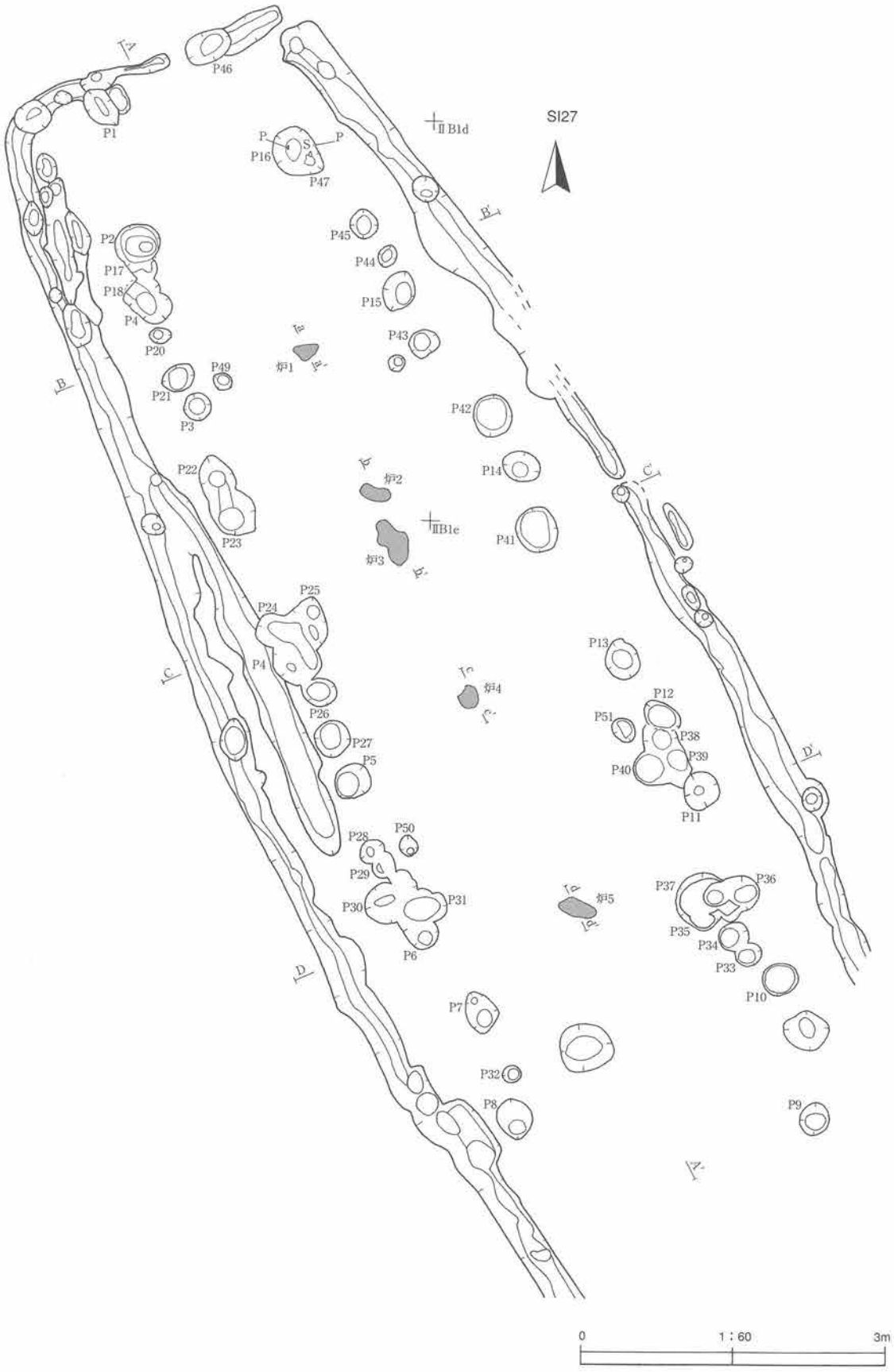




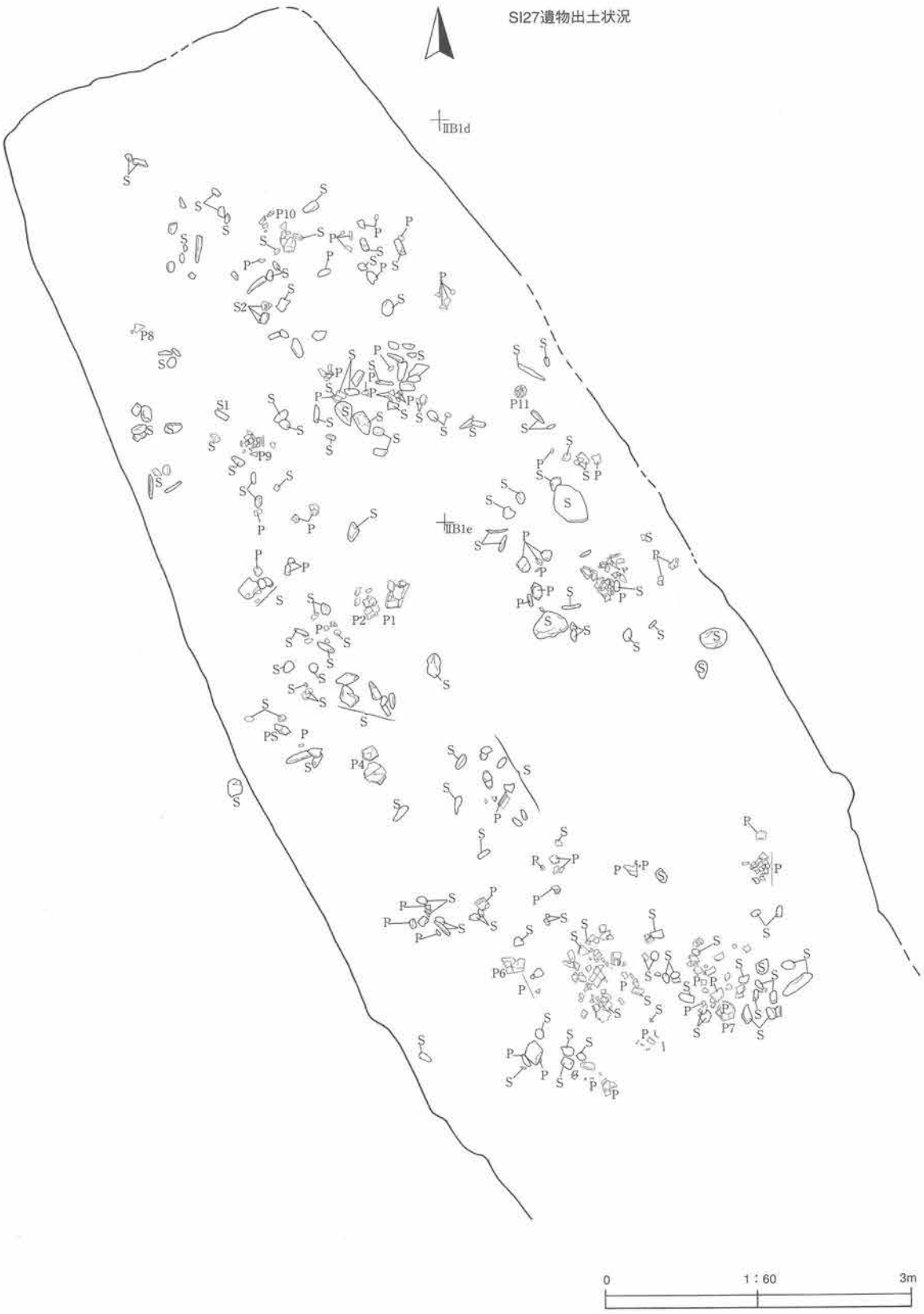
SI26
1　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり中
　亜角礫(～1cm)3%、焼土・炭化物粒2%
2　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　焼土・炭化物粒1%
3　10YR2.5/2　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　角礫(1～3cm)2%、焼土　炭化物粒1%以下
4　10YR2/1　黒色　シルト　粘性弱　しまり中
　pit(新しい？)
5　10YR2/2　　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり弱
　焼土粒(～1cm)、炭化物粒(～3cm)5%
6　10YR2/1　黒　シルト　粘性弱　しまり中
　焼土・炭化物粒2%
7　10YR3/3　暗褐色シルト・10YR2/2　黒褐色シルト・10YR4/6褐色シルト
　の混土(5：3：2)、焼土・炭化物粒1%

SI26 炉
1　10YR2/1　黒色　シルト　粘性弱　しまり中
　焼土・炭化物粒5%
2　5YR4/6　赤褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　焼土
3　10YR3/2黒褐色シルトと10YR4/4褐色シルトの混土(5：5)
　粘性中　しまり中
4　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　粘性中　しまり中
　亜角礫(1～2cm)2%

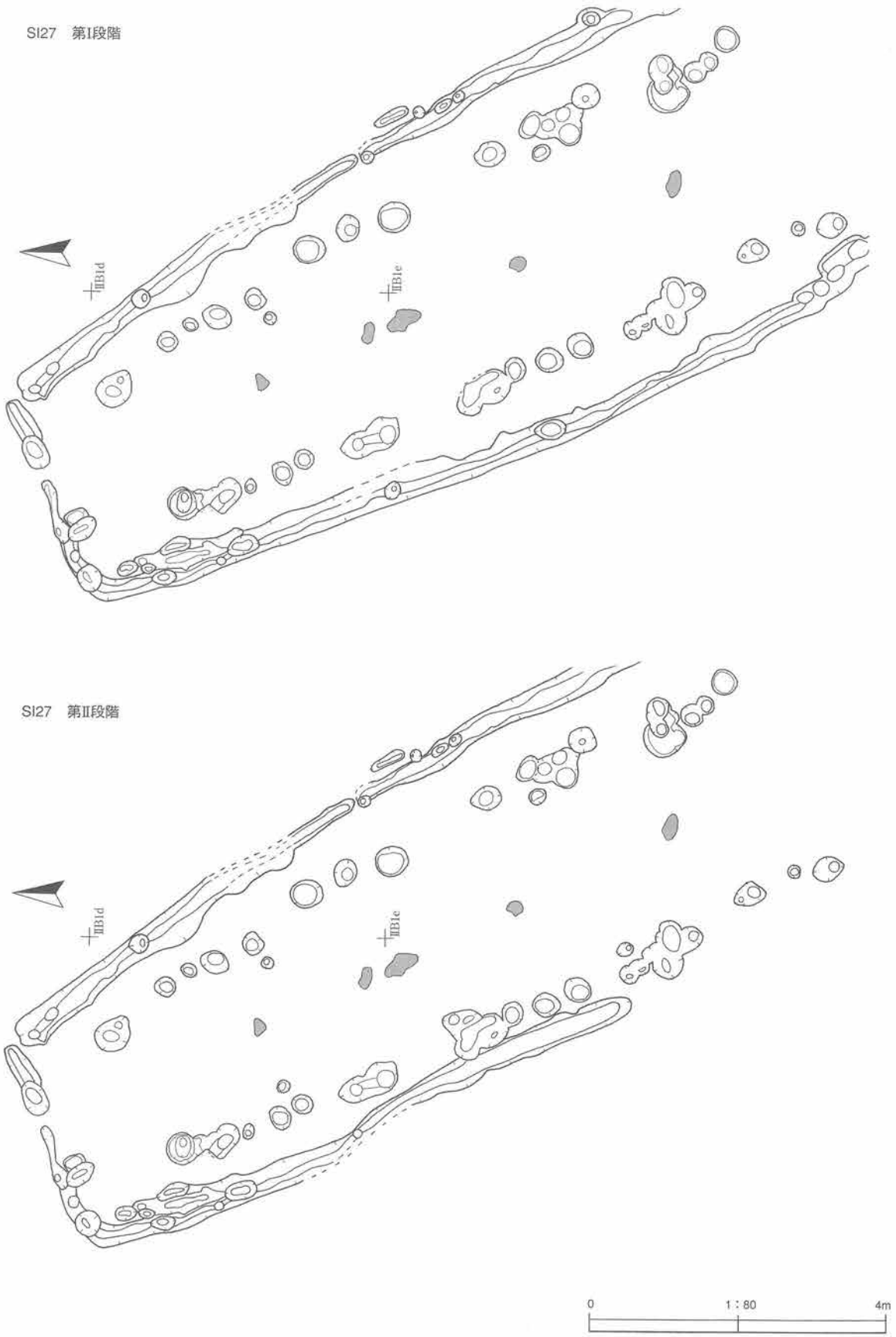
第28図　SI26 竪穴住居跡



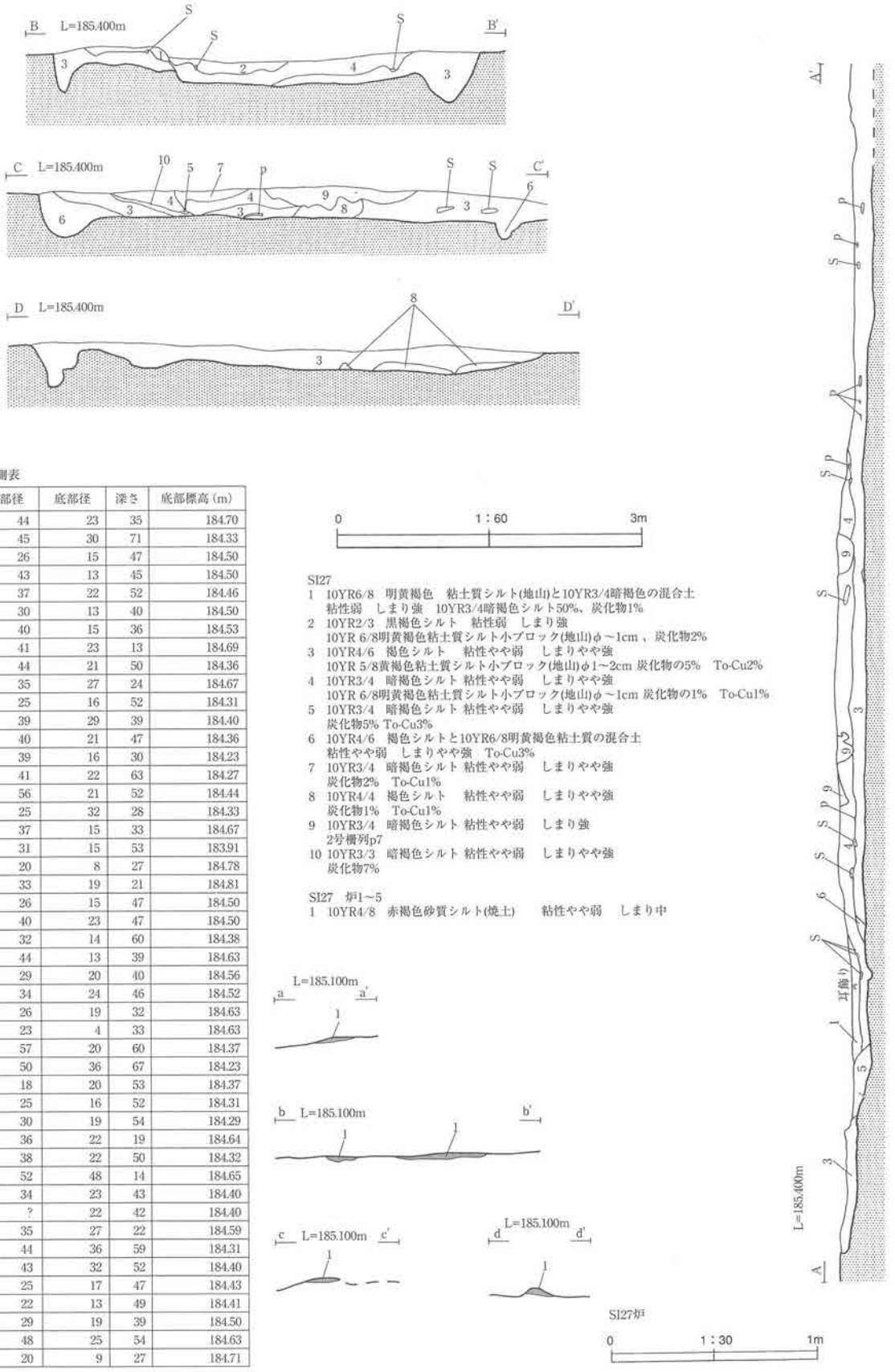
第29図　SI27 竪穴住居跡（1）



第30図　SI27 竪穴住居跡（2）



第31図　SI27 竪穴住居跡（3）



SI27 ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	44	23	35	184.70
p2	45	30	71	184.33
p3	26	15	47	184.50
p4	43	13	45	184.50
p5	37	22	52	184.46
p6	30	13	40	184.50
p7	40	15	36	184.53
p8	41	23	13	184.69
p9	44	21	50	184.36
p10	35	27	24	184.67
p11	25	16	52	184.31
p12	39	29	39	184.40
p13	40	21	47	184.36
p14	39	16	30	184.23
p15	41	22	63	184.27
p16	56	21	52	184.44
p17	25	32	28	184.33
p18	37	15	33	184.67
p19	31	15	53	183.91
p20	20	8	27	184.78
p21	33	19	21	184.81
p22	26	15	47	184.50
p23	40	23	47	184.50
p24	32	14	60	184.38
p25	44	13	39	184.63
p26	29	20	40	184.56
p27	34	24	46	184.52
p28	26	19	32	184.63
p29	23	4	33	184.63
p30	57	20	60	184.37
p31	50	36	67	184.23
p32	18	20	53	184.37
p33	25	16	52	184.31
p34	30	19	54	184.29
p35	36	22	19	184.64
p36	38	22	50	184.32
p37	52	48	14	184.65
p38	34	23	43	184.40
p39	?	22	42	184.40
p40	35	27	22	184.59
p41	44	36	59	184.31
p42	43	32	52	184.40
p43	25	17	47	184.43
p44	22	13	49	184.41
p45	29	19	39	184.50
p46	48	25	54	184.63
p47	20	9	27	184.71

SI27
1 10YR6/8 明黄褐色 粘土質シルト(地山)と10YR3/4暗褐色の混合土
粘性弱 しまり強 10YR3/4暗褐色シルト50%、炭化物1%
2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり強
10YR 6/8明黄褐色粘土質シルト小ブロック(地山)φ～1cm 、炭化物2%
3 10YR4/6 褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや強
10YR 5/8黄褐色粘土質シルト小ブロック(地山)φ1～2cm 炭化物の5% To-Cu2%
4 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや強
10YR 6/8明黄褐色粘土質シルト小ブロック(地山)φ～1cm 炭化物の1% To-Cu1%
5 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物5% To-Cu3%
6 10YR4/6 褐色シルトと10YR6/8明黄褐色粘土質の混合土
粘性やや弱 しまりやや強 To-Cu3%
7 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物2% To-Cu1%
8 10YR4/4 褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物1% To-Cu1%
9 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまり強
2号構列p7
10 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物7%

SI27 炉1～5
1 10YR4/8 赤褐色砂質シルト(焼土) 粘性やや弱 しまり中

第32図 SI27 竪穴住居跡（4）

[ピット] 本遺構内床面から47基検出した。いずれも柱穴と考えられ、遺構内床面を巡るように規則的に配置されている。柱間から数回の「建て替え」が行われたことは確実であり、周溝と合わせた推定変遷図を第31図に示した。

[炉] 本遺構内床面中央に、主軸方向と同方向に等間隔で5基の地床炉が並列する状態で検出された。これらはいずれも同時期に使用されたと見られ、5箇所を本遺構に伴う炉としていたと考えられる。それぞれの炉の燃焼範囲及び被熱深度は以下の通り。

	規模	深さ	形状	焼成
炉1	20×17cm	3cm	楕円形	弱変
炉2	30×10cm	3cm	楕円形	弱変
炉3	50×25cm	3cm	楕円形	弱変
炉4	22×19cm	3cm	楕円形	弱変
炉5	38×16cm	4cm	楕円形	弱変

[小結] 本遺構は、今回の調査で検出された大形住居跡のなかで、遺構・遺物の残存が最も良好であった。このため、炉の配置、柱穴の配置、建て替えの変遷などを考察する上で良い資料を提供することが出来たと考える。該期に当たる遺構としては大形であると考えられる。

遺物（第73·74·75·76·77図・写真図版73·89·90ほか）

[出土状況] 住居跡床面、覆土から多量の遺物が出土している。

[土器] No.98～138。No.98～103が床面、No.104～120が床直上、その他は覆土からの出土である。

[石器] No.459尖頭器、No.469,476,489～493,506～508石鏃、No.513～515,529石匙、No.531,532石篦、No.533楔形石器、No.539,540,553～563,579,580,584,593,594スクレイパー類、No.601,602,613～620,636,647～649二次加工ある剥片、No.663～685,718～731微細剥離痕ある剥片、No.758磨製石斧、No.779,780,788,789,803,807,808礫器類、No.815,816,851～856,907,908,921,922,946～948,965,966,1009～1018,1036～1041,1076,1081,1082,1092～1101,1171,1172,1181,1182,1190～1193,1202,1205,1209,1210,1220敲磨器類、No.1259～1262台石類、No.1333礫石錘、No.1383～1392,1441～1443,1456～1459自然礫。

[石製品] No.1471～1473石棒類、No.1487～1489玦状耳飾、No.1491石製垂飾。

時期 出土遺物及び遺構の形態から、縄文時代前期中～後葉に所属すると考えられる。（北田）

SI28竪穴住居跡

遺構（第33図・写真図版34）

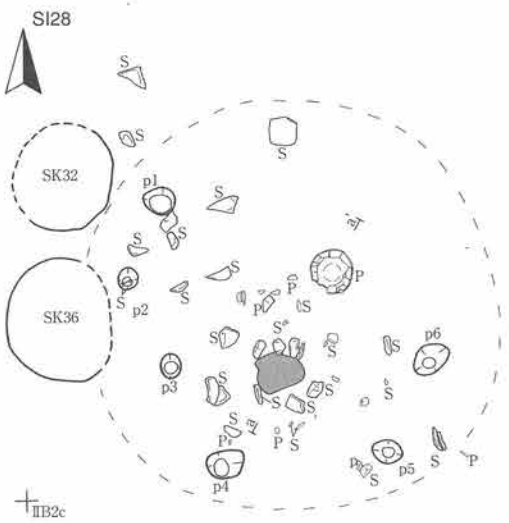
[位置・検出状況] ⅡB2bグリッドに位置する。Ⅰ層耕作土除去を行った後、遺構検出を実施したところ直立する埋設土器及び石囲炉と考えられる礫を確認した。この時点で覆土は失われており、壁の立ち上がりなど住居と判断する材料に欠けていたものの、石囲炉と埋設土器から住居跡と判断し、精査を行った。

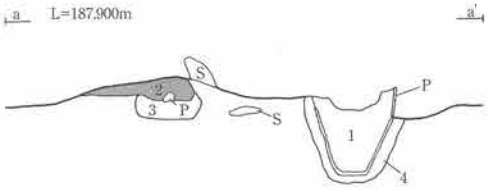
[重複関係] SI36・37・38竪穴住居跡と重複しており、これを切っているが、いずれの住居跡も本遺構の下層に存在するため、直接的な切り合い関係はない。

[規模・平面形] 壁は削平されており規模は不確定であるが、柱穴の配置から推定で約(330)×約(320)cmの円形プランを呈すると考えられる。深さは未確定、床面積は推定で約(10.6㎡)である。

[主軸方向] 炉と埋設土器から判断される主軸方向は、N-23°-Eである。

[覆土] ほとんど削平されており不確定であるが、黒褐色土主体で構成される。耕作による攪乱が著しい。





SI28　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	25	18	29	184.77
p2	18	8	32	184.79
p3	19	20	34	184.72
p4	29	11	58	184.38
p5	25	9	28	184.50
p6	31	9	13	184.59

SI28 炉
1　5YR4/8　赤褐色シルト　粘性弱　しまりやや弱　　焼土
2　10YR4/6　褐色シルトと5YR3/6暗赤褐色シルト（焼土）の混合土　粘性弱　しまりやや弱
3　10YR2/3　黒褐色シルト 粘性やや弱　しまりやや弱
　To-Cu1%　炭化物2%
4　10YR3/3　暗褐色シルト 粘性弱　しまりやや弱
　To-Cu1%

第33図　SI28竪穴住居跡

[壁・床面] 壁は削平されているため測ることはできない。構築時の掘り込みはⅡ層中位まで行われている。床面はほぼ平坦であるが、東側に向かって低く傾斜する。床面の東半が削平され残存していなく、また残っている部分も全体的に軟質である。

[ピット] 本遺構推定範囲内から6基検出した。いずれも柱穴と考えられ、炉の周囲を巡るように規則的に配置されているが、柱間は不揃いであり、また柱の内側の居住空間と推察されるスペースに余裕がないため、すべてがこの遺構に伴うものか不明確である。

[炉] 精査範囲（遺構推定範囲）中央に1基検出した。形態は石囲炉であるが、削平の影響を受けており、崩れている。燃焼部の規模は37×28cmで、被熱深度は10cm（弱変成）である。

[埋設土器] 本遺構推定範囲中央の石囲炉から北東方向に40cmのところで、床に直立して埋設された状態で出土した。土器内は黒褐色土が単一層で構成される。土器は粗製であり、文様は縄文（ＬＲ縦）のみで口縁部は欠損している（No.139）。

[小結] 遺構プランは判然としないが、床面中央に直立するNo.139土器及び近接する石囲炉から住居跡と判断した。

遺物（第77図・写真図版83･90･137）

[出土状況] 覆土がほとんど失われているため、いずれも覆土下位～床面での出土である。

[土器] No.139～144。No.139が床面、その他は覆土からの出土である。

[石器] No.1319,1320台石類。

時期　埋設土器及び炉の形態から、縄文時代中期に所属すると考えられる。　（北田）

ＳＩ２９竪穴住居跡

遺構（第34図・写真図版35）

［位置・検出状況］ⅡA2ｈ～iグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で遺構検出を実施したところ、暗褐色土が円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約24cmの深さで焼土（SI30竪穴住居跡炉）、さらに検出面から約36cmで床面に達し、炉石を確認したため、住居跡と判断して精査を進めた。また、この時点で上下に炉と考えられる痕跡を確認しているため、重複関係があることも予想された。

［重複関係］当初、１つの遺構と判断していたが、精査の結果、同プラン内でSI30竪穴住居跡と重複していることが分かった。本遺構はこれに切られている。また調査区際の東側でSK26土坑と重複しており、これに切られている。

［規模・平面形］長軸方向で約430cm、短軸方向で約420cmの円形プランを呈する。深さは約35～40cm、床面積は東側が削平されているため、推定値で約（15.2）㎡である。

［主軸方向］炉の向きと柱穴配置から判断される主軸方向は、N-82°-Eである。

［覆土］暗褐色土主体で構成される。上部はSI30竪穴住居跡の覆土と考えられ、区分される。微量ではあるが、覆土に10YR6/8明黄褐色の十和田中掫火山灰と考えられる混入物が観察される。

［壁・床面］壁高は西壁17cm・南壁30cm・北壁22cmであり、東壁は削平の影響を受け、残存していない。壁は床面から外傾しながら急斜度に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、構築時の掘り込みはⅢ層黄褐色粘土質土層まで行われている。東側の一部は削平され残存していない。

［ピット］本遺構から４基検出された。配置から本遺構に伴う柱穴と判断される。各４基は炉が持つ主軸方向を中心にほぼ左右対称となっており、各柱穴の底部標高は平均で184.30ｍである。

［炉］遺構プラン中央からやや西寄りに１基検出した。炉の形態は石囲炉であり、規模は長軸76cm・短軸66cmである。炉内は全体が赤褐色に被熱しており、燃焼範囲は42×40cmで、被熱深度は約3cm（強変）である。被熱の範囲は炉の外部の床面にも及んでおり、東側に被熱・西側に炭化物を含んだ拡がりが観察される。

［小結］炉の焼成は良好で、台形状に配置される柱穴４基は左右対称に作られており、縄文時代竪穴住居の設計・規格性の高さを窺わせる遺構である。

遺物（第79･106･114･119･120･122図・写真図版74･90･91･103･106･109･110･139･112ほか）

［出土状況］住居跡床面、覆土から多量の遺物が出土している。

［土器］No.145～161。No.145,146が床面、No.147,151,155が覆土1層、その他は覆土からの出土である。

［石器］No.470石鏃、No.589スクレイパー類、No.686,687,732～737微細剥離痕ある剥片、No.759磨製石斧、No.768打製石斧、No.790,791,804礫器類、No.857～859,967,968,1102～1104,1197敲磨器類、No.1263～1270,1321台石類、No.1334,1346礫石錘、No.1393,1394,1444～1446自然礫。

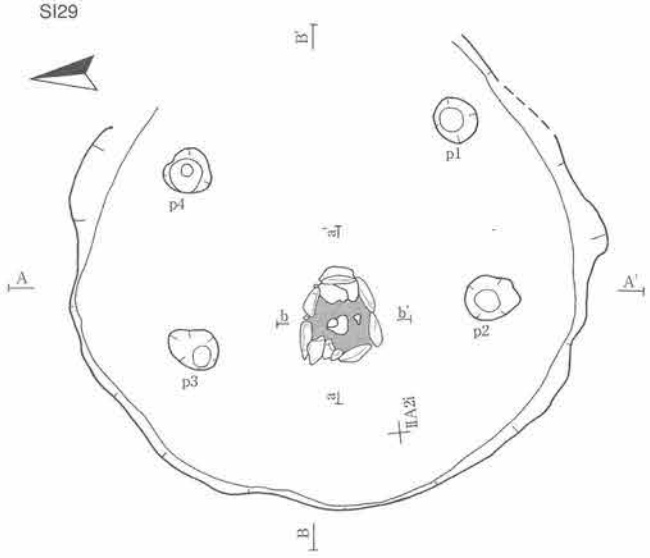
時期　炉の形態及び出土遺物から、縄文時代中期末葉に所属すると考えられる。（北田）

ＳＩ３０竪穴住居跡

遺構（第35図・写真図版36）

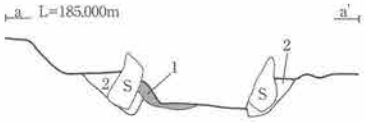
［位置・検出状況］ⅡA2ｈ～iグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で遺構検出を実施したところ、暗褐色土が円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げを行ったところ、検出面から約24cmの深さで焼土を確認した。当初、遺構である決め手に欠け、焼土を残した

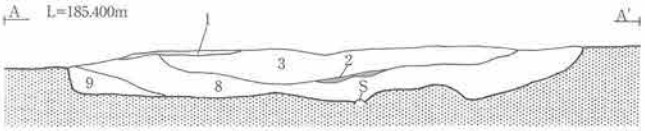
SI29

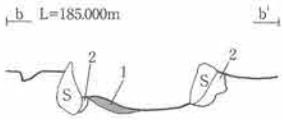


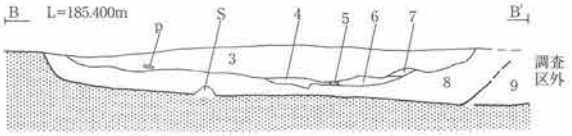
SI29　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高 (m)
p1	37	19	42	184.38
p2	40	18	50	184.35
p3	40	14	49	184.30
p4	35	27	49	184.22

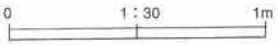




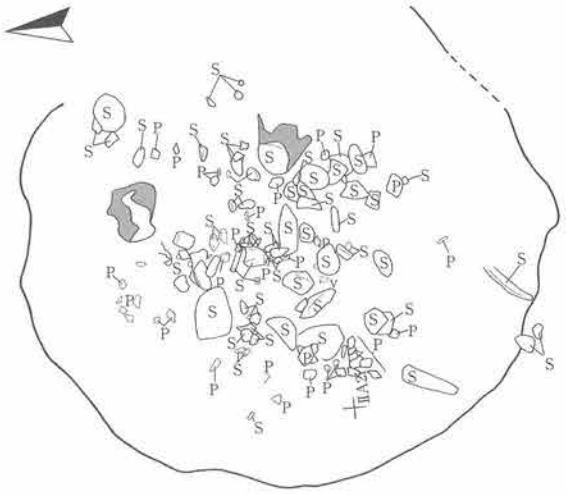




SI29炉

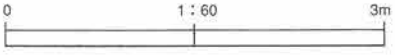


SI29 遺物出土状況



SI29
1　10YR3/4　暗褐色シルト　粘性弱　しまりやや弱
2　5YR4/8　赤褐色シルト　粘性弱　しまりやや弱　　焼土
　含10YR3/4　暗褐色シルト　少量
3　10YR3/4　暗褐色シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　含10YR6/8 To-Cu2% 炭化物2%
4　10YR3/3～3/4　暗褐色シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　炭化物1%
5　10YR2/3　黒褐色シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　炭化物層、炭化物2%、焼土2%
6　10YR2/2　黒褐色シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　炭化物層、炭化物20%
7　10YR4/8　赤褐色シルト　粘性弱　しまり中　焼土
8　10YR3/4　暗褐色シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　含10YR6/8 To-Cu粒3% 炭化物　1%
9　10YR2/3～2/2　黒褐色シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混合土
　粘性やや弱　しまりやや弱　To-Cu1%

SI29炉
1　10YR4/8　赤褐色　焼土　粘性中　しまり強
2　10YR2/3　黒褐色シルト　粘性中　しまり中
　黄褐色土霜降り状に微量混入



第34図　SI29 竪穴住居跡

まま掘り下げを行ってしまい、重複するSI29竪穴住居跡の床面に達してから、セクションベルトの観察により、本遺構の存在を確認した。この段階で、下層検出遺構よりも新しい竪穴住居跡と判断して精査を進めた。

[重複関係] 当初、１つの遺構と判断していたが、セクション観察の結果、同プラン内でSI29竪穴住居跡と重複していることを確認した。本遺構はSI29竪穴住居跡に後続する遺構で、これを切っている。また調査区際の東側でSK26土坑と重複しており、これに切られている。

[規模・平面形] 長軸方向で約330cm、短軸方向で約320cmの円形プランを呈する。深さは約25cm、床面積は推定で(6.0)㎡である。

[主軸方向] 不明である。

[覆土] 暗褐色土の単一層で構成される。微量ではあるが覆土に10YR6/8明黄褐色の十和田中掫火山灰と考えられる混入物、炭化物微量が観察される。また多量の礫を含んでおり、崖錐性堆積により流入した可能性がある。

[壁・床面] 壁高は残存値で東壁12cm・西壁6cm・南壁14cm・北壁12cmであり、壁は床面から外傾しながら緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、断面形は皿状を呈し、構築時はSI29竪穴住居跡の覆土を掘り込む形で行われている。床面は全体的に軟質である。

[ピット] 検出されなかった。

[炉] 床面中央で１基検出しており、炉の形態は地床炉である。規模は長軸45cm、短軸40cmで、被熱深度は約６cmで、弱変している。また、覆土上部から焼土を２基検出しているが、いずれも不整形プランで流れ込みによるものと判断され、長軸41cm・短軸40cm・深度約６cmの弱変焼土が１基、長軸42cm・短軸40cm・深さ４cmの弱変焼土が１基である。

[小結] 当初、重複を考慮に入れず精査を行っていたため、床面をかなり掘り込んでから遺構の存在を確認した。出土遺物がSI29竪穴住居跡と混在してしまった。

遺物

[出土状況] 当初、SI29竪穴住居跡と同一遺構として精査を行っていたため、遺物が混在してしまった可能性がある。SI29竪穴住居跡覆土上位の遺物は本遺構に伴うものであるかもしれない。

[土器] なし。

[石器] なし。

時期 SI29竪穴住居跡との重複関係から縄文時代中期に所属すると考えられる。 （北田）

ＳＩ３１竪穴住居跡

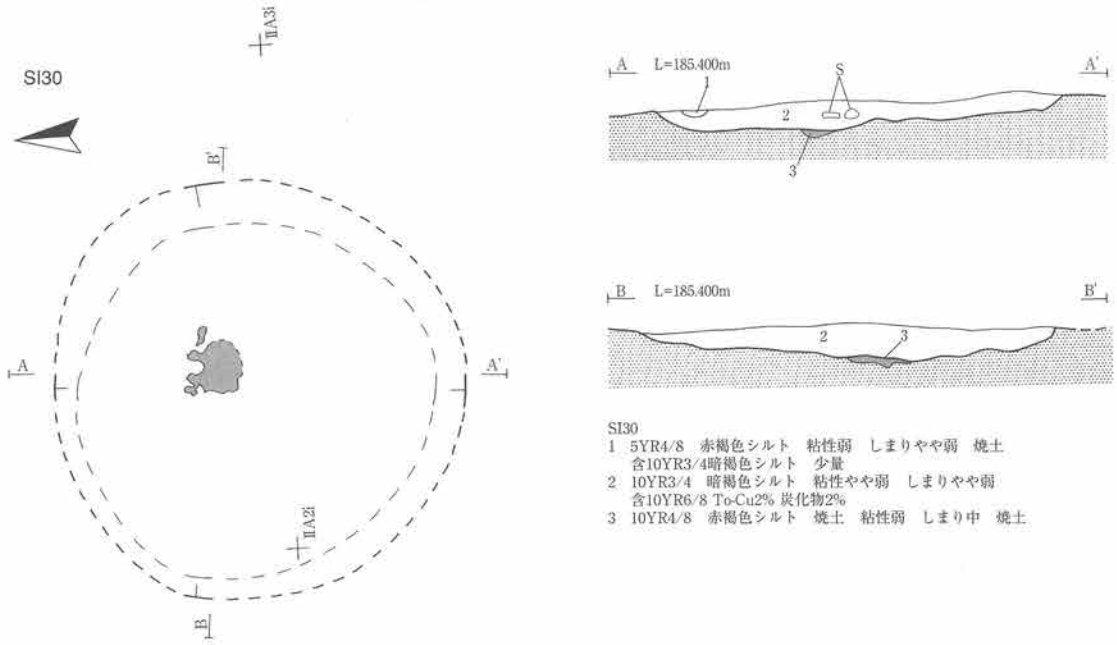
遺構（第36図・写真図版37）

[位置・検出状況] ⅡE6d～eグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約30cmの深さで床面に達し、また東側の斜面下方ではすでに炉石を確認していたため、住居跡と判断して精査を進めた。

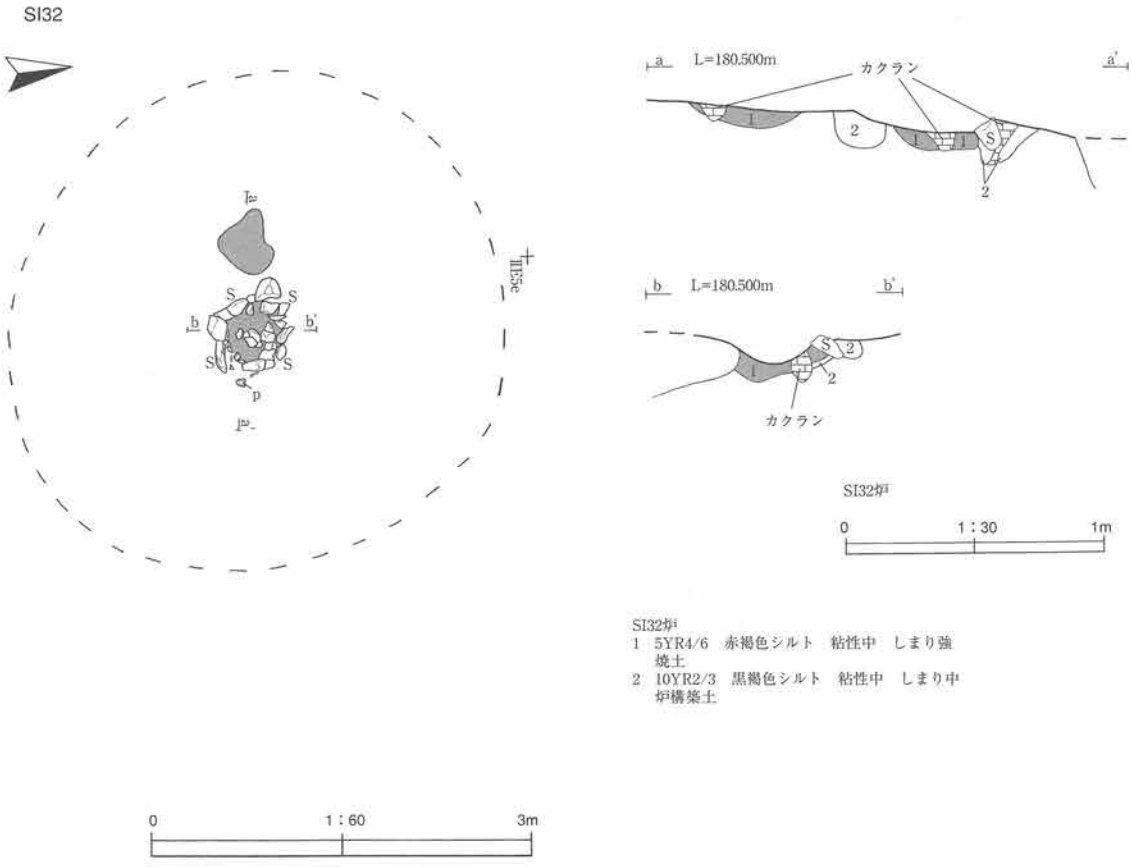
[重複関係] 南側でSX11竪穴住居状遺構と重複しており、これを切っている。

[規模・平面形] 長軸方向で440cm、短軸方向は斜面下方で削平の影響を受けているが、残存値で370cmの円形プランを呈する。深さは約30cm、床面積は14.1㎡である。

[主軸方向] 炉の向きと柱穴配置から判断される主軸方向は、N-75°-Wである。

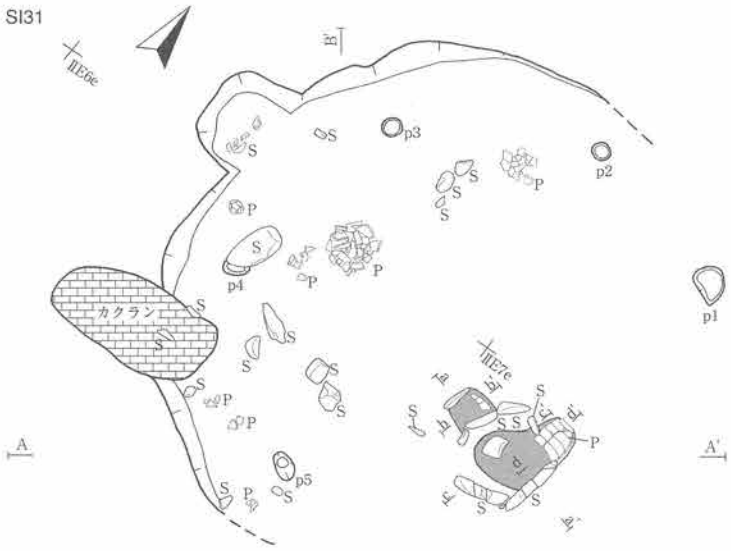


SI30
1 5YR4/8 赤褐色シルト 粘性弱 しまりやや弱 焼土
含10YR3/4暗褐色シルト 少量
2 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
含10YR6/8 To-Cu2% 炭化物2%
3 10YR4/8 赤褐色シルト 焼土 粘性弱 しまり中 焼土



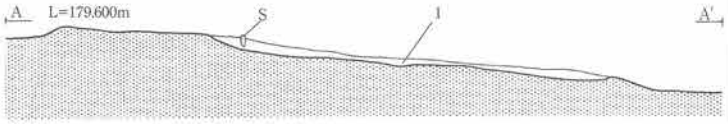
SI32炉
1 5YR4/6 赤褐色シルト 粘性中 しまり強
焼土
2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性中 しまり中
炉構築土

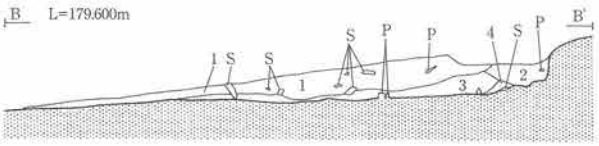
第35図 SI30・32 竪穴住居跡

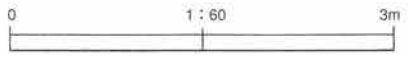


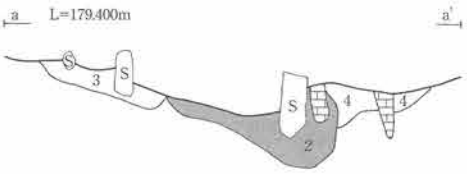
SI31　ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	25	20	10	179.12
p2	15	12	31	179.06
p3	15	13	34	179.03
p4	22	14	48	178.74
p5	23	8	51	178.69

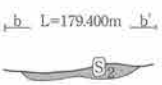


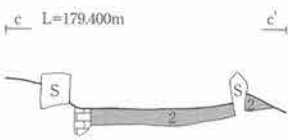




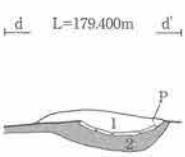


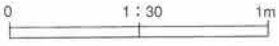
SI31
1　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　小礫少量　混入
2　10YR3/2～3/3　黒褐色～暗褐色　粘性やや弱　しまり中
　10YR6/6明黄褐色粘土シルトブロック　粘性中　しまり中20%
3　10YR3/3　暗褐色　粘土質シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　含10YR6/6明黄褐色粘土シルト粒5%、10YR6/8　明黄褐色To-Cu粒2%
4　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性やや弱　しまり中
　10YR6/8明黄褐色To-Cu粒1%





SI31炉
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
　地山霜降り状に混入
2　5YR3/6　暗赤褐色　焼土　粘性中　しまり中
　10YR3/4～3/4が部分的に焼けたもの
3　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　しまり強
4　10YR5/6　黄褐色　粘土質シルト　粘性やや強　しまりやや強
　径1cm以下の小礫多く混じる　土質は地山と同じ





第36図　SI31竪穴住居跡

[覆土] 黒褐色土主体で構成され、下部は明黄褐色粘土質土を小ブロックで少量混入する。また、覆土中に明黄褐色の十和田中掫火山灰と考えられる混入物が微量観察される。

[壁・床面] 壁高は西壁24cm・南壁14cmであり、東壁・北壁は削平の影響を受け、残存していない。壁は床面から外傾しながら急斜度に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、北側に向かってわずかに低く傾斜する。構築時の掘り込みはⅢ層明黄褐色粘土質土層まで行われている。

[ピット] 本遺構から5基検出された。配置から本遺構に伴う柱穴と判断される。各5基は壁際に沿うように配置されており、各柱穴の底部標高は平均で178.90mである。

[炉] 遺構プラン中央からやや東寄りの斜面下方に1基検出した。炉の形態は複式炉であり、前庭部脇に半裁された土器が斜位に埋設されている。これは、おそらく灰汁取り作業を行うためと考えられる。炉の規模は長軸97cm・短軸85cmであり、燃焼部は小規模に作られている。炉内は全体が暗赤褐色に被熱しており、被熱深度は約8～12cmである（強変）。また、斜位に埋設された土器の下層もかなりの被熱痕跡が見られた（強変）。

[小結] 本遺構は土器埋設複式炉を設置する竪穴住居跡である。調査区南側では規模の大きな遺構で、遺構は斜面下方にも拡がっていると考えられる。

遺物（第80･81･82･141図・写真図版75･76･91･120･122･126･134･138）

[出土状況] 住居跡炉、床面、覆土などから出土している。

[土器] №162～180。№162が炉埋設土器、№163～169が床面、その他は覆土からの出土である。

[石器] №753剥片，№969,1019～1021,1108敲磨器類、№1271,1272台石類、№1347礫石錘、№1395～1397自然礫。

時期　炉の形態及び床面出土遺物から、縄文時代中期末葉に所属すると考えられる。（北田）

ＳＩ３２竪穴住居跡

遺構（第35図・写真図版38）

[位置・検出状況] ⅡE4～5eグリッド付近に位置する。Ⅰ層を人力で掘り下げ中に炉石の一部が露出したため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。しかし、覆土の残存はほとんど見られず、床面のほとんどが削平された状態であった。また、遺構の西側、斜面上方もかなり大きく削平されており（開墾時に重機で掘り下げを行った痕跡？）、残存しているのは、炉とその周辺のみであったが、住居跡の一部と判断して精査を進めた。

[重複関係] 他遺構との重複関係はない。

[規模・平面形] 削平の影響を大きく受けているため、規模及び平面形、床面積などは不明である。

[主軸方向] 炉の向きから判断される主軸方向は、N-87°-Eである。

[覆土] 削平の影響を大きく受けているため、覆土の状態は不明である。

[壁・床面] 削平の影響を大きく受けているため、壁の状態は不明である。床面も前述の通りであるが、わずかに残存している炉の周辺から、ほぼ平坦であると考えられる。構築時の掘り込みはⅢ層ローム層まで行われている。

[ピット] 削平の影響を大きく受けているため、確認できない。

[炉] 遺構検出範囲中央に1基検出した。炉の形態は石囲炉である。炉の規模は長軸60cm・短軸55cmであり、炉内は全体が赤褐色に被熱しており、燃焼範囲は40×40cmで、被熱深度は約6cmである（強変）。また、石

囲炉が作られている東側にもかなりの被熱痕跡が見られる焼土跡（長軸50cm・短軸44cm・深度約6cm：強変）があることから、削平以前は複式炉であった可能性もある（抜き取り痕などは検出されなかった）。

［小結］本遺構は石囲炉を1基設置する竪穴住居跡である。遺構は大きく削平されており、炉付近のみが残存している。

遺物（第82･142図・写真図版91･122･126･140）

［出土状況］覆土はほとんど残存していないが、遺構プラン内から出土している。

［土器］No.181～186。No.181が覆土上位、その他は覆土からの出土。

［石器］No.1022,1109敲磨器類。

［石製品］No.1475石剣。

時期　炉の形態及び出土遺物から、縄文時代中期に所属すると考えられる。（北田）

ＳＩ３３竪穴住居跡

遺構（第37～39図・写真図版39）

［位置・検出状況］ⅡB1d～2dグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約35cmの深さで炉石を確認したため、住居跡と判断して精査を進めた。また、この時点でⅢ層ローム層上面まで深さが後5cm程あることを確認しているため、下層に住居跡があることも予想された。

［重複関係］精査の結果、同プラン内でSI34竪穴住居跡とSI35竪穴住居跡の2棟と重複していることが分かった。本遺構はこれら両遺構を切っている。なお、同プラン内での「建て替え」である可能性があるが、炉を作り替えている場合は、それを1遺構として処理しているため、ここでは分けて扱う。また、北側でSI38竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。西側では、SK38・39土坑と重複しており、これら両遺構に切られている。

［規模・平面形］長軸方向で約555cm、短軸方向で約495cmの円形プランを呈する。深さは約35～40cm、床面積は20.1㎡である。

［主軸方向］炉の向きと柱穴配置から判断される主軸方向は、N-87°-Wである。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。下部はSI34竪穴住居跡及びSI35竪穴住居跡の覆土と考えられ、区分される。覆土中に明黄褐色の十和田中掫火山灰と考えられる混入物が微量と炭化物が微量観察される。

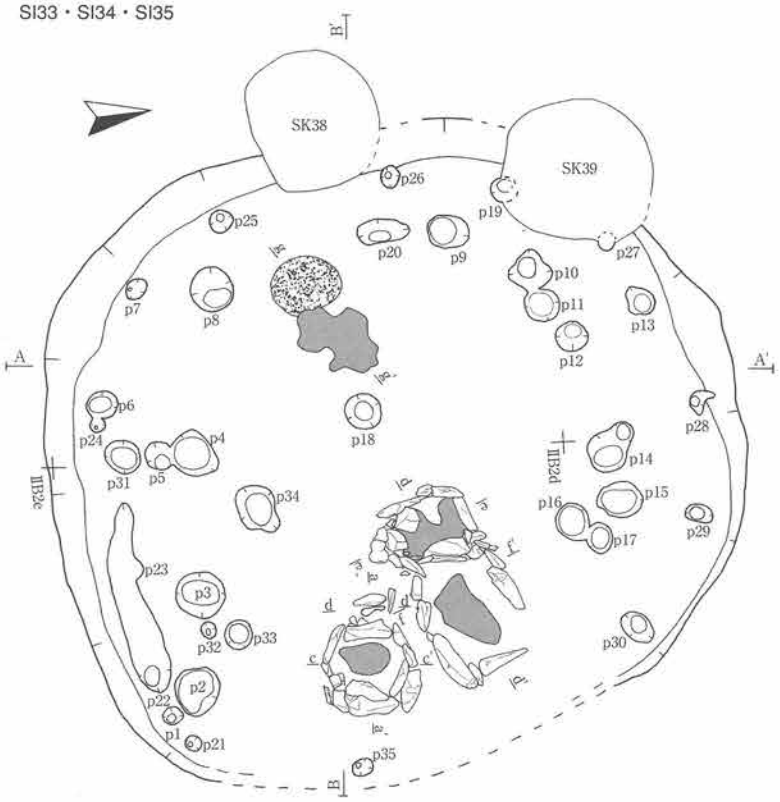
［壁・床面］壁高は西壁34cm・南壁42cm・北壁30cmであり、東壁は削平の影響を受け、残存していない。壁は床面から外傾しながら急斜度に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、構築時の掘り込みは西側ではⅢ層ローム層まで行われているが、東側は炉を構築するためか、暗褐色土が盛られている。

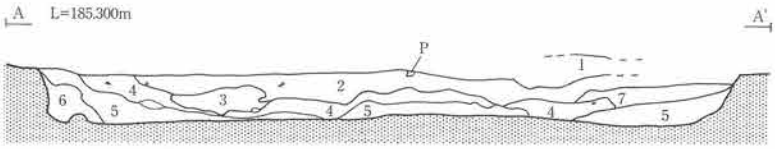
［ピット］本遺構から13基検出された。配置から本遺構に伴う柱穴と判断される。13基は壁際を巡るように配置されている。これらは炉が持つ主軸方向を中心にほぼ左右対称となっており、各柱穴の底部標高は平均で184.19mである。

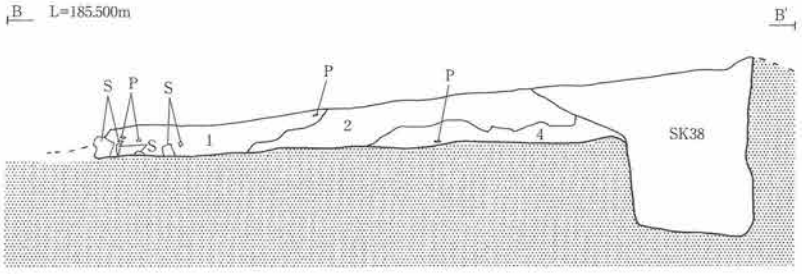
［炉］床面の東壁寄りに1基検出した。炉の形態は複式炉であり、規模は長軸95cm・短軸75cmであり、燃焼部は小規模に作られている。炉内は燃焼部の一部と前庭部内東側が赤褐色に被熱しており、被熱深度は約6～8cmである。また、炭化物層が確認できる。

［小結］本遺構は複式炉を1基設置する竪穴住居跡で、SI34・35竪穴住居跡と重複している中で、最も新期

SI33・SI34・SI35



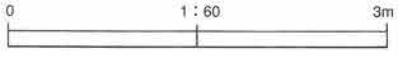




SI36
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
To-Cu2% 2～3%散石
2 10YR4/6 褐色 シルトと10YR4/4褐色シルトの混合
10YR5/8黄褐色粘土質シルト小ブロック5cm少量以上散在 To-Cu1% 炭化物1%
3 10YR5/8 黄褐色 粘土質シルト(地山)ブロックと10YR3/4暗褐色シルトの混土
粘性弱 しまり中 流れ込みによる地山堆積層
4 10YR3/4 暗褐色と10YR2/3黒褐色シルトの混合土
含10YR6/8明黄褐色粘土質小ブロック少量、To-Cu2%、 炭化物2%
5 10YR3/4 暗褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
含10YR6/8明黄褐色粘土質シルト小ブロック(φ1cm以下)少量1% To-Cu1%
6 地山層(壁)
7 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
To-Cu1%

SI33・34・35 ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	14	7	18	184.22
p2	35	25	10	184.24
p3	37	18	9	184.24
p4	32	27	23	184.14
p5	22	13	33	183.94
p6	23	16	32	184.10
p7	15	2	19	184.23
p8	36	12	46	183.93
p9	33	21	27	184.15
p10	30	15	65	183.76
p11	26	19	22	184.19
p12	24	10	38	184.02
p13	26	14	15	184.28
p14	32	16	60	183.77
p15	37	27	21	184.17
p16	30	24	23	184.14
p17	25	16	26	184.12
p18	30	15	18	184.19
p19	20	10	14	184.28
p20	40	19	47	183.95
p21	23	3	29	184.09
p22	25	14	22	184.10
p23	16	15	16	184.21
p24	11	3	13	184.37
p25	18	6	12	184.34
p26	18	5	22	184.25
p27	13	9	20	184.25
p28	12	7	31	184.16
p29	21	12	23	184.21
p30	28	13	26	184.12
p31	27	17	19	184.09
p32	15	4	23	184.12
p33	22	15	15	184.18
p34	43	32	42	183.90
p35	17	4	20	184.10



第37図 SI33・34・35竪穴住居跡

の住居跡である。

遺物（第85・86・87・107・110・111図・写真図版78・79・84・92・93・103・104・105ほか）

［出土状況］住居跡覆土などから出土している。

［土器］№203～225。№203～212が覆土下位（3層）、№213～220が覆土、№221～225が覆土1層からの出土。

［石器］№477,501,502石鏃、№534楔形石器、№542,565,566スクレイパー類、№604,622,637～639,651,652,662二次加工ある剥片、№691～696,739微細剥離痕ある剥片、№781,805礫器類、№818,860,910,934,972～975,1023,1024,1044,1080,1111,1114～1124,1183,1222敲磨器類、№1285～1289,1324～1326台石類、№1335,1336礫石錘、№1398～1401,1460,1461自然礫。

時期　SI34・35竪穴住居跡との重複関係、炉の形態及び出土遺物から、縄文時代中期末葉に所属すると考えられる。（北田）

ＳＩ３４竪穴住居跡

遺構（第37～39図・写真図版40）

［位置・検出状況］ⅡB1d～2dグリッド付近に位置する。Ⅲ層地山直上で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約35cmの深さで、SI33竪穴住居跡炉を検出した。そして、この遺構の精査が終了した後、同プラン内床面の西側から焼土を確認したため、住居跡と判断して精査を進めた。また、この時点で同プラン内床面の東側がⅢ層地山面まで深さが後５cm程あることを確認しているため、下層に住居跡があることも予想された。

［重複関係］精査の結果、同プラン内でSI33竪穴住居跡とSI35竪穴住居跡の２棟と重複していることが分かった。本遺構はＳＩ３３竪穴住居跡に切られており、下層のSI35竪穴住居跡を切っている。なお、同プラン内での「建て替え」である可能性があるが、炉を作り替えている場合は、それを１遺構として処理しているため、ここでは分けて扱う。また、北側でSI38竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。

［規模・平面形］長軸方向で約555cm、短軸方向で約495cmの円形プランを呈する。深さは約35～40cm、床面積は20.1㎡である。

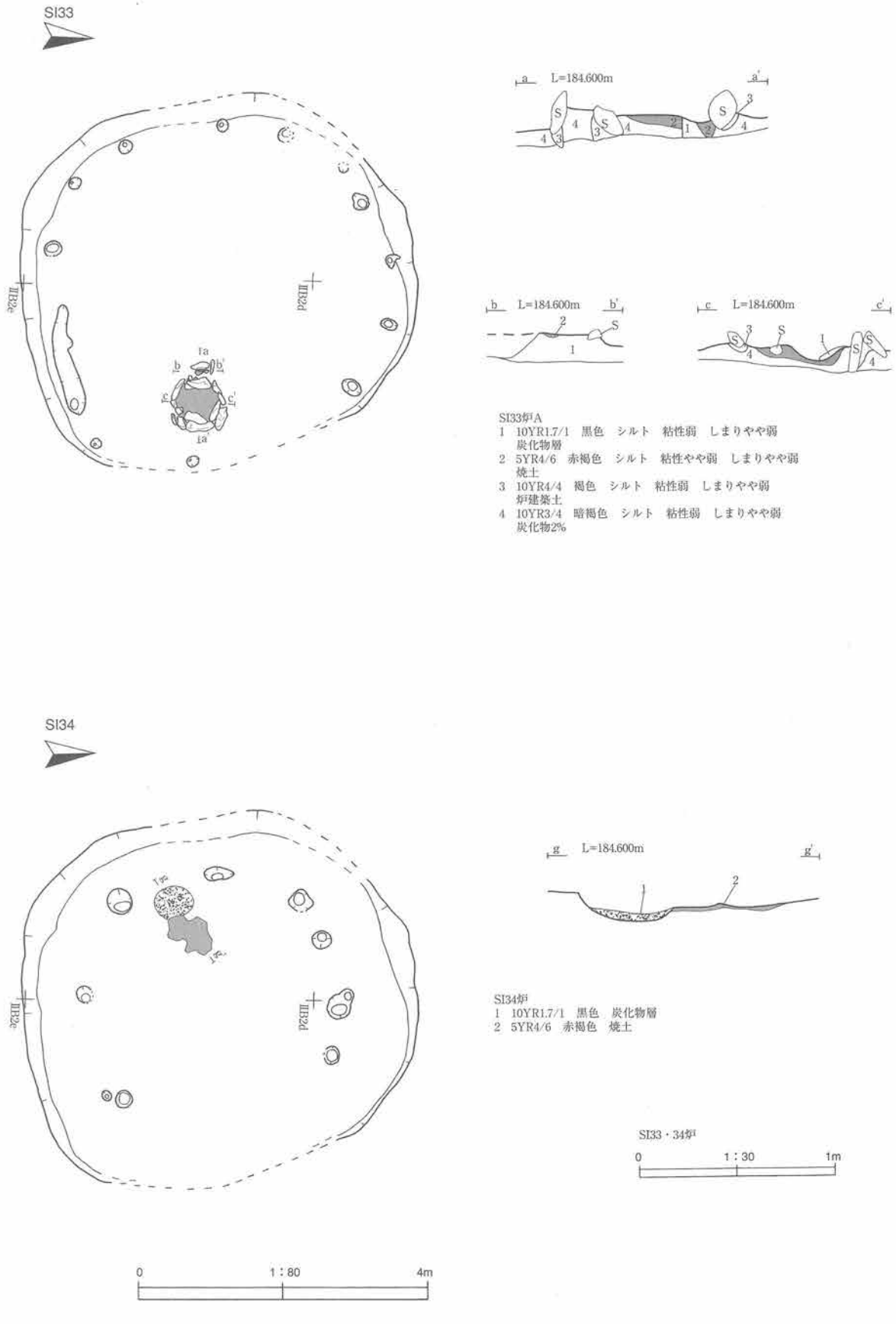
［主軸方向］炉の向きと柱穴配置から判断される主軸方向は、N-62°-Eである。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。下部はSI35竪穴住居跡の覆土と考えられ、区分される。覆土中に明黄褐色の十和田中掫火山灰と考えられる混入物が微量と炭化物が微量観察される。

［壁・床面］壁高は西壁34cm・南壁42cm・北壁30cmであり、東壁は削平の影響を受け、残存していない。壁は床面から外傾しながら急斜度に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、構築時の掘り込みは西側ではⅢ層黄褐色粘土質土層まで行われているが、東側は旧炉跡（SI35竪穴住居跡炉）を廃棄した後、意図的に暗褐色土で埋められている。

［ピット］本遺構から９基検出された。配置から本遺構に伴う柱穴と判断される。９基は壁際を巡るように配置されている。これらは炉が持つ主軸方向を中心にほぼ左右対称となっており、各柱穴の底部標高は平均で183.97mである。なお、東側の斜面下方は削平のためか検出できなかった。

［炉］床面の西壁寄りに１基検出した。炉を検出した段階では「炉穴」のような形状であったが、被熱面と炭化面の位置から炉石を廃棄した後の複式炉と考えられる。規模は長軸107cm・短軸50cmである。炉内は燃焼部が赤褐色に被熱しており、被熱深度は約２cmである（強変）。また、前庭部が炭化層を呈している（深



第38図　SI33・34・35竪穴住居跡（2）

さ約４cm)。

[小結] 本遺構は石組を外した複式炉を１基設置する竪穴住居跡で、SI34・35竪穴住居跡と重複している中で、中間期の住居跡である。

遺物（第83･84･85･111･112･115図・写真図版76･77･78･92･105･106･107ほか）

[出土状況] SI33竪穴住居跡と重複しているため、出土は床面レベルに限られる。

[土器] №190～202。№190が床面、その他は床面直上からの出土。

[石器] №541,564スクレイパー類、№603,621,650二次加工ある剥片、№688～690，738微細剥離痕ある剥片、№792礫器類、№861,909,970,971,1042,1043,1077～79,1110,1112,1113,1173,1221敲磨器類、№1273～1284,1290,1291,1322,1323台石類、№1348礫石錘。

時期　SI33・SI35竪穴住居跡との重複関係、炉の形態及び出土遺物から、縄文時代中期末葉に所属すると考えられる。（北田）

ＳＩ３５竪穴住居跡

遺構（第37～39図・写真図版40）

[位置・検出状況] ⅡB1d～2dグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約35cmの深さで、SI33竪穴住居跡炉を検出した。そして、この遺構の精査が終了した後、同プラン内床面の西側から焼土を確認したため、精査を実施した（SI34竪穴住居跡)。

上記の精査が終了した後、同プラン内床面の東側に残っていた暗褐色土を掘り下げたところ、炉石があることを確認したため、住居跡と判断して精査を進めた。

[重複関係] 精査の結果、同プラン内でSI33竪穴住居跡とSI34竪穴住居跡の２棟と重複していることが分かった。本遺構は両遺構に切られている。なお、同プラン内での「建て替え」である可能性があるが、炉を作り替えている場合は、それを１遺構として処理しているため、ここでは分けて扱う。また、北側でSI38竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。

[規模・平面形] 長軸方向で約555cm、短軸方向で約495cmの円形プランを呈する。深さは約40cm、床面積は20.1㎡である。

[主軸方向] 炉の向きと柱穴配置から判断される主軸方向は、S-64°-Wである。

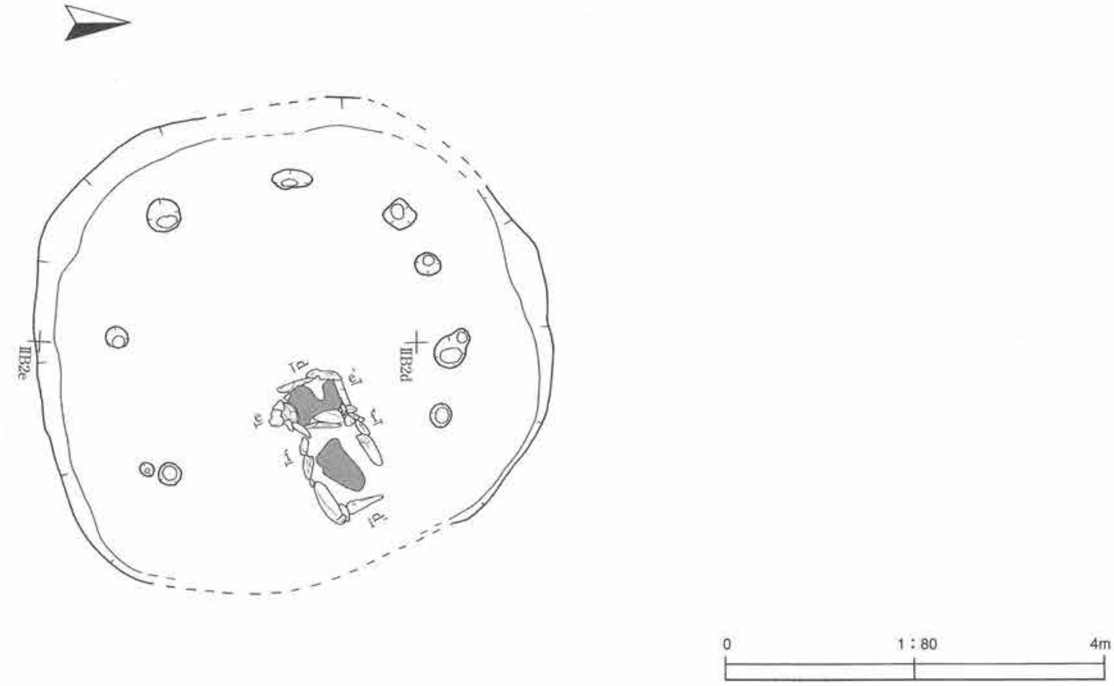
[覆土] 黒褐色土主体で構成される。上部はSI33・34竪穴住居跡の覆土と考えられ、区分される。覆土中に明黄褐色の十和田中掫火山灰と考えられる混入物が微量と炭化物が微量観察される。

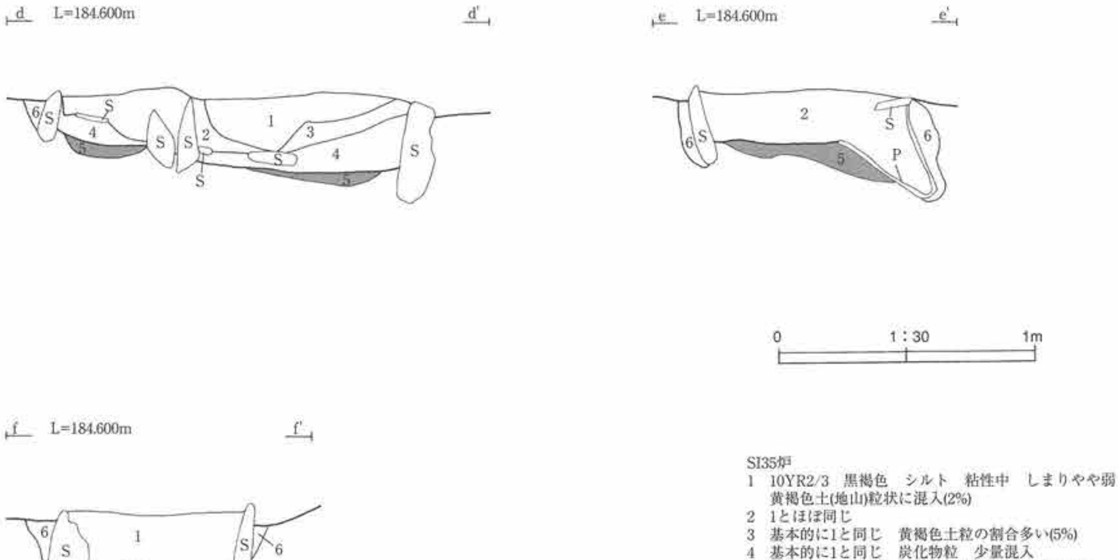
[壁・床面] 壁高は西壁34cm・南壁42cm・北壁30cmであり、東壁は削平の影響を受け、残存していない。壁は床面から外傾しながら急斜度に立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、若干、斜面下方の東側に向かって低く傾斜する。構築時の掘り込みは全体にⅢ層黄褐色粘土質土層まで行われている。

[ピット] 本遺構から９基検出された。配置から本遺構に伴う柱穴と判断される。10基は壁際を巡るように配置されている。これらは炉が持つ主軸方向を中心にほぼ左右対称となっており、各柱穴の底部標高は平均で183.97mである。なお、東側の斜面下方は削平のためか検出できなかった。また、柱穴はSI34竪穴住居跡と同一のものを使用していると考えられる。

[炉] 床面の東寄りに１基検出した。炉の形態は複式炉であり、規模は長軸150cm・短軸75cmである。炉内は燃焼部と前庭部の底面が赤褐色に被熱しており、燃焼範囲は42×30cm、被熱深度は約４cmである（強変)。

SI35





SI35炉
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
黄褐色土(地山)粒状に混入(2%)
2 1とほぼ同じ
3 基本的に1と同じ 黄褐色土粒の割合多い(5%)
4 基本的に1と同じ 炭化物粒 少量混入
5 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土粒・炭化物・地山ブロック混入
6 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
地山ブロック少量混入、炉構築土

第39図 SI33・34・35 竪穴住居跡（3）

また、燃焼部南側には土器が斜位に埋設されており、この土器の上部及び下部も赤褐色に強変するほどの被熱が見られた（被熱深度８cm）。また、土器内は黒褐色土が単一層で堆積しており、炭化物3.46gを含有していた。ここから検出した炭化物について放射性炭素年代測定を行っており（Ⅶ　自然科学分析　２．　放射性炭素年代測定）、ＡＭＳ法で補正年代4340年±40を得ている。土器は第Ⅲ類、大木10式相当に比定される(No.188)。

[小結] 本遺構は土器埋設複式炉を１基設置する竪穴住居跡で、SI34・35竪穴住居跡と重複している中で、最も古期の住居跡である。

遺物（第82･83･131図・写真図版77･78･92･106･121･127）

[出土状況] 住居跡炉、床面から出土している。

[土器] No.187～189。No.188が埋設土器、No.189が炉覆土、No.187が床面からの出土。

[石器] No.585スクレイパー類、No.996,1125敲磨器類。

時期　炉の形態及び炉埋設土器内の放射性炭素年代測定の結果から、縄文時代中期末葉に所属すると考えられる。　（北田）

ＳＩ３６竪穴住居跡

遺構（第40・41図・写真図版41）

[位置・検出状況] ⅡB2～3bグリッド付近に位置する。この遺構については、当初から調査区東側の斜面下方に民家が建てられている部分があり、その民家の裏手（調査区側）が2.5m程の深さで削平されていた。その削平断面に本遺構の断面プラン及び炉・焼土・埋設土器が露出した状態であった。そのため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約40cmの深さで床面に達した。想定した通り、露出していた炉・焼土・埋設土器が本遺構に伴うものと確認されたため、住居跡と判断し、精査を進めた。

[重複関係] 精査の結果、同プラン内で本遺構に伴う炉の床対面に時期の異なる炉が存在することが分かり(SI37竪穴住居跡炉)、これと重複していることが分かった。本遺構はこの遺構を切っている。なお、同プラン内での「建て替え」である可能性があるが、炉を作り替えている場合は、それを１遺構として処理しているため、ここでは分けて扱う。また、覆土上部にはSI28竪穴住居跡があるが、直接的な切り合い関係はない。また、南側ではSI38竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。これ以外にSK28・29・34・48・49・50土坑と重複関係にあるが、いずれにも本遺構が切られている。

[規模・平面形] 規模はいずれも残存値で、長軸方向で約(590)cm、短軸方向で約(530)cmの円形プランを呈する。深さは約40cm、床面積は(19.0)㎡である。

[主軸方向] 炉の向きと柱穴配置から判断される主軸方向は、N-50°-Wである。

[覆土] 地山再堆積層を中間層として挟み、上下２層で構成される。上層は暗褐色土を主体し、明黄褐色粒土（十和田中掫火山灰と考えられる）微量と炭化物が微量含まれる。下層は黒褐色土を主体とし、明黄褐色粒土（十和田中掫火山灰と考えられる）微量と炭化物が微量含まれる。上下２層に挟まれる形で堆積している黄橙色粘土質土は、再堆積層と観察され、おそらく近接する他遺構から掘り上げられた土を投げ込んだものと考えられる。

[壁・床面] 壁高は西壁25cm・南壁15cm・北壁23cmであり、東壁は削平の影響を受け、残存していない。壁は床面から外傾しながら急斜度に立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、若干、斜面下方の東側に向かって

低く傾斜する。構築時の掘り込みは全体にⅢ層黄褐色粘土質土層まで行われている。

［ピット］本遺構から16基検出された。配置から一部は本遺構に伴う柱穴と判断される。10基は壁際を巡るように配置されているが、他の６基は不規則である。壁際を巡る柱穴は炉が持つ主軸方向を中心にほぼ左右対称となっており、各柱穴の底部標高は平均で184.28ｍである。なお、東側の斜面下方は削平のためか検出できなかった。また、柱穴はSI37竪穴住居跡と同一のものを使用していると考えられる。

［炉］床面の東寄りに１基検出した。炉の形態は複式炉であり、規模は長軸200cm・短軸90cmである。炉内は燃焼部の底面が赤褐色に被熱しており、燃焼範囲は40×40cm、被熱深度は約８cmである（強変）。また、燃焼部南東側には土器が斜位に埋設されており、この土器の上部及び下部も赤褐色に強変するほどの被熱が見られた（被熱深度６cm）。また、土器は調査以前から露出した状態にあったため、含有物などは検出できなかった。土器はⅢ群に比定される（No.226）。

［小結］本遺構は土器埋設複式炉を１基設置する竪穴住居跡で、SI37竪穴住居跡の炉対面に新しい炉を作り替えている。SI37竪穴住居跡よりも新期の住居跡である。

遺物（第88･89図・写真図版79･80･81･93ほか）

［出土状況］住居跡炉、床面、覆土などから出土している。

［土器］No.226～244。No.226が炉埋設土器、No.227,228が炉覆土、No.229,230が床面、No.231床直上、No.232～235が覆土3層、No.236～244が覆土からの出土。

［石器］No.478石鏃、No.530石匙、No.543,567スクレイパー類、No.623～625,653二次加工ある剥片、No.697,698,740,741微細剥離痕ある剥片、No.761磨製石斧、No.793礫器類、No.819,862,863,976,977,997,1045,1126～1133敲磨器類、No.1292台石類、No.1337礫石錘。

［石製品］No.1476石剣。

時期　他遺構との重複関係と炉の形態及び出土遺物から、縄文時代中期末葉に所属すると考えられる。

（北田）

ＳＩ３７竪穴住居跡

遺構（第40・41図・写真図版44）

［位置・検出状況］ⅡB2～3bグリッド付近に位置する。この遺構については、当初から調査区東側の斜面下方に民家が建てられている部分があり、その民家の裏手（調査区側）が2.5ｍ程の深さで削平されていた。その削平断面に本遺構の断面プラン及びSI36竪穴住居跡の炉・焼土・埋設土器が露出した状態であった。そのため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約40cmの深さで床面に達した。本遺構に伴う炉は検出したSI36竪穴住居跡の床対面に位置し、先行して精査を行っていたSI34竪穴住居跡と同一の性格を有するものと考え、住居跡と判断し精査を進めた。

［重複関係］精査の結果、同プラン内で本遺構に伴う炉の床対面に時期の異なる炉が存在することが分かり(SI36竪穴住居跡炉)、これと重複していることが分かった。本遺構はこの遺構に切られている。なお、同プラン内での「建て替え」の可能性があるが、炉を作り替えている場合は、それを１遺構として処理しているため、ここでは分けて扱う。また、覆土上部にはSI28竪穴住居跡があるが、直接的な切り合い関係はない。また、南側ではSI38竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。これ以外にSK28・29・34・48・49・50土坑と重複関係にあるが、いずれにも本遺構が切られている。

［規模・平面形］規模はいずれも残存値で、長軸方向で約(590)cm、短軸方向で約(530)cmの円形プランを呈す

る。深さは約40cm、床面積は(19.0)㎡である。

[主軸方向] 炉の向きと柱穴配置から判断される主軸方向は、S-50°-Eである。

[覆土] 地山再堆積層を中間層として挟み、上下2層で構成される。上層は暗褐色土を主体し、明黄褐色粒土（十和田中掫火山灰と考えられる）微量と炭化物が微量含まれる。下層は黒褐色土を主体とし、明黄褐色粒土（十和田中掫火山灰と考えられる）微量と炭化物が微量含まれる。上下2層に挟まれる形で堆積している黄橙色粘土質土（ローム土）は、再堆積層と観察され、おそらく近接する他遺構から掘り上げられた土を投げ込んだものと考えられる。

[壁・床面] 壁高は西壁25cm・南壁15cm・北壁23cmであり、東壁は削平の影響を受け、残存していない。壁は床面から外傾しながら急斜度に立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、若干、斜面下方の東側に向かって低く傾斜する。構築時の掘り込みは全体にⅢ層黄褐色粘土質土層まで行われている。

[ピット] 本遺構から16基検出された。配置から一部は本遺構に伴う柱穴と判断される。10基は壁際を巡るように配置されているが、他の6基は不規則である。壁際を巡る柱穴は炉が持つ主軸方向を中心にほぼ左右対称となっており、各柱穴の底部標高は平均で184.28mである。なお、東側の斜面下方は削平のためか検出できなかった。また、柱穴はSI36竪穴住居跡と同一のものを使用していると考えられる。

[炉] 床面の北西寄りに1基検出した。炉を検出した段階では「炉穴」のような形状であったが、被熱面と炭化面の位置から炉石を廃棄した後の複式炉と考えられる。規模は長軸130cm・短軸30cmである。炉内は燃焼部及び前庭部の一部と考えられる部分が赤褐色に被熱しており、被熱深度は約3cmである（強変）。また、前庭部付近が炭化層を呈している（深さ約8cm）。

[小結] 本遺構は複式炉を1基設置する竪穴住居跡で、SI36竪穴住居跡を作り替える以前の住居跡であり、SI37よりも古期の炉を設置する住居跡である。

遺物

[出土状況] SI36竪穴住居跡と重複しており、本遺構は切られているため、遺物は出土していないが、SI36竪穴住居跡から出土しているものに本遺構に伴う遺物が存在する可能性がある。

[土器] なし。

[石器] なし。

時期　他遺構との重複関係と炉の形態から、縄文時代中期末葉に所属すると考えられる。　（北田）

ＳＩ３８竪穴住居跡

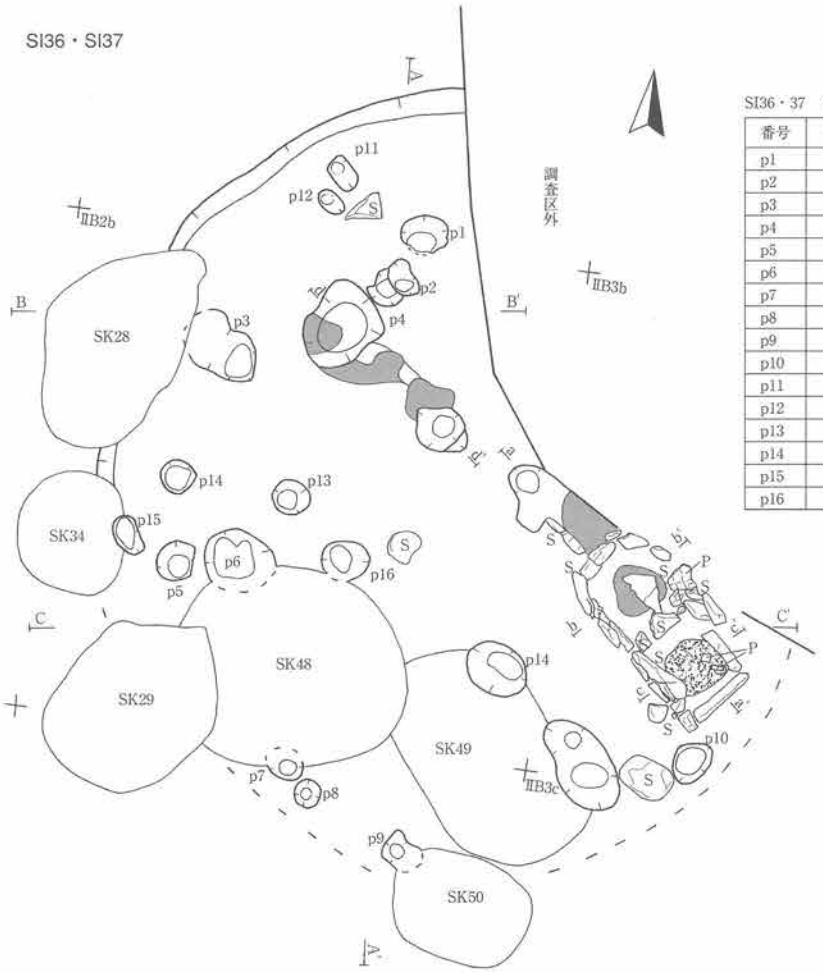
遺構（第42図・写真図版42）

[位置・検出状況] ⅡB2cグリッド付近に位置する。Ⅲ層上面で遺構検出を実施したところ、黒褐色土が円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約35cmの深さで床面に達した。また、遺構推定範囲中央の巨礫に挟まれる形で、焼土を確認したため、住居跡と判断し、精査を進めた。

[重複関係] 北側でSI36・37竪穴住居跡、南側でSI33・34・35竪穴住居跡、西側でSK29土坑と重複しており、それぞれに切られている。

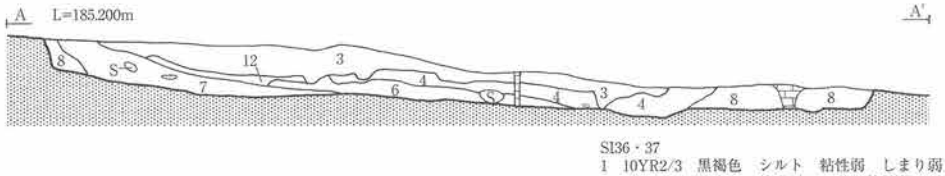
[規模・平面形] 規模は不明であるが、同形の住居跡プランなどから円形プランを呈すると考えられる。深さは約40cm、床面積は不明である。

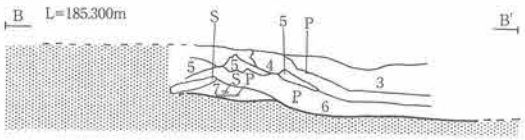
[主軸方向] 不明である。

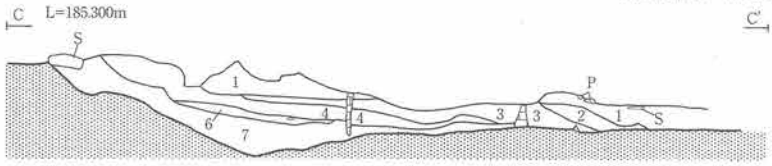


SI36・37　ピット計測表

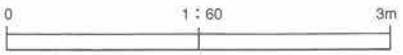
番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高（m）
p1	32	15	58	184.09
p2	31	7	23	184.39
p3	38	27	75	183.93
p4	25	21	7	184.52
p5	30	16	52	184.16
p6	55	31	70	183.94
p7	30	22	13	184.37
p8	22	8	23	184.27
p9	31	12	18	184.23
p10	36	23	24	184.26
p11	27	10	45	184.30
p12	21	9	37	184.39
p13	27	13	32	184.30
p14	50	28	59	183.74
p15	32	25	29	184.39
p16	37	17	75	183.79



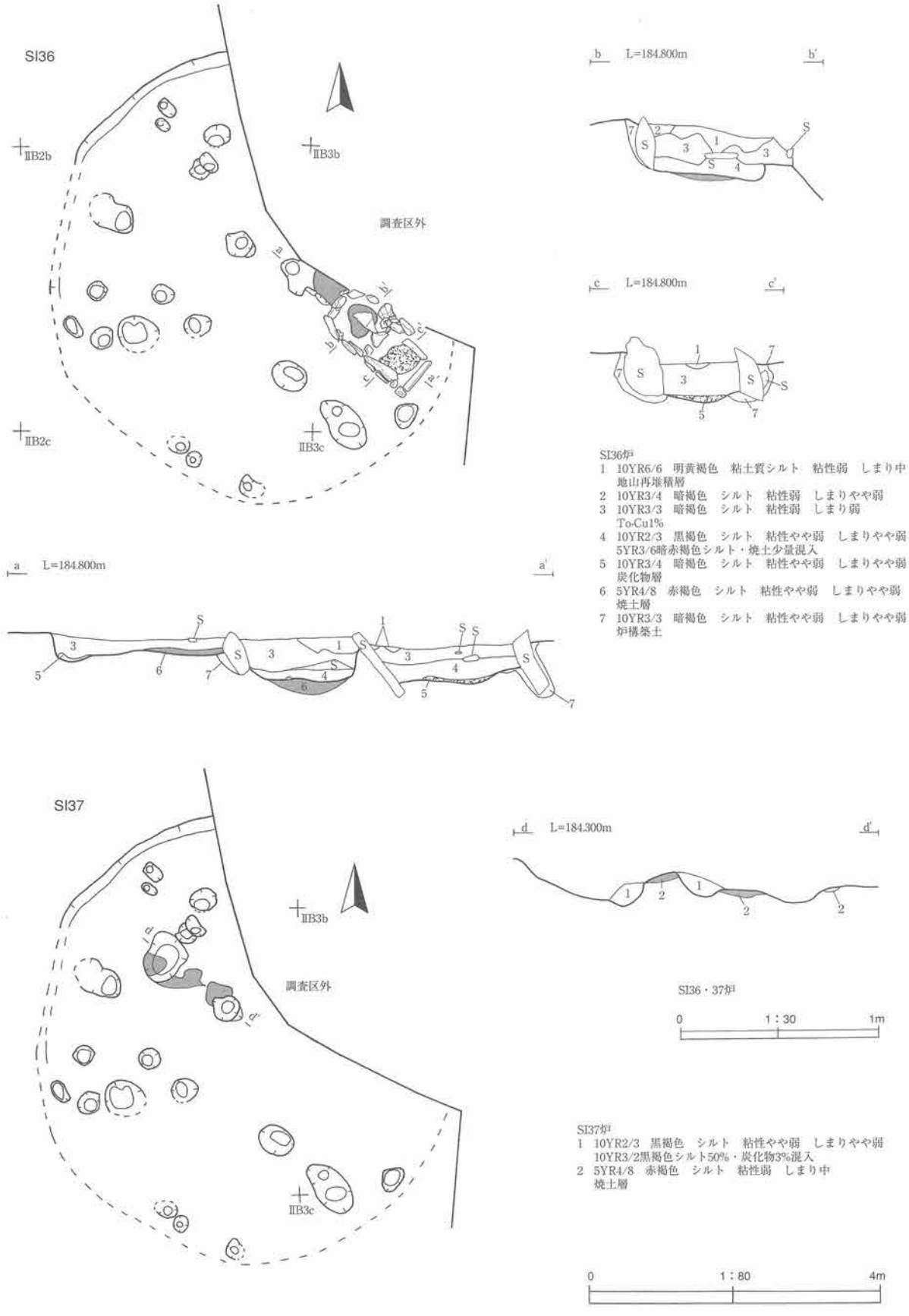




SI36・37
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性弱　しまり弱　耕作土
2　10YR5/6　黄褐色　粘土質シルト　粘性弱　しまりやや弱
　10YR4/4褐色シルト少量混入、耕作土漸移層
3　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　含10YR6/6明黄褐色粘土質シルトを微量含む　炭化物1%　To-Cu1%
4　10YR7/8　黄橙色　粘土質シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　地山再堆積層　10YR3/4暗褐色シルト1%
5　10YR5/6　黄褐色　粘土質シルト　粘性弱　しまりやや弱
　地山再堆積層
6　10YR2/2～2/3　黒褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　含10YR6/6明黄褐色粘土質シルトを微量含む　炭化物1%　To-Cu1%
7　10YR4/4褐色シルト10YR2/2黒褐色シルトの混合土
8　10YR5/4　にぶい黄褐色粘土質シルトと10YR6/6明黄褐色粘土質シルトの混合土
　地山再堆積層　粘性やや弱　しまりやや弱



第40図　SI36・37竪穴住居跡（1）



第41図 SI36・37 竪穴住居跡（2）

[覆土] 黒褐色土主体で構成される。覆土中に炭化物が微量観察される。
[壁・床面] 調査区東側の斜面下方は削平のため残存しておらず、また重複関係から残存している壁は西壁のみで壁高は24cmを測る。壁は床面から外傾しながら緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦であるが、若干、斜面下方の東側に向かって低く傾斜する。壁と同様に斜面下方は削平のため、残存しない。構築時の掘り込みは全体にⅢ層黄褐色粘土質土層まで行われている。
[ピット] 検出されなかった。
[炉] 遺構推定範囲の床面中央に1基検出した。炉の形態は地床炉であり、規模は長軸55cm・短軸30cmである。炉内は赤褐色に被熱しており、被熱深度は約5cmである（弱変）。また、大形の礫に挟まれて検出していることからこれらが石囲炉の炉石と同様の性格を持っていたと考えられる。
[小結] 遺構の規模・平面形など詳細は不明であるが、遺構推定範囲中央に大礫に挟まれた形で拡がる地床炉を確認したため、住居跡と認定した。
遺物（第90・126図・写真図版80・94・116）
[出土状況] 住居跡覆土などから出土している。
[土器] No.245～247。No.245,246が覆土、No.247が覆土上位からの出土。
[石器] No.864敲磨器類。
時期　他遺構との重複関係及び出土遺物から、縄文時代中期に所属すると考えられる。（北田）

ＳＩ３９竪穴住居跡

遺構（第42図・写真図版43）
[位置・検出状況] ⅡD6iグリッド付近に位置する。Ⅰ層耕作土除去を行った後、遺構検出を実施したところ、削平されたⅢ層上面の一部に残存する焼土跡及び確認した。この時点で覆土は失われており、壁の立ち上がりなど住居と判断する材料に欠けていたものの、焼土跡と出土遺物から住居跡と判断し、精査を行った。
[重複関係] 他遺構との重複関係はない。
[規模・平面形] 規模は削平の影響から不明である。平面形は不明確ながら、円形プランを呈すると考えられる。深さ及び床面積も不明である。
[主軸方向] 不明である。
[覆土] 削平の影響から不明である。
[壁・床面] 壁は削平されているため測ることはできない。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面はほぼ平坦であるが、東側に向かって低く傾斜する。
[ピット] 検出されなかった。
[炉] 遺構推定範囲の床面中央に2基検出した。炉の形態は地床炉であり、規模は長軸40cm・短軸18cmである。炉内は赤褐色に被熱しており、被熱深度は約4cmである（弱変）。また、長軸18cm・短軸13cm・深さ2cmの焼土跡が遺構推定範囲南東で検出されている。
[小結] 本遺構は中央に地床炉を2基持つ竪穴住居跡と考えられる。遺構の規模・平面形は削平により存在せず、推定となっている。
遺物（写真図版114・118・123）
[出土状況] 床面付近から出土している。
[土器] なし。

［石器］No.820,911,1046敲磨器類、No.1402自然礫。

時期　他遺構との重複関係から、縄文時代中期に所属すると考えられる。（北田）

ＳＩ４０竪穴住居跡

遺構（第43・44図・写真図版44）

［位置・検出状況］ⅡE6b～cグリッド付近に位置する。現況は農道部分で、Ⅰ層を除去したところ、Ⅲ層上面で黒褐色土が半円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約40cmの深さで床面に達した。また、焼土跡も合わせて確認したため、住居跡と判断して精査を進めた。また、同プラン内で石囲炉（SI41竪穴住居跡炉）を検出したことから、他遺構との重複関係も予想された。

［重複関係］精査の結果、ほぼ同一プラン内でSI41竪穴住居跡と重複していることが分かった。本遺構はこれを切っている。なお、同一プラン内での「建て替え」である可能性があるが、炉を作り替えている場合は、それを１遺構として処理しているため、ここでは分けて扱う。また、SK53土坑と重複しており、これに切られている。

［規模・平面形］規模はいずれも残存値で、長短軸約(550)cmの不整円形プランを呈すると考えられる。深さは約40cm、床面積は不明である。

［主軸方向］不明である。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。覆土中には小礫が少量観察される。

［壁・床面］壁高は残存値で西壁24cm・北壁10cmであり、東壁・南壁は削平の影響を受け残存していない。壁は床面から外傾しながら急斜度に立ち上がる。床面は調査区東側の斜面下方に向かって低く傾斜する。また、構築時の掘り込みは西側ではⅢ層黄褐色粘土質土層まで行われている。

［ピット］本遺構範囲内から７基検出された。配置から本遺構に伴う柱穴と判断される。７基は壁際を巡るように配置されている。これらは炉が持つ主軸方向を中心にほぼ左右対称となっており、各柱穴の底部標高は平均で179.64ｍである。

［炉］遺構推定範囲床面中央に１基検出した。炉の形態は土器埋設炉であり、規模は長軸90cm・短軸35cmである。炉はピット状に掘り込まれて作られており、その底面に土器底部（No.253・254）が埋設されている。検出状況では判断は難しいが、複式炉などの施設が作られていた可能性がある。被熱深度は約６cmで、弱変している。

［小結］本遺構は、土器埋設炉を１基持つ竪穴住居跡である。本来の調査区からは外れていたが、用地内であることから精査を行った。

遺物（第90図・写真図版85･94･101）

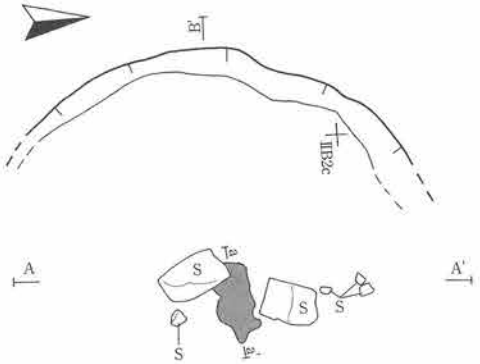
［出土状況］住居跡炉、覆土などから出土している。

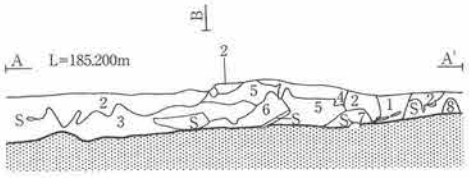
［土器］No.248～254。No.248,253,254が炉埋設土器、No.249～252が覆土からの出土。

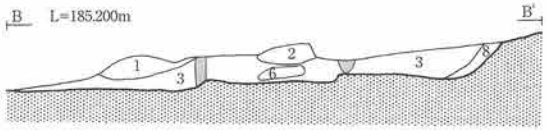
［石器］なし。

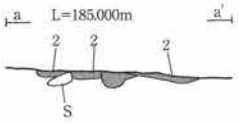
時期　炉の形態及び出土遺物から、縄文時代中期に所属すると考えられる。（北田）

SI38



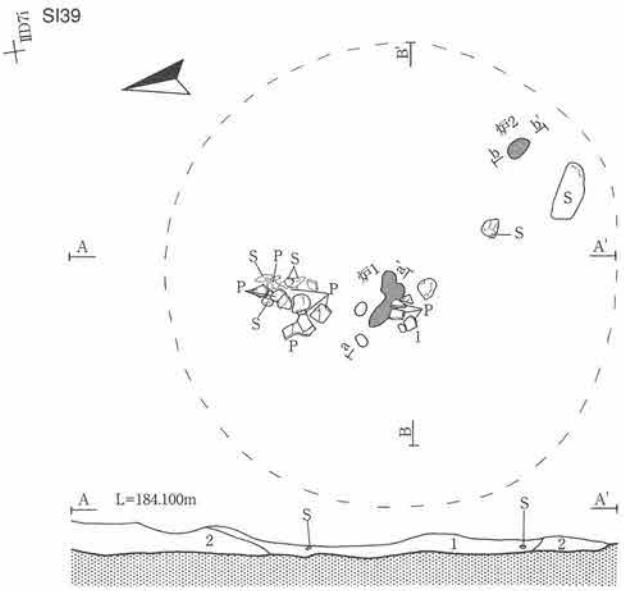


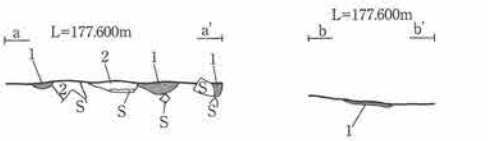




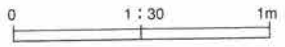
SI39 炉
1 5YR4/8 赤褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱
焼土
2 5YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱
焼土(1より薄い色まじっている)

SI39
1 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
2 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
炭化物少量
3 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
炭化物少量
4 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
10YR5/6粒 炭化物粒 微量
5 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
10YR5/6の粒が全体に霜降り状に混入
6 10YR3/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
7 10YR2/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
炭化物粒少量 焼土ブロック少量
8 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
10YR4/6 モヤ状に混入30%



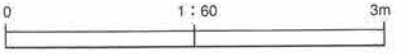


SI38・39 炉



SI39 炉1、2
1 10YR4/6 赤褐色 弱変焼土 粘性中 しまりやや強
2 10YR3/4 暗褐色 粘性中 しまり中
炭化物少量 地山粒少量混入

SI39
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
植根多い
2 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや強



第42図 SI38・39 竪穴住居跡

ＳＩ４１竪穴住居跡

遺構（第43・44図・写真図版44）

［位置・検出状況］ⅡE6b～cグリッド付近に位置する。現況は農道部分で、Ⅰ層を除去したところ、Ⅲ層上面で黒褐色土が半円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約40cmの深さで床面に達した。また、焼土跡（SI40竪穴住居跡炉）を確認したため、住居跡と判断して精査を進めた。この精査が終了した後に、同一プラン内で検出していた石囲炉（SI41竪穴住居跡炉）を住居跡の一部と判断して続けて精査を行った。

［重複関係］精査の結果、ほぼ同一プラン内でSI40竪穴住居跡と重複していることが分かった。本遺構はこれに切られている。なお、同一プラン内での「建て替え」である可能性があるが、炉を作り替えている場合は、それを１遺構として処理しているため、ここでは分けて扱う。また、SK53土坑と重複しており、これに切られている。

［規模・平面形］規模はいずれも残存値で、長短軸方向で約(400)cmの不整円形プランを呈すると考えられる。深さは約40cm、床面積は不明である。

［主軸方向］不明である。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。覆土中には小礫が少量観察される。

［壁・床面］壁高は残存値で西壁20cm・北壁７cmであり、東壁・南壁は削平の影響を受け残存していない。壁は床面から外傾しながら急斜度に立ち上がる。床面は調査区東側の斜面下方に向かって低く傾斜する。また、構築時の掘り込みは西側ではⅢ層黄褐色粘土質土層まで行われている。

［ピット］本遺構範囲内から５基検出された。配置から本遺構に伴う柱穴と判断される。５基はいずれも壁際を巡るように配置されている。これらは炉が持つ主軸方向を中心にほぼ左右対称となっており、各柱穴の底部標高は平均で179.90mである。

［炉］遺構推定範囲床面北東側に１基検出した。炉の形態は石囲炉であり、規模は長軸57cm・短軸40cmである。炉は崩れた状態で検出した。燃焼範囲は36×32cm、被熱深度は約４cmである（弱変）。

［小結］本遺構は、土器埋設炉を１基持つ竪穴住居跡である。本来の調査区からは外れていたが、用地内であることから精査を行った。

遺物

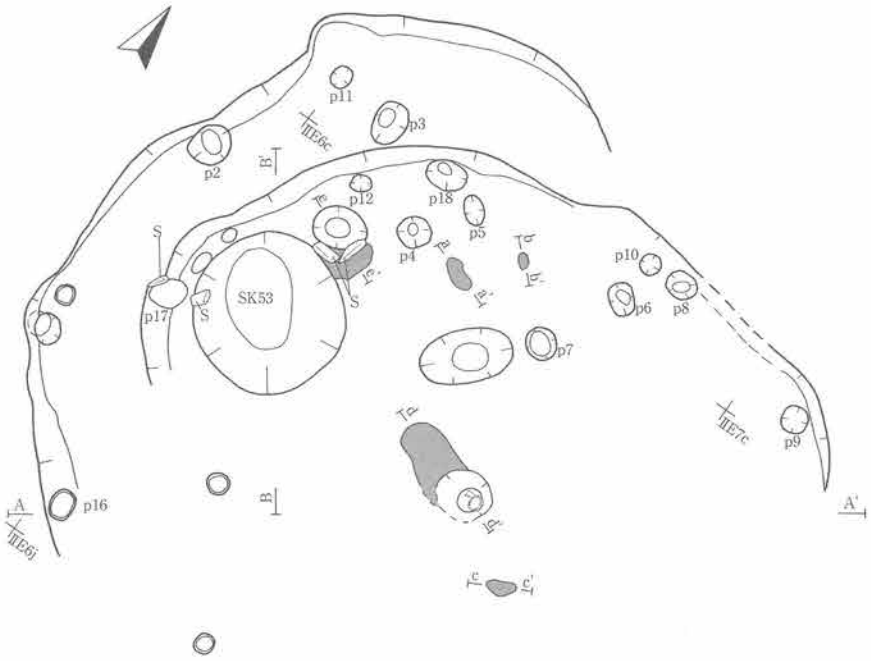
［出土状況］なし。

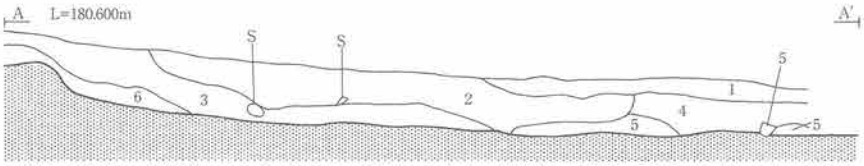
［土器］なし。

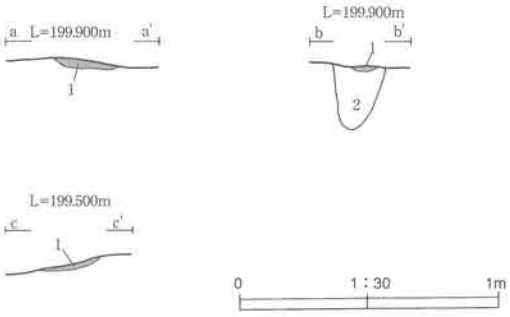
［石器］なし。

時期　炉の形態及び出土遺物から、縄文時代中期に所属すると考えられる。（北田）

SI40,SI41







SI42
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまる強
2 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
4 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや強
5 10YR3/4 暗褐色 シルト
地山ブロック30%混 炭化物1%混
6 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
地山粒1%混入

SI40・SI41(c-c')
1 5YR4/8 赤褐色 弱変焼土

SI40・SI41(d-d')
1 5YR4/8 赤褐色 弱変焼土
2 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
地山粒状に少量混入

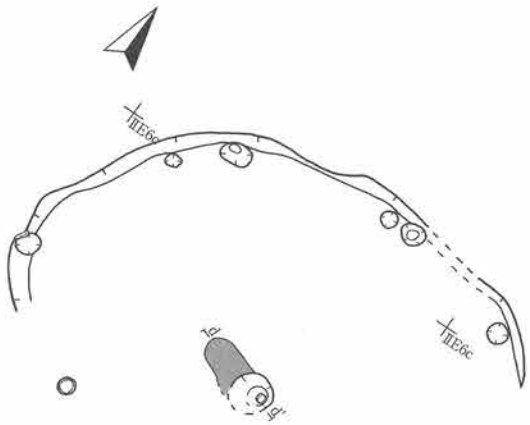
SI40・SI41(e-e')
1 5YR4/10 赤褐色 弱変焼土

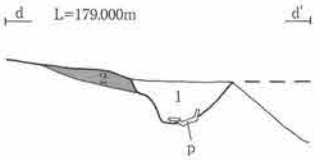
SI40・41 ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	23	18	48	179.66
p2	36	20	12	179.94
p3	35	14	24	179.87
p4	25	19	38	179.49
p5	25	8	40	179.47
p6	25	22	19	179.56
p7	27	20	9	179.67
p8	24	9	10	179.68
p9	21	11	22	179.43
p10	17	7	16	179.66
p11	19	9	7	180.10
p12	17	7	4	179.88
p13	16	11	15	179.99
p14	17	15	28	179.51
p15	17	14	8	179.70
p16	25	22	12	179.85
p17	30	12	29	179.65
p18	31	12	23	179.67

第43図 SI40・41 竪穴住居跡（1）

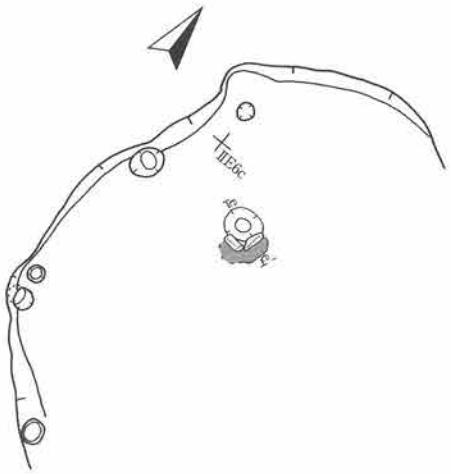
SI40

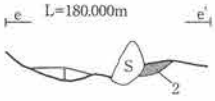




SI40 炉
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　しまり中
　弱焼土混じる
2　5YR4/8　赤褐色・焼土

SI41





SI41 炉
1　10YR2/1　黒色　シルト　粘性中　しまりやや弱
2　5YR4/8　赤褐色焼土

0　1：80　4m

SI40・SI41炉
0　1：30　1m

第44図　SI40・41竪穴住居跡（2）

（2）竪穴住居状遺構（ＳＸ）

計12基検出した。竪穴住居跡とほぼ同様の平面形を呈するが、炉や柱穴など住居跡を構成する要素に欠けている遺構を一括した。このなかには、炉を持たない住居跡と考えられる遺構も含んでいる。

竪穴住居状遺構を説明するために、住居跡とほぼ同様の項目について記載を行う（遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、遺構の規模及び平面形、覆土の状態、壁・底面の状態、遺構に伴うピット、出土遺物、推察される遺構の所属時期）。

第3表　竪穴住居状遺構一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)			床面積(m²)	平面形	柱穴		重複関係
				長軸	短軸	深さ			個数	配置	
SX	1	ⅠB8i	Ⅲ層上面	(400)	360	18	不明	円形	なし	—	SI21・SX03・04・08・SK20より新
SX	2	ⅠC9a	Ⅲ層上面	360	—	14	不明	不明	なし	—	SI18より新
SX	3	ⅠB8i	Ⅲ層上面	400	330	20	9.7	円形	10	円形(一部を除く)	SI21・SX01より古　SI18・26・SX04より新
SX	4	ⅠB9i	SI18覆土	440	410	35	13.3	円形	19	—	SI06・21・SX03より古　SI18・25・26より新
SX	5	ⅠB9h	Ⅲ層上面	不明	不明	24	不明	不明	1	—	SI18より新　SI15・26より古
SX	6	ⅠB10h	Ⅲ層上面	不明	不明	不明	不明	不明	なし	—	SI20より古
SX	7	ⅠC10f	Ⅲ層上面	350	不明	8	不明	不明	なし	—	SI04
SX	8	ⅠB8i	Ⅲ層上面	不明	不明	10	不明	不明	6	不規則	SI15・18より新　SX01・03より古
SX	9	ⅠB10d	SI27覆土	290	285	10	6.3	円形	なし	—	SI27より新
SX	10	ⅡB1e	SI27覆土	285	260	14	6.1	円形	なし	—	SI27より新
SX	11	ⅡE6e	Ⅲ層上面	370	350	50	3.2	円形	なし	—	SI31より古
SX	12	ⅡB3d	Ⅲ層上面	(475)	(200)	45	(4.0)	不明	4	不規則	なし

表3　竪穴住居状遺構（SX）一覧表

ＳＸ０１竪穴住居状遺構

遺構（第45図・写真図版45）

[位置・検出状況]　ⅠB8iグリッドに位置する。西壁付近をⅠ層直下のⅢ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。プランはSK20土坑の覆土内にあたり、全体に不明瞭である。

[重複関係]　南西側でSI21竪穴住居跡と、南東側でSX03・04竪穴住居状遺構と、東側がSI18竪穴住居跡と、全域がSK20土坑と重複しており、これらを切っている。

[規模・平面形]　規模は残存状態が不良のため、不明であるが推定値で長軸方向（400）cm、短軸方向（360）cmである。平面形は円形基調と推定される。

[覆土]　西側１／３程は、覆土を確認できず掘り下げてしまっているため不明である。他は黒褐色土主体で構成される。

[壁・底面]　壁は東半が残存しており、残存最厚部は18cm（北西側）を測る。構築時の掘り込みはSI21竪穴住居跡、SX03竪穴住居状遺構、SK20土坑の覆土中まで行われている。残存部の締まりは比較的軟質である。

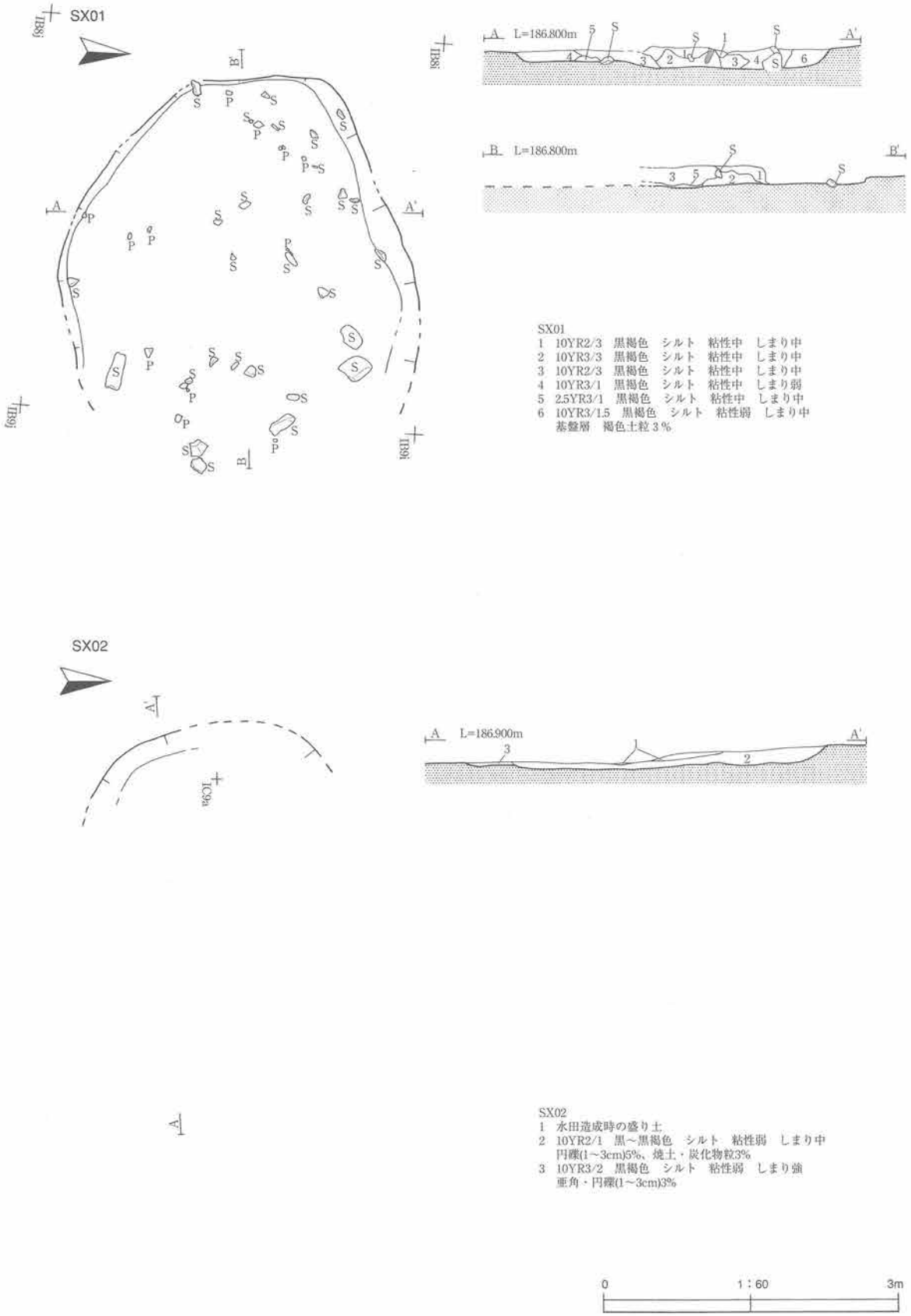
[ピット]　検出できなかった。

[小結]　規模・平面形など不明箇所が多く、竪穴住居状遺構として分類した。遺構の残存は削平・攪乱によりかなり悪い。

遺物（第90・126・129図・写真図版94・116・118・119・127・136）

[出土状況]　遺構底面、覆土から少量出土している。

[土器]　No.255～259。No.255～257が底面、そのほかは覆土からの出土。



第45図 SX01・02 竪穴住居状遺構

［石器］№865～867,912,935,1134,敲磨器類、№1294,1295台石類、№1403,1404,1462自然礫。
［石製品］№1494不明石製品。
時期　底面出土土器及び重複関係から、縄文時代中期中葉に想定される。（丸山）

ＳＸ０２竪穴住居状遺構

遺構（第45図・写真図版45）
［位置・検出状況］ＩC9aグリッド付近に位置する。グリッドラインに設定したベルト中で、西壁付近を黒褐色土の広がりとして検出した。それ以外の箇所は、攪乱及び掘りすぎにより検出できていない。
［重複関係］西壁付近以外の全域がSI18竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。
［規模・平面形］長軸方向で約（360）cm以上あり、それ以外の平面形は不明である。
［覆土］残存部は黒褐色土で構成される。
［壁・底面］壁は南西側の一部のみ検出され、残存最厚部は14cmを測る。構築時の掘り込みは西壁際でⅢ層まで、他はSI18竪穴住居跡覆土中まで行われている。底面はベルト部分が残存するのみで、締まりは比較的弱い。
［ピット］検出できなかった。
［小結］本遺構はSI18竪穴住居跡プランに重なる形で作られている。規模・平面形は不明箇所が多く、残存はかなり悪い。
遺物（第90図・写真図版94）
［出土状況］遺構底面、覆土から微量出土している。
［土器］№260～264。№260～262が底面、そのほかは覆土からの出土。
［石器］№1405自然礫。
時期　底面出土土器及び重複関係から、縄文時代中期末葉に所属すると考えられる。（丸山）

ＳＸ０３竪穴住居状遺構

遺構（第46図・写真図版46）
［位置・検出状況］ＩB8iグリッド付近に位置する。SX01竪穴住居状遺構精査後、黒褐色土の広がりとして検出した。
［重複関係］西側でSX01竪穴住居状遺構、南西側でSI21竪穴住居跡と重複しており、これらに切られている。南東側でSX04竪穴住居状遺構と、北東側でSI26竪穴住居跡と、ほぼ全域がSI18竪穴住居跡と重複しており、これらを切っている。
［規模・平面形］長軸方向が約400cm、短軸方向が約330cmの楕円形である。床面積は約9.7㎡である。
［覆土］黒褐色土主体で構成されるが、重複及び攪乱土の混入が著しい。
［壁・底面］壁は北東側１／３以外で残存しており、残存最厚部は28cm（南側）を測る。構築時の掘り込みはSX04竪穴住居状遺構、SI18・26竪穴住居跡の覆土中まで行われている。底面の締まりは比較的軟質である。
［ピット］10基検出された。中央は空白で壁際に寄っているが、間隔に規則性はみられない。
［小結］多くの遺構と重複関係にあり、時期が想定される。遺構の残存は比較的良好である。
遺物（第91・111・117・120・121・122図・写真図版94・105・108・112・139ほか）
［出土状況］遺構底面、覆土から多量に出土している。

［土器］No.265～268。すべて底面からの出土。

［石器］No.544スクレイパー類、No.654二次加工ある剥片、No.769,770打製石斧、No.777石鏃、No.794,795礫器類、No.868～873,913,1025,1026,1047,1135,1203敲磨器類、No.1296,1297,1327台石類、No.1360球石、No.1406～1410,1463自然礫。

時期　底面出土土器及び重複関係から、縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＸ０４竪穴住居状遺構

遺構（第46図・写真図版46）

［位置・検出状況］ＩB9iグリッド付近に位置する。SI06竪穴住居跡及びSX03竪穴住居状遺構精査後、黒褐色土の広がりとして検出した。

［重複関係］南西側でSI21竪穴住居跡、北西側でSX03竪穴住居状遺構、東側でSI06竪穴住居跡と重複しており、これらに切られている。また、北東側でSI26竪穴住居跡、南側でSI25竪穴住居跡、全域でSI18竪穴住居跡と重複し、これらを切っている。

［規模・平面形］長軸方向で約445cm、短軸方向で約410cmのほぼ円形を呈する。床面積は13.3㎡である。

［覆土］黒褐色土主体で構成されるが、重複及び攪乱土の混入が著しい。

［壁・底面］壁は概ね残存しているが南側の状態が良く、最厚部は35cmを測る。構築時の掘り込みはSI18竪穴住居跡の覆土中または床面（基本層序Ⅲ層）まで行われている。底面は全体的に堅緻であるが、SI18竪穴住居跡覆土にあたる部分は比較的締まりは軟質である。

［ピット］19基検出された。位置及び平面形等に規則性はみられない。

［小結］遺構底面から縄文時代前期の土器（Ⅱ群）を出土しているが、重複遺構に伴う遺物と考えられる。遺構の残存は良好である。

遺物（第91・108・120・127図・写真図版94・104・105・108・116・117・139ほか）

［出土状況］遺構底面、覆土から多量に出土している。

［土器］No.269,270。いずれも覆土からの出土。

［石器］No.516石匙、No.545スクレイパー類、No.634二次加工ある剥片、No.763磨製石斧、No.874～880,936,937,1027,1048,1068,1136,1194敲磨器類、No.1298～1301台石類、No.1411自然礫。

［石製品］No.1486玦状耳飾。

時期　重複関係などから、縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＸ０５竪穴住居状遺構

遺構（第20図・写真図版47）

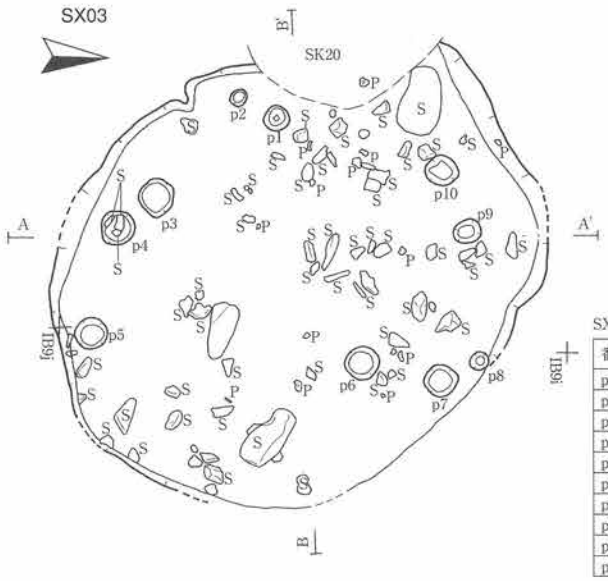
［位置・検出状況］ＩB9hグリッド付近に位置する。SI15竪穴住居跡精査後、黒褐色土の広がりとして検出した。重複が著しく、覆土の把握が困難だったため、確認できた範囲は北西壁付近の一部に限られる。

［重複関係］西側でSI15竪穴住居跡、南東側でSI26竪穴住居跡、南側でSI18竪穴住居跡と重複しており、これらを切っている。

［規模・平面形］ともに不明である。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。

［壁・底面］西側壁のみ残存しており、最厚部は24cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。



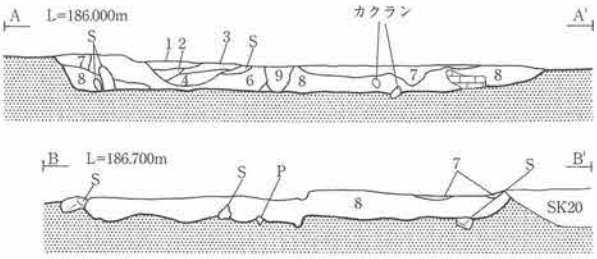
SX03
1 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり強
10YR4/6褐色粘土ブロック(2～3cm)5%、1cm以下の亜角礫3%、
焼土・炭化物粒1%
2 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり強
1層がブロック状に20% 混入物は1層と同じ
3 10YR2/1 黒～黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
2層 ブロック(1cm以下)1%
4 2層と3層の混土 粘性中 しまり中
5 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
6 4層と同じだが 1～3cmの亜角礫5%
7 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱
焼土・炭化物粒1%
8 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり弱
亜角礫(～1cm)、焼土・炭化物粒1%
9 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性中 しまり弱
亜角礫(～1cm)、焼土・炭化物粒1%以下

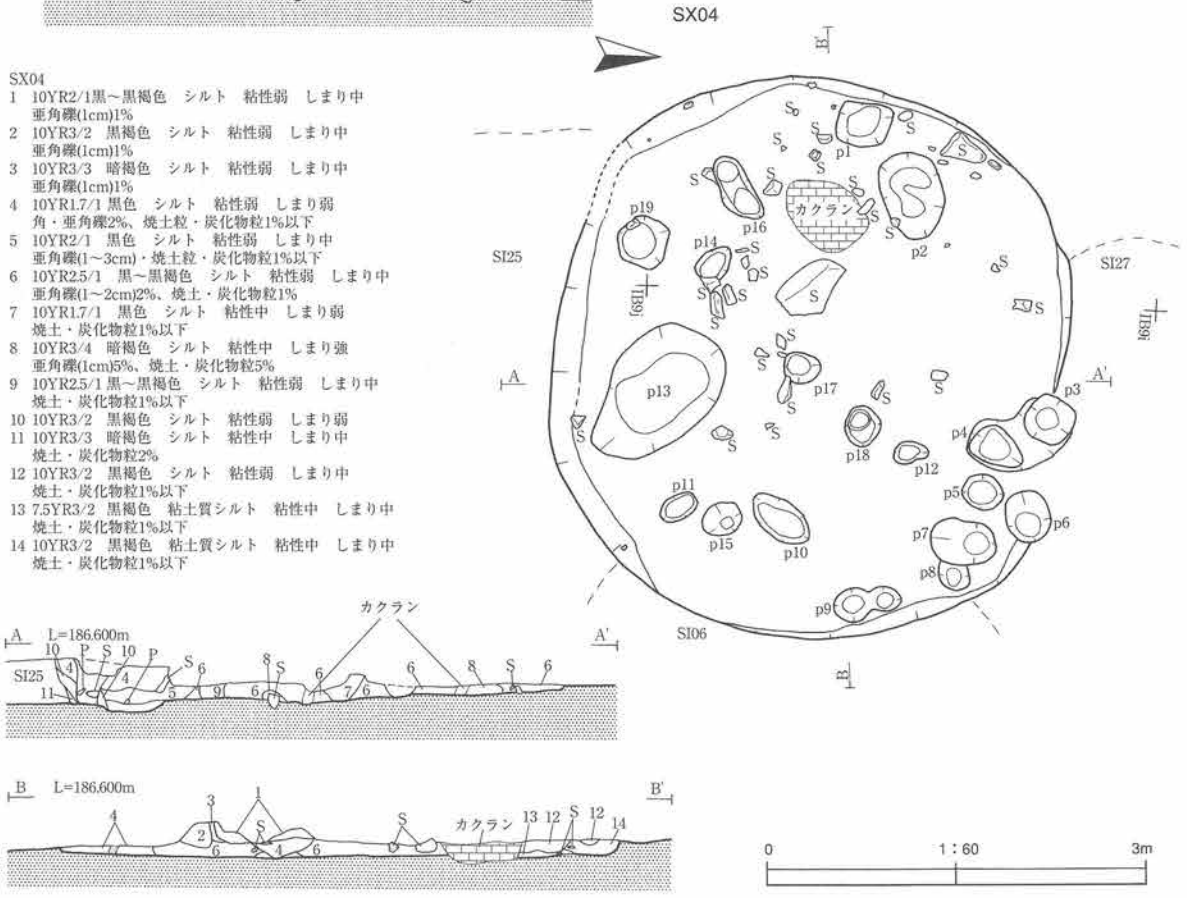
SX03 ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	20	14	5	186.17
p2	13	10	11	186.16
p3	30	23	11	186.14
p4	28	21	12	186.12
p5	26	17	17	186.03
p6	27	18	16	186.12
p7	27	17	24	186.00
p8	15	6	11	186.17
p9	22	13	5	186.22
p10	24	17	9	186.18

SX04 ピット計測表

番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
p1	41	31	24	185.72
p2	68	38	16	185.70
p3	37	16	19	185.80
p4	42	23	17	185.84
p5	34	21	31	185.65
p6	40	21	17	185.82
p7	53	19	23	185.72
p8	27	14	12	185.82
p9	54	16	25	185.70
p10	53	41	18	185.77
p11	31	25	11	185.89
p12	28	16	8	185.58
p13	126	77	17	185.74
p14	32	24	13	185.83
p15	32	10	11	185.72
p16	57	25	16	185.87
p17	29	17	8	185.84
p18	32	15	11	185.85
p19	39	28	13	185.85





SX04
1 10YR2/1黒～黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
亜角礫(1cm)1%
2 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
亜角礫(1cm)1%
3 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
亜角礫(1cm)1%
4 10YR1.7/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり弱
角・亜角礫2%、焼土粒・炭化物粒1%以下
5 10YR2/1 黒色 シルト 粘性弱 しまり中
亜角礫(1～3cm)・焼土粒・炭化物粒1%以下
6 10YR2.5/1 黒～黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
亜角礫(1～2cm)2%、焼土・炭化物粒1%
7 10YR1.7/1 黒色 シルト 粘性中 しまり弱
焼土・炭化物粒1%以下
8 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
亜角礫(1cm)5%、焼土・炭化物粒5%
9 10YR2.5/1黒～黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
焼土・炭化物粒1%以下
10 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
11 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土・炭化物粒2%
12 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
焼土・炭化物粒1%以下
13 7.5YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
焼土・炭化物粒1%以下
14 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
焼土・炭化物粒1%以下

第46図 SX03・04 竪穴住居状遺構

底面は堅緻である。

[ピット] 1基検出された。把握範囲が狭いため他は不明である。

[小結] 規模・平面形など不明な点が多く、遺構としての登録も考えたが、壁が残存していることからここに分類した。

遺物（第91図・写真図版81）

[出土状況] 遺構床面から微量出土している。

[土器] №271。床面からの出土。

[石器] なし。

時期　底面出土土器及び重複関係から、縄文時代中期に所属すると考えられる。（丸山）

ＳＸ０６竪穴住居状遺構

遺構（第24図）

[位置・検出状況] ＩB10hグリッド付近に位置する。表土直下のⅢ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] 西壁付近を除く大部分がSI20竪穴住居跡と重複しており、これに切られている。

[規模・平面形] ともに不明である。

[覆土] 残存部は黒褐色土で構成される。

[壁・底面] 残存する西壁は緩やかに立ち上がっているが、深さは不明である（未記録）。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。床面は残存せず不明である。

[ピット] 検出できなかった。

[小結] 規模・平面形など不明な点が多く、遺構としての登録も考えたが、壁が残存していることからここに分類した。

遺物（第91図・写真図版94･136）

[出土状況] 遺構底面から微量出土している。

[土器] №272，273。いずれも底面からの出土。

[石器] №1302,1303台石類。

時期　重複関係から、縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＸ０７竪穴住居状遺構

遺構（第47図・写真図版48）

[位置・検出状況] ＩC10fグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で暗褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] 西側でSI04竪穴住居跡と重複しているが、新旧関係は判別できない。

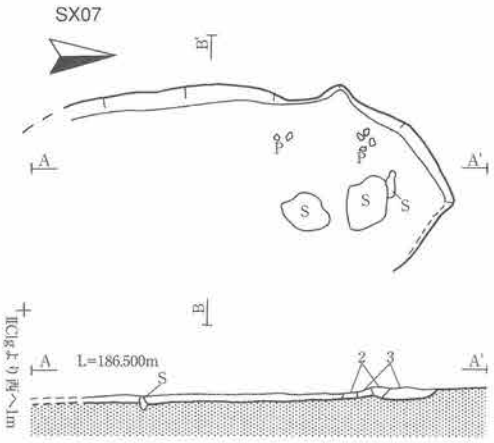
[規模・平面形] 長軸方向で約（350）cm以上あり、それ以外及び平面形は不明である。

[覆土] 暗褐色土主体で構成される。

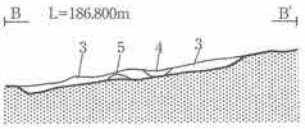
[壁・底面] 壁は西側が3ｍ程度残存しているが、最厚部でも8㎝を測るのみである。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。底面残存部は全体的に堅緻である。

[ピット] 検出されていない。

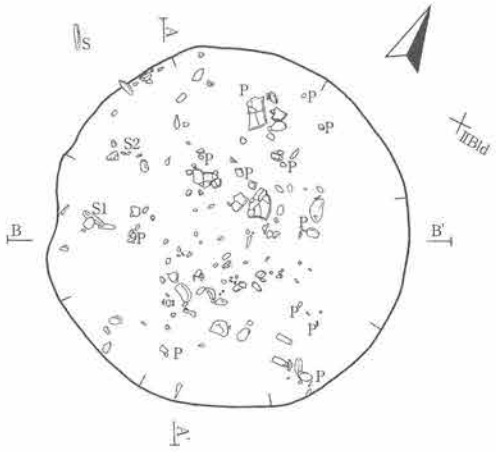
SX07

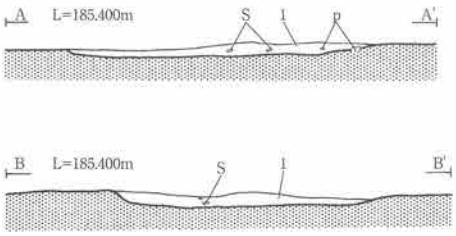


SX07
1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
炭化物粒1%
2 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり強
3 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
4 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
炭化物粒5%
5 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性強 しまり強
10YR4/6にぶい黄褐色土ブロック5%



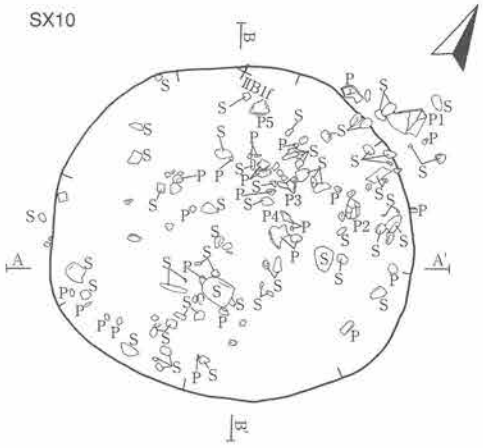
SX09

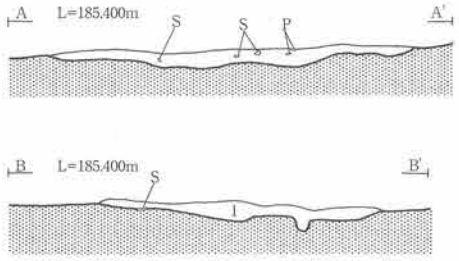


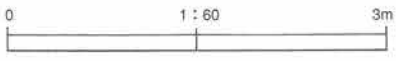


SI状09・10
1 10YR2/3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物3%混入 含10YR7/8黄橙色粘土質シルトブロック2%

SX10







第47図 SX07・09・10 竪穴住居状遺構

［小結］規模・平面形など不明な点が多く、遺構としての登録も考えたが、壁が残存していることからここに分類した。

遺物（写真図版136）

［出土状況］遺構から微量出土している。

［土器］なし。

［石器］No.1304,1305台石類。

時期　縄文時代と想定されるが、詳細は不明である。（丸山）

ＳＸ０８竪穴住居状遺構

遺構（第20図・写真図版48）

［位置・検出状況］ＩC8iグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。上部の大半が削平されており、南側は攪乱により消失している。

［重複関係］南側でSX01竪穴住居状遺構、SX03竪穴住居状遺構と重複しており、これらに切られている。北側でSI15竪穴住居跡、東側でSI18竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。

［規模・平面形］ともに不明である。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。

［壁・底面］壁は北西側１／３のみ残存し、残存最厚部は10cmを測る。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。南側は攪乱により残存しない。残存部は全体的に堅緻である。

［ピット］本遺構推定範囲内から６基検出された。配置及び深さに規則性は見られない。

［小結］規模・平面形など不明な点が多く、遺構としての登録も考えたが、壁が残存していることからここに分類した。

遺物（第113･128図・写真図版106･108･118･127･130･136･138）

［出土状況］遺構床面、覆土から出土している。

［土器］なし。

［石器］No.568スクレイパー類、No.635二次加工ある剥片、No.914,1137,1195敲磨器類、No.1306台石類、No.1362球石、No.1412自然礫。

時期　重複関係から、縄文時代中期に想定される。（丸山）

ＳＸ０９竪穴住居状遺構

遺構（第47図・写真図版49）

［位置・検出状況］ＩB10dグリッド付近に位置する。Ⅰ層を除去し、Ⅲ層上面で遺構検出を行ったところ、大形長方形プラン（SI27竪穴住居跡）の中に黒褐色土が円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約10cmの深さで底面に達した。しかし、底面が軟質であること、炉が存在しないことから竪穴住居状遺構と判断して精査を進めた。

［重複関係］SI27竪穴住居跡検出プラン内にあり、同遺構上部に存在する。よって、この遺構を本遺構が切っている。また、やや北西側でSK40土坑と重複しており、これに切られている。

［規模・平面形］長軸方向で約290cm、短軸方向で約285cmの円形プランを呈する。深さは残存値で約10cm、底面の面積は約6.3㎡である。

[覆土] 黒褐色土の単一層で構成される。覆土中には炭化物が少量観察される。

[壁・底面] 壁高は残存値で東壁(３)cm・西壁(10)cm・南壁(６)cm・北壁(７)cmであり、壁は底面から外傾しながら緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦であり、構築時の掘り込みは黒褐色土（ＳＩ２７竪穴住居跡覆土）まで行われている。

[ピット] 検出されなかった。

[小結] 遺構全体がSI27竪穴住居跡プランに入る形となっている。出土遺物は削平され少ないか、もしくは重複遺構と時期差があまりないと推察される。

遺物（第92･107･109･110図・写真図版94･103･104･110･139･117ほか）

[出土状況] 遺構底面、覆土から多量に出土している。

[土器] №274～278。№274が床面、そのほかは覆土からの出土。

[石器] №494石鏃、№526石匙、№535楔形石器、№699微細剥離痕ある剥片、№754アスファルト付着剥片、№771打製石斧、№881,978,1049～1051,1138～1140,1174,1198,1204,1207,1211,1231敲磨器類、№1307台石類、№1338,1339礫石錘。

[石製品] №1474石棒類。

時期　他遺構との重複関係及び出土遺物から、縄文時代前期後葉に所属すると考えられる。　（北田）

ＳＸ１０竪穴住居状遺構

遺構（第47図・写真図版50）

[位置・検出状況] ⅡB1eグリッド付近に位置する。Ⅰ層を除去し、Ⅲ層上面で遺構検出を行ったところ、大形長方形プラン（SI27竪穴住居跡）の中に黒褐色土が円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約14cmの深さで底面に達した。しかし、底面が軟質であること、炉が存在しないことから竪穴住居状遺構と判断して精査を進めた。

[重複関係] SI27竪穴住居跡検出プラン内にあり、同遺構上部に存在する。よって、この遺構を本遺構が切っている。

[規模・平面形] 長軸方向で約285cm、短軸方向で約260cmの円形プランを呈する。深さは残存値で約14cm、底面の面積は6.1㎡である。

[覆土] 黒褐色土の単一層で構成される。覆土中には炭化物が少量観察される。

[壁・底面] 壁高は残存値で東壁(８)cm・西壁(４)cm・南壁(５)cm・北壁(８)cmであり、壁は底面から外傾しながら緩やかに立ち上がる。底面はほぼ平坦であるが、一部で凸凹している。構築時の掘り込みは黒褐色土（ＳＩ２７竪穴住居跡覆土）まで行われている。

[ピット] 検出されなかった。

[小結] 遺構全体がSI27竪穴住居跡プランに入る形となっている。出土遺物は削平され少ないか、もしくは重複遺構と時期差があまりないと推察される。

遺物（第92･107･110･116図・写真図版95･103･104･107･113･114･117･127ほか）

[出土状況] 遺構底面、覆土から多量に出土している。

[土器] №279～283。№279が床面、そのほかは覆土からの出土。

[石器] №495,509石鏃、№528石匙、№626二次加工ある剥片、№809礫器類、№821,882,1141,敲磨器類、№1308台石類、№1340～1342,1349,1350礫石錘。

［石製品］No.1482円盤状石製品。

時期　他遺構との重複関係及び出土遺物から、縄文時代前期後葉に所属すると考えられる。　（北田）

ＳＸ１１竪穴住居状遺構

遺構（第48図・写真図版51）

［位置・検出状況］ⅡE6eグリッド付近に位置する。Ⅰ層を除去し、Ⅲ層上面で遺構検出を行ったところ、円形プランで黒褐色土の拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約50cmの深さで底面に達した。しかし、底面が皿状を呈していること、炉が存在しないことから竪穴住居状遺構と判断して精査を進めた。

［重複関係］北側でSI31竪穴住居跡と重複しており、これに切られている。また、覆土上部にSF01焼土遺構がある。

［規模・平面形］長軸方向で約370cm、短軸方向で約(350)cmの円形プランを呈する。深さは残存値で約50cm、底面の面積は約3.2㎡である。

［覆土］黒褐色土主体で構成され、下部は極暗褐色土を呈する。覆土中には小礫が少量観察される。

［壁・底面］壁高は西壁７cm・南壁22cmであり、東壁及び北壁は残存していない。壁は底面から外傾しながら緩やかに立ち上がる。底面は平坦な部分はわずかであり、全体に皿状を呈している。構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。

［ピット］検出されなかった。

［小結］底面が皿状を呈しており、最深部からの覆土は50cmを測り、非常に厚く堆積している。

遺物（第92図・写真図版95･118）

［出土状況］遺構覆土などから出土している。

［土器］No.284～286。いずれも覆土からの出土。

［石器］No.915敲磨器類、No.1413自然礫。

時期　他遺構との重複関係及び出土遺物から、縄文時代中期中葉に所属すると考えられる。　（北田）

ＳＸ１２竪穴住居状遺構

遺構（第48図・写真図版52）

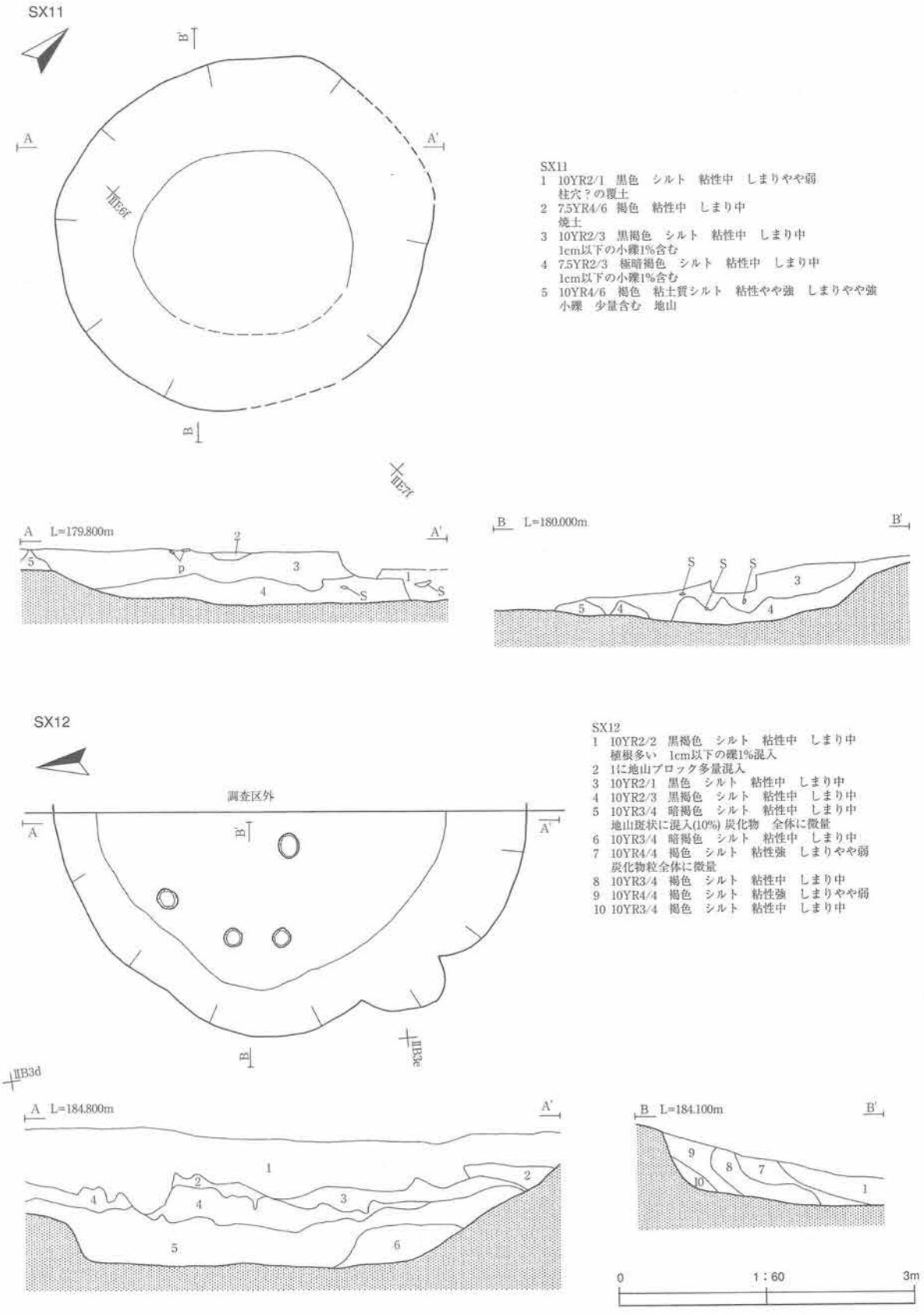
［位置・検出状況］ⅡB3dグリッド付近に位置する。Ⅰ層を除去し、Ⅲ層黄褐色粘土質土上面で遺構検出を行ったところ、黒褐色土が調査区外へと続く半楕円形プランで拡がりを見せたため、遺構を想定し、セクションベルトを設定して確認を行った。掘り下げの結果、検出面から約45cmの深さで底面に達した。しかし、炉が存在しないことから竪穴住居状遺構と判断して精査を進めた。

［重複関係］他遺構との重複関係はない。

［規模・平面形］規模は残存値で、長軸方向で約(475)cm、短軸方向で約(200)cmの隅丸方形プランを呈すると考えられる。深さは残存値で約45cm、底面の面積は約(4.0)㎡である。

［覆土］黒褐色土と褐色土の２層に大別され、上部は小礫を少量混入する黒褐色土、下部は炭化物を微量混入する褐色土を呈する。

［壁・底面］壁高は西壁48cmであり、東壁・南壁・北壁は残存していない。壁は底面から外傾しながらほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦である。また、構築時の掘り込みはⅢ層まで行われている。



SX11
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱
柱穴？の覆土
2 7.5YR4/6 褐色 粘性中 しまり中
焼土
3 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
1cm以下の小礫1%含む
4 7.5YR2/3 極暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
1cm以下の小礫1%含む
5 10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまりやや強
小礫 少量含む 地山

SX12
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
植根多い 1cm以下の礫1%混入
2 1に地山ブロック多量混入
3 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
4 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
5 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
地山斑状に混入(10%) 炭化物 全体に微量
6 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
7 10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまりやや弱
炭化物粒全体に微量
8 10YR3/4 褐色 シルト 粘性中 しまり中
9 10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまりやや弱
10 10YR3/4 褐色 シルト 粘性中 しまり中

第48図 SX11・12 竪穴住居状遺構

［ピット］ 4基検出しているが、規則性は見られない。

［小結］ 遺構東側は調査区外に延びるため、定かではないが、出土遺物が早期に限られることが特筆する事項である。

遺物（第92･105図・写真図版95･103）

［出土状況］ 遺構覆土上位から微量出土している。

［土器］ №287～289。いずれも覆土上位からの出土。

［石器］ №460尖頭器。

時期 出土遺物から、縄文時代早期中葉に所属すると考えられる。（北田）

（3）土坑（ＳＫ）

計54基検出した。土坑を説明するために、遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、遺構の形状及び規模、覆土の状態、出土遺物、推定される形成時期について記載を行う。

ＳＫ０１土坑（第49図・写真図版53）

［位置・検出状況］ ＩC8bグリッドに位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で検出した。

［重複関係］ なし。

［形状・規模］ 開口部径200cm×90cmの長方形を呈する。断面形は擂鉢形で深さ38cmを測る。ただし遺構上面は削平されている。

［覆土］ 暗褐色土主体で構成される。

［出土遺物］ なし。

［時期］ 時期は不明である。

ＳＫ０２土坑（第49図・写真図版53）

［位置・検出状況］ ＩC7bグリッドに位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で検出した。

［重複関係］ なし。

［形状・規模］ 開口部径76cm×63cmの円形を呈する。断面形はⅢ形であり、深さは20cmを測る。ただし遺構上面は削平されている。

［覆土］ 黒褐色土主体で構成される。

［出土遺物（第93図・写真図版85）］ №290土器が覆土から出土している。

［時期］ 縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ０３土坑（第49図・写真図版53）

［位置・検出状況］ ＩC9bグリッドに位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で検出した。

［重複関係］ SI01竪穴住居跡と重複し、本遺構が切られている。

［形状・規模］ 開口部径180×150cmの円形を呈する。断面形は擂鉢形を呈し、深さは65cmを測る。ただし遺構上面は削平を受けている。

［覆土］ 黒褐色土主体で構成される。

［出土遺物］ なし。

第4表　土坑一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)			平面形	断面形	覆土の状況	付属施設	所属時期	重複関係
				長軸	短軸	深さ						
SK	1	ⅠC8b	Ⅲ層上面	200	90	38	長方形	擂鉢形	2層構成	—	時期不明	—
SK	2	ⅠC7b	Ⅲ層上面	76	63	20	円形	皿形	2層構成	—	縄文時代	—
SK	3	ⅠC9b	Ⅲ層上面	180	150	65	楕円形	擂鉢形	6層構成	—	縄文時代	SI01より古
SK	4	ⅠC10c	Ⅲ層上面	170	165	107	円形	擂鉢形	8層構成	副穴1基	縄文時代	—
SK	5	ⅠC10b	Ⅲ層上面	145	125	67	楕円形	ビーカー形	7層構成	—	縄文中期	—
SK	6	ⅡD1b	Ⅲ層上面	185	181	75	円形	擂鉢形	8層構成	—	縄文中期以前	—
SK	7	ⅠC9i	Ⅲ層上面	161	145	65	円形	擂鉢形	6層構成	—	縄文前期	—
SK	8	ⅠB6j	Ⅲ層上面	75	66	80	円形	袋形	9層構成	—	縄文後期	—
SK	9	ⅠC9a	SI18床面	206	104	50	楕円形	擂鉢形	4層構成	—	縄文前期後葉以前	SI18より古
SK	10	ⅠB10j	Ⅲ層上面	170	80	48	楕円形	擂鉢形	4層構成	—	縄文時代	—
SK	11	ⅠC10b	Ⅲ層上面	163	144	77	円形	ビーカー形	7層構成	—	縄文前期後葉	—
SK	12	ⅡC1h	Ⅲ層上面	180	135	40	楕円形	皿形	7層構成	—	縄文時代	—
SK	13	ⅡD5a	Ⅲ層上面	185	160	82	円形	擂鉢形	8層構成	—	縄文時代	—
SK	14	ⅡD1c	Ⅲ層上面	275	130	125	楕円形	擂鉢形	9層構成	—	縄文時代	SI05・22より古
SK	15	ⅠC6b	SI24床面	265	100	93	楕円形	擂鉢形	6層構成	—	縄文前期後葉以前	SI24より古
SK	16	ⅠC7c	SI24床面	90	79	62	円形	袋形	5層構成	—	縄文前期後葉以前	SI24より古
SK	17	ⅠC6b	SI24床面	185	160	15	不整形	皿形	4層構成	—	縄文前期後葉以前	SI24より古
SK	18	ⅠC9e	Ⅲ層上面	810	670	80	円形	皿形	12層構成	—	縄文中期	—
SK	19	ⅠC10i	Ⅲ層上面	940	770	100	楕円形	皿形	—	—	縄文中期	—
SK	20	ⅠB8i	Ⅲ層上面	770	680	不明	楕円形	皿形	11層構成	—	縄文中期中葉	SI18より新　SI02・16・21・SX01・03・04・08より古
SK	21	ⅠB9c	Ⅲ層上面	95	95	60	円形	フラスコ形	7層構成	副穴1基	縄文時代	—
SK	22	ⅠB9b	Ⅲ層上面	162	159	20	円形	皿形	—	—	縄文時代	—
SK	23	ⅠB10b	Ⅲ層上面	126	115	22	円形	皿形	2層構成	—	縄文時代	SA02p3より古
SK	24	ⅡB1b	Ⅲ層上面	113	113	38	円形	皿形	3層構成	—	縄文中期末葉	SK25
SK	25	ⅡB1b	Ⅲ層上面	118	108	20	円形	皿形	3層構成	—	縄文時代	SK24
SK	26	ⅡA2h	SI29覆土	206	175	100	楕円形	擂鉢形	7層構成	—	縄文中期末葉以降	SI29より新
SK	27	ⅡB1e	SI27覆土	96	87	29	円形	擂鉢形	単一層	—	縄文前期後葉以降	SI27より新
SK	28	ⅡB2b	Ⅲ層上面	163	109	135	楕円形	ビーカー形	6層構成	—	縄文中期	SI36・37より新　SK30より古
SK	29	ⅡB2b	Ⅲ層上面	145	120	170	円形	ビーカー形	9層構成	—	縄文中期中葉	SI36・37より新
SK	30	ⅡB2b	Ⅲ層上面	87	78	42	円形	ビーカー形	2層構成	底面に焼土	縄文中期中葉	SK32 SI38
SK	31	ⅡE5f	Ⅲ層上面	177	140	96	楕円形	擂鉢形	—	—	縄文時代	—
SK	32	ⅠB8g	Ⅲ層上面	113	102	71	円形	ビーカー形	5層構成	—	縄文中期	—
SK	33	ⅡB2a	Ⅲ層上面	131	121	88	円形	ビーカー形	6層構成	副穴1基	縄文中期	SF02
SK	34	ⅡB2b	Ⅲ層上面	100	84	42	円形	ビーカー形	5層構成	—	縄文中期末葉	SI36・37より新
SK	35	ⅡB1a	Ⅲ層上面	86	82	48	円形	袋形	3層構成	副穴1基	縄文中期	SA03p4より古
SK	36	ⅠB10c	Ⅲ層上面	125	120	15	円形	皿形	単一層	—	縄文時代	SA01p4より古
SK	37	ⅡB1c	Ⅲ層上面	76	45	10	楕円形	皿形	—	—	縄文時代	—
SK	38	ⅡB1d	Ⅲ層上面	110	98	127	円形	ビーカー形	8層構成	—	縄文中期末葉	SI33～35より新
SK	39	ⅡB1c	Ⅲ層上面	118	111	139	円形	袋形	—	—	縄文中期末葉	SI33～35より新
SK	40	ⅠB10d	SI27床面	100	80	87	円形	ビーカー形	6層構成	—	縄文中期	SI27、SX09より新
SK	41	ⅡB1d	Ⅲ層上面	102	97	62	円形	擂鉢形	4層構成	—	縄文中期	SA02p4
SK	42	ⅡE5d	Ⅲ層上面	239	226	105	円形	擂鉢形	3層構成	—	縄文時代	—
SK	43	ⅡA2f	Ⅲ層上面	165	152	120	円形	袋形	5層構成	—	縄文時代	—
SK	44	ⅡB1c	Ⅲ層上面	125	95	10	不整形	皿形	単一層	底面に炭化物	縄文中期	SI27より新
SK	45	ⅡB3c	Ⅲ層上面	130	122	40	楕円形	皿形	5層構成	—	縄文中期	SK46より古
SK	46	ⅡB3c	Ⅲ層上面	169	126	70	長方形	鍋底形	5層構成	—	縄文中期	SK45より新
SK	47	ⅡB2c	Ⅲ層上面	151	124	110	楕円形	擂鉢形	3層構成	—	縄文中期	SI38より古
SK	48	ⅡB2b	Ⅲ層上面	185	160	95	楕円形	擂鉢形	5層構成	—	縄文中期	SK49
SK	49	ⅡB2b	Ⅲ層上面	187	112	18	楕円形	皿形	3層構成	—	縄文中期	SK48
SK	50	ⅡB2c	Ⅲ層上面	115	85	114	円形	ビーカー形	8層構成	—	縄文時代	—
SK	51	ⅡA1f	Ⅲ層上面	210	170	40	楕円形	皿形	単一層	—	近現代？	—
SK	52	ⅡB2d	Ⅲ層上面	130	120	80	円形	擂鉢形	—	—	縄文中期末葉以前	SI38
SK	53	ⅡE6c	Ⅲ層上面	129	117	96	円形	擂鉢形	—	—	縄文中期	SI40・41より新
SK	54	ⅠB4i	Ⅲ層上面	155	130	90	楕円形	ビーカー形	2層以上	—	縄文中期	SR01より新

第4表　土坑（SK）一覧表

［時期］出土遺物を欠いているが、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ０４土坑（第49図・写真図版53）

［位置・検出状況］ＩC10c～10dグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

［重複関係］なし。

［形状・規模］開口部径170×165cmの円形を呈する。断面形は擂鉢形を呈し、深さ107cmを測る。底面には副穴１基を伴う。

［覆土］暗褐色土主体で構成される。

［出土遺物］なし。

［時期］出土遺物を欠いているが、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ０５土坑（第49図・写真図版54）

［位置・検出状況］ＩC10bグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

［重複関係］なし。

［形状・規模］開口部径145×125cmの円形を呈する。深さは67cmを測り、断面形はビーカー形を呈する。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。

［出土遺物（第93･107図・写真図版85･103）］№291～293土器、№496石鏃が覆土から出土している。

［時期］出土遺物から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ０６土坑（第50図・写真図版54）

［位置・検出状況］ⅡD1bグリッドに位置する。Ⅲ層上面でSI05竪穴住居跡プランと重複して検出した。

［重複関係］SI05竪穴住居跡と重複しており、本遺構が切られている。

［形状・規模］開口部径185×181cmの円形を呈する。断面形は擂鉢形であり、深さは75cmを測る。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。覆土最上面には十和田中掫火山灰が３cmの厚さで堆積する。

［出土遺物］なし。

［時期］重複関係から、縄文時代中期以前の遺構と考えられる。

ＳＫ０７土坑（第50図・写真図版54）

［位置・検出状況］ＩC9iグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

［重複関係］なし。

［形状・規模］開口部径161×145cmの円形を呈する。断面形は擂鉢形であり、深さは65cmを測る。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。覆土最上面には十和田中掫火山灰が二次堆積分も含め、約10cmの厚さで堆積する。

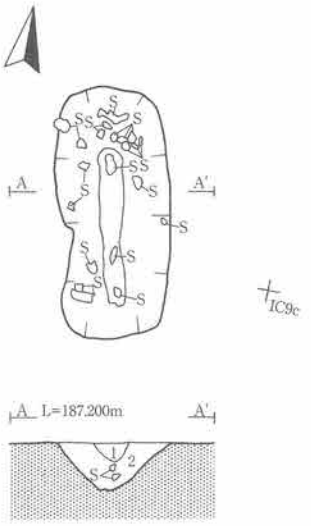
［出土遺物］なし。

［時期］覆土の状況から、縄文時代前期の遺構と考えられる。

ＳＫ０８土坑（第50図・写真図版54）

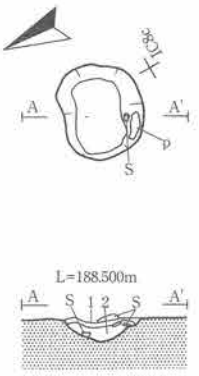
［位置・検出状況］ＩB6jグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

SK01



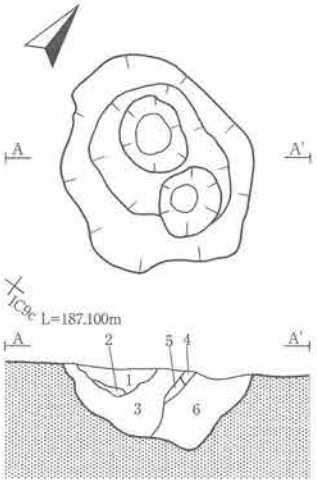
SK01
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
小礫混入
2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
小礫混入

SK02



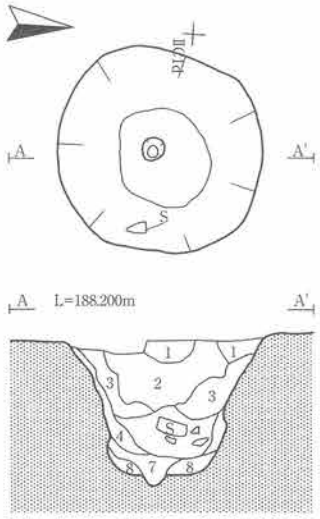
SK02
1 10YR2/3 黒褐色 シルト
粘性中 しまり中
2 10YR3/4 暗褐色 シルト
粘性中 しまり中
角礫混入

SK03



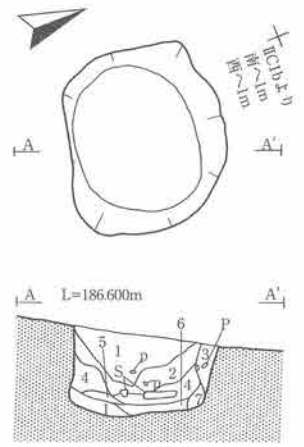
SK03
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
2 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
10YR5/8黄褐色土粒50%
3 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまり中
焼土粒1%
4 10YR7/8 黄橙色 粘性なし しまり強
To-Cu
5 10YR3/4 暗褐色 粘性中 しまり強
10YR2/2黒褐色土ブロック5%
6 10YR3/4 暗褐色 粘性中
角礫(3～4cm)10%

SK04

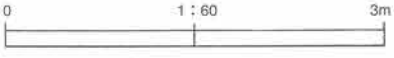


SK04
1 7.5YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
2 7.5YR3/2.5 黒褐～暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
褐色土粒(～2mm)3%、炭化物粒(1cm)3%
7.5YR5/6 明褐色粘土(地山)ブロック10%
3 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
炭化物粒(同)5% 地山ブロック3%
4 7.5YR4/3 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり弱
炭化物粒(同)3%
5 7.5YR4/4 褐～にぶい褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
7.5YR3/2 等(7、4、3層等)ブロック(～10cm)10%
6 4層と 7.5YR5/6 明褐色の混土
7 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
地山土モヤ状に2%
8 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
地山土モヤ状に5%

SK05



SK05
1 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
10YR5/6褐色ブロック(1～2cm)1%、焼土・炭化物粒1%以下
2 7.5YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
10YR5/6褐色ブロック(1～2cm)1%、焼土・炭化物粒1%以下
3 7.5YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
1と同じブロック1%
4 10YR3/2黒褐色と10YR5/6の混土(6：4)
粘土質シルト 粘性中 締まり中
5 10YR3/1 黒褐色 粘土 粘性強 しまり中
6 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり強
7 7.5YR3/2黒褐色シルトと10YR5/6の混土(5：5) 粘土



第49図 SK01・02・03・04・05土坑

[重複関係] なし。
[形状・規模] 開口部径75×66cmの円形を呈する。断面形は袋形であり、深さ80cmを測る。
[覆土] 暗褐色土主体で構成される。覆土中位には炭化物および焼土の薄い堆積がみられた。
[出土遺物（第93図・写真図版95・117）] 土器はNo.294が底面直上から、No.295が覆土中位から出土している。また石器はNo.883敲磨器類が出土している。
[時期] 出土遺物から、縄文時代後期の遺構と考えられる。

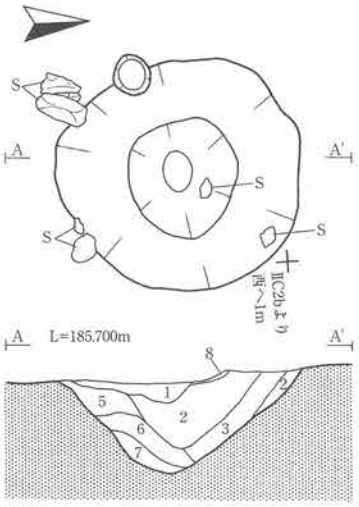
ＳＫ０９土坑（第50図・写真図版55）
[位置・検出状況] ⅠC9aグリッドに位置する。SI18竪穴住居跡床面のⅢ層上面で検出した。
[重複関係] SI18竪穴住居跡と重複しており、これに切られている。
[形状・規模] 開口部径206×104cmの楕円形を呈する。断面形は擂鉢形で深さ50cmを測る。
[覆土] 暗褐色土を主体とする。
[出土遺物] なし。
[時期] 重複関係から、縄文時代前期後葉以前に所属すると考えられる。

ＳＫ１０土坑（第50図・写真図版55）
[位置・検出状況] ⅠB10jグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。
[重複関係] なし。
[形状・規模] 開口部径170×80cmの楕円形を呈する。断面形は擂鉢状で深さ48cmを測る。
[覆土] 黒褐色土主体で構成される。
[出土遺物（写真図版124）] No.1069敲磨器類が出土している。
[時期] 出土遺物から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ１１土坑（第51図・写真図版55）
[位置・検出状況] ⅠC10bグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。
[重複関係] なし。
[形状・規模] 163×144cmの円形を呈する。断面形はビーカー形であり、深さは77cmを測る。
[覆土] 黒褐色土主体で構成される。
[出土遺物（第93図・写真図版95ほか）] 土器はNo.296～298が覆土中位から出土している。また石器はNo.884敲磨器類、No.1351礫石錘、No.1464自然礫が出土している。
[時期] 出土遺物から、縄文時代前期後葉の遺構と考えられる。

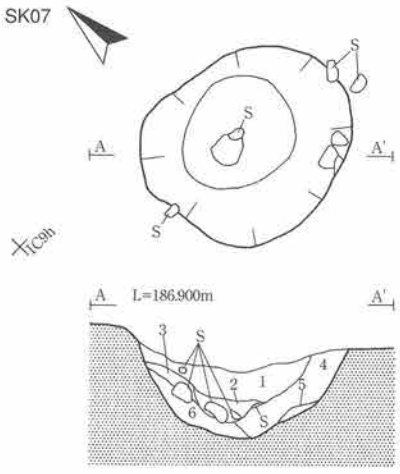
ＳＫ１２土坑（第51図・写真図版55）
[位置・検出状況] ⅡC1hグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。
[重複関係] なし。
[形状・規模] 180×135cmの楕円形を呈する。断面形はⅢ形であり、深さは40cmを測る。
[覆土] 黒褐色土主体で構成されるが、地山ブロックが多量に混入する。
[出土遺物] なし。

SK06



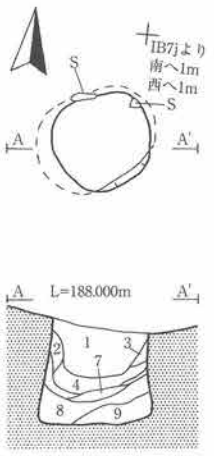
SK06
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性強 しまり中
2 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
礫(1～2cm)1%
3 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまり中
4 10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
10YR3/3 暗褐色土ブロック5% 地山？
5 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまり強
炭化物粒1%
6 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性強 しまり中
7 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性強 しまり中
10YR4/6 褐色土10%
8 To-Cu

SK07



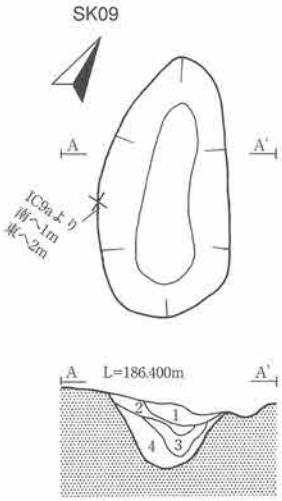
SK07
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり強
炭化物ブロック5%、角礫(3～4cm)2%
2 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
10YR4/4 褐色土粒5%
3 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
4 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
5 10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
10YR3/4 暗褐色土ブロック5%
6 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強

SK08

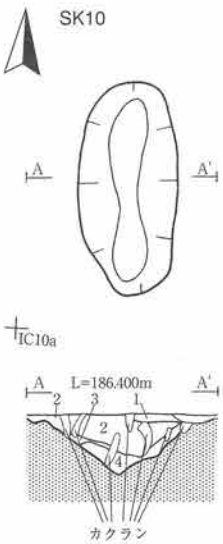


SK08
1 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強
礫(3～4cm)1%
2 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
3 10YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
10YR5/6 黄褐色土粒5%
4 3と同じ
5 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
6 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
7 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
5YR3/4 暗赤褐色焼土 モヤ状に混入
8 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり弱
9 10YR2/3 黒褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
10YR5/8 黄褐色土粒5%

SK09



SK10



SK09
1 10YR2.5/3 黒褐～暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
亜角礫(1～2cm)3%、焼土・炭化物粒2%
2 10YR3.5/4 暗褐～褐色 シルト 粘性中 しまり強
亜角礫(1～3cm)3%
3 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強
亜角礫(1～3cm)3%
4 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
角～亜角礫(1～3cm)1%

SK10
1 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強
亜角礫(1～2cm)1%以下
2 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
亜角礫(1～2cm)・焼土粒・炭化物粒(微細)1%以下
3 10YR3/2.5 黒褐～暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
4 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
亜角礫(1～2cm)1%

第50図 SK06・07・08・09・10 土坑

［時期］　遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ１３土坑（第51図・写真図版56）

［位置・検出状況］ⅡD5aグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

［重複関係］なし。

［形状・規模］185×160cmの円形を呈する。断面形は擂鉢形であり、深さは82cmを測る。

［覆土］暗褐色土主体で構成される。

［出土遺物］なし。

［時期］遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ１４土坑（第51図・写真図版56）

［位置・検出状況］ⅡD1cグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

［重複関係］SI05・SI22竪穴住居跡と重複し、これに切られる。

［形状・規模］275×130cmの楕円形を呈する。断面形は擂鉢形を呈し、深さは125cmを測る。

［覆土］暗褐色土主体で構成される。

［出土遺物］なし。

［時期］遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ１５土坑（第52図・写真図版56）

［位置・検出状況］ⅠC6bグリッドに位置する。SI24竪穴住居跡床面で検出した。

［重複関係］SI24竪穴住居跡と重複し、これに切られる。

［形状・規模］265×100cmの楕円形を呈する。断面形は擂鉢形であり、深さ93cmを測る。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。

［出土遺物］なし。

［時期］重複関係から、縄文時代前期後葉以前の遺構と考えられる。

ＳＫ１６土坑（第52図・写真図版56）

［位置・検出状況］ⅠC7cグリッドに位置する。SI24竪穴住居跡床面で検出した。

［重複関係］SI24竪穴住居跡と重複し、これに切られている。

［形状・規模］90×79cmの円形を呈する。断面形は袋形を呈し、深さ62cmを測る。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。

［出土遺物（第127図・写真図版117･120）］No.885,958敲磨器類、No.1414自然礫が出土している。

［時期］重複関係から、縄文時代前期後葉以前の遺構と考えられる。

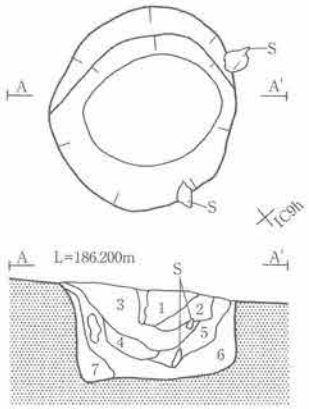
ＳＫ１７土坑（第52図・写真図版57）

［位置・検出状況］ⅠC6bグリッドに位置する。SI24竪穴住居跡床面で検出した。

［重複関係］SI24竪穴住居跡と重複しており、これに切られている。

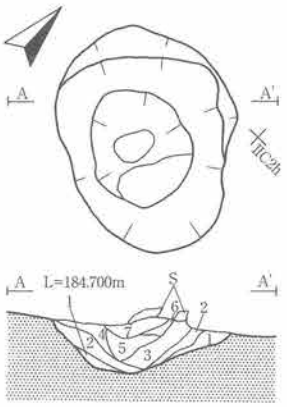
［形状・規模］185×160cmの不整形である。断面形は皿形であり、深さ15cmを測る。

SK11



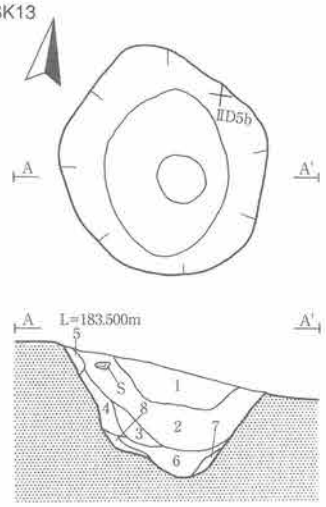
SK11
1 10YR3/3 黒褐～暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
焼土粒2%、炭化物粒3%、亜角礫(1～2cm)2%
2 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
混入物は1と同じ
3 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
炭化物粒5%、焼土粒2%、亜角礫(1～3cm)3%
4 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱
7.5YR4/4褐色粘土質シルトが ブロック状(1cm程)に20%、
亜角礫(1～3cm)、焼土・炭化物粒2%
5 7.5YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
1～2mmの褐色土粒5%、焼土粒，炭化物粒1%、1cm以下の亜角礫2%
6 7.5YR4/4 暗褐～褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
混入物は5と同じ
7 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり強
亜角礫(1～5cm)5%、掘り過ぎ

SK12



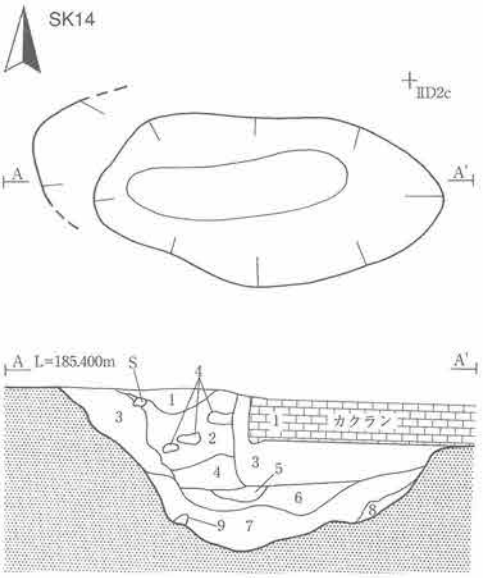
SK12
1 7.5YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強
10YR3/2 黒褐色粘土質シルトと 7.5YR5/6明褐色粘土質シルトの混土(5：5)
2 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
7.5YR5/6 明褐色土ブロック(2cm)10%
3 7.5YR5/6 明褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強
10YR3/2 黒褐色土ブロック(5cm)10%
4 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強
7.5YR5/6 明褐色土ブロック(1cm)5%
5 4と同様 混入土10%
6 7.5YR5/6 明褐色 シルト 粘性弱 しまり強
10YR3/2 黒褐色土ブロック(1cm)30%
7 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強
7.5YR5/6 明褐色土ブロック(1cm)10%

SK13

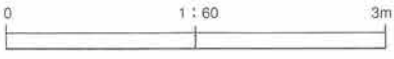


SK13
1 10YR3/4 暗褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり中
2 10YR2/3 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
10YR6/8 明黄褐色土粒3%
3 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強
10YR6/8 明黄褐色土粒3%
4 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり中
5 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強 しまり強
6 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強 しまり強
7 10YR2/3 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土モヤ状に50%
8 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性中 しまり中

SK14



SK14
1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
炭化物粒2%
2 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強
3 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
4 10YR4/6 褐色 シルト 粘性強 しまり強
炭化物粒1%
5 7.5YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまり強
うすい焼土？
6 10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまり強
炭化物粒1%
7 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
炭化物粒1%
8 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
7.5YR4/4 褐色(うすい焼土？)30%
9 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強
角礫(3～4cm)5%



第51図 SK11・12・13・14 土坑

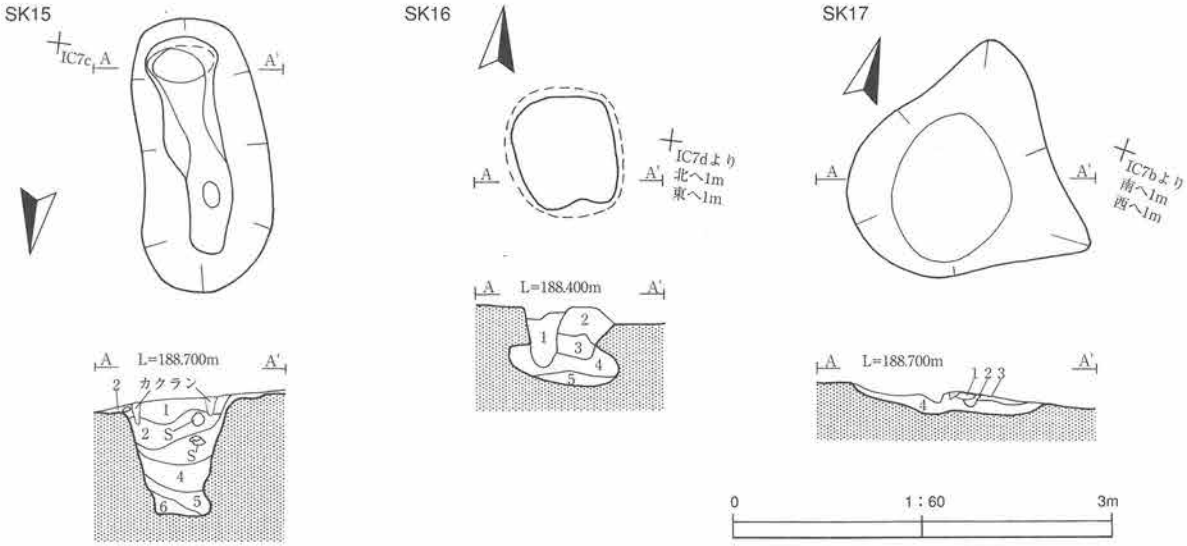
[覆土] 暗褐色土主体で構成される。
[出土遺物] なし。
[時期] 重複関係から、縄文時代前期後葉以前の遺構と考えられる。

ＳＫ１８土坑（第52図・写真図版57）
[位置・検出状況] ＩC9eグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。
[重複関係] なし。
[形状・規模] 810×610cmの円形を呈する。断面形は皿形を呈し、深さは80cmを測る。
[覆土] 暗褐色土主体で構成される。
[出土遺物（第93図・写真図版96ほか)] 土器はNo.299～302が出土しており、いずれも覆土からである。また石器はNo.886～891敲磨器類、No.938,1028,1142敲磨器類、No.1352礫石錘が出土している。
[時期] 出土遺物から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ１９土坑（第53図・写真図版57）
[位置・検出状況] ＩC10iグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。
[重複関係] SK07土坑と重複しており、これに切られている。
[形状・規模] 940×770cmの楕円形を呈する。断面形は皿形で、深さは100cmを測る。
[覆土] 未記録。
[出土遺物（第94図・写真図版96)] 土器はNo.303～306が出土しており、いずれも覆土からの出土である。また石器はNo.1415自然礫が出土している。
[時期] 出土遺物から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ２０土坑（第53図・写真図版57）
[位置・検出状況] ＩB8iグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。
[重複関係] SI02・16・21竪穴住居跡、SX01・03・04・08竪穴住居状遺構と重複しており、これに本遺構が切られている。また、SI18竪穴住居跡と重複しており、本遺構が切っている。
[形状・規模] 770×680cmの楕円形を呈する。断面形は皿形を呈し、深さは100cmを測る。
[覆土] 黒褐色土主体で構成される。
[出土遺物（第94図・写真図版85･96ほか)] 土器はNo.307～316が出土しており、No.307～310が覆土下位、No.312,313が覆土上位、そのほかは覆土からの出土である。また、石器ではNo.479石鏃、No.596スクレイパー類、No.660二次加工ある剥片、No.752切断？石器、No.762磨製石斧、No.810礫器類、No.892,916,939,979,1063敲磨器類、No.1309台石類が出土している。
[時期] 出土遺物から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。

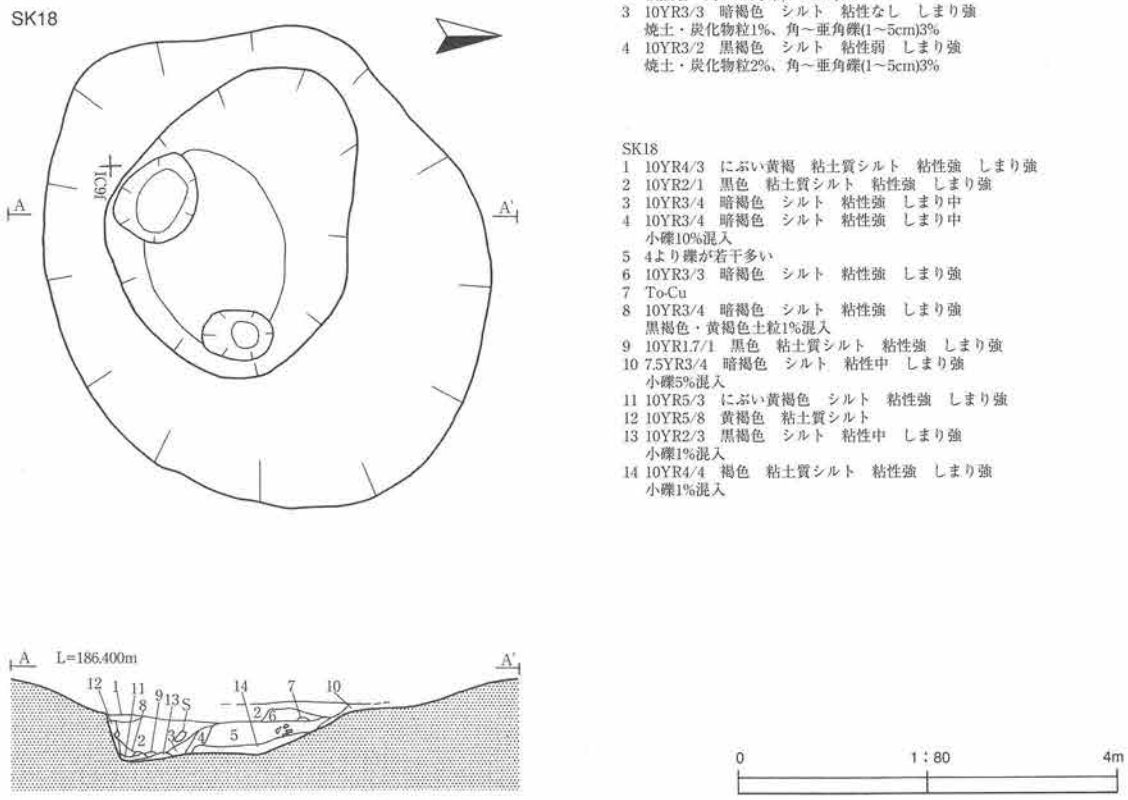
ＳＫ２１土坑（第54図・写真図版58）
[位置･検出状況] ＩB9cグリッド付近に位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で暗褐色土の広がりとして検出した。
[重複関係] なし。
[形状･規模] 開口部径95×95cmの円形を呈する。断面形は袋形で、深さは60cmを測る。底部中央付近に開口



SK15
1 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強
亜角礫(1～5cm)・褐色パミス粒(～1cm)5%、炭化物粒1%
2 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまり強
亜角礫(1～5cm)・褐色パミス粒(～1cm)5%、炭化物粒1%
3 10YR5/4 褐～にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり強
亜角礫(1～5cm)・褐色パミス粒(～1cm)5%、炭化物粒1%
4 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
亜角礫(1～3cm)5%
5 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり中
亜角礫(～1cm)1%
6 10YR4/5 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
亜角礫(1～3cm)3%

SK16
1 7.5YR4/4 にぶい赤褐～褐色 シルト 粘性中 しまり強
角礫(2～5cm)3%、炭化物粒1%以下、焼土、柱穴？
2 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性弱 しまり強
角礫(2～5cm)1%
3 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
褐色土粒(2～3mm)5%
4 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
褐色土粒1%
5 10YR4/6 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
亜角礫(～1cm)3% 掘り過ぎ？

SK17
1 2.5YR4/6 赤褐色 シルト 粘性なし しまり強
角～亜角礫(1～5cm)3%
2 7.5YR3/3 暗褐色 シルト 粘性なし しまり強
被熱層 角～亜角礫(1～5cm)3%
3 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性なし しまり強
焼土・炭化物粒1%、角～亜角礫(1～5cm)3%
4 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強
焼土・炭化物粒2%、角～亜角礫(1～5cm)3%



SK18
1 10YR4/3 にぶい黄褐 粘土質シルト 粘性強 しまり強
2 10YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性強 しまり強
3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
4 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
小礫10%混入
5 4より礫が若干多い
6 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
7 To-Cu
8 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり強
黒褐色・黄褐色土粒1%混入
9 10YR1.7/1 黒色 粘土質シルト 粘性強 しまり強
10 7.5YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
小礫5%混入
11 10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性強 しまり強
12 10YR5/8 黄褐色 粘土質シルト
13 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり強
小礫1%混入
14 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強 しまり強
小礫1%混入

第52図 SK15・16・17・18土坑

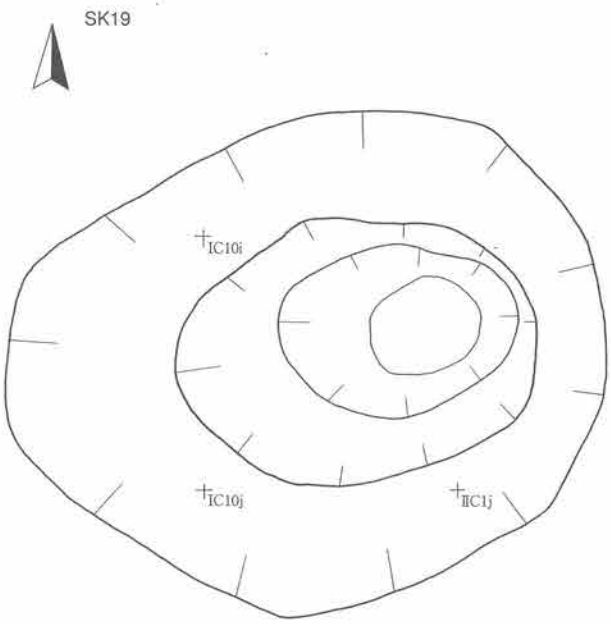
部径22cm、深さ20cmの副穴１基を伴う。
［覆土］炭化物粒を含む暗褐色土主体で構成される。
［出土遺物（写真図版138)］№1343礫石錘が出土している。
［時期］遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

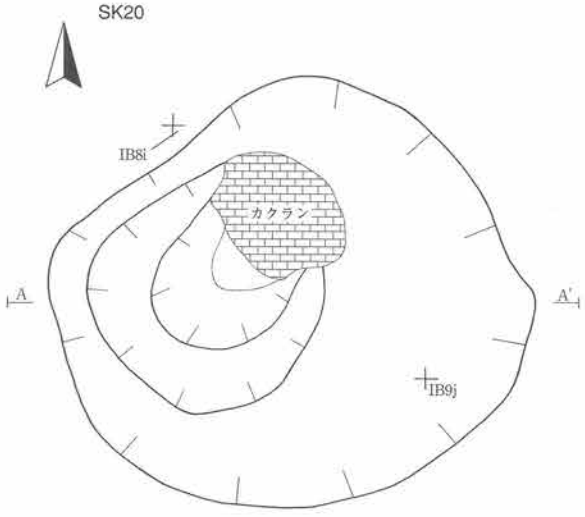
ＳＫ２２土坑（第54図・写真図版58）
［位置･検出状況］ＩB9bグリッド付近に位置する。Ｉ層直下のⅢ層上面で明黄褐色土ブロックを含む暗褐色土の広がりとして検出した。
［重複関係］なし。
［形状･規模］開口部径162×159cmの円形を呈する。断面形はⅢ形で、底面はほぼ平坦である。深さは20cmを測る。
［覆土］暗褐色土主体で構成される。Ⅲ層明黄褐色粘土質土を多量に含む。底面には炭化物の広がりが確認された。
［出土遺物］なし。
［時期］遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ２３土坑（第54図・写真図版58）
［位置･検出状況］ＩB10bグリッドに位置する。Ⅲ層上面で暗褐色土の広がりとして検出した。
［重複関係］SA02柵列ｐ３に切られる。
［形状･規模］開口部径125×114cmの円形を呈する。断面形はⅢ形で、深さは25cmを測る。
［覆土］明黄褐色粘土質土ブロックを含む暗褐色土主体で構成される。
［出土遺物］なし。
［時期］遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

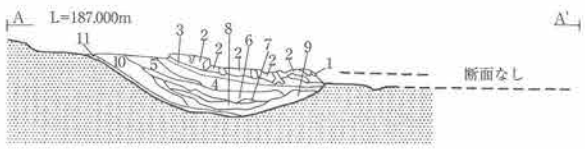
ＳＫ２４土坑（第54図・写真図版58）
［位置･検出状況］ⅡB1bグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面で暗褐色土の広がりとして確認した。検出時点からSK25土坑との重複が確認されたが、新旧関係が判定できなかったため同時に精査を進めた。
［重複関係］SK25土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。
［形状･規模］開口部径115×112cmの円形を呈する。断面形はⅢ形であり、壁面はやや内湾し底面中央にかけて緩やかに傾斜する。深さは最深部で38cmを測る。
［覆土］暗褐色土主体で構成される。明黄褐色粘土質土ブロックを少量含む。
［出土遺物（第94図・写真図版96･127)］土器は№317,318が出土しており、いずれも覆土からである。また石器は№1143敲磨器類、№1416自然礫が出土している。
［時期］出土遺物から、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。

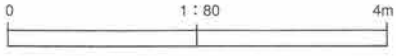
ＳＫ２５土坑（第54図・写真図版58）
［位置･検出状況］ⅡB1bグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面で暗褐色土のプランとして確認した。
［重複関係］SK24土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。





SK20
1 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
焼土粒，炭化物粒1%以下
2 10YR2.5/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり強
円礫(～3cm)1%以下、炭化物粒1%以下
3 7.5YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
亜角～円礫(1cm、褐色多い)2% 炭化物粒1%以下
4 7.5YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
亜角～円礫(1～2cm、褐色多い)3%、焼土・炭化物粒1%以下
5 7.5YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
亜角～円礫(1～2cm、褐色多い)3%、焼土・炭化物粒1%以下
6 7.5YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
亜角～円礫(1～2cm、褐色多い)3%、焼土・炭化物粒1%以下
7 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
亜角～円礫(1～2cm、褐色多い)3%、焼土・炭化物粒1%以下
8 10YR3/1 黒～黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
亜角～円礫(1～3cm、褐色多い)3%、焼土・炭化物粒1%以下
9 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
亜角～円礫(1～3cm、褐色多い)3%、焼土・炭化物粒1%以下
10 7.5YR3/3 暗褐～褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
亜角～円礫(1～2cm、褐色多い)2%、焼土・炭化物粒なし
11 7.5YR4/6 褐色 粘土 粘性強 しまり強
約1cm程の亜角礫(褐色)1%





第53図 SK19・20土坑

[形状·規模] 開口部径108×118cmの円形を呈する。断面形はⅢ形であり、底面はほぼ平坦である。深さは20cmを測る。
[覆土] 明黄褐色粘土質土を含む暗褐色土主体で構成される。
[出土遺物] なし。
[時期] 縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ２６土坑（第54図・写真図版59）

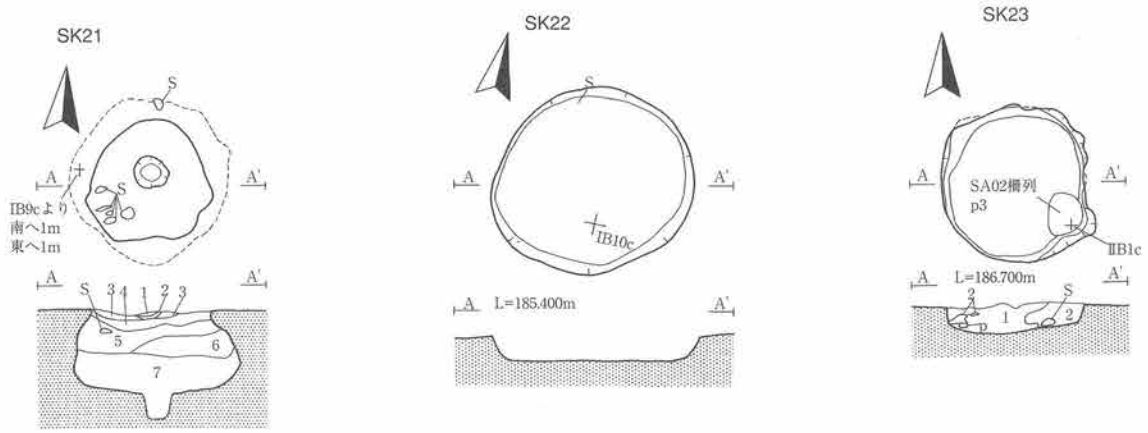
[位置·検出状況] ⅡA2hグリッドに位置する。Ⅲ層上面で暗褐色土の広がりとして検出した。
[重複関係] SI29竪穴住居跡と重複し、これを切る。
[形状·規模] 開口部径206×（175）cmの楕円形を呈する。遺構の北東部分は大きく削平されており、正確な規模・形状は不明である。深さは100cmを測る。
[覆土] 黒褐色土主体で構成される。
[出土遺物] なし。
[時期] 重複関係から、縄文時代中期末葉以降の以降と考えられる。

ＳＫ２７土坑（第55図・写真図版59）

[位置·検出状況] ⅡB1eグリッドに位置する。SI27竪穴住居跡プラン内で黒色の円形プランとして確認した。
[重複関係] SI27竪穴住居跡と重複しており、これを切っている。
[形状·規模] 開口部径96×87cmの円形を呈する。底面は平坦ではなく、尖った形状をしている。深さは29cmを測る。
[覆土] 黒色土の単一層で構成される。
[出土遺物（第113図・写真図版103·106）] No.480石鏃、No.569スクレイパー類が出土している。
[時期] 重複関係から、縄文時代前期中～後葉以降の遺構と考えられる。

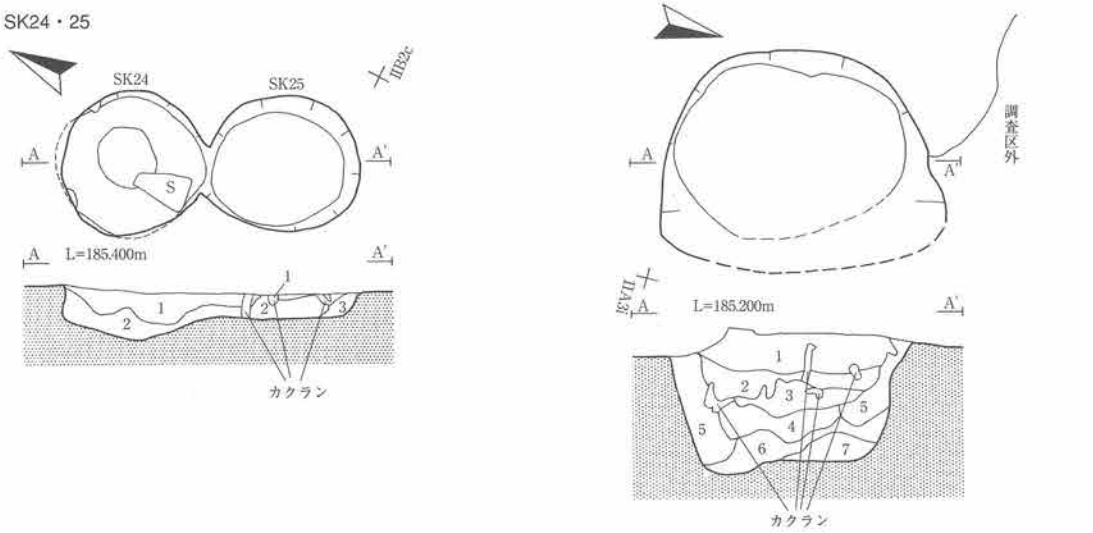
ＳＫ２８土坑（第55図・写真図版59）

[位置·検出状況] ⅡB2bグリッドに位置する。Ⅲ層上面で黒褐色土の広がりとして検出した。
[重複関係] SI36・37竪穴住居跡と重複しており、これを切る。また、SK30土坑に切られる。
[形状·規模] 開口部径163×109cmの楕円形を呈する。底面は平坦であり、壁面はやや内傾しながら立ち上がる。深さは最深部で135cmを測る。
[覆土] 6層から構成される。十和田中掫火山灰や炭化物粒を含む黒褐色土を主体とする。
[出土遺物（第94図・写真図版96ほか）] 土器はNo.319～326が出土しており、No.319,320が覆土下位、No.325,326が覆土上位～中位、そのほかは覆土からである。また、石器ではNo.472石鏃、No.700微細剥離痕ある剥片、No.783礫器類、No.817,980,981,1144,1184,1223敲磨器類、No.1328台石類、No.1361球石、No.1417～1420,1447自然礫が出土している。
[時期] 出土遺物から、縄文時代中期の遺構と考えられる。



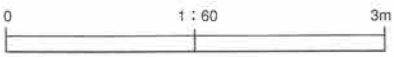
SK21
1 10YR6/6 明黄褐色粘土 粘性弱 しまり強
地山
2 10YR4/4 褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
炭化物を多量に含む炭化物層
3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物2%、10YR5/8黄褐色粘土（地山）5%
4 10YR4/4 褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物2%、10YR5/8黄褐色粘土（地山）5%
5 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物1%、10YR5/8黄褐色粘土（地山）2%
6 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物1%、10YR5/8黄褐色粘土（地山）7%
7 記載無し

SK23
1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中～やや強
10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト5%、炭化物1%
2 10YR3/4 暗褐色シルトと10YR6/6明黄褐色粘土10%の混土
粘性やや弱 しまり中～やや強



SK24・25
1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
10YR6/6 明黄褐色粘土質シルト(地山)ブロック3%、炭化物1%
2 10YR3/4暗褐色シルトと10YR4/6褐色粘土質シルトの混土
粘性やや弱 しまり中 炭化物1%
3 10YR6/4にぶい黄橙色粘土シルトと10YR3/4暗褐色シルトの混土
粘性やや弱 しまり中

SK26
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
褐色土粒微量混入
3 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
黒色土モヤ状に5%混入
4 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱
黒褐色土、褐色土モヤ状に混入 炭化物1%
5 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
黒褐色土、褐色土まだらに混入
6 5とほぼ同じ(5より褐色土の割合が多い)
7 5とほぼ同じ



第54図 SK21・22・23・24・25・26土坑

ＳＫ２９土坑（第55図・写真図版59）

［位置･検出状況］ⅡB2cグリッドに位置する。Ⅲ層上面で黒褐色の広がりとして検出した。

［重複関係］SI36・37竪穴住居跡と重複しており、これを切る。

［形状･規模］開口部径145×120cmの円形を呈する。断面形はビーカー形であり、深さは最深部で170cmを測る。

［覆土］９層からなり、黒褐色土主体で構成される。全体的に十和田中掫火山灰、炭化物粒を少量含む。

［出土遺物（第95図・写真図版96)］土器はNo.327～329が出土しており、いずれも覆土からの出土である。また石器はNo.640二次加工ある剥片、No.701微細剥離痕ある剥片、No.784～786礫器類、No.940,1029,1070,1145,1196敲磨器類、No.1293台石類が出土している。そのほかにNo.1477石棒が出土している。

［時期］出土遺物から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。

ＳＫ３０土坑（第55図・写真図版60）

［位置･検出状況］ⅡB2bグリッドに位置する。SK28土坑を半裁した断面の観察から遺構と認定した。

［重複関係］SK28土坑が埋没後、その開口部を一部切る形で作られたと考えられる。

［形状･規模］平面形は円形であり、開口部径87×78cmを測る。断面形はビーカー形で、深さ42cmである。

［覆土］炭化物を含む黒褐色土主体で構成される。底面壁際には焼土の広がりを確認しており、炉穴の可能性もある。

［出土遺物（第95図・写真図版96)］土器はNo.330～333が出土しており、いずれも覆土からである。

［時期］出土遺物から、縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。

ＳＫ３１土坑（第56図・写真図版60）

［位置･検出状況］ⅡE5fグリッドに位置する。Ⅲ層上面で黒褐色の楕円形プランとして検出した。遺構上面には水田への給水用パイプが走る。

［重複関係］なし。

［形状･規模］開口部径177×140cmの楕円形を呈する。断面形は擂鉢形であり、壁面の一部には礫が露出している。深さは96cmである。

［覆土］４層からなる。角礫を多く含む黒褐色土主体で構成される。

［出土遺物］なし。

［時期］遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ３２土坑（第56図・写真図版60）

［位置･検出状況］ⅠB8gグリッドに位置する。Ⅲ層上面で黒褐色の円形プランとして検出した。

［重複関係］なし。

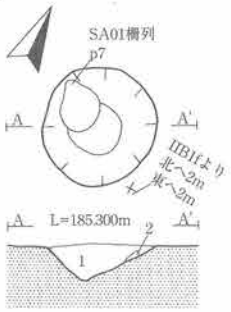
［形状･規模］遺構の北側は若干削平されているが、残存部は開口部径113×102cmの円形を呈する。底面は平坦であり、壁は一部崩落しているがほぼ直立する。断面形はビーカー形を呈し、深さは最深部で71cmを測る。

［覆土］暗褐色土主体で構成される。十和田中掫火山灰、炭化物粒を少量含む。

［出土遺物］なし。

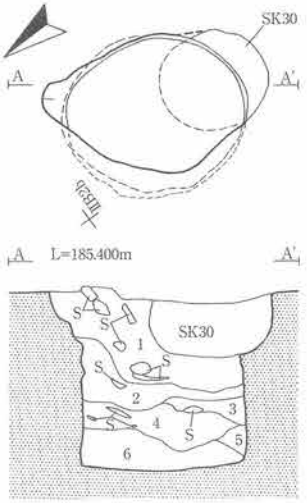
［時期］覆土の状況から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

SK27



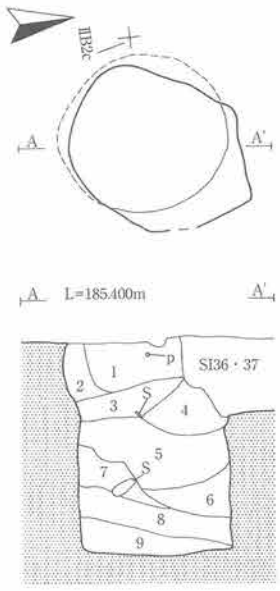
SK27
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性やや弱 しまり中
10YR7/8 黄橙色粘土質シルト(地山)1%散在
2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中

SK28



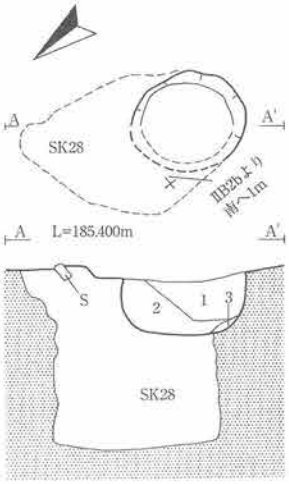
SK28
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
炭化物2%、To-Cu1%
2 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
10YR5/8黄褐色粘土シルト小ブロック1～2cm(地山)少量、To-Cu1%、炭化物1%
3 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱
To-Cu1%、炭化物1%
4 10YR2/3 黒褐色 シルト
10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト小ブロック5cm程度少量、炭化物2%、To-Cu1%
5 10YR3/3～3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり弱
To-Cu1%
6 10YR2/3 黒褐色シルトと10YR3/3暗褐色シルトの混合土
粘性中 しまり弱 炭化物2%、To-Cu2%

SK29

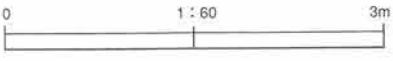


SK29
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中
To-Cu1%、炭化物2%
2 10YR3/4 暗褐色シルト～10YR2/3黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
10YR6/8明黄褐色粘土シルト粒ブロック少量散石
3 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中
To-Cu1% 炭化物2%
4 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
10YR5/6黄褐色粘土質シルト少量散在(φ1～5cm)炭化物2%、To-Cu1%
5 10YR3/3～3/4 暗褐色
6 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
10YR5/6黄褐色粘土質シルト微量散在、炭化物1%、To-Cu1%
7 10YR3/3～3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり弱
10YR6/8黄褐色粘土質シルト少量散在、炭化物2%、To-Cu2%
8 10YR4/4褐色シルト～10YR3/4暗褐色シルト 粘性中 しまり弱
10YR6/8明黄褐色粘土質シルト少量散在 炭化物1%、To-Cu1%
9 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
10YR6/8明黄褐色粘土質シルト粒(φ1cm)中量散在、To-Cu1%

SK30



SK30
1 10YR3/3～3/4暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
10YR6/8明黄褐色粘土質シルト(地山)小ブロック(1～2cm)20%、炭化物3%
2 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり弱
10YR6/8明黄褐色粘土質シルト(地山)小ブロック(1～2cm)少量、炭化物5%
3 2層に5YR4/8赤褐色シルト(焼土)を多量に含む
粘性弱 しまり弱 炭化物5%



第55図 SK27・28・29・30 土坑

ＳＫ３３土坑（第56図・写真図版60）

［位置･検出状況］ⅡB2aグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面で黒褐色の円形プランとして確認した。

［重複関係］覆土上部で、SF02焼土遺構と重複する。

［形状･規模］開口部径131×121cmの円形を呈する。断面形はビーカー形であり、深さは88cmを測る。底面中央やや東寄りに径20×20cm、深さ26cmの副穴１基を確認した。

［覆土］６層からなる。暗褐色土と褐色土の混土を主体とする。覆土を10cmほど掘り下げたところで南西側壁面近くに焼土の広がり（SF02焼土遺構）を確認した。

［出土遺物（第95図・写真図版97)］№334土器が覆土中位から出土している。

［時期］出土遺物から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ３４土坑（第56図・写真図版61）

［位置･検出状況］ⅡB2bグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面であり、暗褐色の円形プランとして確認した。

［重複関係］SI36・37竪穴住居跡と重複し、これを切る。

［形状･規模］平面形はほぼ円形に近く、開口部径100×84cmを測る。断面形は擂鉢形を呈し、底面はほぼ平坦、壁はやや外傾する。深さは42cmを測る。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。十和田中掫火山灰、炭化物粒、明黄褐色粘土質土を少量含む。

［出土遺物（第95図・写真図版97)］№335土器が覆土中位から出土している。また石器は№1421自然礫が出土している。

［時期］出土遺物から、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。

ＳＫ３５土坑（第57図・写真図版61）

［位置･検出状況］ⅡB1aグリッドに位置する。Ⅲ層上面で暗褐色の円形プランとして検出した。

［重複関係］SA03柵列ｐ４と僅かに重複し、これに切られる。

［形状･規模］円形基調であり、開口部径86×82cmを測る。底面は平坦であり、北寄りに22×20cm、深さ15cmの副穴を１基伴う。壁はやや内湾気味に立ち上がり断面形は袋形を呈する。

［覆土］暗褐色土主体で構成される。

［出土遺物］№570スクレイパー類、№893敲磨器類、№1422自然礫が出土している。

［時期］遺構形態から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ３６土坑（第57図・写真図版61）

［位置･検出状況］ⅠB10cグリッドに位置する。

［重複関係］SA01柵列ｐ４と重複し、これに切られる。

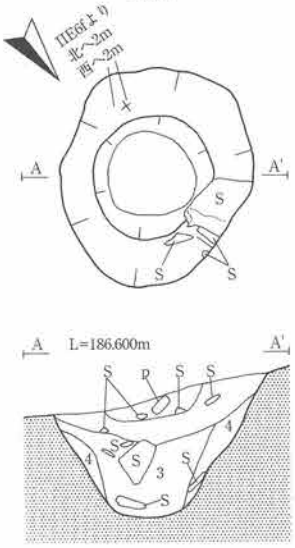
［形状･規模］平面形は円形であり、開口部径125×120cmを測る。断面形はⅢ形を呈し、深さは15cm程度である。底面には凹凸があり、壁の立ち上がりは明瞭ではない。

［覆土］暗褐色土の単一層である。

［出土遺物］なし。

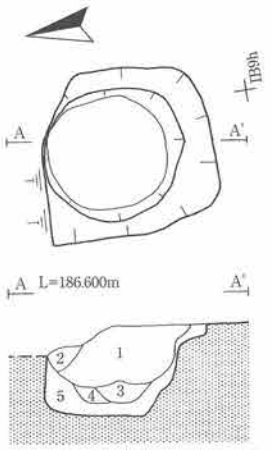
［時期］遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

SK31



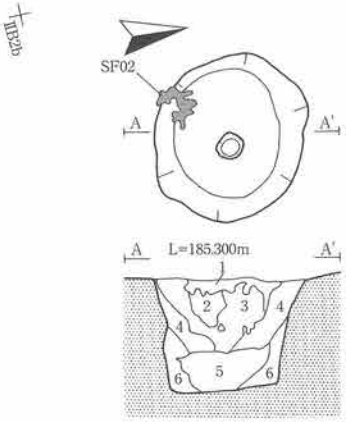
SK31
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
小礫5%
2 7.5YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや強
小礫5%
3 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
炭化物少量
4 2に地山の黄褐色土ブロックが混入したもの

SK32



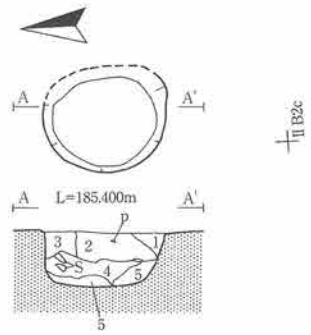
SK32
1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物1%、To-Cu1%
2 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
炭化物5%
3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
4 10YR4/6 褐色 シルト 粘性中 しまり中
10YR6/8明黄褐色粘土質シルト小ブロック(3~5cm)少量
5 10YR6/8明黄褐色粘土質シルトと10YR4/6褐色粘土質シルトの混合土 (地山?)漸移層
粘性中 しまり中

SK33

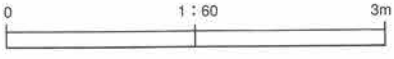


SK33
1 10YR2/2~2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
2 10YR3/4 暗褐色 シルトと10YR4/4褐色 シルトの混合土
粘性やや弱 しまりやや弱 炭化物1%、To-Cu1%
3 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
10YR6/8明黄褐色粘土質シルト小ブロック(φ1cm以下)少量、炭化物1%、To-Cu1%
4 10YR4/6暗褐色シルトと10YR3/4褐色シルトの混合土
粘性中 しまりやや弱 炭化物1%
5 10YR4/6 褐色粘土質 シルト 粘性中 しまりやや弱
10YR6/8明黄褐色粘土質シルト小ブロック(φ1cm以下)少量、炭化物1%、To-Cu1%
6 10YR4/6暗褐色シルトと10YR5/6褐色粘土質シルトの混合土
粘性弱 しまりやや強

SK34



SK34
1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
2 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
炭化物1%、5/6黄褐色粘土質シルト少量、To-Cu1%
3 10YR3/3~3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
10YR6/8明黄褐色粘土シルト粒少量散在、To-Cu1%
4 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
炭化物2%、To-Cu1%
5 10YR3/4暗褐色シルトと10YR5/8黄褐色粘土シルトの混合土
粘性やや弱 しまりやや弱 炭化物2%、To-Cu1%



第56図 SK31・32・33・34 土坑

ＳＫ３７土坑（第57図・写真図版61）

［位置･検出状況］ⅡB1cグリッドに位置する。Ⅲ層上面で周囲の地山よりもやや暗い褐色土の広がりとして検出した。

［重複関係］なし。

［形状･規模］開口部径76×45cmの楕円形を呈する。断面形はⅢ形であり、最深部で深さ10cmである。底面には凹凸がある。

［覆土］褐色土の単一層である。

［出土遺物］なし。

［時期］遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ３８土坑（第57図・写真図版62）

［位置･検出状況］ⅡB1dグリッドに位置する。Ⅲ層上面において、黒褐色のプランとしてSI33・34・35竪穴住居跡と重複して検出された。

［重複関係］SI33・34・35竪穴住居跡を切る。SI27竪穴住居跡とも僅かに重複し、これも切っている。

［形状･規模］開口部は大きく崩落しているが、もともとは開口部径110×98cm程度の円形基調であったと思われる。断面形はビーカー形であり、壁は床面からやや内湾しながら開口部に至る。深さは127cmを測る。

［覆土］黒褐色主体で、十和田中掫火山灰、黄褐色粘土質土ブロック、炭化物粒等を少量含む。覆土下位には小礫を多く含む粘土質の層が見られた。また底面直上には炭化物の薄い層が確認された。

［出土遺物（第95図・写真図版85･97ほか）］№337,338土器が覆土から出土している。また石器では№796礫器類、№924,1052,1146敲磨器類が出土している。

［時期］出土遺物及び重複関係から、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。

ＳＫ３９土坑（第57図・写真図版62）

［位置･検出状況］ⅡB1cグリッドに位置する。黒褐色のプランとしてSI33・34・35竪穴住居跡と重複して検出された。

［重複関係］SI33・34・35竪穴住居跡と重複し、これを切る。

［形状･規模］開口部径118×111cmの円形を呈する。底面は東から西へかけて傾斜し、壁は底面付近で一旦外側へ広がり、内湾する。開口部が崩落しているが本来フラスコ状の断面形であったと思われる。深さは139cmである。

［覆土］黒褐色土主体で構成される。覆土中には多量の遺物が投げ込まれた痕跡がある。

［出土遺物（第95図・写真図版97）］№339～344土器が出土しており、№339～341が覆土中位から、№344が覆土上位から、そのほかは覆土からである。また石器では№822,823,941,942,982,983,1053,1071,1147,1148敲磨器類、№1448自然礫が出土している。

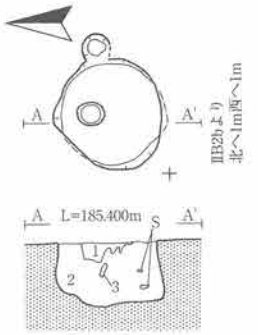
［時期］出土遺物及び重複関係から、縄文時代中期末葉の遺構と考えられる。

ＳＫ４０土坑（第58図・写真図版62）

［位置･検出状況］ⅠB10dグリッドに位置する。SI27竪穴住居跡精査中その床面から検出した。

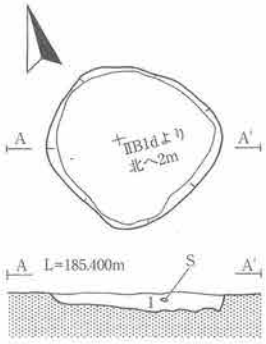
［重複関係］SI27竪穴住居跡床面で検出されたが、木造構の方が新しい。SX09竪穴住居状遺構とも重複して

SK35



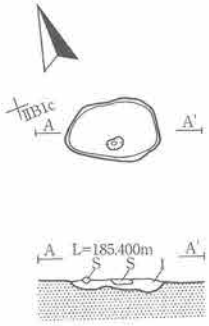
SK35
1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや弱
2 10YR4/4～4/6 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱
To-Cu1%
3 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱
植物痕

SK36



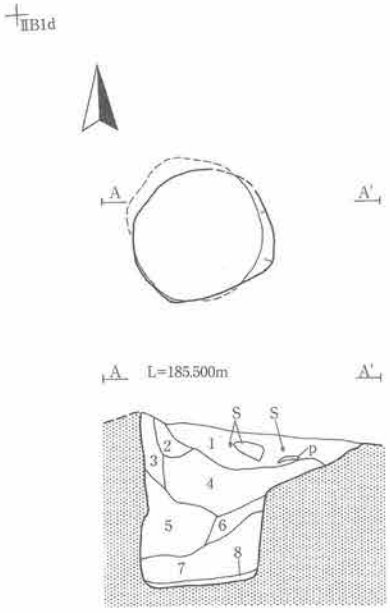
SK36
1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり強
To-Cu1%

SK37



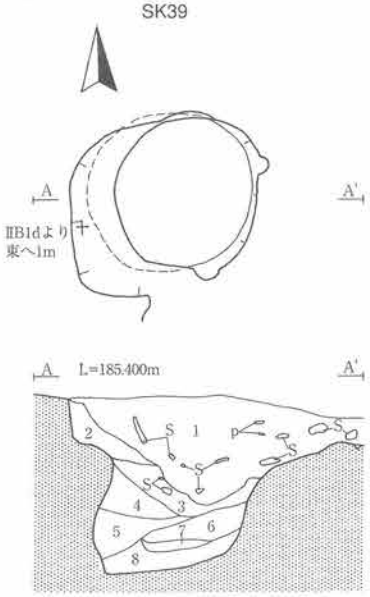
SK37
1 10YR4/4～4/6 褐色 シルト 粘性弱 しまり強
10YR6/8明黄褐色粘土質シルト粒(φ1cm程度)、To-Cu1%

SK38



SK38
1 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
To-Cu1%、炭化物1%
2 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
10YR6/6明黄褐色粘土質シルト小ブロック(φ4cm程度)、To-Cu1%、炭化物1%
3 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中
10YR5/6黄褐色粘土質シルト小ブロック(φ1～5cm)中量、To-Cu1%、炭化物1%
4 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
To-Cu1%、炭化物3%
5 10YR5/6 黄褐色粘土質 シルト(地山)ブロック10YR3/4暗褐色 シルトを小量混入する
粘性やや弱 しまり弱 To-Cu1%、炭化物1%
6 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱
小礫微量、To-Cu1%、炭化物1%
7 10YR6/6 明黄褐色 粘土質シルト(地山？まじり) 小礫中量～多量(礫堆積層)
粘性中 しまりやや弱
8 10YR3/3 暗褐色～10YR2/3黒褐色 粘土質シルト
粘性やや強 しまり弱 炭化物3%、To-Cu1%、炭化物堆積層か?

SK39



SK39
1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり強
炭化物粒1%、土器含少量 礫石器?多い
2 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり強
10YR4/6地山40%、2～3cmの礫少量
3 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
小礫少量
4 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
地山ブロック50%
5 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
層上面に地山が線状に入る、地山ブロック30%
6 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
地山ブロック30%、壁際に小礫多く混入、炭化物少量
7 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
8 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性中 しまりやや弱
1cm以下の礫50%

第57図 SK35・36・37・38・39土坑

おり、これを切っている。

[形状・規模] 平面形は100×80cmの円形を呈する。断面形はビーカー形であり、深さ87cmを測る。

[覆土] 6層からなる。10cm程掘り下げたところで焼土粒、炭化物粒の広がりを確認した。

[出土遺物（第95図・写真図版97ほか)] No.345土器が覆土から出土している。また石器ではNo.521石匙、No.1054,1149,1150敲磨器類が出土している。

[時期] 出土遺物及び重複関係から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ４１土坑（第58図・写真図版62)

[位置・検出状況] ⅡB1aグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出された。

[重複関係] SA03柵列ｐ４が南東部分を僅かに切る。

[形状・規模] 開口部は円形を呈し、102×97cmで、深さは62cmを測る。

[覆土] 4層に細分される。にぶい黄褐色土主体で構成される。

[出土遺物] No.346土器が覆土から出土している。また石器ではNo.571スクレイパー類が出土している。

[時期] 出土遺物及び重複関係から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ４２土坑（第58図・写真図版63)

[位置・検出状況] ⅡE5dグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面である。遺構の北西側の一部が調査区外へ伸びていたため、調査区を拡張し遺構全体の精査を行った。

[重複関係] なし。

[形状・規模] 平面形は円形を呈し、開口部径239×226cmである。断面形は擂鉢形で、深さは105cmを測る。なお、半裁の段階で底面を深く掘りすぎている。

[覆土] 黒褐色土主体とし、ほぼ単一層である。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ４３土坑（第58図・写真図版63)

[位置・検出状況] ⅡA2fグリッドに位置する。Ⅲ層上面で検出した。

[重複関係] なし。

[形状・規模] 平面形は円形であり、開口部径165×152cmを測る。壁は底部付近で外側に膨らむ。深さは検出面から120cmを測る。

[覆土] 黒褐色土主体で構成される。

[出土遺物] なし。

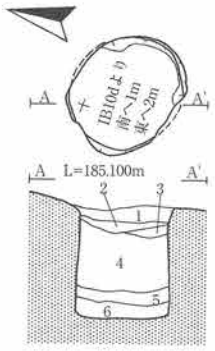
[時期] 遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ４４土坑（第58図・写真図版63)

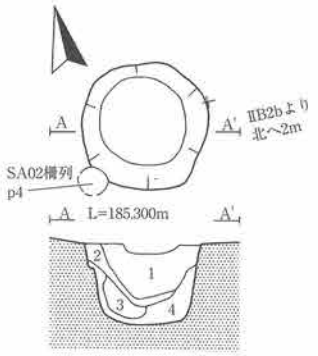
[位置・検出状況] ⅡB1cグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面で、SI27竪穴住居跡のプランと重複して確認した。

[重複関係] SI27竪穴住居跡と重複し、本遺構がこれを切る。

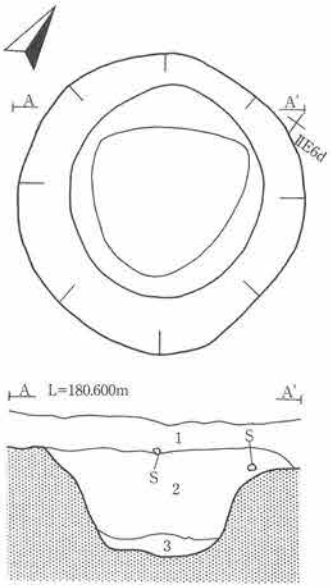
SK40



SK41



SK42

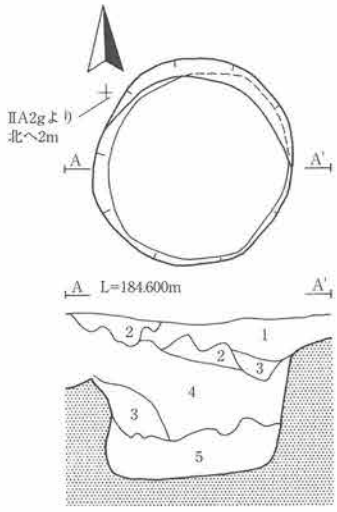


SK40
1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
2 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり中
黄褐色地山ブロック5%、層上位に炭化物、焼土粒のまとまりがある
3 10YR5/6 黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
地山のブロック
4 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中 しまり中
径1cm以下の小礫多量(20%)
5 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
6 4と同じ

SK41
1 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性強 しまりやや弱
2 1に10YR5/6黄褐色シルトの地山10%混入
3 10YR4/4 褐色 シルト 粘性強 しまり弱
炭化物粒少量
4 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性強 しまり弱
地山ブロック10%混入

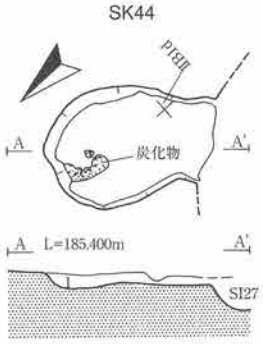
SK42
1 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまり中
2 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
3 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中

SK43



SK43
1 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
To-Cu1% ブロック状に混入
2 10YR2/1 黒色 シルト 粘性中 しまりやや弱
3 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
地山 斑状に20%混入
4 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱
5 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱

SK44



SK44
1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
To-Cu2%、炭化物2%散在

0 1:60 3m

第58図 SK40・41・42・43・44 土坑

［形状･規模］南西側の一部がSI27竪穴住居跡に切られているが、不整な楕円形と推定される。開口部径は(125) ×95cm。断面形は皿形であり、最深部で深さ10cmを測る。
［覆土］暗褐色土による単一層である。底面北半には塊状の炭化物が検出された。
［出土遺物］なし。
［時期］遺構形態及び重複関係から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ４５土坑（第59図・写真図版63）
［位置･検出状況］ⅡB3cグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面で、暗褐色の広がりとして確認した。
［重複関係］SK46土坑と重複する。断面の観察からSK46土坑がより古いと推定される。
［形状･規模］楕円形を呈する。SK46土坑に切られ全体は不明であるが、(130)×122cmで、深さは40cmを測る。
［覆土］５層に細別される。暗褐色土主体で炭化物が微量混入する。
［出土遺物（第96図・写真図版97ほか)］No.347土器が覆土から出土している。また石器はNo.702微細剥離痕ある剥片が出土している。そのほかにNo.1483円盤状石製品が出土している。
［時期］出土遺物から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ４６土坑（第59図・写真図版63）
［位置･検出状況］ⅡB3cグリッドに位置する。Ⅲ層上面で暗褐色の広がりとして検出した。
［重複関係］検出時点ではSK45との区別がつかず同時に精査を進めたが、断面の観察からSK45土坑よりも新期と判断した。
［形状･規模］遺構東側は宅地造成のため削平されており、残存しているのは底部付近のみと考えられる。平面形は長方形を呈し、断面形はビーカー形である。開口部径169×126cm、深さは70cmを測る。
［覆土］暗褐色土主体で構成される。
［出土遺物］なし。
［時期］重複関係から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ４７土坑（第59図・写真図版64）
［位置･検出状況］ⅡB2cグリッドに位置する。SI38竪穴住居跡炉の直下で検出した。
［重複関係］SI38竪穴住居跡と重複し、これに切られる。
［形状･規模］開口部径151×124cmの楕円形を呈する。断面形は擂鉢形を呈し、深さ110cmである。
［覆土］暗褐色土主体で構成される。本遺構付近は地山のしまりも弱く、覆土との区別が困難であるため掘りすぎてしまった可能性もある。
［出土遺物］なし。
［時期］重複関係から、縄文時代中期もしくはそれ以前の遺構と考えられる。

ＳＫ４８土坑（第59図・写真図版64）
［位置･検出状況］ⅡB2bグリッドに位置する。SI36・37竪穴住居跡床面を精査中に検出した。検出面はⅢ層である。
［重複関係］SI36・37竪穴住居跡に伴うピット３基に切られる。またSK49土坑とも重複するが新旧関係は不

明である。

[形状・規模] 平面形は楕円形、断面形は擂鉢形を呈する。開口部径185×160cm、深さ95cmを測る。

[覆土] 黒褐色主体で構成される。

[出土遺物] №348土器が覆土から出土している。そのほかに№1478石刀が出土している。

[時期] 出土遺物及び重複関係から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ４９土坑（第59図・写真図版64）

[位置・検出状況] ⅡB2bグリッドに位置する。

[重複関係] SK48土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

[形状・規模] 平面形は楕円形であり、187×112cmを測る。断面形は皿形で、深さは18cmである。

[覆土] 黒褐色土主体で構成される。

[出土遺物（第96図・写真図版82・97ほか）] №349,350土器が覆土上位から出土している。また石器は№1151敲磨器類、№1449自然礫が出土している。

[時期] 出土遺物から、縄文時代中期の遺構と考えられる。

ＳＫ５０土坑（第59図・写真図版64）

[位置・検出状況] ⅡB2cグリッドに位置する。

[重複関係] なし。

[形状・規模] 平面形は円形を呈し、開口部径は115×85cm、深さは114cmを測る。断面形は開口部から底部にかけてやや外側に膨らんでおり、ビーカー形を呈する。

[覆土] 黒褐色土主体で８層に細分される。

[出土遺物] なし。

[時期] 遺構形態から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＫ５１土坑（第60図・写真図版65）

[位置・検出状況] ⅡA1fグリッドに位置する。盛土確認のベルトを除去した部分から黒褐色の明瞭なプランで検出された。検出面はⅢ層上面である。

[重複関係] なし。

[形状・規模] 平面形は楕円形、断面形は皿形を呈する。開口部径210×170cm、深さは40cmを測る。

[覆土] 黒褐色土の単一層である。

[出土遺物] なし。

[時期] 近現代の遺構である可能性が高い。

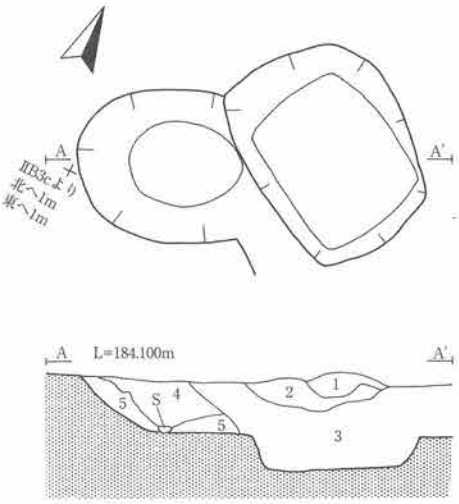
ＳＫ５２土坑（第60図・写真図版65）

[位置・検出状況] ⅡB2dグリッドに位置する。SI36・37竪穴住居跡床面精査中に炉跡付近で黒褐色のプランを検出した。

[重複関係] 検出状況からSI36・37竪穴住居跡よりも古期に当たると考えられる。

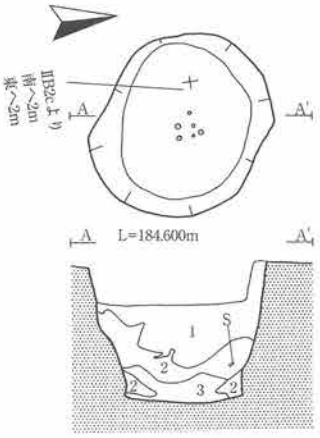
[形状・規模] 平面形は円形で、断面形はビーカー形である。開口部径130×120cm、深さは80cmを測る。

SK45・46



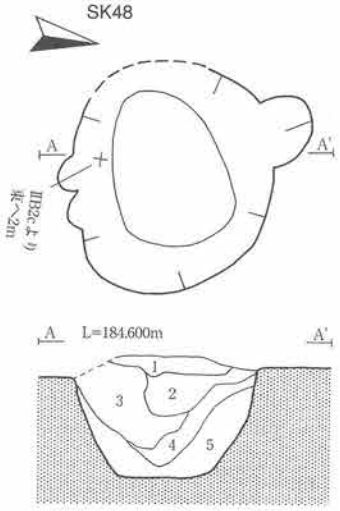
SK45・46
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性弱　しまりやや弱
　地山ブロック50%
2　10YR2/4　暗褐色　シルト　粘性弱　しまりやや弱
　地山ブロック粒状に5%、炭化物粒微量
3　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性弱　しまりやや弱
　炭化物粒微量
4　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまりやや弱
　炭化物粒微量
5　1と同じ

SK47



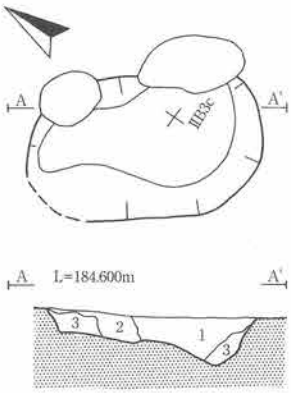
SK47
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまり弱
　黄褐色土粒微量、炭化物粒3%
2　10YR5/8　黄褐色　シルト　粘性やや強　しまり弱
　暗褐色土モヤ状に5%
3　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　しまり弱
　黄褐色土粒10%

SK48



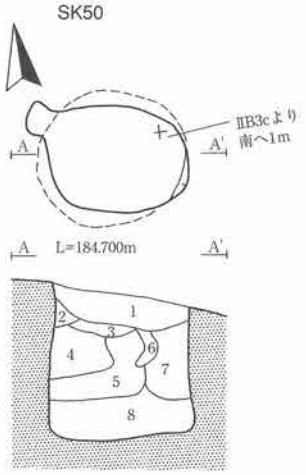
SK48
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　10YR6/8明黄褐色粘土質シルト微量、炭化物2%
2　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性やや弱　しまり弱
　10YR6/8明黄褐色粘土質シルト微量、炭化物3%、To-Cu1%
3　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性やや弱　しまり弱
　10YR6/8明黄褐色粘土質シルト微量、炭化物2%、To-Cu2%
4　10YR4/6　褐色　シルト　粘性中　しまりやや弱
　10YR6/8明黄褐色粘土質シルト微量、炭化物5%
5　10YR5/6　黄褐色　粘土質　シルト　粘性やや弱　しまり弱
　地山再堆積層、炭化物1%

SK49

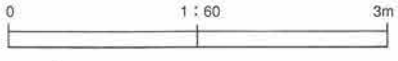


SK49
1　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
　地山粒2%
2　10YR3/3　暗褐色　シルト　粘性中　しまり中
　地山ブロック5%
3　10YR5/8　黄褐色　シルト　粘性やや弱　しまり強
　黒褐色シルトブロック少量

SK50



SK50
1　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性やや弱　しまりやや弱
　10YR6/8明黄褐色粘土シルト少量散在、炭化物1%、To-Cu1%
2　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性やや弱　しまり弱
　10YR6/8明黄褐色粘土シルト微量散在、To-Cu1%
3　10YR4/6　褐色粘土質　シルト　粘性中　しまりやや弱
　10YR3/4暗褐色シルト～(1層)を少量、炭化物1%、To-Cu1%
4　10YR3/4　暗褐色シルトと10YR6/8明黄褐色粘土質シルトの混合(10YR3/4主体)
　粘性やや弱　しまり弱　To-Cu1%
5　10YR5/6　黄褐色　粘土質シルト　粘性やや弱　しまり弱
　地山再堆積層
6　10YR3/3暗褐色シルトと10YR5/6黄褐色粘土シルトの混合土
　粘性やや弱　しまり弱
7　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまり弱
　10YR5/6　黄褐色粘土質シルト微量、To-Cu1%
8　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　しまり弱
　10YR5/6　黄褐色粘土質シルト少量、To-Cu1%



第59図　SK45・46・47・48・49・50土坑

[覆土] 黒褐色土主体で構成される。

[出土遺物（第105図・写真図版103)] №461尖頭器が出土している。

[時期] 重複関係から、縄文時代中期末葉以前の遺構と考えられる。

ＳＫ５３土坑（第60図）

[位置・検出状況] ⅡE6cグリッドに位置する。SI40・41竪穴住居跡床面より検出した。

[重複関係] SI40・41竪穴住居跡炉を一部切る形で検出した。SI40・41竪穴住居跡より新期のものと考えられる。

[形状・規模] 平面形は円形であり、断面形は擂鉢形を呈する。規模は開口部径129×117cm、深さ96cmを測る。

[覆土] 黒褐色土主体で構成される。

[出土遺物] なし。

[時期] 重複関係から、縄文時代中期もしくはそれ遺構の遺構と考えられる。

ＳＫ５４土坑（第60図・写真図版65）

[位置・検出状況] ⅠB4iグリッドに位置する。表土直下のⅢ層上面で黒色土の円形プランとして検出した。

[重複関係] 東端がSR01土器埋設遺構と重複しており、これを切っている。

[形状・規模] 平面形は楕円形であり、断面形はビーカー形を呈する。規模は開口部径155×130cm、深さは90cmである。

[覆土] 黒色土、黒褐色土主体で構成される。周縁付近には壁崩落土と思われる堆積が確認され、とくに斜面上部にあたる西側で顕著である。全て自然堆積と考えられる。

[出土遺物] なし。

[時期] 重複関係から、縄文時代中期もしくはそれ遺構の遺構と考えられる。　（以上、川又）

（4） 土器埋設遺構（ＳＲ）

計１基検出した。土器埋設遺構を説明するために、遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、土器の埋設状況、遺構の形状及び規模、覆土の状態、出土遺物について記載を行う。

第5表　土器埋設遺構一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)			埋設状況	時期
				長軸	短軸	深さ		
SR	1	ⅠB4i	Ⅲ層上面	72	67	18	正立の状態で若干東側に傾けて埋設	縄文時代中期

第5表　土器埋設遺構（SR）一覧表

ＳＲ０１土器埋設遺構（第60図・写真図版65）

遺構（第60図・写真図版65）

[位置・検出状況] ⅠB4iグリッドに位置する。表土直下のⅢ層上面で遺物集中およびそれを囲む褐色～暗褐色土の広がりとして検出した。

[重複関係] 西端がＳＫ５４土坑と重複しており、これに切られている。

[埋設状況] 土坑状に掘り窪めたのち、正立の状態で若干東側に傾けて埋設されている。土器上部が未出土であるが、これは削平による消失と考えられる。

[形状・規模] 掘削範囲の形状は72×67cmの円形で、深さは最深部で18cmである。

[覆土] 黄褐色～褐色土と暗褐色土の混土で構成されており、掘削した土で埋め戻したものと考えられる。

遺物（第96･135図・写真図版97･128･137）

[出土状況] 埋設土器、底面、覆土から出土している。

[土器] №351～355。№351が埋設土器、352が底面、№353～355が覆土上位からの出土である。

[石器] №1151敲磨器類、№1328台石類、№1422自然礫。

時期　埋設土器などの出土遺物から、縄文時代中期の遺構と考えられる。　（丸山）

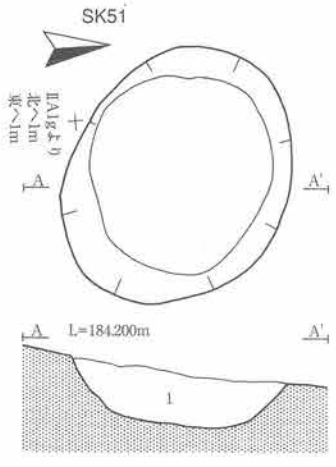
（5）焼土遺構（ＳＦ）

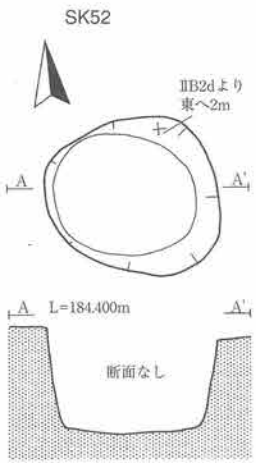
計６基を検出した。いずれも地床炉状である。住居跡に伴うものである可能性も検討したが、周囲に柱穴等は確認されず、単独の遺構として処理した。

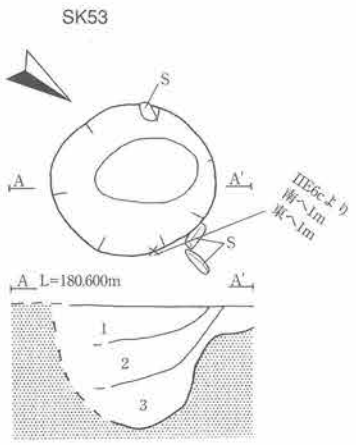
第6表　焼土遺構一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)			被熱		所属時期	備考
				長軸	短軸	深さ	形状	状況		
SF	1	ⅡE6f	SX11覆土	65	53	12	不整形	強変成	縄文時代	
SF	2	ⅡB1a	SK33覆土	60	30	4	不整形	弱変成	縄文時代	
SF	3	ⅠB9c	Ⅲ層上面	67	48	2	不整形	弱変成	縄文時代	
SF	4	ⅠB9b	Ⅲ層上面	45	40	18	円形	強変成	縄文時代	
SF	5	ⅡB2d	SI33覆土	110	40	18	不整形	強変成	縄文時代	住居跡炉？
				50	20		不整形	強変成	縄文時代	
				50	30		不整形	強変成	縄文時代	
SF	6	ⅡE7b	Ⅲ層上面	65	55	6	円形	強変成	縄文時代	

第6表　焼土遺構（SF）一覧表

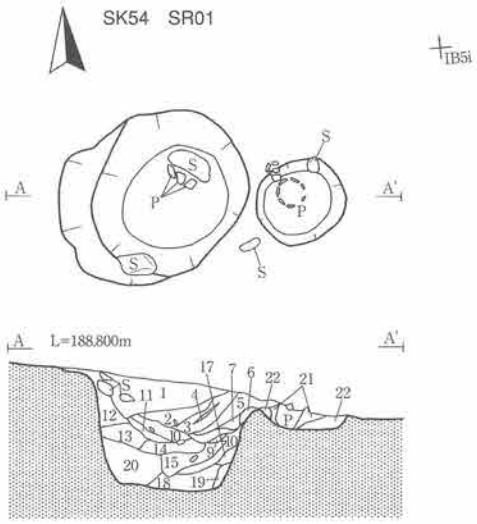






SK51
1　10YR2/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまりやや弱

SK53
1　10YR2/1　黒色　シルト　粘性中　しまり中
2　10YR3/4　暗褐色　シルト　粘性中　しまり中
3　10YR2/3　黒褐色　シルト　粘性中　しまりやや強



SK54・SR01
1　10YR2/1　黒色　シルト　粘性弱　しまり弱
　明褐色土粒(～1cm、地山)5%、角礫(～5cm)1%以下
2　10YR3/2　黒褐色　シルト　粘性中　しまり中
　混入物1と同じ
3　10YR3/2　黒褐～暗褐色　シルト　粘性弱　しまり強
　明褐色土粒5%、角礫(～1cm)5%
4　2と同じ
5　2と同じ、ただし礫なし
6　3と同じ
7　10YR3/1　黒褐色　粘土質シルト　粘性中　しまり中
　明褐色土粒3%
8　10YR3/2黒褐色と10YR4/6褐色の混土(5：5)
　粘土質シルト　粘性中　しまり中
9　7と同じ
10　10YR2/1　黒色　粘土質シルト　粘性中　しまり中
　角礫(～10cm)10%
11　10YR3/2　黒褐色　粘土質シルト　粘性中　しまり中
　明褐色土ブロック(～3cm)5%
12　10YR3/2黒褐色と7.5YR5/6明褐色の混土(5：5)
　粘土質シルト　粘性中　しまり中
13　12と同じで比率　黒褐色：明褐色　4：6
14　10YR1.7/1　黒色　粘土質シルト　粘性中　しまり中
　明褐色土ブロック(～3cm)5%
15　11と同じ、　角礫(～10cm)5%
16　10YR2.5/1　黒～黒褐色　粘土質シルト　粘性中　しまり中
　明褐色土ブロック(1～5cm)5%
17　13と同じ　比率3：7
18　16と同じだが　ブロック10%
19　13と同じ　比率2：8
20　掘り過ぎ？明褐色土　横方向(筋状)に黒褐色土数条入る　根か？
21　10YR4/3にぶい黄褐色～褐色と10YR3/3暗褐色の混土(5：5)
　粘性弱　しまり強　炭化物粒1%　土器埋設土
22　21と同じで比率　8：2

第60図　SK51・52・53・54 土坑・SR01 土器埋設遺構

ＳＦ０１焼土遺構（第61図・写真図版66）

［位置・検出状況］ⅡE6fグリッドに位置する。SX11竪穴住居状遺構の覆土上面で検出した。

［形状・規模］平面形は不整形であり、規模は65×53cmを測る。

［被熱痕跡の状況］焼成は強変成であり、被熱深度は12cmを測る。現地性の焼土であるが、周辺から柱穴等は検出されず、住居跡に伴うものではなく、単独遺構であると考えられる。

［時期］重複関係から、縄文時代中期中葉以降の遺構と考えられる。

ＳＦ０２焼土遺構（第61図・写真図版66）

［位置・検出状況］ⅡB2aグリッドに位置する。検出面はⅢ層上面である。焼成範囲の３分の２程度はSK33土坑の覆土上面にある。

［形状・規模］２基あり、①60×30cm・②35×30cmの不整形を呈する。

［被熱痕跡の状況］被熱深度は①４cm程度・②５cm程度であり、焼成は弱変成である。現地性の焼土であると考えられる。

［時期］検出層位から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＦ０３焼土遺構（第61図）

［位置・検出状況］ⅠB9cグリッドに位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で検出した。

［形状・規模］67×47cmの不整形を呈する。

［被熱痕跡の状況］被熱深度は２cm、焼成は弱変成である。

［時期］検出層位から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＦ０４焼土遺構（第61図・写真図版67）

［位置・検出状況］ⅠB9bグリッドに位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で炭化物・焼土粒のまとまりを検出した。半裁したところ、検出面より５cm下で焼成の強変成の焼土を確認した。

［形状・規模］45×40cmの円形を呈する。

［被熱痕跡の状況］被熱深度は18cmで、焼成は強変成で、現地性と考えられる。

［時期］検出層位から、縄文時代の遺構と考えられる。

ＳＦ０５焼土遺構（第61図・写真図版67）

［位置・検出状況］ⅡB2dグリッドに位置する。SI33竪穴住居跡精査中覆土上面より検出した。

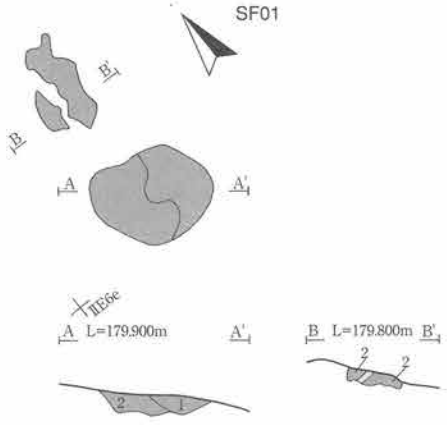
［形状・規模］３基の焼土が１mの間隔を置いて近接する。形状はいずれも不整形であり、110×40cm、50×20cm、50×30cmである。

［被熱痕跡の状況］被熱深度は深いもので18cmを計り、焼成は強変成である。現地性であると考えられる。

［時期］重複関係などから、縄文時代に属すると考えられるが、もともとは竪穴住居跡の炉であった可能性も想定される。

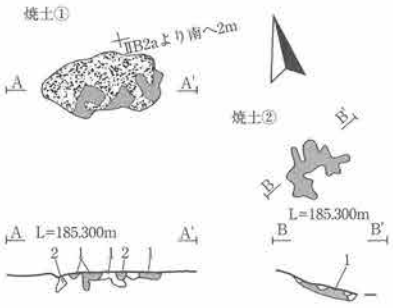
ＳＦ０６焼土遺構（第61図・写真図版67）

SF01



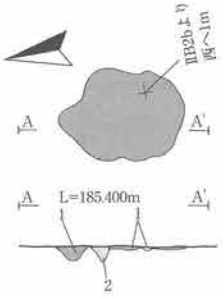
SF01
1 5YR4/8 赤褐色 焼土 粘性弱 しまりやや強
2 5YR4/4 にぶい赤褐色 粘性弱 しまりやや強
うすい焼土
3 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土粒10%

SF02



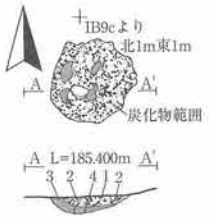
SF02
1 5YR4/8 赤褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土
2 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
炭化物2%

SF03



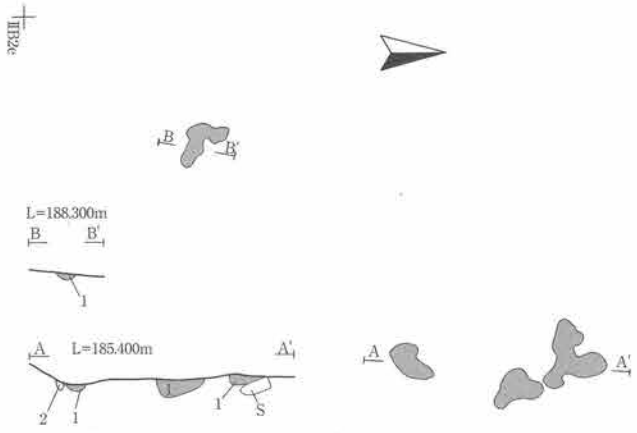
SF03
1 5YR5/8 明赤褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
焼土
2 10YR2/6 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
植根痕？

SF04



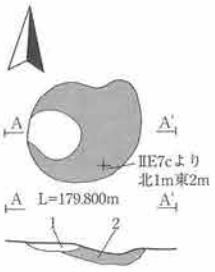
SF04
1 10YR3/4 暗褐色 シルト
5YR5/8明黄褐色シルト焼土(φ1～2cm)ブロック少量、炭化物5%散在
2 10YR3/4 暗褐色シルト
5YR5/8明黄褐色シルト焼土(φ1cm)程度小ブロック少量、炭化物20%
3 10YR4/6 褐色シルト
5YR5/8明黄褐色シルト焼土(φ1cm)程度小ブロック少量、炭化物2%
4 10YR4/8 赤褐色 シルト 粘性弱 しまり中
焼土

SF05

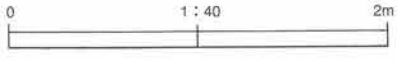


SF05
1 5YR3/4 暗赤褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱
焼土、炭化物1%、部分的に5YR4/8赤褐色シルト(焼土)になる
2 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱
炭化物1%、To-Cu1%

SF06



SF06
1 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中
2 5YR4/8 赤褐色 シルト 粘性中 しまり中
焼土



第61図 SF01・02・03・04・05・06 焼土遺構

［位置・検出状況］ⅡE7bグリッドに位置する。Ⅰ層直下のⅢ層上面で検出した。

［形状・規模］65×55cmの円形を呈する。

［被熱痕跡の状況］被熱深度は6cmであり、焼成は強変成である。現地性と考えられる。

［時期］検出層位から縄文時代に属すると考えられる。

（川又）

（6）柵列（SA）

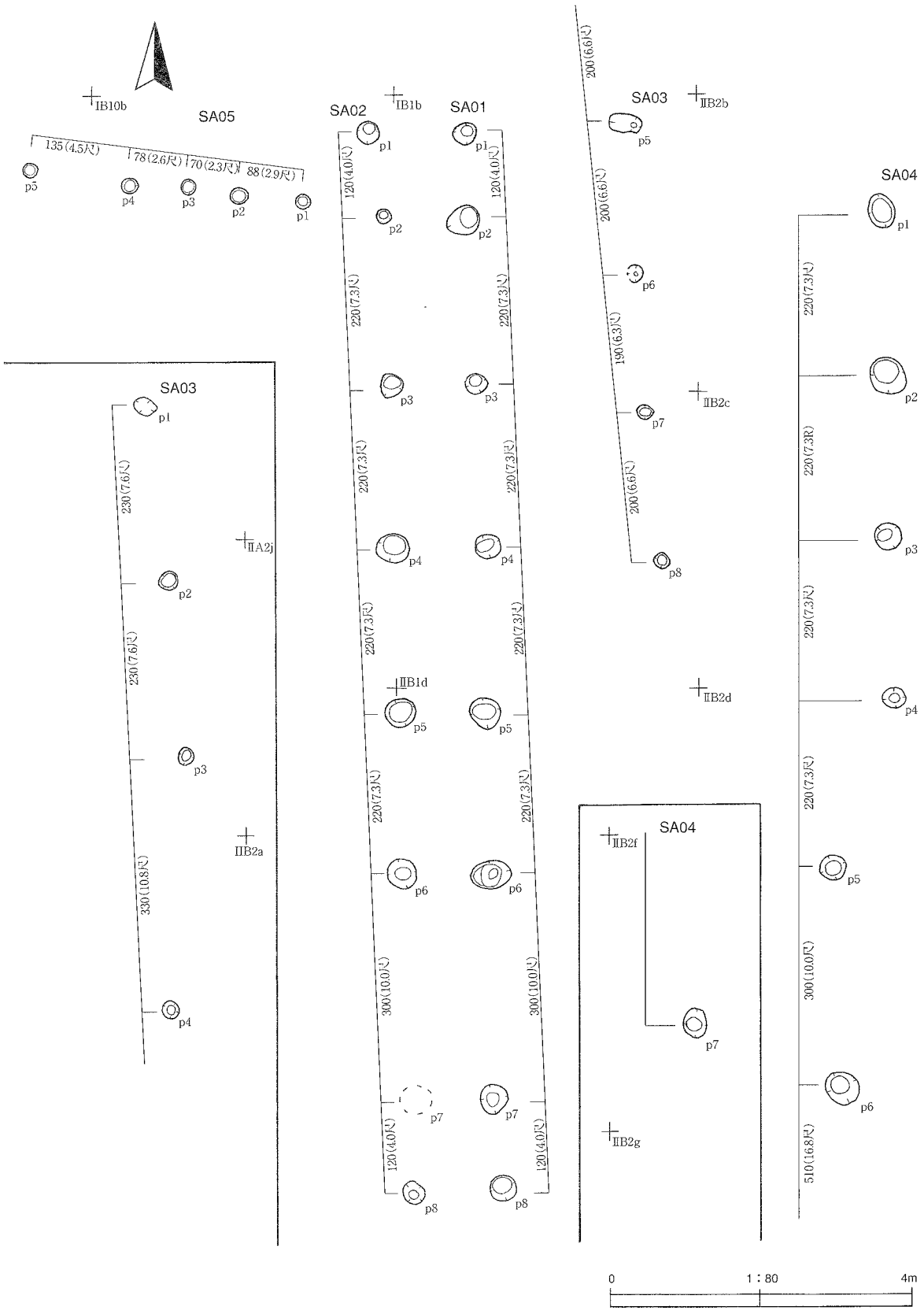
計5基検出した。柵列を説明するために、遺構の位置・検出状況、他遺構との重複関係、遺構の配置及び規模、軸方向、覆土の状態、出土遺物、推察される遺構の所属時期について記載を行う。

なお、検出された柵列のうち、SA01・02・04柵列はほぼ並行に配置されており、掘立柱建物跡になる可能性があるが、出土遺物が少なく、共通性を見出すことが出来なかったため、柵列として登録した。

第7表　柵列一覧表

種別	番号	ピット番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)			底部標高(m)	柱間寸法	所属時期	備考
					開口部径	底部径	深さ				
SA	1	1	ⅡB1b	Ⅲ層上面	32	16	62	184.57	220cm（約7.3尺）基調	時期不明	
		2	ⅡB1b	Ⅲ層上面	45	28	63	184.54			
		3	ⅡB1b	Ⅲ層上面	26	19	60	184.61			
		4	ⅡB1c	Ⅲ層上面	36	25	62	184.56			
		5	ⅡB1d	SI27覆土	42	28	61	184.55			
		6	ⅡB1d	SI27覆土	54	16	63	184.50			
		7	ⅡB1e	SI27覆土	40	21	61	184.57			
		8	ⅡB1e	SI27覆土	37	19	53	184.55			
SA	2	1	ⅠB10b	Ⅲ層上面	31	15	40	184.79	220cm（約7.3尺）基調	時期不明	
		2	ⅠB10b	Ⅲ層上面	21	11	50	184.70			
		3	ⅠB10b	SK23覆土	35	20	52	184.51			
		4	ⅠB10c	Ⅲ層上面	39	27	57	184.69			
		5	ⅡB1d	SI27覆土	43	35	72	184.49			
		6	ⅡB1d	SI27覆土	42	18	69	184.53			
		7	ⅡB1e	SI27覆土	50	20	18	185.07			
		8	ⅡB1e	SI27覆土	25	14	27	184.81			
SA	3	1	ⅡA1i	Ⅲ層上面	31	16	20	184.99	220cm（約7.3尺）基調	時期不明	
		2	ⅡA1j	Ⅲ層上面	28	20	14	184.98			
		3	ⅡA1j	Ⅲ層上面	23	19	23	184.97			
		4	ⅡB1a	Ⅲ層上面	25	13	20	184.95			
		5	ⅡB1b	Ⅲ層上面	22	7	23	184.95			
		6	ⅡB1b	Ⅲ層上面	24	5	17	184.97			
		7	ⅡB1c	Ⅲ層上面	23	19	12	184.96			
		8	ⅡB1c	Ⅲ層上面	20	17	16	184.77			
SA	4	1	ⅡB2b	Ⅱ層上面	46	35	22	184.61	220cm（約7.3尺）基調	時期不明	P6覆土から銭貨（熙寧元寶）1点が出土
		2	ⅡB2b	Ⅱ層上面	48	28	91	183.90			
		3	ⅡB2c	Ⅱ層上面	36	17	120	183.53			
		4	ⅡB2d	Ⅱ層上面	31	13	37	184.02			
		5	ⅡB2d	SI33覆土	35	23	28	184.47			
		6	ⅡB2e	Ⅱ層上面	44	27	60	184.09			
		7	ⅡB2f	Ⅱ層上面	34	18	54	184.21			
SA	5	1	ⅠB10b	Ⅲ層上面	19	13	12	185.07	78～88cm（約2.6～2.9尺）多い	時期不明	
		2	ⅠB10b	Ⅲ層上面	22	18	11	185.10			
		3	ⅠB10b	Ⅲ層上面	22	16	13	185.09			
		4	ⅠB10b	Ⅲ層上面	22	16	10	185.11			
		5	ⅠB9b	Ⅲ層上面	20	15	5	185.13			

表7　柵列（SA）一覧表



第62図　SA01・02・03・04・05 柵列

ＳＡ０１柵列（第62図・写真図版68）

［位置・検出状況］ⅡB1b～eグリッドに位置する。１直線に等間隔で並ぶピットとして検出した。検出層位は、Ｐ１～Ｐ４はⅢ層上面、Ｐ５～Ｐ８はSI27竪穴住居跡検出面である。

［重複関係］SI27竪穴住居跡と重複関係にあり、これを切っている。

［配置・規模］柱穴８基により構成される。開口部径の平均は39cm、深さの平均は60.6cmである。平面形はいずれもほぼ円形であり、断面形は長逆台形を呈する。柱間寸法は220cm（約7.3尺）を基準としている。SA02柵列とほぼ並行に配置されており、同時期に形成されたと判断される。

［覆土］黒褐色土を主体とする。

［軸方向］軸方向はN－２°－Wである。

［出土遺物］なし。

［時期］重複関係・配置・規模・覆土の状態から近世～現代に想定されるが、詳細な時期は不明である。

ＳＡ０２柵列（第62図・写真図版68）

［位置・検出状況］ⅠB10b・c、ⅡB1d・eグリッドに位置する。１直線に等間隔で並ぶピットとして検出した。検出層位は、Ｐ１・２・４はⅢ層上面、Ｐ３はSK23土坑検出面、Ｐ５～Ｐ８はSI27竪穴住居跡検出面である。

［重複関係］SI27竪穴住居跡、SK23土坑と重複関係にあり、これを切っている。

［配置・規模］柱穴８基により構成される。開口部径の平均は35.8cm、深さの平均は48.1cmである。平面形はいずれもほぼ円形であり、断面形は長逆台形を呈する。柱間寸法は220cm（約7.3尺）を基準としている。SA01柵列とほぼ並行に配置されており、同時期に形成されたと判断される。

［覆土］黒褐色土を主体とする。

［軸方向］軸方向はN－２°－Wである。

［出土遺物］なし。

［時期］重複関係・配置・規模・覆土の状態から近世～現代に想定されるが、詳細な時期は不明である。

ＳＡ０３柵列（第62図・写真図版69）

［位置・検出状況］ⅡA1j、ⅡB1a～cグリッドに位置する。１直線に等間隔で並ぶピットとして検出した。検出層位はいずれもⅢ層上面である。

［重複関係］SI27竪穴住居跡と重複関係にあり、これを切っている。

［配置・規模］柱穴８基により構成される。開口部径の平均は24.5cm、深さの平均は18.1cmである。平面形はいずれもほぼ円形であり、断面形は長逆台形を呈する。柱間寸法は220cm（約7.3尺）を基準としているが、バラツキがある。

［覆土］黒褐色土を主体とする。

［軸方向］軸方向はN－３°－Wである。

［出土遺物］なし。

［時期］重複関係・配置・規模・覆土の状態から近世～現代に想定されるが、詳細な時期は不明である。

ＳＡ０４柵列（第62図・写真図版69）

[位置・検出状況] ⅡB2b～fグリッドに位置する。１直線に等間隔で並ぶピットとして検出した。検出層位は、Ｐ５はSI35竪穴住居跡検出面、その他はⅡ層黒褐色土上面である。
[重複関係] SI35～38竪穴住居跡と重複関係にあり、これを切っている。
[配置・規模] 柱穴７基により構成される。開口部径の平均は39.1cm、深さの平均は58.9cmである。平面形はいずれもほぼ円形であり、断面形は長逆台形を呈する。柱間寸法は220cm（約7.3尺）を基準としている。SA01・02柵列とほぼ並行に配置されており、同時期に形成されたと判断される。
[覆土] 黒褐色土を主体とする。
[軸方向] 軸方向はN－２°－Wである。
[出土遺物（第104図・写真図版102)] Ｐ６覆土から、№1497熙寧元寶が１枚出土しており、地鎮の目的で柱穴に埋納されたものとも考えられる。
[時期] 出土遺物・重複関係・配置などから、近世～現代と想定されるが、確定的な時期は不明である。

ＳＡ０５柵列（第62図・写真図版69）
[位置・検出状況] ⅠB9b・10bグリッドに位置する。１直線に等間隔で並ぶピットとして検出した。検出層位はいずれもⅢ層上面である。
[重複関係] なし。
[配置・規模] 柱穴５基により構成される。開口部径の平均は21cm、深さの平均は10.2cmである。平面形はいずれもほぼ円形であり、断面形は逆台形を呈する。柱間寸法は78～88cm（約2.6～2.9尺）に集中しているが、バラツキがある。
[覆土] 黒褐色土を主体とする。
[軸方向] 軸方向はN－83°－Wである。
[出土遺物] なし。
[時期] 覆土と配置・規模から、現代と想定されるが確定的な時期は不明である。

（以上、北田）

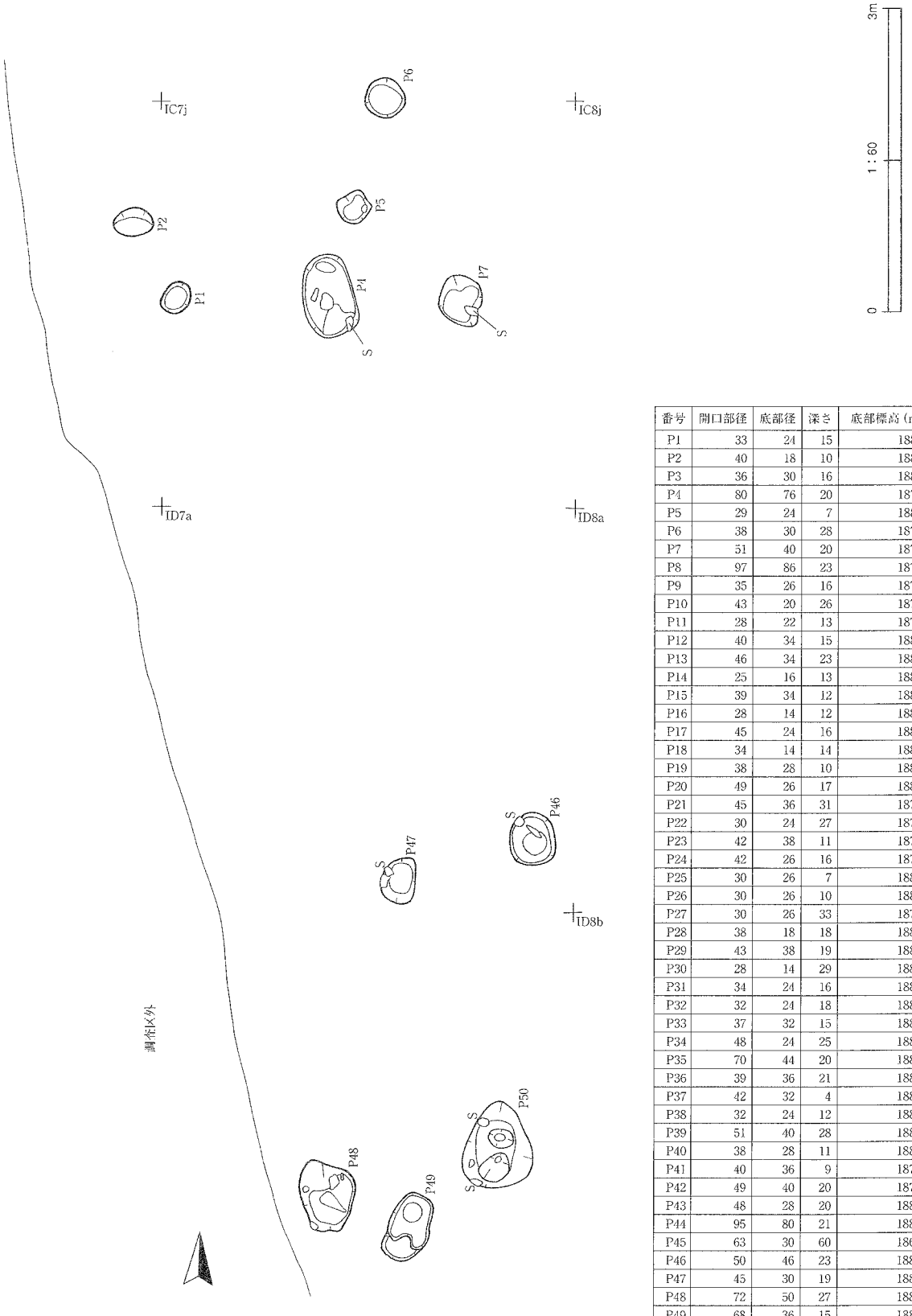
（５）ピット（Ｐ）（第63～65図・写真図版70・71）

以上の項目の他に、用途不明のピットが計74基検出されている。詳細な検討は行うことが出来なかったが、いずれも柱穴として使用されたと見られ、何らかのプランを形成するものである。規模には各々バラツキが見られるが、開口部径の平均値は40.5cm、深さの平均値は19.2cmである。検出層位はいずれもⅢ層上面で、時期を確定する出土遺物などはほとんどない。したがって、確定的な時期は不明であるが、覆土の状態などから近現代から現代に想定されるものも多く含まれているものと考えられる。

第8表 ピット一覧表

種別	番号	位置(グリッド)	検出層位	規模(cm)			底部標高(m)	所属時期	備考
				開口部径	底部径	深さ			
P	1	I C7j	Ⅲ層上面	33	24	15	188.19	時期不明	
P	2	I C6j	Ⅲ層上面	40	18	10	188.31	時期不明	
P	3	I C6j	Ⅲ層上面	36	30	16	188.25	時期不明	
P	4	I C7j	Ⅲ層上面	80	76	20	187.97	時期不明	
P	5	I C7j	Ⅲ層上面	29	24	7	188.02	時期不明	
P	6	I C7i	Ⅲ層上面	38	30	28	187.75	時期不明	
P	7	I C7j	Ⅲ層上面	51	40	20	187.92	時期不明	
P	8	I C7i	Ⅲ層上面	97	86	23	187.65	時期不明	
P	9	I C7i	Ⅲ層上面	35	26	16	187.75	時期不明	
P	10	I C7i	Ⅲ層上面	43	20	26	187.78	時期不明	
P	11	I C7i	Ⅲ層上面	28	22	13	187.97	時期不明	
P	12	I C7i	Ⅲ層上面	40	34	15	188.16	時期不明	
P	13	I C7i	Ⅲ層上面	46	34	23	188.13	時期不明	
P	14	I C7h	Ⅲ層上面	25	16	13	188.27	時期不明	
P	15	I C6h	Ⅲ層上面	39	34	12	188.32	時期不明	
P	16	I C6h	Ⅲ層上面	28	14	12	188.34	時期不明	
P	17	I C7h	Ⅲ層上面	45	24	16	188.13	時期不明	
P	18	I C7h	Ⅲ層上面	34	14	14	188.15	時期不明	
P	19	I C6g	Ⅲ層上面	38	28	10	188.67	時期不明	
P	20	I C7h	Ⅲ層上面	49	26	17	188.54	時期不明	
P	21	I C7h	Ⅲ層上面	45	36	31	187.95	時期不明	
P	22	I C7h	Ⅲ層上面	30	24	27	187.74	時期不明	
P	23	I C7h	Ⅲ層上面	42	38	11	187.95	時期不明	
P	24	I C7g	Ⅲ層上面	42	26	16	187.99	時期不明	
P	25	I C7g	Ⅲ層上面	30	26	7	188.05	時期不明	
P	26	I C7g	Ⅲ層上面	30	26	10	188.14	時期不明	
P	27	I C7h	Ⅲ層上面	30	26	33	187.97	時期不明	
P	28	I C7h	Ⅲ層上面	38	18	18	188.14	時期不明	
P	29	I C7h	Ⅲ層上面	43	38	19	188.21	時期不明	
P	30	I C6h	Ⅲ層上面	28	14	29	188.22	時期不明	
P	31	I C6h	Ⅲ層上面	34	24	16	188.36	時期不明	
P	32	I C6h	Ⅲ層上面	32	24	18	188.38	時期不明	
P	33	I C6g	Ⅲ層上面	37	32	15	188.44	時期不明	
P	34	I C6g	Ⅲ層上面	48	24	25	188.33	時期不明	
P	35	I C6g	Ⅲ層上面	70	44	20	188.34	時期不明	
P	36	I C6g	Ⅲ層上面	39	36	21	188.24	時期不明	
P	37	I C6g	Ⅲ層上面	42	32	4	188.69	時期不明	
P	38	I C6g	Ⅲ層上面	32	24	12	188.58	時期不明	
P	39	I C7g	Ⅲ層上面	51	40	28	188.08	時期不明	
P	40	I C7g	Ⅲ層上面	38	28	11	188.02	時期不明	
P	41	I C7g	Ⅲ層上面	40	36	9	187.91	時期不明	
P	42	I C7g	Ⅲ層上面	49	40	20	187.94	時期不明	
P	43	I C6i	Ⅲ層上面	48	28	20	188.35	時期不明	
P	44	I C6h	Ⅲ層上面	95	80	21	188.42	時期不明	
P	45	I C7g	Ⅲ層上面	63	30	60	186.37	時期不明	
P	46	I D7a	Ⅲ層上面	50	46	23	188.05	時期不明	
P	47	I D7a	Ⅲ層上面	45	30	19	188.17	時期不明	
P	48	I D7b	Ⅲ層上面	72	50	27	188.50	時期不明	
P	49	I D7b	Ⅲ層上面	68	36	15	188.26	時期不明	
P	50	I D7b	Ⅲ層上面	85	60	22	188.10	時期不明	
P	51	Ⅱ B1h	Ⅲ層上面	22	17	13	185.29	時期不明	
P	52	I B10h	Ⅲ層上面	28	15	46	185.01	時期不明	
P	53	I B10h	Ⅲ層上面	32	25	24	185.52	時期不明	
P	54	I B10h	Ⅲ層上面	42	30	15	185.70	時期不明	
P	55	I B10g	Ⅲ層上面	68	56	13	185.70	時期不明	
P	56	I B10g	Ⅲ層上面	32	22	7	185.80	時期不明	
P	57	I B9h	Ⅲ層上面	18	15	10	185.93	時期不明	
P	58	I B9g	Ⅲ層上面	20	5	20	185.88	時期不明	
P	59	I B9h	Ⅲ層上面	27	17	11	185.95	時期不明	
P	60	I B9h	Ⅲ層上面	21	15	不明	不明	時期不明	
P	61	I B10h	Ⅲ層上面	27	21	17	185.32	時期不明	
P	62	Ⅱ B1h	Ⅲ層上面	35	24	17	185.14	時期不明	
P	63	I B10h	Ⅲ層上面	22	17	22	185.43	時期不明	
P	64	I B9g	Ⅲ層上面	25	5	不明	不明	時期不明	
P	65	I B9h	Ⅲ層上面	35	25	11	186.01	時期不明	
P	66	I B9g	Ⅲ層上面	35	27	26	185.99	時期不明	
P	67	I B9g	Ⅲ層上面	47	19	63	185.68	時期不明	
P	68	I B9h	Ⅲ層上面	23	10	32	186.03	時期不明	
P	69	I B8h	Ⅲ層上面	21	10	22	186.17	時期不明	
P	70	I B8g	Ⅲ層上面	37	32	23	186.34	時期不明	
P	71	I B9h	Ⅲ層上面	37	19	21	185.88	時期不明	
P	72	I B9h	Ⅲ層上面	31	23	14	185.39	時期不明	
P	73	I B9h	Ⅲ層上面	38	23	14	185.76	時期不明	
P	74	I B9h	Ⅲ層上面	22	19	10	186.08	時期不明	

第8表　ピット（P）一覧表

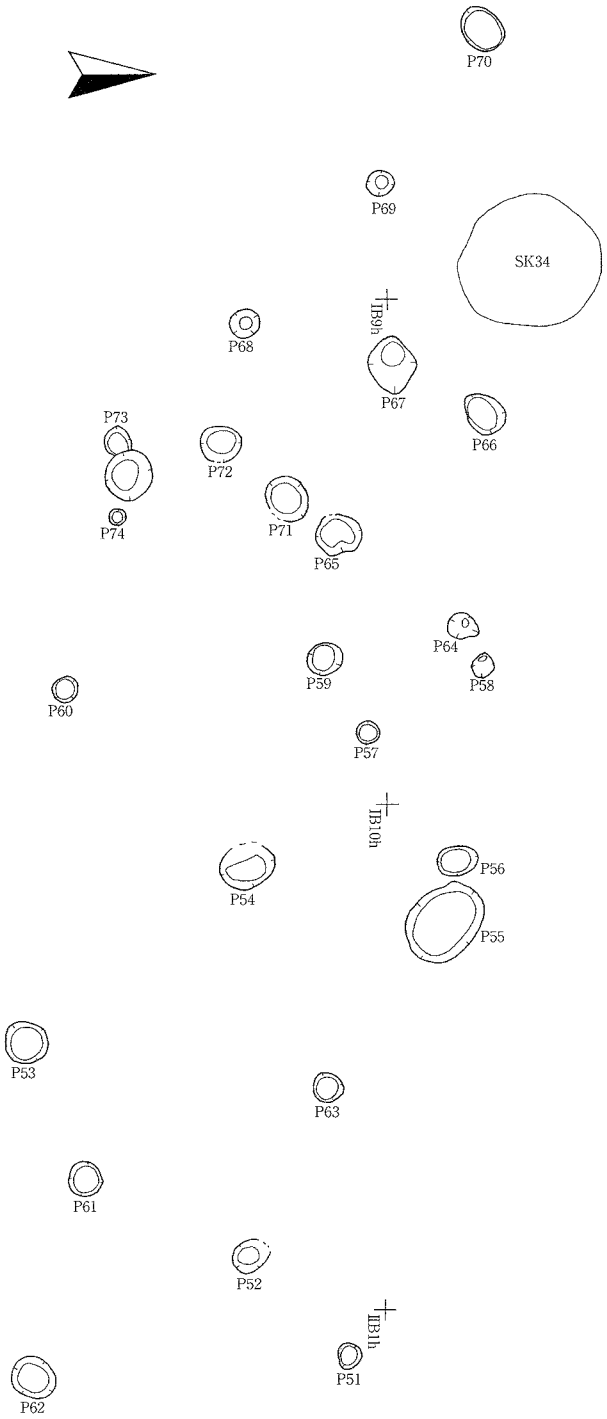


番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高(m)
P1	33	24	15	188.19
P2	40	18	10	188.31
P3	36	30	16	188.25
P4	80	76	20	187.97
P5	29	24	7	188.02
P6	38	30	28	187.75
P7	51	40	20	187.92
P8	97	86	23	187.65
P9	35	26	16	187.75
P10	43	20	26	187.78
P11	28	22	13	187.97
P12	40	34	15	188.16
P13	46	34	23	188.13
P14	25	16	13	188.27
P15	39	34	12	188.32
P16	28	14	12	188.34
P17	45	24	16	188.13
P18	34	14	14	188.15
P19	38	28	10	188.67
P20	49	26	17	188.54
P21	45	36	31	187.95
P22	30	24	27	187.74
P23	42	38	11	187.95
P24	42	26	16	187.99
P25	30	26	7	188.05
P26	30	26	10	188.14
P27	30	26	33	187.97
P28	38	18	18	188.14
P29	43	38	19	188.21
P30	28	14	29	188.22
P31	34	24	16	188.36
P32	32	24	18	188.38
P33	37	32	15	188.44
P34	48	24	25	188.33
P35	70	44	20	188.34
P36	39	36	21	188.24
P37	42	32	4	188.69
P38	32	24	12	188.58
P39	51	40	28	188.08
P40	38	28	11	188.02
P41	40	36	9	187.91
P42	49	40	20	187.94
P43	48	28	20	188.35
P44	95	80	21	188.42
P45	63	30	60	186.37
P46	50	46	23	188.05
P47	45	30	19	188.17
P48	72	50	27	188.50
P49	68	36	15	188.26
P50	85	60	22	188.10

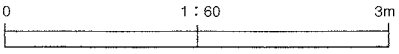
第63図　ピット（1）

IC7g
IC8h
IC7h
IC8i
IC7i
IC7j
IC8j
調査区外
P3
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
P19
P20
P21
P22
P23
P25
P26
P27
P28
P29
P31
P32
P33
P34
P35
P36
P37
P38
P39
P40
P41
P42
P43
P44
P45
S
0
1:60
3m

第64図　ピット（2）



番号	開口部径	底部径	深さ	底部標高 (m)
P51	22	17	13	185.29
P52	28	15	46	185.01
P53	32	25	24	185.52
P54	42	30	15	185.70
P55	68	56	13	185.70
P56	32	22	7	185.80
P57	18	15	10	185.93
P58	20	5	20	185.88
P59	27	17	11	185.95
P60	21	15	不明	不明
P61	27	21	17	185.32
P62	35	24	17	185.14
P63	22	17	22	185.43
P64	25	5	不明	不明
P65	35	25	11	186.01
P66	35	27	26	185.99
P67	47	19	63	185.68
P68	23	10	32	186.03
P69	21	10	22	186.17
P70	37	32	23	186.34
P71	37	19	21	185.88
P72	31	23	14	185.39
P73	38	23	14	185.76
P74	22	19	10	186.08



第65図　ピット（3）

Ⅴ　出土遺物各説

本遺跡から出土した遺物は、縄文土器大コンテナ（T40：42×32×30cm）約30箱・平安時代の土器３片・土製品15点・石器大コンテナ（T40：42×32×30cm）約50箱・石製品29点・銭貨１点で、登録点数は土器443点・土製品15点・石器901点・石製品29点・銭貨１点の合計1389点である。出土遺物の掲載方法であるが、縄文土器・平安時代の土器についてはまず遺構内出土と遺構外出土に分けた。遺構内出土については、その遺構の存続時期に近いと考えられる床面や底面出土のものを始めに、そして覆土下位から上位の順で並べた。石器については、器種ごとに分類し、その上で遺構内出土と遺構外出土の石器に分け、遺構内出土石器を各器種の先頭に、その後に遺構外出土石器を並べた。土製品・石製品については、出土点数が少量のため、前述の通りではなく、分類ごとに掲載している。

１．土器（第66～102図、写真図版72～101）

（１）出土状況について

本遺跡から出土した縄文土器は大コンテナ（T40：42×32×30cm）で約30箱であるが、ほとんどの遺物は、遺構内から出土しており、遺構外から出土した遺物は総量の1／5にも満たなかった。遺物は調査区全体から広い範囲で出土しているが、遺構が数カ所に集中する傾向があり、それに伴う遺物も同じ傾向にある。斜面上方は基本土層Ⅲ層黄褐色粘土質土層まで削平の影響を受けており、遺構外遺物の残存はほとんどないが、それに対して斜面下方の特にⅡＢグリッド付近では削平の影響を免れており、基本土層Ⅱ層黒褐色土から下層で検出される遺構の重複とともに、遺物が集中する。この著しい重複のため、今回の調査で遺構外遺物としたものの中には、実際は遺構内から出土したものも含まれている可能性がある。これは、遺構検出の際に調査員の未熟さから遺構検出面をかなり削ってから検出されたものも少なからず存在することによる。各遺構からの遺物総量については、上方修正しなければならないものあるかもしれないが、遺構の時期決定をするための、遺物採集には注意を払ったつもりである。しかし、遺構内遺物のなかでも著しい重複のため、帰属する遺構の判別が難しいものも数多くあった。このため、遺構内遺物はなるべく床面もしくは床面直上、底面または底面直上から出土したものを優先している。遺物が少なく、覆土のみなどの場合はこの限りではないことをお断りしておきたい。

（２）所属時期について

本遺跡から出土した土器の所属時期については、土器各説を参照して頂きたいが、大まかに本遺跡の出土土器に見られる時期幅を述べれば、縄文時代早期～後期に比定される土器が出土している。この中で、最も多くの土器が出土しているのは縄文時代中期末葉である。また、次いで縄文時代前期後葉であり、その他に前期中葉から後葉にかけて、または中期中葉などの土器群である。

土器群全体を通してみると、最も多くの土器を出土する縄文時代中期末葉とそれに次ぐ前期後葉などの土器群の間には、断絶時期と言ってもよいほどの時間的な開きがある。これはそのまま、遺跡としての断絶時期と考えてもよいものであると考えられる。

第9表　館遺跡土器分類表

群	時期	類	器形		口縁部形状	分類				比定される土器型式
Ⅰ	早期	A類	深鉢	砲弾形を呈し、尖底をなすもの	平縁	1類	貝殻腹縁文による施文			貝殻沈線文系
						2類	貝殻腹縁移動波状圧痕文による施文			
		B類	深鉢	体部が膨らみを帯び、尖底をなすもの	平縁	表裏縄文による施文				表裏縄文系
Ⅱ	前期	A類	深鉢	外傾しながら立ち上がり、バケツ形を呈するもの	平縁	1類	縄文による施文	a種	斜縄文による施文	大木2a式
								b種	単軸絡条体による施文	
								c種	羽状縄文による施文	
								d種	附加条縄文による施文	
								e種	結節回転文による施文	
						2類	櫛歯状工具による施文			
		B類	深鉢	やや外傾しながら立ち上がり、バケツ形を呈するもの	平縁	1類	単軸絡条体第3類による施文			大木2b式
						2類	単軸絡条体第5類による施文			
		C類	深鉢	やや外傾しながら立ち上がり、バケツ形を呈するもの	平縁	1類	竹管円文による施文			大木3式
						2類	鋸歯状沈線による施文			
						3類	隆帯貼付による施文			
		D類	深鉢	胴上部で軽く湾曲し、口縁部が内湾するもの	平縁	鋸歯状沈線・隆帯貼付による施文				
		E類	深鉢	口縁部が外側にやや開き、植木鉢形を呈するもの	平縁	1類	鋸歯状沈線＋小波状貼付文による施文			大木4～5a式
						2類	小波状貼付文による施文	a種	小波状貼付文のみ	
								b種	小波状貼付文＋垂下する文様帯	
						3類	粘土紐貼付による幾何学的文様による施文			
		F類	深鉢	胴上部で外湾し、頸部でくびれ、口縁部が外側に大きく外反するもの	平縁	1類	鋸歯状沈線による施文			
						2類	小波状貼付文による施文	a種	小波状貼付文のみ	
								b種	小波状貼付文＋垂下する文様帯	
						3類	粘土紐貼付による幾何学的文様による施文			
						4類	縄文による施文			
						5類	ナデのみで、無文のもの			
		G類	鉢	口縁部が内湾し、頸部にくびれをもたないもの	平縁	小波状貼付文による施文				
		H類	台付鉢	胴部が外湾し、頸部でくびれ、口縁部が外反する器形に、台が付属するもの	平縁	小波状貼付文による施文				
Ⅲ	中期	A類	深鉢			1類	渦巻き状文様帯による施文			大木8a式
						2類	円形隆帯による施文			
		B類	深鉢	頸部でくびれ、口縁部が内湾するもの	平縁	1類	口縁部に文様を有するもの			
						2類	口縁部が無文のもの			
		C類	深鉢	胴上部で軽く湾曲し、口縁部が緩やかに外反する器形	平縁	1類	頸部に横位沈線文が施されず、縦長の縄文帯の一部を連結したもの			大木10式
						2類	頸部に横位沈線文が施され、口縁部から胴上部にかけて横位波濤文の施されるもの			
						3類	頸部に横位沈線文が施されず、口縁部から胴上部にかけて横位波濤文の施されるもの	a種	口縁部で連結し、沈線文によって描かれる連続波濤文	①「ノ」字状文をもつもの
										②「S」字状文をもつもの
										③「8」字状文をもつもの
										④刺突充填円形区画
								b種	無文部を挟んで展開し、沈線文で描かれる分節波濤文	
						4類	口縁部に無文帯を持ち、胴部に地文の縄文が施されるもの	a種	頸部隆線・沈線文が施されるもの	
								b種	頸部隆線文の上に刺突を施すもの	
								c種	区画文の施されないもの	
						5類	無文帯を持たず、胴部全体に地文の縄文が施されるもの			
						6類	胴部全体に櫛目文が施されるもの			
		D類	深鉢	口縁部が内湾し、頸部にくびれをもたないもの	波状縁	1類	波頂部に横位波濤文が展開するもの			
					平縁	2類	口縁部に無文帯が設けられ、胴部は地文の縄文が施されるもの	①	斜縄文による施文	
								②	単軸絡条体による施文	
						3類	無文帯を持たず、胴部全体に地文の縄文が施されるもの			
						4類	口縁部で連結し、沈線文によって「ノ」字状文の描かれる連続波濤文			
						5類	橋状把手を有するもの			
		E類	深鉢	中空突起を有するもの	突起付	文様はC3類、D1・4類などに共通				
		F類	壺形土器	るつぼ形をするもの	平縁	ナデのみで、無文のもの				
		G類	有孔土器	口縁部に貫通孔が連続して設けられるもの	平縁	ナデのみで、無文のもの				
Ⅳ	後期	出土が少量なため、一括する								後期前葉
Ⅴ	平安	出土が少量なため、一括する								9世紀代

第9表　土器分類表

（3）土器各説

第9表に本遺跡出土土器分類表を示した。本遺跡で出土する縄文土器を大まかに早期、前期、中期、後期の4時期に区分し、Ⅰ群を早期、Ⅱ群を前期、Ⅲ群を中期、Ⅳ群を後期とした。さらにそれぞれの土器群について細分類を設定した。また、Ⅴ群を平安時代の土器とした。分類については、既存の土器型式にかなり頼ることになるが、広く認識して頂くためにはそれが適当であると考えた。細分については、筆者の主観的な考えも加味されているので、既存の土器型式に加えて、器形・文様についての考察を行った上で、類の下に種を置き、これにより本遺跡出土土器を分類する。

第Ⅰ群　縄文時代早期の土器

A類　早期貝殻沈線文系土器に比定される土器を一括した。特に吹切沢式と見られる資料である。器形全体を把握できる資料は出土していないが、砲弾形を呈し、尖底をなす深鉢形と考えられる。出土点数は稀少で、SX12竪穴住居状遺構やSK49土坑、ⅡB2c・2fグリッド付近などからの出土に限られる。施文方法からさらに2細分され、1類は貝殻腹縁文による施文（№287,288,356）、2類は貝殻腹縁移動波状圧痕文による施文（№289,349,357,358）である。

B類　早期表裏縄文系土器に比定される土器を一括した。器形全体を把握できる資料は出土していないが、体部が膨らみを帯び、尖底をなす深鉢形と考えられる。出土点数はA類と同様に稀少で、SI04竪穴住居跡、SI18竪穴住居跡、ⅡA2f・ⅡB3cグリッド付近などからの出土に限られる。施文方法は、器面の表裏に縄文を施文するもの（№359）、尖底部を残存するもの（№21）などがある。

第Ⅱ群　縄文時代前期の土器

A類　大木2a式に比定される土器。器形全体を把握できる資料は出土していないが、外傾しながら直線またはやや湾曲して立ち上がり、胴部にやや膨らみのあるバケツ形を呈する深鉢形と考えられる。出土点数は少量で、遺構内ではSI23・27竪穴住居跡、遺構外ではⅠB8g・ⅡA1g・ⅡA9g・ⅡB2c・ⅡB2e・ⅡB3dグリッドなどから出土している。施文方法により、1類縄文による施文と2類櫛歯状工具による施文の2類に分類し、1類はさらにa～eの5種に細分される。

1類は器面に縄文のみを施文する土器で、a～eの5種に細分される。a種は斜縄文を施文するもので、原体RL縄文・LR縄文の横位施文がほとんどである。出土地点はSI23竪穴住居跡、SI27竪穴住居跡から出土している（№87,88,104～106,121,125）。b種は単軸絡条体を施文するもので、本調査で出土したのは単軸絡条体第5類のみである。出土地点は、遺構内はSI27竪穴住居跡のみ（№124）で、遺構外はⅡA1g・ⅡA9g攪乱内などである（№362,363）。c種は羽状縄文を施文するもので、本調査で出土したのは非結束のみであり、原体の回転方向を変えて、菱形文を構成するものがある。出土地点は、遺構内はSI27竪穴住居跡のみ（№123）で、遺構外はⅡB2c・ⅡB3dなどである（№360,361）。d種は附加条縄文を施文するもので、いずれも原体RL＋r縄文の横位施文である。出土地点は、SI27竪穴住居跡のみからである（№108～110）。この種に分類している3点は、縄文のみの施文で胴部破片であるため、口縁部などに文様を有するE類の胴部である可能性もある。e種は結節回転文を施文するもので、原体L・R縄文にZ字状の撚りを加え、横位施文したものである。出土地点は、遺構内はSI23・27竪穴住居跡、遺構外はⅡB2eグリッド付近などからの出土に限られる（№90,107,122,364,365）。

2類は器面に櫛歯状工具による施文をする土器で、1点のみ出土している（№366）。出土地点は、遺構外

のⅠB8gグリッド付近である。

B類　大木２ｂ式に比定される土器。器形全体を把握できる資料は出土していないが、やや外傾しながら立ち上がり、バケツ形を呈する深鉢形と考えられる。出土点数は稀少で、出土地点はSI27竪穴住居跡に限られる。施文方法により、1類単軸絡条体第３類による施文、２類単軸絡条体第５類による施文に２細分される。

1類は単軸絡条体第３類を施文するもので、いわゆるＳ字状連鎖沈文を施すものである。出土点数は稀少で、２点を掲載した（№111,126）。№126は、粘土紐貼付がなされており、その上に列点が施されている。

２類は単軸絡条体第５類を施文するもので、いわゆる網目状撚糸文を施すものである。出土点数は極稀少で、１点のみ掲載した（№127）。

C類　大木３式に比定される土器。器形全体を把握できる資料は出土していないが、やや外傾しながら立ち上がり、バケツ形を呈する深鉢形を分類した。出土点数は少量で、いずれも破片資料である。出土地点は、遺構内はSI02・04・15・21・27竪穴住居跡、遺構外はⅠA9f・ⅠA9g・ⅠB8c・ⅡA2g・ⅡB2c・ⅡB1fグリッドなどから出土している。施文方法により、1類竹管円文による施文、２類鋸歯状沈線による施文、３類隆帯貼付による施文に３分した。

1類は竹管円文を施文するもので、口縁部から胴部上半にかけて施される。出土点数は少量で、遺構内はSI27竪穴住居跡、そのほかは遺構外である（№112,113,368～372）。

２類は鋸歯状沈線を施文するもので、口縁部から胴部上半にかけて施される。出土点数は少量で、遺構内はSI02・15・21・27竪穴住居跡、遺構外は２点のみである（№2,4,6～9,52,81,115,128,129,373,374）。

３類は隆帯貼付を施文するもので、口縁部から胴部上半にかけて施される。一部には、隆帯に刻目が付される。出土点数は少量で、遺構内はSI02・04竪穴住居跡、そのほかは遺構外である（№3,19,367,375）。

D類　大木３式に比定される土器。Ｃ類とは異なる器形で、器形全体を把握できる資料は出土していないが、胴上部で軽く湾曲し、口縁部が内湾する深鉢形であると考えられる。出土点数は極稀少で、いずれも遺構内出土であり、SI06・27竪穴住居跡、SX04竪穴住居状遺構から出土している（№27,130,269）。施文方法は、Ｃ類とほぼ同様で、鋸歯状沈線や隆帯貼付などが施されている。

E類　大木４～５ａ式に比定される土器。口縁部が外側にやや開き、植木鉢形を呈する深鉢形である。出土点数は少量で、遺構内はSI20・27竪穴住居跡、SX06・09竪穴住居状遺構、SK11土坑、遺構外はⅡB1e・ⅡB2e・ⅡB1fから出土している。施文方法により、1類鋸歯状沈線及び小波状貼付文による施文、２類小波状貼付文のみによる施文、３類粘土紐貼付による幾何学的文様の施文に３分した。

1類は鋸歯状沈線及び小波状貼付文を施文するもので、口唇部、口縁部、胴部上半にかけて施される。出土点数は極稀少で、遺構内のSI27竪穴住居跡から出土した１点を掲載した（№114）。

２類は小波状貼付文のみを施文するもので、口唇部、口唇部内面、口縁部、胴部上半にかけて施される。出土点数はＥ類の中では最も多い。出土地点は、遺構内はSI27竪穴住居跡、遺構外はⅡB1e・ⅡB2e・ⅡB1fである。ａ・ｂ種に２細分され、ａ種は小波状貼付文のみ施文するもの（№70,101,136,272,276,279,296）、ｂ種は小波状貼付文の下に粘土紐貼付による垂下する文様帯を施文するもの（№99,100,116,118,135,137,376,377,378）に細分される。

３類は粘土紐貼付による幾何学的文様を施文するもので、口縁部から胴部上半にかけて大きく描かれる。出土点数は極稀少で、遺構内のSI27竪穴住居跡からのみ２点出土している（№119,138）。

F類　大木４～５ａ式に比定される土器。胴部上半で外湾し、頸部でくびれ、口縁部が外側に大きく外反

する深鉢形である。出土点数は少量で、遺構内はSI05・06・18・24・25・27竪穴住居跡、SX09竪穴住居状遺構、SK06土坑などから出土している。施文方法により、1類鋸歯状沈線による施文、2類小波状貼付文による施文、3類粘土紐貼付による幾何学的文様の施文、4類縄文による施文、5類ナデのみで、無文のものに5分した。

1類は鋸歯状沈線を施文するもので、口縁部から胴部上半にかけて施される。出土点数は極稀少で、遺構内のSI27竪穴住居跡、SK20土坑などから出土している（№133,312）。

2類は小波状貼付文を施文するもので、口縁部から胴部上半にかけて施される。出土点数は少量で、遺構内のSI06・18・27竪穴住居跡などから出土している。施文方法は、さらにａ・ｂ種に細分され、ａ種は小波状貼付文のみを施文するもの（№29,64）、ｂ種は小波状貼付文の下に粘土紐貼付による垂下する文様帯を施文するもの（№98,134）に細分される。

3類は粘土紐貼付による幾何学的文様を施文するもので、口縁部から胴部上半にかけて大きく描かれる。出土点数は稀少で、遺構内のSI05・18竪穴住居跡、SX09竪穴住居状遺構などから出土している（№22,59,275）。

4類は縄文のみを施文するもので、原体ＲＬ縄文の横位施文などが口縁部から胴部全体にかけて施される。出土点数は稀少で、遺構内のSI24・27竪穴住居跡などから出土している（№93,103,120）。

5類はナデのみで無文のもので、器面に文様を施さないものである。出土点数は極稀少で、遺構内のSI25・27竪穴住居跡などから出土している（№94,102）。

Ｇ類　大木４～５ａ式に比定される土器。口縁部が内湾し、頸部にくびれをもたない鉢形のものを一括した。出土点数は極稀少で、遺構内のＳＸ１０竪穴住居状遺構などから出土しており、１点のみを掲載した（№280）。

Ｈ類　大木４～５ａ式に比定される土器。胴部が外湾し、頸部でくびれ、口縁部が外反する器形に台が付属する台付鉢を一括した。出土点数は極稀少で、SI27竪穴住居跡から１点のみ出土している（№117）。頸部に小波状貼付文が全周し、台部には透かしが入れてある。

第Ⅲ群　縄文時代中期の土器

Ａ類　大木８ａ式に比定される土器。器形全体を把握できる資料は出土していないが、平縁または波状縁の口縁部を持ち、直立またはやや外傾しながら立ち上がる深鉢形であると考えられる。出土点数は少量で、遺構内はSI19・25竪穴住居跡、SK20土坑、遺構外はⅠB10h・ⅠC9f・ⅡB3cグリッドなどから出土している。施文方法から、1類渦巻き状文様帯による施文（№69,309,316,380,382）、2類円形隆帯による施文（№95,381）に細分される。

Ｂ類　大木８ａ式に比定される土器。器形全体を把握できる資料は出土していないが、頸部でくびれ、口縁部が内湾する深鉢形を一括した。出土点数は少量で、遺構内のSI12・20・21・33竪穴住居跡、SX01竪穴住居状遺構、SK20土坑などから出土している。施文方法から1類口縁部に文様を有するもの（№44,80,82,213,255,257,308）、2類口縁部が無文のものに2細分される。

Ｃ類　大木10式に比定される土器。胴上部で軽く湾曲し、口縁部が緩やかに外反する器形で深鉢形であると考えられる。出土点数は、本調査で最も出土しており、遺構内はSI02・14・16・18・20・28・29・31・32・33・34・36・38・40竪穴住居跡、SX01・02・03・05・06竪穴住居状遺構、SK29・30・34・39・49土坑、遺構外はⅠA9f・ⅠA9g・ⅠB8c・ⅠB8g・ⅠB8j・ⅡB1d・ⅡB1f・ⅡB2f・ⅡE6c・ⅡE6d・ⅡE7bグリッドなどから出土している。施文方法により、1類頸部に横位沈線文が施されず、縦長の縄文帯の一部を連結し

たもの、2類頸部に横位沈線文が施され、口縁部から胴上部にかけて横位波濤文の施されるもの、3類頸部に横位沈線文が施されず、口縁部から胴上部にかけて横位波濤文の施されるもの、4類口縁部に無文帯を持ち、胴部に地文の縄文が施されるもの、5類無文帯を持たず、胴部全体に地文の縄文が施されるもの、6類胴部全体に櫛目文が施されるものに6分類され、さらにそれぞれについて細分される。

1類　頸部に横位沈線文が施されず、縦長の縄文帯の一部を連結したものを施文するもので、口縁部から胴部上半にかけて「U」字状文が施される。出土点数は極稀少で、遺構内のSI02竪穴住居跡などから出土している（No.10）。

2類　頸部に横位沈線文が施され、口縁部から胴上部にかけて横位波濤文を施文するものである。出土点数は極稀少で、遺構内のSI33竪穴住居跡などから出土している（No.221）。口縁で連結し、沈線文によって描かれる連続波濤文（ト字状文）が描かれている。

3類　頸部に横位沈線文が施されず、口縁部から胴上部にかけて横位波濤文を施文するものである。出土点数は最も多く、出土地点は、遺構内はSI10・16・20・29・31・33・34・35・36・38・40竪穴住居跡、SX01・02・06竪穴住居状遺構、SK28・29・30土坑、遺構外はⅠA9g・ⅠB8c・ⅠB8g・ⅡB1d・ⅡB1f・ⅡB2f・ⅡE6d・ⅡE7bなどから出土している。施文方法により2分され、a種は口縁部で連結し、沈線文によって描かれる連続波濤文を施文するもので、さらに4分される。①「ノ」字状文を持つもの（No.40,229,232,384,393）、②「S」字状文を持つもの（No.164）、③「8」字状文をもつもの（No.187,188）、④刺突充填円形区画を有するもの（No.148,149,207,208,233,250,327,329,406）である。b種は無文部を挟んで展開し、沈線文で「S」字状に描かれる分節波濤文を施文するものである（No.195,226,389,390）。

4類　口縁部に無文帯を持ち、胴部に地文の縄文を施文するものである。出土点数は少量であるが、遺構内のSI14・18・20・29・31・32・34・40竪穴住居跡、SX02・06竪穴住居状遺構、SK39土坑などから出土している。施文方法により3分され、a種は頸部隆線・沈線文が施されるもの（No.48,65,73,78,156,175,181,251）、b種は頸部隆線文の上に刺突を施すもの（No.170,264,273,340）、c種は区画文の施されないもの（No.199）である。

5類　無文帯を持たず、胴部全体に地文の縄文を施文するものである。出土点数は少量であるが、遺構内はSI02・33・34・36・38竪穴住居跡、SX01・02・05竪穴住居状遺構、SK39土坑、SR01土器埋設遺構、遺構外はⅠB8jグリッドなどから出土している（No.1,200,210,228,247,258,263,271,344,351,420）。

6類　胴部全体に櫛目文を施文するものである。出土点数は少量であるが、遺構内はSI28・29竪穴住居跡、SK29・34・49土坑、遺構外はⅡB1dグリッドなどから出土している（No.143,157,328,335,350,410）。

D類　大木10式に比定される土器。口縁部が内湾し、頸部にくびれをもたないもので、波状縁または平縁の口縁部形状を呈する深鉢形であると考えられる。出土点数はC類に次いで多く、遺構内はSI02・03・06・14・16・21・28・29・31・33・34・36竪穴住居跡、SX11竪穴住居状遺構、SK20・24・28・30・38土坑、遺構外はⅡB1d・ⅡE5e・ⅡE6e・ⅡE7bグリッドなどから出土している。施文方法から1類口縁部形状が波状縁を呈し、波頂部に横位波濤文が展開するもの、2類口縁部に無文帯が設けられ、胴部は地文の縄文が施されるもの、3類無文帯を持たず、胴部全体に地文の縄文が施されるもの、4類口縁部で連結し、沈線文によって「ノ」字状文による連続波濤文を施すもの、5類橋状把手を有するものに5分した。　1類は口縁部形状が波状縁を呈し、波頂部に横位波濤文を展開するものである。出土点数は極稀少で、遺構内のSI33・34竪穴住居跡などから出土している（No.194,196,205,216）。

2類は口縁部に無文帯が設けられ、胴部は地文の縄文を施文するものである。D類の中では最も多く、遺

構内のSI02・06・14・16・21・28・29・31・33・36・竪穴住居跡、SK28土坑、遺構外のⅡB1d・ⅡE6e・ⅡE7bグリッドなどから出土している。施文方法は、さらにａ・ｂ種に細分され、ａ種は斜縄文による施文（№12,13,30,47,54,84,140,153,154,244,388,400）、ｂ種は単軸絡条体による施文（№166,217,222,230,323,402）に分けられる。

3類は無文帯を持たず、胴部全体に地文の縄文を施文するものである。出土点数はD類の中で、2類に次いで多く、遺構内のSI03・06・28・29・31・36竪穴住居跡、SK20・24・30土坑、遺構外のⅡE5eグリッドなどから出土している（№16,32,33,141,142,152,162,178,179,242,307,311,318,331,332,419）。

4類は口縁部で連結し、沈線文によって「ノ」字状文による連続波濤文を施すものである。出土点数は少量で、SI33・34竪穴住居跡、SX11竪穴住居状遺構、SK38土坑などから出土している（№190,197,198,204,284,336）。

5類は橋状把手を有するものである。出土点数は極稀少で、遺構内のSI31竪穴住居跡などから出土している（№171）。

E類　大木10式に比定される土器。中空突起を有するものである。口縁部文様や胴部上半に描かれている文様帯はC類及びD類に共通する。出土点数は少量であり、出土地点は、遺構内のSI31・33竪穴住居跡、SK28土坑、遺構外のⅠA10f・ⅡB1d～2d・ⅡE5eグリッドなどから出土している（№165,172,173,203,321,322,383,385,386,387）。

F類　大木10式に比定される土器。器形は壷形を呈し、ナデのみで無文のものである。出土点数は1点のみであり、SI31竪穴住居跡から出土している（№163）。

G類　大木10式に比定される土器。口縁部に貫通孔が横位に連続して設けられるものである。出土点数は1点のみであり、SI34竪穴住居跡から出土している（№202）。

第Ⅳ群　縄文時代後期の土器

縄文時代後期に比定される土器群である。出土点数が少量のため一括した。SK08土坑の№294、295及びSR01土器埋設遺構の№353は、十腰内ⅠA式に比定される。また、№441は後期前葉、№443は貼付瘤期に比定される。このほかに、№352や№442などが出土している。

第Ⅴ群　平安時代の土器

平安時代に比定される土器群である。SI05竪穴住居跡覆土から出土しているが、遺構の推定時期は縄文時代中期のため、覆土上部に攪乱され混入したものと考えられる。3点出土しており、いずれも須恵器である。1点は長胴甕で（№24）、2点は長頸瓶（№25,26）であり、後者は同一個体であると考えられる。時期はいずれも9世紀代に比定される。

2．土製品（第103・104図、写真図版102）

（1）出土状況について

本遺跡から出土した土製品は15点である。内訳は、土偶１点（２個体）、耳飾１点、円盤状土製品13点であり、遺構内は10点、遺構外は５点である。しかし、遺構内から出土した10点はいずれも遺構覆土出土である。

（2）所属時期について

本遺跡の出土土器は縄文時代早期から後期まで及ぶ。詳細は土器各説で参照して頂きたいが、その主体となる時期は縄文時代前期後葉と中期末葉であると考えられる。出土土製品のうち、10点は遺構内覆土出土であり、伴出している土器から時期は縄文時代中期に位置付けられる。散逸的に出土している遺構外土製品もほぼ同時期と見てよいと考える。

（3）土製品各説

①土偶（第103図、写真図版102）

土偶は２個体、１点がSI38竪穴住居跡覆土上位から出土しており、１点を図示した（No.444）。土偶は頭部及び両腕がなく、腰部から上半身と下半身に欠損した状態で出土した。腰部も一部で接合するのみで、大半はない。上半身は前面及び背面がほぼ平らの板状に作られ、肩部がやや張り出していると見られる。前面及び背面には直径２㎜の盲孔が刺突されている。下半身は円柱状を呈し、底面が広く平らに作られており、裾に従い拡がる形となっている。上半身と同様に盲孔が刺突されており、前面の中央やや上方に直径約１㎝、高さ約0.4㎝の突起を有する。

②耳飾（第104図、写真図版102）

耳飾は１点のみが遺構外のⅡB2f攪乱から出土しており、１点のみを図示した（No.445）。耳飾は全体の3/4を欠損しており、完形では円形の滑車形を呈していたものと考えられる。周縁には、滑車状の凹みがあり、表面には盲孔が刺突されている。

③円盤状土製品（第104図、写真図版102）

円盤状土製品は計13点出土しており、遺構内から９点、遺構外から４点である。全点を図示した。これらは、土器片の周縁を打ち欠いたり、周縁を研磨することにより、円形または楕円形に成形されている。大きさは大小あるが、直径約３㎝程度に整えられている。重さは約8.65g程である。文様は、素材の土器片のもので、斜縄文や絡条体圧痕文・沈線・ミガキなど統一性はない。

3．石器（第105～141図、写真図版103～139）

（1）出土状況について

本遺跡から出土した石器は総数1,161点に及ぶ。石器は調査区全体から広い範囲で出土しているが、遺構が集中する箇所があり、それが調査区内で標高の低いところにあるため、伴出する石器もそれに比例している。詳細な出土状況・出土地点については項目毎に触れる。

（2）所属時期について

本遺跡の出土土器は縄文時代早期から後期にまで及ぶ。詳しくは土器各説を参照して頂きたいが、その主体となる時期は縄文時代前期後葉と中期末葉であると考えられる。その他に前期中葉から後葉にかけて、または中期中葉などの土器群が出土している。遺物のほとんどは遺構内から出土しており、その他はその周辺から散逸的にみられる。よって、本遺跡出土石器については、遺構内は共伴する出土土器と同様の縄文時代前期後葉または中期末葉、遺構外については早期～後期（主体は前期後葉、中期末葉）とある程度の時期幅を持って捉えたい。

（3）石器組成と石材

石器組成と石材の数量・重量を第10表に示した。今回の調査で出土した石器の総数は合計1,161点に及ぶ。この内260点が石器製作に伴う剥片（石屑片）で、トゥールとして認定したのは901点である。石器の内訳は尖頭器６点（0.7%）、石鏃46点（5.1%）、石錐１点（0.1%）、石匙19点（2.1%）、石篦２点（0.2%）、楔形石器５点（0.6%）、スクレイパー類61点（6.8%）、二次加工ある剥片64点（7.1%）、微細剥離痕ある剥片87点（9.7%）、石核２点（0.2%）、石斧類23点（2.6%）、礫器類35点（3.9%）、敲磨器類418点（46.4%）、砥石１点（0.1%）、台石類100点（11.1%）、礫石錘24点（2.7%）、球石７点（0.8%）である。このほかに素材礫とみられる自然礫が105点ある。

剥片・礫石器（トゥール）の合計901点（100%）の石材は、頁岩が478点最も多く53.1%を占める。次いで砂岩が244点（27.1%）、凝灰岩が45点（５%）、デイサイト35点（3.9%）、礫岩20点（2.2%）、ホルンフェルス15点（1.7%）、閃緑岩・花崗閃緑岩各10点（1.1%）などである。

（4）石器各説

① 尖頭器（第105図・写真図版103）

先端部に二次加工を施し鋭く尖らせた石器で、槍の先端に装着して使用されたと考えられる資料。計６点出土しており、５点を図示した。トゥールと認定したなかでは、0.7%を占める。

分類　欠損品がほとんどであるため細分は行わず、大分類のみとする。（№459～464）

出土分布状況　計６点のうち、遺構内３点（50%）、遺構外３点（50%）である。このうち、SX12竪穴住居状遺構から出土した№460は、伴出した土器から早期に属すると考えられる。それ以外は、出土位置・層位からおおむね中期に属すると考えられる資料である。

法量　法量の平均値は、計６点で、長さ6.24cm、幅2.02cm、厚さ0.84cm、重量11.74g、先端角61.2°である。

石材　計６点のうち、５点が頁岩で、１点のみが凝灰岩製である。しかし、頁岩製のうち２点は奥羽山脈に産地が求められ、搬入品の可能性がある。

	頁岩	赤色頁岩	珪質頁岩	瑪瑙	珪化木	チャート	凝灰岩	ホルンフェルス	デイサイト	アプライト	角閃石岩	閃緑岩	花崗閃緑岩	斑糲岩	斑岩	千枚岩	安山岩	礫岩	砂岩	ひん岩	不明	合計
尖頭器	5 (66.30)						1 (4.13)															6 (70.43)
石鏃	45 (102.03)		1 (6.02)																			46 (108.05)
石錐			1 (4.48)																			1 (4.48)
石匙	17 (213.67)	2 (5.25)																				19 (218.92)
石篦	2 (57.41)																					2 (57.41)
楔形石器	2 (21.67)	1 (2.86)		1 (3.02)			1 (6.88)															5 (34.43)
スクレイパー類	58 (955.42)		1 (18.32)				2 (17.58)															61 (991.32)
二次加工ある剥片	60 (683.84)	1 (4.55)		1 (15.75)			2 (6.52)															64 (710.66)
微細剥離痕ある剥片	82 (839.69)	2 (38.66)		1 (5.59)	1 (11.55)			1 (30.83)														87 (926.32)
石核	1 (991.60)							1 (286.66)														2 (1278.26)
石斧類	16 (3310.03)							1 (458.43)			1 (124.23)			1 (333.44)					3 (775.75)	1 (502.78)		23 (5504.66)
砥石																			1 (330.29)			1 (330.29)
礫器類	22 (8722.38)						2 (664.69)	5 (1523.32)	1 (919.27)										5 (6454.11)			35 (18283.77)
敲磨器類	141 (54990.10)					2 (1061.49)	27 (11713.22)	6 (3399.68)	23 (15368.08)			7 (5889.52)	8 (5596.11)		3 (1597.09)		2 (989.53)	15 (9014.78)	180 (91100.09)	3 (1453.88)	1 (355.08)	418 (202528.65)
台石類	8 (37317.95)						9 (37691.07)	1 (1161.03)	11 (50596.05)		1 (1846.67)	3 (15892.84)	1 (11500.00)		1 (21000.00)			5 (18901.10)	50 (336193.32)	1 (935.00)	9 (33786.95)	100 (566761.88)
磨石鏃	20 (4208.61)						1 (108.89)												2 (363.28)		1 (337.61)	24 (5018.39)
球石	1 (20.91)												1 (56.04)			1 (26.96)			4 (320.34)			7 (424.25)
合計	480 (11250.61)	6 (51.32)	3 (28.82)	3 (24.36)	1 (11.55)	2 (1061.49)	45 (50212.98)	15 (6859.95)	35 (66883.40)	0	2 (1970.90)	10 (21782.36)	10 (17152.15)	1 (333.44)	4 (22597.09)	1 (26.96)	2 989.53	20 (27915.88)	245 (435537.18)	5 (2891.66)	11 (34479.64)	901 (700082.21)

個数・(　)内は重量(g)

② 石鏃（第106図～第107図・写真図版103～104）

先端部に二次加工を施し鋭く尖らせた石器で、矢の先端に装着して使用されたと考えられる資料。計46点出土しており、26点を図示した。欠損品は10点である。トゥールと認定したなかでは、5.1%を占める。

分類　形態的に基部・法量に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　基部に突起状の二次加工を施し、ソケットに差し込んで装着するもの（有茎鏃）。

A類　基部を作出しているもの。(№465)

B類　柳葉形で、基部が尖るもの。(№466)

第Ⅱ類　直線または内湾などをした基部を有し、スリットに差し込んで装着するもの（無茎鏃）。

A類　直線的な基部を呈するもの（平基鏃）。(№467～474)

B類　突出した基部を呈するもの（円基鏃）。(№475～483)

C類　内湾する基部を呈するもの（凹基鏃）。

1類　浅くV字に内湾するもの。(№484～500)

2類　深くV字に内湾するもの。(№501～504)

3類　内湾した部分が直線的になるもの。(№505～510)

出土分布状況　計46点のうち、遺構内32点（69.6%）、遺構外14点（30.4%）である。このうち、SI27竪穴住居跡からは10点が出土しており、内訳はⅡA類1点・ⅡB類1点・ⅡC1類5点・ⅡC3類3点である。伴出している土器と遺構の推定時期から縄文時代前期後半に比定される。

法量　法量の平均値は、計46点で、長さ2.93cm、幅1.80cm、厚さ0.57cm、重量2.57g、先端角60.3°である。

石材　計46点のうち、45点（97.8%）が頁岩製で、1点（2.2%）が珪質頁岩製である。

③ 石錐（第108図・写真図版104）

剥片の尖頭状の端部に両側縁から二次加工が施された石器で、主に穿孔作業に使用されたと考えられる資料。計1点出土しており、1点を図示した。トゥールと認定したなかでは、0.1%を占める。

分類　形態的に機能部に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　丁寧な二次加工がつまみ部までの広範囲に見られるもの。(№511)

第Ⅱ類　粗雑な二次加工が錐部のみに集中するもの。

出土分布状況　1点は遺構外からの出土で、ⅡB2dグリッド南西側Ⅱ層からの出土である。

法量　長さに対して、幅が狭く細身である。

石材　珪質頁岩製で、硬質な石材が選択されている。

④ 石匙（第108図～第110図、写真図版104）

つまみ状の突起を一端に有し、スクレイパー類と同様の刃部を作り出している資料。計19点出土しており、全点を図示した。トゥールと認定したなかでは、2.1%を占める。

分類　形態的につまみ部の作出位置と刃角に着目して分類を行う。刃角については、二次加工の剥離面とそれに接する素材の剥離面（片面加工）、または二次加工の剥離面（両面加工）とのなす角度を3箇所以上計測を行った平均値とする。

第Ⅰ類　つまみ部に対し刃部が縦に長いもの（縦型石匙）。

A類　縦型石匙の中で、尖頭状の先端を有するもの。（№512～519）

B類　縦型石匙の中で、側縁に刃部を有するもの。（№520～527）

第Ⅱ類　つまみ部に対し刃部が横に長いもの（横型石匙）。

A類　横型石匙の中で、尖頭状の先端を有するもの。

B類　横型石匙の中で、末端部に刃部を有するもの。（№528～530）

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

1類　片面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの。

2類　片面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの。

3類　両面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの。

4類　両面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの。

出土分布状況　計19点のうち、遺構内13点（68.4%）、遺構外6点（31.6%）である。

法量　法量の平均値は、計19点で、長さ5.61cm、幅2.75cm、厚さ0.78cm、重量10.65g、刃角49.1°である。

石材　計19点のうち、頁岩17点、赤色頁岩2点である。

⑤ 石篦（第110図、写真図版104）

左右がほぼ対称で基部側が狭く、刃部側に広がりを持つ、全体に二次加工が施された資料。計2点出土しており、2点を図示した。トゥールと認定したなかでは、0.2%を占める。

分類　形態的に基部・刃角に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　基部が尖頭状を呈するもの。

第Ⅱ類　基部にやや幅があるもの。（№531・532）

第Ⅲ類　基部が楕円形を呈するもの。

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

A類　片面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの。

B類　片面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの。

C類　両面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの。

D類　両面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの。

出土分布状況　計2点ともSI27竪穴住居跡からの出土である。伴出している土器と遺構の推定時期から縄文時代前期後半に比定される。

法量　法量の平均値は、計2点で、長さ6.50cm、幅3.52cm、厚さ1.28cm、重量28.71g、刃角59.5°である。

石材　計2点とも頁岩を素材としている。

⑥ 楔形石器（第110図、写真図版104）

両極剥離痕と2個一対または4個二対の刃部を有する楔形の資料。計5点出土しており、全点を図示した。トゥールと認定したなかでは、0.6%を占める。

分類　形態的に刃部の作出位置に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　2個一対の刃部と両極剥離痕をもつ。（№533～537）

第Ⅱ類　4個二対の刃部と両極剥離痕をもつ。

出土分布状況　計５点で、遺構内が３点（60%）、遺構外が２点（40%）である。本遺跡で出土している５点はいずれも第Ⅰ類である。

法量　法量の平均値は、計５点で、長さ3.29cm、幅1.88cm、厚さ1.15cm、重量6.89gである。

石材　計５点のうち、頁岩が２点、赤色頁岩１点、凝灰岩１点、瑪瑙１点である。

⑦ スクレイパー類（第111図～第114図、写真図版105～107）

提示した器種以外で、機能部として刃部を有し、切る・削る・掻くなどに使用されたと考えられる資料。計61点出土しており、29点を図示した。トゥールと認定したなかでは、6.7%を占める。なお、二次加工のある石器も同様の機能が考えられるが、全縁辺の1/2以上に二次加工が施されている場合をスクレイパー類とし、それ以下を二次加工のある剥片に分類した。

分類　形態的に素材である剥片の形状と二次加工の面数・刃角に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　縦長剥片を素材とするもの。(№538～588)

第Ⅱ類　横長剥片を素材とするもの。(№589～598)

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

A類　片面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの。（Ⅰ類：№538～551、Ⅱ類：№589,590）

B類　片面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの。（Ⅰ類：№552～578、Ⅱ類：№591～594）

C類　両面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの。（Ⅰ類：№579～582、Ⅱ類：№595～597）

D類　両面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの。（Ⅰ類：№583～588、Ⅱ類：№598）

出土分布状況　計61点のうち、遺構内41点（67.2%）、遺構外20点（32.8%）である。このうち、SI27竪穴住居跡からは18点が出土しており、内訳はⅠA類２点・ⅠB類11点・ⅠC類２点・ⅠD類１点・ⅡB類２点である。伴出している土器と遺構の推定時期から縄文時代前期後半に比定される。

法量　法量の平均値は、計61点で、長さ5.05cm、幅3.13cm、厚さ0.90cm、重量16.25g、刃角57.0°である。

石材　計61点のうち、頁岩が58点（95%）を占め、そのほかに凝灰岩２点、珪質頁岩１点がある。

⑧ 二次加工のある剥片（第114図～第118図、写真図版107～108）

スクレイパー類に比べて刃部の作出範囲が狭い（全縁辺の1/2以下）が、同様の機能を有すると考えられる資料。計64点出土しており、29点を図示した。トゥールと認定したなかでは、7.1%を占める。

分類　形態的に素材である剥片の形状と二次加工の面数・刃角に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　縦長剥片を素材とするもの。(№599～635)

第Ⅱ類　横長剥片を素材とするもの。(№636～662)

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

A類　片面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの。（Ⅰ類：№599～608、Ⅱ類：№636～645）

B類　片面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの。（Ⅰ類：№609～633、Ⅱ類：№646～659）

C類　両面に二次加工を施し、刃角が60°以上のもの。（Ⅱ類：№660,661）

D類　両面に二次加工を施し、刃角が59°以下のもの。（Ⅰ類：№634、Ⅱ類：№662）

出土分布状況　計64点のうち、遺構内42点（65.6%）、遺構外22点（34.4%）である。このうち、遺構内ではSI27竪穴住居跡からは14点（ⅠA類２点・ⅠB類８点・ⅡA類１点・ⅡB類３点）、SI33竪穴住居跡からは７点（ⅠA類１点・ⅠB類１点・ⅡA類３点・ⅡB類２点）が出土しており、伴出土器と遺構の推定時期か

ら前者は縄文時代前期後半、後者は中期末葉に比定される。

法量　法量の平均値は、計64点で、長さ3.80cm、幅3.61cm、厚さ0.89cm、重量11.10g、刃角56.0°である。

石材　計64点のうち、頁岩が60点（93.8%）を占め、次いで凝灰岩２点、赤色頁岩１点、瑪瑙１点である。

⑨ 微細剥離痕のある剥片（第118図、写真図版109～111）

剥片剥離作業において産出された石器製作に不適な剥片であるが、縁辺部に微細な剥離痕が観察される剥片を一括した。計87点出土しており、５点を図示した。トゥールと認定したなかでは、9.7%を占める。

分類　形態的に素材である剥片の形状と自然面の有無に着目して分類を行う。自然面が1/2以上見られる剥片は剥片剥離作業の第一行程で産出されたもの、自然面が1/2以下しか見られないものは第二行程以降に産出されたものである。

第Ⅰ類　縦長剥片を素材とするもの。(№663～716)

第Ⅱ類　横長剥片を素材とするもの。(№717～749)

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

A類　自然面が1/2以上（第一行程）。(Ⅱ類：№717)

B類　自然面が1/2以下（第二行程以降）。(Ⅰ類：№663～716、Ⅱ類：№718～749)

出土分布状況　計87点のうち、遺構内64点（73.6%）、遺構外23点（26.4%）である。このうち、SI27竪穴住居跡からは37点が出土しており、遺構内出土のうち57.8%を占める。内訳はⅠB類23点・ⅡB類14点である。伴出している土器と遺構の推定時期から縄文時代前期後半に比定される。

法量　法量の平均値は、計87点で、長さ3.62cm、幅3.67cm、厚さ0.87cm、重量10.41gである。

石材　計87点のうち、頁岩が82点（94.3%）を占め、次いで赤色頁岩が２点、瑪瑙・ホルンフェルス・珪化木が各１点である。

⑩ アスファルトの付着が見られる剥片（第118図、写真図版111）

剥片剥離作業において産出された石器製作に不適な剥片であるが、アスファルトの付着が見られる剥片。計２点出土しており、２点を図示した。

分類　器種が少量であるため、大分類のみとする。(№753,754)

出土分布状況　計２点はいずれも遺構内からの出土であり、SI31竪穴住居跡及びSX09竪穴住居状遺構から各１点ずつ出土している。

法量　計２点に共通する傾向は見られず、偶発的にアスファルトが付着したのか、または塗布する際に使用したのかは不明である。

石材　計２点ともに頁岩である。

⑪ 石核（写真図版111）

剥片剥離生産を目的とした個体で、１回以上の剥片剥離作業が行われている資料。計２点出土しており、写真のみ掲載した。トゥールと認定したなかでは、0.2%を占める。

分類　器種が少量であるため、大分類のみとする。(№750,751)

出土分布状況　計２点のうち１点は遺構内であるSI08竪穴住居跡から出土しており、もう１点は遺構外からの出土である。

法量　計２点に法量からみた共通性はない。
石材　計２点のうち、ホルンフェルスが１点、頁岩が１点である。

⑫　剥片

剥片剥離作業において産出された石器製作に不適な剥片や加工の施される属性を有した剥片を一括した。計258点出土しており、今回は時間と紙数の都合上、点数のみを掲載した。

⑬　石斧類（第119図～第121図、写真図版139）

器面全体または一部を研磨・敲打、剥離などで成形した斧形石器で、木の伐採や切断作業、土掘り作業に使用されたと考えられる資料。計23点出土しており、19点を図示した。トゥールと認定したなかでは、2.6%を占める。

分類　成形段階の敲打・剥離・研磨などの加工と刃部の形状（平面・断面）に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　器面全体を研磨して成形している斧形石器（磨製石斧）。(№755～766)

第Ⅱ類　敲打・剥離のみで成形をしている斧形石器（打製石斧）。(№767～774)

第Ⅲ類　敲打・剥離により、撥形や分銅形に成形した斧形石器（石鍬）。(№775～777)

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

Ａ類　刃部の平面形が円刃、断面形が両刃のもの。（Ⅰ類：№757,760,762,763,766、Ⅲ類：№775～777）

Ｂ類　刃部の平面形が円刃、断面形が片刃のもの。（Ⅰ類：№756,759、Ⅱ類：№768）

Ｃ類　刃部の平面形が偏円刃、断面形が両刃のもの。（Ⅰ類：№755,764、Ⅱ類：№770,774）

Ｄ類　刃部の平面形が偏円刃、断面形が片刃のもの。（Ⅱ類：№773）

Ｅ類　刃部の平面形が直刃、断面形が両刃のもの。（Ⅰ類：№761）

Ｆ類　刃部の平面形が直刃、断面形が片刃のもの。（Ⅱ類：№767）

出土分布状況　計23点のうち、遺構内14点（60.9%）、遺構外９点（39.1%）である。

法量　法量の平均値は、第Ⅰ類が長さ9.26cm、幅3.81cm、厚さ2.23cm、重量208.1gである。第Ⅱ類は長さ13.9cm、幅6.14cm、厚さ1.92cm、重量263.5gである。第Ⅲ類は長さ13.9cm、幅6.14cm、厚さ1.92cm、重量263.5gである。

石材　計23点のうち、頁岩が16点（69.6%）を占め、次いで砂岩３点、ひん岩・斑糲岩・角閃?岩・ホルンフェルスが各１点である。

⑭ 礫器類（第122･123図、写真図版112･113）

礫または大形で厚手の剥片の一部に片面・両面から二次加工を加え、刃部を作り出した資料。計35点出土しており、10点を図示した。トゥールと認定したなかでは、3.9%を占める。

分類　素材と刃部の作出に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　礫素材のもの。(№779～802、813)

第Ⅱ類　大形で厚手の剥片を素材とするもの。(№803～812)

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

Ａ類　片面のみに二次加工を施すもの。（Ⅰ類：№779～787、Ⅱ類：№803～806）

B類　両面に二次加工を施すもの。（Ⅰ類：№788～802,813、Ⅱ類：№807～812）

出土分布状況　計35点のうち、遺構内26点（74.3%）、遺構外９点（25.7%）である。

法量　法量の平均値は、第Ⅰ類が長さ16.96cm、幅7.83cm、厚さ3.06cm、重量644.15gである。第Ⅱ類は長さ13.98cm、幅7.87cm、厚さ1.91cm、重量265.17gである。

石材　計35点のうち、頁岩が22点（62.9%）を占め、次いで砂岩・ホルンフェルスが各５点、凝灰岩２点、デイサイト１点である。

⑮　敲磨器類（第123図～第139図、写真図版113～131）

礫の表面に残された痕跡を下記の３種類に規定し、これらの痕跡のいずれかが認められる石器を敲磨器類とした。

敲打痕　正裏面または側面に残された敲打状の痕跡があるもの。痕跡は凸凹状に器面が荒れているものが多く、また敲打による剥離を伴っているものもある。

磨痕　正裏面または側面に摩耗の痕跡があるもの。摩耗面は滑らかなものとザラザラしたものがある（実測図においてはトーンを色分けして表示している）。

凹痕　正裏面または側面に残された人為的なクレーター状の痕跡があるもの。浅い凹痕のあるもの、深い凹痕のあるものなどがある。敲打痕が正裏面にある場合は、観察した上で敲打痕か凹痕かの判別を行っている。

計418点出土しており、102点を図示した。トゥールと認定したなかでは、46.4%を占める。

分類　礫の表面に残されている痕跡（敲打痕・磨痕・凹痕）の組み合わせにより８分類し、さらに各分類内で痕跡箇所により細分を行った。また、この他にいわゆる「特殊磨石」に近似するものと、他の要素を併せ持つものを分類に加えた。

第Ⅰ類　敲打痕だけを有するもの。第Ⅰ類は敲打痕の位置により３分される。（№814～920）

A類　敲打痕が正裏面に位置するもの。（№814～830）

B類　敲打痕が側面に位置するもの。（№831～904）

C類　敲打痕が正裏面のいずれかと側面に位置するもの。（№905～920）

第Ⅱ類　敲打痕と磨痕が認められるもの。敲打痕と磨痕の位置により、９分される。（№921～962）

A類　敲打痕が正裏面に位置するもの。（№921～924）

B類　敲打痕が側面に位置するもの。（№925～960）

C類　敲打痕が正裏面のいずれかと側面に位置するもの。（№961,962）

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

１類　磨痕が正裏面のいずれかに位置するもの。（ⅠA類：№921～923、ⅡB類：№925～944、ⅡC類：№961,962）

２類　磨痕が側面に位置するもの。（ⅡA類：№923,924、ⅡB類：№945～951）

３類　磨痕が正裏面のいずれかと側面に位置するもの。（ⅡB類：№952～960）

第Ⅲ類　敲打痕と凹痕が認められるもの。敲打痕と磨痕の位置により、９分される。（№963～997）

A類　敲打痕が正裏面に位置するもの。（№963）

B類　敲打痕が側面に位置するもの。（№964～997）

C類　敲打痕が正裏面のいずれかと側面に位置するもの。

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

a類　凹痕が正裏面に位置するもの。（ⅢA類：№963、ⅢB類：№964～995）

b類　凹痕が側面に位置するもの。

c類　凹痕が正裏面のいずれかと側面に位置するもの。（ⅢB類：№996,997）

第Ⅳ類　磨痕だけが認められるもの。第Ⅳ類は磨痕の位置により、3分される。（№998～1075）

1類　磨痕が正裏面のいずれかに位置するもの。（№998～1035）

2類　磨痕が側面に位置するもの。（№1036～1061）

3類　磨痕が正裏面のいずれかと側面に位置するもの。（№1062～1075）

第Ⅴ類　磨痕と凹痕が認められるもの。磨痕と凹痕の位置により、9分される。（№1076～1084）

1類　磨痕が正裏面のいずれかに位置するもの。（№1076～1080）

2類　磨痕が側面に位置するもの。（№1081～1084）

3類　磨痕が正裏面のいずれかと側面に位置するもの。

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

a類　凹痕が正裏面に位置するもの。（Ⅴ1類：№1076～1080、Ⅴ2類：№1081～1084）

b類　凹痕が側面に位置するもの。

c類　凹痕が正裏面のいずれかと側面に位置するもの。

第Ⅵ類　凹痕だけが認められるもの。第Ⅵ類は凹痕の位置により、3分される。（№1085～1175）

a類　凹痕が正裏面に位置するもの。（№1085～1168）

b類　凹痕が側面に位置するもの。（№1169）

c類　凹痕が正裏面のいずれかと側面に位置するもの。（№1170～1175）

第Ⅶ類　敲打痕と磨痕と凹痕のすべてが認められるもの。第Ⅶ類は分類器種が少量のため大分類のみとする。（№1176～1180）

第Ⅷ類　いわゆる「特殊磨石」と呼称されるものに近似し、三角柱・四角柱・厚みのある楕円柱状の礫の稜（側面）や小判形礫の側面などに磨痕を持つものである。礫の形状と複合する痕跡によって8分に細分する。（№1181～1231）

A類　三角柱状の礫を素材とする。（№1181～1204）

B類　四角柱状の礫を素材とする。（№1205～1212）

C類　楕円柱状の礫を素材とする。（№1213～1230）

D類　小判形の礫を素材とする。（№1231）

上記の分類に加えて、以下の細分を行う。

1類　稜（側面）の磨痕が1箇所のもの。（ⅧA類：№1181～1196、ⅧB類：№1205～1207、ⅧC類：№1213～1228、ⅧD類：№1231）

2類　稜（側面）の磨痕が2箇所以上のもの。（ⅧA類：№1197～1204、ⅧB類：№1208～1212、ⅧC類：№1229,1230）

これらに加えて、複合する痕跡（敲打痕・磨痕・凹痕）を伴う場合は、αを付記する。

出土分布状況　計418点のうち、遺構内が327点（78.2%）を占め、遺構外が91点（21.8%）である。

法量　法量に一定した共通性は見あたらないが、片手で持つのに適した大きさの礫を使用している。

石材　計418点のうち、砂岩が最も多く180点（43.1%）を占め、次いで頁岩が139点（33.3%）、凝灰岩27点（6.5%）、デイサイト23点（5.5%）、礫岩15点（3.6%）、花崗閃緑岩8点（1.9%）、閃緑岩7点（1.7%）、ホル

ンフェルス６点（1.4%）、斑糲岩・ひん岩が各３点（各0.7%）、安山岩・チャートが各２点（各0.5%）、不明３点（各0.7%）である。

⑯ 砥石（写真図版131）

溝状・帯状・平面上の痕跡が認められる石器で、ものを研ぐ作業に使用されたと考えられる資料。計１点出土しており、写真のみ掲載した。トゥールと認定したなかでは、0.1%を占める。

分類　器種が少量であるため、大分類のみとする。（№1232）

出土分布状況　計１点出土しており、遺構外からの出土である。

法量　法量は他の礫石器と同量である。

石材　砂岩を素材としている。

⑰ 台石類（第139･140図、写真図版132～138）

片面、あるいは両面に使用の痕跡（敲打痕、擦痕）が認められる扁平礫で、磨る・敲く際の台として使用されたと考えられる資料。計100点出土しており、４点を図示した。トゥールと認定したなかでは、11.1%を占める。なお、調査区内で出土した台石類は、すべてが加工を施さず、素材をそのまま使用したものである。

分類　表面の形状が作業と関係するため、法量に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　幅を１として、長さと幅の比率が、2:1以下のもの。（№1233～1316）

第Ⅱ類　幅を１として、長さと幅の比率が、2:1以上のもの。（№1317～1332）

出土分布状況　計100点のうち、遺構内90点（90%）を占め、遺構外は10点（10%）である。

法量　法量の平均値は、長さ28.42cm、幅19.30cm、厚さ6.25cm、重量667.62gである。

石材　計100点のうち、砂岩が最も多く50点（50%）で、次いでデイサイト11点、凝灰岩９点、頁岩８点、礫岩５点、閃緑岩３点、斑糲岩・ひん岩・ホルンフェルス・角閃?岩・花崗閃緑岩が各１点、不明が９点である。

⑱　礫石錘（第141図、写真図版138）

礫の両側縁または片側縁を打ち欠いたもので、「紐掛け」を作出したと考えられる石器で、漁網錘や編み物を編む際の錘として使用されたと考えられる資料。計24点出土しており、８点を図示した。トゥールと認定したなかでは、2.7%を占める。

分類　錘として使用するため、重量に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　重量が200g以上のもの。（№1333～1344）

第Ⅱ類　重量が200g以下のもの。（№1345～1356）

出土分布状況　計24点のうち、遺構内19点（79.2%）、遺構外５点（20.8%）である。遺構内のうち、SX10竪穴住居状遺構からは５点出土している。

法量　法量の平均値は、長さ10.45cm、幅6.66cm、厚さ1.96cm、重量209.10gである。

石材　計24点のうち、頁岩20点（83.3%）、次いで砂岩が２点、凝灰岩１点、不明が１点である。

⑲　球石（写真図版138）

敲打・研磨により球状に成形された石器で、用途不明な資料。計７点出土しており、写真のみ掲載した。ト

ゥールと認定したなかでは、0.8%を占める。

分類　器種が少量であるため、大分類のみとする。(№1356～1362)

出土分布状況　計7点出土しており、遺構内6点、遺構外1点である。

法量　法量の平均値は、長さ4.90cm、幅4.17cm、厚さ2.40cm、重量60.61gである。

石材　計7点のうち、砂岩3点、頁岩1点、花崗閃緑岩1点、千枚岩1点、不明1点である。

⑳　自然礫

調査区内から出土した自然礫で、何らかの意図があり遺跡内に持ち込まれたと考えられる資料。計105点出土しており、いずれも写真のみ掲載した。

分類　形状に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　棒状を呈する礫。石棒類を製作するためと考えられるが、用途は不明。(№1363～1439)

第Ⅱ類　扁平状を呈する礫。台石や炉石として使用するためと考えられるが、用途は不明。(№1440～1450)

第Ⅲ類　球状を呈する礫。球石を製作するためと考えられるが、用途は不明。(№1451～1468)

出土分布状況　ほとんどが遺構内からの出土である。

法量　法量の平均値は、第Ⅰ類が長さ21.28cm、幅5.58cm、厚さ3.79cm、重量1545.42gである。第Ⅱ類は長さ27.30cm、幅8.69cm、厚さ5.33cm、重量2542.97gである。第Ⅲ類は長さ5.28cm、幅4.43cm、厚さ3.08cm、重量94.51gである。

石材　計105点のうち、最も多いのは頁岩で49点（46.7%)、次いで砂岩31点、凝灰岩13点、礫岩4点、閃緑岩・デイサイト各2点、アプライト・ホルンフェルス・安山岩が各1点、不明が1点である。

4．石製品（第142～144図、写真図版140）

（1）出土状況について

本遺跡から出土した石製品は計28点であるが、このうち計21点（75%）が遺構内から出土しており、計7点（25%）が遺構外からの出土である。遺物は調査区全体から広い範囲で出土しているが、遺構が集中する箇所があり、それが調査区内で標高の低いところにあるため、伴出する遺物もそれに比例している。詳細な出土状況・出土地点については項目毎に触れる。

（2）所属時期について

本遺跡の出土土器は早期から後期にまで及ぶ。その主体となる時期は既存の土器型式及び検出遺構から前期後葉、中期末葉と考えられるため、これらと伴出する石製品についても同様の時期が想定される。

（3）石製品各説

① 石棒類（第142･143図、写真図版140）

敲打や研磨、刻みなどにより成形された石製品で、反りをもたない剣状のもの、反りがある刀状のもの、棒状のもの（男根状を含む）を一括した。計13点出土しており、11点を図示した。

分類　形状に着目して分類を行う。

第Ⅰ類　敲打により成形した後、剣状に研磨などを加えたもの（石剣）。(№1468～1470,1475,1476,1479)

第Ⅱ類　敲打により成形した後、刀状に研磨を加えたもの（石刀）。(№1478)

第Ⅲ類　敲打により成形した後、棒状に研磨を加え、握り部や刻みを作り出したもの（石棒）。№1477は端部に一周する刻みをもち、男根状を呈する。(№1471～1474,1477,1480)

出土分布状況　計13点のうち、遺構内11点（84.6%）、遺構外2点（15.4%）である。

法量　法量の平均値は、第Ⅰ類が長さ24.56cm、幅3.56cm、厚さ1.51cm、重量262.89gである。第Ⅱ類は1点のみで、長さ33.01cm、幅3.56cm、厚さ2.10cm、重量294.88gである。第Ⅲ類は長さ21.27cm、幅4.67cm、厚さ3.41cm、重量398.77gである。

石材　計13点のうち、頁岩が10点（76.9%）を占め、その他にホルンフェルス・凝灰岩・砂岩が各1点である。

② 鰹節状石製品（第143図、写真図版140）

敲打と研磨により、鰹節状に成形した石製品。計1点出土しており、1点を図示した。

分類　器種が少量であるため、大分類のみとする。(№1481)

出土分布状況　計1点のみ出土しており、SI23竪穴住居跡周溝底面から出土している。

法量　石棒類とほぼ同量である。

石材　計1点で、頁岩製である。

③ 円盤状石製品（第144図、写真図版140）

敲打と研磨により、円盤状に成形した石製品。計4点出土しており、全点を図示した。

分類　器種が少量であるため、大分類のみとする。(№1482～1485)

出土分布状況　計４点出土しており、遺構内２点、遺構外２点である。
法量　法量の平均値は、長さ5.39cm、幅5.12cm、厚さ1.07cm、重量40.13gである。
石材　計４点のうち、頁岩３点、砂岩１点である。

④玦状耳飾（第144図、写真図版140）

敲打と研磨により成形を施し、中心に穿孔を行い、そのうちの１箇所に切れ目を入れた石製品。耳飾として使用されたと考えられる。計５点出土しており、全点を図示した。
分類　器種が少量であるため、大分類のみとする。（№1486～1490）
出土分布状況　計５点のうち、遺構内４点、遺構外が１点である。このうち、遺構内の３点はSI27竪穴住居跡から出土しており、伴出している土器と遺構の推定時期から縄文時代前期後葉に比定される。
法量　法量の平均値は、長さ3.94cm、幅3.30cm、厚さ0.51cm、重量7.17gである。
石材　計５点のうち、滑石３点、頁岩２点である。

⑤石製垂飾品（第144図、写真図版140）

素材の一部に抉りを入れ、「紐掛け」を作出したと考えられる石製品。計２点出土しており、全点を図示した。
分類　器種が少量であるため、大分類のみとする。（№1491,1492）
出土分布状況　計２点のうち、遺構内１点、遺構外１点である。このうち、遺構内の１点はSI27竪穴住居跡床直上から出土しており、伴出している土器と遺構の推定時期から縄文時代前期後葉に比定される。
法量　№1491は大きめであるため、実際に垂飾品として使用していたかは不明である。
石材　計２点いずれも頁岩である。

⑥有孔石製品（第144図、写真図版140）

素材に紐通し用と考えられる穿孔を加えた石製品。計１点出土しており、１点を図示した。
分類　器種が少量であるため、大分類のみとする。（№1493）
出土分布状況　計１点は遺構外からの出土であり、ⅡB1f風倒木痕内覆土から出土している。
法量　他の垂飾品よりも大きめである。
石材　頁岩製である。

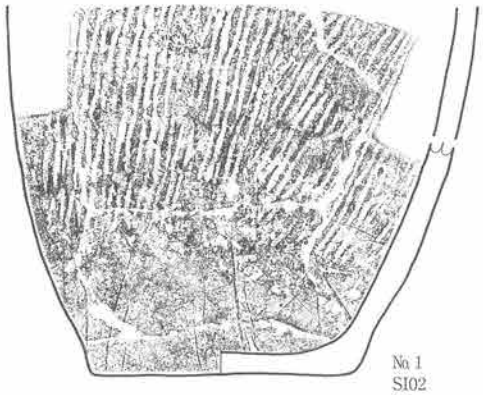
⑦その他（写真図版140）

上記の分類に当てはまらないもの、または不明なものを一括した（№1494～1496）。いずれも遺構内からの出土である。№1494は石製品と考えられるが詳細は不明、№1495は線刻礫と考えられるもの、№1496は赤色顔料が着色または付着した礫である。石材は、№1495,1496は凝灰岩、№1494は頁岩である。

５．銭貨（第104図、写真図版102）

銭貨は１点のみがSA04柵列Ｐ６覆土から出土しており、１点を図示した。銭貨は熙寧元寶であり、初鋳年1068年、北宋で作られたものだが、真贋の判別は出来なかった。柱穴から出土したのは、偶発的か、もしくは地鎮のために意図的に投げ込まれたかは不明である。

SI02

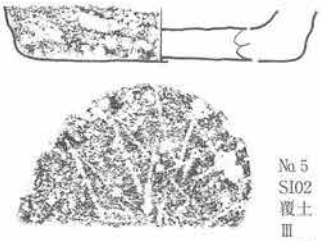


No.1
SI02
炉
ⅢC5
底部～胴部

No.2
SI02
覆土
ⅡC2
口縁部

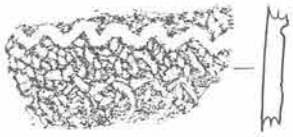
No.3
SI02
覆土
ⅡC3
口縁部

No.4
SI02
覆土
ⅡC2
口縁部



No.5
SI02
覆土
Ⅲ
底部

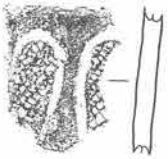
No.6
SI02
覆土
ⅡC2
胴部上半



No.7
SI02
覆土
ⅡC2
胴部上半

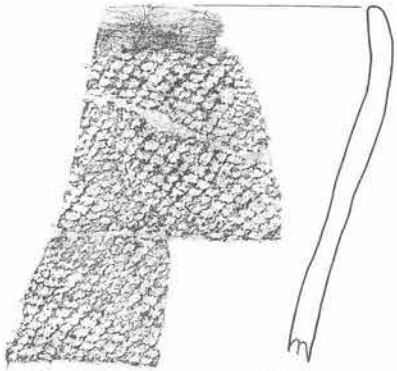
No.8
SI02
覆土
ⅡC2
口縁部

No.9
SI02
覆土
ⅡC2
口縁部

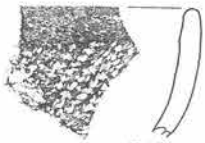


No.10
SI02
覆土
ⅢC1
胴部上半

No.11
SI02
覆土
Ⅲ
胴部



No.12
SI02
覆土
ⅢD2①
口縁部



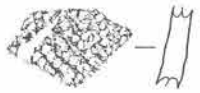
No.13
SI02
覆土
ⅢD2①
口縁部

No.14
SI02
覆土
Ⅲ
口縁部

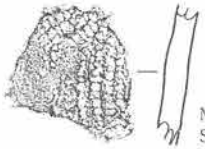
No.15
SI02
覆土
Ⅲ
底部

0　1：3　10cm

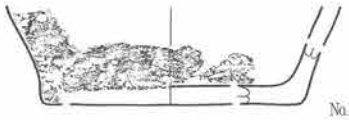
第66図　土器（1）



No.16
SI03
床面
ⅢD3?
胴部



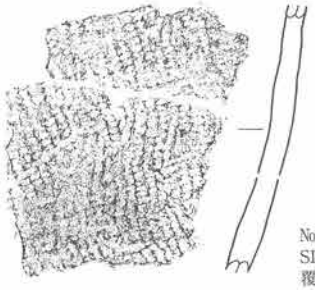
No.17
SI03
覆土
Ⅲ
胴部



SI03

No.18
SI03
覆土
Ⅲ
底部

No.19
SI04
床面
ⅡC3
口縁部



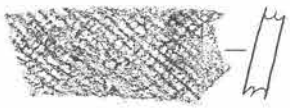
No.20
SI04
覆土
Ⅲ
胴部下半

No.21
SI04
覆土
ⅠB
底部

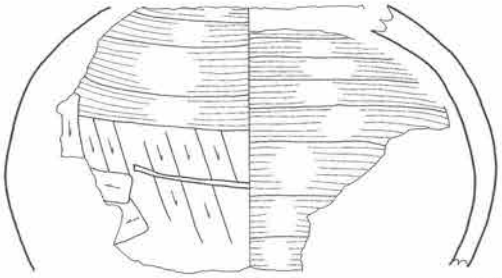
SI04

SI05

No.22
SI05
覆土
ⅡF3
胴部上半

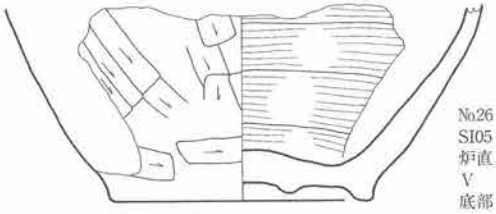


No.23
SI05
覆土
Ⅲ
胴部

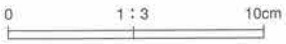


No.25
SI05
覆土
Ⅴ
胴部

No.24
SI05
覆土
Ⅴ
胴部下位

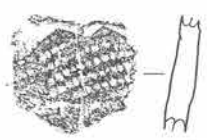


No.26
SI05
炉直上
Ⅴ
底部



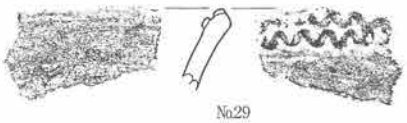
第67図　土器（2）

SI06

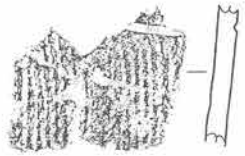


No.27
SI06
床面
ⅡD
胴部

No.28
SI06
床面
Ⅲ
口縁部

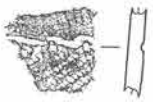


No.29
SI06
覆土
ⅡF2a
口縁部



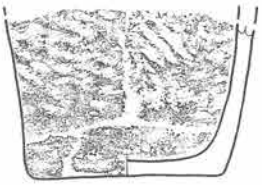
No.30
SI06
覆土
ⅢD2①
胴部

No.31
SI06
覆土
Ⅲ
口縁部



No.32
SI06
覆土
ⅢD3?
胴部

No.33
SI06
覆土
ⅢD3?
胴部

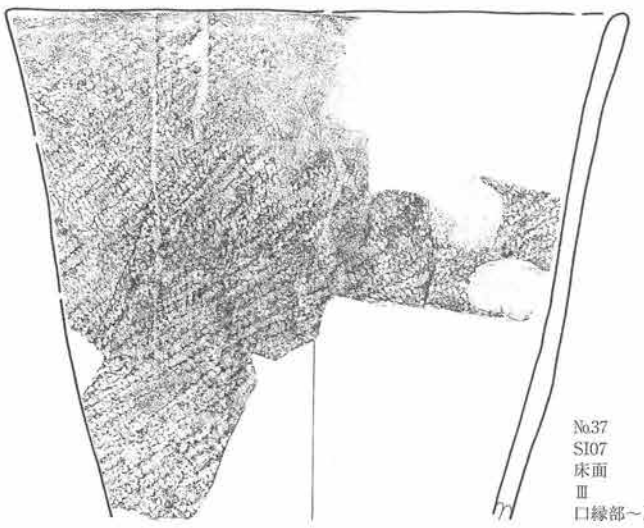


No.34
SI06
覆土
Ⅲ
底部

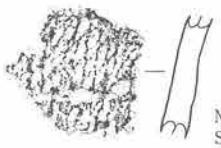
No.35
SI06
覆土
Ⅲ
底部

No.36
SI06
覆土
Ⅲ
底部

SI07

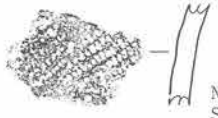


No.37
SI07
床面
Ⅲ
口縁部～胴部



No.38
SI07
覆土
Ⅲ
胴部

SI08

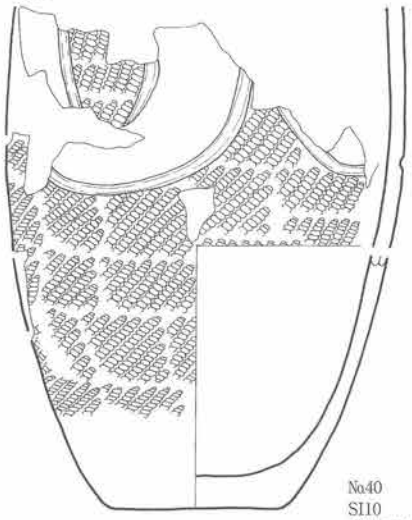


No.39
SI08
床面
Ⅲ
胴部

0 1：3 10cm

第68図　土器（3）

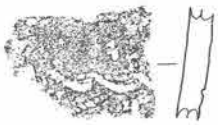
SI10



No.40
SI10
炉埋設土器
ⅢC3a①
胴部～底部

No.41
SI10
覆土
Ⅲ
底部

SI12

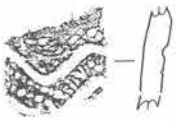


No.42
SI12
床面
Ⅲ
胴部

No.43
SI12
床面
Ⅲ
胴部

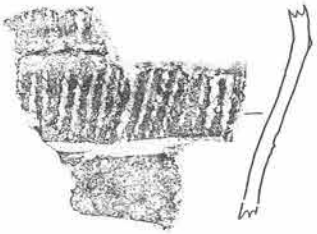
No.44
SI12
覆土
ⅢB1?
胴部

SI13



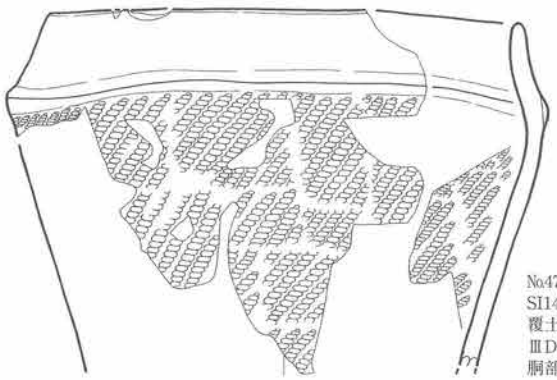
No.45
SI13
覆土
ⅡC2
胴部上半

No.46
SI13
覆土
Ⅲ
胴部上半



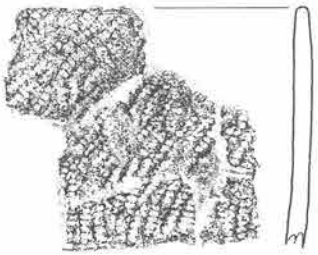
No.48
SI14
覆土
ⅢC4a
胴部上半

SI14



No.47
SI14
覆土
ⅢD2①
胴部上半

No.50
SI14
覆土
Ⅲ
底部



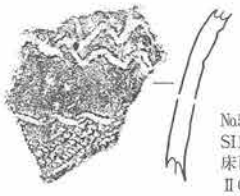
No.49
SI14
覆土
Ⅲ
胴部

0　1：3　10cm

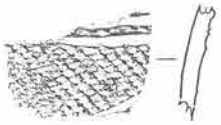
第69図　土器（4）

SI15

No.51
SI15
床面
I
口縁部

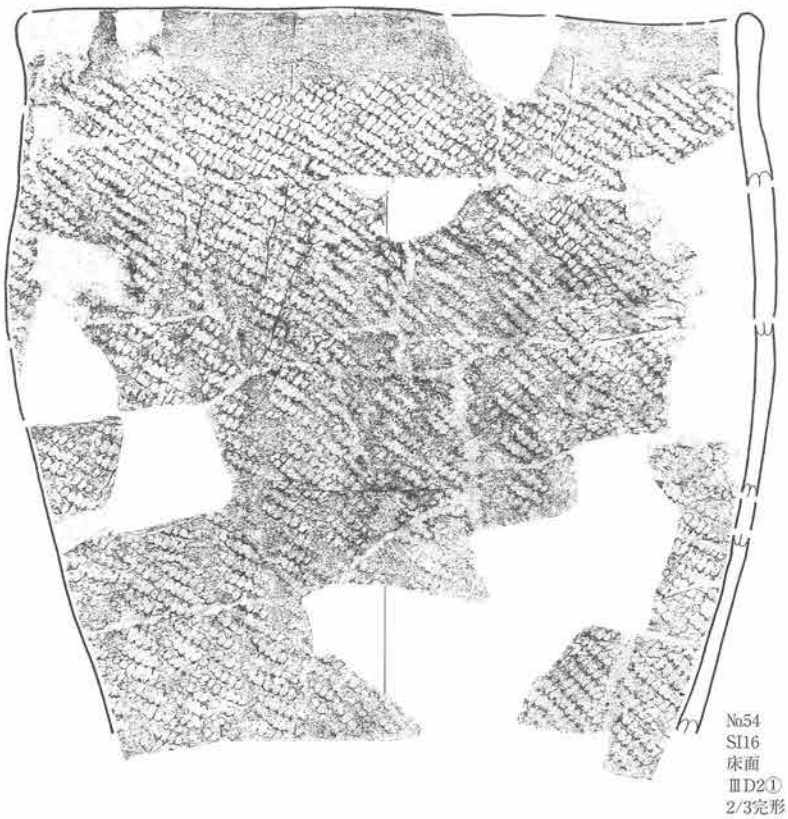


No.52
SI15
床面
IIC2
胴部上半

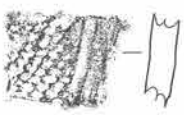


No.53
SI15
床面
IIIC
胴部

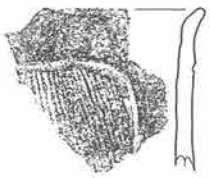
SI16



No.54
SI16
床面
IIID2①
2/3完形

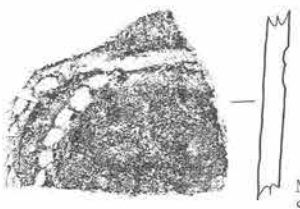


No.55
SI16
床面
IIIC3
胴部



No.56
SI16
覆土
IIIC3
口縁部

No.57
SI16
覆土
IIIC3a
口縁部

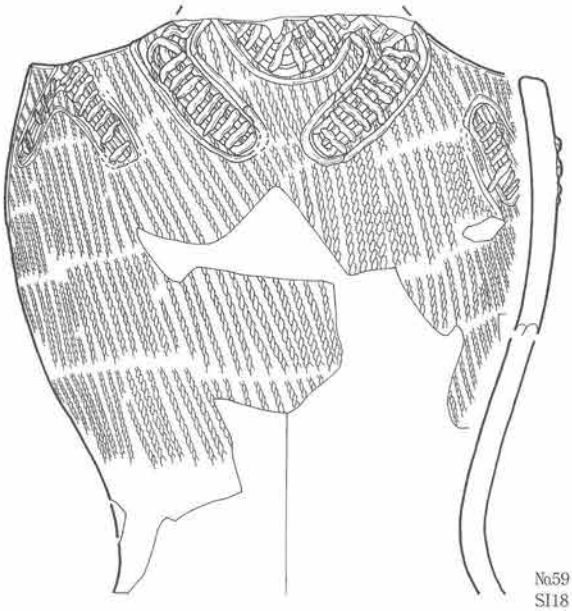


No.58
SI16
覆土
IIIC3
胴部上半

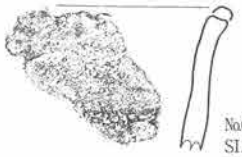
0 1:3 10cm

第70図　土器（5）

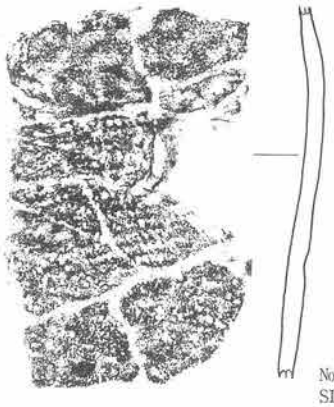
SI18



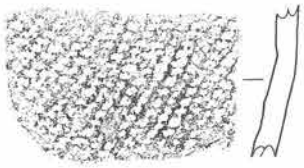
No.59
SI18
床面
ⅡF3
2/3完形



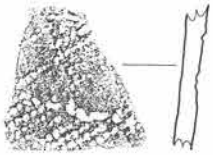
No.60
SI18
床面
ⅠB
口縁部



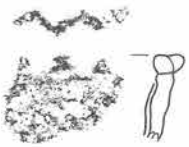
No.61
SI18
床面
Ⅱ
胴部



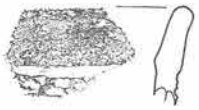
No.62
SI18
床面
Ⅲ
胴部



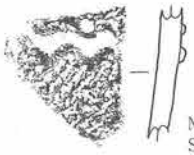
No.63
SI18
床面
Ⅲ
胴部



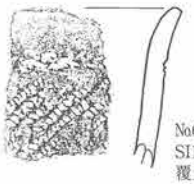
No.64
SI18
覆土下位
ⅡF2a
口縁部



No.65
SI18
覆土下位
ⅢC4a
口縁部



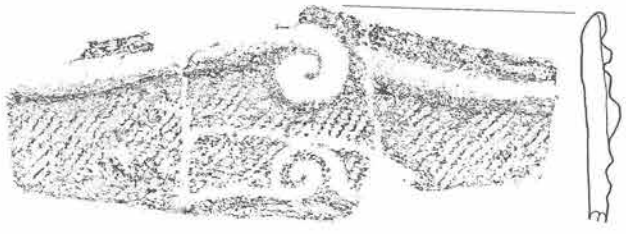
No.66
SI18
覆土
ⅡE2a
胴部



No.67
SI18
覆土
Ⅱ
口縁部

No.68
SI18
覆土
Ⅲ
底部

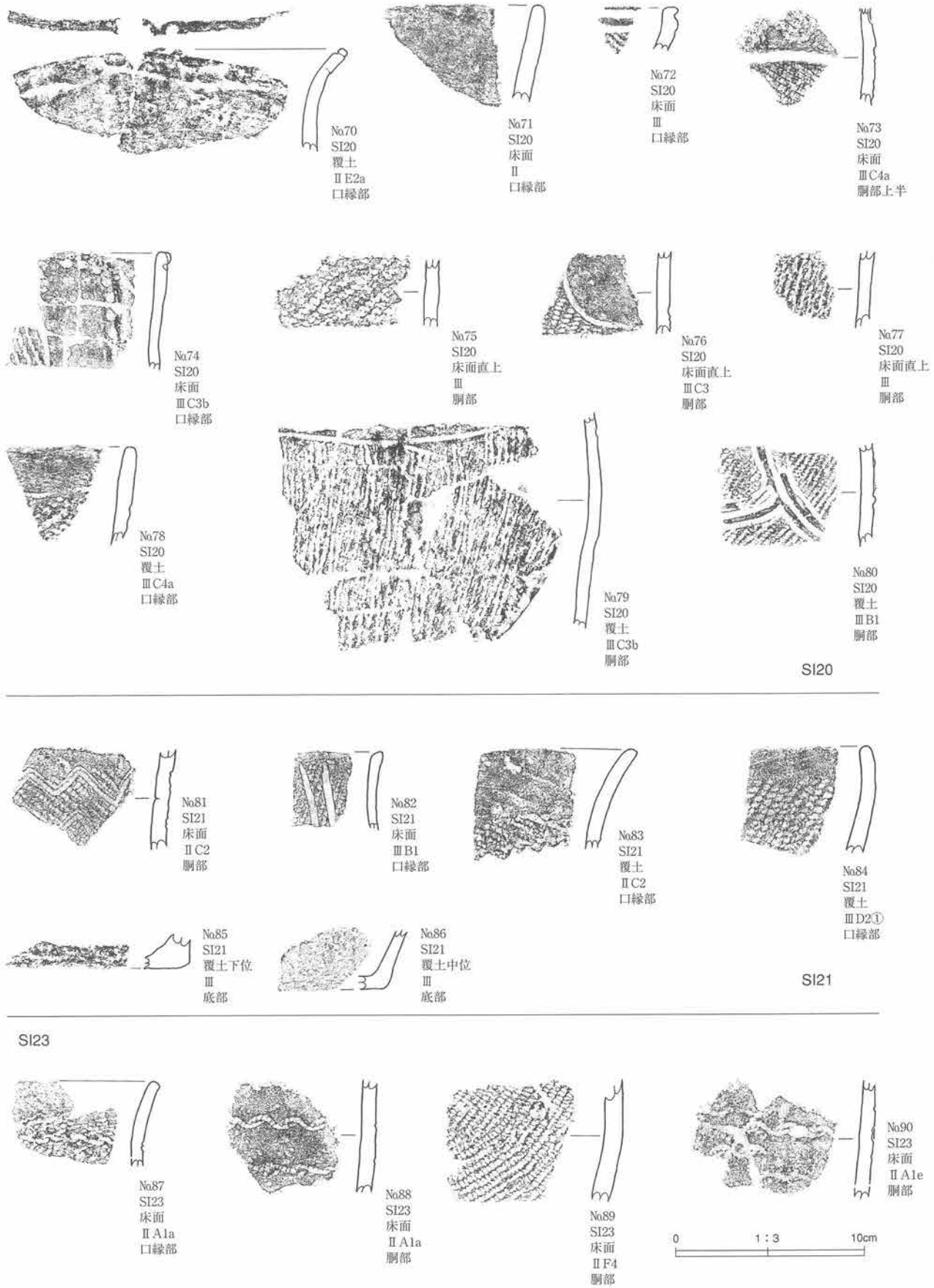
SI19



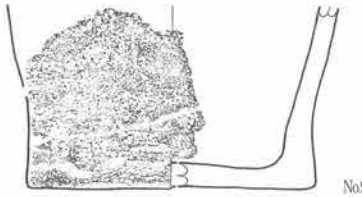
No.69
SI19
覆土
ⅢA1
口縁部

0　1：3　10cm

第71図　土器（6）


№70
SI20
覆土
ⅡE2a
口縁部
№71
SI20
床面
Ⅱ
口縁部
№72
SI20
床面
Ⅲ
口縁部
№73
SI20
床面
ⅢC4a
胴部上半
№74
SI20
床面
ⅢC3b
口縁部
№75
SI20
床面直上
Ⅲ
胴部
№76
SI20
床面直上
ⅢC3
胴部
№77
SI20
床面直上
Ⅲ
胴部
№78
SI20
覆土
ⅢC4a
口縁部
№79
SI20
覆土
ⅢC3b
胴部
№80
SI20
覆土
ⅢB1
胴部
SI20
№81
SI21
床面
ⅡC2
胴部
№82
SI21
床面
ⅢB1
口縁部
№83
SI21
覆土
ⅡC2
口縁部
№84
SI21
覆土
ⅢD2①
口縁部
№85
SI21
覆土下位
Ⅲ
底部
№86
SI21
覆土中位
Ⅲ
底部
SI21
SI23
№87
SI23
床面
ⅡA1a
口縁部
№88
SI23
床面
ⅡA1a
胴部
№89
SI23
床面
ⅡF4
胴部
№90
SI23
床面
ⅡA1e
胴部
0
1：3
10cm

第72図　土器（7）



No.91
SI24
覆土下位
Ⅲ
底部

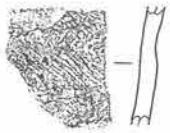
No.92
SI24
覆土
Ⅲ
底部

No.93
SI24
覆土上位
ⅡF4
口縁部

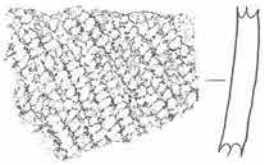
SI24

No.94
SI25
床面
ⅡF5
口縁部

No.95
SI25
覆土下位
ⅢA2
胴部上半



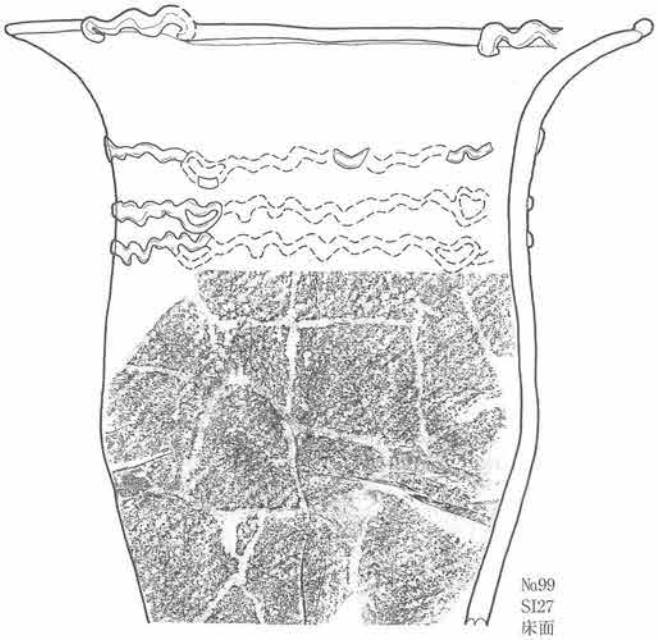
No.97
SI25
覆土
Ⅱ
胴部



No.96
SI25
覆土
Ⅱ
胴部

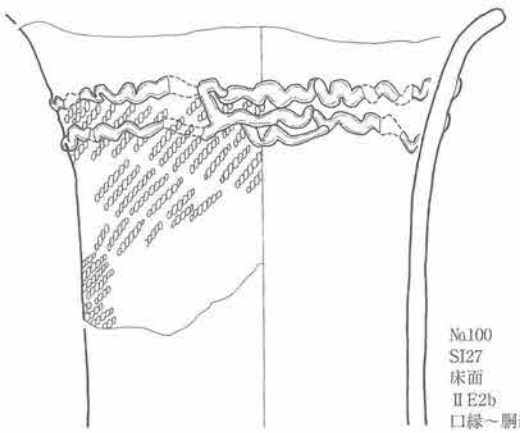
SI25

SI27



No.99
SI27
床面
ⅡE2b
胴部上半

No.98
SI27
床面
ⅡF2b
口縁部～胴部

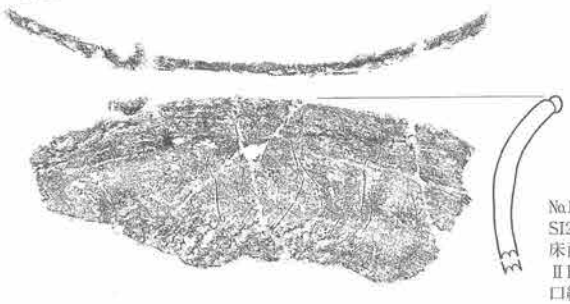


No.100
SI27
床面
ⅡE2b
口縁～胴部

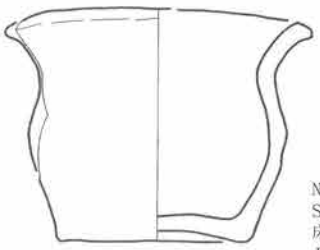
0　1：3　10cm

第73図　土器（8）

SI27



No.101
SI27
床面
ⅡE2a
口縁部

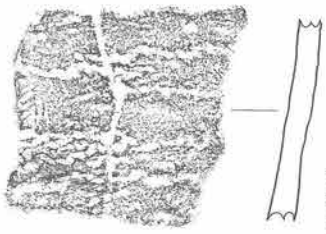


No.102
SI27
床面
ⅡF5
2/3完形

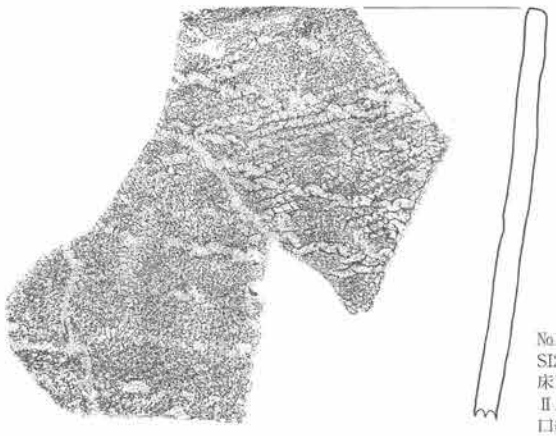
No.103
SI27
床面
ⅡF4
胴部

No.104
SI27
床面直上
ⅡA1a
口縁～胴部

No.105
SI27
床面直上
ⅡA1a
胴部



No.107
SI27
床面直上
ⅡA1e
胴部



No.106
SI27
床面直上
ⅡA1a
口縁～胴部

No.108
SI27
床面直上
ⅡA1d／ⅡE
胴部

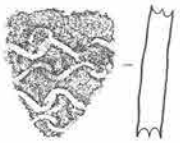
0　1：3　10cm

第74図　土器（9）

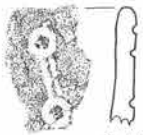
SI27

No.109
SI27
床面直上
ⅡA1d／ⅡE
胴部

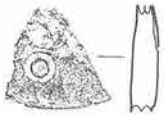
No.110
SI27
床面直上
ⅡA1d／ⅡE
胴部



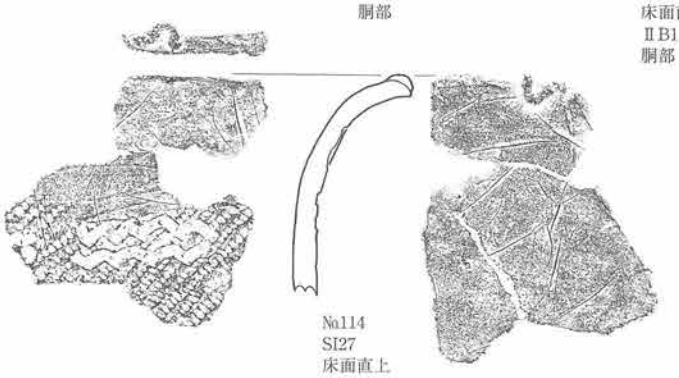
No.111
SI27
床面直上
ⅡB1
胴部



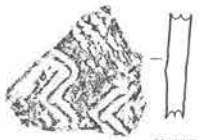
No.112
SI27
床面直上
ⅡC1
口縁部



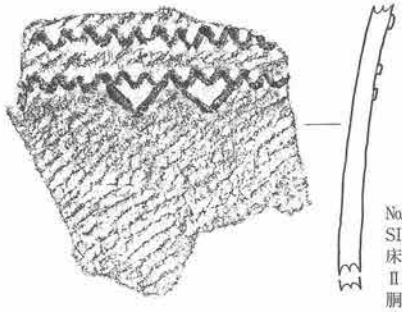
No.113
SI27
床面直上
ⅡC1
口縁部



No.114
SI27
床面直上
ⅡE1
口縁部

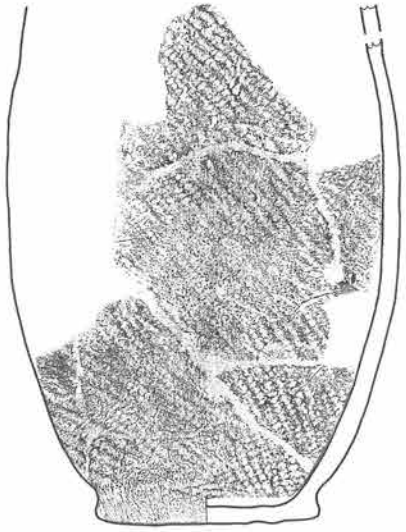


No.115
SI27
床面直上
ⅡC2?
胴部

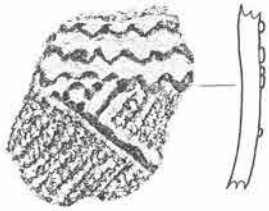


No.116
SI27
床面直上
ⅡE2b
胴部

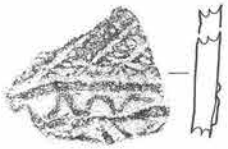
No.117
SI27
床面直上
ⅡH
2/3完形



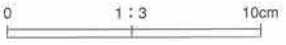
No.120
SI27
床面直上
ⅡF4
胴部～底部



No.118
SI27
床面直上
ⅡE2b
胴部



No.119
SI27
床面直上
ⅡE3
胴部

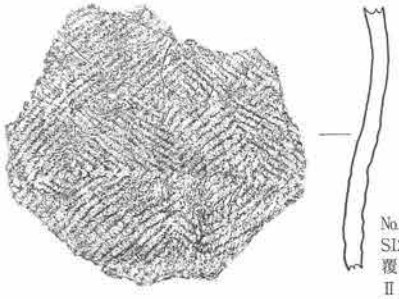


第75図　土器（10）

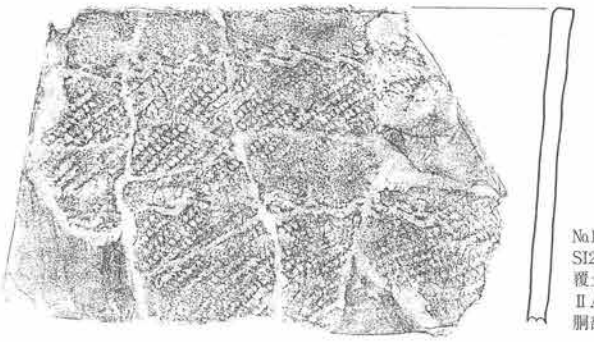
SI27

No.121
SI27
覆土
ⅡA1a
口縁部

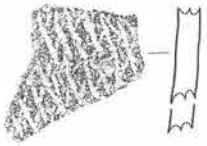
No.122
SI27
覆土
ⅡA1e
胴部



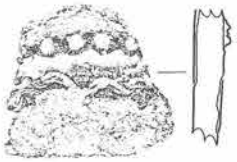
No.123
SI27
覆土
ⅡA1c
胴部



No.125
SI27
覆土1層
ⅡA1a
胴部

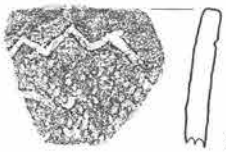


No.124
SI27
覆土
ⅡA1b
胴部



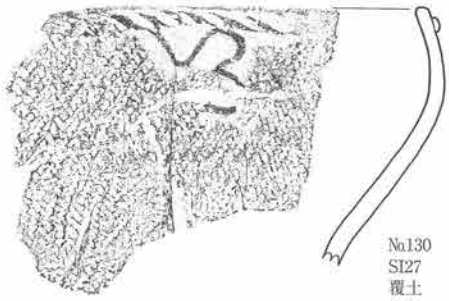
No.126
SI27
覆土
ⅡB1
胴部

No.127
SI27
覆土
ⅡB2
胴部

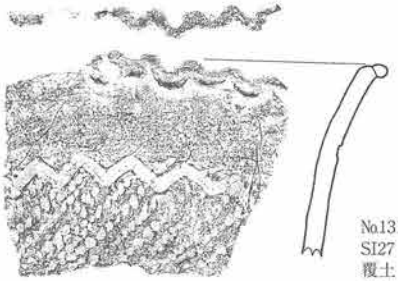


No.128
SI27
覆土
ⅡC2
口縁部

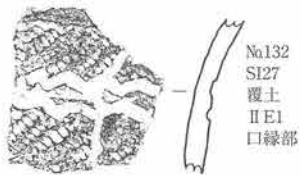
No.129
SI27
覆土1層
ⅡC2
口縁部



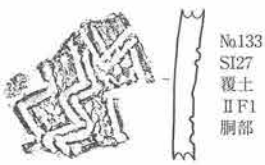
No.130
SI27
覆土
ⅡD
口縁部



No.131
SI27
覆土
ⅡE1
口縁部



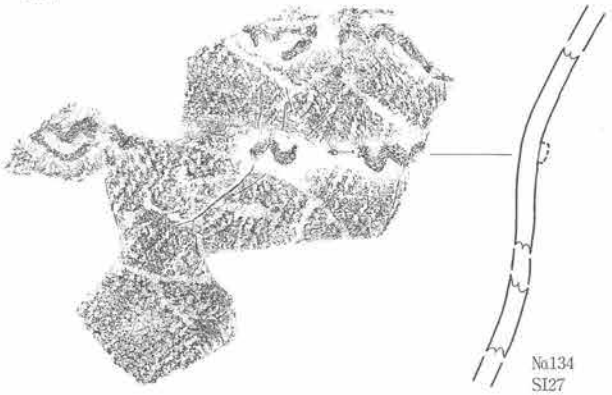
No.132
SI27
覆土
ⅡE1
口縁部



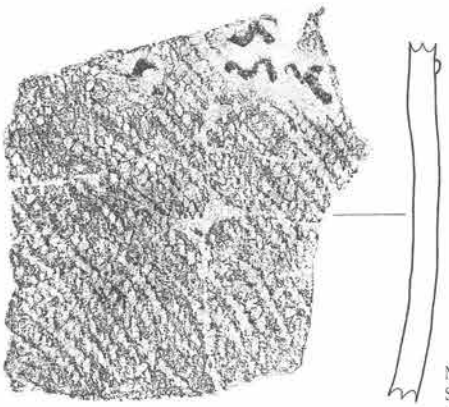
No.133
SI27
覆土
ⅡF1
胴部

第76図　土器（11）

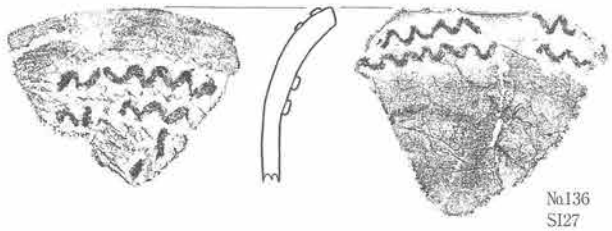
SI27



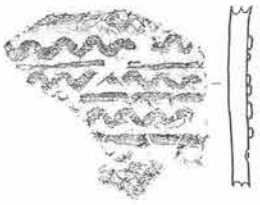
No.134
SI27
覆土
ⅡF2b
胴部上半



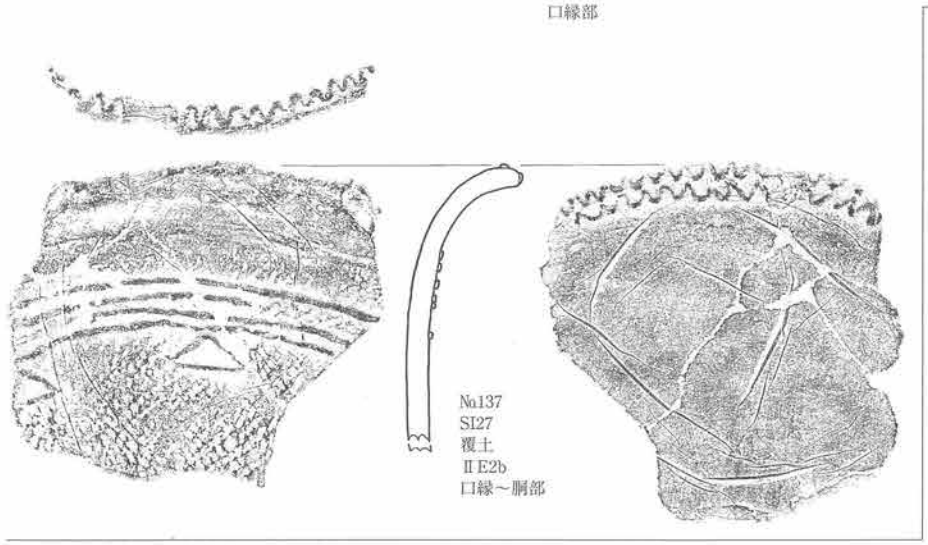
No.135
SI27
覆土上～中位
ⅡE2b
胴部



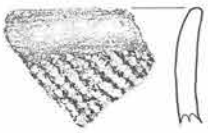
No.136
SI27
覆土
ⅡE2a
口縁部



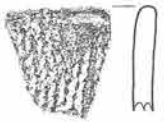
No.138
SI27
覆土
ⅡE3
胴部上半



No.137
SI27
覆土
ⅡE2b
口縁～胴部

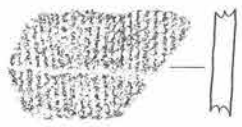


No.140
SI28
覆土
ⅢD2①
口縁部

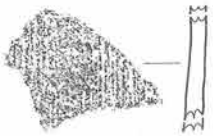


No.141
SI28
覆土
ⅢD3
口縁部

No.144
SI28
覆土
Ⅲ
底部



No.142
SI28
覆土
ⅢD3
胴部



No.143
SI28
覆土
ⅢD3
胴部

0　1：3　10cm

第77図　土器（12）

SI28

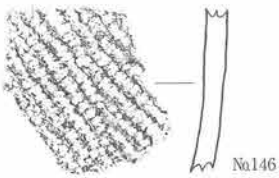
No.139
SI28
床面
ⅢD2
ほぼ完形

0　1：3　10cm

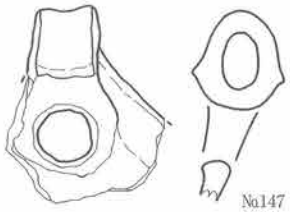
第78図　土器（13）

SI29

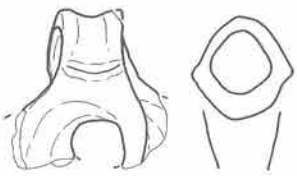
No.145
SI29
床面
Ⅲ
胴部



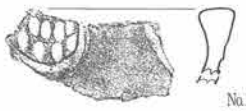
No.146
SI29
床面
Ⅲ
胴部



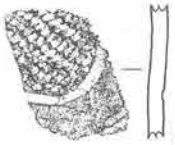
No.147
SI29
覆土1層
ⅢE
口縁部



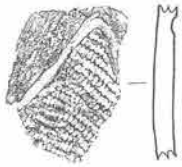
No.148
SI29
覆土
ⅢC3a④
口縁部



No.149
SI29
覆土
ⅢC3a④
口縁部

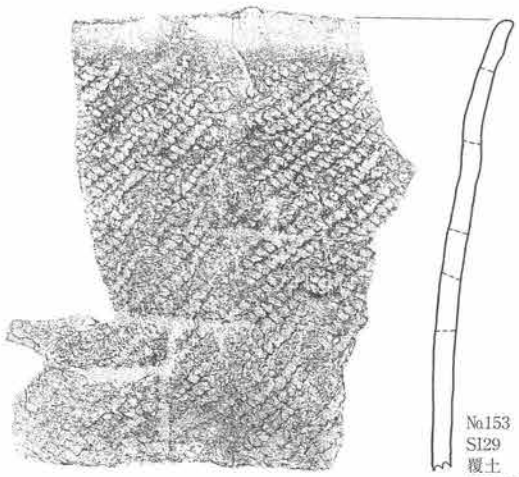


No.150
SI29
覆土
ⅢC3
胴部

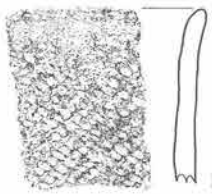


No.151
SI29
覆土1層
ⅢC3
胴部

No.152
SI29
覆土
ⅢD3
1/2完形



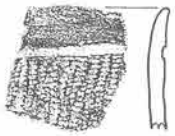
No.153
SI29
覆土
ⅢD2①
口縁～胴部



No.154
覆土
①
部

SI29
ⅢD2
口縁

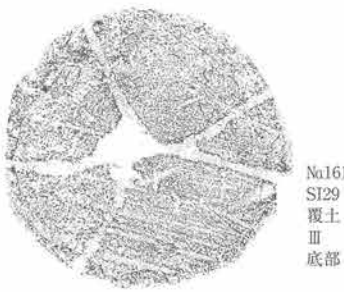
No.155
SI29
覆土1層
ⅢC3
胴部



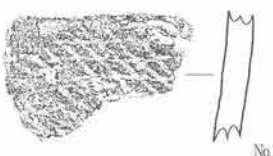
No.156
SI29
覆土
ⅢC4a
口縁部

No.157
SI29
覆土
ⅢC6
口縁部

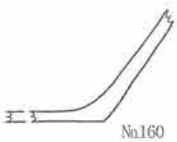
No.158
SI29
覆土
Ⅲ
胴部



No.161
SI29
覆土
Ⅲ
底部



No.159
SI29
覆土
Ⅲ
胴部

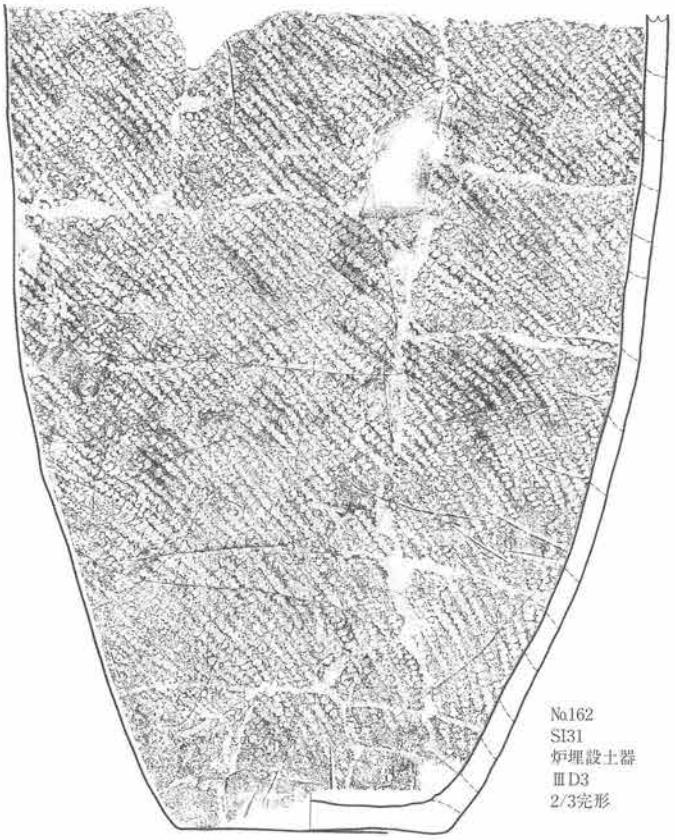


No.160
SI29
覆土
Ⅲ
底部

0 1：3 10cm

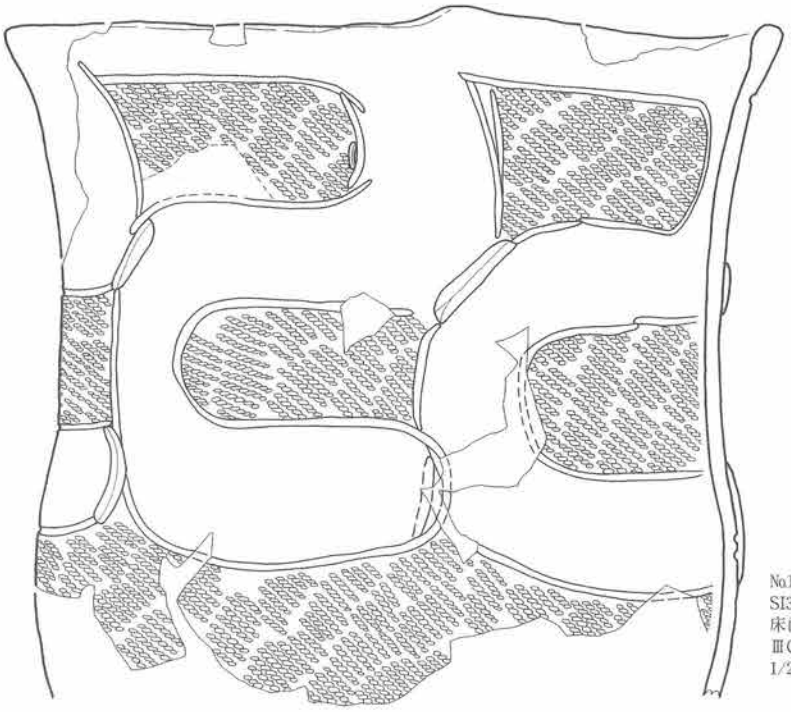
第79図　土器（14）

SI31



No.162
SI31
炉埋設土器
ⅢD3
2/3完形

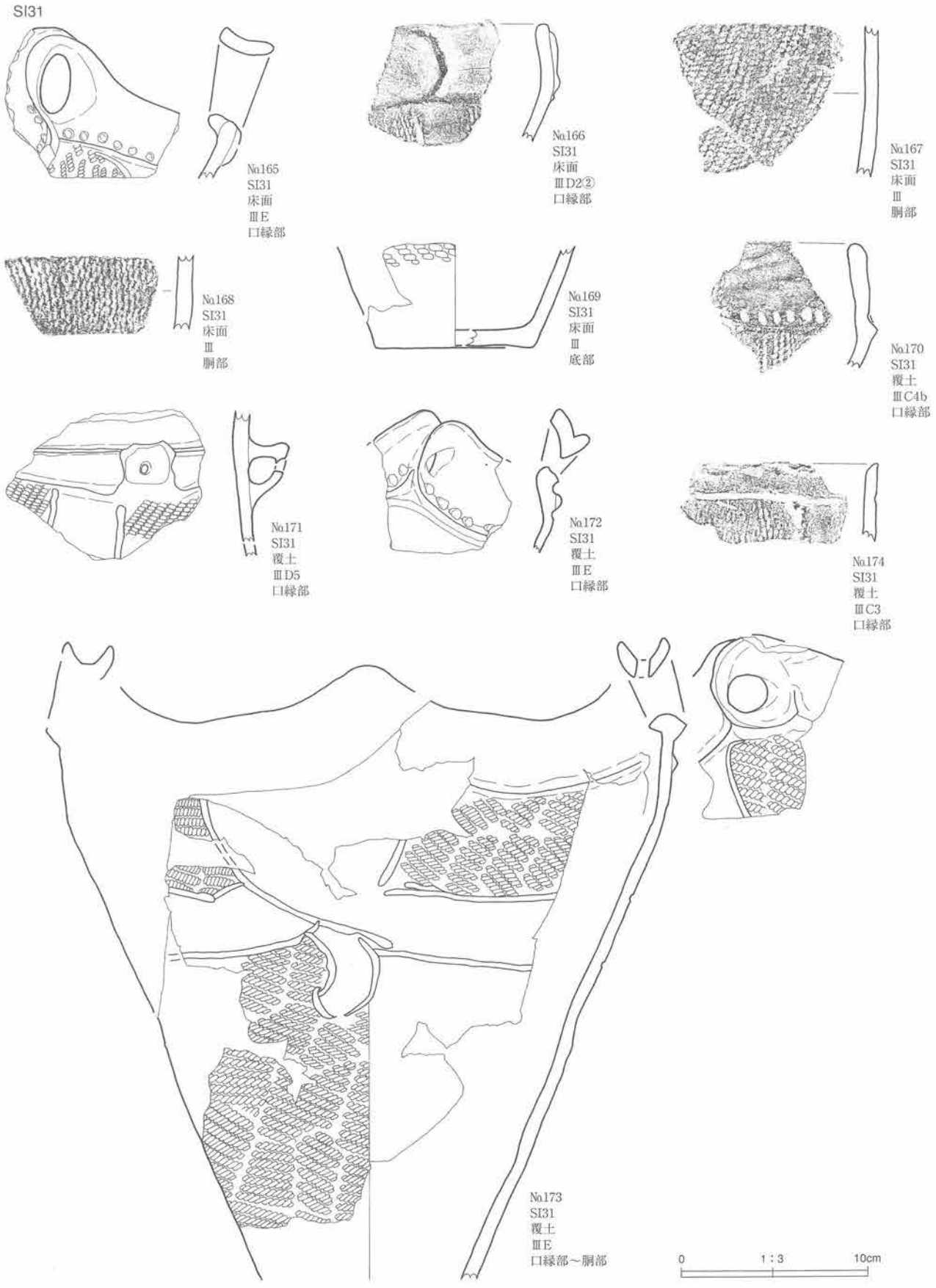
No.163
SI31
床面
ⅢF
完形



No.164
SI31
床面
ⅢC3a②
1/2胴部上半

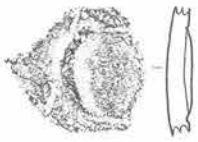
0　1：3　10cm

第80図　土器（15）


SI31
No.165
SI31
床面
ⅢE
口縁部
No.166
SI31
床面
ⅢD2②
口縁部
No.167
SI31
床面
Ⅲ
胴部
No.168
SI31
床面
Ⅲ
胴部
No.169
SI31
床面
Ⅲ
底部
No.170
SI31
覆土
ⅢC4b
口縁部
No.171
SI31
覆土
ⅢD5
口縁部
No.172
SI31
覆土
ⅢE
口縁部
No.174
SI31
覆土
ⅢC3
口縁部
No.173
SI31
覆土
ⅢE
口縁部～胴部
0
1：3
10cm

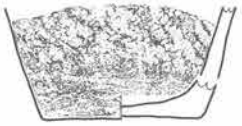
第81図　土器（16）

SI31

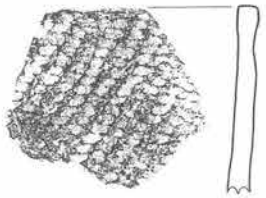


No.175
SI31
覆土
ⅢC4a
胴部

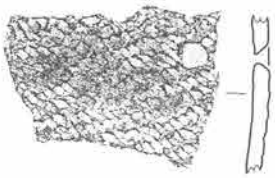
No.176
SI31
覆土
ⅢC3
胴部



No.177
SI31
覆土
Ⅲ
底部



No.178
SI31
覆土
ⅢD3
口縁部

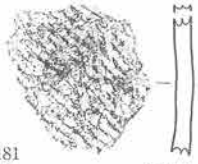


No.179
SI31
覆土
ⅢD3
胴部上半

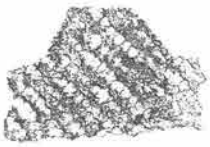
No.180
SI31
覆土
Ⅲ
底部

SI32

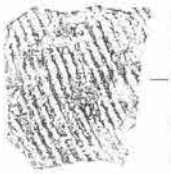
No.181
SI32
覆土上位
ⅢC4a
口縁部



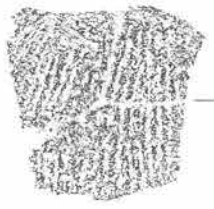
No.182
SI32
覆土
Ⅲ
胴部



No.183
SI32
覆土
Ⅲ
胴部



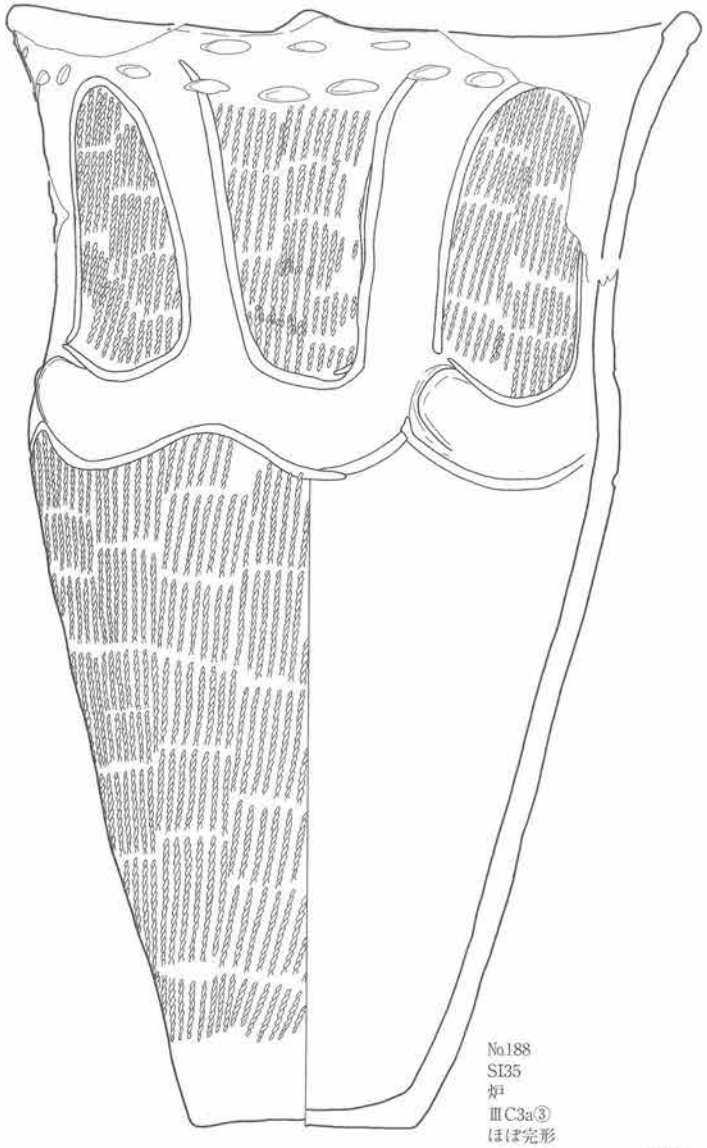
No.184
SI32
覆土
Ⅲ
胴部



No.185
SI32
覆土
Ⅲ
胴部

No.186
SI32
覆土
Ⅲ
底部

0 1：3 10cm

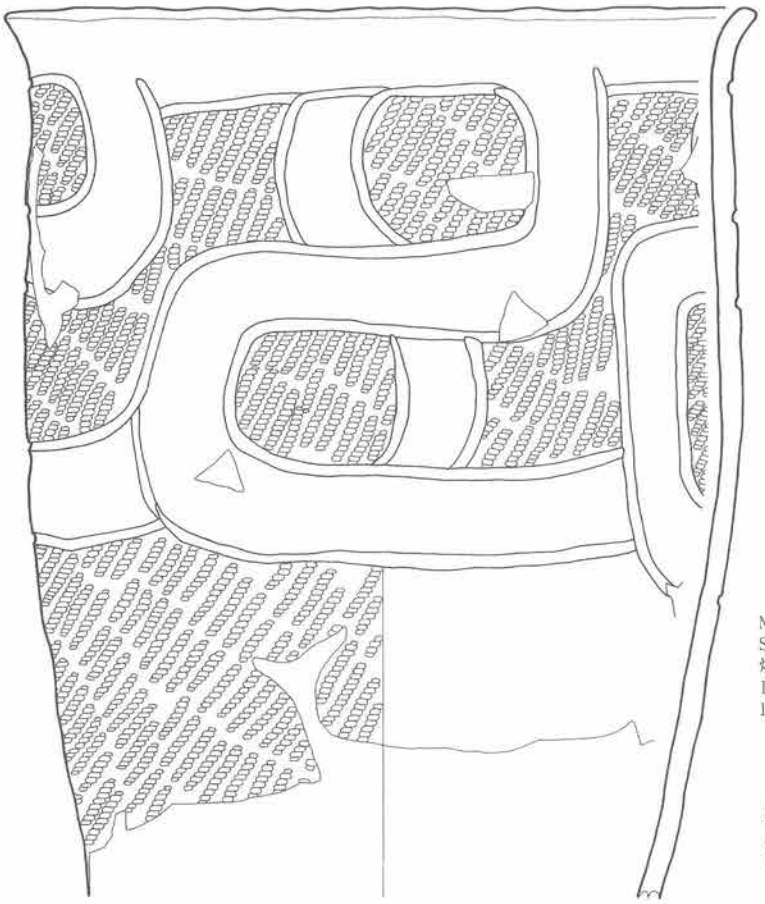


No.188
SI35
炉
ⅢC3a③
ほぼ完形

SI35

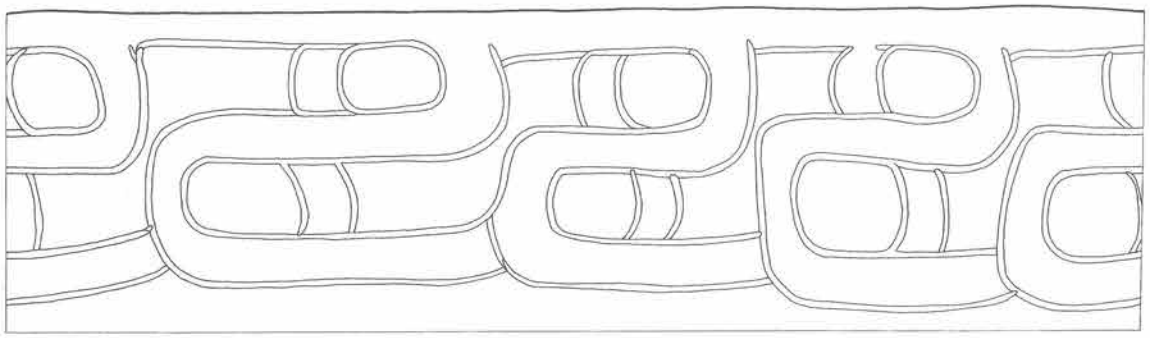
第82図　土器（17）

SI35



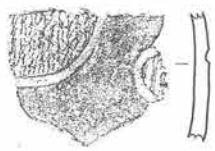
No.187
SI35
炉
ⅢC3a③
1/2胴部上半

展開図

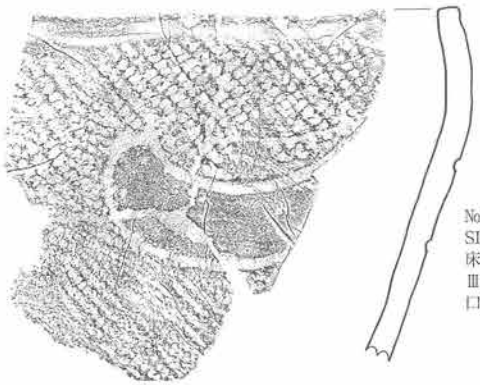


0　1：6　15cm

SI34



No.189
SI35
炉
ⅢC3
胴部

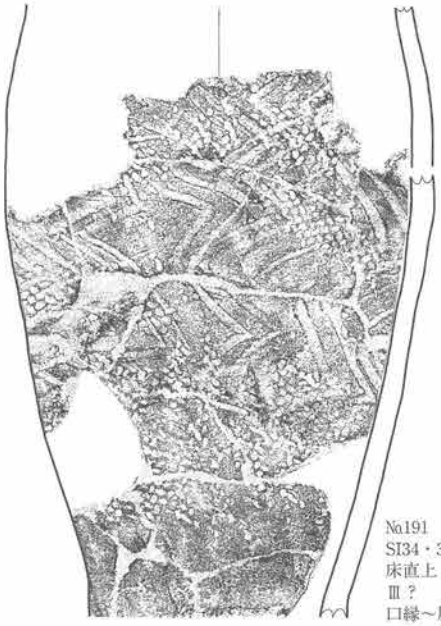


No.190
SI34
床面
ⅢD4
口縁部

0　1：3　10cm

第83図　土器（18）

SI34

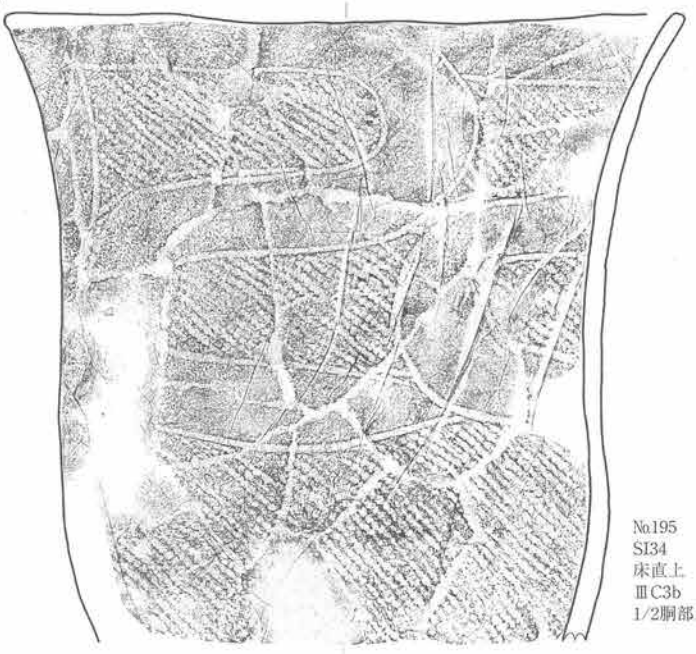


No.191
SI34・39
床直上
Ⅲ？
口縁～胴部

No.192
SI34
床直上
Ⅱ
口縁部

No.193
SI34・39
床直上
ⅡA1e
口縁～胴部

No.194
SI34
床直上
ⅢD1
ほぼ完形



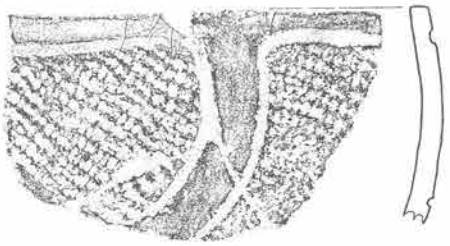
No.195
SI34
床直上
ⅢC3b
1/2胴部上半

0　1：3　10cm

第84図　土器（19）

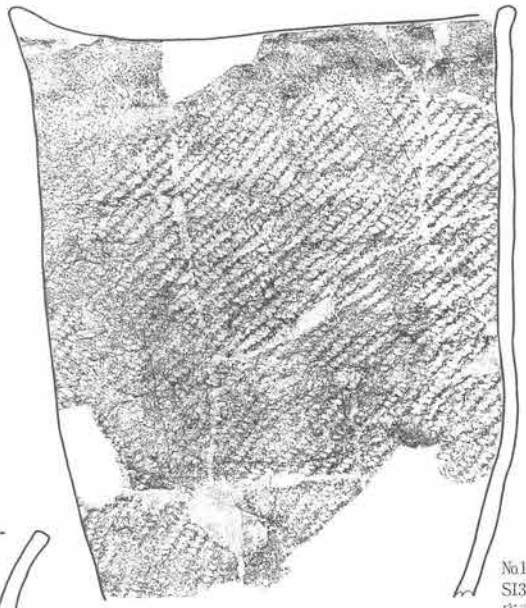
SI34

No.196
SI34
床直上
ⅢD1
口縁部



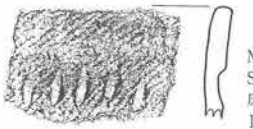
No.197
SI34
床直上
ⅢD4
口縁部

No.198
SI34
床直上
ⅢD4a
口縁部



No.199
SI34
床直上
ⅢC4c
1/2胴部上半

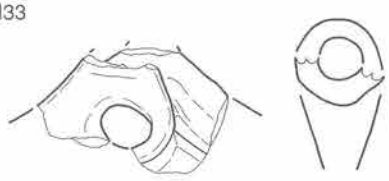
No.200
SI34
床直上
ⅢC5
口縁～胴部



No.201
SI34
床直上
Ⅲ
口縁部

No.202
SI34
床直上
ⅢG
口縁部

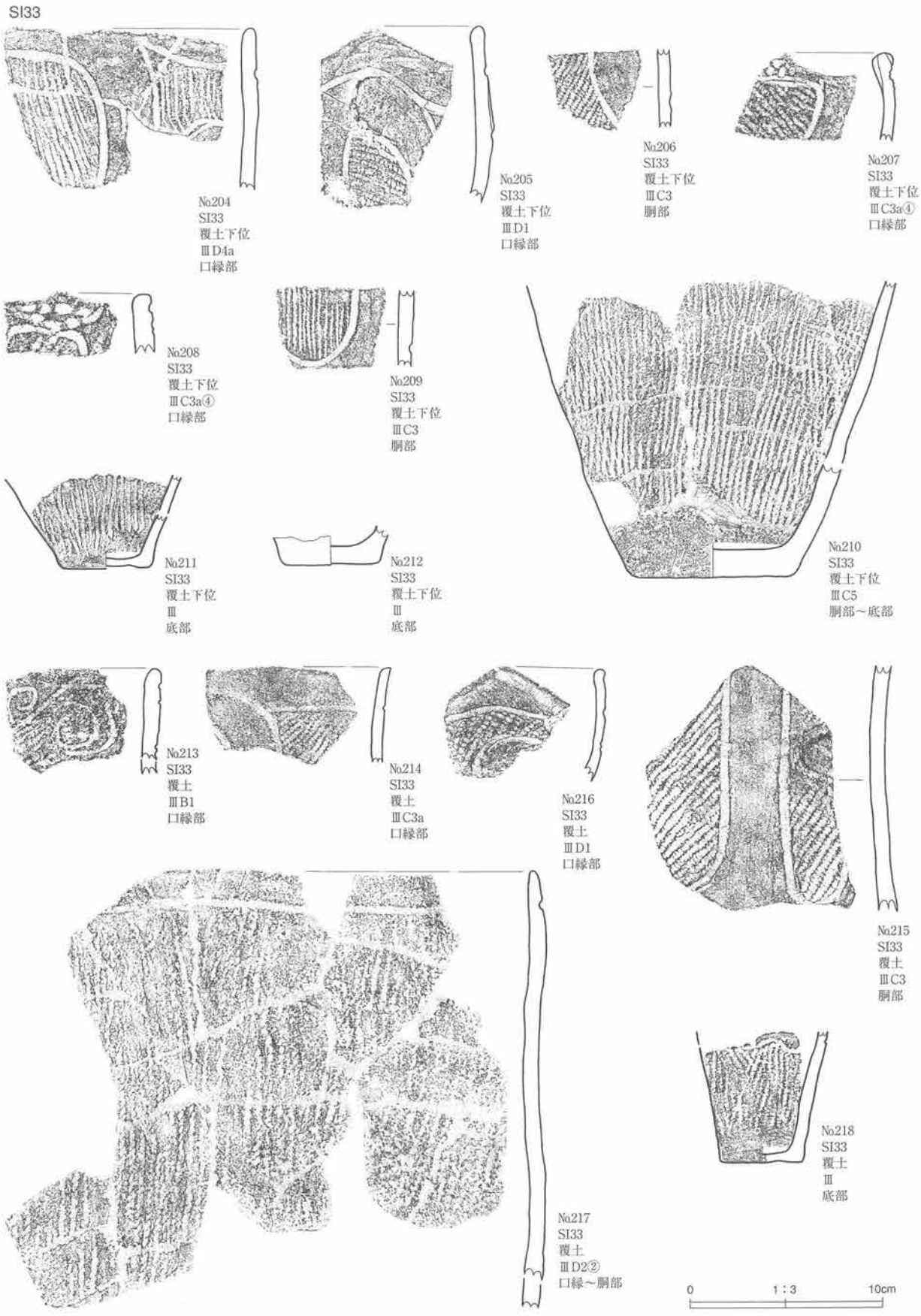
SI33



No.203
SI33
覆土下位
ⅢE
口縁部

0　1：3　10cm

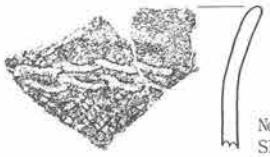
第85図　土器（20）


SI33
№204
SI33
覆土下位
ⅢD4a
口縁部
№205
SI33
覆土下位
ⅢD1
口縁部
№206
SI33
覆土下位
ⅢC3
胴部
№207
SI33
覆土下位
ⅢC3a④
口縁部
№208
SI33
覆土下位
ⅢC3a④
口縁部
№209
SI33
覆土下位
ⅢC3
胴部
№210
SI33
覆土下位
ⅢC5
胴部～底部
№211
SI33
覆土下位
Ⅲ
底部
№212
SI33
覆土下位
Ⅲ
底部
№213
SI33
覆土
ⅢB1
口縁部
№214
SI33
覆土
ⅢC3a
口縁部
№216
SI33
覆土
ⅢD1
口縁部
№215
SI33
覆土
ⅢC3
胴部
№217
SI33
覆土
ⅢD2②
口縁～胴部
№218
SI33
覆土
Ⅲ
底部
0
1：3
10cm

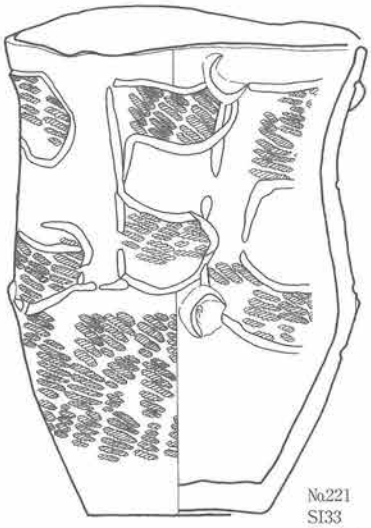
第86図　土器（21）

SI33

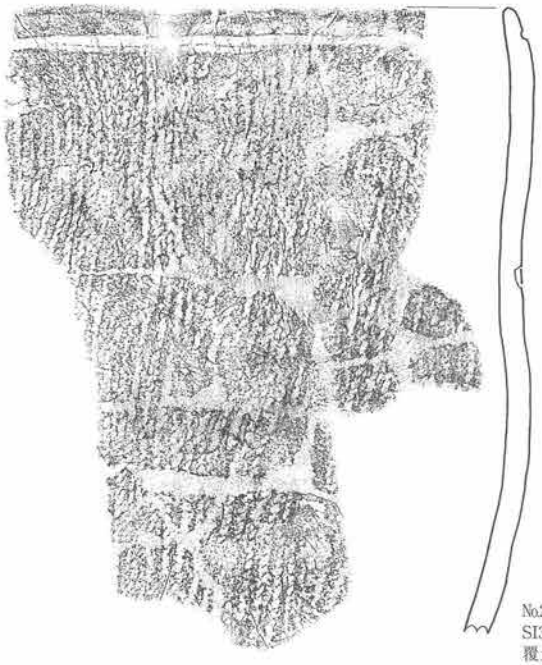
No.219
SI33・39
覆土
ⅡA1a?
口縁～胴部



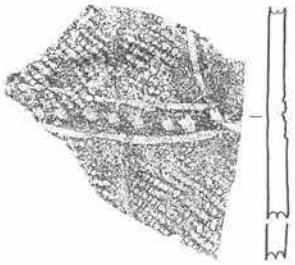
No.220
SI33
覆土
Ⅲ
口縁部



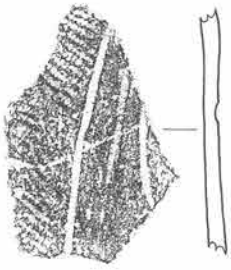
No.221
SI33
覆土1層
ⅢC2
ほぼ完形



No.222
SI33
覆土1層
ⅢD2②
口縁～胴部



No.223
SI33
覆土1層
ⅢC
胴部

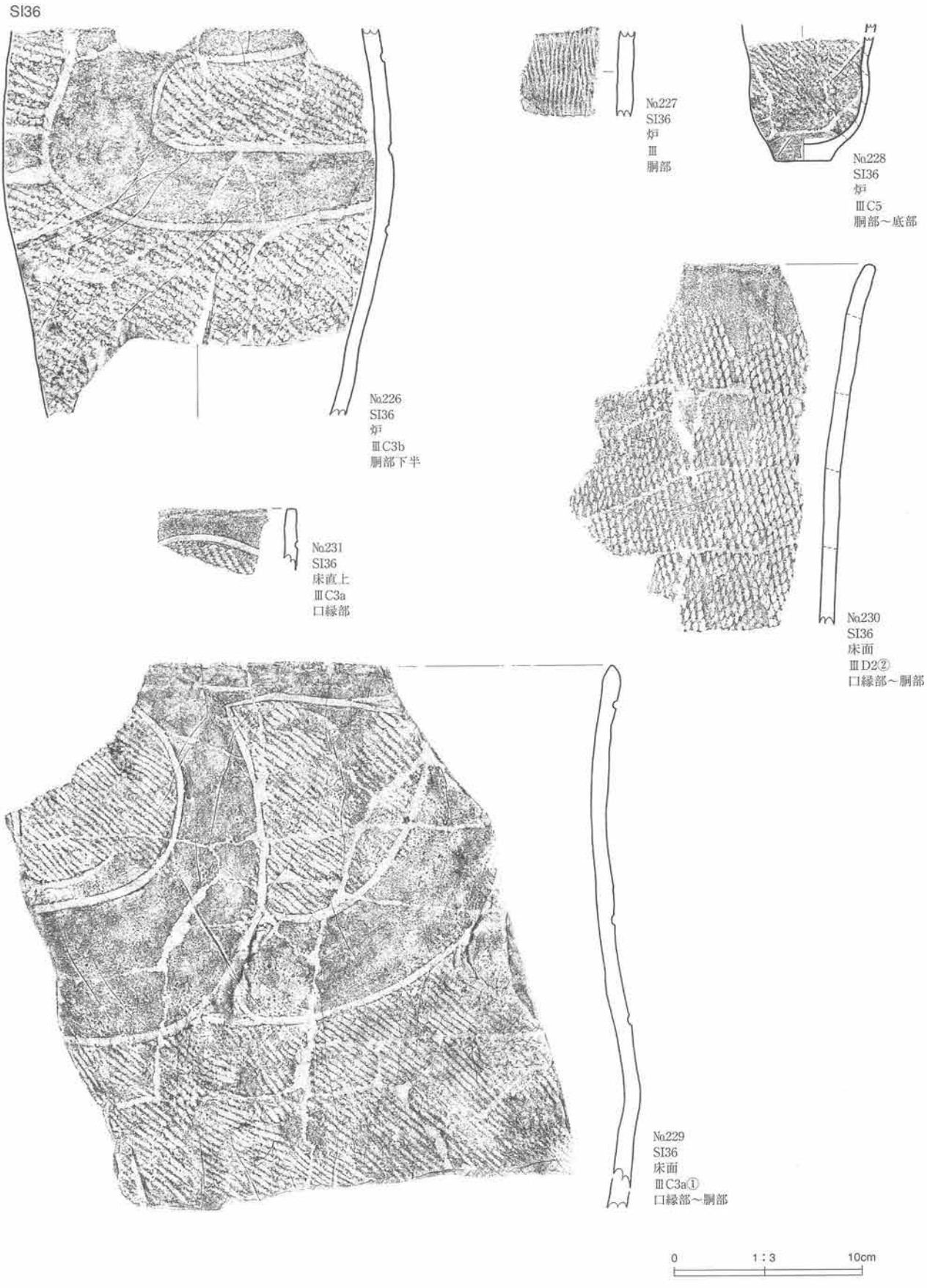


No.224
SI33
覆土1層
ⅢC3
胴部

No.225
SI33
覆土1層
ⅢC3
口縁部

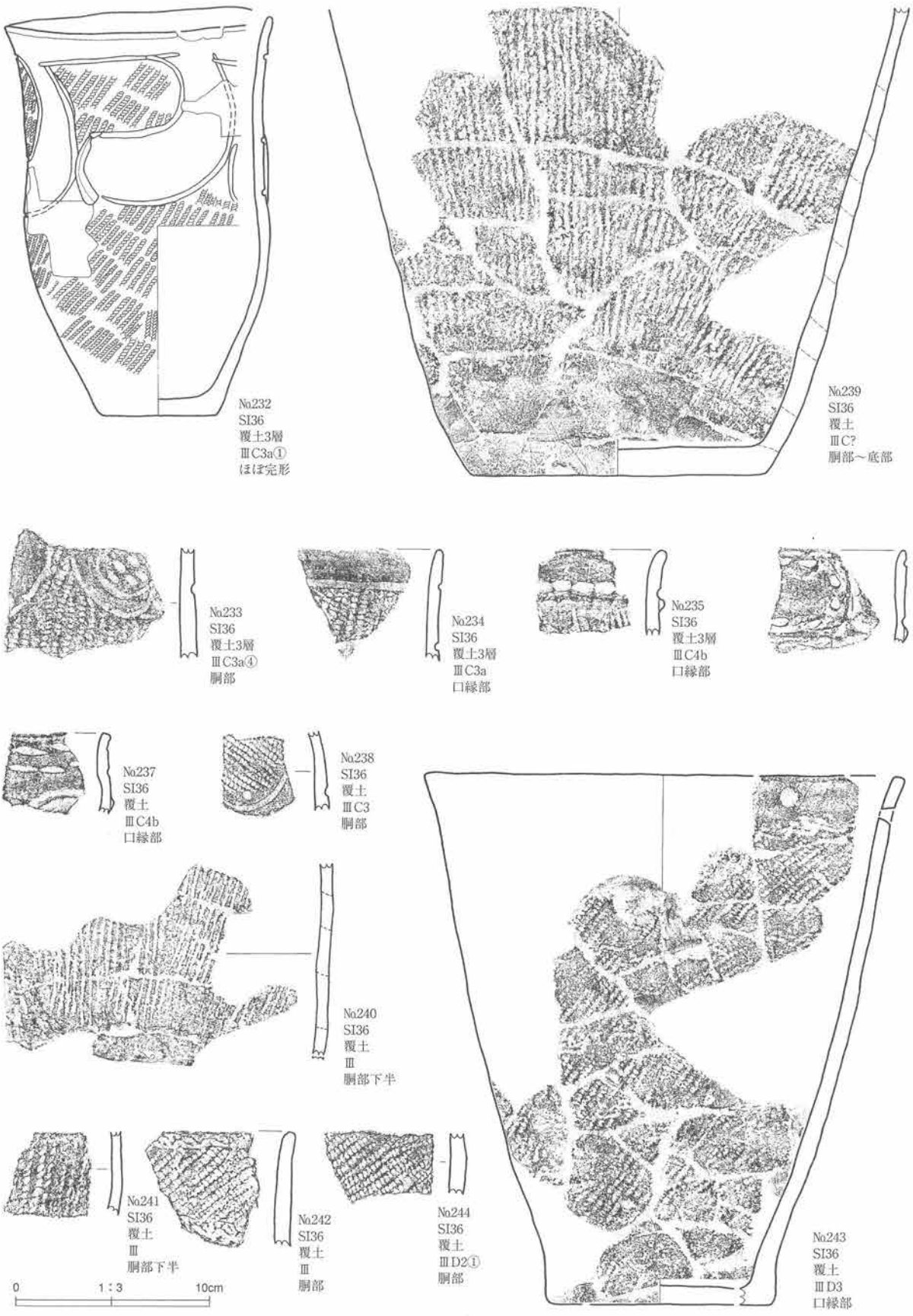
0　1：3　10cm

第87図　土器（22）


SI36
№226
SI36
炉
ⅢC3b
胴部下半
№227
SI36
炉
Ⅲ
胴部
№228
SI36
炉
ⅢC5
胴部～底部
№230
SI36
床面
ⅢD2②
口縁部～胴部
№231
SI36
床直上
ⅢC3a
口縁部
№229
SI36
床面
ⅢC3a①
口縁部～胴部
0
1：3
10cm

第88図　土器（23）

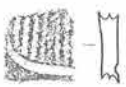
SI36



第89図　土器（24）

SI38

No.245
SI38
覆土
Ⅲ C3
胴部

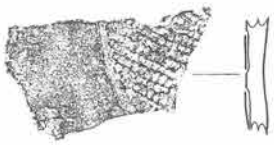


No.246
SI38
覆土
Ⅲ C3
胴部

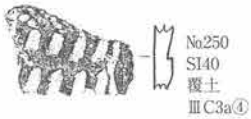
No.247
SI38
覆土上位
Ⅲ C5
口縁～胴部

SI40

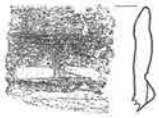
No.248
SI40
床面
Ⅲ C3
胴部



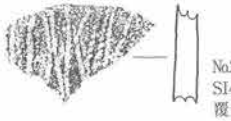
No.249
SI40
覆土
Ⅲ C3
胴部



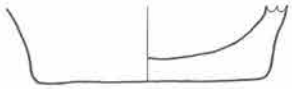
No.250
SI40
覆土
Ⅲ C3a④
胴部

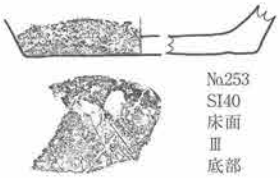


No.251
SI40
覆土
Ⅲ C4a
口縁部

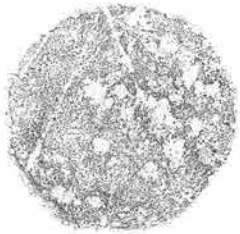


No.252
SI40
覆土
Ⅲ
胴部



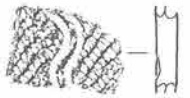


No.253
SI40
床面
Ⅲ
底部



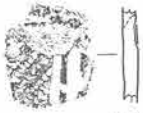
No.254
SI40
床面
Ⅲ
底部

SX01

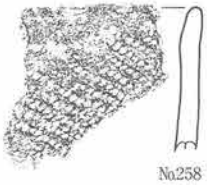


No.255
SX01
底面
Ⅲ B1?
胴部

No.256
SX01
底面
Ⅲ C3a
口縁部



No.257
SX01
底面
Ⅲ B1?
胴部

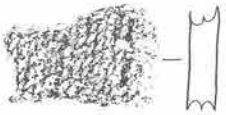


No.258
SX01
覆土
Ⅲ C5
口縁部

No.259
SX01
覆土
Ⅲ
胴部下半

SX02

No.260
SX02
底面
Ⅲ C3a
口縁部



No.262
SX02
底面
Ⅲ
胴部

No.261
SX02
底面
Ⅲ
胴部

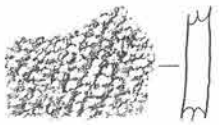
No.263
SX02
覆土
Ⅲ C5
口縁部

No.264
SX02
覆土
Ⅲ C4b
胴部

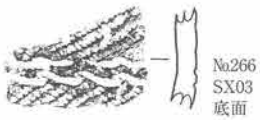
0 1：3 10cm

第90図　土器（25）

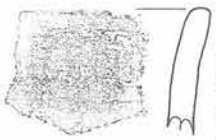
SX03



No.265
SX03
底面
Ⅲ
胴部



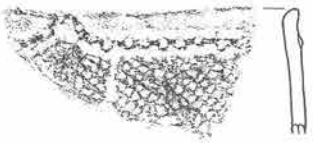
No.266
SX03
底面
Ⅲ
胴部



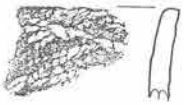
No.267
SX03
底面
ⅢC4
口縁部

No.268
SX03
底面
ⅢC4
底面

SX04

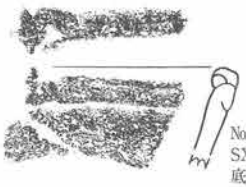


No.269
SX04
覆土
ⅡD
口縁部

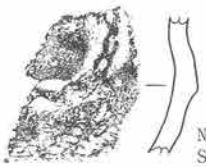


No.270
SX04
覆土
Ⅱ
口縁部

SX06

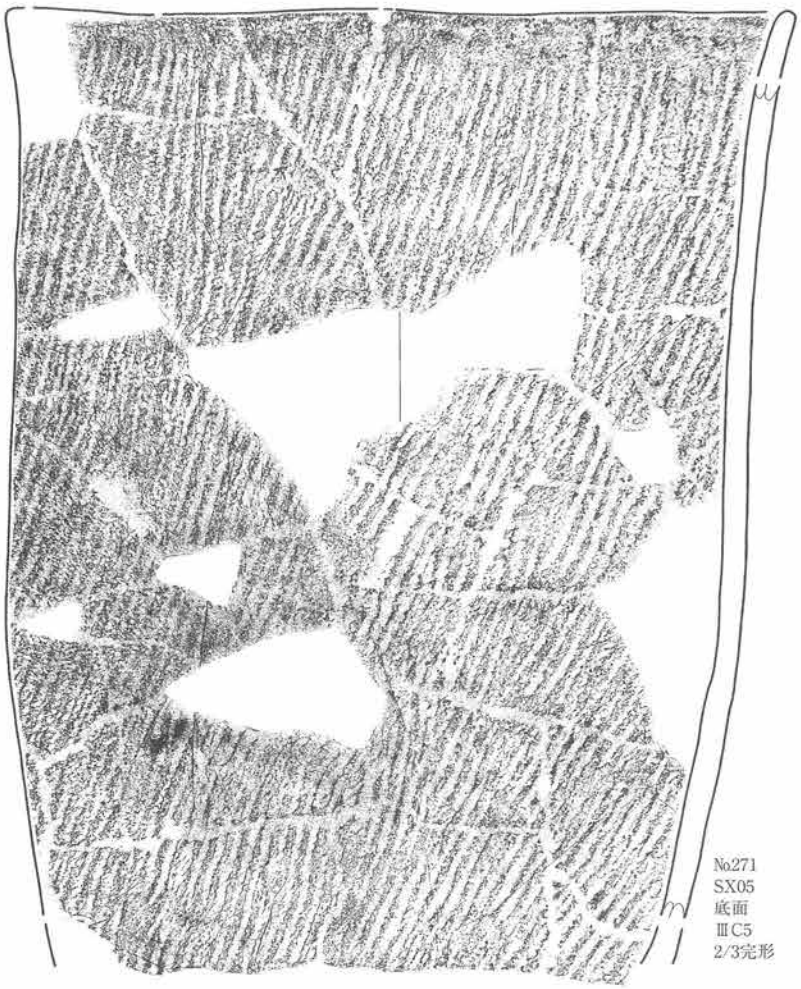


No.272
SX06
底面
ⅡE2a
口縁部



No.273
SX06
底面
ⅢC4b
胴部上半

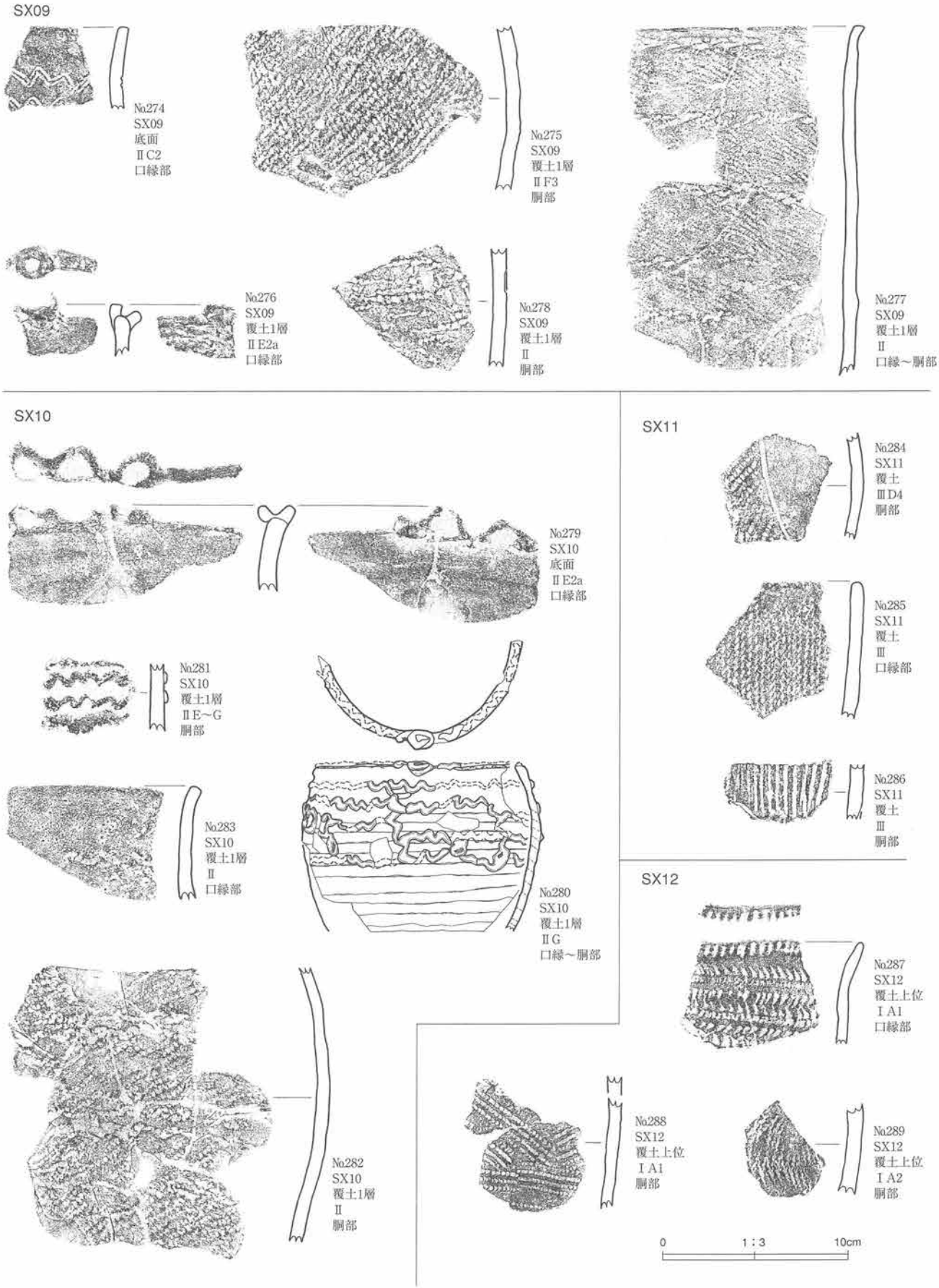
SX05



No.271
SX05
底面
ⅢC5
2/3完形

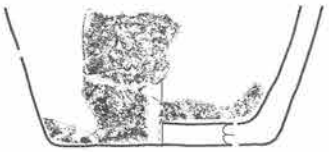
0　1：3　10cm

第91図　土器（26）


SX09
No.274
SX09
底面
ⅡC2
口縁部
No.275
SX09
覆土1層
ⅡF3
胴部
No.276
SX09
覆土1層
ⅡE2a
口縁部
No.278
SX09
覆土1層
Ⅱ
胴部
No.277
SX09
覆土1層
Ⅱ
口縁～胴部
SX10
No.279
SX10
底面
ⅡE2a
口縁部
No.281
SX10
覆土1層
ⅡE～G
胴部
No.283
SX10
覆土1層
Ⅱ
口縁部
No.280
SX10
覆土1層
ⅡG
口縁～胴部
No.282
SX10
覆土1層
Ⅱ
胴部
SX11
No.284
SX11
覆土
ⅢD4
胴部
No.285
SX11
覆土
Ⅲ
口縁部
No.286
SX11
覆土
Ⅲ
胴部
SX12
No.287
SX12
覆土上位
ⅠA1
口縁部
No.288
SX12
覆土上位
ⅠA1
胴部
No.289
SX12
覆土上位
ⅠA2
胴部
0
1：3
10cm

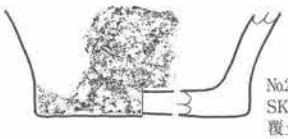
第92図　土器（27）

SK02



No.290
SK02
覆土
Ⅲ
底部

SK05

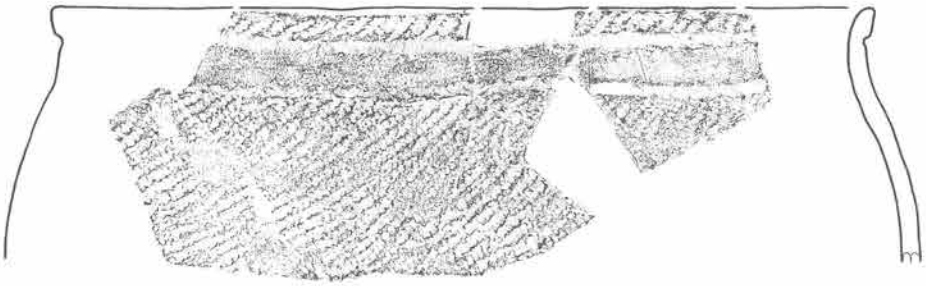


No.291
SK05
覆土
Ⅲ
底部

No.293
SK05
覆土
Ⅲ
底部

No.292
SK05
覆土
Ⅲ
底部

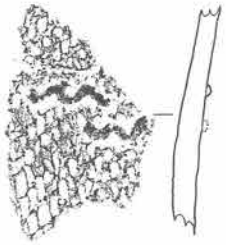
SK08



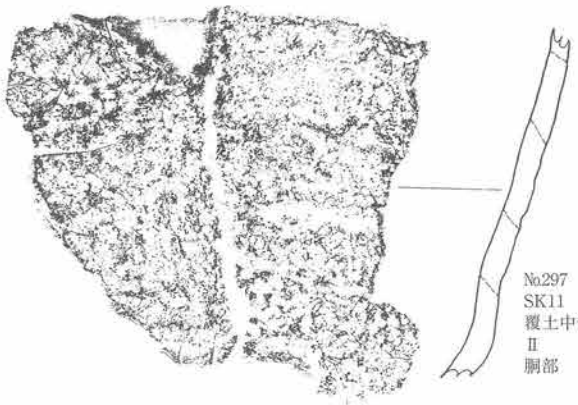
No.294
SK08
覆土
Ⅳ
口縁部

No.295
SK08
覆土中位
Ⅳ
口縁部

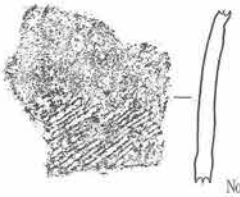
SK11



No.296
SK11
覆土中位
ⅡE2a
胴部上半

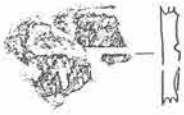


No.297
SK11
覆土中位
Ⅱ
胴部

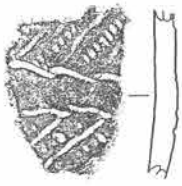


No.298
SK11
覆土中位
Ⅱ
胴部

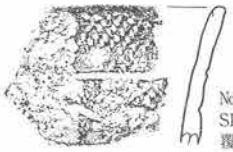
SK18



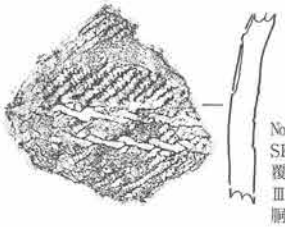
No.299
SK18
覆土
Ⅲ
胴部上半



No.300
SK18
覆土
Ⅲ
胴部



No.301
SK18
覆土
Ⅲ
口縁部

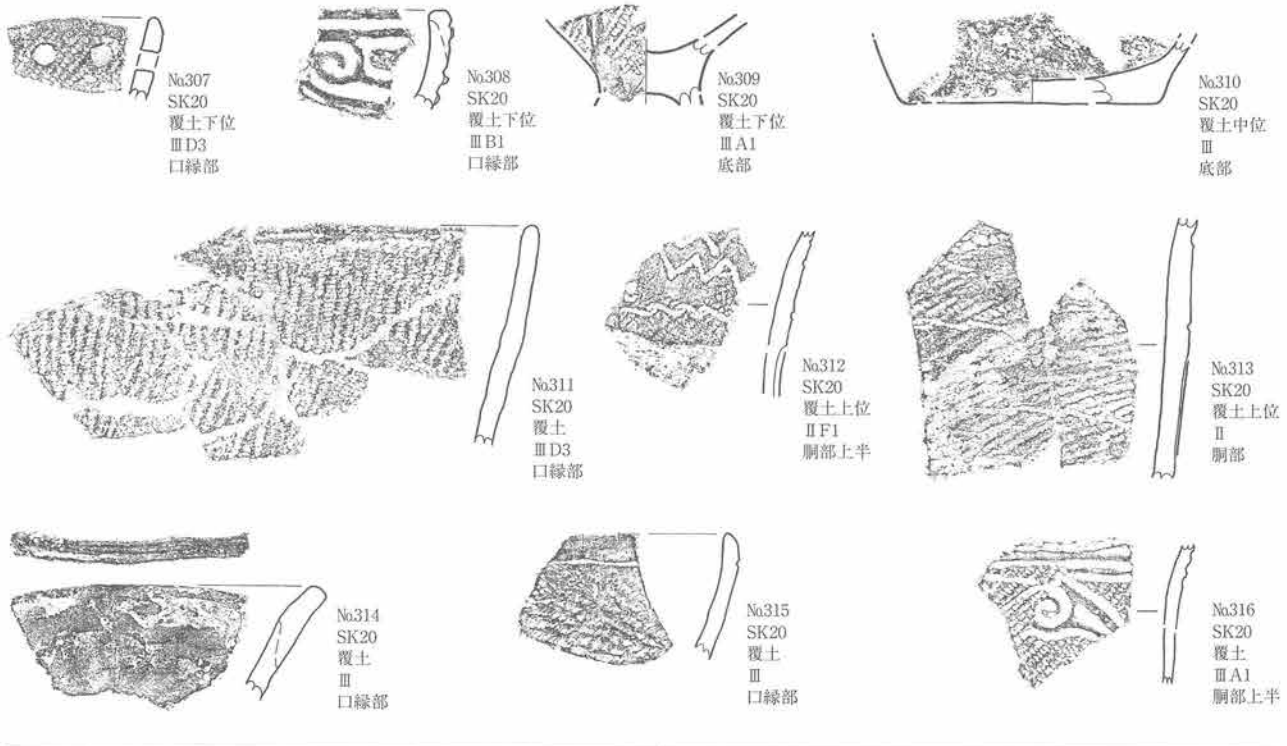


No.302
SK18
覆土
Ⅲ
胴部上半

0　1：3　10cm

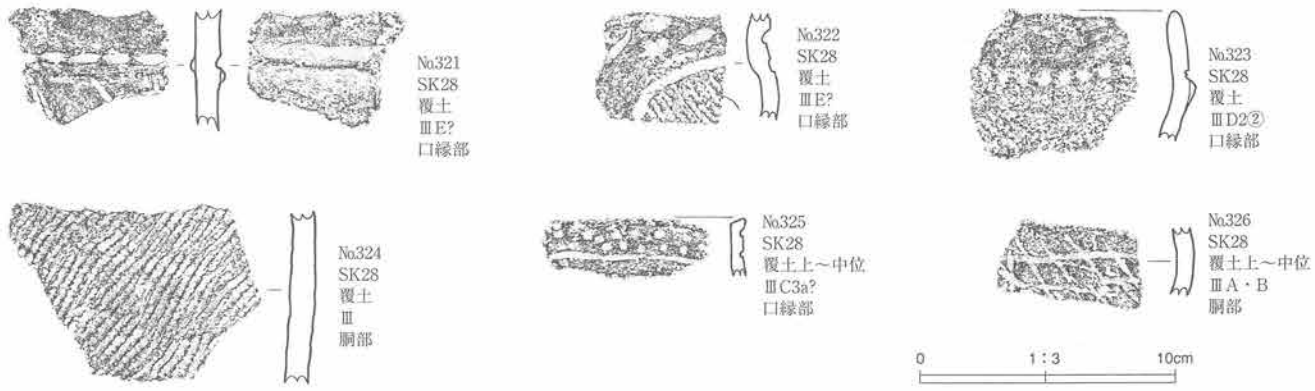
第93図　土器（28）

SK20

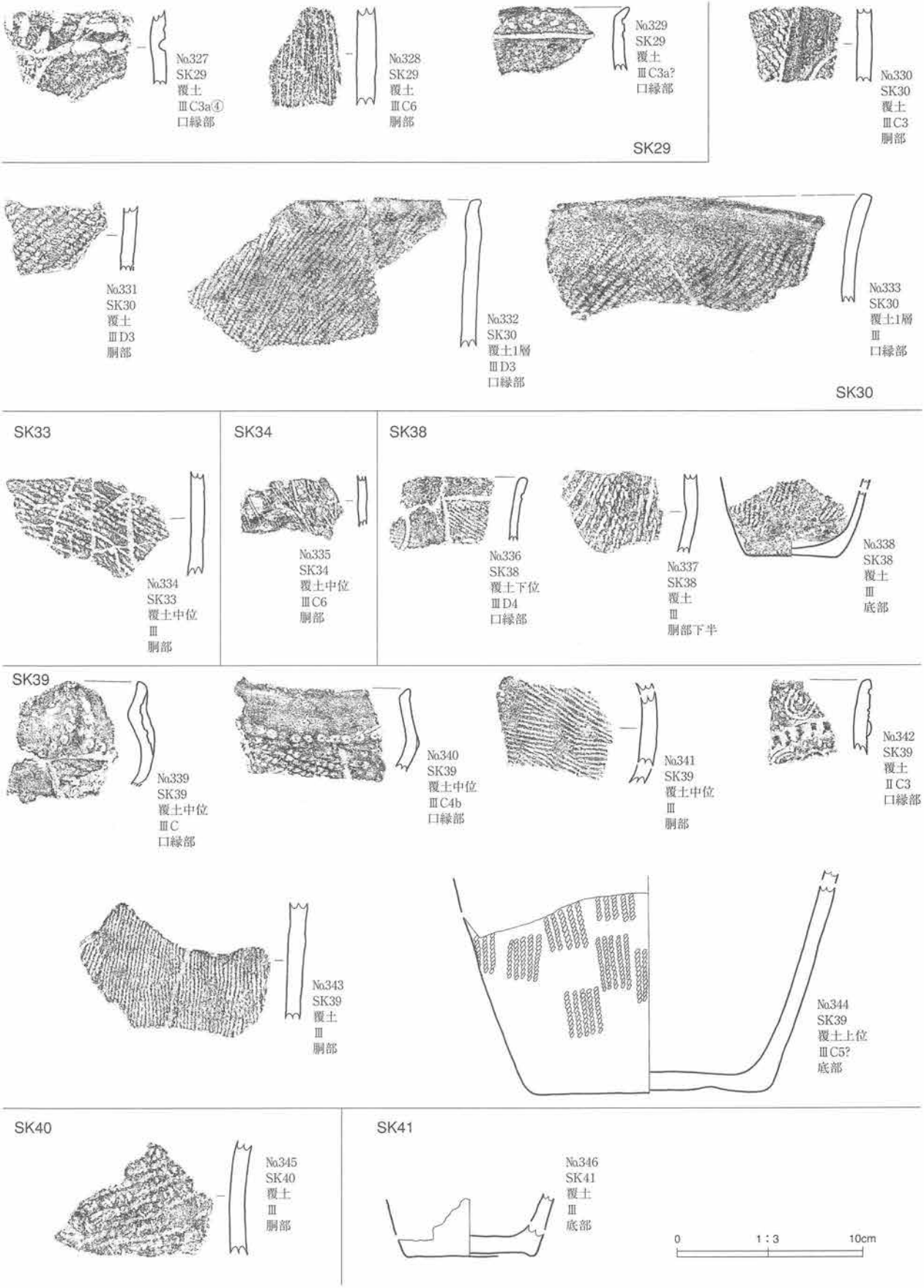


SK24

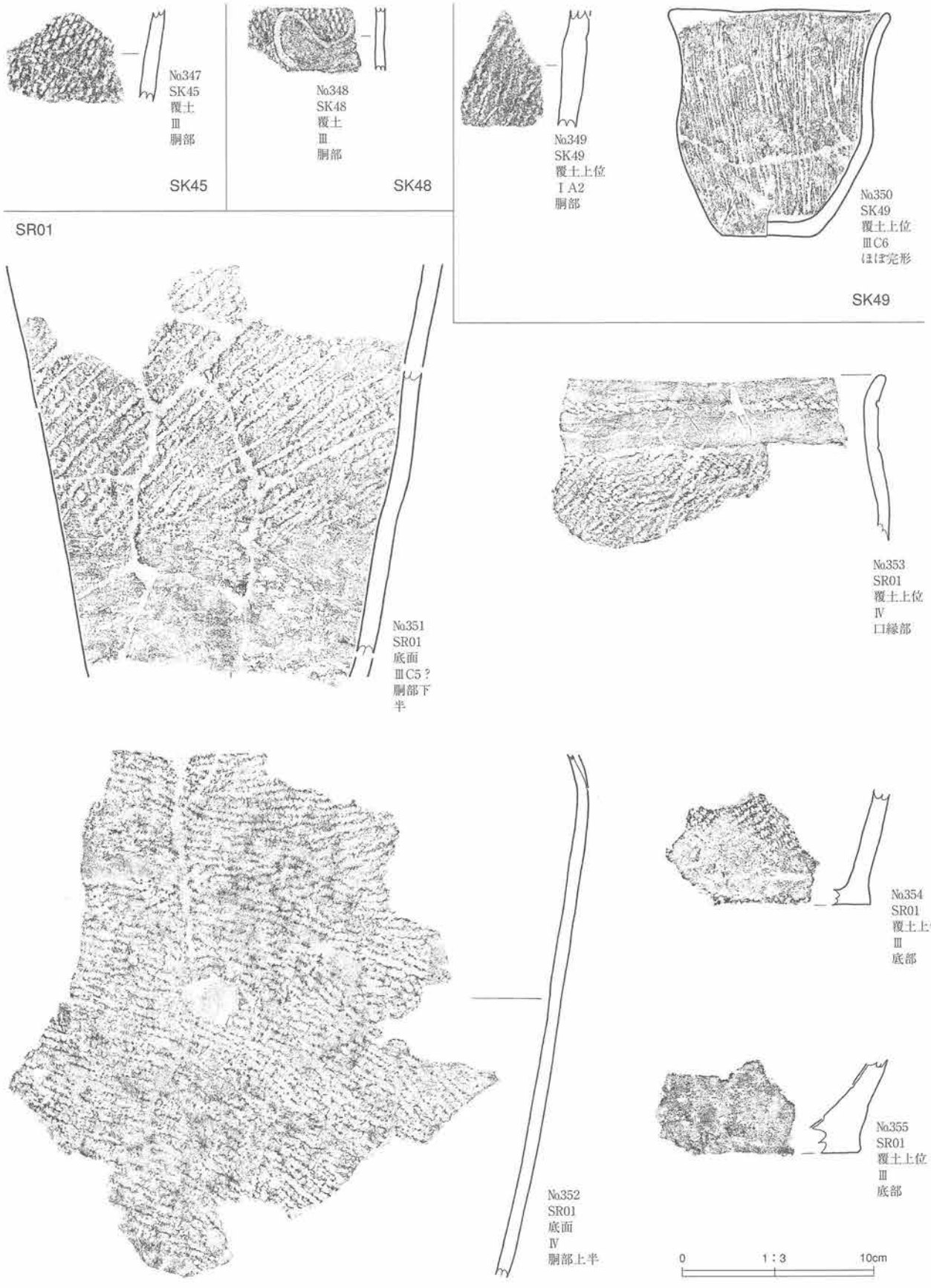
SK28



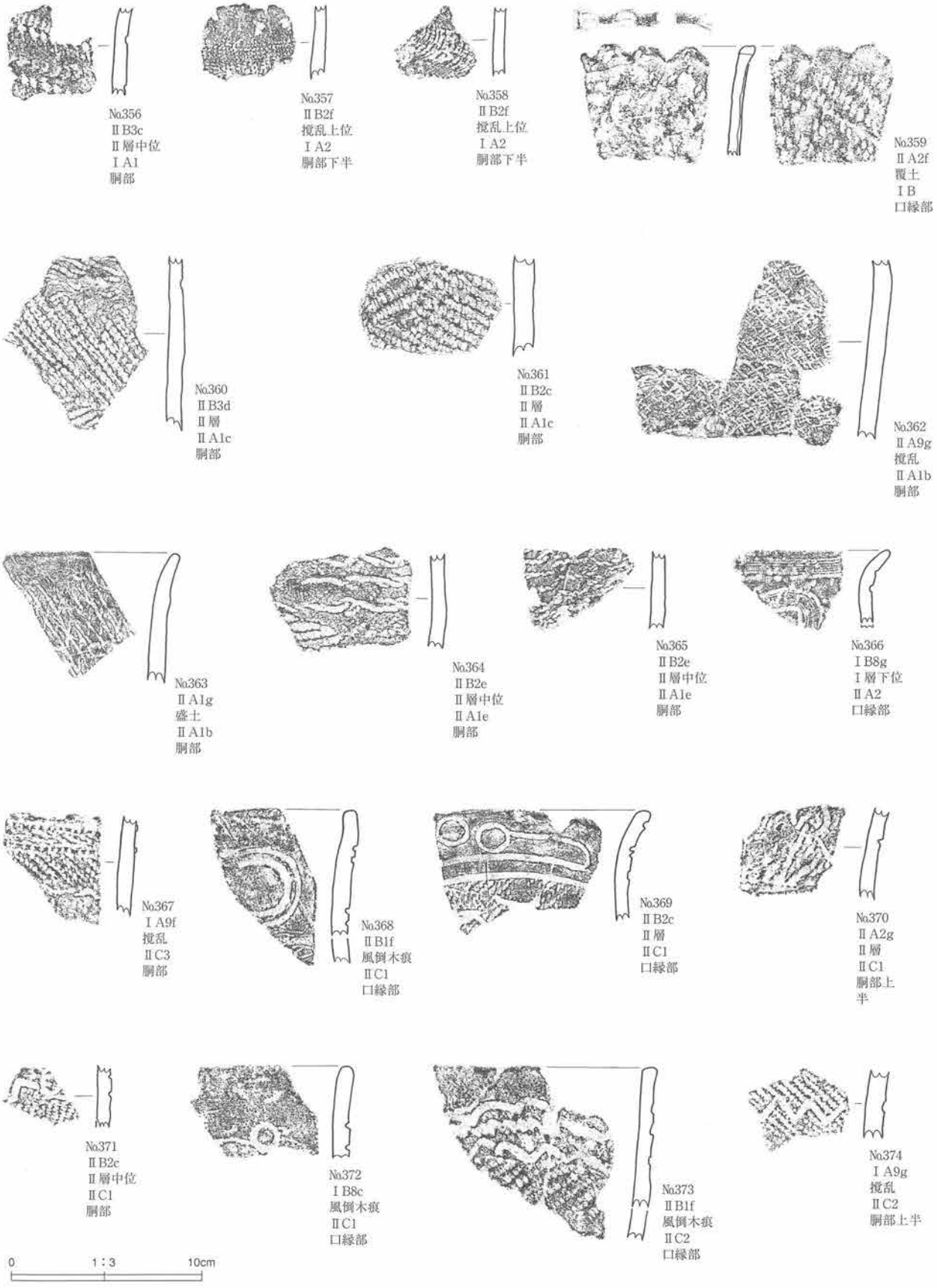
第94図　土器（29）


No.327
SK29
覆土
Ⅲ C3a④
口縁部
No.328
SK29
覆土
Ⅲ C6
胴部
No.329
SK29
覆土
Ⅲ C3a?
口縁部
SK29
No.330
SK30
覆土
Ⅲ C3
胴部
No.331
SK30
覆土
Ⅲ D3
胴部
No.332
SK30
覆土1層
Ⅲ D3
口縁部
No.333
SK30
覆土1層
Ⅲ
口縁部
SK30
SK33
No.334
SK33
覆土中位
Ⅲ
胴部
SK34
No.335
SK34
覆土中位
Ⅲ C6
胴部
SK38
No.336
SK38
覆土下位
Ⅲ D4
口縁部
No.337
SK38
覆土
Ⅲ
胴部下半
No.338
SK38
覆土
Ⅲ
底部
SK39
No.339
SK39
覆土中位
Ⅲ C
口縁部
No.340
SK39
覆土中位
Ⅲ C4b
口縁部
No.341
SK39
覆土中位
Ⅲ
胴部
No.342
SK39
覆土
Ⅱ C3
口縁部
No.343
SK39
覆土
Ⅲ
胴部
No.344
SK39
覆土上位
Ⅲ C5?
底部
SK40
No.345
SK40
覆土
Ⅲ
胴部
SK41
No.346
SK41
覆土
Ⅲ
底部
0
1：3
10cm

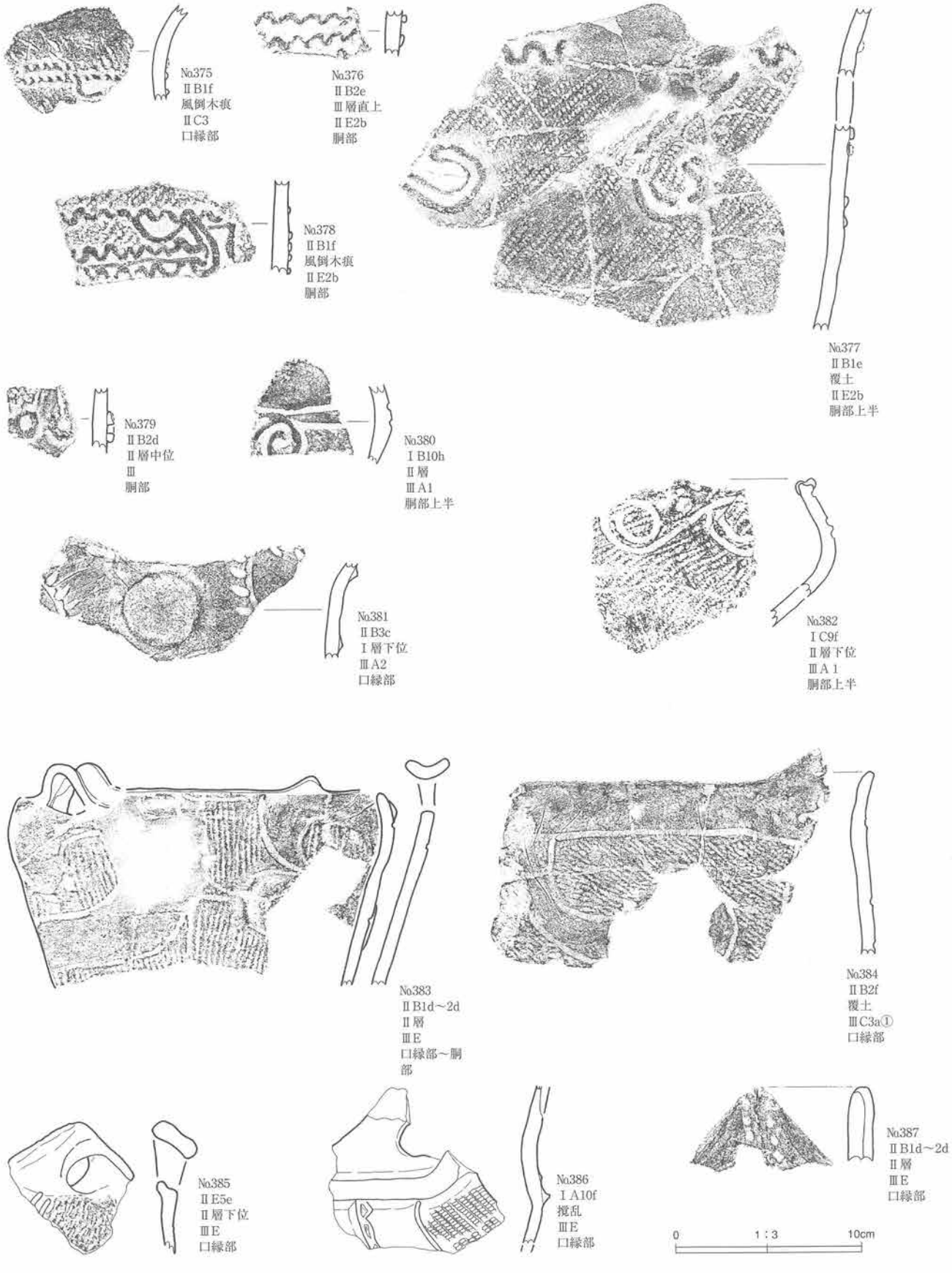
第95図　土器（30）


No.347
SK45
覆土
Ⅲ
胴部
SK45
No.348
SK48
覆土
Ⅲ
胴部
SK48
No.349
SK49
覆土上位
ⅠA2
胴部
No.350
SK49
覆土上位
ⅢC6
ほぼ完形
SK49
SR01
No.351
SR01
底面
ⅢC5？
胴部下半
No.353
SR01
覆土上位
Ⅳ
口縁部
No.352
SR01
底面
Ⅳ
胴部上半
No.354
SR01
覆土上位
Ⅲ
底部
No.355
SR01
覆土上位
Ⅲ
底部
0
1：3
10cm

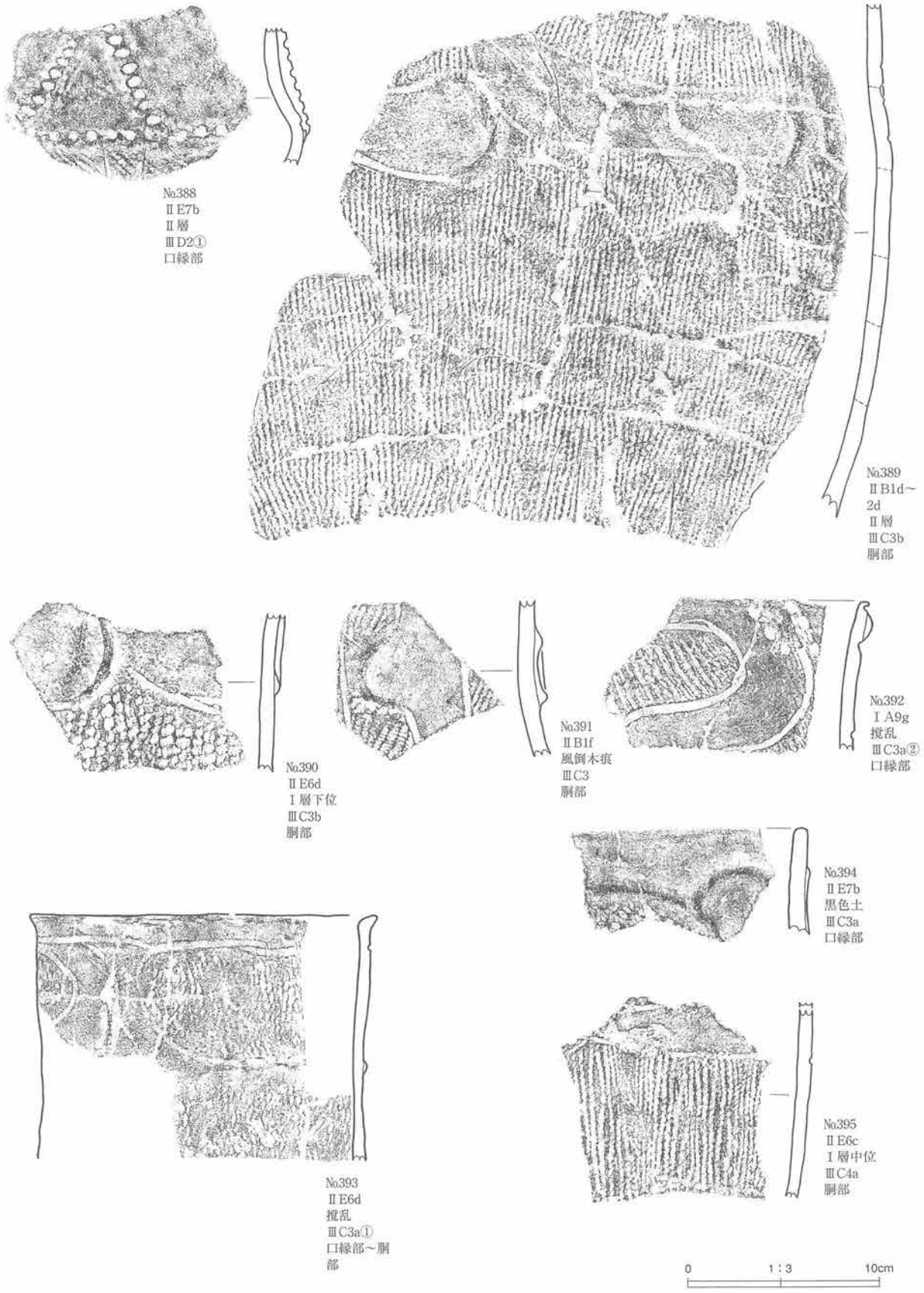
第96図　土器（31）


No.356
ⅡB3c
Ⅱ層中位
ⅠA1
胴部
No.357
ⅡB2f
撹乱上位
ⅠA2
胴部下半
No.358
ⅡB2f
撹乱上位
ⅠA2
胴部下半
No.359
ⅡA2f
覆土
ⅠB
口縁部
No.360
ⅡB3d
Ⅱ層
ⅡA1c
胴部
No.361
ⅡB2c
Ⅱ層
ⅡA1c
胴部
No.362
ⅡA9g
撹乱
ⅡA1b
胴部
No.363
ⅡA1g
盛土
ⅡA1b
胴部
No.364
ⅡB2e
Ⅱ層中位
ⅡA1e
胴部
No.365
ⅡB2e
Ⅱ層中位
ⅡA1e
胴部
No.366
ⅠB8g
Ⅰ層下位
ⅡA2
口縁部
No.367
ⅠA9f
撹乱
ⅡC3
胴部
No.368
ⅡB1f
風倒木痕
ⅡC1
口縁部
No.369
ⅡB2c
Ⅱ層
ⅡC1
口縁部
No.370
ⅡA2g
Ⅱ層
ⅡC1
胴部上半
No.371
ⅡB2c
Ⅱ層中位
ⅡC1
胴部
No.372
ⅠB8c
風倒木痕
ⅡC1
口縁部
No.373
ⅡB1f
風倒木痕
ⅡC2
口縁部
No.374
ⅠA9g
撹乱
ⅡC2
胴部上半
0
1：3
10cm

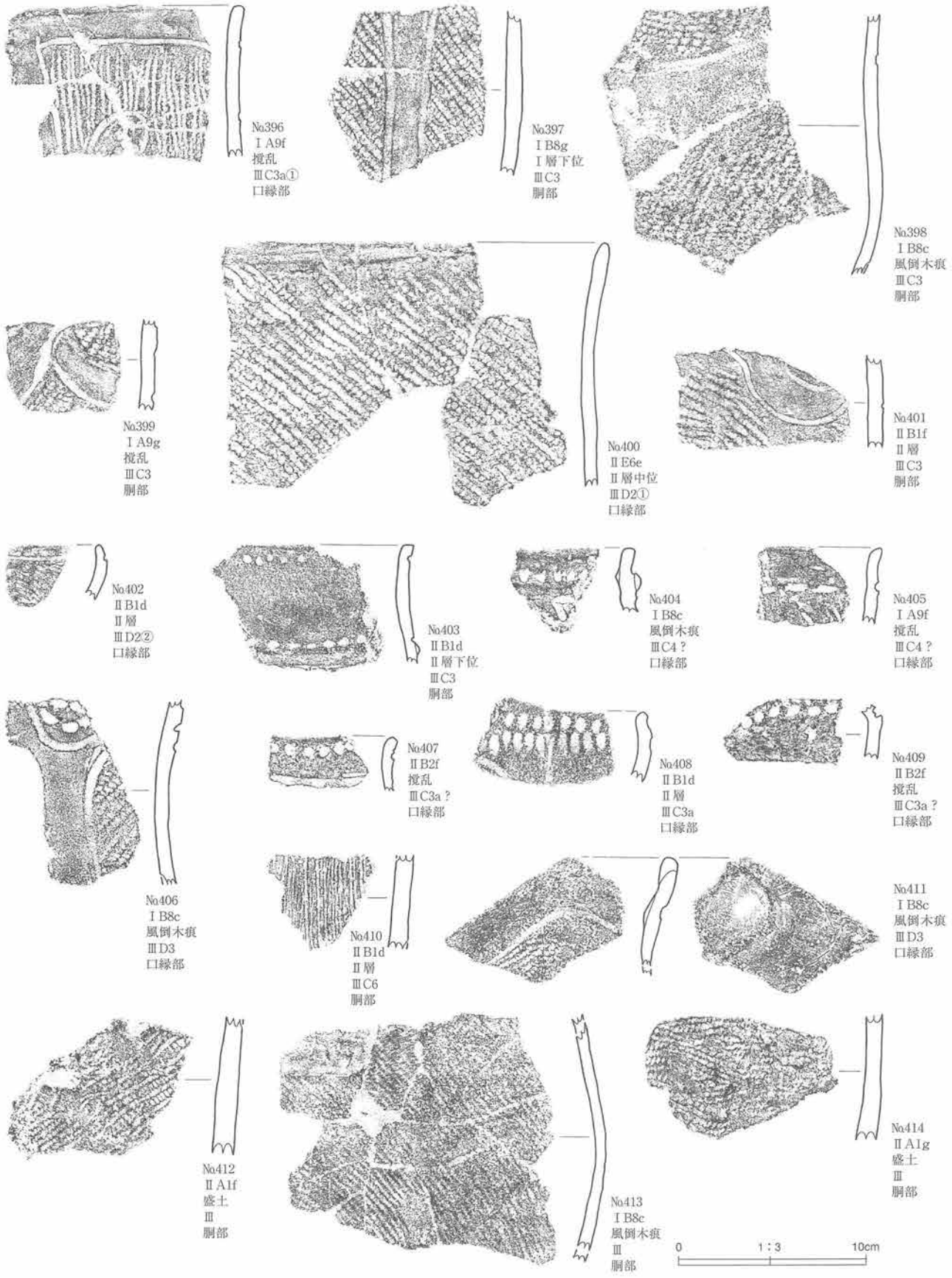
第97図　土器（32）


No.375
ⅡB1f
風倒木痕
ⅡC3
口縁部
No.376
ⅡB2e
Ⅲ層直上
ⅡE2b
胴部
No.377
ⅡB1e
覆土
ⅡE2b
胴部上半
No.378
ⅡB1f
風倒木痕
ⅡE2b
胴部
No.379
ⅡB2d
Ⅱ層中位
Ⅲ
胴部
No.380
ⅠB10h
Ⅱ層
ⅢA1
胴部上半
No.381
ⅡB3c
Ⅰ層下位
ⅢA2
口縁部
No.382
ⅠC9f
Ⅱ層下位
ⅢA1
胴部上半
No.383
ⅡB1d～2d
Ⅱ層
ⅢE
口縁部～胴部
No.384
ⅡB2f
覆土
ⅢC3a①
口縁部
No.385
ⅡE5e
Ⅱ層下位
ⅢE
口縁部
No.386
ⅠA10f
撹乱
ⅢE
口縁部
No.387
ⅡB1d～2d
Ⅱ層
ⅢE
口縁部
0
1：3
10cm

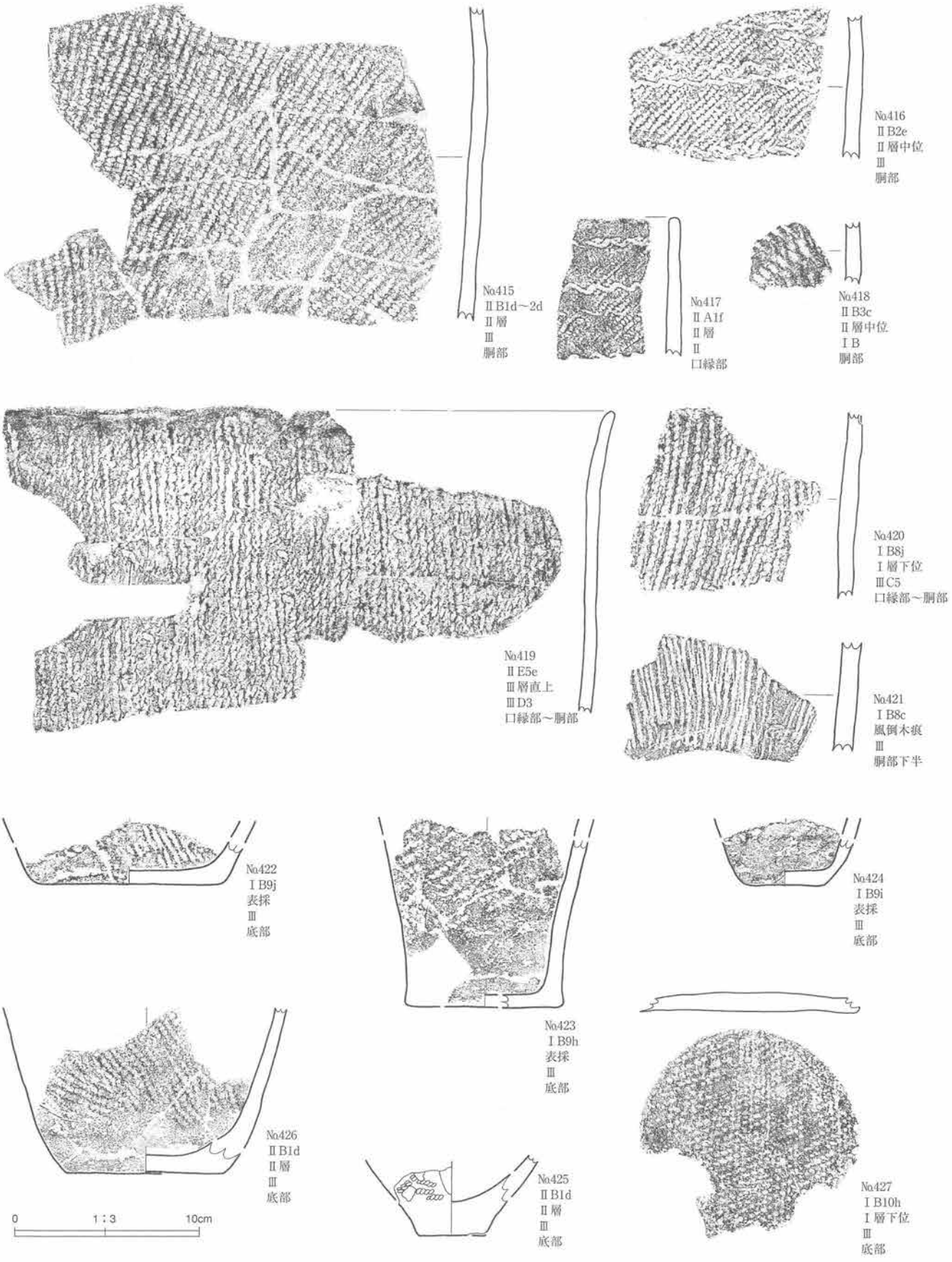
第98図　土器（33）


No.388
ⅡE7b
Ⅱ層
ⅢD2①
口縁部
No.389
ⅡB1d～2d
Ⅱ層
ⅢC3b
胴部
No.390
ⅡE6d
Ⅰ層下位
ⅢC3b
胴部
No.391
ⅡB1f
風倒木痕
ⅢC3
胴部
No.392
ⅠA9g
撹乱
ⅢC3a②
口縁部
No.393
ⅡE6d
撹乱
ⅢC3a①
口縁部～胴部
No.394
ⅡE7b
黒色土
ⅢC3a
口縁部
No.395
ⅡE6c
Ⅰ層中位
ⅢC4a
胴部
0
1：3
10cm

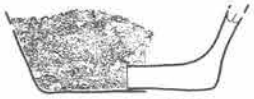
第99図　土器（34）


No396
ⅠA9f
撹乱
ⅢC3a①
口縁部
No397
ⅠB8g
Ⅰ層下位
ⅢC3
胴部
No398
ⅠB8c
風倒木痕
ⅢC3
胴部
No399
ⅠA9g
撹乱
ⅢC3
胴部
No400
ⅡE6e
Ⅱ層中位
ⅢD2①
口縁部
No401
ⅡB1f
Ⅱ層
ⅢC3
胴部
No402
ⅡB1d
Ⅱ層
ⅢD2②
口縁部
No403
ⅡB1d
Ⅱ層下位
ⅢC3
胴部
No404
ⅠB8c
風倒木痕
ⅢC4？
口縁部
No405
ⅠA9f
撹乱
ⅢC4？
口縁部
No406
ⅠB8c
風倒木痕
ⅢD3
口縁部
No407
ⅡB2f
撹乱
ⅢC3a？
口縁部
No408
ⅡB1d
Ⅱ層
ⅢC3a
口縁部
No409
ⅡB2f
撹乱
ⅢC3a？
口縁部
No410
ⅡB1d
Ⅱ層
ⅢC6
胴部
No411
ⅠB8c
風倒木痕
ⅢD3
口縁部
No412
ⅡA1f
盛土
Ⅲ
胴部
No413
ⅠB8c
風倒木痕
Ⅲ
胴部
No414
ⅡA1g
盛土
Ⅲ
胴部
0
1：3
10cm

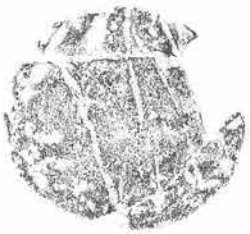
第100図　土器（35）


No.415
ⅡB1d～2d
Ⅱ層
Ⅲ
胴部
No.416
ⅡB2e
Ⅱ層中位
Ⅲ
胴部
No.417
ⅡA1f
Ⅱ層
Ⅱ
口縁部
No.418
ⅡB3c
Ⅱ層中位
ⅠB
胴部
No.419
ⅡE5e
Ⅲ層直上
ⅢD3
口縁部～胴部
No.420
ⅠB8j
Ⅰ層下位
ⅢC5
口縁部～胴部
No.421
ⅠB8c
風倒木痕
Ⅲ
胴部下半
No.422
ⅠB9j
表採
Ⅲ
底部
No.423
ⅠB9h
表採
Ⅲ
底部
No.424
ⅠB9i
表採
Ⅲ
底部
No.425
ⅡB1d
Ⅱ層
Ⅲ
底部
No.426
ⅡB1d
Ⅱ層
Ⅲ
底部
No.427
ⅠB10h
Ⅰ層下位
Ⅲ
底部
0
1：3
10cm

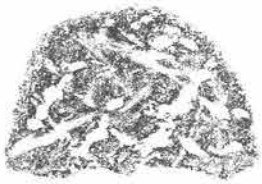
第101図　土器（36）



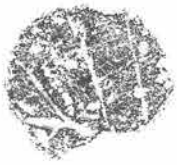
№428
ⅠB9h
風倒木痕
Ⅲ
底部



№429
ⅡD3a
表採
Ⅲ
底部



№430
ⅠB10h
Ⅱ層中位
Ⅲ
底部

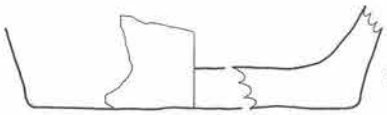


№431
ⅠB9i
表採
Ⅲ
底部

№432
ⅡB1d～2d
Ⅱ層
Ⅲ
底部

№433
ⅠC5f
Ⅱ層下位
Ⅲ
底部

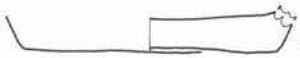
№434
ⅠB8i
Ⅱ層上位
Ⅲ
底部



№435
ⅡA1e
Ⅱ層
Ⅲ
底部

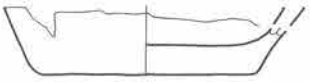
№436
ⅡB1d
Ⅱ層
Ⅲ
底部

№437
ⅠB10d
Ⅱ層
Ⅲ
底部

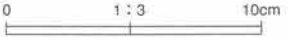


№438
ⅠB8c
風倒木痕
Ⅲ
底部

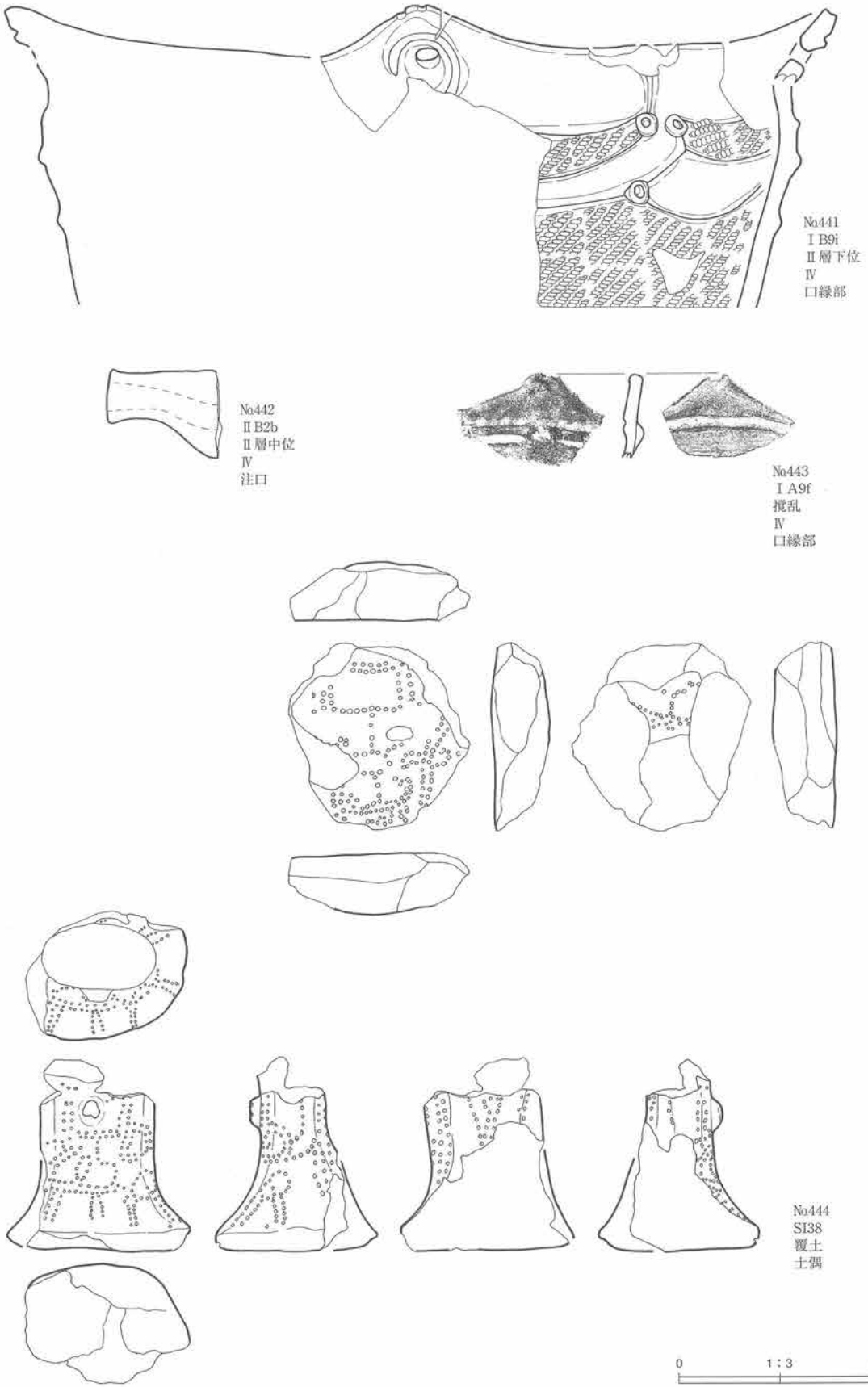
№439
ⅠB8c
風倒木痕
Ⅲ
底部



№440
ⅡC3g
撹乱
Ⅲ
底部



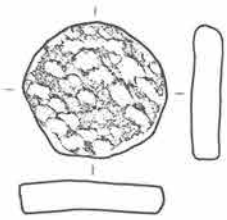
第102図　土器（37）


No.441
ⅠB9i
Ⅱ層下位
Ⅳ
口縁部
No.442
ⅡB2b
Ⅱ層中位
Ⅳ
注口
No.443
ⅠA9f
撹乱
Ⅳ
口縁部
No.444
SI38
覆土
土偶
0
1：3
10cm

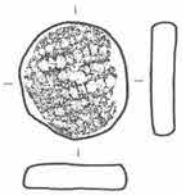
第103図　土製品（1）

No.445
ⅡB2f
撹乱
耳飾

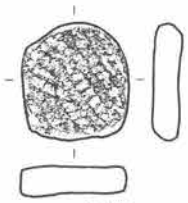
0　1：3　10cm



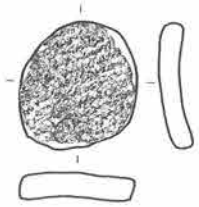
No.446
SI27
覆土
円盤状土製品



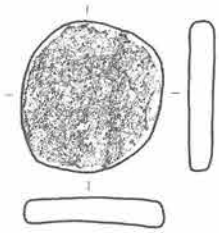
No.447
SI34
覆土下位
円盤状土製品



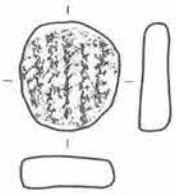
No.448
SI34
覆土下位
円盤状土製品



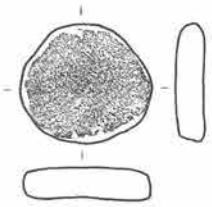
No.449
SI36
覆土
円盤状土製品



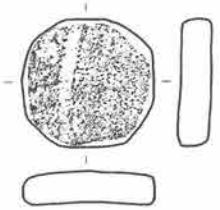
No.450
SI36
覆土
円盤状土製品



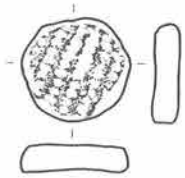
No.451
SI36
覆土
円盤状土製品



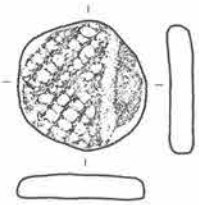
No.452
SI36
覆土
円盤状土製品



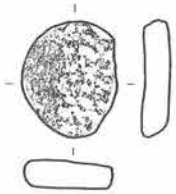
No.453
SK39
覆土中位
円盤状土製品



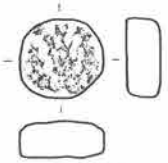
No.454
SK39
覆土上位
円盤状土製品



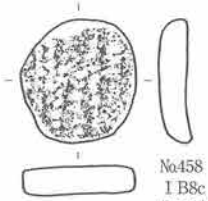
No.455
ⅡA2i
Ⅱ層
円盤状土製品



No.456
ⅡA2i
Ⅱ層
円盤状土製品



No.457
ⅡB1d
Ⅱ層
円盤状土製品

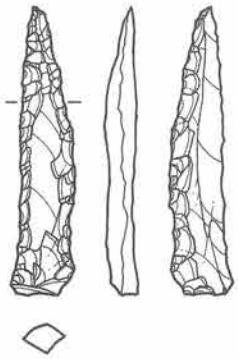


No.458
ⅠB8c
風倒木痕
円盤状土製品

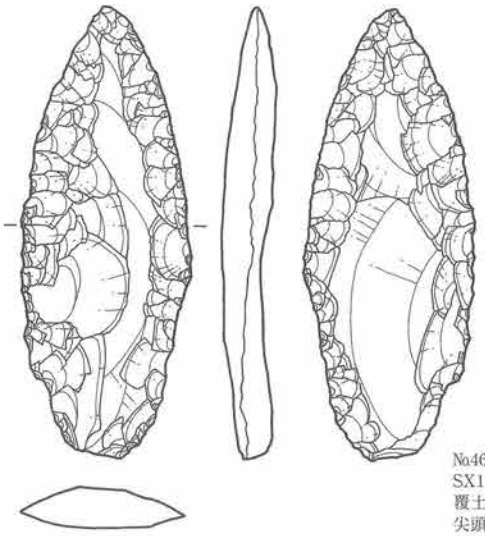
No.1497
SA4
覆土
熙寧元寶

1497
0　1：2　5cm

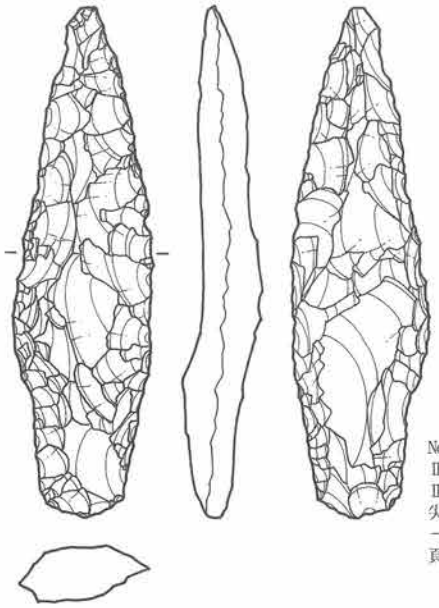
第104図　土製品（2）・銭貨



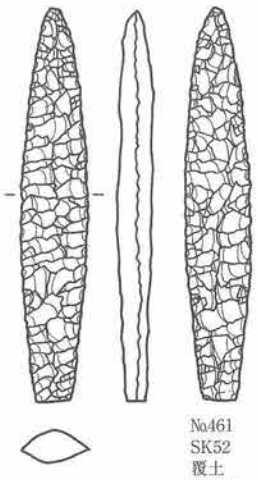
No.459
SI27
床直上
尖頭器
－
頁岩



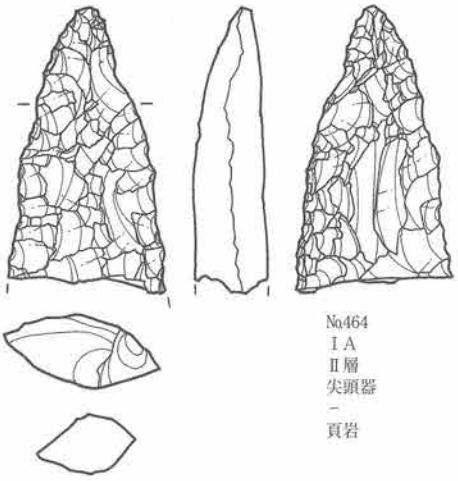
No.460
SX12
覆土上位
尖頭器
－
頁岩



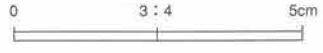
No.463
ⅡB1h
Ⅱ層下位
尖頭器
－
頁岩



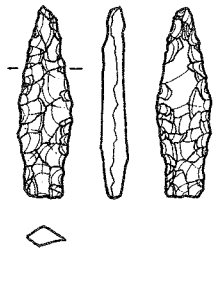
No.461
SK52
覆土
尖頭器
－
凝灰岩



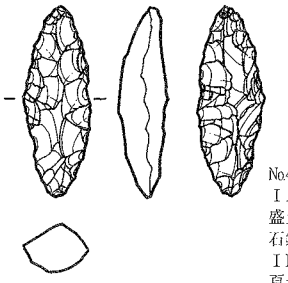
No.464
ⅠA
Ⅱ層
尖頭器
－
頁岩



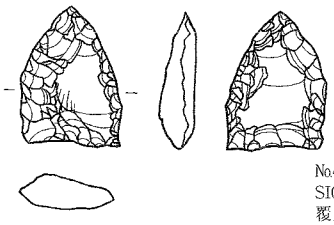
第105図　石器（1）



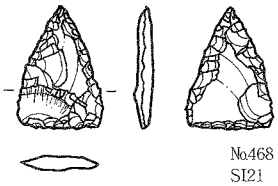
No.465
ⅡB1f
風倒木痕
石鏃
ⅠA
頁岩



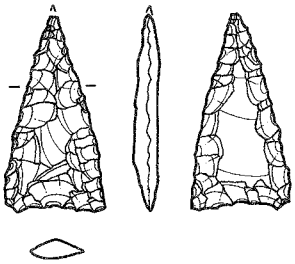
No.466
ⅠA9f
盛土
石鏃
ⅠB
頁岩



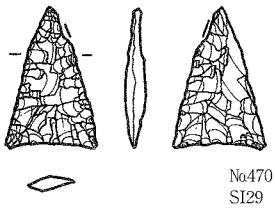
No.467
SI03
覆土
石鏃
ⅡA
頁岩



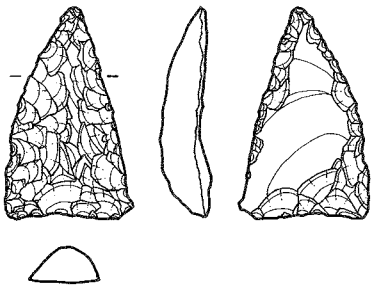
No.468
SI21
床面
石鏃
ⅡA
頁岩



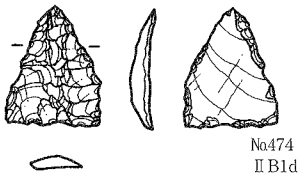
No.469
SI27
覆土
石鏃
ⅡA
頁岩



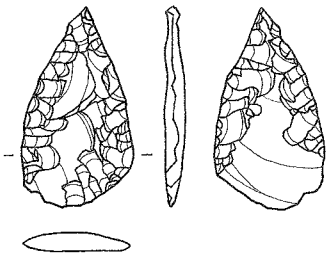
No.470
SI29
覆土
石鏃
ⅡA
頁岩



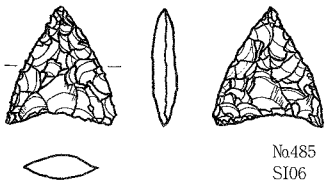
No.471
SI34
床直上
石鏃
ⅡA
頁岩



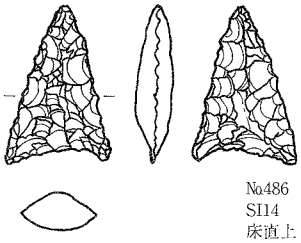
No.474
ⅡB1d～2d
石鏃
ⅡA
頁岩



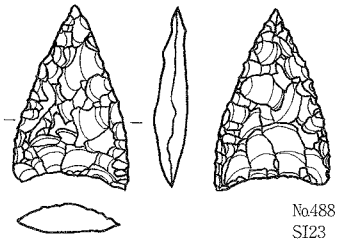
No.475
SI21
床面
石鏃
ⅡB
頁岩



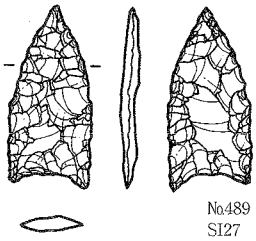
No.485
SI06
覆土
石鏃
ⅡC1
頁岩



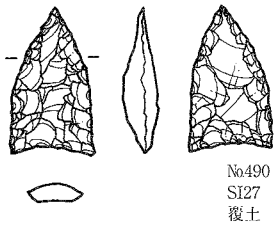
No.486
SI14
床直上
石鏃
ⅡC1
頁岩



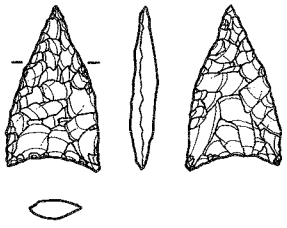
No.488
SI23
覆土
石鏃
ⅡC1
頁岩



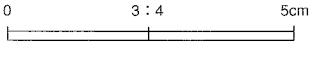
No.489
SI27
覆土
石鏃
ⅡC1
頁岩



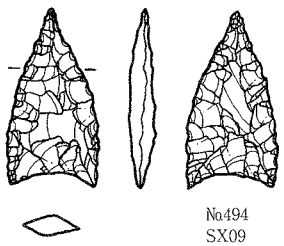
No.490
SI27
覆土
石鏃
ⅡC1
頁岩



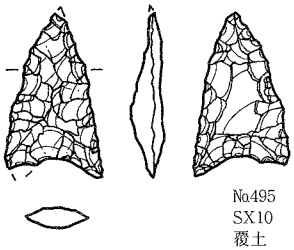
No.493
SI27
覆土
石鏃
ⅡC1
頁岩



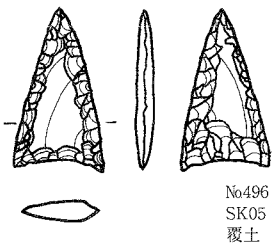
第106図　石器（2）



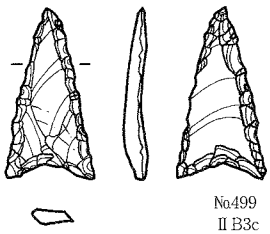
No.494
SX09
底面直上
石鏃
ⅡC1
頁岩



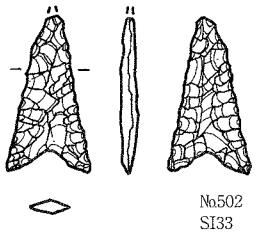
No.495
SX10
覆土
石鏃
ⅡC1
頁岩



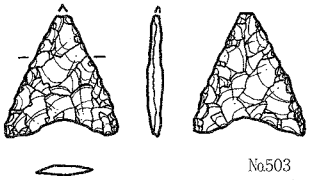
No.496
SK05
覆土
石鏃
ⅡC1
頁岩



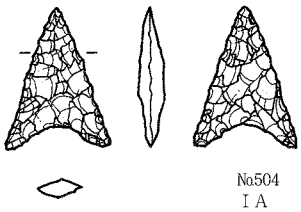
No.499
ⅡB3c
Ⅱ層中位
石鏃
ⅡC1
頁岩



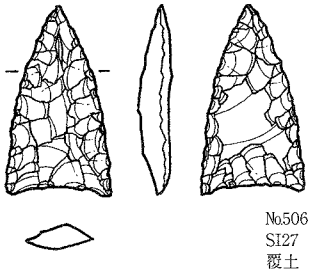
No.502
SI33
覆土
石鏃
ⅡC2
頁岩



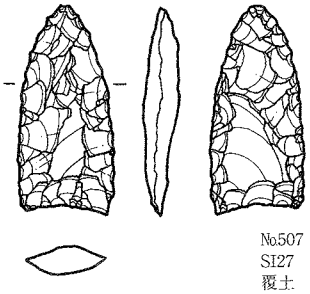
No.503
ⅡB1d～2d
覆土下位
石鏃
ⅡC2
頁岩



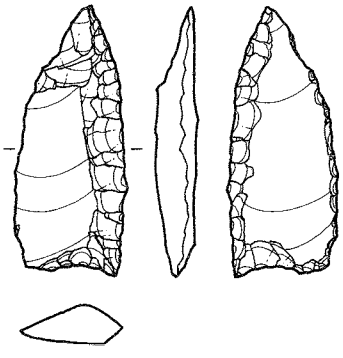
No.504
ⅠA
盛土
石鏃
ⅡC2
頁岩



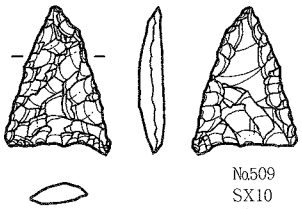
No.506
SI27
覆土
石鏃
ⅡC3
頁岩



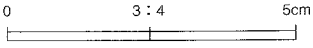
No.507
SI27
覆土
石鏃
ⅡC3
頁岩



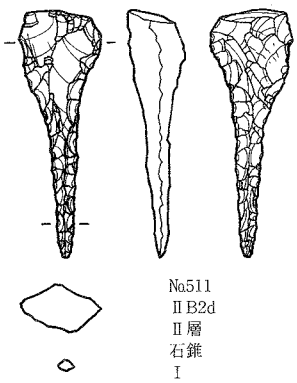
No.508
SI27
床直上
石鏃
ⅡC3
珪質頁岩



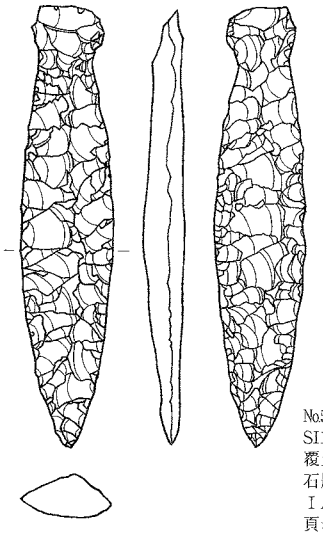
No.509
SX10
覆土
石鏃
ⅡC3
頁岩



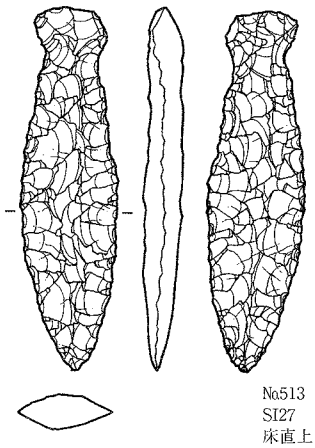
第107図　石器（3）



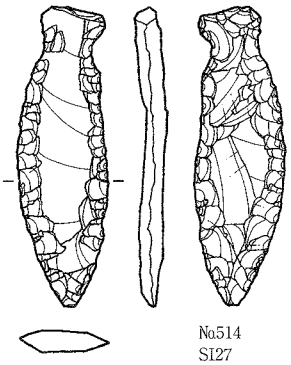
№511
ⅡB2d
Ⅱ層
石錐
Ⅰ
珪質頁岩



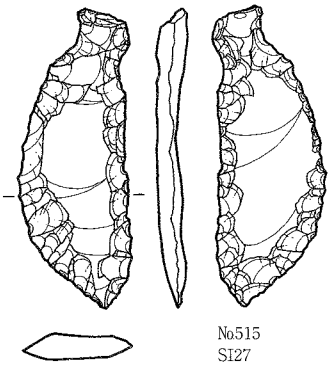
№512
SI18
覆土中位
石匙
ⅠA4
頁岩



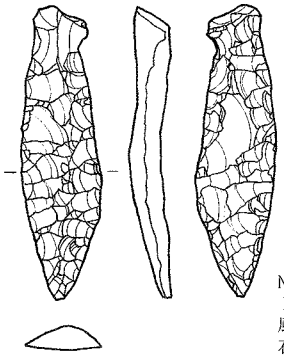
№513
SI27
床直上
石匙
ⅠA4
頁岩



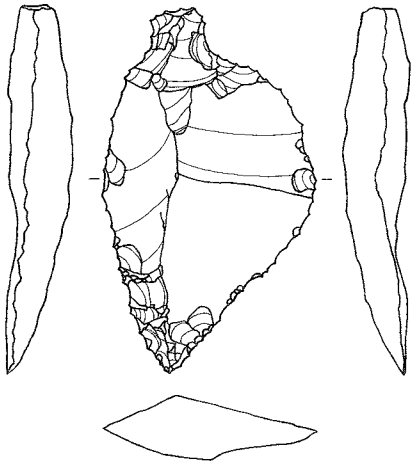
№514
SI27
床直上
石匙
ⅠA4
頁岩



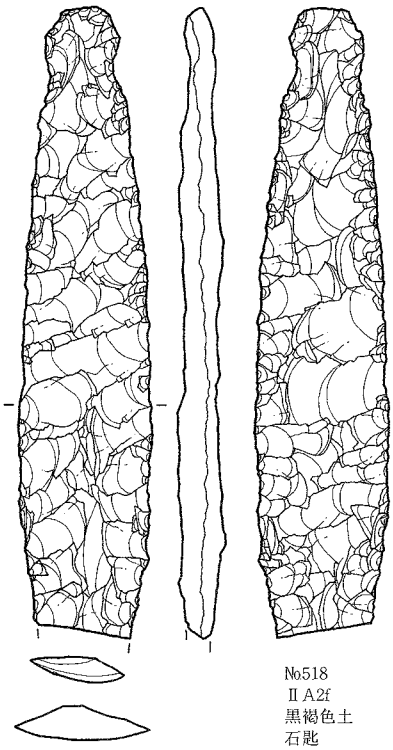
№515
SI27
床直上
石匙
ⅠA4
頁岩



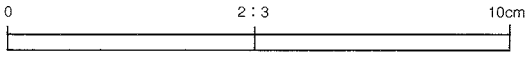
№517
ⅠB8j～ⅠC9a
風倒木痕
石匙
ⅠA4
頁岩



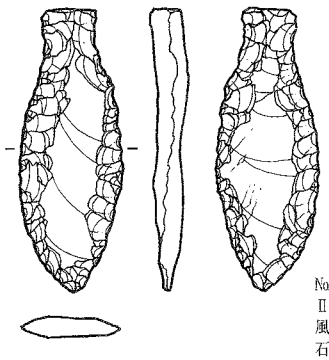
№516
SX04
床面
石匙
ⅠA4
頁岩



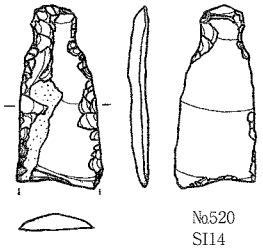
№518
ⅡA2f
黒褐色土
石匙
ⅠA4
頁岩



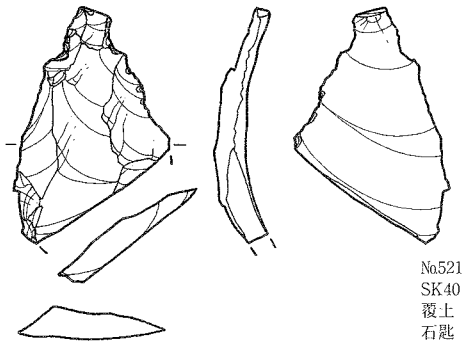
第108図　石器（4）



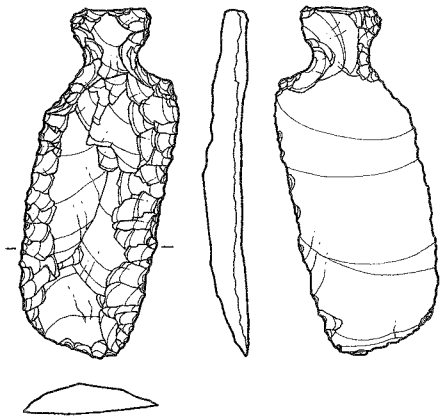
No.519
ⅡB1f
風倒木痕
石匙
ⅠA4
頁岩



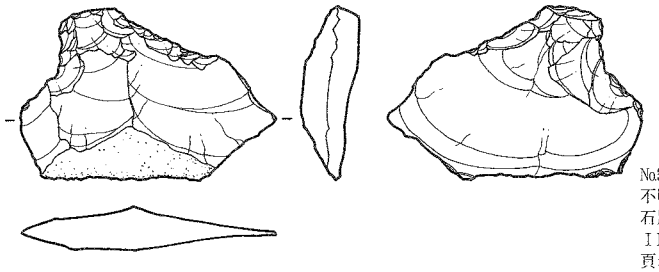
No.520
SI14
覆土
石匙
ⅠB2
頁岩



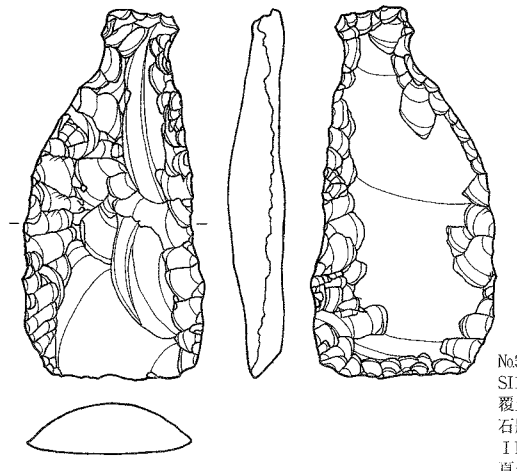
No.521
SK40
覆土
石匙
ⅠB2
頁岩



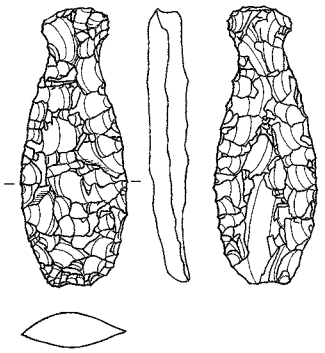
No.522
H13調査区
表採
石匙
ⅠB2
頁岩



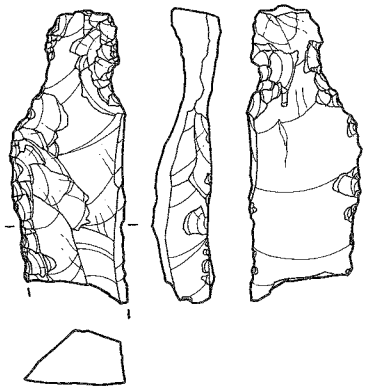
No.523
不明
石匙
ⅠB2
頁岩



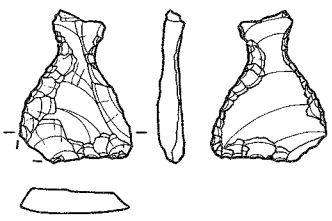
No.524
SI18
覆土上位
石匙
ⅠB4
頁岩



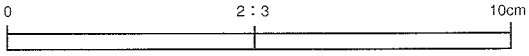
No.525
SI23
床面
石匙
ⅠB4
頁岩



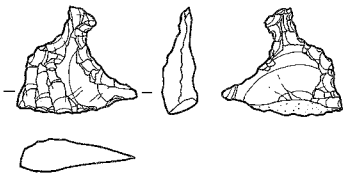
No.527
ⅡB1d
Ⅱ層
石匙
ⅠB4
頁岩



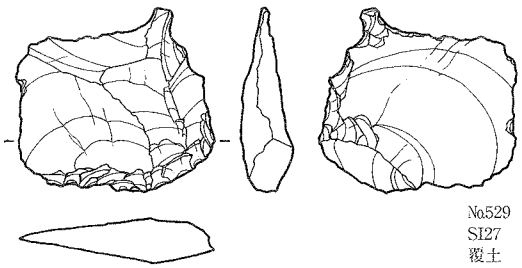
No.526
SX09
覆土
石匙
ⅠB4
赤色頁岩



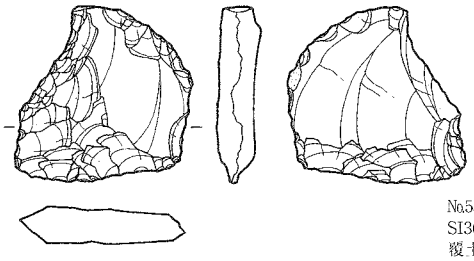
第109図　石器（5）



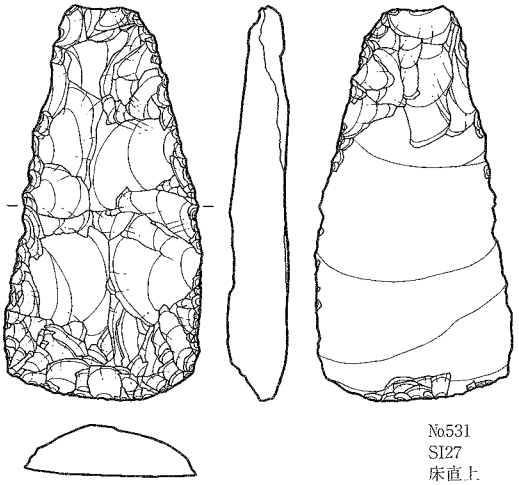
No.528
SX10
覆土
石匙
ⅡB1
赤色頁岩



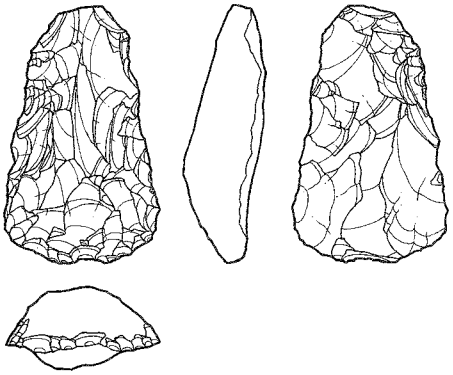
No.529
SI27
覆土
石匙
ⅡB4
頁岩



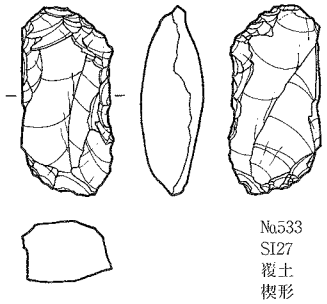
No.530
SI36
覆土
石匙
ⅡB4
頁岩



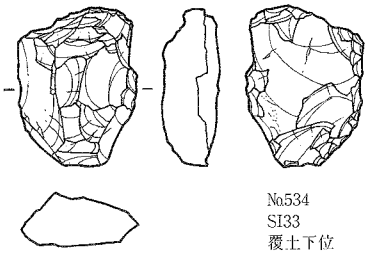
No.531
SI27
床直上
石篦
ⅡA
頁岩



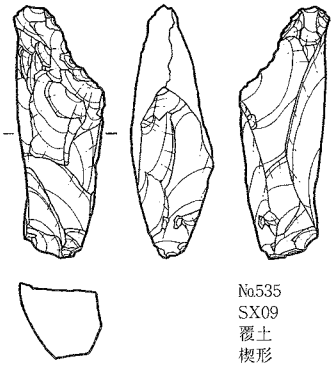
No.532
SI27
床直上
石篦
ⅡB
頁岩



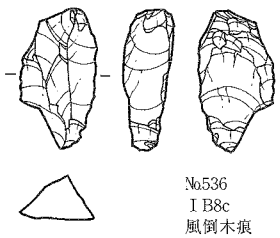
No.533
SI27
覆土
楔形
Ⅰ
頁岩



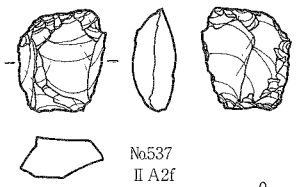
No.534
SI33
覆土下位
楔形
Ⅰ
凝灰岩



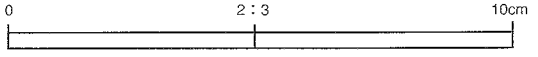
No.535
SX09
覆土
楔形
Ⅰ
頁岩



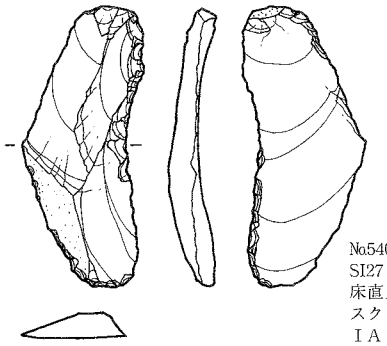
No.536
ⅠB8c
風倒木痕
楔形
Ⅰ
瑪瑙



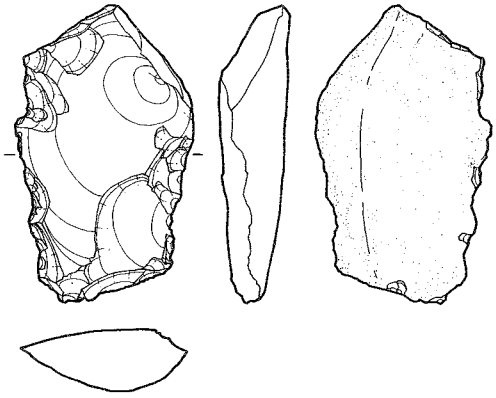
No.537
ⅡA2f
Ⅱ層
楔形
Ⅰ
赤色頁岩



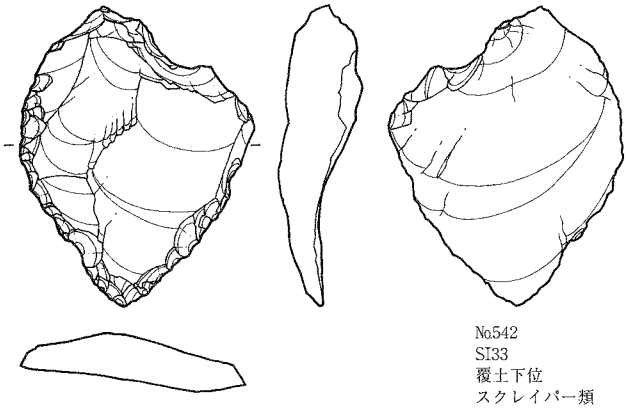
第110図　石器（6）



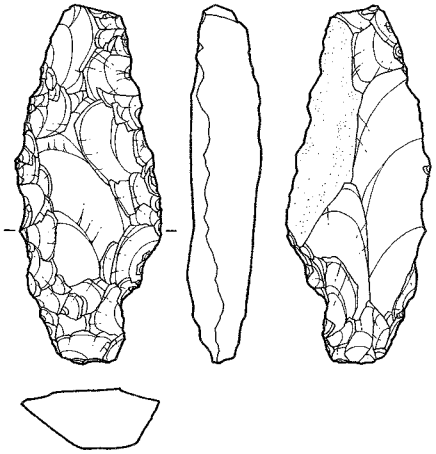
No.540
SI27
床直上
スクレイパー類
ＩＡ
頁岩



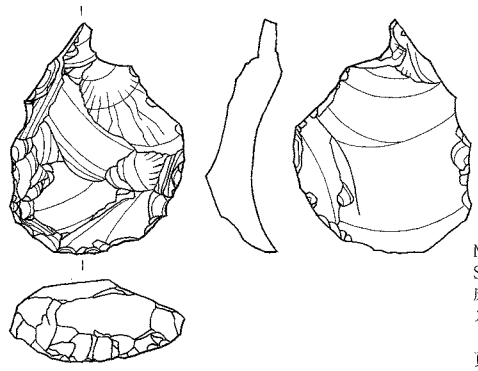
No.541
SI34
床面
スクレイパー類
ＩＡ
頁岩



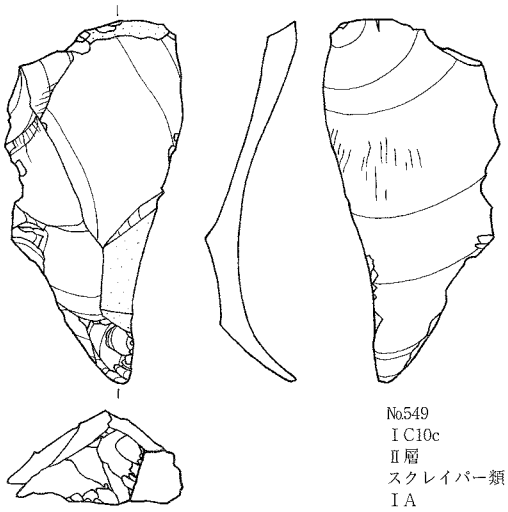
No.542
SI33
覆土下位
スクレイパー類
ＩＡ
頁岩



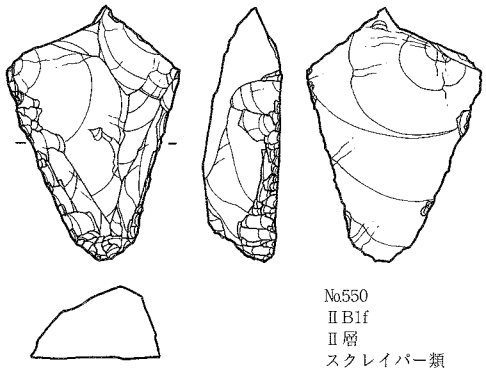
No.543
SI36
覆土
スクレイパー類
ＩＡ
頁岩



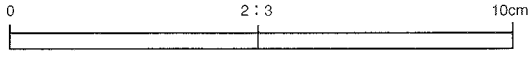
No.544
SX03
床面
スクレイパー類
ＩＡ
頁岩



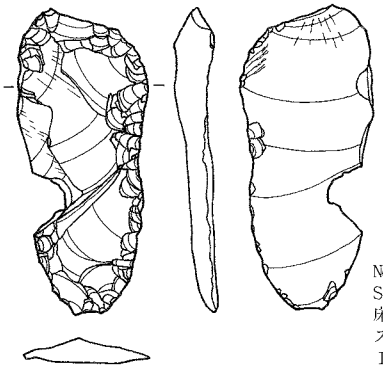
No.549
ＩC10c
Ⅱ層
スクレイパー類
ＩＡ
頁岩



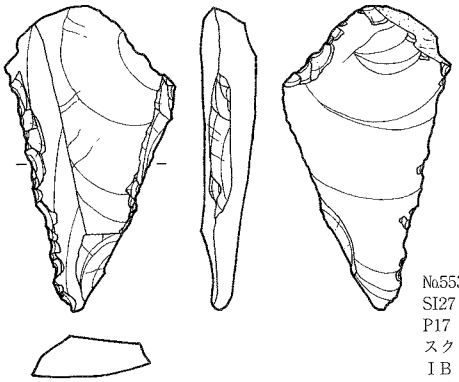
No.550
ⅡB1f
Ⅱ層
スクレイパー類
ＩＡ
頁岩



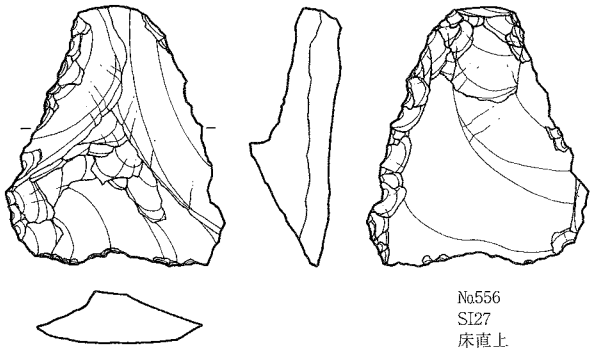
第111図　石器（7）



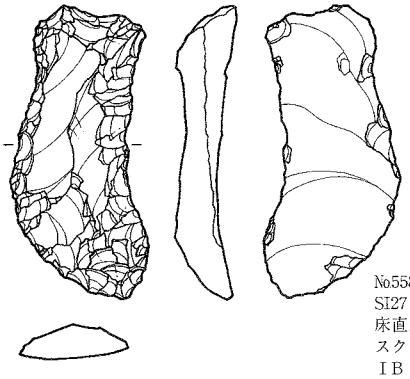
No.552
SI23
床面
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



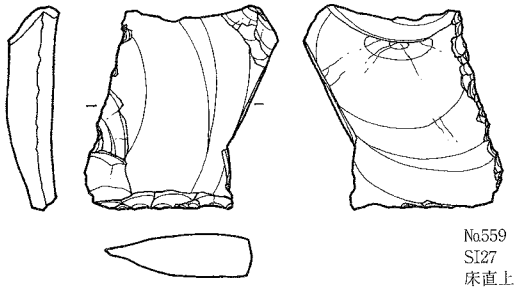
No.553
SI27
P17
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



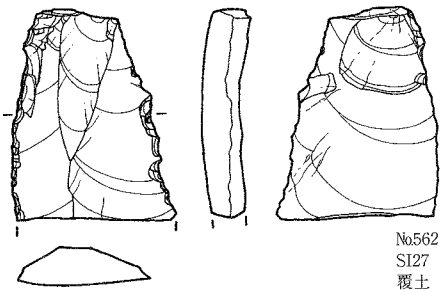
No.556
SI27
床直上
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



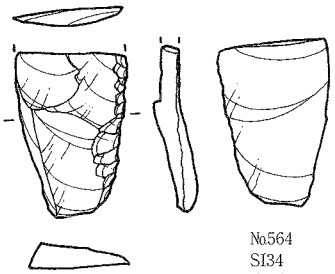
No.558
SI27
床直上
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



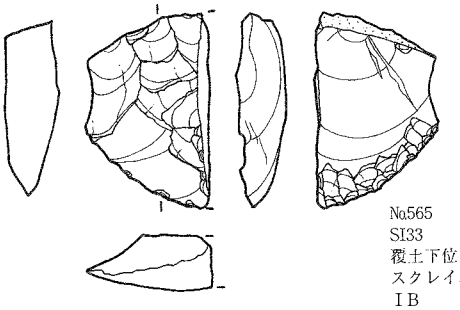
No.559
SI27
床直上
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



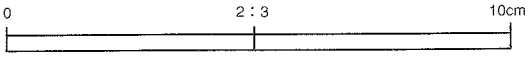
No.562
SI27
覆土
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



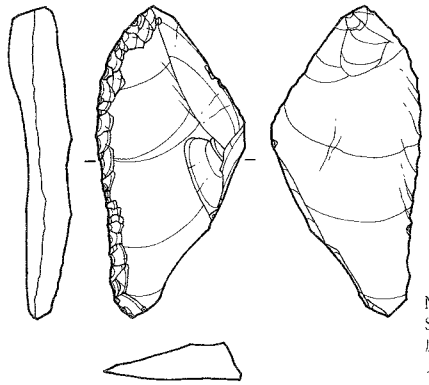
No.564
SI34
床面
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



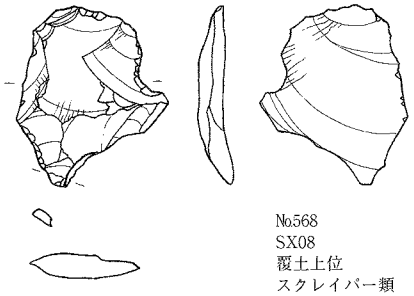
No.565
SI33
覆土下位
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



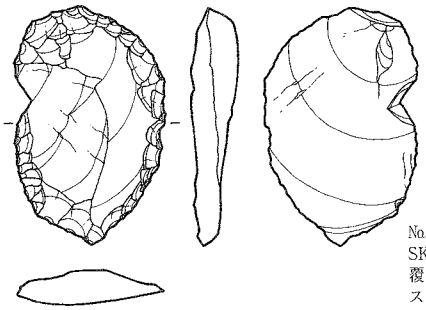
第112図　石器（8）



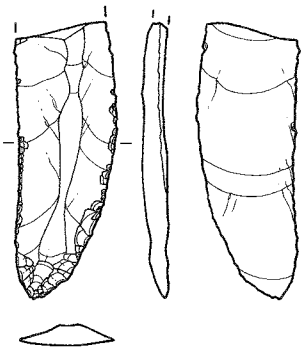
No.567
SI36
床面
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



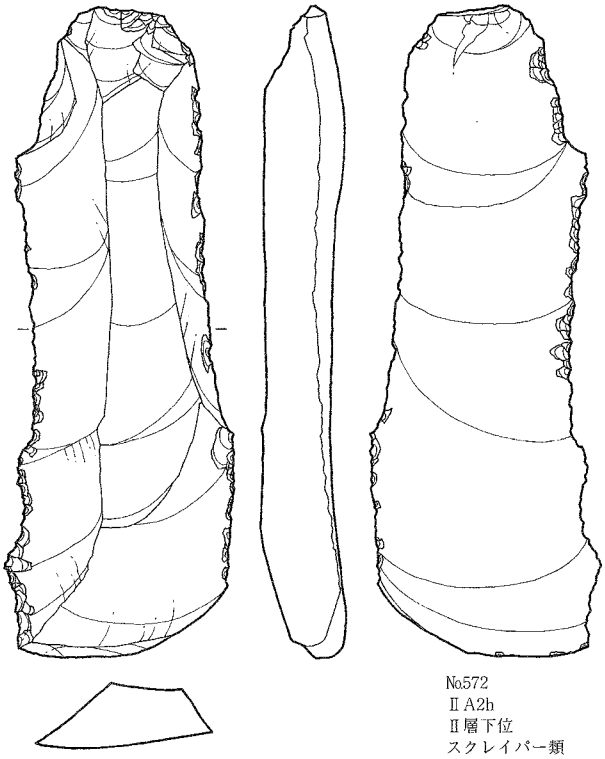
No.568
SX08
覆土上位
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



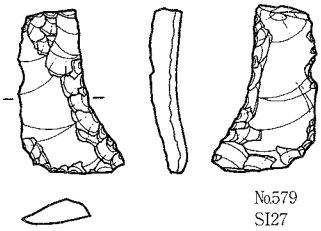
No.569
SK27
覆土
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



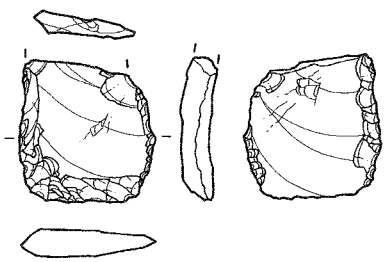
No.571
SK41
覆土
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



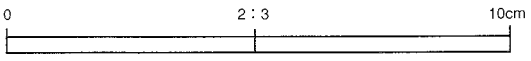
No.572
ⅡA2b
Ⅱ層下位
スクレイパー類
ＩＢ
頁岩



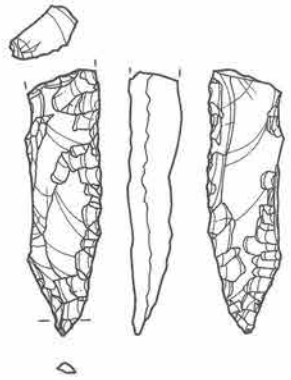
No.579
SI27
覆土
スクレイパー類
ＩＣ
頁岩



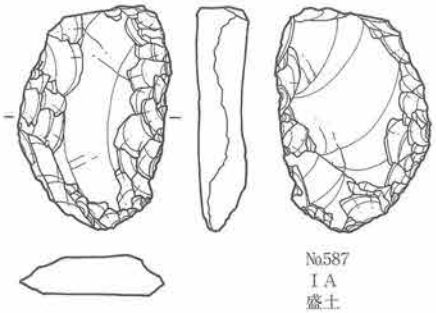
No.580
SI27
覆土
スクレイパー類
ＩＣ
頁岩



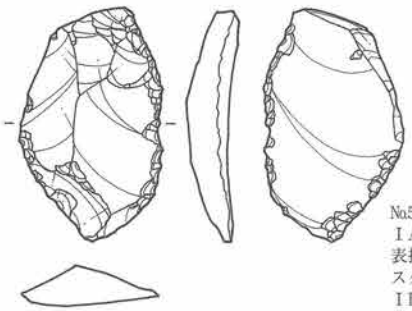
第113図　石器（9）



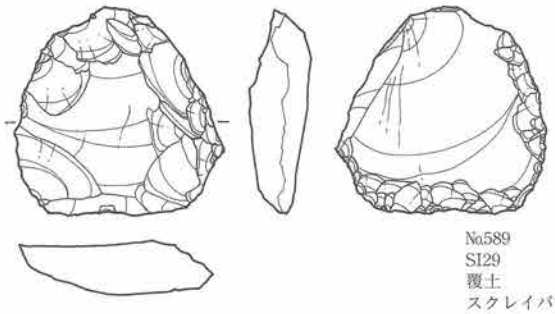
No.584
SI27
木痕
スクレイパー類
ⅠD
頁岩



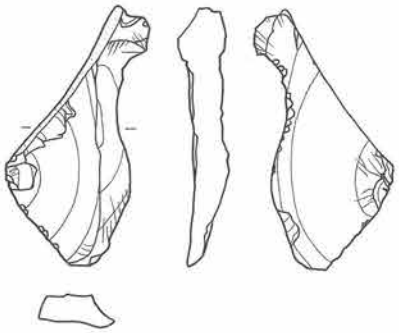
No.587
ⅠA
盛土
スクレイパー類
ⅠD
頁岩



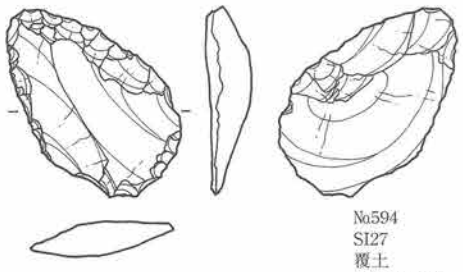
No.588
ⅠA
表採
スクレイパー類
ⅠD
頁岩



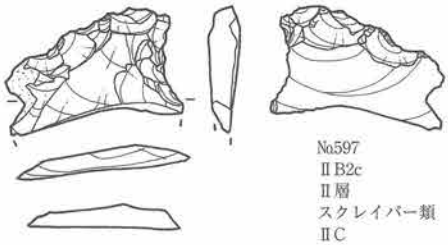
No.589
SI29
覆土
スクレイパー類
ⅡA
頁岩



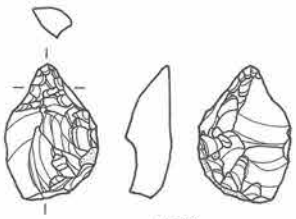
No.591
SI18
覆土
スクレイパー類
ⅡB
頁岩



No.594
SI27
覆土
スクレイパー類
ⅡB
頁岩

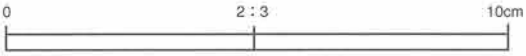


No.597
ⅡB2c
Ⅱ層
スクレイパー類
ⅡC
頁岩

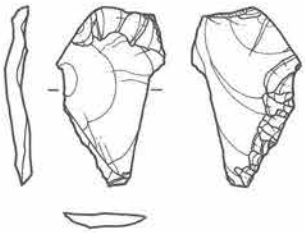


No.599
SI06
床面
二次加工
ⅠA
赤色頁岩

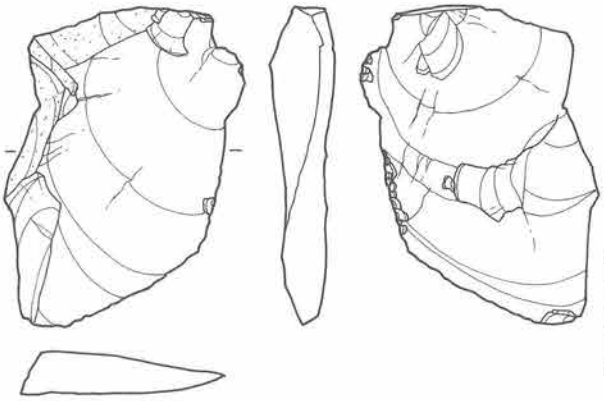
No.601
SI27
床直上
二次加工
ⅠA
頁岩



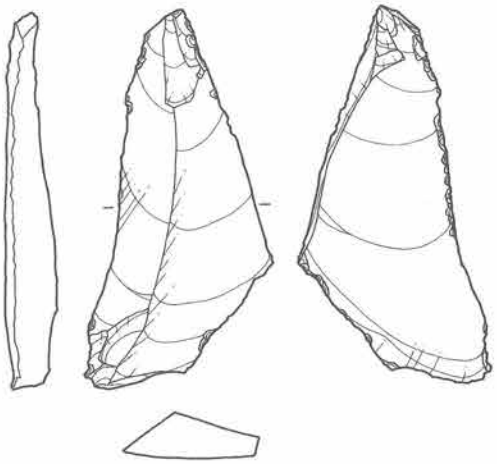
第114図　石器（10）



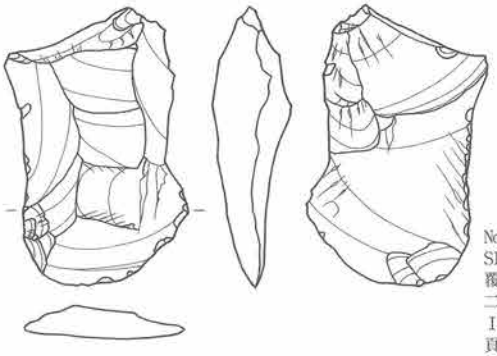
№602
SI27
二次加工
ＩＡ
頁岩



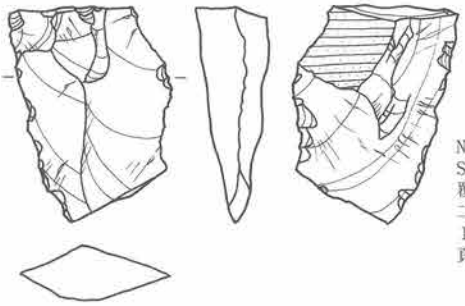
№603
SI34
床面
二次加工
ＩＡ
頁岩



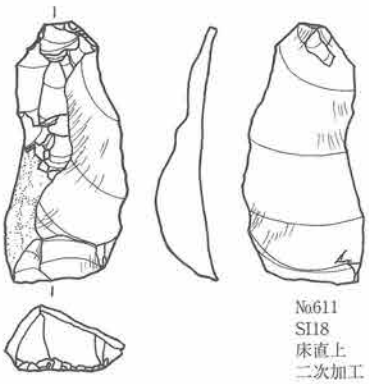
№607
ⅡB2d
Ⅱ層
二次加工
ＩＡ
頁岩



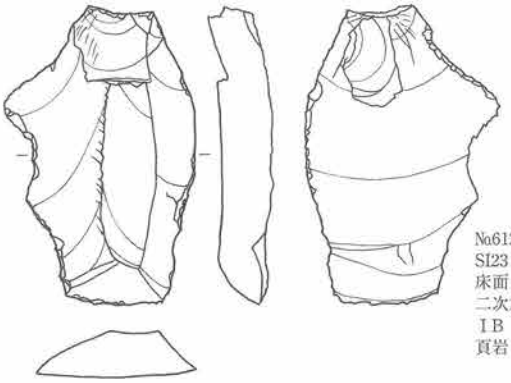
№609
SI11
覆土
二次加工
ＩＢ
頁岩



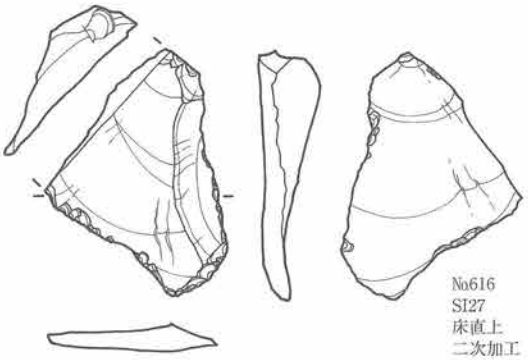
№610
SI16
覆土
二次加工
ＩＢ
頁岩



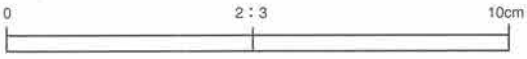
№611
SI18
床直上
二次加工
ＩＢ
頁岩



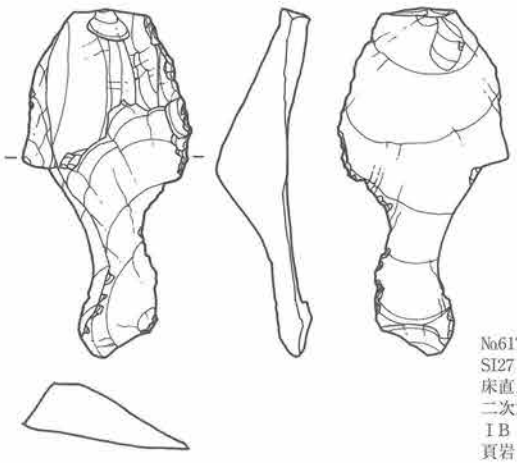
№612
SI23
床面
二次加工
ＩＢ
頁岩



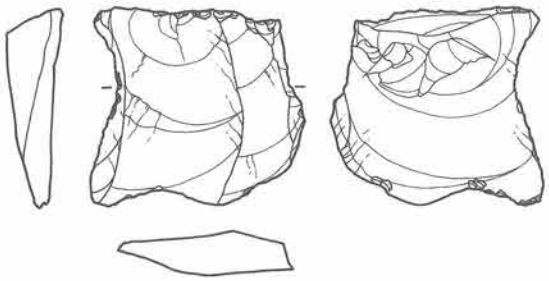
№616
SI27
床直上
二次加工
ＩＢ
頁岩



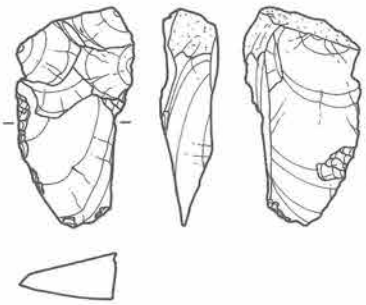
第115図　石器（11）



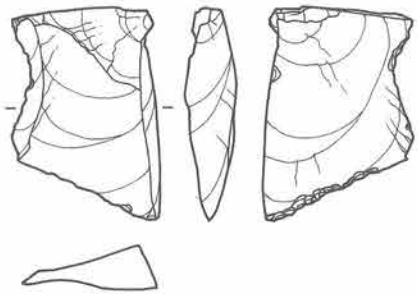
No617
SI27
床直上
二次加工
ⅠB
頁岩



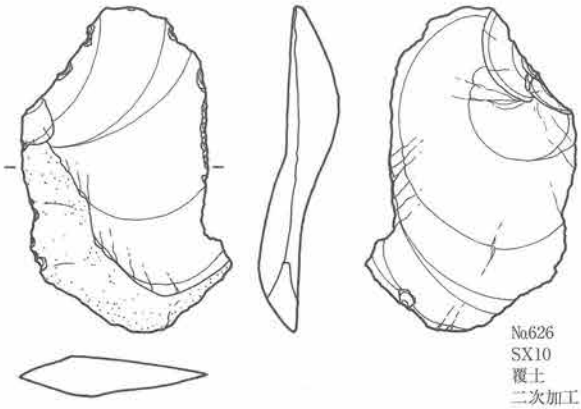
No621
SI34
床面
二次加工
ⅠB
頁岩



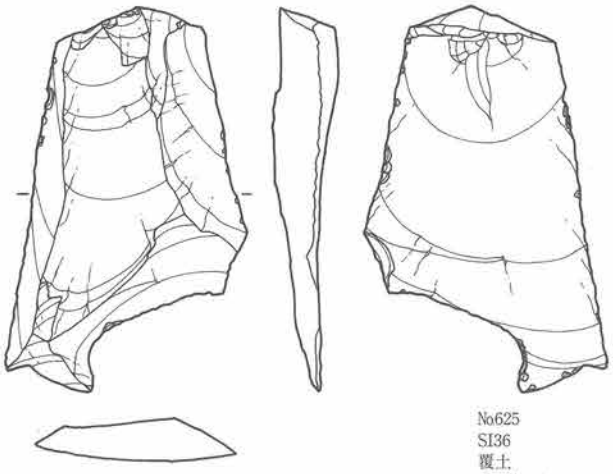
No624
SI36
覆土
二次加工
ⅠB
頁岩



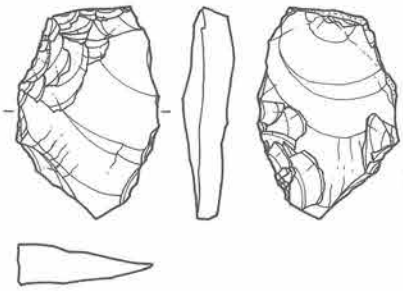
No622
SI33
覆土下位
二次加工
ⅠB
頁岩



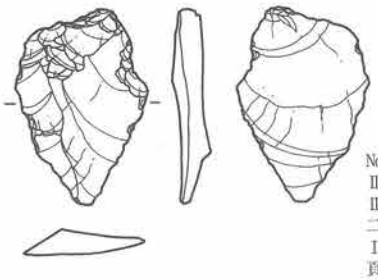
No626
SX10
覆土
二次加工
ⅠB
頁岩



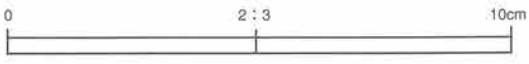
No625
SI36
覆土
二次加工
ⅠB
頁岩



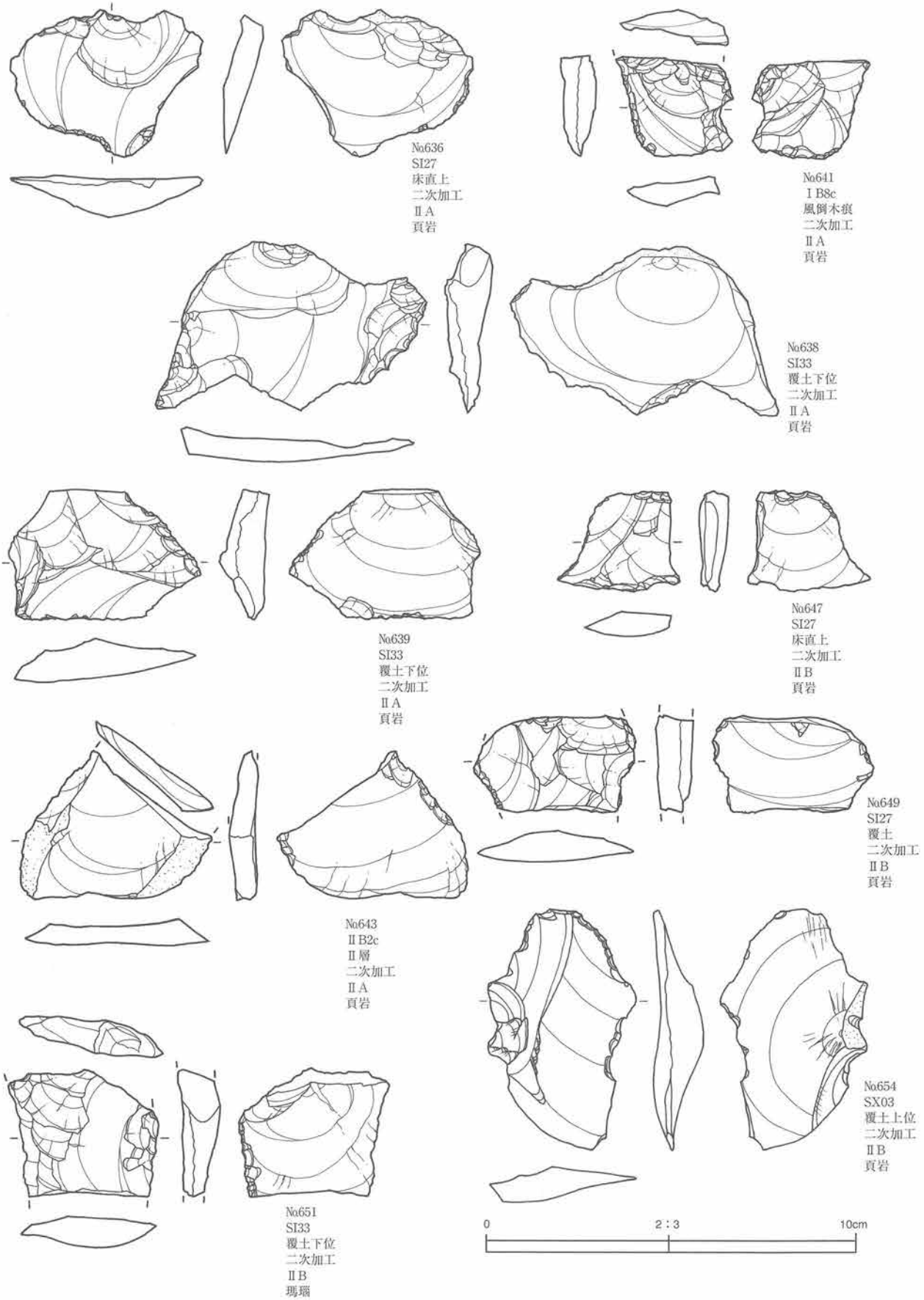
No630
ⅡB2c
Ⅱ層
二次加工
ⅠB
頁岩



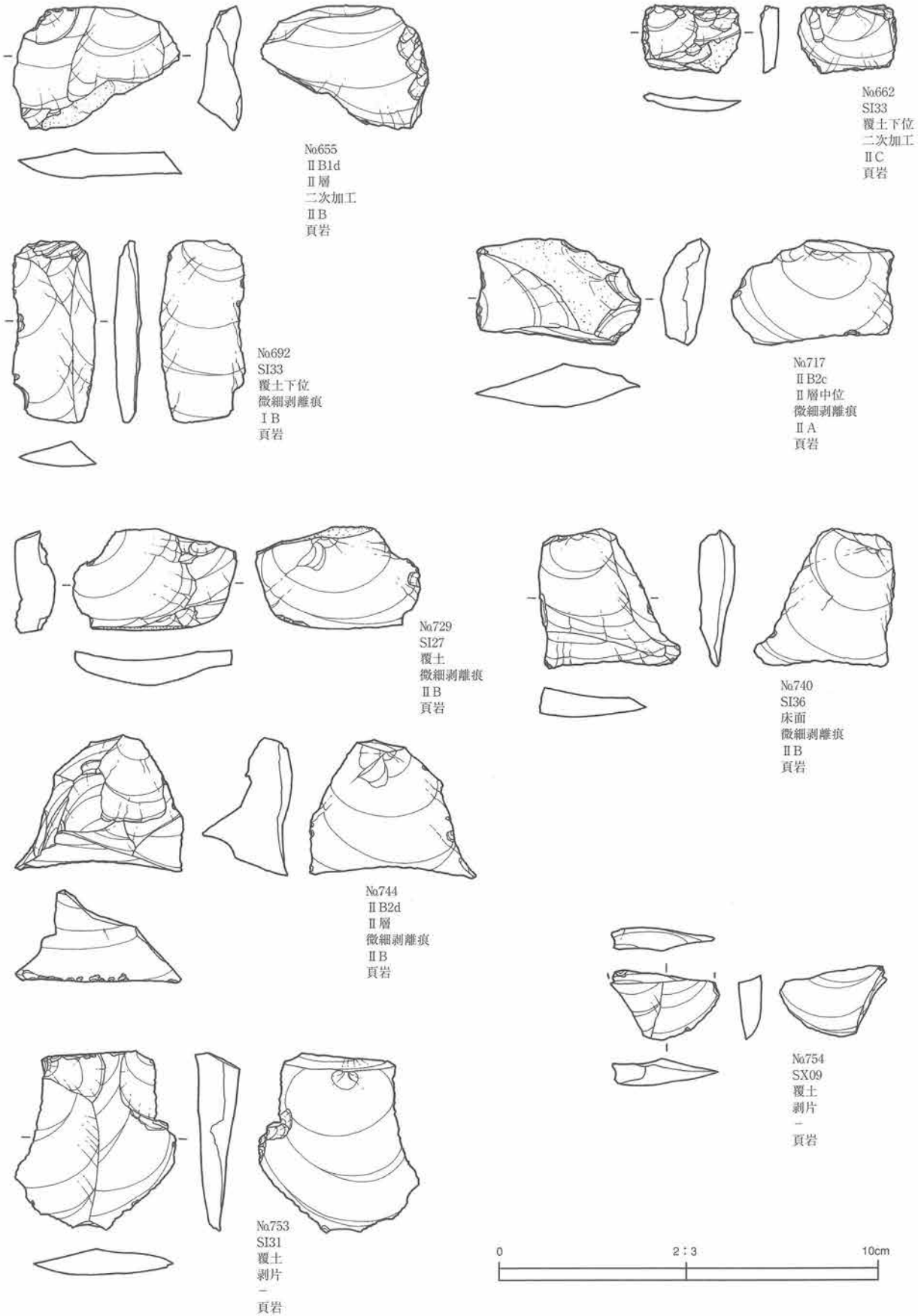
No627
ⅡB1e
Ⅱ層
二次加工
ⅠB
頁岩



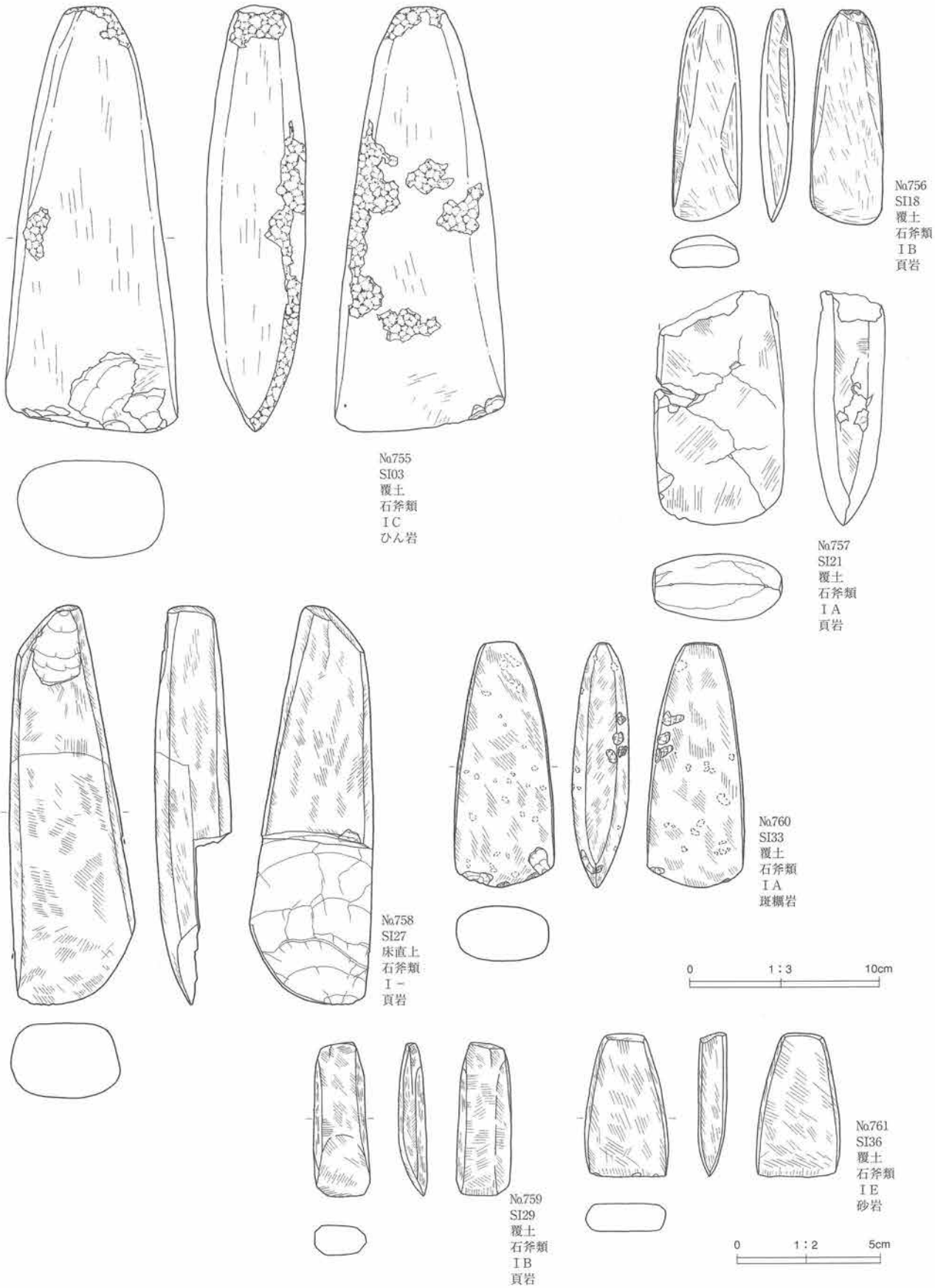
第116図　石器（12）


№636
SI27
床直上
二次加工
ⅡA
頁岩
№641
ⅠB8c
風倒木痕
二次加工
ⅡA
頁岩
№638
SI33
覆土下位
二次加工
ⅡA
頁岩
№639
SI33
覆土下位
二次加工
ⅡA
頁岩
№647
SI27
床直上
二次加工
ⅡB
頁岩
№649
SI27
覆土
二次加工
ⅡB
頁岩
№643
ⅡB2c
Ⅱ層
二次加工
ⅡA
頁岩
№654
SX03
覆土上位
二次加工
ⅡB
頁岩
№651
SI33
覆土下位
二次加工
ⅡB
瑪瑙
0
2：3
10cm

第117図　石器（13）

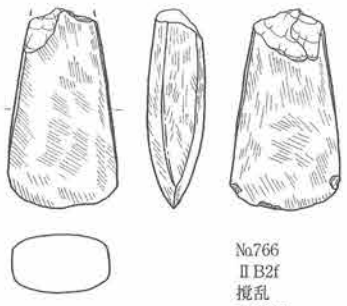

No.655
ⅡB1d
Ⅱ層
二次加工
ⅡB
頁岩
No.662
SI33
覆土下位
二次加工
ⅡC
頁岩
No.692
SI33
覆土下位
微細剥離痕
ⅠB
頁岩
No.717
ⅡB2c
Ⅱ層中位
微細剥離痕
ⅡA
頁岩
No.729
SI27
覆土
微細剥離痕
ⅡB
頁岩
No.740
SI36
床面
微細剥離痕
ⅡB
頁岩
No.744
ⅡB2d
Ⅱ層
微細剥離痕
ⅡB
頁岩
No.754
SX09
覆土
剥片
－
頁岩
No.753
SI31
覆土
剥片
－
頁岩
0
2：3
10cm

第118図　石器（14）

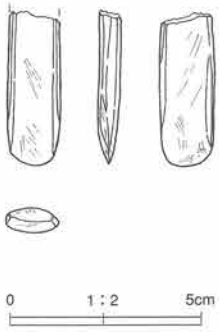

№755
SI03
覆土
石斧類
ⅠC
ひん岩
№756
SI18
覆土
石斧類
ⅠB
頁岩
№757
SI21
覆土
石斧類
ⅠA
頁岩
№758
SI27
床直上
石斧類
Ⅰ－
頁岩
№759
SI29
覆土
石斧類
ⅠB
頁岩
№760
SI33
覆土
石斧類
ⅠA
斑糲岩
0 1：3 10cm
№761
SI36
覆土
石斧類
ⅠE
砂岩
0 1：2 5cm

第119図　石器（15）

№763
SX04
覆土
石斧類
ⅠA
頁岩

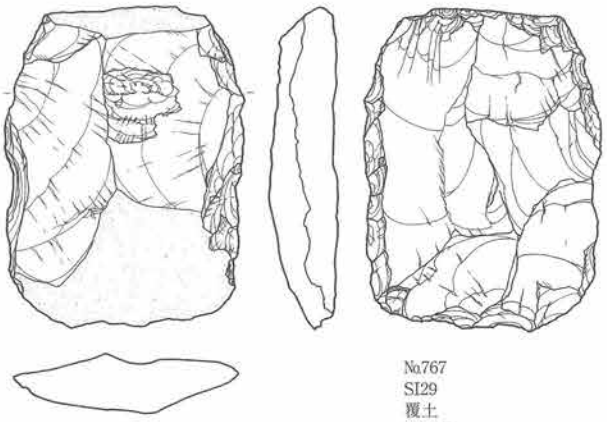


№766
ⅡB2f
撹乱
石斧類
ⅠA
角閃玢岩

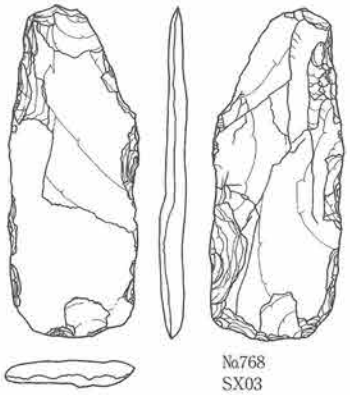


№762
SK20
覆土上位
石斧類
ⅠA
頁岩

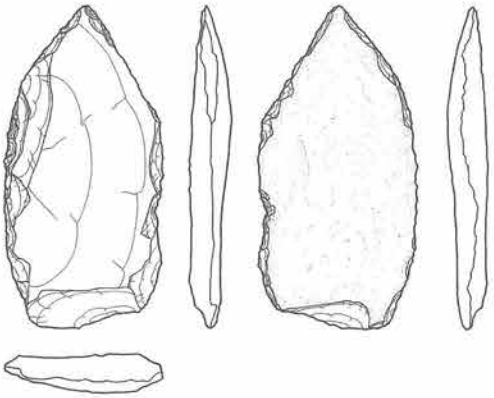
0　1：2　5cm



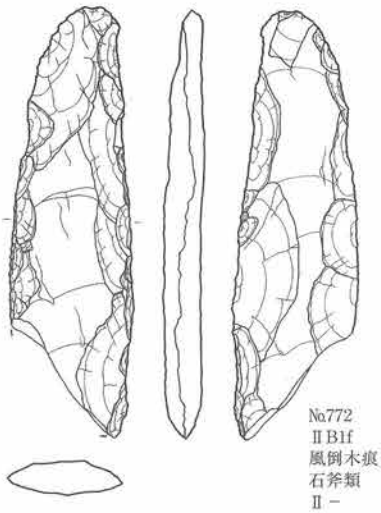
№767
SI29
覆土
石斧類
ⅡF
頁岩



№768
SX03
床面
石斧類
ⅡB
頁岩



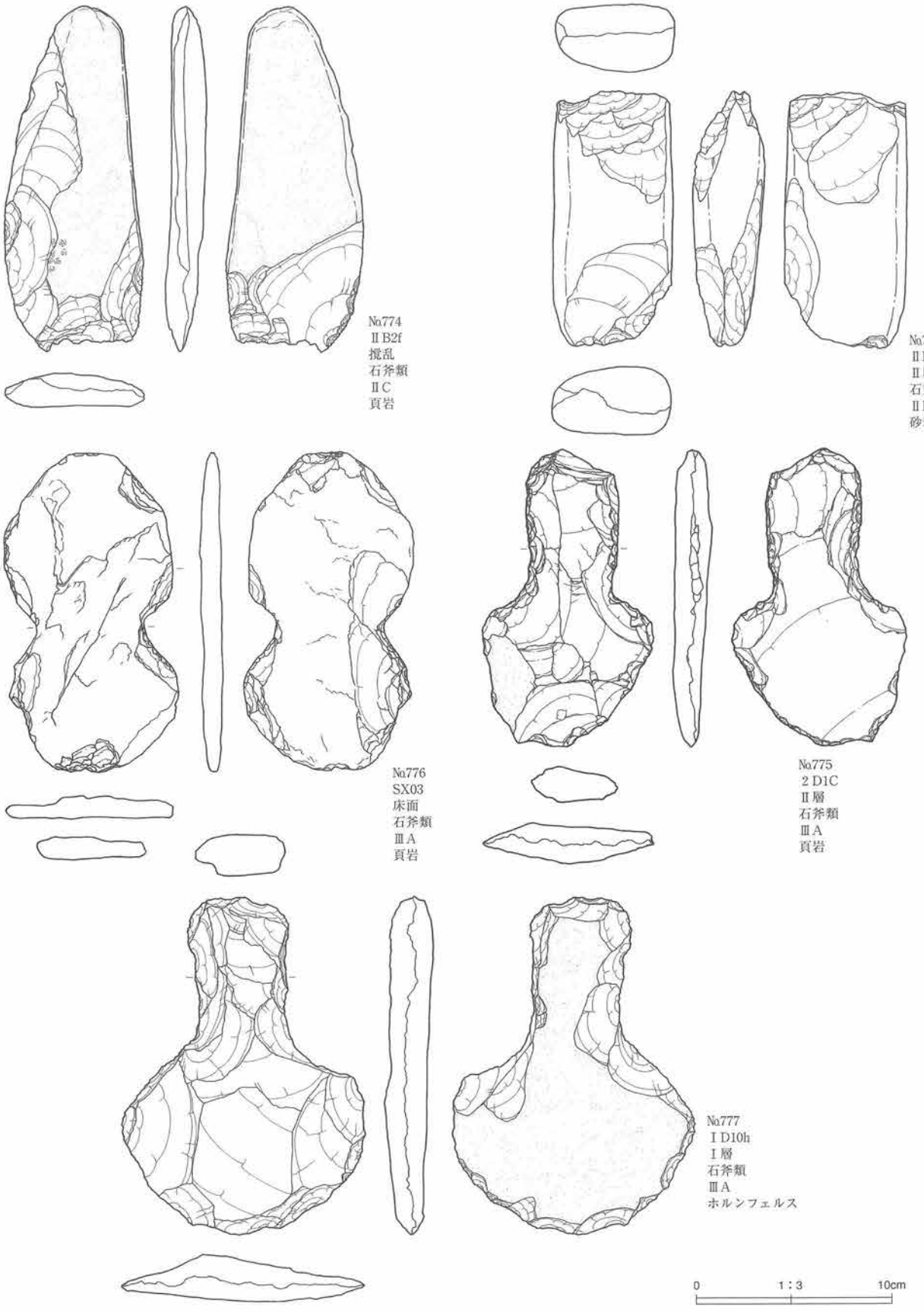
№770
SX09
覆土
石斧類
ⅡC
頁岩



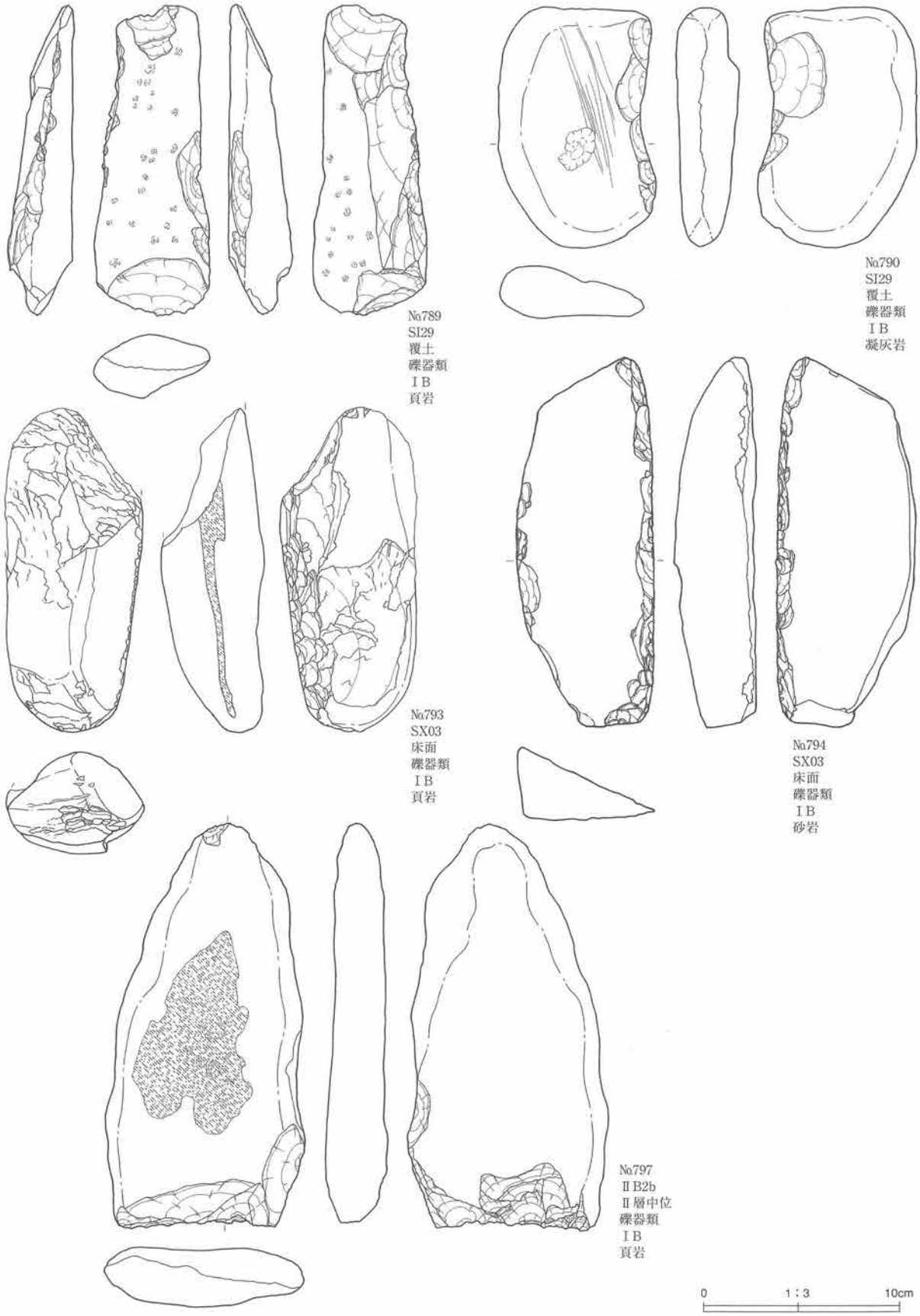
№772
ⅡB1f
風倒木痕
石斧類
Ⅱ－
頁岩

0　1：3　10cm

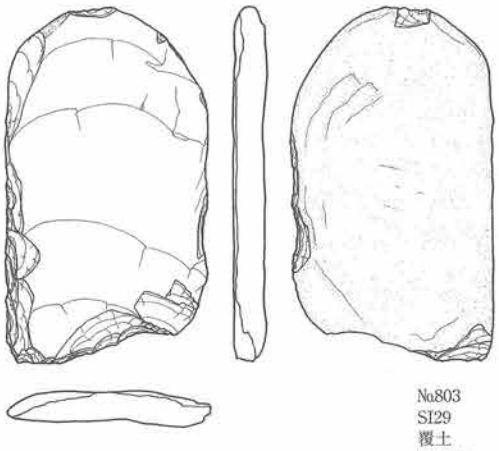
第120図　石器（16）


№774
ⅡB2f
撹乱
石斧類
ⅡC
頁岩
№773
ⅡB2b
Ⅱ層
石斧類
ⅡD
砂岩
№776
SX03
床面
石斧類
ⅢA
頁岩
№775
2D1C
Ⅱ層
石斧類
ⅢA
頁岩
№777
ⅠD10h
Ⅰ層
石斧類
ⅢA
ホルンフェルス
0
1：3
10cm

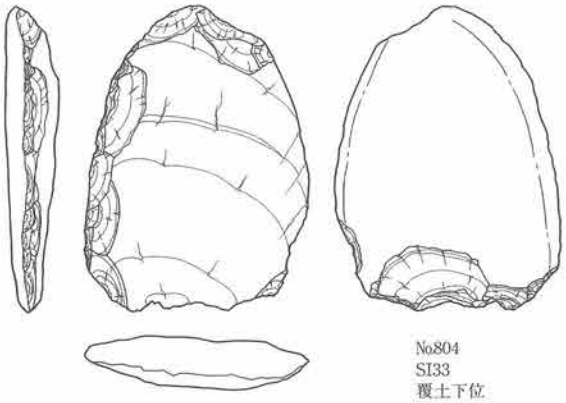
第121図　石器（17）


No.789
SI29
覆土
礫器類
ⅠB
頁岩
No.790
SI29
覆土
礫器類
ⅠB
凝灰岩
No.793
SX03
床面
礫器類
ⅠB
頁岩
No.794
SX03
床面
礫器類
ⅠB
砂岩
No.797
ⅡB2b
Ⅱ層中位
礫器類
ⅠB
頁岩
0
1：3
10cm

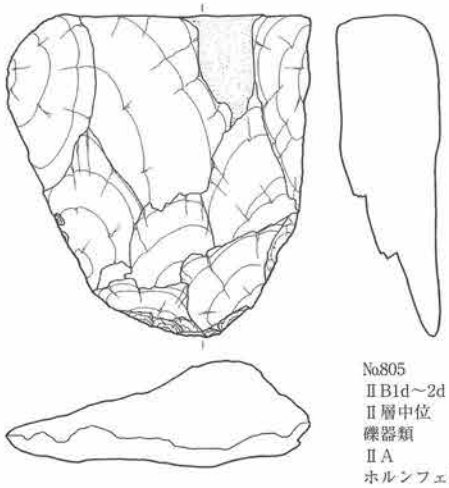
第122図　石器（18）



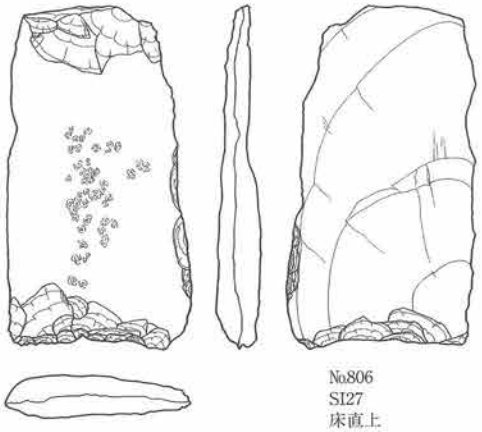
No.803
SI29
覆土
礫器類
ⅡA
頁岩



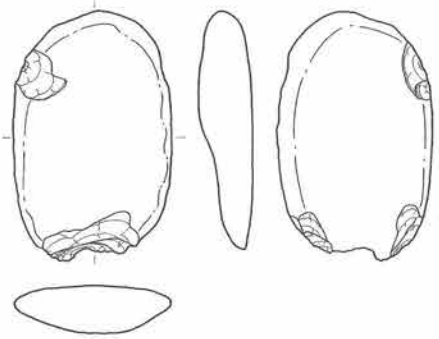
No.804
SI33
覆土下位
礫器類
ⅡA
頁岩



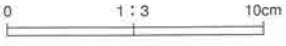
No.805
ⅡB1d～2d
Ⅱ層中位
礫器類
ⅡA
ホルンフェルス



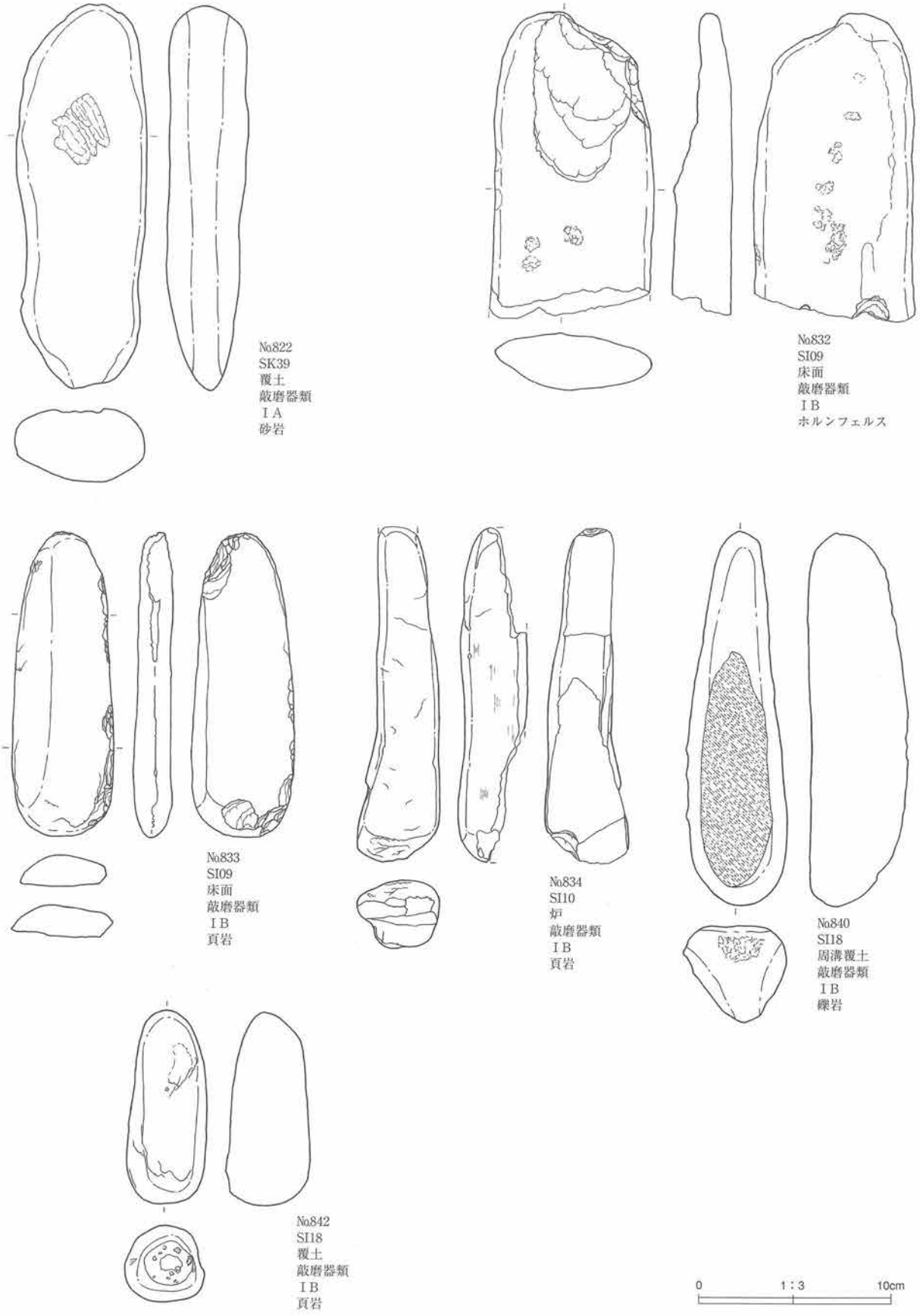
No.806
SI27
床直上
礫器類
ⅡB
頁岩



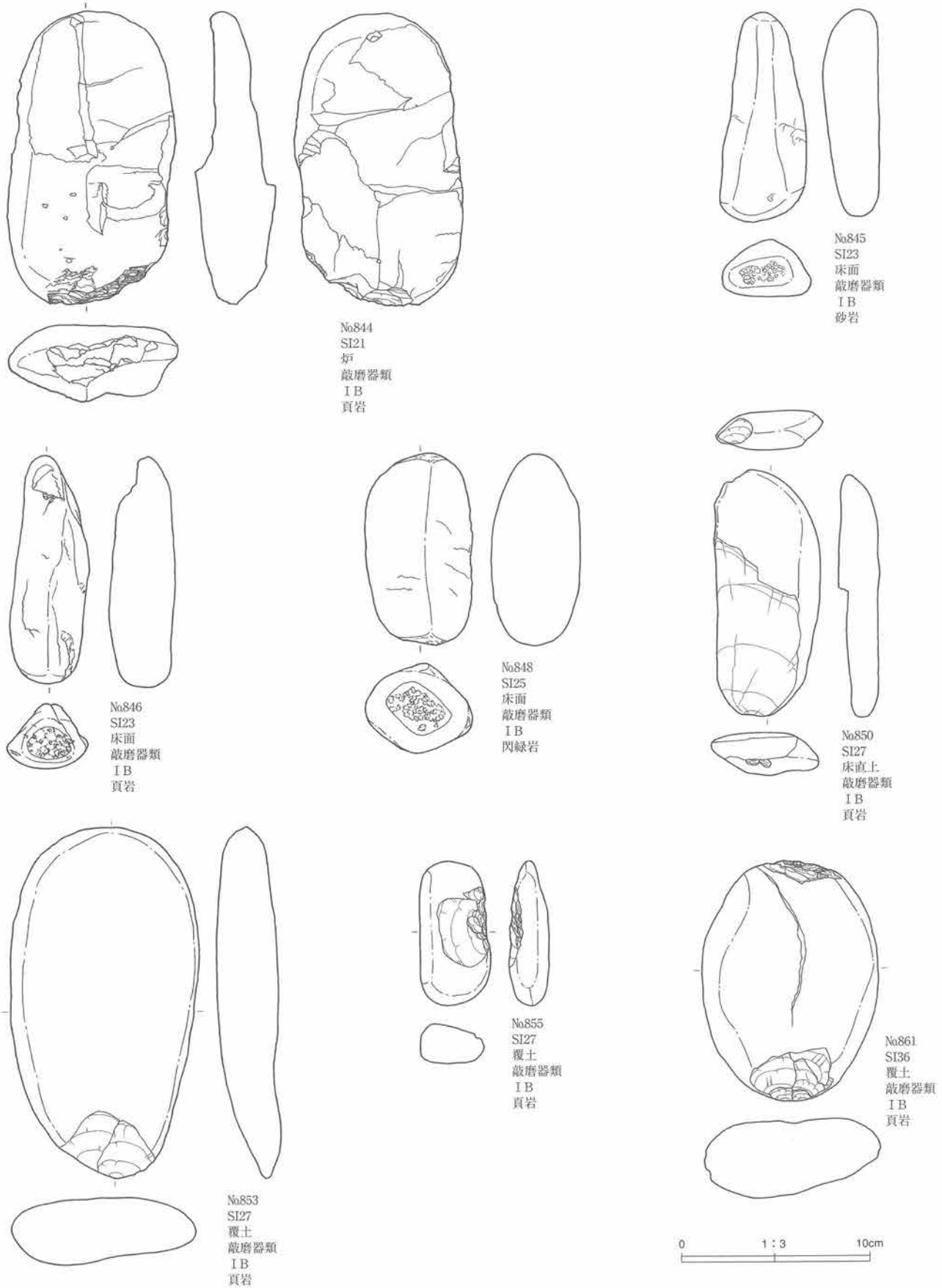
No.812
SI27
床直上
礫器類
ⅠB
頁岩



第123図　石器（19）

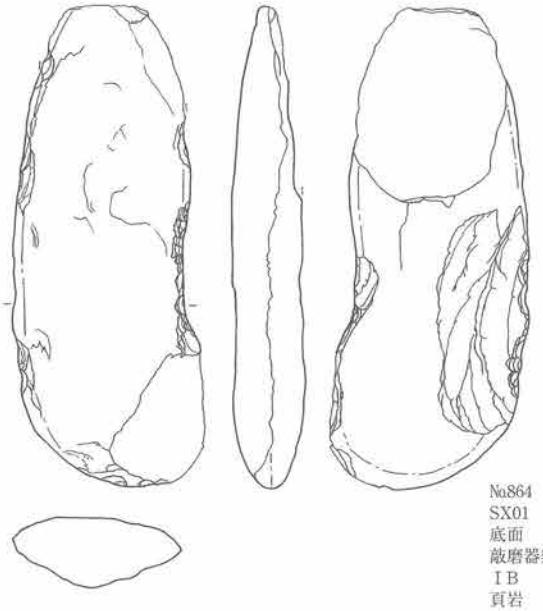

No.822
SK39
覆土
敲磨器類
ＩＡ
砂岩
No.832
SI09
床面
敲磨器類
ＩＢ
ホルンフェルス
No.833
SI09
床面
敲磨器類
ＩＢ
頁岩
No.834
SI10
炉
敲磨器類
ＩＢ
頁岩
No.840
SI18
周溝覆土
敲磨器類
ＩＢ
礫岩
No.842
SI18
覆土
敲磨器類
ＩＢ
頁岩
0
1：3
10cm

第124図　石器（20）

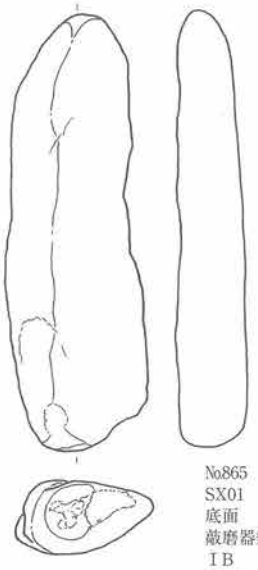

No.844
SI21
炉
敲磨器類
ＩＢ
頁岩
No.845
SI23
床面
敲磨器類
ＩＢ
砂岩
No.846
SI23
床面
敲磨器類
ＩＢ
頁岩
No.848
SI25
床面
敲磨器類
ＩＢ
閃緑岩
No.850
SI27
床直上
敲磨器類
ＩＢ
頁岩
No.853
SI27
覆土
敲磨器類
ＩＢ
頁岩
No.855
SI27
覆土
敲磨器類
ＩＢ
頁岩
No.861
SI36
覆土
敲磨器類
ＩＢ
頁岩
0
1：3
10cm

第125図　石器（21）

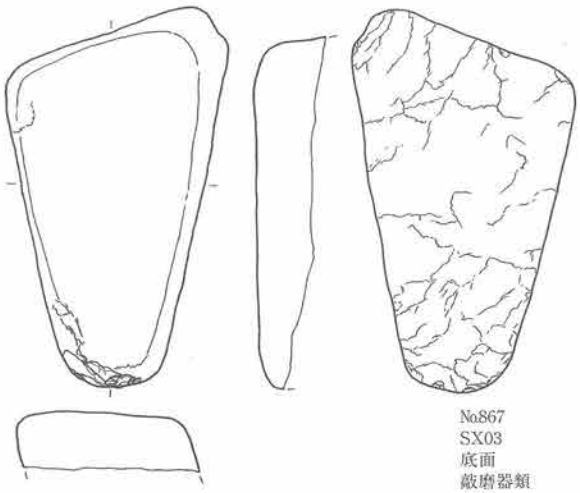
No.862
SI37
覆土
敲磨器類
ⅠB
砂岩



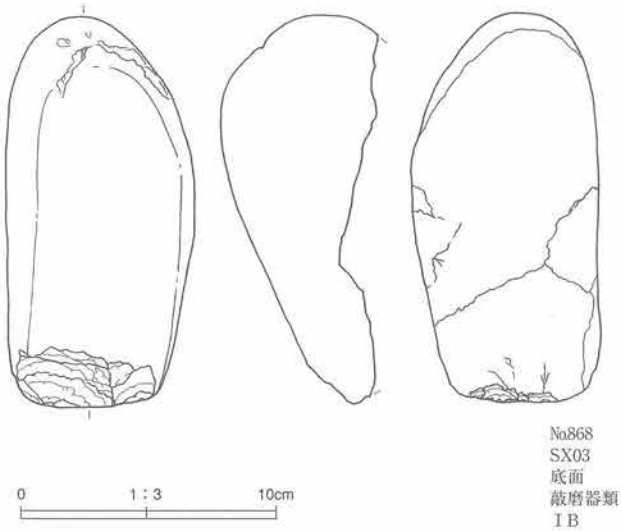
No.864
SX01
底面
敲磨器類
ⅠB
頁岩



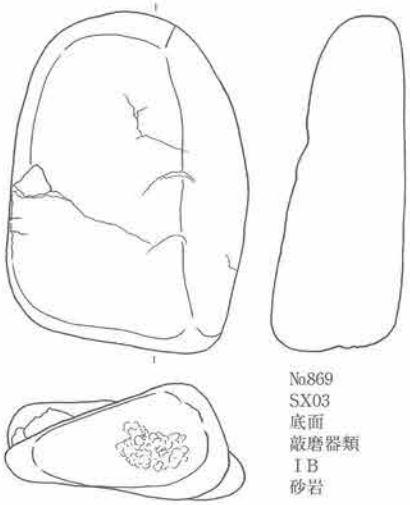
No.865
SX01
底面
敲磨器類
ⅠB
砂岩



No.867
SX03
底面
敲磨器類
ⅠB
頁岩

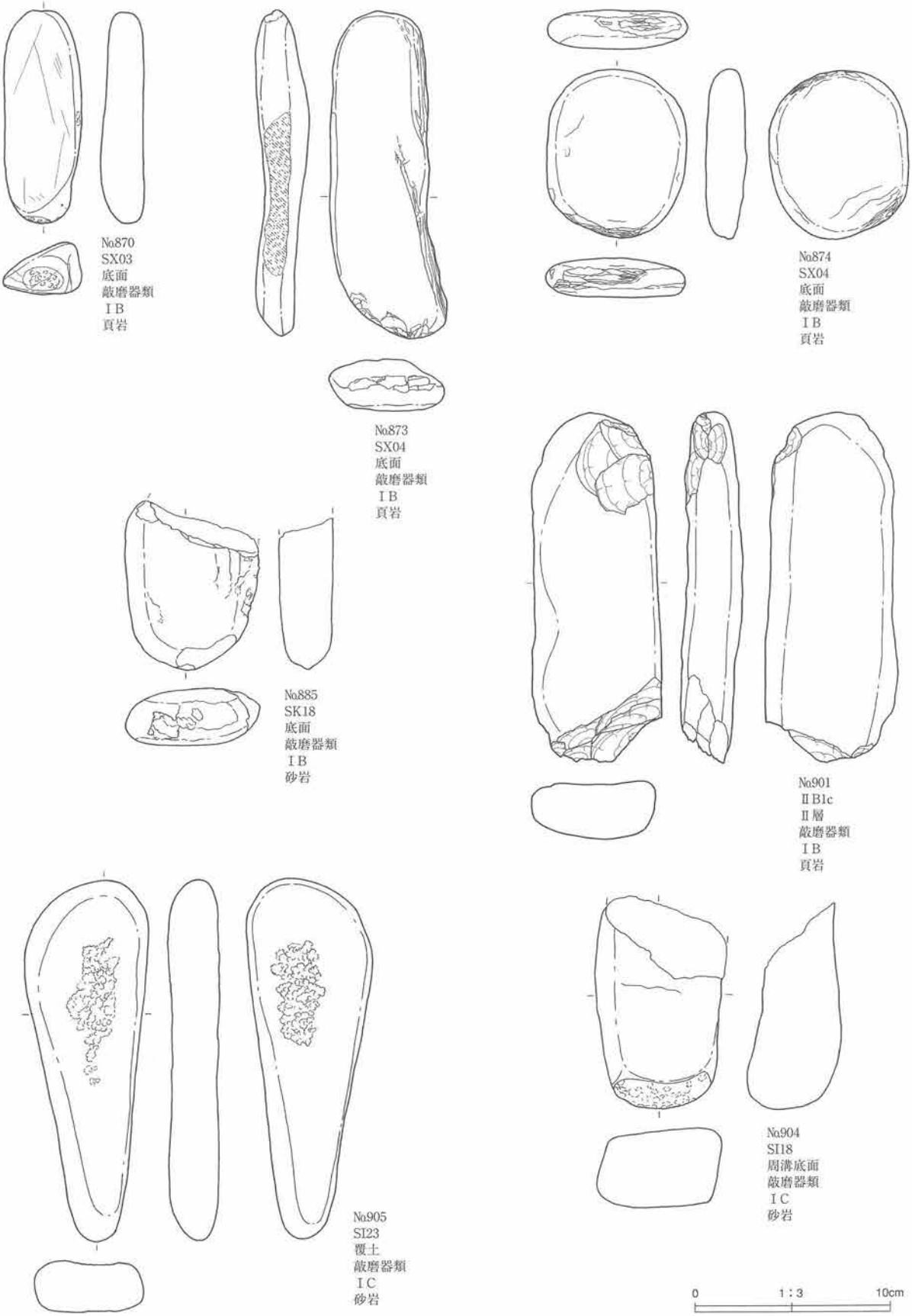


No.868
SX03
底面
敲磨器類
ⅠB
砂岩

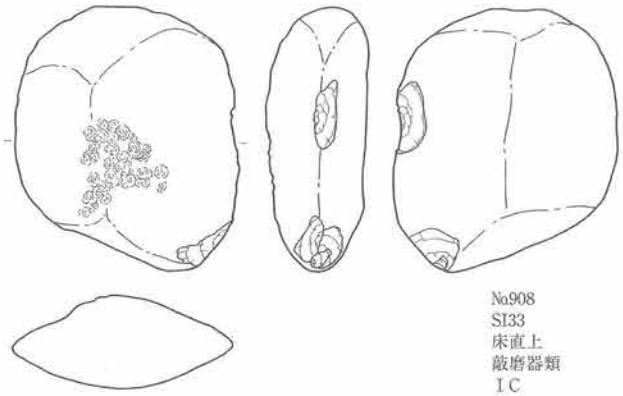


No.869
SX03
底面
敲磨器類
ⅠB
砂岩

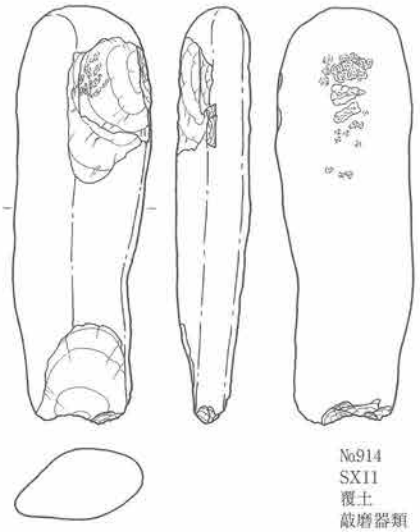
第126図　石器（22）


No.870
SX03
底面
敲磨器類
ⅠB
頁岩
No.873
SX04
底面
敲磨器類
ⅠB
頁岩
No.874
SX04
底面
敲磨器類
ⅠB
頁岩
No.885
SK18
底面
敲磨器類
ⅠB
砂岩
No.901
ⅡB1c
Ⅱ層
敲磨器類
ⅠB
頁岩
No.904
SI18
周溝底面
敲磨器類
ⅠC
砂岩
No.905
SI23
覆土
敲磨器類
ⅠC
砂岩
0
1：3
10cm

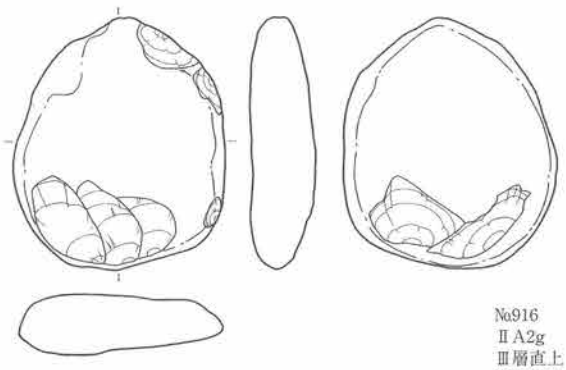
第127図　石器（23）



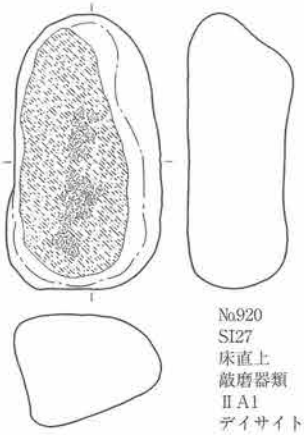
№908
SI33
床直上
敲磨器類
ⅠC
砂岩



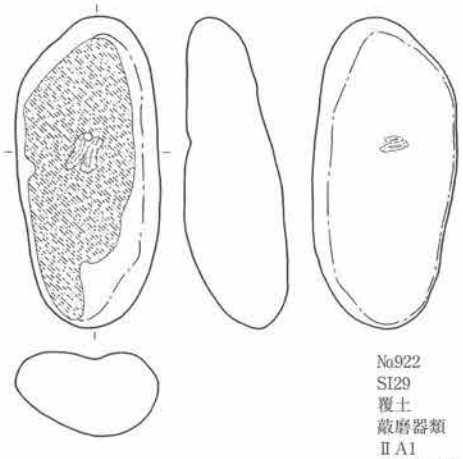
№914
SXI1
覆土
敲磨器類
ⅠC
頁岩



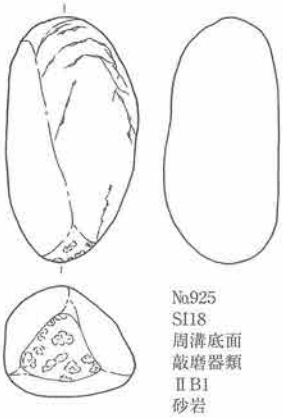
№916
ⅡA2g
Ⅲ層直上
敲磨器類
ⅠC
頁岩



№920
SI27
床直上
敲磨器類
ⅡA1
デイサイト

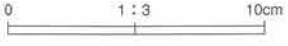


№922
SI29
覆土
敲磨器類
ⅡA1
デイサイト

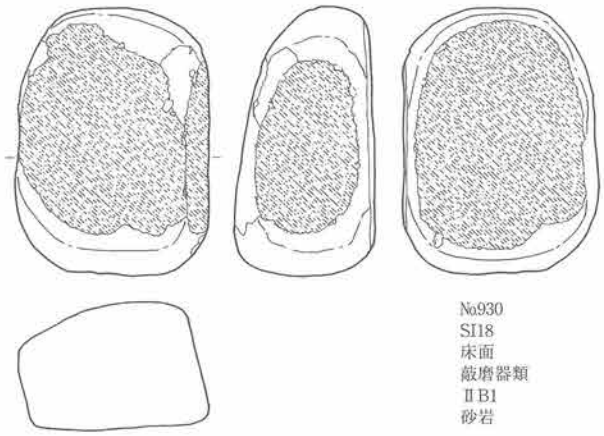


№925
SI18
周溝底面
敲磨器類
ⅡB1
砂岩

№929
SI18
床直上
敲磨器類
ⅡB1
砂岩

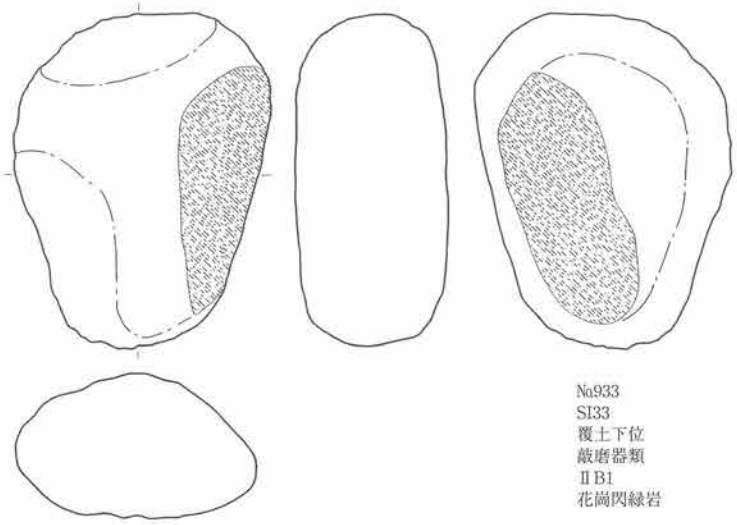


第128図　石器（24）

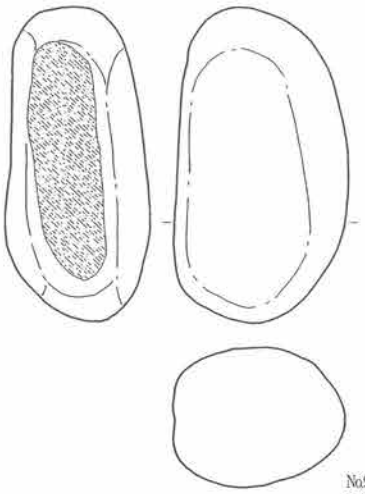


№930
SI18
床面
敲磨器類
ⅡB1
砂岩

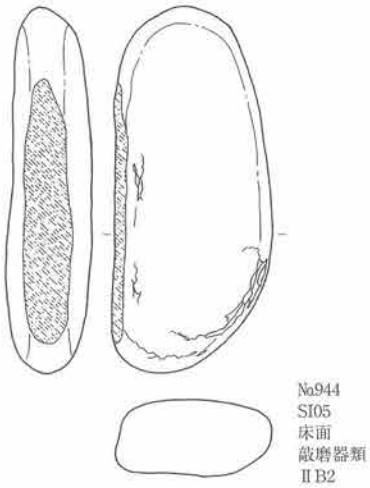
№931
SI18
床直上
敲磨器類
ⅡB1
砂岩



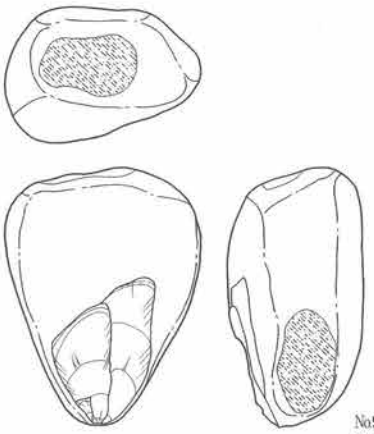
№933
SI33
覆土下位
敲磨器類
ⅡB1
花崗閃緑岩



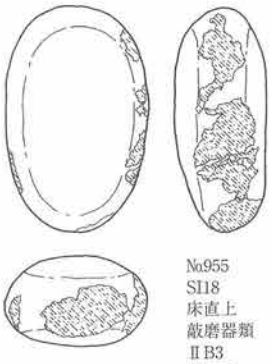
№935
SX04
底面
敲磨器類
ⅡB1
砂岩



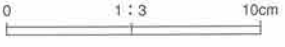
№944
SI05
床面
敲磨器類
ⅡB2
頁岩



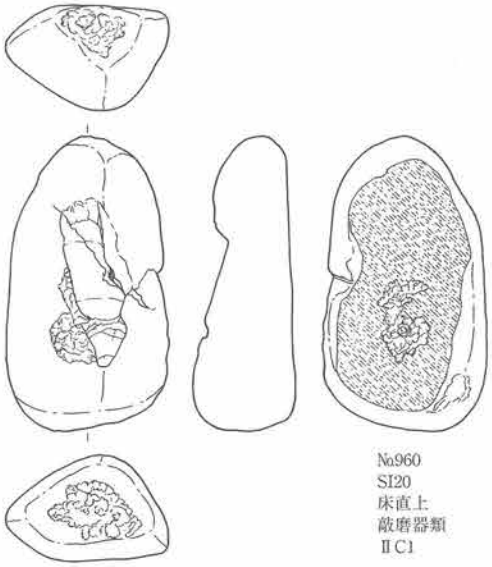
№945
SI27
床直上
敲磨器類
ⅡB2
頁岩



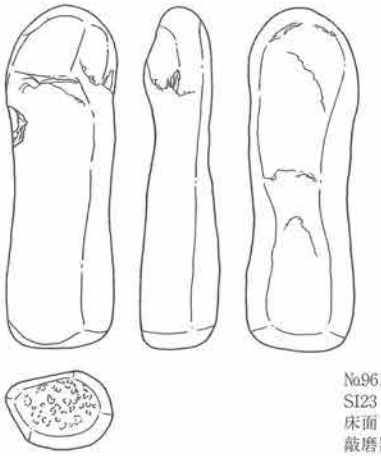
№955
SI18
床直上
敲磨器類
ⅡB3
凝灰岩



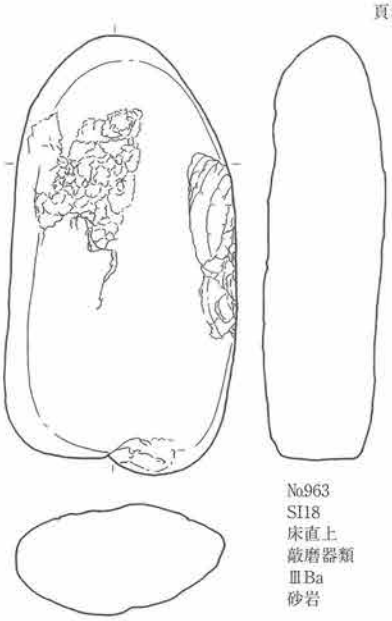
第129図　石器（25）



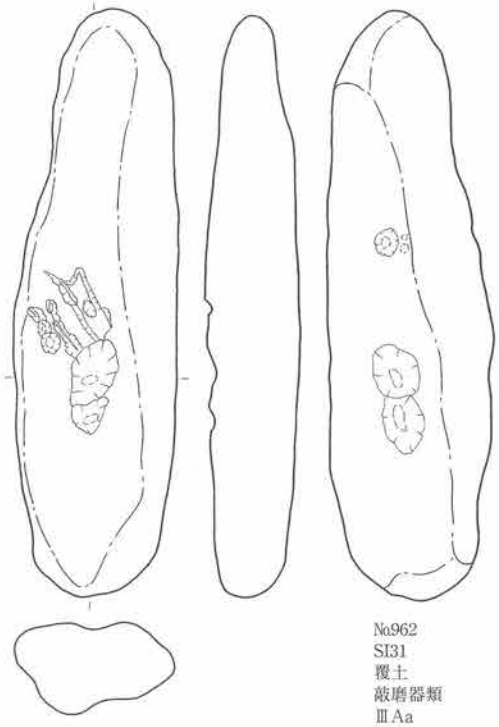
No.960
SI20
床直上
敲磨器類
ⅡC1



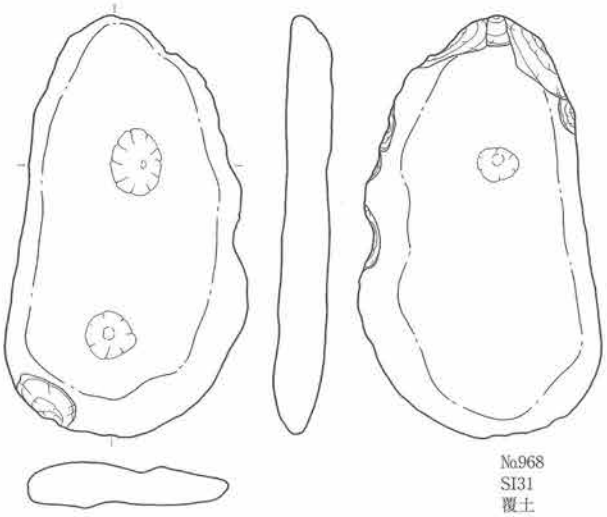
No.961
SI23
床面
敲磨器類
ⅡC1
頁岩



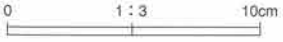
No.963
SI18
床直上
敲磨器類
ⅢBa
砂岩



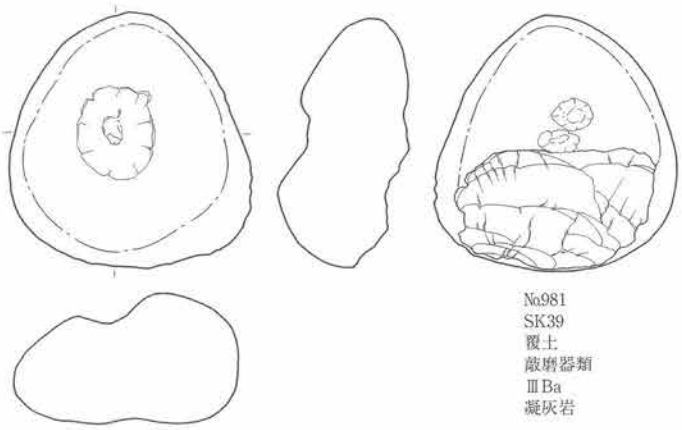
No.962
SI31
覆土
敲磨器類
ⅢAa
頁岩



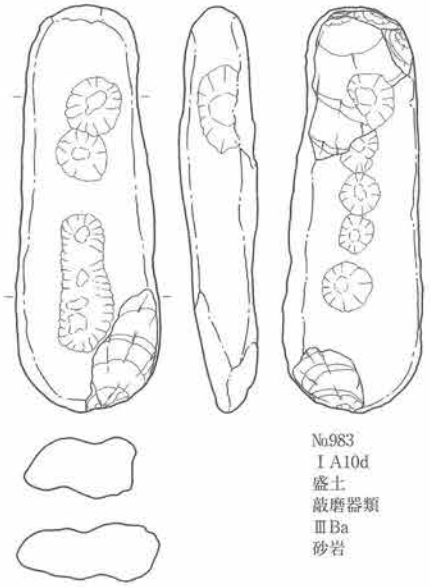
No.968
SI31
覆土
敲磨器類
ⅢBa
頁岩



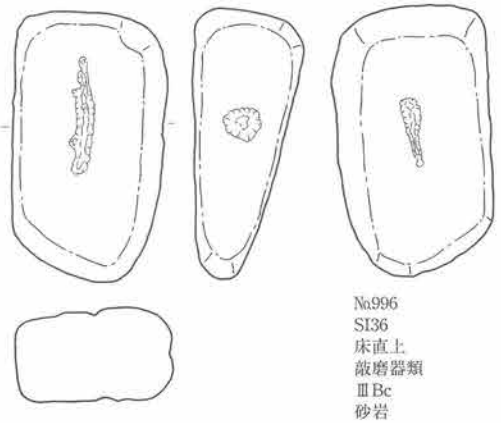
第130図　石器（26）



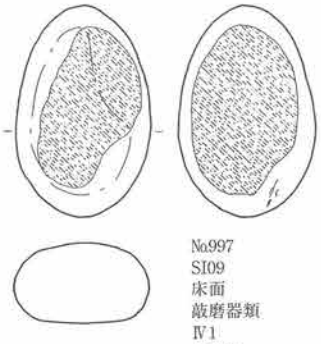
No.981
SK39
覆土
敲磨器類
ⅢBa
凝灰岩



No.983
ⅠA10d
盛土
敲磨器類
ⅢBa
砂岩

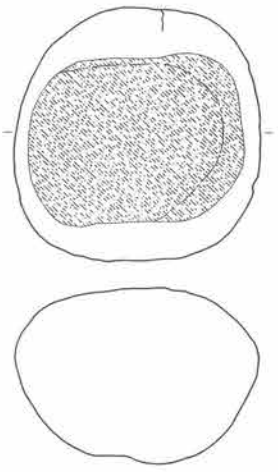


No.996
SI36
床直上
敲磨器類
ⅢBc
砂岩

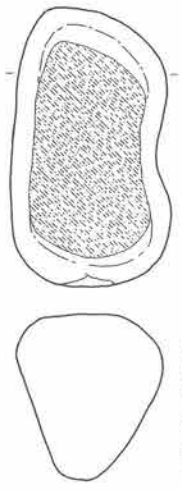


No.997
SI09
床面
敲磨器類
Ⅳ1
凝灰岩

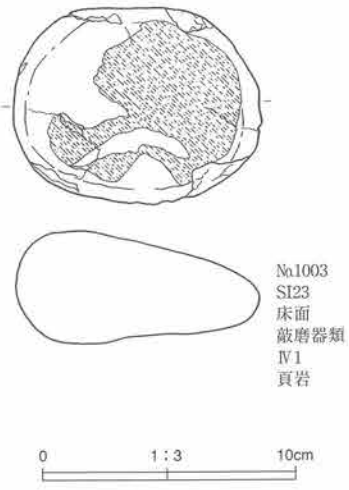
No.998
SI10
床面
敲磨器類
Ⅳ1
石英安山岩



No.999
SI10
床面
敲磨器類
Ⅳ1
花崗閃緑岩



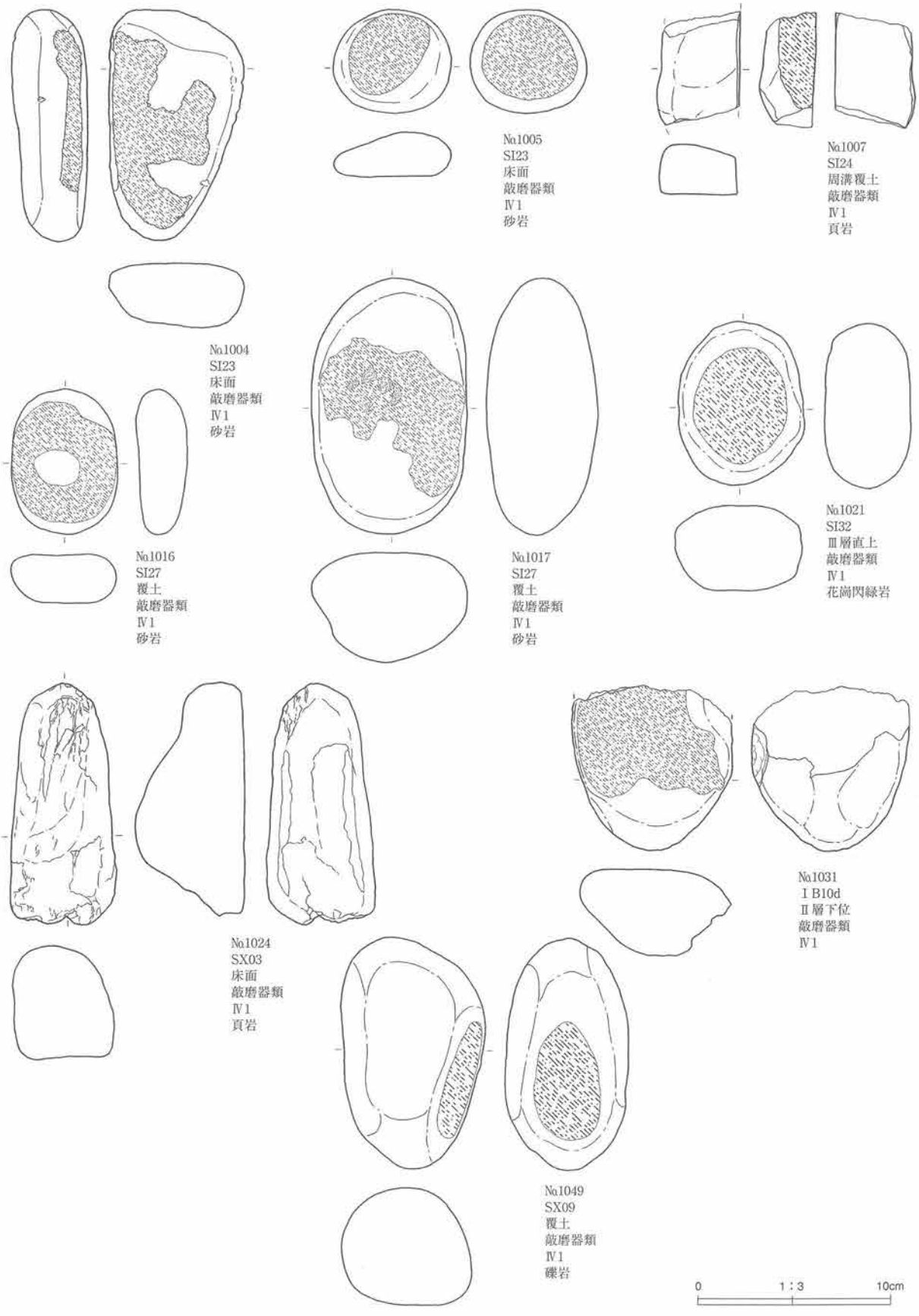
No.1002
SI21
床面
敲磨器類
Ⅳ1
ひん岩



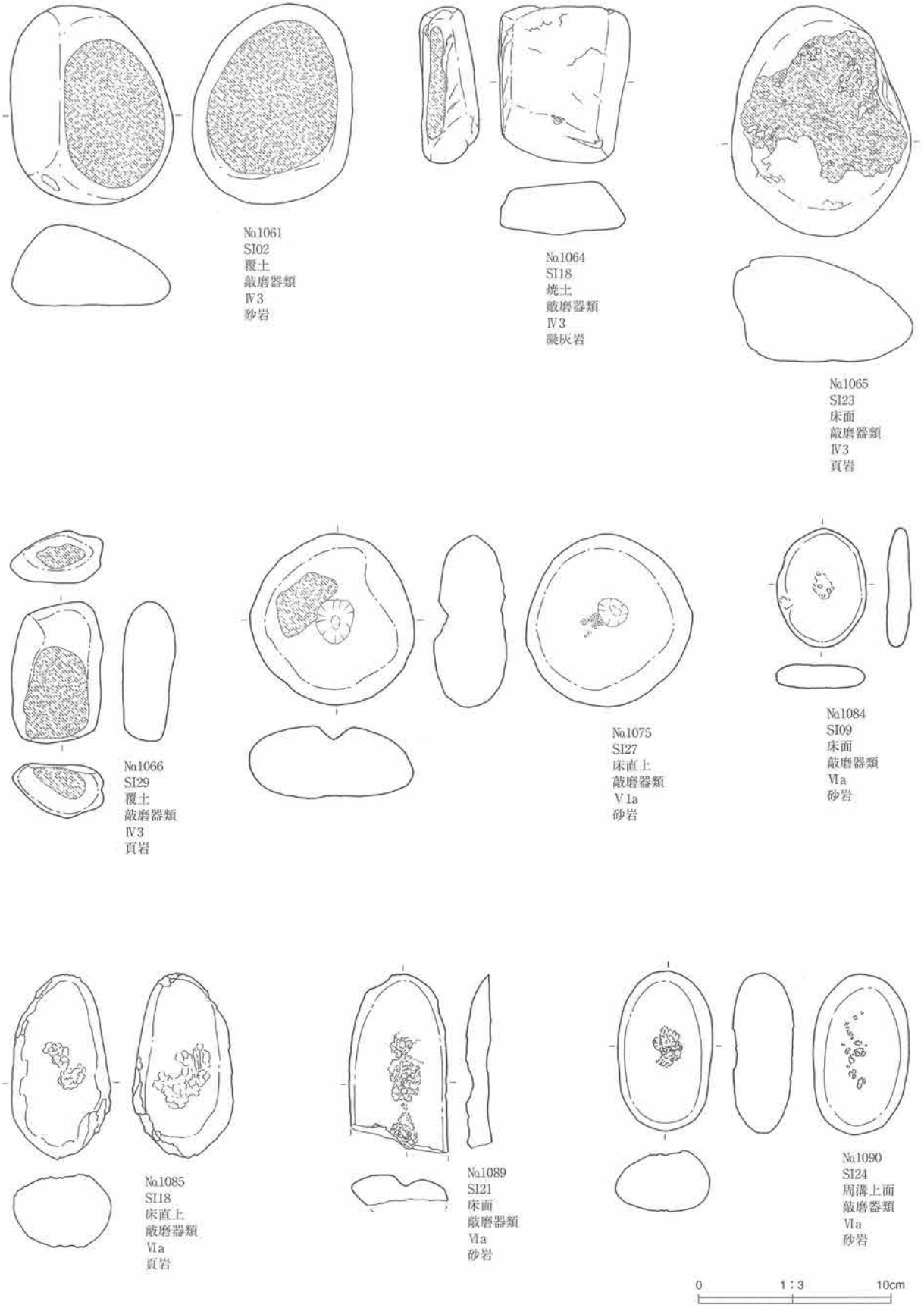
No.1003
SI23
床面
敲磨器類
Ⅳ1
頁岩

0　1：3　10cm

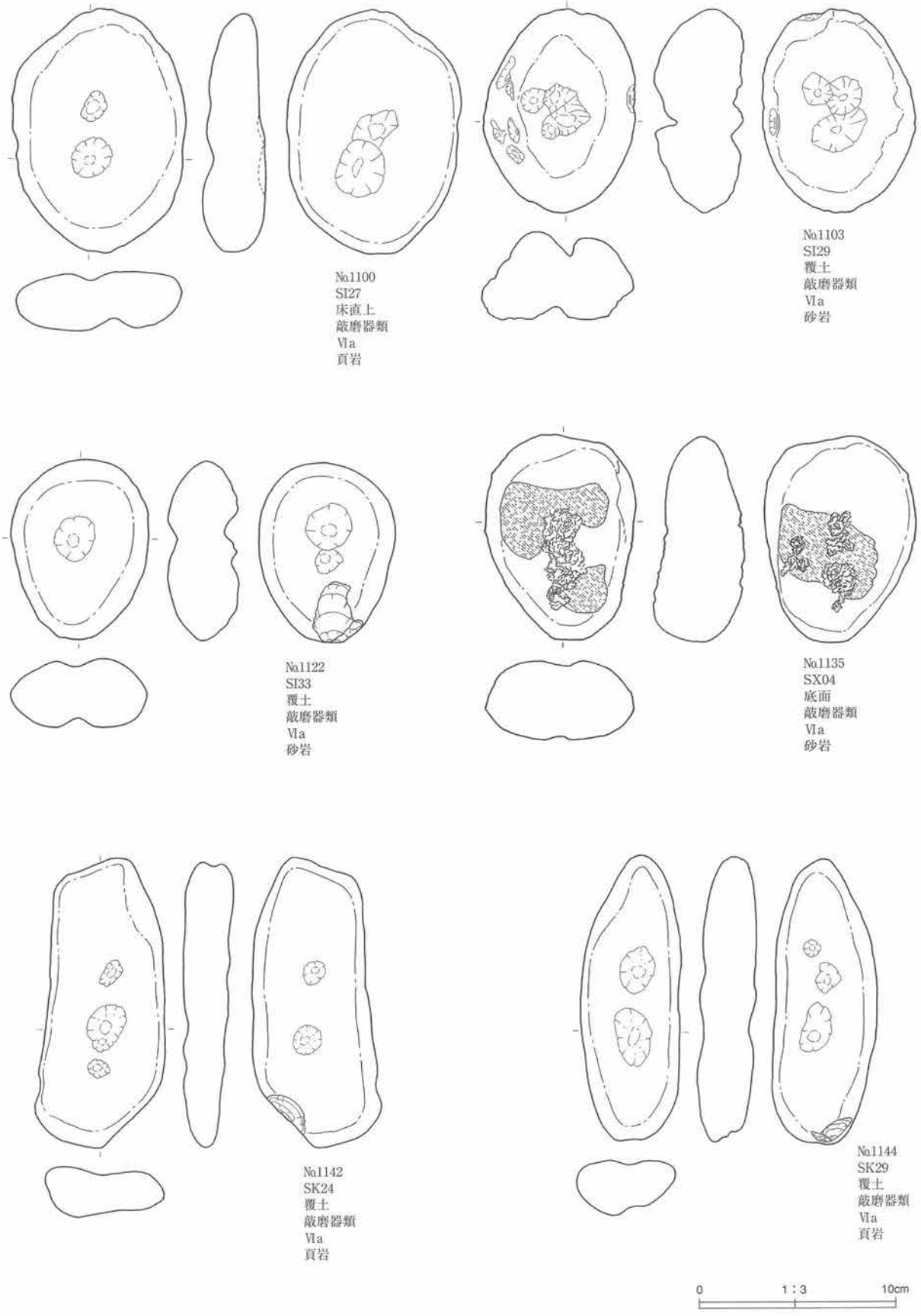
第131図　石器（27）


No.1004
SI23
床面
敲磨器類
Ⅳ1
砂岩
No.1005
SI23
床面
敲磨器類
Ⅳ1
砂岩
No.1007
SI24
周溝覆土
敲磨器類
Ⅳ1
頁岩
No.1016
SI27
覆土
敲磨器類
Ⅳ1
砂岩
No.1017
SI27
覆土
敲磨器類
Ⅳ1
砂岩
No.1021
SI32
Ⅲ層直上
敲磨器類
Ⅳ1
花崗閃緑岩
No.1024
SX03
床面
敲磨器類
Ⅳ1
頁岩
No.1031
ⅠB10d
Ⅱ層下位
敲磨器類
Ⅳ1
No.1049
SX09
覆土
敲磨器類
Ⅳ1
礫岩
0
1：3
10cm

第132図　石器（28）

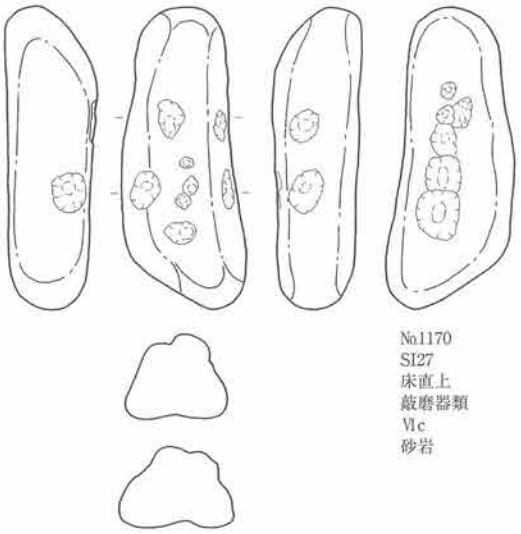

No.1061
SI02
覆土
敲磨器類
Ⅳ3
砂岩
No.1064
SI18
焼土
敲磨器類
Ⅳ3
凝灰岩
No.1065
SI23
床面
敲磨器類
Ⅳ3
頁岩
No.1066
SI29
覆土
敲磨器類
Ⅳ3
頁岩
No.1075
SI27
床直上
敲磨器類
Ⅴ1a
砂岩
No.1084
SI09
床面
敲磨器類
Ⅵa
砂岩
No.1085
SI18
床直上
敲磨器類
Ⅵa
頁岩
No.1089
SI21
床面
敲磨器類
Ⅵa
砂岩
No.1090
SI24
周溝上面
敲磨器類
Ⅵa
砂岩
0
1：3
10cm

第133図　石器（29）

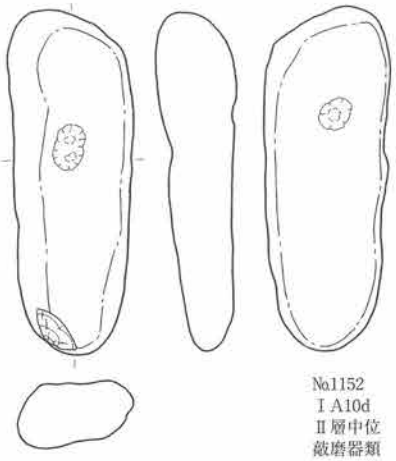

No.1100
SI27
床直上
敲磨器類
VIa
頁岩
No.1103
SI29
覆土
敲磨器類
VIa
砂岩
No.1122
SI33
覆土
敲磨器類
VIa
砂岩
No.1135
SX04
底面
敲磨器類
VIa
砂岩
No.1142
SK24
覆土
敲磨器類
VIa
頁岩
No.1144
SK29
覆土
敲磨器類
VIa
頁岩
0
1：3
10cm

第134図　石器（30）

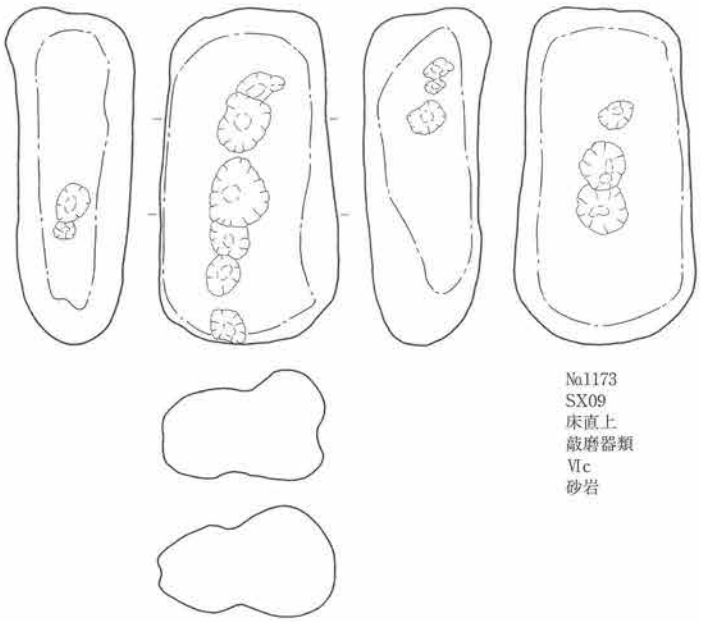
No.1151
SR01
覆土上位
敲磨器類
Ⅵa
砂岩



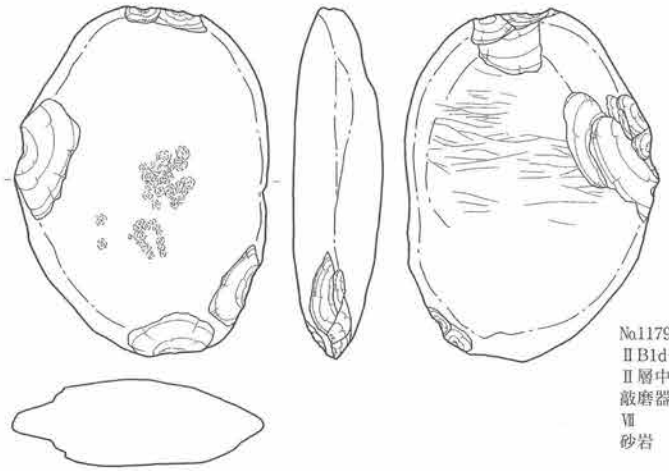
No.1170
SI27
床直上
敲磨器類
Ⅵc
砂岩



No.1152
ⅠA10d
Ⅱ層中位
敲磨器類
Ⅵa
頁岩



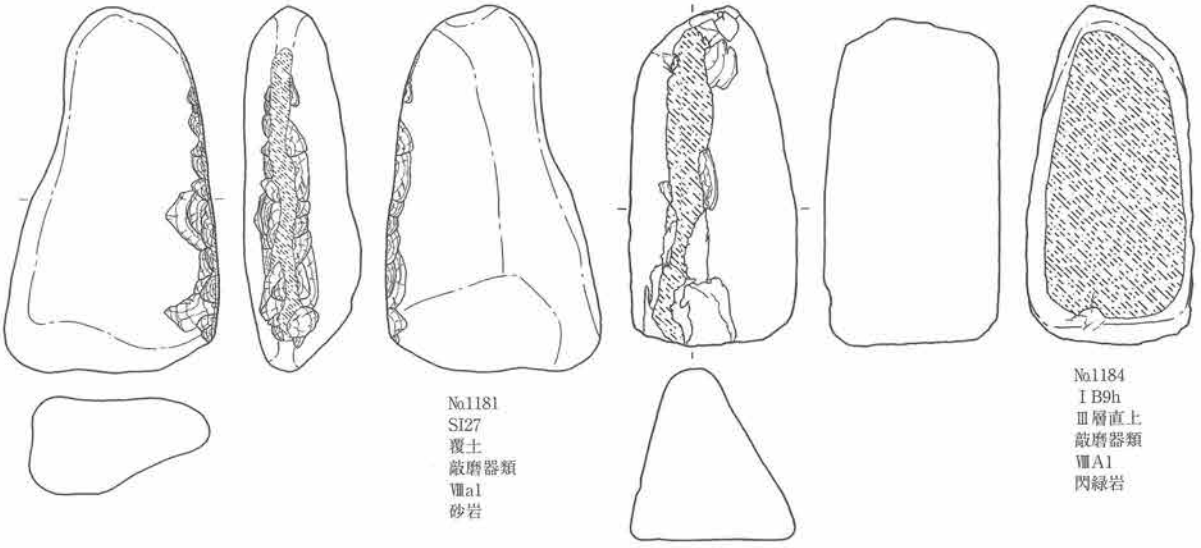
No.1173
SX09
床直上
敲磨器類
Ⅵc
砂岩



No.1179
ⅡB1d～2d
Ⅱ層中位
敲磨器類
Ⅶ
砂岩

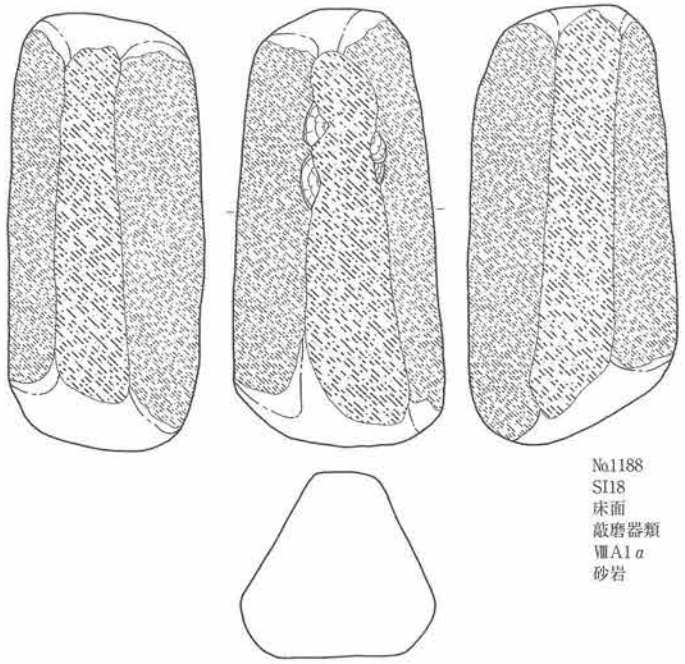
0　1：3　10cm

第135図　石器（31）

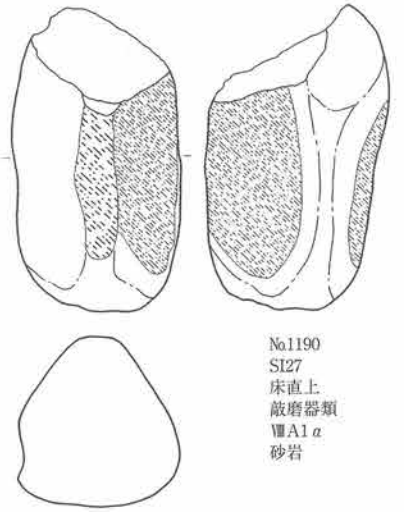


No.1181
SI27
覆土
敲磨器類
Ⅷa1
砂岩

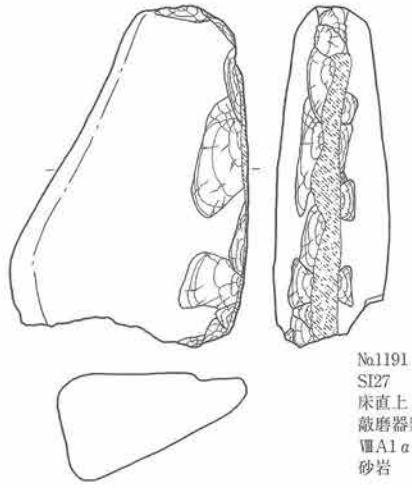
No.1184
ⅠB9h
Ⅲ層直上
敲磨器類
ⅧA1
閃緑岩



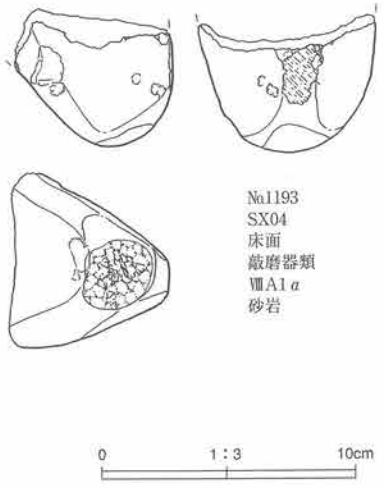
No.1188
SI18
床面
敲磨器類
ⅧA1α
砂岩



No.1190
SI27
床直上
敲磨器類
ⅧA1α
砂岩



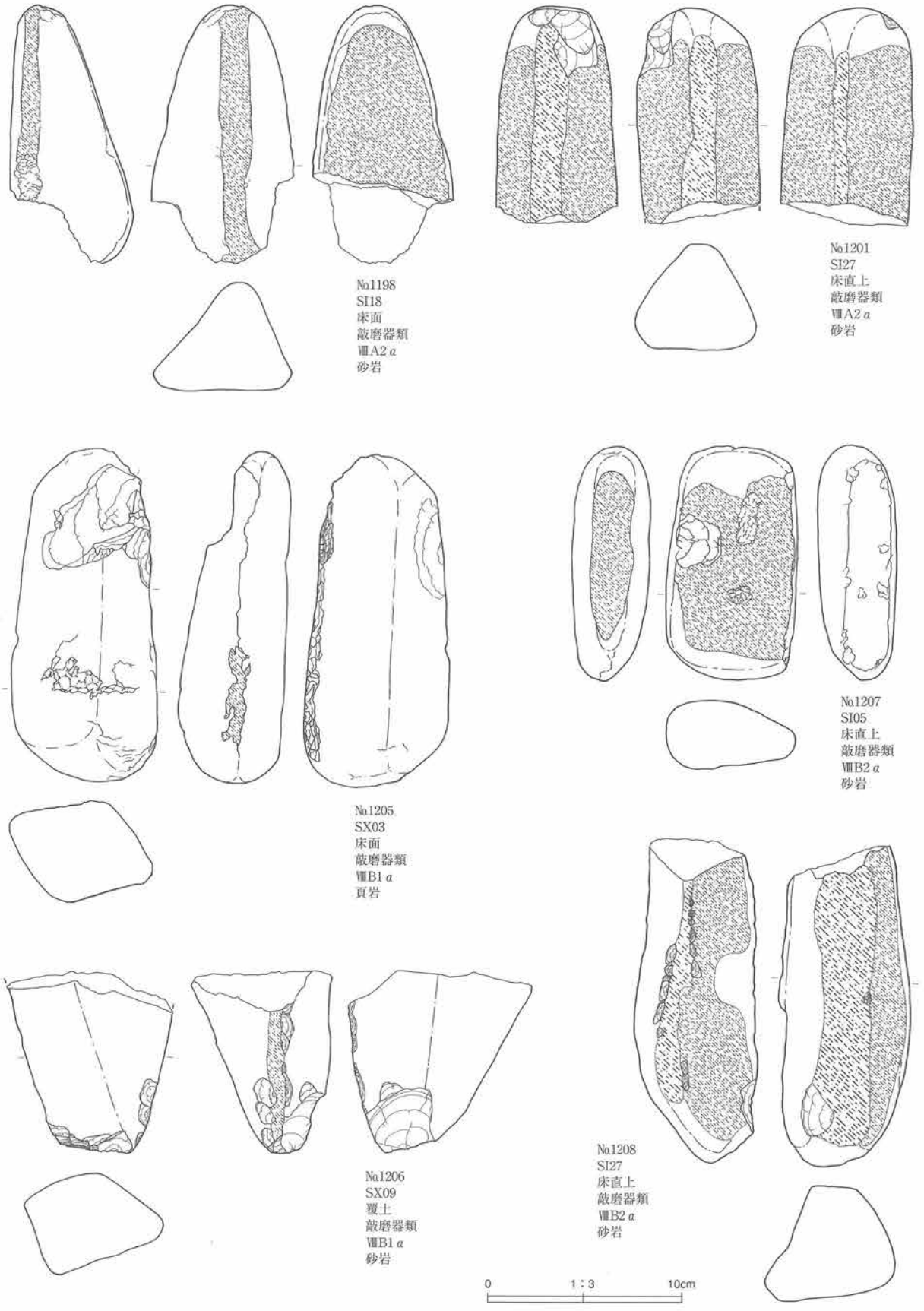
No.1191
SI27
床直上
敲磨器類
ⅧA1α
砂岩



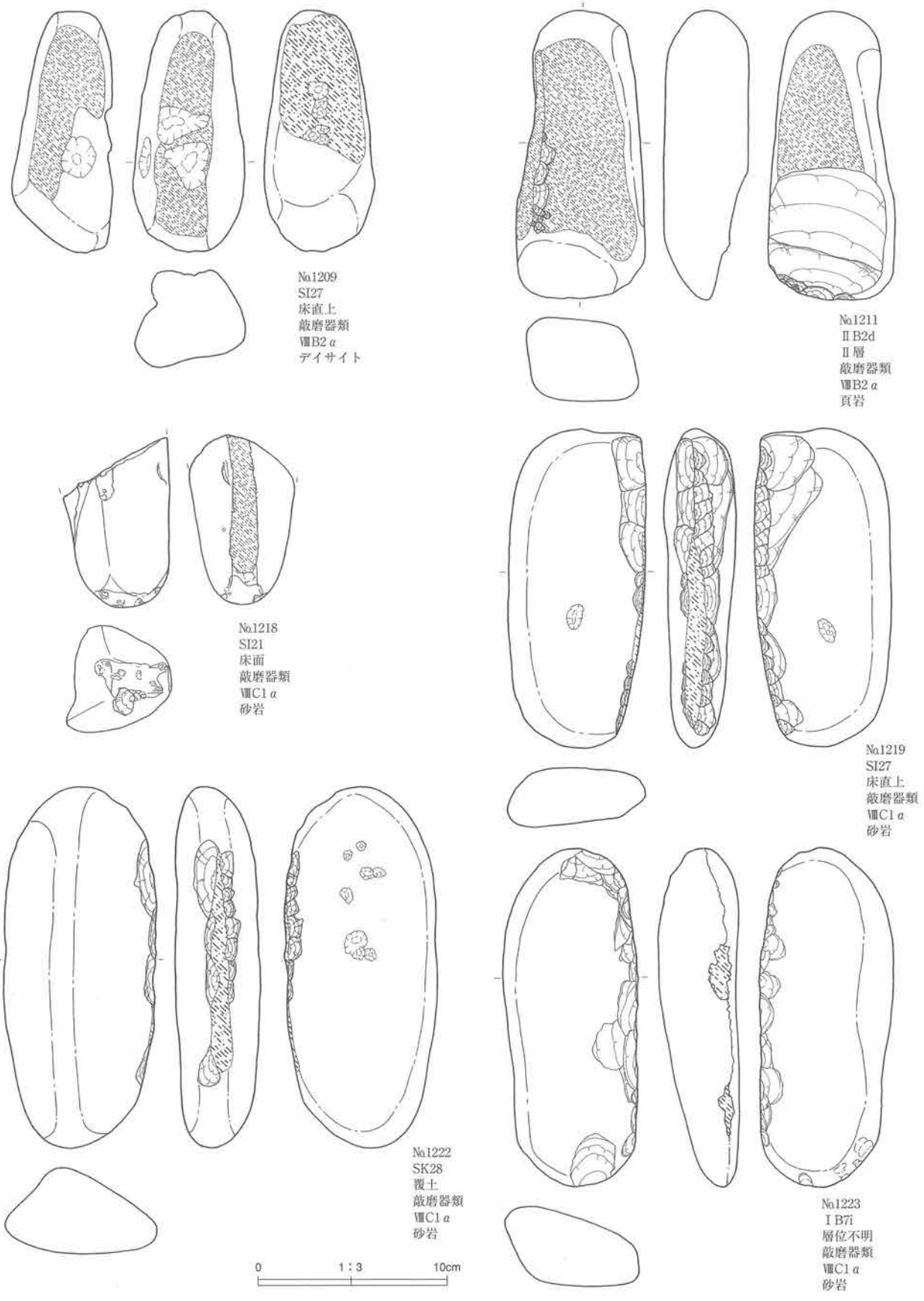
No.1193
SX04
床面
敲磨器類
ⅧA1α
砂岩

0　1：3　10cm

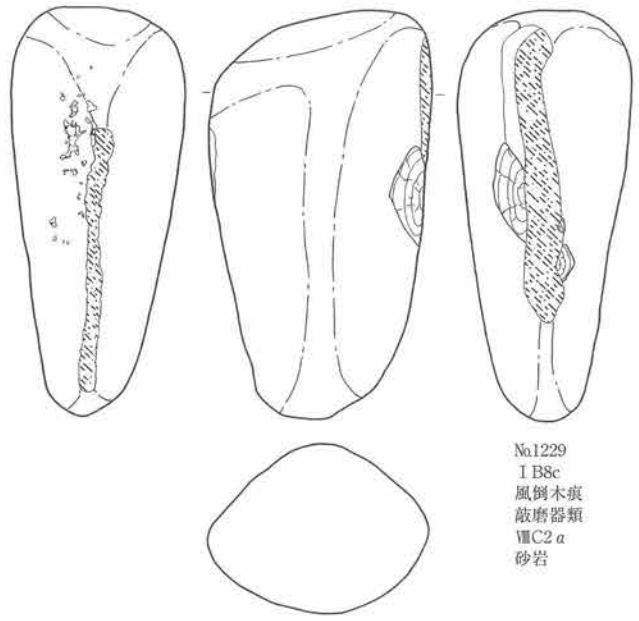
第136図　石器（32）


№1198
SI18
床面
敲磨器類
Ⅷ A2 α
砂岩
№1201
SI27
床直上
敲磨器類
Ⅷ A2 α
砂岩
№1205
SX03
床面
敲磨器類
Ⅷ B1 α
頁岩
№1207
SI05
床直上
敲磨器類
Ⅷ B2 α
砂岩
№1206
SX09
覆土
敲磨器類
Ⅷ B1 α
砂岩
№1208
SI27
床直上
敲磨器類
Ⅷ B2 α
砂岩
0
1：3
10cm

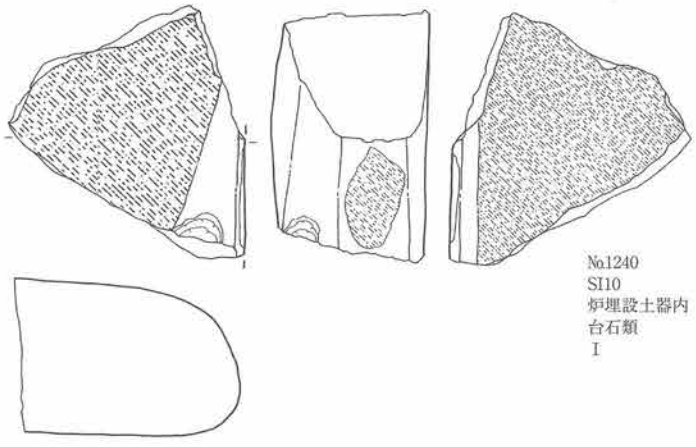
第137図　石器（33）


№1209
SI27
床直上
敲磨器類
Ⅷ B2 α
デイサイト
№1211
Ⅱ B2d
Ⅱ層
敲磨器類
Ⅷ B2 α
頁岩
№1218
SI21
床面
敲磨器類
Ⅷ C1 α
砂岩
№1219
SI27
床直上
敲磨器類
Ⅷ C1 α
砂岩
№1222
SK28
覆土
敲磨器類
Ⅷ C1 α
砂岩
№1223
Ⅰ B7i
層位不明
敲磨器類
Ⅷ C1 α
砂岩
0
1：3
10cm

第138図　石器（34）



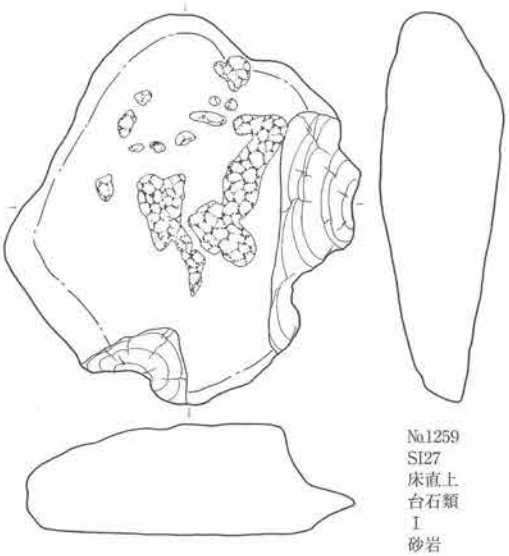
№1229
ⅠB8c
風倒木痕
敲磨器類
ⅧC2α
砂岩



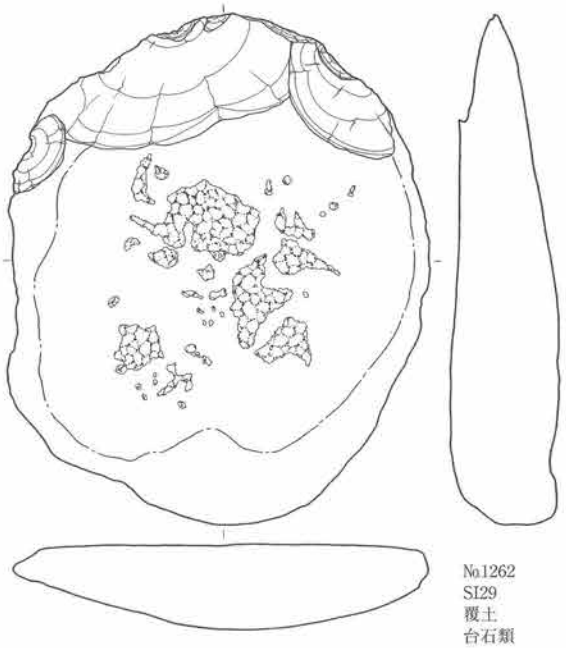
№1240
SI10
炉埋設土器内
台石類
Ⅰ

0　1：3　10cm

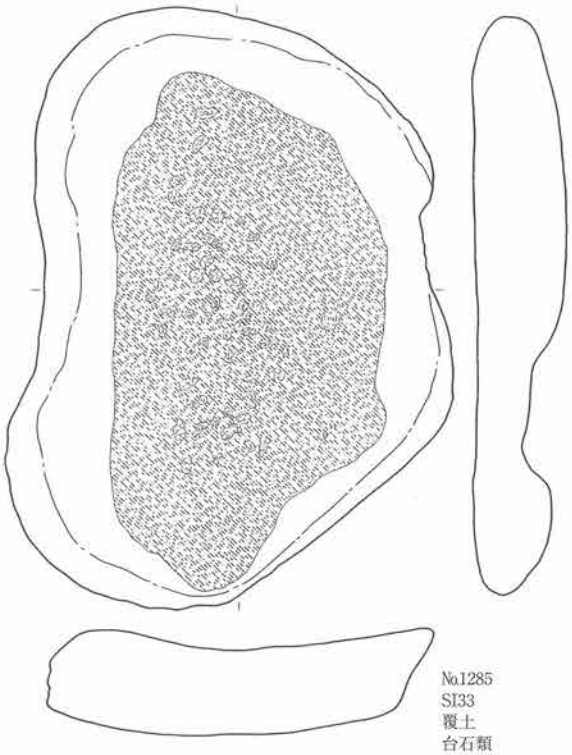
第139図　石器（35）



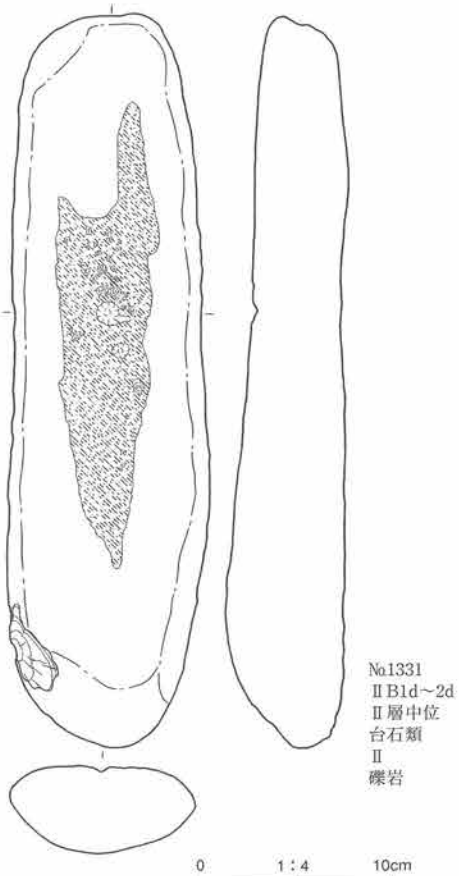
№1259
SI27
床直上
台石類
I
砂岩



№1262
SI29
覆土
台石類
I
砂岩



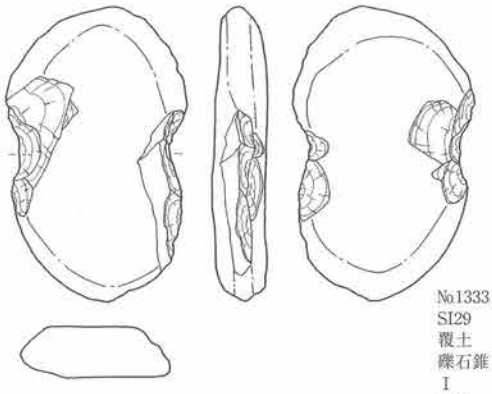
№1285
SI33
覆土
台石類
I



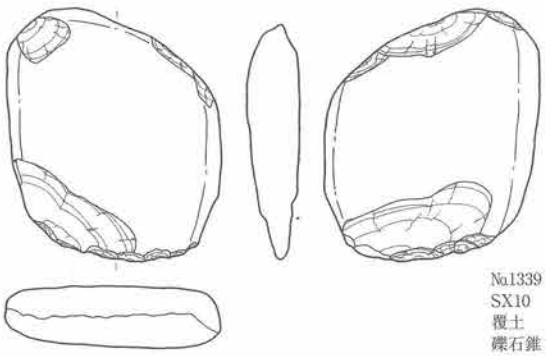
№1331
IIB1d～2d
II層中位
台石類
II
礫岩

0　1：4　10cm

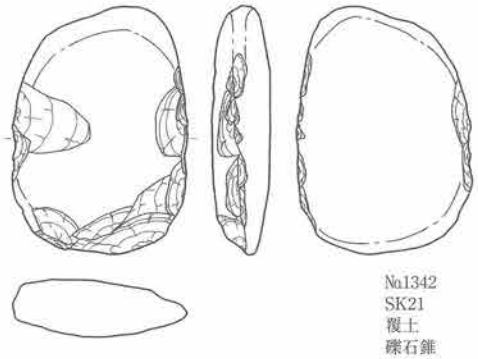
第140図　石器（36）



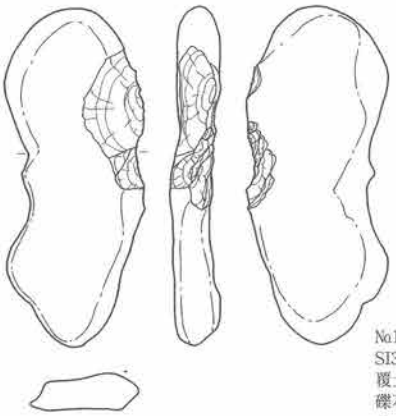
No.1333
SI29
覆土
礫石錐
I
頁岩



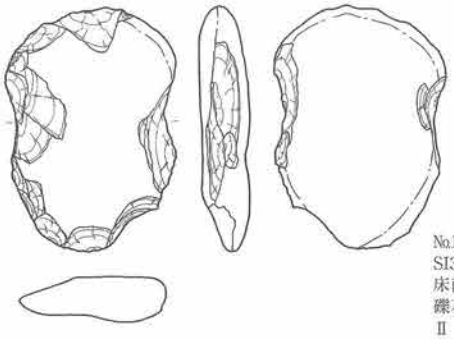
No.1339
SX10
覆土
礫石錐（礫器？）
I
頁岩



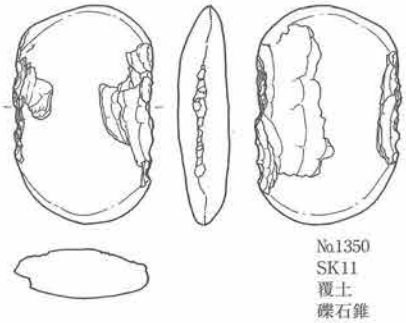
No.1342
SK21
覆土
礫石錐
I
頁岩



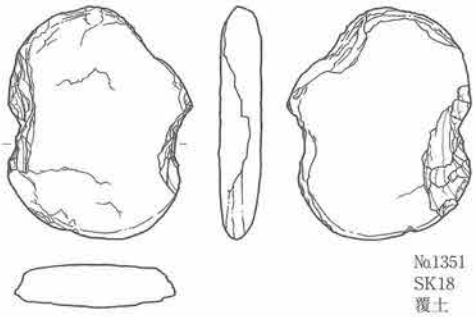
No.1346
SI31
覆土
礫石錐
II
頁岩



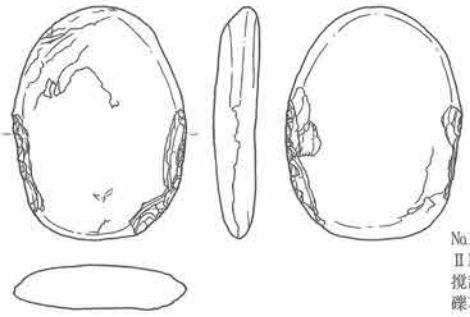
No.1347
SI34
床直上
礫石錐
II
砂岩



No.1350
SK11
覆土
礫石錐
II
頁岩

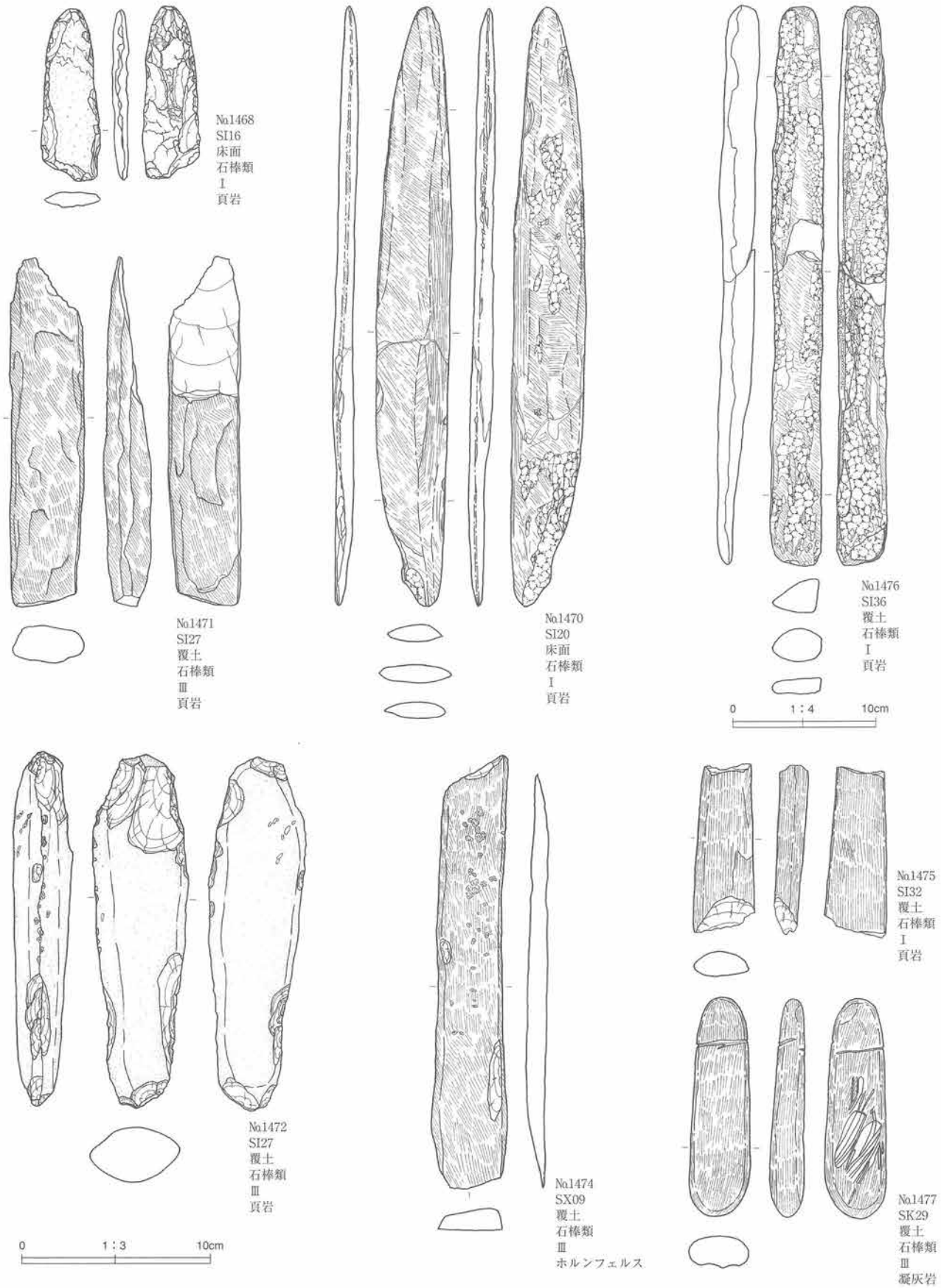


No.1351
SK18
覆土
礫石錐
II
頁岩

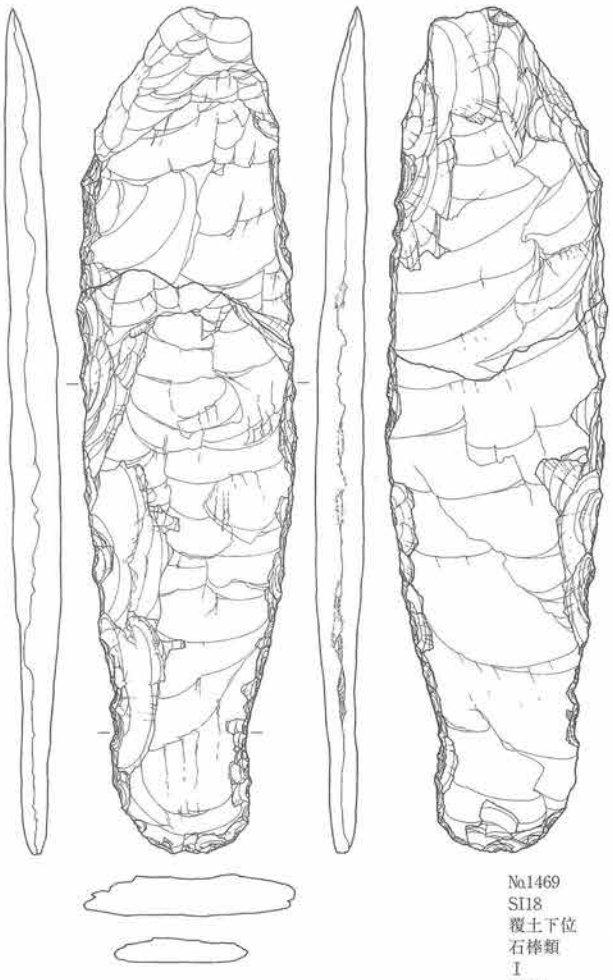


No.1355
IID3a
撹乱
礫石錐
II
頁岩

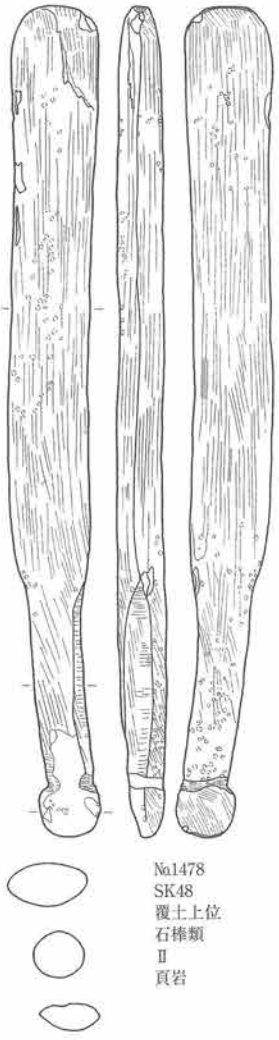
第141図　石器（37）


No.1468
SI16
床面
石棒類
I
頁岩
No.1471
SI27
覆土
石棒類
III
頁岩
No.1470
SI20
床面
石棒類
I
頁岩
No.1476
SI36
覆土
石棒類
I
頁岩
0
1：4
10cm
No.1472
SI27
覆土
石棒類
III
頁岩
0
1：3
10cm
No.1474
SX09
覆土
石棒類
III
ホルンフェルス
No.1475
SI32
覆土
石棒類
I
頁岩
No.1477
SK29
覆土
石棒類
III
凝灰岩

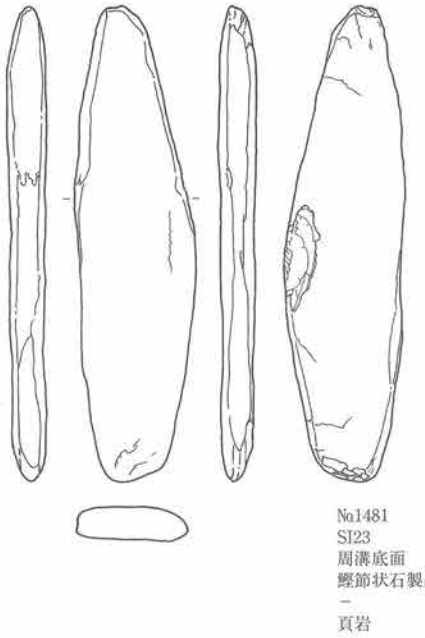
第142図　石製品（1）



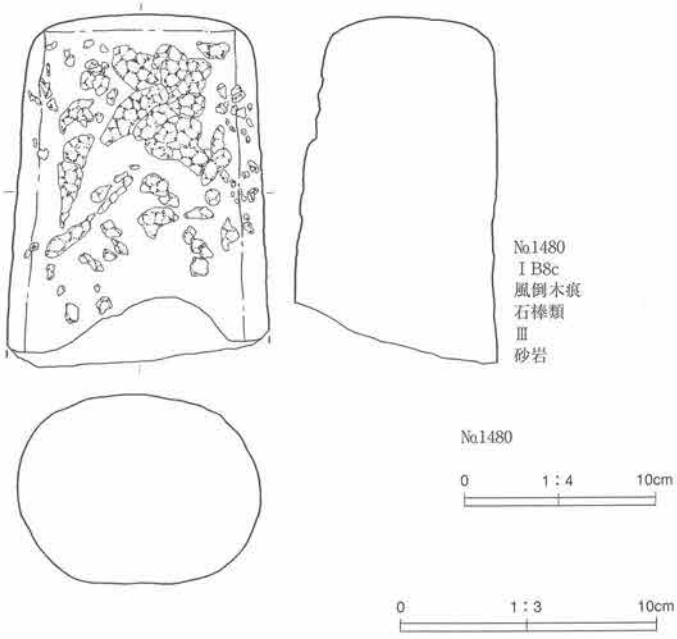
No.1469
SI18
覆土下位
石棒類
Ⅰ
頁岩



No.1478
SK48
覆土上位
石棒類
Ⅱ
頁岩



No.1481
SI23
周溝底面
鰹節状石製品
－
頁岩



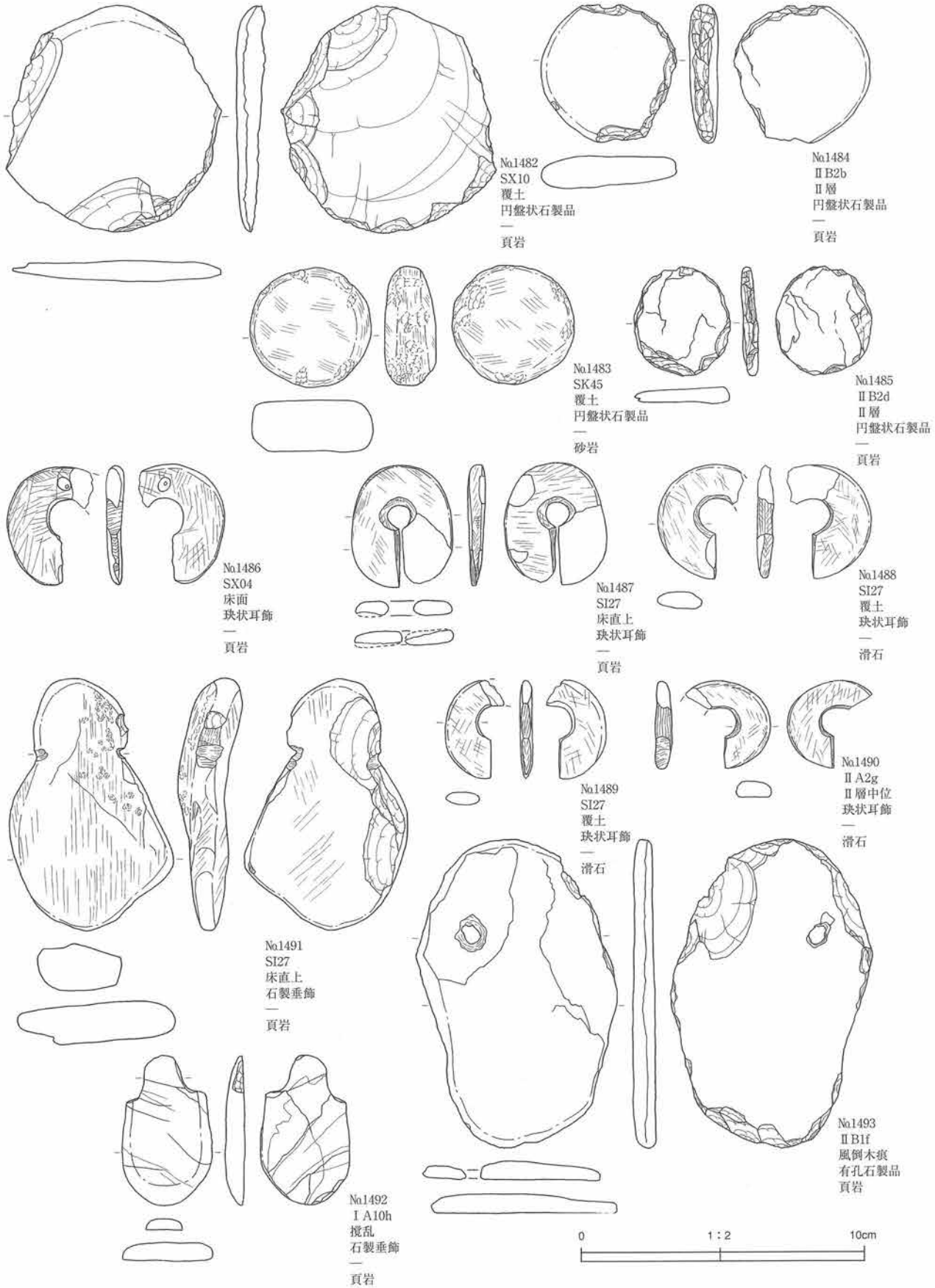
No.1480
ⅠB8c
風倒木痕
石棒類
Ⅲ
砂岩

No.1480

0　1：4　10cm

0　1：3　10cm

第143図　石製品（2）


No.1482
SX10
覆土
円盤状石製品
—
頁岩
No.1484
ⅡB2b
Ⅱ層
円盤状石製品
—
頁岩
No.1483
SK45
覆土
円盤状石製品
—
砂岩
No.1485
ⅡB2d
Ⅱ層
円盤状石製品
—
頁岩
No.1486
SX04
床面
玦状耳飾
—
頁岩
No.1487
SI27
床直上
玦状耳飾
—
頁岩
No.1488
SI27
覆土
玦状耳飾
—
滑石
No.1489
SI27
覆土
玦状耳飾
—
滑石
No.1490
ⅡA2g
Ⅱ層中位
玦状耳飾
—
滑石
No.1491
SI27
床直上
石製垂飾
—
頁岩
No.1492
ⅠA10h
撹乱
石製垂飾
—
頁岩
No.1493
ⅡB1f
風倒木痕
有孔石製品
頁岩
0
1：2
10cm

第144図　石製品（3）

第11表　土器観察表

(1) 出土位置については、遺構を4分割している場合、北東をQNE、北西をQNW、南東をQSE、南西をQSWで示している。
(2) 法量については、( )が残存値、〔 〕が推定値で表示している。

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
1	66	72	SI	2	炉埋設土器	炉	深鉢	ⅢC5	底部～胴部下半	－	10.2	(14.6)	1.0	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ・被熱	金雲母・白色粒子少	10YR4/4 褐色	10YR4/4 褐色	H13調査	0001
2	66	86	SI	2	中央	覆土	深鉢	ⅡC2	口縁部	－	－	(6.4)	1.0	鋸歯状沈線・斜縄文(RL横回転)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H13調査	0005
3	66	86	SI	2	東側	覆土	深鉢	ⅡC3	口縁部	－	－	(3.7)	0.9	粘土紐貼付(棒状工具による斜刻目)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR3/1 黒褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H13調査	0007
4	66	86	SI	2	東側	覆土	深鉢	ⅡC2	口縁部	－	－	(4.5)	0.8	沈線(横位)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	H13調査	0008
5	66	82	SI	2	東側	覆土	深鉢	Ⅲ	底部	－	11.0	(2.1)	1.2	木葉痕	ナデ・被熱	金雲母・長石少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0013
6	66	86	SI	2		覆土	深鉢	ⅡC2	胴部上半	－	－	(3.3)	0.8	鋸歯状沈線(横位)	ナデ	黒色粒子・長石少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H13調査	0009
7	66	86	SI	2		覆土	深鉢	ⅡC2	胴部上半	－	－	(5.0)	0.8	鋸歯状沈線(横位)・斜縄文(RL横回転)	ナデ	黒色粒子・長石少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H13調査	0011
8	66	86	SI	2		覆土	深鉢	ⅡC2	口縁部	－	－	(5.3)	0.8	鋸歯状沈線(横位)・口唇部ナデ	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR3/2 黒褐色	H13調査	0003
9	66	86	SI	2		覆土	深鉢	ⅡC2	口縁部	－	－	6.2	0.9	鋸歯状沈線(横位・2重)・口唇部ナデ	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR3/1 黒褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H13調査	0004
10	66	86	SI	2		覆土	深鉢	ⅢC1	胴部上半	－	－	(5.8)	0.7	沈線・磨り消し・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	白色粒子・長石少	10YR8/6 黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	H13調査	0010
11	66	86	SI	2		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	－	－	(6.2)	0.9	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	金雲母・長石少	10YR4/4 褐色	10YR4/4 褐色	H13調査	0012
12	66	86	SI	2		覆土	深鉢	ⅢD2①	口縁部	－	－	(14.2)	1.0	複節斜縄文(RLR縦回転)・口唇部ミガキ	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR3/1 黒褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H13調査	0002
13	66	86	SI	2		覆土	深鉢	ⅢD2①	口縁部	－	－	(5.0)	0.8	複節斜縄文(RLR縦回転)	口唇部ミガキ・ナデ	黒色粒子・石英少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	H13調査	0006
14	66	86	SI	2		覆土	深鉢	Ⅲ	口縁部	－	－	(3.7)	0.9	沈線(横位)	ミガキ	石英少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR3/2 黒褐色	H13調査	0021
15	66	82	SI	2		覆土	深鉢	Ⅲ	底部	－	－	(4.3)	1.4	ナデ	ナデ	金雲母・石英少	10YR5/4 にぶい黄褐色	5YR5/6明赤褐色	H13調査	0014
16	67	86	SI	3		床面	深鉢	ⅢD3？	胴部	－	－	(3.2)	0.9	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	石英・長石少	10YR4/3 にぶい黄褐色	5YR5/6明赤褐色	H13調査	0015
17	67	86	SI	3	EWベルト	覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	－	－	(5.3)	0.9	縦位縄文(LR斜回転)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H13調査	0016
18	67	82	SI	3	北側	覆土	深鉢	Ⅲ	底部	－	10.0	(3.9)	0.6	ナデ	ナデ・炭化物	黒色粒子・石英少	5YR5/6明赤褐色	10YR5/2 灰黄褐色	H13調査	0017
19	67	86	SI	4		床面	深鉢	ⅡC3	口縁部	－	－	(3.2)	0.9	粘土紐貼付(列点)・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	黒色粒子・石英・砂少	10YR3/1 黒褐色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0019
20	67	86	SI	4		床面	深鉢	Ⅲ	胴部下半	－	－	(10.5)	1.1	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/1 褐灰色	H13調査	0020
21	67	86	SI	4		覆土	深鉢	ⅠB	底部	－	－	(5.3)	0.9	尖底・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	金雲母少	10YR3/1 黒褐色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0018
22	67	86	SI	5		覆土	深鉢	ⅡF3	胴部上半	－	－	(3.2)	0.9	横走する太い粘土紐隆帯＋U字状貼付文・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	石英少	10YR5/3 にぶい黄褐色	5YR6/6橙色	H13調査	0023
23	67	86	SI	5	南西	覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	－	－	(3.5)	0.8	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	石英少	10YR6/6 明黄褐色	5YR5/8明赤褐色	H13調査	0024

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
24	67	86	SI	5	南東	覆土	長胴甕	V	胴部下位	—	—	(12.8)	0.9	上→下に縦位にケズリが入る			10YR5/1 褐灰色	10YR4/1 褐灰色	H13調査	0022
25	67	83・86	SI	5	北東	覆土	長頸瓶	V	胴部	—	—	(10.5)	1.3	肩の張りが少ない。頸部との接合部は欠損により不明。調整は粗い。			10YR5/1 褐灰色	10YR4/1 褐灰色	H13調査	0025
26	67	立	SI	5	南西	炉直上	長頸瓶	V	底部	—	※10.4	(7.7)	1.3	高台貼付で、断面形は逆台形を呈する。胎土は非常に粗く、砂粒が多い。			10YR5/1 褐灰色	10YR4/1 褐灰色	H13調査	0026
27	68	86	SI	6		床面	深鉢	ⅡD	胴部	—	—	(4.5)	0.9	鋸歯状沈線(横位)・斜縄文(RL横回転)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	H13調査	0028
28	68	86	SI	6	QSW	床面	深鉢	Ⅲ	口縁部	—	—	(2.6)	0.5	斜縄文(0段多条L縦回転)	ナデ	白色粒子少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H13調査	0027
29	68	86	SI	6	北東	覆土	深鉢	ⅡF2a	口縁部	—	—	(3.4)	0.8	口唇部小波状貼付文(2重)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR4/1 褐灰色	10YR4/1 褐灰色	H13調査	0030
30	68	86	SI	6	QNW	覆土	深鉢	ⅢD2①	胴部	—	—	(5.5)	0.8	沈線(横位)・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	金雲母・石英少	10YR5/3 にぶい黄褐色	5YR4/6明赤褐色	H13調査	0029
31	68	86	SI	6	東側	覆土	深鉢	Ⅲ	口縁部	—	—	(3.1)	0.7	沈線(斜位)・縄文(0段多条L縦回転)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	H13調査	0031
32	68	86	SI	6	QNW	覆土	深鉢	ⅢD3？	胴部	—	—	(3.3)	0.6	斜縄文(RL横回転)・末端処理(Z)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0032
33	68	86	SI	6	東側	覆土	深鉢	ⅢD3？	胴部	—	—	(3.9)	0.8	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	石英少	10YR7/6 明黄褐色	5YR6/6橙色	H13調査	0033
34	68		SI	6	QSE	覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	7.6	(6.7)	0.6	斜縄文(0段多条R縦回転)・網代痕	ナデ	金雲母・石英少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0034
35	68	83	SI	6		覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	7.3	3.4	0.5	斜縄文(LR縦回転)・木葉痕	ナデ	金雲母・石英少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	H13調査	0035
36	68	83	SI	6	QNW	覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	—	(1.3)	0.4	ナデ	ナデ	金雲母・砂少	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR5/6 黄褐色	H13調査	0036
37	68	82	SI	7		床面	深鉢	Ⅲ	口縁部～胴部上半	〔24.5〕	—	(20.2)	0.7	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	白色粒子少	10YR3/2 黒褐色	10YR5/6 黄褐色	H13調査	0037
38	68	87	SI	7	QSW	覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(5.0)	1.0	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	金雲母・石英・砂少	5YR4/4にぶい赤褐色	2.5YR4/6 赤褐色	H13調査	0038
39	68	87	SI	8	QSW	床面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.1)	0.7	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	黒色粒子・砂少	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	H13調査	0039
40	69	72	SI	10	炉埋設土器	炉	深鉢	ⅢC3a①	胴部下半～底部1/2完形	—	6.6	(20.0)	0.6	沈線・磨り消し・斜縄文(RL横回転)	ナデ・被熱	金雲母・石英・砂少	2.5YR4/6 赤褐色	5YR4/6赤褐色	H13調査	0040
41	69	83	SI	10	W壁際	覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	4.5	(2.7)	0.4	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母・黒色粒子少	7.5YR5/6 明褐色	10YR6/6 明黄褐色	H13調査	0041
42	69	87	SI	12		床面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.5)	0.9	斜縄文(LR縦回転)・末端処理(Z)	ナデ・炭化物	石英少	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0042
43	69	87	SI	12		床面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(3.1)	0.8	斜縄文(LR縦回転)・末端処理(Z)	ナデ	石英少	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H13調査	0043
44	69	87	SI	12	QNE	覆土	深鉢	ⅢB1?	胴部	—	—	(3.8)	0.8	並行する沈線(3条)・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	石英・砂少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	H13調査	0044
45	69	87	SI	13	南側ベルト	黒褐色土	深鉢	ⅡC2	胴部上半	—	—	(4.2)	0.9	鋸歯状沈線(横位・2条)・縄文(LR縦)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H13調査	0046
46	69	87	SI	13		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部上半	—	—	(13.6)	0.8	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	石英・白色粒子少	5YR6/6橙色	10YR4/1 褐灰色	H13調査	0045
47	69	72	SI	14		覆土	深鉢	ⅢD2①	胴部上半1/2完形	〔18.8〕	—	(14.3)	0.6	斜縄文(RL縦回転)・口縁内傾ナデ	ナデ	黒色粒子・石英少	2.5YR4/6 赤褐色	2.5YR4/8 赤褐色	H13調査	0047

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
48	69	87	SI	14		覆土	深鉢	ⅢC4a	胴部上半	—	—	(8.3)	0.5	隆帯・沈線・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR5/2灰褐色	10YR4/2灰黄褐色	H13調査	0048
49	69	87	SI	14		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(9.4)	0.7	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母少	10YR3/3暗褐色	10YR3/1黒褐色	H13調査	0049
50	70	83	SI	14		覆土	深鉢	Ⅲ	底部					単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	金雲母少	10YR4/2灰黄褐色	10YR5/6黄褐色	H13調査	0050
51	70	87	SI	15		床面	深鉢	Ⅰ	口縁部	—	—	(3.1)	0.7	口唇部指頭圧痕	ナデ	石英少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR5/2灰黄褐色	H13調査	0051
52	70	87	SI	15		床面	深鉢	ⅡC2	胴部上半	—	—	(4.2)	0.7	鋸歯状沈線(横位・2条)・斜縄文(RL縦回転)・末端処理(Z)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR3/1黒褐色	10YR4/3にぶい黄褐色	H13調査	0053
53	70	87	SI	15		床面	深鉢	ⅢC	胴部	—	—	(4.5)	0.7	沈線(横位・2条)・磨り消し・斜縄文(LRL縦回転)	ナデ	石英少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR7/4にぶい黄橙色	H13調査	0052
54	70	72	SI	16	中央	床面	深鉢	ⅢD2①	2/3完形	29.2	—	(28.9)	0.9	口縁部無文帯　斜縄文(LR横回転)	ナデ	白色粒子少	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色	H13調査	0054
55	70	87	SI	16	中央	床面	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(3.6)	1.0	沈線・磨り消し・地文(RLR縦回転)	ナデ	白色粒子少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色	H13調査	0055
56	70	87	SI	16	ベルト北	覆土	深鉢	ⅢC3	口縁部	—	—	(6.4)	0.6	沈線(区画)・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR3/1黒褐色	10YR4/2灰黄褐色	H13調査	0056
57	70	87	SI	16		覆土	深鉢	ⅢC3a	口縁部	—	—	(4.1)	0.7	沈線(横位)・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	白色粒子多	2.5YR3/4暗赤褐色	2.5YR3/6暗赤褐色	H13調査	0057
58	70	87	SI	16	QNE	覆土	深鉢	ⅢC3	胴部上半	—	—	(7.4)	0.8	沈線・三日月状装飾帯・隆帯に伴う刺突・黒色付着物	ナデ・被熱	石英少	10YR5/4にぶい黄褐色	10YR7/4にぶい黄橙色	H13調査	0058
59	71	72	SI	18	QNE	床面	深鉢	ⅡF3	2/3完形	20.0	—	(23.1)	0.9	格子状粘土紐貼付(X・人形？文)・斜縄文(LR横回転)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR3/1黒褐色	10YR3/1黒褐色	H13調査	0059
60	71	87	SI	18		床面	深鉢	ⅠB	口縁部	—	—	(5.6)	0.8	斜縄文(LR横回転)・口唇部指頭圧痕	ナデ	石英少量	5YR5/6明赤褐色	5YR6/6橙色	H13調査	0062
61	71	87	SI	18		床面	深鉢	Ⅱ	胴部	—	—	(14.2)	0.6	横位縄文(RL斜回転)	ナデ	石英少	5YR4/4にぶい赤褐色	5YR4/6赤褐色	H13調査	0063
62	71	87	SI	18		床面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(5.9)	0.9	複節斜縄文(RLR縦回転)	ナデ・被熱	石英少	10YR6/6明黄褐色	10YR7/3にぶい黄橙色	H13調査	0064
63	71	87	SI	18		床面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(5.6)	0.7	斜縄文(LR横回転)・末端処理(Z)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR4/2灰黄褐色	H13調査	0065
64	71	87	SI	18	QNW	覆土下位	深鉢	ⅡF2a	口縁部	—	—	(3.4)	0.6	口唇部小波状貼付文(太)	ナデ	石英中	10YR5/1褐灰色	10YR3/1黒褐色	H13調査	0068
65	71	87	SI	18	QNE	覆土下位	深鉢	ⅢC4a	口縁部	—	—	(3.7)	1.0	沈線(横位)・斜縄文(RLR縦回転)	ナデ	石英少	10YR4/1褐灰色	10YR3/1黒褐色	H13調査	0067
66	71	87	SI	18	東周溝	覆土	深鉢	ⅡE2a	胴部	—	—	(5.2)	0.8	小波状貼付文(横位・2重)・斜縄文(LR横回転)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR5/3にぶい黄褐色	5YR5/8明赤褐色	H13調査	0069
67	71	87	SI	18		覆土	深鉢	Ⅱ	口縁部	—	—	(6.3)	0.7	斜縄文(LR横回転)・末端処理(Z)	ナデ	石英少	10YR4/1褐灰色	10YR4/1褐灰色	H13調査	0061
68	71	83	SI	18	周溝底面	覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	〔13.8〕	(4.0)	0.8	ナデ	ナデ	石英少	10YR5/1褐灰色	10YR2/1黒色	H13調査	0066
69	71	87	SI	19	西側	覆土	深鉢	ⅢA1	口縁部	—	—	(8.4)	0.9	渦巻状隆帯・斜縄文(RL縦回転)・波状口縁	ナデ	金雲母・長石少	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR4/2灰黄褐色	H13調査	0070
70	72	88	SI	20	QNW	覆土	深鉢	ⅡE2a	口縁部	—	—	(5.6)	0.7	口唇部小波状貼付文・ナデ	ナデ	石英少	10YR4/1褐灰色	10YR6/4にぶい黄橙色	H13調査	0077
71	72	88	SI	20		床面	深鉢	Ⅱ	口縁部	—	—	(5.4)	0.9	ナデ	ナデ	金雲母少	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR6/4にぶい黄橙色	H13調査	0072

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
72	72	88	SI	20		床面	深鉢	Ⅲ	口縁部	—	—	(2.4)	0.8	沈線(横位・2重)・斜縄文(RL横回転)	ナデ	白色粒子少	10YR3/1 黒褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H13調査	0079
73	72	88	SI	20		床面	深鉢	ⅢC4a	胴部上半	—	—	(5.2)	0.6	沈線・磨り消し・斜縄文(RL横回転)	ナデ	金雲母・石英少	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H13調査	0073
74	72	88	SI	20	中央	床面	深鉢	ⅢC3b	口縁部	—	—	(6.5)	0.7	刺突を伴う隆帯・沈線(区画)・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	石英少	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	H13調査	0071
75	72	88	SI	20	QSE	床面直上	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(3.8)	0.7	斜縄文(RLR縦回転)	ナデ	金雲母少	5YR5/8黄褐色	5YR4/6赤褐色	H13調査	0074
76	72	88	SI	20	南ベルト	床面直上	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(4.4)	0.7	沈線(区画)・磨り消し・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母少	10YR6/6 明黄褐色	5YR6/6橙色	H13調査	0075
77	72	88	SI	20	南ベルト	床面直上	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.0)	0.8	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	金雲母多	10YR5/2 灰黄褐色	2.5YR5/8 明赤褐色	H13調査	0076
78	72	88	SI	20	QSE	覆土	深鉢	ⅢC4a	口縁部	—	—	(5.1)	0.9	沈線(横位)・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H13調査	0078
79	72	88	SI	20	QSW	覆土	深鉢	ⅢC3b	胴部	—	—	(11.6)	0.7	沈線(横位)・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	金雲母・石英少	10YR4/2 灰黄褐色	5YR4/6褐色	H13調査	0080
80	72	88	SI	20	QSE	覆土	深鉢	ⅢB1	胴部	—	—	(5.3)	0.8	沈線(区画)・隆帯(区画)・単軸絡条体第1類(斜位・L)	ナデ	石英・砂少	10YR3/3 暗褐色	10YR5/2 灰黄褐色	H13調査	0081
81	72	88	SI	21		床面	深鉢	ⅡC2	胴部	—	—	(5.4)	0.8	鋸歯状沈線(横位・2重)・斜縄文(RL横回転)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	H13調査	0085
82	72	88	SI	21		床面	深鉢	ⅢB1	口縁部	—	—	(4.1)	0.6	沈線(縦位)・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	黒色粒子・砂少	10YR4/1 褐灰色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0097
83	72	88	SI	21	QSE	覆土	深鉢	ⅡC2	口縁部	—	—	(6.3)	0.8	鋸歯状沈線(横位)・斜縄文(LR横回転)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR5/2 灰黄褐色	H13調査	0086
84	72	88	SI	21	炉	覆土	深鉢	ⅢD2①	口縁部	—	—	(6.0)	0.8	斜縄文(RLR縦回転)	ナデ	金雲母少	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	H13調査	0084
85	72	88	SI	21	QNW	覆土下位	深鉢	Ⅲ	底部	—	—	(1.8)	0.9	ナデ	ナデ	金雲母・石英少	5YR7/6明黄褐色	5YR7/8橙色	H13調査	0082
86	72	88	SI	21	北ベルト	覆土中位	深鉢	Ⅲ	底部	—	—	(3.3)	0.7	ナデ	ナデ	石英少	10YR5/1 褐灰色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H13調査	0083
87	72	88	SI	23		床面	深鉢	ⅡA1a	口縁部	—	—	(4.6)	0.7	斜縄文(RL横回転)・末端処理(Z)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H13調査	0088
88	72	88	SI	23		床面	深鉢	ⅡA1a	胴部	—	—	(11.7)	0.8	斜縄文(LR横回転)・末端処理(Z)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0089
89	72	88	SI	23		床面	深鉢	ⅡF4	胴部	—	—	(6.7)	1.0	斜縄文(前々段多条LR横回転)	ナデ・炭化物	黒色粒子・石英少	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0090
90	72	88	SI	23		床面	深鉢	ⅡA1e	胴部	—	—	(6.2)	0.8	結節(L横回転)	ナデ	白色粒子多	7.5YR6/6 橙色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0091
91	73	83	SI	24		覆土下位		Ⅲ	底部	—	11.2	(7.3)	0.7	ナデ	ナデ	石英少	10YR8/4 浅黄橙色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0092
92	73	83	SI	24	北東P	覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	5.0	(3.4)	0.5	ナデ	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H13調査	0154
93	73	72	SI	24	EP	覆土上位	深鉢	ⅡF4	口縁部	—	〔14.1〕	(8.4)	0.9	斜縄文(RL横回転)・末端処理(Z)・口唇部刻目(爪状)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H13調査	0155
94	73	88	SI	25	QSW	床面	深鉢	ⅡF5	口縁部	—	—	(11.5)	0.8	ナデ・口唇部指頭圧痕	ナデ	石英・砂少	5YR6/8明黄褐色	5YR6/8橙色	H13調査	0094
95	73	88	SI	25	中央部	覆土下位	深鉢	ⅢA2	胴部上半	—	—	(2.8)	0.4	ナデ・円形隆帯	ナデ	砂少	10YR3/1 黒褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0096

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
96	73	88	SI	25	壁際P9		深鉢	Ⅱ	胴部	—	—	(6.0)	0.9	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	石英少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H13調査	0093
97	73	88	SI	25	壁際P7		深鉢	Ⅱ	胴部	—	—	(4.8)	0.7	斜縄文(LR横回転)	ナデ	石英・砂少	10YR4/1 褐灰色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0095
98	73	73	SI	27		床面	深鉢	ⅡF2b	口縁～胴部1/3	25.1	—	(24.5)	0.7	口唇部小波状貼付文・胴部上半小波状貼付文(3重)＋ハート形文・斜縄文(LR横回転)	ナデ	長石少　石英多	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR4/1 褐灰色	H14調査	2022
99	73	89	SI	27		床面	深鉢	ⅡE2b	胴部上半	—	—	(6.0)	0.8	小波状貼付文＋ハート形文？・斜縄文(LR横回転)	ナデ	長石・石英少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H14調査	2023
100	73	73	SI	27		床面	深鉢	ⅡE2b	口縁～胴部上半	〔19.6〕	—	(16.5)	0.7	小波状貼付文(2重)＋ハート形文・単軸絡条体第1類	ナデ	石英・黒色粒子少	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR3/1 黒褐色	H14調査	2025
101	74	89	SI	27		床面	深鉢	ⅡE2a	口縁部	—	—	(7.0)	0.7	口唇部小波状貼付文(C字)・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	石英多量　黒色粒子少量	10YR4/1 褐灰色	10YR3/1 黒褐色	H14調査	2026
102	74	73	SI	27		床面	小形深鉢	ⅡF5	2/3完形	12.0	7.3	9.2	0.7	ナデ	ナデ	長石・石英少	7.5YR6/3 にぶい褐色	7.5YR3/1 黒褐色	H14調査	2041
103	74	89	SI	27		床面	深鉢	ⅡF4	胴部	—	—	(13.0)	0.7	斜縄文(0段多条縦回転)	ナデ	長石少	10YR3/2 黒褐色	10YR2/2 黒褐色	H14調査	2039
104	74	73	SI	27		床直上	深鉢	ⅡA1a	口縁～胴部上半	23.9	—	(24.3)	0.8	斜縄文(RL縦回転)・末端処理	ナデ	長石・石英少	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR6/3 にぶい褐色	H14調査	2001
105	74	89	SI	27		床直上	深鉢	ⅡA1a	口縁部	—	—	(9.6)	0.8	斜縄文(LR縦回転)・末端処理	ナデ	金雲母少	7.5YR7/6 橙色	7.5YR2/1 黒色	H14調査	2003
106	74	89	SI	27		床直上	深鉢	ⅡA1a	口縁～胴部上半	—	—	(16.4)	0.9	斜縄文(RL縦回転)・末端処理	ナデ	長石・石英少	7.5YR7/6 橙色	7.5YR8/8 黄橙色	H14調査	2004
107	74	89	SI	27		床直上	深鉢	ⅡA1e	胴部	—	—	(8.0)	0.9	結節(LR横回転)	ナデ	長石・石英少	10YR7/6 明黄褐色	7.5YR7/6 橙色	H14調査	2006
108	74	89	SI	27		床直上	深鉢	ⅡA1d/ⅡE	胴部	—	—	(7.5)	0.9	附加条斜縄文(RL＋r横回転)	ナデ	長石少	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	H14調査	2010
109	75	89	SI	27		床直上	深鉢	ⅡA1d/ⅡE	胴部	—	—	(6.0)	1.0	附加条斜縄文(RL＋r横回転)・末端処理(Z)	ナデ	長石少	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	H14調査	2011
110	75	89	SI	27		床直上	深鉢	ⅡA1d/ⅡE	胴部	—	—	(3.5)	0.8	附加条斜縄文(RL＋r横回転)	ナデ	長石少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H14調査	2012
111	75	89	SI	27		床直上	深鉢	ⅡB1	胴部	—	—	(5.3)	1.0	単軸絡条体第3類(S字状連鎖沈文)	ナデ	長石・黒色粒子少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR3/2 黒褐色	H14調査	2013
112	75	89	SI	27	北東	床直上	深鉢	ⅡC1	口縁部	—	—	(4.6)	0.7	竹管円文・沈線(縦位)	ナデ	長石・石英・海綿骨針少	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR3/1 黒褐色	H14調査	2015
113	75	89	SI	27		床直上	深鉢	ⅡC1	口縁部	—	—	(4.2)	1.0	竹管円文・沈線(横位)	ナデ	長石・白色粒子少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	H14調査	2016
114	75	89	SI	27		床直上	深鉢	ⅡE1	口縁部	—	—	(8.7)	0.9	口唇部小波状貼付文・鋸歯状沈線(2重・横位)・斜縄文(LR横)	ナデ	石英少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H14調査	2019
115	75	89	SI	27	中央	床直上	深鉢	ⅡC2?	胴部	—	—	(4.3)	0.9	半裁竹管による垂下する鋸歯状沈線・単軸絡条体第1類	ナデ	長石・黒色粒子少	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H14調査	2036
116	75	89	SI	27		床直上	深鉢	ⅡE2b	胴部	—	—	(11.2)	0.7	小波状貼付文(2重)＋ハート形文・斜縄文(LR縦)	ナデ	石英・金雲母少	10YR3/2 黒褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H14調査	2027
117	75	73	SI	27		床直上	台付鉢	ⅡH	2/3完形	16.4	11.0	14.2	0.7	口唇部小波状貼付文・頸部小波状貼付文(2重連結)・台部すかし・斜縄文(RL斜回転)	ナデ	石英・黒色粒子少	10YR4/1 褐灰色	10YR3/1 黒褐色	H14調査	2028
118	75	89	SI	27	中央南	床直上	深鉢	ⅡE2b	胴部	—	—	(7.3)	0.7	小波状貼付文(3重)＋斜行する貼付文・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石・石英・黒・白色粒子少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	H14調査	2032
119	75	89	SI	27	中央	床直上	深鉢	ⅡE3	胴部	—	—	(5.2)	0.9	上下を直線隆帯に区画される横走梯子状隆帯・附加条斜縄文(RL＋r横回転)	ナデ	長石・石英・黒色粒子少	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	H14調査	2034

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
120	75	74	SI	27		床直上	深鉢	ⅡF4	胴部～底部	－	8.9	(20.6)	0.6	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	長石多量 石英少量	7.5YR6/6 橙色	7.5YR4/2 灰褐色	H14調査	2038
121	76	89	SI	27		覆土	深鉢	ⅡA1a	口縁部	－	－	(13.4)	0.9	斜縄文(RL縦回転)・末端処理	ナデ	長石・黒色粒子少	7.5YR4/1 褐灰色	7.5YR5/3 にぶい褐色	H14調査	2002
122	76	89	SI	27	南端部	覆土	深鉢	ⅡA1e	胴部	－	－	(6.3)	0.8	結節(R横回転・Z)	ナデ	長石・石英少	10YR4/1 褐灰色	10YR4/1 褐灰色	H14調査	2007
123	76	89	SI	27	南端部	覆土	深鉢	ⅡA1c	胴部	－	－	(10.5)	0.7	羽状縄文(RL＋RL横回転・結束第1種)・菱形文	ナデ	長石・金雲母少	10YR8/2 灰白色	10YR8/3 浅黄橙色	H14調査	2009
124	76	90	SI	27		覆土	深鉢	ⅡA1b	胴部	－	－	(5.0)	0.8	単軸絡条体第5類	ナデ	長石多	10YR6/6 明黄褐色	10YR3/2 黒褐色	H14調査	2008
125	76	90	SI	27		覆土1層	深鉢	ⅡA1a	胴部	－	－	(12.5)	0.8	縄文(0段多条LR斜)・末端処理	ナデ	長石・石英少	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	H14調査	2005
126	76	90	SI	27	中央西	覆土	深鉢	ⅡB1	胴部	－	－	(5.4)	1.1	粘土紐貼付(点列)・単軸絡条体第3類	ナデ	長石少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/6 明褐色	H14調査	2014
127	76	90	SI	27		覆土	深鉢	ⅡB2	胴部	－	－	(3.0)	0.7	単軸絡条体第5類	ナデ	長石少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	H14調査	2037
128	76	90	SI	27	南端部	覆土	深鉢	ⅡC2	口縁部	－	－	(5.5)	0.8	鋸歯状沈線(横位)・斜縄文(RL横回転)	ナデ	石英・黒色粒子少	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR2/2 黒褐色	H14調査	2018
129	76	90	SI	27		覆土1層	深鉢	ⅡC2	口縁部	－	－	(7.1)	0.8	段上突起・鋸歯状沈線(横位)・沈線(横位)	ナデ	長石・石英少	10YR3/2 黒褐色	10YR4/1 褐灰色	H14調査	2017
130	76	90	SI	27	南端部	覆土	深鉢	ⅡD	口縁部	－	－	(10.1)	0.7	口縁部太い隆帯の貼付文(棒状工具による斜刻目)・細隆帯による貼付文・斜縄文(LR縦回転)	ミガキ	石英・黒色粒子・金雲母少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR3/2 黒褐色	H14調査	2033
131	76	90	SI	27	南端部	覆土	深鉢	ⅡE1	口縁部	－	－	(7.7)	0.7	口唇部小波状貼付文・鋸歯状沈線(横位)・斜縄文(LR横)	ナデ	長石・石英少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 明黄褐色	H14調査	2020
132	76	90	SI	27		覆土	深鉢	ⅡE1	口縁部	－	－	(6.2)	0.7	鋸歯状沈線(2重・横位)・斜縄文(LR横回転)	ナデ	長石多 白・黒色粒子少	10YR3/1 黒褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H14調査	2021
133	76	90	SI	27	南端部	覆土	深鉢	ⅡF1	胴部	－	－	(6.0)	0.8	半裁竹管による垂下する鋸歯状沈線・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石・黒色粒子・海綿骨針少	10YR4/1 褐灰色	10YR5/2 灰黄褐色	H14調査	2035
134	77	90	SI	27		覆土	深鉢	ⅡF2b	胴部上半	－	－	(15.1)	0.7	小波状貼付文(2重)＋ハート形文・単軸絡条体第1類	ナデ	長石多 石英少	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR4/1 褐灰色	H14調査	2024
135	77	90	SI	27		覆土上位～中位	深鉢	ⅡE2b	胴部	－	－	(14.3)	1.0	小波状貼付文(2重)＋ハート形文・斜縄文(RL横回転)	ナデ	石英多	10YR3/2 黒褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H14調査	2040
136	77	90	SI	27	南端部	覆土	深鉢	ⅡE2a	口縁部	－	－	(6.8)	0.7	口唇部内面及び胴部小波状貼付文(2重)・0段多条(RL斜回転)	ナデ	石英・黒色粒子少	10YR2/2 黒褐色	10YR2/1 黒色	H14調査	2029
137	77	90	SI	27	南端部	覆土	深鉢	ⅡE2b	口縁部～胴部上半	－	－	(11.8)	0.8	口唇部小波状貼付文(2重)・胴部並行す条縄文(LR)4重の貼付文と連結する3角形文・附加＋R縦回転)	ナデ	長石・石英・黒色粒子少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H14調査	2030
138	77	90	SI	27	南端部	覆土	深鉢	ⅡE3	胴部上半	－	－	(7.2)	0.7	横走する直線的隆帯の上下に小波状隆帯が並走・斜縄文(LR斜回転)	ナデ	長石・石英・白色粒子少	10YR2/2 黒褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H14調査	2031
139	78	74	SI	28	埋設土器	床面	深鉢	ⅢD2	ほぼ完形(口縁部なし)	－	13.1	(43.7)	0.9	斜縄文(LR縦回転)・底面木葉痕	ナデ	白色粒子多 金雲母少	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/6 橙色	H14調査	2052
140	77	90	SI	28		覆土	深鉢	ⅢD2①	口縁部	－	－	(4.6)	0.7	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	長石少 金雲母多	10YR4/2 灰黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	H14調査	2053
141	77	90	SI	28		覆土	深鉢	ⅢD3	口縁部	－	－	(4.2)	0.8	単軸絡条体第1類(縦位・LR)	ナデ	黒色粒子少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H14調査	2054
142	77	90	SI	28		覆土	深鉢	ⅢD3	胴部	－	－	(4.3)	0.8	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	白色粒子・金雲母少	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	H14調査	2056
143	77	90	SI	28	埋設土器付近	覆土	深鉢	ⅢC6	胴部	－	－	(4.8)	0.7	櫛目文(縦位)	ナデ	長石少 白色粒子多	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/4 にぶい褐色	H14調査	2055

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
144	77	83	SI	28		覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	10.6	(1.8)	0.9	底面網代痕	ナデ	黒色粒子少	7.5YR6/4にぶい橙色	7.5YR7/3にぶい橙色	H14調査	2057
145	79	90	SI	29		床面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(11.0)	0.7	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母少	7.5YR6/4	5YR7/6橙色	H14調査	2059
146	79	90	SI	29		床面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(6.5)	0.8	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石・黒色粒子少	7.5YR5/6明褐色	7.5YR7/4にぶい橙色	H14調査	2066
147	79	90	SI	29		覆土1層	深鉢	ⅢE	口縁部	—	—	(7.9)	0.7	中空突起(把手状装飾帯)	ナデ	白色粒子・金雲母少	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR5/3にぶい黄褐色	H14調査	2070
148	79	90	SI	29		覆土	深鉢	ⅢC3a④	口縁部	—	—	(6.3)	0.8	把手状装飾帯・山形突起の下部に刺突充填区画・沈線・ミガキ	ナデ	石英・金雲母少	7.5YR6/6橙色	7.5YR7/6橙色	H14調査	2071
149	79	91	SI	29		覆土	深鉢	ⅢC3a④	口縁部	—	—	(3.0)	0.7	山形突起の下部に刺突充填区画・沈線・ミガキ	ミガキ・内面黒色付着物あり	石英・金雲母極少	10YR5/2灰黄褐色	10YR5/3にぶい黄褐色	H14調査	2063
150	79	91	SI	29	QNE	覆土	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(5.3)	0.6	斜縄文(LR縦回転)・沈線・磨り消し	ナデ	金雲母少	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR3/1黒褐色	H14調査	2065
151	79	91	SI	29		覆土1層	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(6.0)	0.8	斜縄文(LR縦回転)・沈線・磨り消し	ナデ	金雲母少	7.5YR3/1黒褐色	7.5YR7/3にぶい橙色	H14調査	2067
152	79	74	SI	29		覆土	浅鉢	ⅢD3	1/2完形	10.3	5.3	6.9	0.4	斜縄文(LR縦・斜回転)	ナデ	金雲母少	10YR4/2灰黄褐色	10YR5/2灰黄褐色	H14調査	2072
153	79	91	SI	29		覆土	深鉢	ⅢD2①	口縁～胴部上半	—	—	(17.8)	0.8	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR6/4にぶい橙色	5YR6/6橙色	H14調査	2058
154	79	91	SI	29		覆土	深鉢	ⅢD2①	口縁部	—	—	(6.9)	0.8	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母少	5YR7/8橙色	5YR7/4にぶい橙色	H14調査	2060
155	79	91	SI	29		覆土1層	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(2.3)	0.6	斜縄文(LR縦回転)・連続刺突文(横位)	ナデ	石英少	7.5YR3/1黒褐色	7.5YR6/2灰褐色	H14調査	2068
156	79	91	SI	29		覆土	深鉢	ⅢC4a	口縁部	—	—	(4.8)	0.6	縄文(0段多条RL斜回転)・沈線	ナデ	黒色粒子 金雲母少	10YR5/2灰褐色	10YR5/3にぶい黄褐色	H14調査	2061
157	79	91	SI	29	QSE	覆土	深鉢	ⅢC6	口縁部	—	—	(5.7)	0.6	櫛目文(縦位)	ナデ	白色粒子 金雲母少	10YR4/2灰褐色	10YR6/2灰黄褐色	H14調査	2062
158	79	91	SI	29	QNE	覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(2.0)	0.7	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	長石少	10YR2/1黒色	7.5YR6/6橙色	H14調査	2064
159	79	91	SI	29		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(5.1)	1.0	単軸絡条体第5類	ナデ	長石少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR8/4浅黄橙色	H14調査	2069
160	79	83	SI	29		覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	—	(4.4)	0.6	単軸絡条体第1類(縦位・L)・底面ミガキ	ナデ	長石・金雲母少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色	H14調査	2074
161	79	83・101	SI	29		覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	—	(3.3)	0.9	網代痕	ナデ	長石・金雲母少	10YR7/6明黄褐色	10YR8/4浅黄橙色	H14調査	2073
162	80	75	SI	31	炉埋設土器	炉	深鉢	ⅢD3	2/3完形	—	10.4	(32.5)	0.8	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	金雲母少	7.5YR7/6橙色	7.5YR7/6橙色	H14調査	2076
163	80	75	SI	31		床面	壷	ⅢF	完形	5.2	5.0	6.1	0.4	ナデ	ナデ	金雲母多	7.5YR6/4にぶい橙色	7.5YR3/2黒褐色	H14調査	2092
164	80	75	SI	31		床面	深鉢	ⅢC3a②	1/2胴部上半	〔30.3〕	—	(27.7)	0.6	S字状文様帯・鰭状突起・斜縄文(LR縦回転)・沈線・磨り消し	ナデ	黒色粒子・金雲母少	5YR6/4にぶい橙色	5YR6/6橙色	H14調査	2075
165	81	91	SI	31		床面	深鉢	ⅢE	口縁部	—	—	(8.1)	0.7	中空突起・隆帯に沿う刺突・沈線・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・石英・金雲母少	10YR4/2灰黄褐色	7.5YR6/6橙色	H14調査	2080
166	81	91	SI	31		床面	深鉢	ⅢD2②	口縁部	—	—	(6.4)	0.7	鰭状突起・隆帯・沈線・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	黒色粒子・金雲母少	7.5YR3/1黒褐色	7.5YR6/4にぶい橙色	H14調査	2081
167	81	91	SI	31		床面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(8.2)	0.7	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR6/6橙色	7.5YR5/6明褐色	H14調査	2084

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
168	81	91	SI	31		床面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.0)	0.8	単軸絡条体第1類(LR縦回転)	ナデ	石英少	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR5/6 明褐色	H14調査	2088
169	81	83	SI	31		床面	深鉢	Ⅲ	底部	—	8.4	(5.7)	0.7	斜縄文(LR縦回転)・ナデ	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR4/6 褐色	7.5YR4/6 褐色	H14調査	2091
170	81	91	SI	31	QSW	覆土	深鉢	ⅢC4b	口縁部	—	—	(6.7)	0.6	隆帯・刺突文・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石少 金雲母多	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H14調査	2077
171	81	91	SI	31		覆土	深鉢	ⅢD5	口縁部	—	—	(7.9)	0.7	橋状把手・並行する隆帯・沈線・充填(前々段多条RL斜回転)	ナデ	長石・金雲母少	10YR7/6 明黄褐色	10YR6/6 橙色	H14調査	2078
172	81	91	SI	31		覆土	深鉢	ⅢE	口縁部	—	—	(7.8)	0.4	中空突起・隆帯に沿う刺突・沈線	ナデ	白色粒子 金雲母少	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR6/6 明黄褐色	H14調査	2079
173	81	76	SI	31		覆土	深鉢	ⅢE	口縁～胴部	〔31.9〕	—	(34.6)	0.8	中空突起(4単位)・沈線・磨り消し・隆帯・斜縄文(RL斜回転)・ノ字状装飾帯	ナデ	金雲母多量	7.5YR5/3 にぶい褐色	5YR6/6橙色	H14調査	2083
174	81	91	SI	31		覆土	深鉢	ⅢC3	口縁部	—	—	(4.2)	0.6	鰭状突起・沈線・単軸絡条体第1類(縦位・L)・黒色付着物	ナデ	石英少	7.5YR3/1 黒褐色	7.5YR6/6 橙色	H14調査	2082
175	82	91	SI	31	QSW	覆土	深鉢	ⅢC4a	胴部	—	—	(5.1)	0.6	鰭状突起・沈線・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	石英・金雲母少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H14調査	2086
176	82	91	SI	31		覆土	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(3.5)	0.8	充填(斜縄文RL縦回転)・沈線	ナデ	長石・金雲母少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H14調査	2085
177	82	84	SI	31		覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	6.3	(4.5)	0.7	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	金雲母多	7.5YR4/6 褐色	7.5YR5/6 明褐色	H14調査	2087
178	82	91	SI	31	QSW	覆土	深鉢	ⅢD3	口縁部	—	—	(7.4)	0.7	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	白色粒子・金雲母少	5YR5/6明赤褐色	5YR4/6赤褐色	H14調査	2089
179	82	91	SI	31		覆土	深鉢	ⅢD3	胴部上半	—	—	(8.0)	0.6	斜縄文(RL斜回転)・補修孔	ナデ		10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	H14調査	2093
180	82	91	SI	31		覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	—	(12.2)	0.7	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石多 黒色粒子少	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR3/1 黒褐色	H14調査	2090
181	82	91	SI	32		覆土上位	深鉢	ⅢC4a	口縁部	—	—	(7.1)	0.5	沈線・磨り消し・斜縄文(0段多条LR縦回転)・波状口縁	ミガキ	石英極少	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR3/2 黒褐色	H14調査	2094
182	82	91	SI	32		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(6.0)	0.7	斜縄文(0段多条LR縦回転)	ナデ	白色粒子・金雲母多	5YR6/6橙色	5YR5/8明赤褐色	H14調査	2097
183	82	91	SI	32	炉付近	覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.8)	0.7	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	黒色粒子・金雲母少	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H14調査	2095
184	82	91	SI	32		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(6.2)	0.6	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	石英・金雲母少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H14調査	2096
185	82	91	SI	32	炉付近	覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(7.9)	0.5	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	白色粒子多 金雲母少	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR4/2 灰褐色	H14調査	2098
186	82	84・101	SI	32	炉付近	覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	10.4	(2.8)	0.8	木葉痕	ナデ	長石少 金雲母多	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	H14調査	2099
187	83	77	SI	35	炉内床	炉	深鉢	ⅢC3a ③	1/2胴部上半	29.3	—	(35.5)	0.9	8字状文様帯・沈線・磨り消し・斜縄文(RL斜回転)	ナデ	金雲母少	10YR6/6 明黄褐色	7.5YR7/6 橙色	H14調査	2100
188	82	78	SI	35	炉埋設土器	炉	深鉢	ⅢC2a ③	ほぼ完形	〔27.1〕	8.5	44.2	0.9	山形突起・口縁部刺突・U字状文様帯・沈線・磨り消し・鰭状突起・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	金雲母多	2.5YR6/6 橙色	5YR7/6橙色	H14調査	2103
189	83	92	SI	35	炉内	炉	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(5.2)	0.6	沈線・磨り消し・単軸絡条体第1類(L)	ナデ	長石・石英少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H14調査	2122
190	83	92	SI	34		床面	深鉢	ⅢD4	口縁部	—	—	(13.8)	1.0	口縁部磨り消し・ノ字状文様帯・沈線・磨り消し・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石多 金雲母少	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR3/1 黒褐色	H14調査	2137
191	84	76	SI	34・39		床直上	深鉢	Ⅲ？	口縁～胴部	—	—	(24.3)	0.8	鋸歯状沈線(2重・縦位)・沈線内部磨り消し・異条縄文	ナデ	長石・石英少	5YR7/6橙色	5YR5/4にぶい赤褐色	H14調査	2105

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
192	84	92	SI	34		床直上	深鉢	Ⅱ	口縁部	—	—	(6.7)	0.6	半裁竹管による波状沈線(縦・斜位)・隆帯及びそれに伴う刺突・横位縄文(RL斜回転)	ナデ	長石多	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/6明黄褐色	H14調査	2135
193	84	92	SI	34・39		床直上	深鉢	ⅡA1e	口縁～胴部上半	—	—	(16.8)	0.7	結節・異条縄文	ナデ	長石少	5YR6/6橙色	7.5YR4/3褐色	H14調査	2108
194	84	76	SI	34		床直上	深鉢	ⅢD1	ほぼ完形	22.3	8.9	28.5	0.9	波状口縁・口縁部刺突・山形突起の下部に刺突充填区画・沈線 ・磨り消し・三日月状隆帯・斜縄文(前々段多条RL縦回	ナデ	長石・石英・金雲母少	7.5YR5/3にぶい褐色	7.5YR3/1黒褐色	H14調査	2102
195	84	77	SI	34		床直上	深鉢	ⅢC3b	1/2胴部上半	26.4	—	(25.0)	0.7	S字状文様帯・斜縄文(LR縦回転)・沈線・磨り消し	ナデ	長石少	5YR6/6橙色	5YR6/8橙色	H14調査	2104
196	85	92	SI	34		床直上	深鉢	ⅢD1	口縁部	—	—	(9.6)	0.8	波状口縁・キャリパー形・口縁部刺突・沈線・斜縄文(0段多条RL縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色	H14調査	2113
197	85	92	SI	34		床直上	深鉢	ⅢD4	口縁部	—	—	(9.7)	0.8	ノ字状文様帯・沈線・磨り消し・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR3/2黒褐色	H14調査	2114
198	85	92	SI	34		床直上	深鉢	ⅢD4a	口縁部	—	—	(9.2)	0.8	沈線・磨り消し・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	長石少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR7/6明黄褐色	H14調査	2112
199	85	77	SI	34		床直上	深鉢	ⅢC4c	1/2胴部上半	19.8	—	(23.6)	0.6	斜縄文(RL縦回転)・口縁ナデ	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR5/3にぶい褐色	7.5YR6/6橙色	H14調査	2101
200	85	79	SI	34		床直上	深鉢	ⅢC5	口縁～胴部	26.9	—	(34.4)	0.8	斜縄文(LR斜回転)・末端処理(Z)	ナデ	長石・白色粒子少	7.5YR6/6橙色	7.5YR4/2灰褐色	H14調査	2106
201	85	92	SI	34	QNW	床直上	深鉢	Ⅲ	口縁部	—	—	(4.6)	0.8	棒状工具による長い連続刺突・斜縄文(LR縦回転)	ミガキ	石英多	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR3/1黒褐色	H14調査	2121
202	85	78	SI	34		床直上	深鉢	ⅢG	口縁部	6.8	—	(3.0)	0.5	連続穿孔	ナデ	石英・黒色粒子少	7.5YR7/4にぶい橙色	7.5YR7/6橙色	H14調査	2118
203	85	92	SI	33	中央南	覆土下位	深鉢	ⅢE	口縁部	—	—	(4.9)	0.7	把手状装飾帯・中空突起	ナデ	長石・白色粒子・金雲母少	7.5YR7/6橙色	7.5YR6/4にぶい橙色	H14調査	2128
204	86	92	SI	33		覆土下位	深鉢	ⅢD4a	口縁部	—	—	(8.6)	0.8	沈線・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	長石・石英少	10YR4/1褐灰色	10YR4/2灰黄褐色	H14調査	2115
205	86	92	SI	33		覆土下位	深鉢	ⅢD1	口縁部	—	—	(9.4)	0.8	波状口縁・沈線・鰭状突起・磨り消し・単軸絡条体第1類(斜・R)	ナデ	長石少	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/3にぶい黄橙色	H14調査	2116
206	86	92	SI	33	中央南	覆土下位	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(4.2)	0.6	沈線・磨り消し・斜縄文(前々段多条RL縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	10YR5/3にぶい黄褐色	7.5YR6/8橙色	H14調査	2127
207	86	92	SI	33	中央北	覆土下位	深鉢	ⅢC3a④	口縁部	—	—	(4.7)	0.6	山形突起・口縁部刺突・沈線・磨り消し・斜縄文(0段多条RL縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR6/6橙色	7.5YR3/1黒褐色	H14調査	2129
208	86	92	SI	33	中央北	覆土下位	深鉢	ⅢC3a④	口縁部	—	—	(3.2)	(1.0)	山形突起・口縁部刺突・沈線・磨り消し・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石少	7.5YR7/8黄橙色	7.5YR7/6橙色	H14調査	2130
209	86	92	SI	33	中央	覆土下位	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(4.1)	0.8	沈線・充填・単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	金雲母少	7.5YR5/1褐灰色	7.5YR6/3にぶい褐色	H14調査	2134
210	86	78	SI	33		覆土下位	深鉢	ⅢC5	胴部下半～底部	—	8.2	(15.5)	0.9	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・石英少	5YR5/6明赤褐色	5YR6/6橙色	H14調査	2111
211	86	84	SI	33		覆土下位	深鉢	Ⅲ	底部	—	4.6	(4.7)	0.5	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	長石・石英少	10YR4/2灰黄褐色	10YR5/3にぶい黄褐色	H14調査	2119
212	86	84	SI	33	QNE	覆土下位	深鉢	Ⅲ	底部	—	4.9	(2.1)	0.7	ナデ	ナデ	白色粒子多金雲母少	5YR6/6橙色	5YR5/6明赤褐色	H14調査	2136
213	86	92	SI	33		覆土	深鉢	ⅢB1	口縁部	—	—	(5.6)	0.9	沈線・渦巻き状文様帯・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石・石英少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR6/6明黄褐色	H14調査	2117
214	86	92	SI	33	QSE	覆土	深鉢	ⅢC3a	口縁部	—	—	(5.0)	0.6	沈線・磨り消し・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	10YR4/3にぶい黄褐色	10YR6/4にぶい黄橙色	H14調査	2131
215	86	92	SI	33	QSE	覆土	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(13.0)	0.8	沈線・磨り消し・三日月状装飾帯・斜縄文(前々段多条RL縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	10YR6/6明黄褐色	7.5YR6/6橙色	H14調査	2132

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
216	86	92	SI	33	QSE	覆土	深鉢	ⅢD1	口縁部	—	—	(5.9)	0.5	波状口縁・沈線・磨り消し・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母少	10YR5/2 灰黄褐色	7.5YR6/6 橙色	H14調査	2133
217	86	92	SI	33		覆土	深鉢	ⅢD2②	口縁～胴部上半	—	—	(23.0)	0.8	単軸絡条体第1類(縦位・L)・沈線(口縁部横位)	ナデ	白色粒子多 金雲母少	5YR6/6橙色	5YR6/8橙色	H14調査	2109
218	86	85	SI	33	ベルト	覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	4.2	(6.9)	0.7	複節異条縄文(縦位・L＋R)	ミガキ	金雲母多	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR3/2 黒褐色	H14調査	2120
219	87	93	SI	33・39		覆土	深鉢	Ⅱ A1a？	口縁～胴部	—	—	(25.8)	0.8	斜縄文(0段多条RL斜回転)・末端処理(Z)	ナデ	長石・黒色粒子少	5YR6/6橙色	5YR4/2灰褐色	H14調査	2107
220	87	93	SI	33	ベルト	覆土	深鉢	Ⅲ	口縁部	—	—	(5.1)	0.6	斜縄文(LR横回転)・末端処理(Z)	ナデ	長石少 金雲母多	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H14調査	2126
221	87	79	SI	33		覆土1層	深鉢	ⅢC2	ほぼ完形	14.0	6.9	20.3	0.7	ト字状文様帯・沈線・三日月状装飾帯・磨り消し・斜縄文(0段多条LR縦回転)・胴央部大波状区画沈線	ナデ	長石・金雲母少	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR4/2灰褐色	H14調査	2138
222	87	93	SI	33		覆土1層	深鉢	ⅢD2②	口縁～胴部上半	—	—	(24.8)	0.9	単軸絡条体第1類(縦位・L)・沈線(口縁部横位)	ナデ	白色粒子・金雲母多	5YR5/8明赤褐色	5YR4/8赤褐色	H14調査	2110
223	87	93	SI	33	(SK40)	覆土1層	深鉢	ⅢC	胴部	—	—	(8.4)	0.7	沈線・沈線区画内に連続刺突・充填・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H14調査	2123
224	87	93	SI	33	(SK40)	覆土1層	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(9.8)	0.6	沈線・充填・斜縄文(0段多条LR縦回転)	ナデ	金雲母少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H14調査	2125
225	87	93	SI	33	(SK40)	覆土1層	深鉢	ⅢC3	口縁部	—	—	(3.7)	0.6	並行する2列の刺突	ナデ	金雲母多	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	H14調査	2124
226	88	79	SI	36	炉埋設土器	炉	深鉢	ⅢC3b	胴部下半	—	—	(22.0)	0.9	S字状文様帯・沈線・磨り消し・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石少 金雲母多	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	H14調査	2142
227	88	93	SI	36	炉埋設土器	炉	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.7)	0.8	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	長石少	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/6 橙色	H14調査	2150
228	88	79	SI	36	炉跡内	炉	小形深鉢	ⅢC5	胴部下半～底部	—	2.9	(7.5)	0.3	斜縄文(前々段多条LR縦回転)・底部磨り消し	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR3/1 黒褐色	H14調査	2140
229	88	80	SI	36		床面	深鉢	ⅢC3a ①	口縁部～胴部上半	—	—	(29.3)	0.9	ノ字状文様帯・沈線・三日月状装飾帯・磨り消し・斜縄文(0段多条L縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	5YR6/6橙色	5YR4/2灰褐色	H14調査	2141
230	88	93	SI	36		床面	深鉢	ⅢD2②	口縁部～胴部上半	—	—	(19.5)	0.7	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・石英・金雲母少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	H14調査	2143
231	89	93	SI	36	中央西	床直上	深鉢	ⅢC3a	口縁部	—	—	(3.4)	0.7	沈線・充填・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母多	10YR3/2 黒褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H14調査	2155
232	89	79	SI	36		覆土3層	深鉢	ⅢC3a ①	ほぼ完形	13.8	5.8	21.5	0.5	ノ字状文様帯・沈線・磨り消し・斜縄文(前々段多条RL縦回転)・三日月状装飾帯	ナデ	長石・石英・金雲母少	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR3/2 黒褐色	H14調査	2139
233	89	93	SI	36		覆土3層	深鉢	ⅢC3a ④	胴部	—	—	(5.7)	0.8	沈線・磨り消し・刺突充填円形区画・縦位縄文(RL斜回転)	ナデ	金雲母少	7.5YR4/3 褐色	7.5YR7/6 橙色	H14調査	2148
234	89	93	SI	36		覆土3層	深鉢	ⅢC3a	口縁部	—	—	5.8	0.6	沈線・口縁部磨り消し・縦位縄文(RL斜回転)	ナデ	金雲母少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H14調査	2149
235	89	93	SI	36		覆土3層	深鉢	ⅢC4b	口縁部	—	—	(4.5)	0.7	刺突を伴う隆帯・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR4/3 褐色	7.5YR4/2 灰褐色	H14調査	2147
236	89	93	SI	36	P	覆土	深鉢	ⅢC4b	口縁部	—	—	(4.8)	0.6	刺突を伴う隆帯	ナデ	長石・金雲母少	10YR7/6 明黄褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H14調査	2146
237	89	93	SI	36		覆土	深鉢	ⅢC4b	口縁部	—	—	(4.2)	0.6	並行する2列の刺突・口唇部外反	ナデ	長石・金雲母少	5YR6/6橙色	5YR6/6橙色	H14調査	2151
238	89	93	SI	36		覆土	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(4.1)	0.6	沈線・充填・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	5YR5/4 にぶい赤褐色	5YR6/6橙色	H14調査	2152
239	89	80	SI	36	ベルト	覆土	深鉢	ⅢC?	胴部下半～底部	—	15.1	(24.5)	0.8	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・金雲母少 白色粒子多	5YR6/6橙色	5YR5/6明赤褐色	H14調査	2144

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
240	89	93	SI	36	P	覆土	深鉢	Ⅲ	胴部下半	—	—	(10.0)	0.6	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ミガキ	白色粒子・金雲母少	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR2/1 黒色	H14調査	2145
241	89	93	SI	36		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.2)	0.5	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	石英・金雲母少 白色粒子多	10YR3/1 黒褐色	10YR3/1 黒褐色	H14調査	2154
242	89	93	SI	36	ベルト	覆土	深鉢	ⅢD3	口縁部	—	—	(5.9)	0.8	斜縄文(0段多条RL横回転)・末端処理(Z)	ナデ	長石・石英少	7.5YR4/2 灰褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	H14調査	2153
243	89	81	SI	36		覆土	深鉢	Ⅲ	口縁～胴部下半	24.7	〔11.4〕	27.5	0.8	斜縄文(0段多条LR縦回転)・末端処理(Z)・補修孔	ナデ	長石多	5YR7/6橙色	5YR5/3 にぶい赤褐色	H14調査	2157
244	89	93	SI	36	ベルト	覆土	深鉢	ⅢD2①	胴部	—	—	(3.2)	0.8	斜縄文(LR縦回転)	ナデ		10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	H14調査	2156
245	90	94	SI	38		覆土	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(5.5)	0.8	沈線・磨り消し・単軸絡条体第1類(RL？・縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR7/6 橙色	H14調査	2159
246	90	94	SI	38		覆土	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(2.9)	0.7	沈線・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・石英少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	H14調査	2160
247	90	80	SI	38		覆土上位	深鉢	ⅢC5	口縁～胴部下半	15.3	—	(17.7)	0.7	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石少 金雲母多	7.5YR6/6 橙色	7.5YR4/2 灰褐色	H14調査	2158
248	90	94	SI	40	炉埋設土器	床面	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(7.0)	0.7	沈線・磨り消し・斜縄文(LR縦回転)・被熱	ナデ・被熱	黒色粒子・白色粒子・金雲母少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	H14調査	2161
249	90	94	SI	40		覆土	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(4.7)	0.7	沈線・磨り消し・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR7/6 橙色	7.5YR6/6 橙色	H14調査	2163
250	90	94	SI	40		覆土	深鉢	ⅢC3a④	胴部	—	—	(2.6)	0.7	刺突充填区画	ナデ	金雲母少	7.5YR7/6 橙色	7.5YR8/6 浅黄橙色	H14調査	2164
251	90	94	SI	40		覆土	深鉢	ⅢC4a	口縁部	—	—	(4.2)	0.6	刺突に伴う隆帯(横位)	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR4/2 灰褐色	5YR5/6明赤褐色	H14調査	2162
252	90	94	SI	40		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(3.9)	0.9	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	白色粒子・金雲母少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/6 明褐色	H14調査	2165
253	90	85・101	SI	40	炉埋設土器	床面	深鉢	Ⅲ	底部	—	〔9.0〕	(1.6)	0.9	木葉痕	ナデ	長石・石英少	7.5YR6/6 橙色	5YR6/6橙色	H14調査	2166
254	90	85・101	SI	40	炉埋設土器	床面	深鉢	Ⅲ	底部	—	8.8	(3.0)	0.8	木葉痕・被熱	ナデ・被熱	長石・黒色粒子・白色粒子少 金雲母多	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/6 橙色	H14調査	2167
255	90	94	SX	1		底面	深鉢	ⅢB1?	胴部	—	—	(3.5)	0.8	半裁竹管小波状沈線(縦位)・縄文(0段段多条LR横回転)	ナデ・被熱	石英少	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H13調査	0100
256	90	94	SX	1		底面	深鉢	ⅢC3a	口縁部	—	—	(3.5)	0.7	沈線(区画)・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母・砂少	10YR5/6 黄褐色	10YR5/6 黄褐色	H13調査	0099
257	90	94	SX	1		底面	深鉢	ⅢB1?	胴部	—	—	(3.8)	0.6	沈線(区画)・斜縄文(RL横回転)	ナデ	砂少	5YR5/8明赤褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H13調査	0101
258	90	94	SX	1	南東	覆土	深鉢	ⅢC5	口縁部	—	—	(5.7)	0.8	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母・砂少	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	H13調査	0102
259	90	94	SX	1	QSE	覆土	深鉢	Ⅲ	胴部下半	—	—	(5.0)	1.0	単軸絡条体第1類(横位・R)	ナデ	白色粒子・砂多	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	H13調査	0103
260	90	94	SX	2		底面	深鉢	ⅢC3a	口縁部	—	—	(6.0)	0.7	沈線(区画)・磨り消し・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母・砂少	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	H13調査	0105
261	90	94	SX	2		底面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(10.5)	0.9	斜縄文(0段多条L縦回転)	ナデ	黒色粒子・砂少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	H13調査	0106
262	90	94	SX	2	中央	底面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.1)	1.1	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	黒色粒子・金雲母少	2.5YR5/6 明赤褐色	2.5YR4/3 にぶい赤褐色	H13調査	0107
263	90	94	SX	2	QNW	覆土	深鉢	ⅢC5	口縁部	—	—	(2.4)	0.7	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	石英少	10YR4/2 灰黄褐色	5YR4/6赤褐色	H13調査	0108

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
264	90	94	SX	2		覆土	深鉢	ⅢC4b	胴部	—	—	(4.6)	0.7	隆帯に伴う刺突・沈線(区画)	ナデ	金雲母少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H13調査	0109
265	91	94	SX	3		底面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.5)	1.0	斜縄文(RLR縦回転)	ナデ	金雲母少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	H13調査	0110
266	91	94	SX	3		底面	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.0)	0.8	斜縄文(RL横回転)・末端処理(Z)	ナデ	金雲母少	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR2/1 黒色	H13調査	0112
267	91	94	SX	3		底面	深鉢	ⅢC4	口縁部	—	—	(5.1)	1.0	ナデ	ナデ	黒色粒子少	10YR4/1 褐灰色	10YR4/1 褐灰色	H13調査	0111
268	91	94	SX	3		底面	深鉢	ⅢC4	底部	—	—	(3.3)	0.8	ナデ	ナデ	石英少	10YR6/1 褐灰色	10YR4/1 褐灰色	H13調査	0113
269	91	94	SX	4	QNE	覆土	深鉢	ⅡD	口縁部	—	—	(5.1)	0.6	粘土紐貼付(列点)・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	石英少	10YR3/2 黒褐色	5YR4/4にぶい赤褐色	H13調査	0114
270	91	94	SX	4	QNW	覆土	深鉢	Ⅱ	口縁部	—	—	(3.7)	0.8	縄文(LR縦)・末端処理	ナデ	白色粒子・砂多	10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/1 褐灰色	H13調査	0115
271	91	81	SX	5		底面	深鉢	ⅢC5	2/3完形(底部欠)	〔30.8〕	—	(38.0)	1.0	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	石英・砂多	2.5YR4/8 赤褐色	2.5YR5/8 明赤褐色	H13調査	0116
272	91	94	SX	6		底面	深鉢	ⅡE2a	口縁部	—	—	(4.0)	0.6	口唇部小波状貼付文(C字)・口唇部折り返し(外面へ)	ナデ	石英・砂少	10YR3/1 黒褐色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0117
273	91	94	SX	6		底面	深鉢	ⅢC4b	胴部上半	—	—	(5.6)	1.0	隆帯に伴う刺突・磨り消し・斜縄文(RL横回転)	ナデ	黒色粒子・砂少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	H13調査	0118
274	92	94	SX	9		底面	深鉢	ⅡC2	口縁部	—	—	(4.5)	0.7	半裁竹管による並行鋸歯状沈線(2重・横位)	ナデ	長石・黒色粒子少	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H14調査	2045
275	92	94	SX	9		覆土1層	深鉢	ⅡF3	胴部	—	—	(9.1)	0.8	粘土紐貼付文・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石・黒色粒子少	10YR3/2 黒褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H14調査	2044
276	92	94	SX	9		覆土1層	深鉢	ⅡE2a	口縁部	—	—	(2.8)	0.7	ドーナツ形装飾帯・口縁折り返し(内面側へ)・ナデ	ナデ	黒色粒子少 雲母多	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR7/6 橙色	H14調査	2046
277	92	94	SX	9		覆土1層	深鉢	Ⅱ	口縁～胴部上半	—	—	(19.2)	0.6	斜縄文(前々段多条LR横回転)・末端処理(S)	ナデ	長石少 白色粒子多	10YR5/3 にぶい黄褐色	7.5YR7/6 橙色	H14調査	2042
278	92	94	SX	9		覆土1層	深鉢	Ⅱ	胴部	—	—	(6.5)	0.8	単軸絡条体第1類	ナデ	長石・白色粒子少	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	H14調査	2043
279	92	95	SX	10		底面	深鉢	ⅡE2a	口縁部	—	—	(4.7)	1.0	口唇部太い小波状貼付文・ドーナツ形装飾帯・ナデ	ナデ	長石少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	H14調査	2051
280	92	95	SX	10		覆土1層	深鉢	ⅡG	口縁～胴部上半	11.3	—	9.3	0.5	口唇部小波状貼付文(渦巻文)・胴部小波状貼付文(4重)・ハート形文・輪積痕	ミガキ	長石・石英・黒色粒子少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR3/2 黒褐色	H14調査	2049
281	92	95	SX	10		覆土1層	深鉢	ⅡE～G	胴部	—	—	(3.6)	0.7	小波状貼付文(2重)	ナデ	長石少 石英多	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	H14調査	2050
282	92	95	SX	10		覆土1層	深鉢	Ⅱ	胴部	—	—	(15.0)	0.7	斜縄文(RL横回転)・末端処理(Z)	ナデ	長石少	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR3/2 黒褐色	H14調査	2047
283	92	95	SX	10		覆土1層	深鉢	Ⅱ	口縁部	—	—	(6.2)	0.7	斜縄文(RL横回転)・末端処理(Z)	ナデ	長石多 白色粒子少	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	H14調査	2048
284	92	95	SX	11		覆土	深鉢	ⅢD4	胴部	—	—	(5.9)	0.6	沈線・充填・斜縄文(LR横回転)	ナデ	白色粒子・金雲母少	5YR5/6明赤褐色	5YR6/8橙色	H14調査	2168
285	92	95	SX	11		覆土	深鉢	Ⅲ	口縁部	—	—	(7.5)	0.7	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・石英少量	5YR5/6明赤褐色	7.5YR6/6 橙色	H14調査	2169
286	92	95	SX	11		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(3.0)	0.8	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	金雲母少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR7/3 にぶい黄橙色	H14調査	2170
287	92	95	SX	12		覆土上位	深鉢	ⅠA1	口縁部	—	—	(5.6)	0.6	貝殻腹縁文・爪形文・黒色付着物	ナデ	長石・石英少	10YR3/1 黒褐色	10YR4/1 褐灰色	H14調査	2171

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
288	92	95	SX	12		覆土上位	深鉢	IA1	胴部	—	—	(7.3)	0.7	貝殻腹縁文	ミガキ・内面黒色付着物あり	金雲母少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR2/2 黒褐色	H14調査	2172
289	92	95	SX	12		覆土上位	深鉢	IA2	胴部	—	—	(5.0)	0.8	貝殻腹縁移動波状圧痕文	ナデ	長石多 金雲母少量	7.5YR6/6 橙色	7.5YR3/1 黒褐色	H14調査	2173
290	93	85	SK	2	南西側壁面	覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	8.7	(5.4)	0.8	ナデ	ナデ	石英少	5YR4/4にぶい赤褐色	5YR4/4にぶい赤褐色	H13調査	0119
291	93	85	SK	5		覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	〔8.4〕	(4.2)	0.9	斜縄文(RL横回転)	ナデ	白色粒子少	5YR4/6赤褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0156
292	93	95	SK	5	北側	覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	〔10.4〕	(6.7)	0.8	ナデ	ナデ	石英少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色	H13調査	0121
293	93		SK	5		覆土1(黒褐色)	深鉢	Ⅲ	底部	—	—	(7.1)	0.9	縄文(RL縦?)・網代痕	ナデ	石英少	10YR6/8 明黄褐色	10YR3/2 黒褐色	H13調査	0120
294	93	95	SK	8	底面直上	覆土(焼土層)	深鉢	Ⅳ	口縁部	〔32.2〕	—	(10.2)	0.7	斜縄文(LR横回転)・口縁内傾・側面圧痕(LR)・磨り消し	ナデ	白色粒子多	10YR6/3にぶい黄橙色	5YR6/8橙色	H13調査	0122
295	93	95	SK	8	北東	覆土中位	深鉢	Ⅳ	口縁部	—	—	(3.6)	0.6	側面圧痕(LR)・磨り消し	ナデ	白色粒子少	10YR5/4にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0123
296	93	95	SK	11		覆土中位	深鉢	ⅡE2a	胴部上半	—	—	(9.4)	0.9	横走する小波状貼付文(横位・2重)・斜縄文(LR横回転・太)	ナデ	石英少	10YR3/1 黒褐色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0125
297	93	95	SK	11	西側	覆土中位	深鉢	Ⅱ	胴部	—	—	(13.9)	0.8	斜縄文(RL横回転)・末端処理(Z)	ナデ	金雲母・石英少	2.5YR5/6 明赤褐色	10YR3/2 黒褐色	H13調査	0124
298	93	95	SK	11		覆土中位	深鉢	Ⅱ	胴部	—	—	(6.8)	0.6	斜縄文(LR横回転)	ナデ	石英少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/6 明黄褐色	H13調査	0126
299	93	96	SK	18	南東	覆土	深鉢	Ⅲ	胴部上半	—	—	(3.9)	0.7	沈線(横位・2重)・斜縄文(0段多条LR横回転)	ナデ	金雲母・石英少	10YR3/1 黒褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0129
300	93	96	SK	18	南東	覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(7.0)	0.9	附加条縄文(LR+L横回転)・末端処理(Z)	ナデ	白色粒子少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR4/3にぶい黄褐色	H13調査	0130
301	93	96	SK	18	ベルト西側	暗褐色土層	深鉢	Ⅲ	口縁部	—	—	(5.4)	0.7	沈線(横位)・斜縄文(LR横回転)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR4/1 褐灰色	10YR5/2 灰黄褐色	H13調査	0127
302	93	96	SK	18	ベルト西側	暗褐色土層	深鉢	Ⅲ	胴部上半	—	—	(8.0)	1.0	斜縄文(LR横回転)・末端処理(Z)	ナデ	金雲母・長石少	5YR5/6明赤褐色	5YR5/4にぶい赤褐色	H13調査	0128
303	94	96	SK	19		黒褐色	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(3.9)	0.8	斜縄文(LR横回転)	ナデ	石英・砂少	10YR4/3にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0133
304	94	96	SK	19	南側ベルト	覆土上位	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.4)	1.0	斜縄文(RL横回転)・末端処理(Z)	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色	H13調査	0131
305	94	96	SK	19	南側ベルト	覆土上位	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.6)	1.1	斜縄文(LR横回転)	ナデ	石英少	10YR7/6 明黄褐色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0132
306	94	96	SK	19	QSE	覆土上位	深鉢	Ⅲ	底部	—	—	(3.3)	0.9	ナデ・網代痕	ナデ	石英少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR2/1 黒色	H13調査	0134
307	94	96	SK	20		覆土下位	深鉢	ⅢD3	口縁部	—	—	(3.2)	0.8	斜縄文(0段多条RL縦回転)・波状口縁・穿孔	ナデ	長石少	5YR5/6明赤褐色	5YR4/4にぶい赤褐色	H13調査	0135
308	94	96	SK	20		覆土下位	深鉢	ⅢB1	口縁部	—	—	(3.0)	0.8	沈線・隆帯・磨り消し・斜縄文(LR横回転)	ナデ	石英・白色粒子少	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0139
309	94	85・96	SK	20		覆土下位	深鉢	ⅢA1	底部	—	—	(3.7)	0.7	沈線(縦位)・斜縄文(LR縦回転)	ミガキ	金雲母少	10YR6/6 明黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	H13調査	0147
310	94	85	SK	20		覆土中位	深鉢	Ⅲ	底部	—	〔9.8〕	(2.9)	0.5	木葉痕・ナデ	ナデ	砂多	10YR5/2 灰黄褐色	10YR5/6 黄褐色	H13調査	0148
311	94	96	SK	20		黒褐色	深鉢	ⅢD3	口縁部	—	—	(9.0)	0.9	縦位縄文(0段多条RL斜回転)	ナデ	金雲母・石英少	5YR4/4にぶい赤褐色	5YR4/8赤褐色	H13調査	0136

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
312	94	96	SK	20	攪乱	覆土上位	深鉢	ⅡF1	胴部上半	—	—	(6.7)	0.7	鋸歯状沈線(横位・2重)・斜縄文(LR横回転)・末端処理(Z)	ナデ	石英少	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0141
313	94	96	SK	20	攪乱	覆土上位	深鉢	Ⅱ	胴部	—	—	(10.4)	1.0	斜縄文(RL横回転)・末端処理(Z)	ナデ	金雲母少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H13調査	0142
314	94	96	SK	20		覆土	深鉢	Ⅲ	口縁部	—	—	(5.0)	1.0	ナデ	ナデ	黒色粒子・金雲母少	10YR3/1 黒褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H13調査	0137
315	94	96	SK	20		覆土	深鉢	Ⅲ	口縁部	—	—	(5.1)	0.7	沈線(横位)・斜縄文(0段多条L縦回転)	ナデ	金雲母・砂少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	H13調査	0138
316	94	96	SK	20		覆土	深鉢	ⅢA1	胴部上半	—	—	(5.7)	0.5	沈線・隆帯・磨り消し・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	白色粒子少	10YR4/1 褐灰色	10YR3/2 黒褐色	H13調査	0140
317	94	96	SK	24		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(3.6)	0.7	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	長石多	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	H14調査	2178
318	94	96	SK	24		覆土	深鉢	ⅢD3	口縁部	—	—	(4.0)	0.6	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石少　石英多	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H14調査	2179
319	94	96	SK	28		覆土下位	深鉢	ⅢD2	口縁部	—	—	(2.0)	0.7	連続する竹管刺突文(横位)	ミガキ	金雲母多	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR3/2 黒褐色	H14調査	2182
320	94	96	SK	28		覆土下位	深鉢	ⅢA・B	胴部	—	—	(6.0)	0.7	単軸絡条体第5類	ナデ	白色粒子・金雲母少	10YR7/6 明黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H14調査	2183
321	94	96	SK	28		覆土	深鉢	ⅢE?	口縁部	—	—	(4.8)	1.0	山形突起・刺突に伴う隆帯(横位)・沈線(縦位)	隆帯(横位)・ナデ	長石少　石英多	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H14調査	2184
322	94	96	SK	28		覆土	深鉢	ⅢE?	口縁部	—	—	(4.2)	0.6	沈線・刺突・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・石英・金雲母少	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H14調査	2185
323	94	96	SK	28		覆土	深鉢	ⅢD2②	口縁部	—	—	(5.1)	0.7	刺突に伴う隆帯(横位)	ナデ	長石・金雲母少	10YR6/6 明黄褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H14調査	2187
324	94	96	SK	28		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(6.8)	1.0	斜縄文(0段多条RL斜回転)	ナデ	長石・白色粒子少　金雲母多	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	H14調査	2186
325	94	96	SK	28		覆土上～中位	深鉢	Ⅲ C3a？	口縁部	—	—	(2.3)	0.5	沈線で区画された口縁部に並列する刺突文を充填	ナデ	長石・金雲母少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR7/6 明黄褐色	H14調査	2180
326	94	96	SK	28		覆土上～中位	深鉢	ⅢA・B	胴部	—	—	(2.8)	0.7	単軸絡条体第5類	ナデ	長石少　金雲母多	7.5YR6/6 橙色	7.5YR5/3 にぶい褐色	H14調査	2181
327	95	96	SK	29		覆土	深鉢	ⅢC3a ④	口縁部	—	—	(4.0)	0.7	沈線・磨り消し・刺突充填円形区画・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR6/6 橙色	H14調査	2188
328	95	96	SK	29		覆土	深鉢	ⅢC6	胴部	—	—	(5.3)	1.0	櫛目文(縦位)	ナデ	長石少	5YR5/6明赤褐色	5YR5/6明赤褐色	H14調査	2189
329	95	96	SK	29		覆土	深鉢	Ⅲ C3a？	口縁部	—	—	(3.0)	0.6	沈線で区画された口縁部に連続する刺突文を充填	ナデ	長石・金雲母少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR5/2 灰黄褐色	H14調査	2190
330	95	96	SK	30		覆土	深鉢	ⅢC3	胴部	—	—	(3.9)	0.8	沈線・磨り消し・斜縄文(0段多条LR縦回転)	ナデ	長石・石英・金雲母少	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H14調査	2192
331	95	96	SK	30		覆土	深鉢	ⅢD3	胴部	—	—	(3.5)	0.7	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR6/6 橙色	5YR5/6明赤褐色	H14調査	2191
332	95	96	SK	30		覆土1層	深鉢	ⅢD3	口縁部	—	—	(8.5)	0.8	斜縄文(0段多条RL縦回転)	ミガキ	長石・白色粒子・金雲母少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	H14調査	2193
333	95	96	SK	30		覆土1層	深鉢	Ⅲ	口縁部	—	—	(5.8)	0.6	斜縄文(0段多条RL縦回転)	ナデ	長石・金雲母少 白色粒子多	5YR4/6赤褐色	5YR4/8赤褐色	H14調査	2194
334	95	97	SK	33		覆土中位	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(5.7)	0.7	単軸絡条体第1類(横位・R)	ナデ		7.5YR5/6 明褐色	7.5YR3/2 黒褐色	H14調査	2195
335	95	97	SK	34		覆土中位	深鉢	ⅢC6	胴部	—	—	(2.8)	0.5	櫛目文(縦位)	ナデ	白色粒子多 金雲母少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	H14調査	2196

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
336	95	97	SK	38	底部付近	覆土下位	深鉢	ⅢD4	口縁部	—	—	(3.5)	0.4	沈線・磨り消し・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR3/3 暗褐色	H14調査	2197
337	95	97	SK	38		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部下半	—	—	(4.3)	0.7	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	長石・金雲母少	7.5YR3/3 暗褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	H14調査	2198
338	95	85	SK	38		覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	4.8	(4.3)	0.4	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	長石・金雲母少	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H14調査	2199
339	95	97	SK	39		覆土中位	深鉢	ⅢC	口縁部	—	—	(5.6)	0.6	山形突起・刺突に伴う隆帯(縦位)・沈線・磨り消し・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	白色粒子多 金雲母少	5YR4/6赤褐色	5YR3/3暗赤褐色	H14調査	2202
340	95	97	SK	39		覆土中位	深鉢	ⅢC4b	口縁部	—	—	(4.4)	0.5	刺突に伴う隆帯(横位)・沈線(縦位)・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石少 白色粒子・金雲母多	5YR5/6明赤褐色	5YR3/1黒褐色	H14調査	2201
341	95	97	SK	39		覆土中位	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(5.5)	0.8	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	長石・石英少 白色粒子多	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	H14調査	2203
342	95	97	SK	39		覆土	深鉢	ⅡC3	口縁部	—	—	(4.0)	0.7	半裁竹管による沈線・隆帯及びそれに伴う刺突・単軸絡条体第1類(斜位・L)	ナデ	長石少	10YR3/2 黒褐色	7.5YR7/6 橙色	H14調査	2204
343	95	97	SK	39		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(6.4)	0.9	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	長石・金雲母少 白色粒子多	5YR5/6明赤褐色	5YR5/4にぶい赤褐色	H14調査	2205
344	95	81	SK	39		覆土上位	深鉢	ⅢC5？	底部	—	12.5	(11.8)	0.8	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・石英・白色粒子・金雲母少	5YR6/6橙色	5YR7/6橙色	H14調査	2200
345	95	97	SK	40		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(6.1)	0.8	附加条斜縄文(R＋●・縦回転)	ナデ	石英少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H14調査	2206
346	95	85	SK	41		覆土	深鉢	Ⅲ	底部	—	6.9	(3.4)	0.7	底面指頭圧痕・上げ底	ナデ	白色粒子・金雲母少	5YR4/4にぶい赤褐色	5YR4/2灰褐色	H14調査	2207
347	96	97	SK	45		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(4.9)	0.8	斜縄文(LR縦回転)	斜縄文(LR縦回転)	長石少	7.5YR7/6 橙色	7.5YR4/2 灰褐色	H14調査	2208
348	96	97	SK	48		覆土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(3.3)	0.5	ノ字状文様帯・沈線・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	長石・石英少	10YR4/3 にぶい黄褐色	10YR3/2 黒褐色	H14調査	2209
349	96	97	SK	49		覆土上位	深鉢	ⅠA2	胴部	—	—	(6.2)	1.2	貝殻腹縁移動波状圧痕文	ナデ	長石・白色粒子・金雲母少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR3/2 黒褐色	H14調査	2210
350	96	82	SK	49		覆土上位	深鉢	ⅢC6	ほぼ完形	11.6	4.3	12.2	0.6	櫛目文(縦位)	ナデ	長石・石英少 白色粒子多	10YR5/3 にぶい黄褐色	10YR4/3 にぶい黄褐色	H14調査	2211
351	96	81	SR	1	埋設土器	底面	深鉢	ⅢC5？	1/2完形胴部下半	—	—	(22.2)	0.9	附加条縄文(R＋R●横回転)	ナデ	金雲母・長石少	5YR5/6明赤褐色	10YR5/2 灰黄褐色	H13調査	0149
352	96	97	SR	1		底面	深鉢	Ⅳ	胴部上半	—	—	(27.9)	0.6	横位縄文(LR斜回転)	ナデ	黒色粒子・金雲母少	10YR3/1 黒褐色	10YR7/4 にぶい黄橙色	H13調査	0150
353	96	97	SR	1		覆土上位	深鉢	Ⅳ	口縁部	—	—	(9.0)	0.7	斜縄文(LR横回転)・口縁内傾・側面圧痕(LR)・磨り消し	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR6/6 明黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	H13調査	0151
354	96	97	SR	1	埋設土器西側	覆土上位	深鉢	Ⅲ	底部	—	—	(6.2)	1.0	斜縄文(LR横回転)	ナデ	金雲母少	7.5YR5/6 明褐色	7.5YR6/4 にぶい橙色	H13調査	0152
355	96	97	SR	1		覆土上位	深鉢	Ⅲ	底部	—	—	(5.1)	1.1	ナデ	ナデ	石英少	10YR3/1 黒褐色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0153
356	97	98			ⅡB3c	Ⅱ層中位	深鉢	ⅠA1	胴部	—	—	(4.7)	0.7	貝殻押し引き文？	ナデ	金雲母少	7.5YR5/4 にぶい褐色	7.5YR3/1 黒褐色	H14調査	2221
357	97	98			ⅡB2f	攪乱上位	深鉢	ⅠA2	胴部下半	—	—	(3.9)	0.7	貝殻腹縁移動波状圧痕文	ミガキ	金雲母少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR3/2 黒褐色	H14調査	2212
358	97	98			ⅡB2f	攪乱上位	深鉢	ⅠA2	胴部下半	—	—	(3.6)	0.6	貝殻腹縁移動波状圧痕文	ナデ	白色粒子少	5YR6/6橙色	5YR5/4にぶい赤褐色	H14調査	2213
359	97	98			ⅡA2f	覆土	深鉢	ⅠB	口縁部	—	—	(5.8)	(0.4)	斜縄文(RL縦回転)・口唇部指頭圧痕	斜縄文(RL縦回転)	長石少	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	H14調査	2214

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
360	97	98			ⅡB3d	Ⅱ層	深鉢	ⅡA1c	胴部	—	—	(9.3)	0.8	羽状縄文(RLR横＋0段多条L・非結束)	ナデ	長石・石英少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR5/2灰黄褐色	H14調査	2257
361	97	98			ⅡB2c 北西	Ⅱ層	深鉢	ⅡA1c	胴部	—	—	(5.3)	1.0	羽状縄文(前々段多条LR＋前々段多条RL・非結束)・菱形文	ナデ	繊維多	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR6/4にぶい黄橙色	H14調査	2258
362	97	98			ⅡA9g	攪乱	深鉢	ⅡA1b	胴部	—	—	(9.5)	0.9	単軸絡条体第5類	ナデ	石英少	10YR6/6明黄褐色	10YR4/2灰黄褐色	H14調査	2218
363	97	98			ⅡA1g	盛土	深鉢	ⅡA1b	口縁部	—	—	(6.9)	0.8	単軸絡条体第5類	ナデ	長石・石英多	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR4/2灰黄褐色	H14調査	2264
364	97	98			ⅡB2e	Ⅱ層中位	深鉢	ⅡA1e	胴部	—	—	(5.0)	0.8	結節(R横回転)Z字状	ナデ	長石多量・石英少	10YR5/4にぶい黄褐色	10YR6/4にぶい黄橙色	H14調査	2216
365	97	98			ⅡB2e	Ⅱ層中位	深鉢	ⅡA1e	胴部	—	—	(4.1)	0.8	結節(L横回転)Z字状	ナデ	長石少	10YR5/4にぶい黄褐色	10YR4/2灰黄褐色	H14調査	2217
366	97	98			Ⅰ B8g	Ⅰ層下位	深鉢	ⅡA2	口縁部	—	—	(4.1)	0.7	櫛歯状工具による沈線文・口唇部外反	ナデ	長石・石英少	10YR7/3にぶい黄橙色	10YR7/2にぶい黄橙色	H14調査	2272
367	97	98			Ⅰ A9f	攪乱	深鉢	ⅡC3	胴部	—	—	(5.3)	0.8	刻み目を付す並行する隆帯・斜縄文(RLR横回転)・末端処理(S)	ミガキ	長石少	10YR4/2灰黄褐色	10YR6/2灰黄褐色	H14調査	2222
368	97	98			ⅡB1f QNW	風倒木痕	深鉢	ⅡC1	口縁部	—	—	(8.0)	0.9	半裁竹管円文・沈線・単軸絡条体第3類	ナデ	長石多・金雲母少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR6/3にぶい黄橙色	H14調査	2223
369	97	98			ⅡB2c 北西	Ⅱ層	深鉢	ⅡC1	口縁部	—	—	(5.8)	0.8	竹管円文・沈線(横位)・斜縄文(LR縦回転)	ミガキ	石英・金雲母少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR4/2灰黄褐色	H14調査	2224
370	97	98			ⅡA2g	Ⅱ層	深鉢	ⅡC1	胴部上半	—	—	(4.8)	0.8	竹管円文・沈線・斜縄文(0段多条L縦回転)	ナデ	白色粒子多・長石少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR5/2灰黄褐色	H14調査	2226
371	97	98			ⅡB2c	Ⅱ層中位	深鉢	ⅡC1	胴部	—	—	(3.2)	0.7	竹管円文・鋸歯状沈線・斜縄文(前々段多条LR縦回転)	ミガキ	石英・長石少	10YR4/2灰黄褐色	10YR3/2黒褐色	H14調査	2227
372	97	98			Ⅰ B8c	風倒木痕	深鉢	ⅡC1	口縁部	—	—	(4.8)	0.8	竹管円文・沈線(横位)	ナデ	石英多・長石少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR7/3にぶい黄橙色	H14調査	2225
373	97	98			ⅡB1f	風倒木痕	深鉢	ⅡC2	口縁部	—	—	(9.1)	0.7	3条の並行する鋸歯状沈線(横位)・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	石英・長石少	7.5YR6/6橙色	7.5YR6/6明黄褐色	H14調査	2229
374	97	98			Ⅰ A9g	攪乱	深鉢	ⅡC2	胴部上半	—	—	(3.5)	1.0	鋸歯状沈線(横位)・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	石英・白色粒子少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/3にぶい黄橙色	H14調査	2230
375	98	98			ⅡB1f	風倒木痕	深鉢	ⅡC3	口縁部	—	—	(5.0)	0.7	並行する粘土紐に左傾する刻み目文(大木4式への移行)	ミガキ	石英多量・長石少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR3/1黒褐色	H14調査	2228
376	98	98			ⅡB2e 南西	Ⅲ層直上	深鉢	ⅡE2b	胴部	—	—	(2.4)	0.8	小波状貼付文(横位・2重)・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	石英多	7.5YR5/4にぶい褐色	7.5YR4/2灰褐色	H14調査	2231
377	98	98			ⅡB1e	覆土	深鉢	ⅡE2b	胴部上半	—	—	(17.5)	0.9	小波状貼付文から垂下する蒿状貼付文・単軸絡条体第1類(斜位・R)・末端処理(Z)	ナデ	長石少	5YR6/6橙色	5YR6/6橙色	H14調査	2233
378	98	98			ⅡB1f	風倒木痕	深鉢	ⅡE2b	胴部	—	—	(5.0)	0.8	横走する直線的隆帯の上下に小波状隆帯が並走・ハート形文・垂下して連結する隆帯・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	石英・白色粒子少	10YR4/2灰黄褐色	10YR3/2黒褐色	H14調査	2232
379	98	98			ⅡB2d	Ⅱ層中位	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(3.5)	0.8	ボタン状貼付文・沈線・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	長石少	5YR5/6明赤褐色	5YR3/2暗赤褐色	H14調査	2234
380	98	98			Ⅰ B10h	Ⅱ層	深鉢	ⅢA1	胴部上半	—	—	(4.4)	0.9	沈線・渦巻き状文様帯・単軸絡条体第1類(斜位・L)・キャリパー形	ミガキ	白色粒子少	5YR6/6橙色	10YR6/3にぶい黄橙色	H14調査	2270
381	98	98			ⅡB3c	Ⅰ層下位	深鉢	ⅢA2	口縁部	—	—	(5.2)	0.7	円形隆帯・中空突起・沈線・刺突	ナデ	金雲母・白色粒子少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR7/6明黄褐色	H14調査	2235
382	98	98			Ⅰ C9f	Ⅱ層下位	深鉢	ⅢA1	胴部上半	—	—	(8.0)	0.8	渦巻状文様帯・斜縄文(LR横回転)・穿孔・キャリパー形	ナデ	長石・白色粒子少	10YR3/1黒褐色	10YR2/1黒色	H13調査	0159
383	98	82			ⅡB1d～2d	Ⅱ層	深鉢	ⅢE	口縁部～胴部上半	19.4	—	(10.4)	0.7	中空突起・山形突起・沈線・隆帯・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・R)・三日月状装飾帯	ナデ	金雲母少	5YR6/6橙色	5YR6/6橙色	H14調査	2246

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
384	98	99			ⅡB2f 北半	覆土	深鉢	ⅢC3a①	口縁部	−	−	(9.8)	0.8	中空突起・ノ字状文様帯・沈線・磨り消し・斜縄文(LR縦回転)	ミガキ	金雲母・長石少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR4/2灰黄褐色	H14調査	2247
385	98	99			ⅡE5e	Ⅱ層下位	深鉢	ⅢE	口縁部	−	−	(7.2)	0.5	把手状装飾帯・沈線・磨り消し？・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ミガキ	金雲母・石英少	7.5YR5/4にぶい褐色	7.5YR4/2灰褐色	H14調査	2248
386	98	99			ⅠA10f	攪乱	深鉢	ⅢE	口縁部	−	−	(9.0)	0.6	把手状装飾帯・沈線・磨り消し・隆帯に伴う刺突・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	石英・長石少	10YR3/2黒褐色	10YR6/3にぶい黄橙色	H14調査	2249
387	98	99			ⅡB1d～2d下	Ⅱ層	深鉢	ⅢE	口縁部	−	−	(4.0)	0.8	把手状装飾帯(三角形)・隆帯に伴う刺突(縦位)	ナデ	金雲母少	10YR5/4にぶい黄褐色	10YR5/4にぶい黄褐色	H14調査	2243
388	99	99			ⅡE7b	Ⅱ層	深鉢	ⅢD2①	口縁部	−	−	(7.1)	0.7	隆帯に連続する刺突文(横位)・刻み目・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	金雲母・長石少	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR5/3にぶい黄褐色	H14調査	2251
389	99	99			ⅡB1d～2d下	Ⅱ層	深鉢	ⅢC3b	胴部	−	−	(27.0)	0.8	沈線・磨り消し・三日月状装飾帯・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	金雲母少	7.5YR5/3にぶい褐色	7.5YR7/6橙色	H14調査	2255
390	99	99			ⅡE6d	Ⅰ層下位	深鉢	ⅢC3b	胴部	−	−	(8.3)	0.7	沈線・磨り消し・鰭状突起・縦位縄文(RLR斜回転)	ナデ	金雲母少	10YR3/2黒褐色	7.5YR6/4にぶい橙色	H14調査	2260
391	99	99			ⅡB1f	風倒木痕	深鉢	ⅢC3	胴部	−	−	(8.2)	0.8	沈線・磨り消し・鰭状突起・斜縄文(前々段多条RL縦回転)・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母・長石少	7.5YR6/6橙色	7.5YR6/6橙色	H14調査	2259
392	99	99			ⅠA9g	攪乱	深鉢	ⅢC3a②	口縁部	−	−	(7.8)	0.7	S字状文様帯？・隆帯に伴う刺突・沈線・磨り消し・単軸絡条体第1類(斜位・R)	ナデ	金雲母・白色粒子少	7.5YR6/6橙色	10YR6/4にぶい黄橙色	H14調査	2236
393	99	82			ⅡE6d	攪乱	深鉢	ⅢC3a①	口縁部～胴部上半	18.1	−	(12.9)	0.6	沈線・隆帯に伴う刺突・磨り消し・沈線に伴う隆帯・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ミガキ	金雲母・長石少	7.5YR6/6橙色	5YR6/6橙色	H14調査	2245
394	99	99			ⅡE7b	黒色土	深鉢	ⅢC3a	口縁部	−	−	(5.6)	0.8	口唇部磨り消し・隆帯・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母・白色粒子少	10YR4/2灰黄褐色	10YR6/3にぶい黄橙色	H14調査	2280
395	99	99			ⅡE6c	Ⅰ層中位	深鉢	ⅢC4a	胴部	−	−	(10.3)	0.7	沈線・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	金雲母多	7.5YR6/6橙色	7.5YR7/6橙色	H14調査	2261
396	100	99			ⅠA9f	攪乱	深鉢	ⅢC3a①	口縁部	−	−	(8.2)	0.7	沈線・磨り消し・単軸絡条体第1類(縦位・LR)	ナデ	長石・石英少	10YR6/6明黄褐色	10YR7/4にぶい黄橙色	H14調査	2252
397	100	99			ⅠB8g	Ⅰ層下位	深鉢	ⅢC3	胴部	−	−	(8.8)	0.9	沈線・磨り消し・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石少	10YR5/3にぶい黄褐色	7.5YR6/6橙色	H14調査	2271
398	100	99			ⅠB8c	風倒木痕	深鉢	ⅢC3	胴部	−	−	(13.9)	0.7	沈線・磨り消し・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	長石少 金雲母多	7.5YR6/6橙色	7.5YR4/3褐色	H14調査	2175
399	100	99			ⅠA9g	攪乱	深鉢	ⅢC3	胴部	−	−	(4.9)	0.7	沈線・磨り消し・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母多	7.5YR6/6橙色	5YR6/6橙色	H14調査	2269
400	100	100			ⅡE6e	Ⅱ層中位	深鉢	ⅢD2①	口縁部	−	−	(13.1)	0.7	口唇部磨り消し・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	金雲母・白色粒子少	10YR7/4にぶい黄橙色	10YR7/6明黄褐色	H14調査	2253
401	100	100			ⅡB1f	Ⅱ層	深鉢	ⅢC3	胴部	−	−	(5.0)	0.8	沈線・充填・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母・長石少	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR7/4にぶい黄橙色	H14調査	2268
402	100	100			ⅡB1d	Ⅱ層	小形深鉢？	ⅢD2②	口縁部	−	−	(3.0)	0.6	沈線・単軸絡条体第1類(斜位・R)	ナデ	金雲母・白色粒子少	5YR6/6橙色	5YR5/6明赤褐色	H14調査	2266
403	100	100			ⅡB1d 北東	Ⅱ層下位	深鉢	ⅢC3	口縁部	−	−	(6.3)	0.7	隆帯に伴う刺突・口唇部刺突	ナデ	金雲母少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR6/4にぶい黄橙色	H14調査	2237
404	100	100			ⅠB8c	風倒木痕	深鉢	ⅢC4？	口縁部	−	−	(3.5)	0.8	隆帯に伴う刺突・口唇部外反・沈線	隆帯(横位)・ナデ	石英多	10YR3/2黒褐色	10YR7/4にぶい黄橙色	H14調査	2239
405	100	100			ⅠA9f	攪乱	深鉢	ⅢC4？	口縁部	−	−	(4.1)	0.6	隆帯に伴う刺突(横位)・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	金雲母・長石少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR6/4にぶい黄橙色	H14調査	2244
406	100	100			ⅠB8c	風倒木痕	深鉢	ⅢC3a④	口縁部	−	−	9.8	0.7	刺突円形充填区画・沈線・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母・長石少	7.5YR5/6明褐色	7.5YR5/6明褐色	H14調査	2238
407	100	100			ⅡB2f	攪乱	深鉢	ⅢC3a？	口縁部	−	−	(2.9)	0.6	口唇部に連続する刺突文・沈線(横位)	ナデ	金雲母・白色粒子少	10YR4/2灰黄褐色	10YR3/2黒褐色	H14調査	2240

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
408	100	100			ⅡB1d 南西	Ⅱ層	深鉢	Ⅲ C3a？	口縁部	—	—	(3.8)	0.7	口唇部に連続する刺突文(2重)	ナデ	金雲母・長石少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/4 にぶい黄橙色	H14調査	2242
409	100	100			ⅡB2f	攪乱	深鉢	Ⅲ C3a？	口縁部	—	—	(2.9)	0.7	屈曲部に連続する刺突文	ナデ	金雲母・白色粒子多	10YR4/2 灰黄褐色	10YR3/2 黒褐色	H14調査	2241
410	100	100			ⅡB1d	Ⅱ層	深鉢	ⅢC6	胴部	—	—	(5.1)	0.9	櫛目文(縦位)	ナデ	金雲母・白色粒子少	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	H14調査	2265
411	100	100			ⅠB8c	風倒木痕	深鉢	ⅢD3	口縁部	—	—	(6.3)	0.6	山形突起・沈線・斜縄文(LR縦回転)	ナデ	石英少	10YR4/2 灰黄褐色	10YR6/4 にぶい黄橙色	H14調査	2250
412	100	100			ⅡA1f	盛土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(7.4)	1.1	附加条斜縄文(R＋RL・縦回転)	ナデ	長石・石英少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR6/8 橙色	H14調査	2262
413	100	100			ⅠB8c	風倒木痕	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(13.2)	0.6	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石少　白色粒子・金雲母多	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/6 橙色	H14調査	2174
414	100	100			ⅡA1g	盛土	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(6.7)	0.9	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	金雲母・白色粒子少	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	H14調査	2263
415	101	100			ⅡB1d～2d	Ⅱ層	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(17.3)	0.8	斜縄文(RL斜回転)	ナデ	金雲母・白色粒子少	5YR6/6橙色	5YR5/6明赤褐色	H14調査	2256
416	101	100			ⅡB2e	Ⅱ層中位	深鉢	Ⅲ	胴部	—	—	(7.8)	0.8	斜縄文(RL横回転)・末端処理(Z)	ナデ	金雲母・長石少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR6/3 にぶい黄橙色	H14調査	2215
417	101	100			ⅡA1f	Ⅱ層	深鉢	Ⅱ	口縁部	—	—	(7.7)	0.8	斜縄文(LR横回転)・末端処理(Z)	ナデ	長石少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	H14調査	2219
418	101	100			ⅡB3c	Ⅱ層中位	深鉢	ⅠB	胴部	—	—	(3.4)	0.8	縄文(0段多条多条RL)端部圧痕？	ナデ	金雲母少	7.5YR6/6 橙色	7.5YR3/1 黒褐色	H14調査	2220
419	101	100			ⅡE5e	Ⅲ層直上	深鉢	ⅢD3	口縁部～胴部上半	—	—	(16.7)	0.7	単軸絡条体第1類(縦位・LR)・末端処理	ナデ	金雲母少	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/2 にぶい黄橙色	H14調査	2254
420	101	100			ⅠB8j	Ⅰ層下位	深鉢	ⅢC5	口縁部～胴部	—	—	(10.2)	0.9	単軸絡条体第1類(縦位・L)	ナデ	金雲母・白色粒子多	5YR4/6赤褐色	5YR3/1黒褐色	H14調査	2273
421	101	100			ⅠB8c	風倒木痕	深鉢	Ⅲ	胴部下半	—	—	(6.0)	1.0	単軸絡条体第1類(縦位・R)	ナデ	金雲母少	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	H14調査	2267
422	101	85			ⅠB9j	表採	深鉢	Ⅲ	底部	—	10.2	(9.3)	0.8	斜縄文(LR縦回転)	ナデ	長石・白色粒子少	10YR5/6 黄褐色	10YR5/4 にぶい黄褐色	H13調査	0162
423	101	85			ⅠB9h	表採	深鉢	Ⅲ	底部	—	8.5	(10.4)	0.8	斜縄文(RL縦回転)・網代痕	ナデ	長石・白色粒子少	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR3/2 黒褐色	H13調査	0164
424	101	83			ⅠB9i	表採	深鉢	Ⅲ	底部	—	(4.2)	(3.6)	0.7	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	長石・白色粒子少	5YR6/8橙色	10YR3/1 黒褐色	H13調査	0165
425	101	83			ⅡB1d	Ⅱ層	深鉢	Ⅲ	底部	—	3.1	(4.5)	0.6	斜縄文(前々段多条RL縦回転)	ナデ	金雲母・石英少	5YR6/6橙色	5YR5/4にぶい赤褐色	H14調査	2281
426	101	83			ⅡB1d	Ⅱ層	深鉢	Ⅲ	底部	—	8.5	(9.2)	0.7	斜縄文(RL縦回転)	ナデ	金雲母・白色粒子多	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	H14調査	2282
427	101	101			ⅠB10h	Ⅰ層下位	深鉢	Ⅲ	底部	—	(11.7)	(1.0)	1.0	網代痕	ナデ	金雲母・長石少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR6/6 明黄褐色	H14調査	2279
428	102	84・101			ⅠB9h	風倒木痕	深鉢	Ⅲ	底部	—	6.5	(3.4)	0.7	網代痕	ナデ	長石・白色粒子少	5YR4/6赤褐色	5YR5/6明赤褐色	H13調査	0157
429	102	84・101			ⅡD3a	表採	深鉢	Ⅲ	底部	—	9.3	(5.0)	0.9	ナデ・網代痕	ナデ	黒色粒子・石英少	10YR6/4 にぶい黄橙色	10YR5/4 にぶい黄褐色	H13調査	0161
430	102	84・101			ⅠB10h	Ⅱ層中位	深鉢	Ⅲ	底部	—	9.2	(2.3)	0.9	ナデ・網代痕	ナデ	長石・白色粒子少	10YR4/1 褐灰色	10YR5/3 にぶい黄褐色	H13調査	0163
431	102	84・101			ⅠB9i	表採	深鉢	Ⅲ	底部	—	6.2	(3.0)	0.5	ナデ・木葉痕	ナデ	長石・白色粒子少	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	H13調査	0166

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	分類	残存位置	法量(cm)				外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)					口径	底径	器高	厚さ							
432	102	84・101			ⅡB1d～2d下	Ⅱ層	深鉢	Ⅲ	底部	—	8.7	(3.6)	0.9	木葉痕	ナデ	金雲母・白色粒子少	5YR5/6明赤褐色	5YR4/6赤褐色	H14調査	2275
433	102	84・101			ⅠC5f	Ⅱ層下位	深鉢	Ⅲ	底部	—	8.9	(3.5)	0.7	ナデ	ナデ	長石・白色粒子少	10YR5/4にぶい黄褐色	10YR3/1黒褐色	H13調査	0160
434	102	84・101			ⅠB8i	Ⅱ層上位	深鉢	Ⅲ	底部	—	〔11.4〕	(4.5)	0.8	ナデ	ナデ	石英・白色粒子少	10YR6/6明黄褐色	10YR4/1褐灰色	H13調査	0158
435	102	84			ⅡA1e	Ⅱ層	深鉢	Ⅲ	底部	—	〔12.6〕	(4.1)	1.1	ナデ	ナデ	長石・石英多	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR7/2にぶい黄橙色	H14調査	2276
436	102	84・101			ⅡB1d 北西	Ⅱ層	深鉢	Ⅲ	底部	—	4.6	(2.9)	0.6	ナデ	ナデ	金雲母・白色粒子多	5YR6/6橙色	5YR5/6明赤褐色	H14調査	2277
437	102	84			ⅠB10d	Ⅱ層	深鉢	Ⅲ	底部	—	4.5	(3.2)	0.5	ナデ	ナデ	長石少	5YR6/6橙色	5YR6/6橙色	H14調査	2278
438	102	84			ⅠB8c	風倒木痕	深鉢	Ⅲ	底部	—	9.9	(1.4)	0.8	ナデ	ナデ	白色粒子多 金雲母少	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR4/3にぶい黄褐色	H14調査	2176
439	102	85			ⅠB8c	風倒木痕	深鉢	Ⅲ	底部	—	6.0	(1.5)	0.7	ナデ	ナデ	長石・金雲母少量 白色粒子多量	10YR5/3にぶい黄褐色	10YR6/4にぶい黄橙色	H14調査	2177
440	102	85			ⅡC3g	撹乱	深鉢	Ⅲ	底部	—	8.4	(2.7)	0.6	ナデ	ナデ	白色粒子 金雲母少	5YR5/4にぶい赤褐色	5YR5/6明赤褐色	H13調査	0168
441	103	101			ⅠB9i	Ⅱ層下位	深鉢	Ⅳ	口縁部	〔40.2〕	—	(14.9)	0.8	隆帯・磨り消し・斜縄文(RL縦回転)	ナデ	白色粒子 金雲母少	10YR4/2灰黄褐色	5YR4/6赤褐色	H13調査	0167
442	103	101			ⅡB2b 南西	Ⅱ層中位	注口	Ⅳ	注口	—	—	—	0.6	ミガキ	ナデ	長石・石英少	10YR5/4にぶい黄褐色	10YR6/4にぶい黄橙色	H14調査	2283
443	103	101			ⅠA9f	撹乱	深鉢	Ⅳ	口縁部	—	—	(4.1)	0.7	口唇貼瘤・突起 口隆帯貼付・沈線・貼瘤(工字文)	隆帯(横位)・ミガキ	金雲母少	7.5YR7/6橙色	7.5YR8/6浅黄橙色	H14調査	2274

第12表　土製品観察表

(1)備考欄に重量を記載している。また、(　)は欠損のため、残存値であることを表示している。

掲載No.	図No.	写No.	出土地点			層位	器種	器形	残存位置	外面調整・施文など	内面調整・施文など	胎土	色調外面	色調内面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)											
444	103	102	SI	38		覆土	土偶		胴部上半・下半	刺突文	—	金雲母・白色物質少	7.5YR5/4にぶい褐色	—	(414.62)g　H14調査	2284
445	104	102			ⅡB2f攪乱	黒褐色土	耳飾		1/4	滑車形・刺突	—	金雲母・白色物質少	10YR4/2灰褐色	—	(14.65)g　H14調査	2285
446	104	102	SI	27		覆土	円盤状土製品	円形	土器片転用	縄文(LRL)	ナデ	金雲母・長石少	10YR3/2黒褐色	5YR6/8橙色	打ち欠き・12.13g　H14調査	2286
447	104	102	SI	34	QSW	覆土下位	円盤状土製品	円形	土器片転用	縄文(LR)	ミガキ	金雲母・長石少	10YR5/4にぶい黄褐色	5YR4/8赤褐色	打ち欠き・6.46g　H14調査	2287
448	104	102	SI	34		覆土下位	円盤状土製品	円形	土器片転用	絡条体圧痕文(R撚)	ナデ	金雲母・石英少	10YR5/4にぶい黄褐色	10YR5/3にぶい赤褐色	打ち欠き・8.43g　H14調査	2288
449	104	102	SI	36	ベルト	覆土	円盤状土製品	円形	土器片転用	絡条体圧痕文(R撚)	ミガキ	金雲母・長石少	7.5YR6/6橙色	7.5YR6/6橙色	打ち欠き・8.15g　H14調査	2289
450	104	102	SI	36	ベルト	覆土	円盤状土製品	円形	土器片転用	ミガキ	ミガキ	石英少	5YR4/4褐色	5YR6/6橙色	打ち欠き・12.87g　H14調査	2290
451	104	102	SI	36	ベルト	覆土	円盤状土製品	円形	土器片転用	縄文(RL)	ナデ	石英少	10YR7/6明黄褐色	5YR6/6橙色	打ち欠き・7.18g　H14調査	2291
452	104	102	SI	36		覆土	円盤状土製品	円形	土器片転用	ミガキ	ミガキ	金雲母・白色物質少	2.5YR5/6明赤褐色	5YR3/4暗赤褐色	打ち欠き・9.98g　H14調査	2292
453	104	102	SK	39		覆土中位	円盤状土製品	円形	土器片転用	沈線・縄文(LR)	ナデ	金雲母・黒色物質少	10YR6/3にぶい黄橙色	10YR3/2黒褐色	打ち欠き・12.47g　H14調査	2293
454	104	102	SK	39		覆土上位	円盤状土製品	円形	土器片転用	縄文(0段多条RL)	ナデ	金雲母少	10YR4/2灰黄褐色	10YR3/1黒褐色	打ち欠き・5.94g　H14調査	2294
455	104	102			ⅡA2i	Ⅱ層	円盤状土製品	円形	土器片転用	沈線・縄文(LR)	ナデ	金雲母少	10YR7/3にぶい黄橙色	2.5YR5/6明赤褐色	打ち欠き・8.93g　H14調査	2295
456	104	102			ⅡA2i	Ⅱ層	円盤状土製品	円形	土器片転用	縄文(LR)	ナデ	金雲母少	10YR5/4にぶい黄褐色	5YR5/4にぶい赤褐色	打ち欠き・6.46g　H14調査	2296
457	104	102			ⅡB1d　北西	Ⅱ層	円盤状土製品	円形	土器片転用	絡条体圧痕文(L撚)	ナデ	長石・白色物質少	10YR6/6明黄褐色	10YR4/3にぶい黄褐色	打ち欠き・4.92g　H14調査	2297
458	104	102			ⅠB8c風倒木痕	Ⅱ層	円盤状土製品	円形	土器片転用	縄文(RL)	ナデ	金雲母多	10YR6/4にぶい黄橙色	10YR6/8明黄褐色	打ち欠き・8.52g　H14調査	2298

第13表　剥片石器観察表

(1)法量の記載について、(　)は欠損部分であり残存値を表示している。
(2)刃部の記載について、形状は尖頭器・石鏃・石錐などの先端部を有するものは「先」とし、先端角を表示している。また、そのほかは片・両刃の形状を記載し、刃部角度を3ヵ所以上計測した平均値を表示している。
(3)そのほかの特記事項については、特徴欄に記載している。

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				刃部		特徴	欠損	自然面	被熱・折断	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状	角度(°)						
459	105	103	SI	27	北東端	床直上	尖頭	－	頁岩	北上山地	5.13	1.00	0.51	2.60	先	56.0					H14調査	3017
460	105	103	SX	12		覆土上位	尖頭	－	頁岩	北上山地	8.01	3.00	0.74	18.42	先	85.0					H14調査	3002
461	105	103	SK	52		覆土	尖頭	－	凝灰岩	北上山地	6.93	1.15	0.61	4.13	先	43.0					H14調査	3004
462		103			ⅠC9e　南東	Ⅱ層	尖頭	－	頁岩	奥羽山脈	3.21	1.75	0.90	5.25	－	－		○			H13調査	1001
463	105	103			ⅡB1h	Ⅱ層下位	尖頭	－	頁岩	北上山地	9.08	2.44	1.03	23.38	先	60.0					H14調査	3005
464	105	103			ⅠA区	Ⅱ層	尖頭	－	頁岩	奥羽山脈？	5.08	2.76	1.26	16.65	先	62.0		○			H14調査	3006
465	106	103			ⅡB1f	風倒木痕	石鏃	ⅠA	頁岩	北上山地	3.41	0.94	0.42	1.20	先	27.0	尖				H14調査	3035
466	106	103			ⅠA9f	盛土	石鏃	ⅠB	頁岩	北上山地	3.39	1.19	0.80	2.93	先	43.0	尖				H14調査	3030
467	106	103	SI	3	ⅠC1f	覆土	石鏃	ⅡA	頁岩	奥羽山脈	2.50	1.80	0.60	2.62	先	81.0	平				H13調査	1003
468	106	103	SI	21		床面	石鏃	ⅡA	頁岩	奥羽山脈	2.20	1.50	0.25	0.80	先	58.0	平				H13調査	1009
469	106	103	SI	27	中央東	覆土1層中位	石鏃	ⅡA	頁岩	北上山地	3.48	1.77	0.44	2.18	先	35.0	平				H14調査	3008
470	106	103	SI	29	炉付近	覆土	石鏃	ⅡA	頁岩	北上山地	2.50	1.58	0.35	0.93	先	41.0	平凹	○			H14調査	3021
471	106	103	SI	34		床直上	石鏃	ⅡA	頁岩	北上山地	3.74	2.23	0.90	5.35	先	46.0	平凹				H14調査	3022
472		103	SK	28		覆土	石鏃	ⅡA	頁岩	北上山地	2.33	1.37	0.27	0.91	先	62.0	平				H14調査	3028
473		103			ⅠB9j	Ⅲ層上面	石鏃	ⅡA	頁岩	奥羽山脈	2.23	(1.57)	0.38	0.94	先	45.0	平	○			H13調査	1004
474	106	103			ⅡB1d～2d	S1	石鏃	ⅡA	頁岩	北上山地	2.12	1.67	0.35	1.07	先	70.0	平				H14調査	3032
475	106	103	SI	21		床面	石鏃	ⅡB	頁岩	奥羽山脈	3.50	1.90	0.40	2.31	先	52.0	円				H13調査	1008
476		103	SI	27	中央東	覆土1層	石鏃	ⅡB	頁岩	北上山地	3.07	2.37	0.65	3.68	先	57.5	円				H14調査	3016
477		103	SI	33	QNE	覆土	石鏃	ⅡB	頁岩	北上山地	2.16	1.56	0.67	1.76	先	48.0	円				H14調査	3024
478		103	SI	36	CベルトE	覆土	石鏃	ⅡB	頁岩	北上山地	3.72	2.54	1.10	8.84	先	89.0	円				H14調査	3026
479		103	SK	20		覆土上位	石鏃	ⅡB	頁岩	奥羽山脈	2.22	1.71	0.96	2.90	先	119.0	円				H13調査	1013
480		103	SK	27		覆土	石鏃	ⅡB	頁岩	北上山地	4.12	2.58	0.92	7.60	先	115.0	円				H14調査	3027
481		103			ⅡB2c北西	Ⅱ層	石鏃	ⅡB	頁岩	北上山地	3.04	2.33	0.57	3.20	先	105.0	円				H14調査	3036
482		103			ⅡB1f　QNW	風倒木痕	石鏃	ⅡB	頁岩	北上山地	(3.28)	2.26	0.37	1.97	－	－	円	○			H14調査	3034
483		103			不明		石鏃	ⅡB	頁岩	北上山地	3.10	2.67	0.82	6.05	先	88.0	円				H14調査	3041
484		103	SI	2		覆土	石鏃	ⅡC1	頁岩	奥羽山脈	2.82	1.53	0.49	1.33	先	45.0	凹				H13調査	1002
485	106	103	SI	6	QSW	覆土	石鏃	ⅡC1	頁岩	奥羽山脈	2.05	1.90	0.40	1.08	先	64.0	凹				H13調査	1005
486	106	103	SI	14		床直上	石鏃	ⅡC1	頁岩	奥羽山脈	2.80	2.90	0.68	2.12	先	39.0	凹				H13調査	1006
487		103	SI	18	ⅠC9a～ⅡC3a	風倒木痕	石鏃	ⅡC1	頁岩	奥羽山脈	2.33	1.50	0.36	1.07	先	50.0	凹				H13調査	1007
488	106	103	SI	23	壁際	覆土	石鏃	ⅡC1	頁岩	奥羽山脈	3.20	2.00	0.50	2.51	先	49.0	凹				H13調査	1010
489	106	103	SI	27	ⅡB1e	覆土	石鏃	ⅡC1	頁岩	北上山地	3.19	1.46	0.33	1.40	先	55.5	凹				H14調査	3007
490	106	103	SI	27	北東	覆土	石鏃	ⅡC1	頁岩	北上山地	2.60	1.55	0.62	1.95	先	62.0	凹				H14調査	3009
491		103	SI	27	中央西	覆土1層	石鏃	ⅡC1	頁岩	北上山地	2.38	1.77	0.54	1.92	先	67.0	凹				H14調査	3012
492		103	SI	27	中央西	覆土1層	石鏃	ⅡC1	頁岩	北上山地	(2.60)	1.78	0.33	1.17	先	41.5	凹	○			H14調査	3013
493	106	103	SI	27	北東	覆土	石鏃	ⅡC1	頁岩	北上山地	2.90	1.64	0.46	1.81	先	49.0	凹				H14調査	3015
494	107	103	SX	9		底面直上	石鏃	ⅡC1	頁岩	北上山地	3.16	1.60	0.49	1.88	先	46.5	凹				H14調査	3018
495	107	103	SX	10		覆土1層	石鏃	ⅡC1	頁岩	北上山地	2.82	1.69	0.60	2.00	先	55.0	凹				H14調査	3019
496	107	103	SK	5	北側	覆土	石鏃	ⅡC1	頁岩	奥羽山脈	2.90	1.60	0.30	1.29	先	44.5	凹				H13調査	1012
497		103			ⅡB1c	Ⅲ層直上	石鏃	ⅡC1	頁岩	北上山地	(2.75)	(1.72)	0.54	2.22	先	38.0	凹	○			H14調査	3031
498		103			ⅡB2c	Ⅱ層中位	石鏃	ⅡC1	頁岩	北上山地	3.26	2.29	0.82	5.51	先	96.0	凹				H14調査	3037
499	107	103			ⅡB3c	Ⅱ層中位	石鏃	ⅡC1	頁岩	北上山地	3.06	1.54	0.36	1.22	先	41.5	凹				H14調査	3038
500		103			不明		石鏃	ⅡC1	頁岩	北上山地	2.49	1.58	1.31	1.00	先	47.0	平凹				H14調査	3040
501		103	SI	33	QSW	覆土下位	石鏃	ⅡC2	頁岩	北上山地	(1.61)	1.51	0.29	0.70	先	34.0	凹	○			H14調査	3023
502	107	103	SI	33	QNE	覆土	石鏃	ⅡC2	頁岩	北上山地	(2.75)	1.43	0.29	0.77	先	38.0	凹	○			H14調査	3025
503	107	103			ⅡB1d～2d	覆土下位	石鏃	ⅡC2	頁岩	北上山地	(2.19)	1.95	0.27	0.85	先	51.0	凹	○			H14調査	3033
504	107	103			ⅠA区	盛土	石鏃	ⅡC2	頁岩	北上山地	2.49	1.81	0.42	0.98	先	37.5	凹				H14調査	3039

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				刃部		特徴	欠損	自然面	被熱・折断	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状	角度(°)						
504	107	103			ⅠA区	盛土	石鏃	ⅡC2	頁岩	北上山地	2.49	1.81	0.42	0.98	先	37.5	凹				H14調査	3039
505		103	SI	25	QSW	覆土上位	石鏃	ⅡC3	頁岩	奥羽山脈	2.57	(1.71)	0.47	1.71	先	55.0	平凹	○			H13調査	1011
506	107	103	SI	27	北東	覆土	石鏃	ⅡC3	頁岩	北上山地	3.37	1.83	0.56	2.94	先	54.5	平凹				H14調査	3010
507	107	104	SI	27	北西端	覆土1層	石鏃	ⅡC3	頁岩	北上山地	3.70	1.69	0.60	3.27	先	78.0	平凹				H14調査	3011
508	107	104	SI	27	中央西	床直上	石鏃	ⅡC3	珪質頁岩	奥羽山脈？	4.76	1.96	0.70	6.02	先	58.0	平凹				H14調査	3014
509	107	104	SX	10		覆土1層	石鏃	ⅡC3	頁岩	北上山地	2.54	1.83	0.45	1.67	先	64.0	凹				H14調査	3020
510		104			ⅡA2g	Ⅱ層中位	石鏃	ⅡC3	頁岩	北上山地	1.76	1.10	0.30	0.42	先	52.0	平凹	○			H14調査	3029
511	108	104			ⅡB2d南西	Ⅱ層	石錐	Ⅰ	珪質頁岩	北上山地	5.06	1.65	1.10	4.48	先	21.0					H14調査	3042
512	108	104	SI	18	ⅠC9a NE	覆土中位	石匙	ⅠA4	頁岩	奥羽山脈	8.90	1.80	0.80	12.09	両	57.0	縦型				H13調査	1016
513	108	104	SI	27	南東	床直上	石匙	ⅠA4	頁岩	北上山地	7.38	1.95	0.72	10.88	両	51.0	縦型				H14調査	3043
514	108	104	SI	27	中央西	床直上	石匙	ⅠA4	頁岩	北上山地	6.07	1.81	0.49	6.08	両	53.0	縦型				H14調査	3044
515	108	104	SI	27	北東	覆土	石匙	ⅠA4	頁岩	北上山地	6.05	2.18	0.63	6.76	両	47.0	縦型				H14調査	3045
516	108	104	SX	4		床面	石匙	ⅠA4	頁岩	奥羽山脈	7.20	4.20	1.20	25.42	両	57.5	縦型				H13調査	1018
517	108	104			ⅠB8j～ⅠC9a	風倒木痕	石匙	ⅠA4	頁岩	奥羽山脈	5.90	1.60	0.80	5.52	両	53.0	縦型				H13調査	1019
518	108	104			ⅡA2f	黒褐色土	石匙	ⅠA4	頁岩	北上山地	(12.64)	2.73	0.94	31.34	両	43.0	縦型				H14調査	3051
519	109	104			ⅡB1f	風倒木痕	石匙	ⅠA4	頁岩	北上山地	5.71	2.08	0.66	7.72	両	44.5	縦型				H14調査	3053
520	109	104	SI	14	西壁際	覆土	石匙	ⅠB2	頁岩	奥羽山脈	3.70	1.70	0.40	1.77	片	37.0	縦型	○			H13調査	1014
521	109	104	SK	40		覆土	石匙	ⅠB2	頁岩	北上山地	4.86	2.86	0.60	7.25	片	43.0	横型				H14調査	3050
522	109	104			H13調査区	表採	石匙	ⅠB2	頁岩	北上山地	7.13	2.73	0.79	15.27	片	43.0	縦型				H14調査	3054
523	109	104			不明		石匙	ⅠB2	頁岩	北上山地	3.77	5.10	1.03	13.33	片	39.0					H14調査	3055
524	109	104	SI	18	北ベルト	覆土上位	石匙	ⅠB4	頁岩	奥羽山脈	7.45	3.60	1.10	26.88	両	55.0	縦型				H13調査	1015
525	109	104	SI	23		床面	石匙	ⅠB4	頁岩	奥羽山脈	5.60	2.10	0.80	8.77	両	55.0	縦型				H13調査	1017
526	109	104	SX	9		覆土1層	石匙	ⅠB4	赤色頁岩	北上山地	3.06	(2.29)	0.48	3.18	両	58.0	縦型	○			H14調査	3047
527	109	104			ⅡB1d	Ⅱ層	石匙	ⅠB4	頁岩	北上山地	(5.92)	2.16	1.10	13.99	両	50.0	縦型	○			H14調査	3052
528	110	104	SX	10	QSE	覆土1層	石匙	ⅡB1	赤色頁岩	北上山地	2.25	2.38	0.66	2.07	片	68.0	横型				H14調査	3048
529	110	104	SI	27		覆土	石匙	ⅡB4	頁岩	北上山地	4.22	4.20	1.00	10.59	両	30.0	横型				H14調査	3046
530	110	104	SI	36		覆土	石匙	ⅡB4	頁岩	北上山地	3.54	3.65	0.79	10.01	両	52.0	横型				H14調査	3049
531	110	104	SI	27	北西端	床直上	石篦	ⅡA	頁岩	奥羽山脈？	7.86	3.98	1.17	38.03	片	63.0					H14調査	3057
532	110	104	SI	27	北西端	床直上	石篦	ⅡB	頁岩	北上山地	5.14	3.06	1.39	19.38	片	56.0					H14調査	3056
533	110	104	SI	27	中央西	覆土	楔形	Ⅰ	頁岩	北上山地	3.80	1.75	1.20	9.74						折	H14調査	3100
534	110	104	SI	33	QSW	覆土下位	楔形	Ⅰ	凝灰岩	北上山地	3.03	2.58	1.13	6.88							H14調査	3124
535	110	104	SX	9		覆土1層	楔形	Ⅰ	頁岩	奥羽山脈？	4.78	1.75	1.58	11.93						折	H14調査	3101
536	110	104			ⅠB8c	風倒木痕	楔形	Ⅰ	瑪瑙	北上山地	2.78	1.54	1.01	3.02							H14調査	3102
537	110	104			ⅡA2f	Ⅱ層	楔形	Ⅰ	赤色頁岩	北上山地	2.07	1.77	0.82	2.86							H14調査	3103
538		105	SI	24	ⅡD5a	覆土下位	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	奥羽山脈	4.06	1.29	0.33	2.02	片	61.5					H13調査	1031
539		105	SI	27		床直上	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	北上山地	5.56	2.92	0.95	17.85	片	83.0					H14調査	3060
540	111	105	SI	27	南東	床直上	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	北上山地	5.66	2.08	0.70	7.35	片	60.0					H14調査	3062
541	111	105	SI	34		床面	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	北上山地	6.07	3.52	1.45	30.50	片	72.0			○		H14調査	3078
542	111	105	SI	33	QSW	覆土下位	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	北上山地	5.08	4.53	0.85	23.19	片	64.0					H14調査	3081
543	111	105	SI	36		覆土	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	北上山地	7.22	2.80	1.32	27.46	片	66.0			○		H14調査	3083
544	111	105	SX	3		床面	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	奥羽山脈	4.70	3.50	1.00	16.55	片	77.0					H13調査	1021
545		105	SX	4	QSW	覆土	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	奥羽山脈	2.79	3.91	0.84	9.23	片	72.0		○			H13調査	1022
546		105	SK	20		覆土中位	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	奥羽山脈	3.92	3.58	1.09	13.96	片	68.0			○		H13調査	1032
547		105			ⅠB9j 南東	Ⅱ層	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	奥羽山脈	8.86	2.51	0.80	26.31	片	68.0					H13調査	1035
548		105			ⅠC9a	風倒木痕	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	奥羽山脈	9.07	4.03	1.17	46.81	片	70.0			○		H13調査	1025
549	111	105			ⅠC10c	Ⅱ層	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	奥羽山脈	7.30	3.45	0.80	19.90	片	68.0					H13調査	1026
550	111	105			ⅡB1f	Ⅱ層	スクレイパー類	ⅠA	頁岩	北上山地	4.86	3.45	1.34	22.12	片	65.0					H14調査	3089
551		105			ⅡB2a	Ⅱ層	スクレイパー類	ⅠA	凝灰岩	北上山地	3.96	1.91	1.20	6.29	片	64.0					H14調査	3090
552	112	105	SI	23		床面	スクレイパー類	ⅠB	頁岩	奥羽山脈	6.20	2.55	0.80	8.74	片	48.0	抉り部有				H13調査	1029

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				刃部		特徴	欠損	自然面	被熱・折断	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状	角度(°)						
553	112	105	SI	27		覆土	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	6.03	3.19	1.06	15.74	片	51.0			○		H14調査	3058
554		105	SI	27		床直上	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	8.78	7.09	1.87	99.84	片	55.0			○		H14調査	3059
555		105	SI	27		床直上	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	3.10	2.00	0.59	2.66	片	56.5					H14調査	3061
556	112	105	SI	27	北西	床直上	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	5.68	4.20	1.61	25.95	片	56.0					H14調査	3063
557		105	SI	27	北西	床直上	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	(1.89)	2.57	0.64	3.41	片	51.0					H14調査	3064
558	112	105	SI	27		床直上	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	5.63	2.22	0.91	14.46	片	54.0					H14調査	3065
559	112	105	SI	27	中央東	床直上	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	4.73	3.09	0.96	15.95	片	56.0					H14調査	3066
560		105	SI	27		床直上	スクレイパー類	IB	凝灰岩	北上山地	5.83	2.63	0.81	11.29	片	43.5					H14調査	3067
561		105	SI	27	中央西	床直上	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	4.47	5.39	1.07	24.63	片	54.5				折	H14調査	3068
562	112	105	SI	27	北東	覆土1層	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	4.24	3.19	0.81	11.48	片	59.0					H14調査	3069
563		105	SI	27		覆土	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	4.63	4.73	1.57	26.17	片	48.0					H14調査	3074
564	112	106	SI	34		床面	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	3.35	2.23	0.58	4.33	片	47.0				折	H14調査	3077
565	112	106	SI	33		覆土下位	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	3.62	2.86	1.07	11.11	片	54.0			○		H14調査	3079
566		106	SI	33	QSW	覆土	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	4.57	2.87	0.57	7.06	片	53.0					H14調査	3080
567	113	106	SI	36		床面	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	6.34	3.00	0.90	16.58	片	49.0				折	H14調査	3082
568	113	106	SX	8	QNW	覆土上位	スクレイパー類	IB	頁岩	奥羽山脈	3.60	3.00	0.50	4.55	片	52.0					H13調査	1037
569	113	106	SK	27		覆土1層	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	4.83	3.08	0.91	11.64	片	45.0					H14調査	3084
570		106	SK	35		覆土	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	5.50	2.50	0.72	7.99	片	40.0					H14調査	3085
571	113	106	SK	41		覆土	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	5.27	2.01	0.49	5.87	片	34.0					H14調査	3086
572	113	106			IIA2h	II層下位	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	13.02	4.51	1.44	81.57	片	54.0					H14調査	3087
573		106			IIB2a	II層	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	3.54	3.18	0.81	8.49	片	56.0			○		H14調査	3091
574		106			IIB2a	II層	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	3.82	1.54	0.79	4.31	片	48.0				折	H14調査	3092
575		106			IIB3c	II層下位	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	2.78	3.39	0.58	5.99	片	53.0					H14調査	3095
576		106			IC5b	攪乱	スクレイパー類	IB	珪質頁岩	奥羽山脈	5.86	3.54	0.73	18.32	片	46.0					H13調査	1034
577		106			不明	表採	スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	3.50	2.76	0.75	9.57	片	47.0			○		H14調査	3098
578		106			不明		スクレイパー類	IB	頁岩	北上山地	5.66	3.94	1.31	22.18	片	54.0					H14調査	3099
579	113	106	SI	27	中央西	覆土1層	スクレイパー類	IC	頁岩	北上山地	3.33	2.04	0.51	3.18	両	71.0					H14調査	3070
580	113	106	SI	27	南東	覆土	スクレイパー類	IC	頁岩	北上山地	2.82	2.69	0.59	6.29	両	64.0					H14調査	3071
581		106			IB9h		スクレイパー類	IC	頁岩	奥羽山脈	4.72	2.91	0.94	14.00	両	69.0				折	H13調査	1024
582		106			IC10f	攪乱	スクレイパー類	IC	頁岩	奥羽山脈	5.60	6.08	1.11	31.64	両	61.0					H13調査	1036
583		106	SI	3	ベルト		スクレイパー類	ID	頁岩	奥羽山脈	3.27	1.71	0.44	2.87	両	48.0				折	H13調査	1027
584	114	106	SI	27		風倒木痕	スクレイパー類	ID	頁岩	北上山地	5.35	1.52	0.93	8.05	両	48.0					H14調査	3001
585		106	SI	35	P12付近	床直上	スクレイパー類	ID	頁岩	北上山地	3.53	2.51	0.74	5.69	両	47.0					H14調査	3076
586		106			IB8c	風倒木痕	スクレイパー類	ID	頁岩	北上山地	14.40	3.21	0.81	47.02	両	30.0			○		H14調査	3003
587	114	106			IA区	盛土	スクレイパー類	ID	頁岩	北上山地	4.61	2.90	0.95	16.15	両	56.0					H14調査	3096
588	114	106			IA区	表採	スクレイパー類	ID	頁岩	北上山地	4.71	2.83	0.92	11.36	両	56.0					H14調査	3097
589	114	106	SI	29		覆土1層	スクレイパー類	IIA	頁岩	北上山地	4.30	4.31	1.16	20.47	片	71.0					H14調査	3075
590		106			IIB2c	II層中位	スクレイパー類	IIA	頁岩	北上山地	4.55	3.45	1.09	12.61	片	62.0			○		H14調査	3094
591	114	106	SI	18		覆土	スクレイパー類	IIB	頁岩	奥羽山脈	5.25	2.75	0.60	6.80	片	55.0			○		H13調査	1028
592		106	SI	24	IID5a	覆土下位	スクレイパー類	IIB	頁岩	奥羽山脈	2.80	4.17	0.78	7.05	片	44.0					H13調査	1030
593		106	SI	27	中央	覆土	スクレイパー類	IIB	頁岩	北上山地	3.71	2.74	0.58	3.70	片	52.0					H14調査	3072
594	114	107	SI	27	中央	覆土	スクレイパー類	IIB	頁岩	北上山地	4.31	2.81	0.95	9.05	片	59.0					H14調査	3073
595		107	SI	25	QSE	覆土	スクレイパー類	IIC	頁岩	奥羽山脈	2.82	2.66	0.86	8.26	両	68.0				折	H13調査	1020
596		107	SK	20		覆土上位	スクレイパー類	IIC	頁岩	奥羽山脈	2.57	3.33	1.02	9.77	両	77.0			○	折	H13調査	1023
597	114	107			IIB2c	II層	スクレイパー類	IIC	頁岩	北上山地	3.79	2.35	0.63	4.59	両	60.0				折	H14調査	3093
598		107			IIB1f	II層	スクレイパー類	IID	頁岩	北上山地	5.93	3.44	0.80	13.35	両	59.0					H14調査	3088
599	114	107	SI	6		床面	二次加工	IA	赤色頁岩	奥羽山脈	2.80	1.80	1.10	4.55	片	67.0	錐？				H13調査	1038
600		107	SI	18	QNW	覆土下位	二次加工	IA	頁岩	奥羽山脈	3.94	2.24	0.73	5.83	片	60.0			○		H13調査	1042
601	114	107	SI	27	北東付近	床直上	二次加工	IA	頁岩	北上山地	8.05	1.76	0.84	10.09	片	76.0					H14調査	3112

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				刃部		特徴	欠損	自然面	被熱・折断	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状	角度(°)						
602	115	107	SI	27	南端		二次加工	ⅠA	頁岩	北上山地	2.29	3.64	0.38	2.49	片	72.0					H14調査	3117
603	115	107	SI	34		床面	二次加工	ⅠA	頁岩	北上山地	6.49	4.74	0.91	28.58	片	65.0					H14調査	3121
604		107	SI	33	QSW	覆土下位	二次加工	ⅠA	頁岩	北上山地	2.08	2.63	0.28	1.52	片	67.0					H14調査	3123
605		107			ⅠB8c	風倒木痕	二次加工	ⅠA	頁岩	北上山地	3.56	4.74	1.25	12.05	片	60.0			○		H14調査	3137
606		107			ⅡB2c	Ⅱ層中位	二次加工	ⅠA	頁岩	北上山地	3.52	3.46	0.91	11.58	片	71.0			○		H14調査	3140
607	115	107			ⅡB2d北西	Ⅱ層	二次加工	ⅠA	頁岩	北上山地	7.86	3.17	1.05	19.25	片	60.0			○		H14調査	3152
608		107			ⅡB3c	Ⅱ層中位	二次加工	ⅠA	頁岩	北上山地	5.51	2.35	0.64	6.96	片	87.0					H14調査	3145
609	115	107	SI	11		覆土	二次加工	ⅠB	頁岩	奥羽山脈	5.50	3.70	1.40	20.63	片	50.0					H13調査	1039
610	115	107	SI	16	ベルト東	覆土	二次加工	ⅠB	頁岩	奥羽山脈	4.30	3.20	1.40	13.78	片	48.0					H13調査	1040
611	115	107	SI	18		床直上	二次加工	ⅠB	頁岩	奥羽山脈	5.30	2.45	1.10	9.36	片	58.0					H13調査	1041
612	115	107	SI	23		床面	二次加工	ⅠB	頁岩	奥羽山脈	6.00	3.80	0.90	22.02	片	58.0			○		H13調査	1044
613		107	SI	27	北東端	床直上	二次加工	ⅠB	凝灰岩	北上山地	2.36	1.35	0.61	1.37	片	46.0		○			H14調査	3104
614		107	SI	27	北西	床直上	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	2.49	2.39	0.31	1.95	片	37.0					H14調査	3105
615		107	SI	27	中央西	床直上	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	3.37	2.53	0.74	5.26	片	44.0					H14調査	3108
616	115	107	SI	27	北西端	床直上	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	4.95	3.38	1.07	10.44	片	54.0					H14調査	3110
617	116	107	SI	27	北西端	床直上	二次加工	ⅠB	頁岩	奥羽山脈？	7.10	3.38	1.13	18.48	片	53.0					H14調査	3111
618		107	SI	27		覆土上位～中位	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	4.42	5.05	1.06	17.21	片	40.0					H14調査	3113
619		107	SI	27		覆土上位～中位	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	4.12	2.59	0.96	9.72	片	46.0			○		H14調査	3114
620		107	SI	27		覆土	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	3.13	3.62	1.17	6.05	片	45.0			○		H14調査	3116
621	116	107	SI	34		床面	二次加工	ⅠB	頁岩	奥羽山脈？	3.62	4.18	0.98	15.03	片	49.0			○		H14調査	3119
622	116	107	SI	33	QSW	覆土下位	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	3.08	4.37	1.03	8.46	片	52.0			○		H14調査	3125
623		107	SI	36		覆土	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	3.00	2.91	0.63	3.73	片	57.5					H14調査	3131
624	116	107	SI	36		覆土	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	3.79	3.05	1.11	9.58	片	55.0			○		H14調査	3133
625	116	107	SI	36		覆土	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	7.50	4.40	1.21	29.22	片	45.0					H14調査	3134
626	116	107	SX	10		覆土1層	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	5.26	5.68	0.91	19.79	片	33.5			○		H14調査	3118
627	116	107			ⅡB1e	Ⅱ層	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	3.89	2.58	0.65	5.67	片	53.0					H14調査	3147
628		107			ⅡB1d	Ⅱ層下位	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	2.55	3.01	0.78	5.67	片	57.0	アスファルト付着				H14調査	3150
629		108			ⅡB2c北西	Ⅱ層	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	4.18	4.54	1.18	21.23	片	55.0			○		H14調査	3139
630	116	108			ⅡB2c北西	Ⅱ層	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	4.18	2.90	0.86	11.00	片	42.0			○		H14調査	3143
631		108			ⅡB2d北東	Ⅱ層	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	2.78	3.33	0.83	7.14	片	47.0					H14調査	3153
632		108			ⅡB3c	Ⅱ層中位	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	5.41	4.32	1.47	28.84	片	56.0			○		H14調査	3146
633		108			ⅠA区	盛土	二次加工	ⅠB	頁岩	北上山地	4.50	3.42	1.12	10.85	片	43.0			○		H14調査	3155
634		108	SX	4	北ベルト	覆土	二次加工	ⅠD	頁岩	奥羽山脈	3.05	2.01	0.50	1.95	両	53.5		○			H13調査	1046
635		108	SX	8		底面	二次加工	Ⅰ－	頁岩	奥羽山脈	1.08	0.57	0.17	0.09	－	－	調整剥片？				H13調査	1043
636	117	108	SI	27	北東端	床直上	二次加工	ⅡA	頁岩	北上山地	4.08	5.22	0.81	11.15	片	61.0					H14調査	3107
637		108	SI	33	中央	覆土下位	二次加工	ⅡA	頁岩	北上山地	1.56	3.44	0.75	4.98	片	104.0					H14調査	3122
638	117	108	SI	33	QSW	覆土下位	二次加工	ⅡA	頁岩	北上山地	4.48	7.85	0.81	25.47	片	64.5			○		H14調査	3128
639	117	108	SI	33	QSW	覆土下位	二次加工	ⅡA	頁岩	北上山地	3.47	5.25	1.21	20.03	片	61.0					H14調査	3129
640		108	SK	29		覆土	二次加工	ⅡA	頁岩	北上山地	3.92	2.97	0.91	7.98	片	93.0					H14調査	3138
641	117	108			ⅠB8c	風倒木痕	二次加工	ⅡA	頁岩	北上山地	3.05	3.90	0.88	6.98	片	65.0					H14調査	3136
642		108			ⅡB1d～2d	Ⅱ層	二次加工	ⅡA	凝灰岩	北上山地	2.68	3.94	1.39	5.15	片	68.0					H14調査	3148
643	117	108			ⅡB2c北西	Ⅱ層	二次加工	ⅡA	頁岩	北上山地	4.06	5.30	0.70	13.68	片	67.0			○		H14調査	3142
644		108			ⅡB3e	Ⅱ層下位	二次加工	ⅡA	頁岩	北上山地	2.15	3.05	0.38	2.69	片	74.0					H14調査	3154
645		108			ⅡA区	盛土中	二次加工	ⅡA	頁岩	北上山地	2.37	2.69	0.70	3.46	片	60.0			○		H14調査	3156
646		108	SI	13		覆土	二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	5.02	7.07	0.95	26.71	片	42.0					H14調査	3135
647	117	108	SI	27		床直上	二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	2.75	3.30	0.75	5.63	片	35.0					H14調査	3106
648		108	SI	27	中央西	床直上	二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	3.74	2.38	0.86	5.34	片	54.0					H14調査	3109
649	117	108	SI	27	北東	覆土	二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	2.54	4.45	1.03	14.05	片	54.0				折	H14調査	3115
650		108	SI	34		床面	二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	1.81	2.84	0.56	2.98	片	50.0					H14調査	3120

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				刃部		特徴	欠損	自然面	被熱・折断	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状	角度(°)						
651	117	108	SI	33	QSW	覆土下位	二次加工	ⅡB	瑪瑙	北上山地	3.89	4.91	1.03	15.75	片	47.5					H14調査	3126
652		108	SI	33	QNE	覆土	二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	2.83	3.16	0.72	5.72	片	53.0					H14調査	3130
653		108	SI	36		覆土	二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	2.64	4.31	0.70	4.31	片	46.0					H14調査	3132
654	117	108	SX	3	QSW 壁際	覆土上位	二次加工	ⅡB	頁岩	奥羽山脈	6.10	4.00	1.10	19.34	片	45.0					H13調査	1045
655	118	108			ⅡB1d北西	Ⅱ層	二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	3.31	4.23	1.21	12.97	片	41.0			○		H14調査	3149
656		108			ⅡB2c北西	Ⅱ層	二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	1.55	3.58	0.67	3.51	片	46.0					H14調査	3141
657		108			ⅡB2d	Ⅱ層下位	二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	2.25	2.86	0.50	2.43	片	48.0		○			H14調査	3151
658		108			ⅡB3b	Ⅱ層	二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	3.32	4.91	1.34	14.07	片	46.0			○		H14調査	3144
659		108			不明		二次加工	ⅡB	頁岩	北上山地	2.17	2.80	0.33	1.37	片	48.0					H14調査	3158
660		108	SK	20		覆土上位	二次加工	ⅡC	頁岩	奥羽山脈	4.92	5.97	1.56	34.80	片	72.0			○		H13調査	1047
661		108			H13調査区	表採	二次加工	ⅡC	頁岩	北上山地	3.85	4.90	1.08	20.31	両	66.0					H14調査	3157
662	118	108	SI	33	QSW	覆土下位	二次加工	ⅡD	頁岩	北上山地	1.82	2.61	0.35	2.38	両	56.0			○		H14調査	3127
663		109	SI	27	北東端	床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.20	3.31	1.29	14.94							H14調査	3160
664		109	SI	27	北東端	床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.62	3.71	0.91	9.59							H14調査	3161
665		109	SI	27	中央西	床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	5.27	3.75	0.77	15.43							H14調査	3162
666		109	SI	27		床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.74	3.04	1.09	6.03					○		H14調査	3166
667		109	SI	27	北東端	床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	奥羽山脈？	5.41	2.80	1.11	11.68							H14調査	3167
668		109	SI	27	北東端	床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.70	3.81	0.76	13.05					○		H14調査	3169
669		109	SI	27	北端	床直上	微細剥離痕	ⅠB	瑪瑙	北上山地	4.33	1.90	0.68	5.59							H14調査	3170
670		109	SI	27	北東端	床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	2.38	5.44	0.59	8.17					○		H14調査	3171
671		109	SI	27	南東	床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.69	2.36	0.60	6.22							H14調査	3172
672		109	SI	27	中央西	床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	2.95	2.40	0.36	2.69							H14調査	3174
673		109	SI	27	中央西	床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.12	3.00	0.43	2.77					○		H14調査	3175
674		109	SI	27	中央西	床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.16	3.85	1.12	18.22					○		H14調査	3178
675		109	SI	27	中央西	床直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.24	3.54	1.13	12.39					○		H14調査	3179
676		109	SI	27	中央西	覆土1層	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	5.12	5.07	1.10	22.22					○		H14調査	3182
677		109	SI	27	中央西	覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	5.22	3.84	0.91	14.70					○		H14調査	3184
678		109	SI	27	中央東	覆土1層中位	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	2.94	3.23	0.73	6.84					○		H14調査	3185
679		109	SI	27	南端	覆土1層	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.09	3.59	0.81	6.68					○		H14調査	3186
680		109	SI	27	南端	覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.77	3.47	0.81	8.17							H14調査	3187
681		109	SI	27	中央	覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	奥羽山脈？	4.21	2.68	0.76	6.18							H14調査	3188
682		109	SI	27	中央	覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.35	4.16	0.72	13.85					○		H14調査	3191
683		109	SI	27	中央	覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.01	3.35	0.81	7.09					○		H14調査	3192
684		109	SI	27	北東	覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.59	3.26	0.38	3.06							H14調査	3194
685		109	SI	27		覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.08	3.66	0.79	11.57					○		H14調査	3195
686		109	SI	29		覆土1層	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.42	3.08	0.94	12.81					○		H14調査	3197
687		109	SI	29	QNE	覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.60	3.95	0.87	11.79					○		H14調査	3199
688		109	SI	34		床面	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.27	1.72	1.08	4.04							H14調査	3205
689		109	SI	34		床面	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.05	2.08	0.62	4.27					○		H14調査	3207
690		109	SI	34		床面	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.08	3.58	0.75	7.36					○		H14調査	3208
691		109	SI	33	北側	覆土下位	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	5.86	3.95	0.89	21.22					○		H14調査	3209
692	118	109	SI	33	北側	覆土下位	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	5.00	2.25	0.66	7.47							H14調査	3210
693		109	SI	33	QNE	覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	2.81	2.57	0.37	1.86							H14調査	3211
694		109	SI	33	QNE	覆土	微細剥離痕	ⅠB	赤色頁岩	北上山地	4.80	5.74	1.24	28.60					○		H14調査	3212
695		109	SI	33	QSE	覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	5.31	2.02	0.47	6.96							H14調査	3213
696		109	SI	33	QSW	覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.04	4.19	0.76	15.67					○		H14調査	3215
697		109	SI	36	西側	覆土3層	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	奥羽山脈？	4.13	1.79	0.52	2.74					○		H14調査	3217
698		109	SI	36		覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	2.74	2.39	1.19	6.54					○		H14調査	3219
699		110	SX	9		底面直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.57	3.86	0.36	4.08					○		H14調査	3196

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				刃部		特徴	欠損	自然面	被熱・折断	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状	角度(°)						
700		110	SK	28		覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.07	4.15	1.16	10.33							H14調査	3222
701		110	SK	29		覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	2.85	2.48	0.65	2.82					○		H14調査	3223
702		110	SK	45		覆土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.52	3.73	0.95	15.79					○		H14調査	3224
703		110			ⅡB1d北東	Ⅲ層下位	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	1.32	3.65	1.08	5.24							H14調査	3225
704		110			ⅡB1d北西	Ⅱ層中位	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.28	3.69	1.37	10.29							H14調査	3226
705		110			ⅡB1d北西	Ⅱ層中位	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	2.26	3.29	0.95	6.48					○		H14調査	3227
706		110			ⅡB1d P4付近		微細剥離痕	ⅠB	頁岩	奥羽山脈？	3.47	2.98	0.58	3.45							H14調査	3228
707		110			ⅡB1f風倒木痕	黒色土	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	5.34	4.19	0.89	17.35					○		H14調査	3237
708		110			ⅡB1h	Ⅲ層下位	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	2.90	2.40	0.88	4.95							H14調査	3238
709		110			ⅡB2d北西	Ⅱ層	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.28	2.35	0.96	5.91							H14調査	3229
710		110			ⅡB2d	Ⅱ層	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.91	2.96	1.27	17.66							H14調査	3232
711		110			ⅡB2e南西	Ⅲ層直上	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	2.09	3.25	0.50	2.31					○		H14調査	3236
712		110			ⅡB3c	Ⅱ層中位	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	6.36	2.90	0.90	12.32					○		H14調査	3233
713		110			H13調査区	表採	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.60	3.00	0.90	5.49					○		H14調査	3240
714		110			H13調査区	表採	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	3.84	4.42	1.21	21.07							H14調査	3241
715		110			調査区外	表採	微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	5.38	3.09	0.87	13.41					○		H14調査	3242
716		110			不明		微細剥離痕	ⅠB	頁岩	北上山地	4.14	3.89	1.08	14.43					○		H14調査	3245
717	118	110			ⅡB2c北西	Ⅱ層中位	微細剥離痕	ⅡA	頁岩	北上山地	2.68	4.42	1.06	13.20					○		H14調査	3235
718		110	SI	27	中央西	床直上	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	2.95	4.17	0.56	7.18					○		H14調査	3159
719		110	SI	27	北西端	床直上	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	2.04	2.61	0.47	1.35							H14調査	3163
720		110	SI	27	中央西	床直上	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	2.69	3.52	0.73	4.99					○		H14調査	3164
721		110	SI	27		床直上	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	3.75	5.69	1.11	24.03					○		H14調査	3165
722		110	SI	27	中央	床直上	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	2.09	5.59	0.55	6.95					○		H14調査	3168
723		110	SI	27	中央西	床直上	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	3.82	4.83	1.20	17.85					○		H14調査	3173
724		110	SI	27	中央西	床直上	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	4.17	5.35	0.85	15.09					○		H14調査	3176
725		110	SI	27	中央西	床直上	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	4.16	3.99	0.81	11.70					○		H14調査	3177
726		110	SI	27		床直上	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	6.20	4.91	0.93	36.31					○		H14調査	3180
727		110	SI	27		床直上	微細剥離痕	ⅡB	ホルンフェルス	北上山地	4.24	12.64	0.47	30.83							H14調査	3181
728		110	SI	27	中央西	覆土	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	2.19	3.73	0.53	4.25					○		H14調査	3183
729	118	110	SI	27	中央	覆土	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	2.56	4.13	0.74	9.13					○		H14調査	3189
730		110	SI	27	中央	覆土	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	2.08	3.34	0.82	2.81							H14調査	3190
731		110	SI	27	北東	覆土	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	3.41	4.41	0.49	4.81					○		H14調査	3193
732		110	SI	29		覆土1層	微細剥離痕	ⅡB	珪化木	北上山地	2.27	4.42	1.27	11.55							H14調査	3198
733		110	SI	29	P4付近	覆土	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	2.66	3.54	0.46	4.06							H14調査	3200
734		111	SI	29		覆土	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	3.73	4.74	0.92	16.63					○		H14調査	3201
735		111	SI	29		覆土	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	奥羽山脈？	2.28	4.31	0.90	6.44							H14調査	3202
736		111	SI	29		覆土	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	3.67	4.69	0.78	23.97							H14調査	3203
737		111	SI	29		覆土	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	3.21	4.23	1.07	13.08					○		H14調査	3204
738		111	SI	34		床面	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	奥羽山脈？	3.68	5.05	0.85	11.34							H14調査	3206
739		111	SI	33	QSE	覆土	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	2.75	4.13	0.78	8.43							H14調査	3214
740	118	111	SI	36		床面	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	奥羽山脈？	3.13	3.55	0.71	9.03					○		H14調査	3216
741		111	SI	36		覆土	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	3.68	4.34	1.19	14.70							H14調査	3218
742		111			ⅠB8c	風倒木痕	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	3.00	4.07	1.27	6.97							H14調査	3220
743		111			ⅠB8c	風倒木痕	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	1.80	3.77	0.78	3.25							H14調査	3221
744	118	111			ⅡB2d	Ⅱ層	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	奥羽山脈？	3.27	4.44	2.83	20.66					○		H14調査	3230
745		111			ⅡB2d	Ⅱ層	微細剥離痕	ⅡB	赤色頁岩	北上山地	2.63	4.14	0.95	10.06					○		H14調査	3231
746		111			ⅡB3c	Ⅱ層下位	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	4.78	5.54	1.03	23.25					○		H14調査	3234
747		111			H13調査区	表採	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	3.64	4.10	0.86	9.72					○		H14調査	3239
748		111			不明	表採	微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	2.68	3.30	1.18	8.40							H14調査	3243

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				刃部		特徴	欠損	自然面	被熱・折断	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状	角度(°)						
749		111			不明		微細剥離痕	ⅡB	頁岩	北上山地	1.80	3.36	0.47	2.46							H14調査	3244
750		111	SI	8		床面	石核	−	ホルンフェルス	北上山地	8.82	6.91	3.91	286.66							H13調査	1101
751		111			ⅠB9j	Ⅱ層	石核	−	頁岩	北上山地	14.44	12.02	4.76	991.60							H13調査	1102
752		111	SK	20		覆土下位	切断?		頁岩		8.78	5.16	1.98	90.84							H13調査	1103
753	118	111	SI	31		覆土	剥片	−	頁岩	北上山地	4.61	4.33	1.06	16.95			アスファルト付着				H14調査	3247
754	118	111	SX	9		覆土1層	剥片	−	頁岩	北上山地	1.86	2.85	0.73	3.03			アスファルト付着				H14調査	3246

第14表　石斧類観察表

(1)法量について、( )は欠損部分の残存値を表示している。
(2)刃部について、形状は平面・断面形、角度は刃部を3ヵ所計測した平均値を記載している。
(3)欠損部・自然面がある場合は、各欄に○をしてある。

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				刃部			特徴	欠損	自然面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形状 平面	形状 断面	角度(°)					
755	119	139	SI	3		覆土	石斧類	ⅠC	ひん岩	北上山地	15.20	6.00	3.50	502.78	偏	両	56.0				H13調査	1113
756	119	139	SI	18	周溝底面	覆土	石斧類	ⅠB	頁岩	北上山地	7.70	2.55	1.20	42.54	円	片	44.0				H13調査	1114
757	119	139	SI	21	QSE	覆土	石斧類	ⅠA	頁岩	北上山地	(8.52)	4.60	2.30	150.76	円	両	54.0		○		H13調査	1115
758	119	139	SI	27	S-1	床直上	石斧類	Ⅰ−	頁岩	北上山地	(21.52)	(6.48)	3.92	726.25	−	両	−	2個体接合	○		H14調査	3248
759	119	139	SI	29	S4	覆土1層	石斧類	ⅠB	頁岩	北上山地	5.50	1.94	1.00	18.90	円	片	49.0	小形			H14調査	3249
760	119	139	SI	33	P8	覆土	石斧類	ⅠA	斑糲岩	北上山地	13.21	5.22	3.00	333.44	円	両	53.0				H14調査	3250
761	119	139	SI	36	ベルト	覆土	石斧類	ⅠE	砂岩	北上山地	5.17	2.98	0.98	28.63	直	両	52.0	小形			H14調査	3251
762	120	139	SK	20		覆土上位	石斧類	ⅠA	頁岩	奥羽山脈	(4.07)	1.40	0.60	7.35	円	両	40.5	小形	○		H13調査	1117
763	120	139	SX	4	QSE	覆土	石斧類	ⅠA	頁岩	北上山地	8.40	4.10	(1.50)	85.68	円	両	−		○		H13調査	1116
764		139			ⅠB9h　風倒木痕		石斧類	ⅠC	頁岩	北上山地	9.61	3.88	2.23	130.16	偏	両	57.5				H13調査	1118
765		139			メインベルト　攪乱	表採	石斧類	Ⅰ−	砂岩	北上山地	(12.59)	4.93	3.52	346.42	−	−	−		○		H13調査	1119
766	120	139			ⅡB2f攪乱	覆土上位	石斧類	ⅠA	角閃㶉岩	北上山地	(7.95)	4.29	2.25	124.23	円	両	65.0		○		H14調査	3252
767	120	139	SI	29	QNE	覆土	石斧類	ⅡF	頁岩	北上山地	12.67	9.06	2.48	383.11	直	片	49.5	凹石を転用		○	H14調査	3285
768	120	139	SX	3		床面	石斧類	ⅡB	頁岩	−	13.15	4.80	1.05	71.82	円	片	56.0				H13調査	1121
769		139	SX	3	QNE	覆土	石斧類	Ⅱ−	頁岩	−	(14.59)	4.78	(2.72)	271.36	−	−	−		○	○	H13調査	1122
770	120	139	SX	9		覆土1層	石斧類	ⅡC	頁岩	北上山地	12.72	6.24	1.48	136.63	偏	両	50.0			○	H14調査	3255
771		139			風倒木痕	表採	石斧類	Ⅱ−	頁岩	−	14.95	9.17	2.73	423.65							H13調査	1123
772	120	139			ⅡB1f風倒木痕		石斧類	Ⅱ−	頁岩	北上山地	(17.09)	4.86	1.42	142.49	−	−	−		○		H14調査	3253
773	121	139			ⅡB2b	Ⅱ層	石斧類	ⅡD	砂岩	−	13.45	6.21	3.59	400.70	偏	片	54.0				H14調査	3315
774	121	139			ⅡB2f攪乱北半	覆土	石斧類	ⅡC	頁岩	北上山地	17.68	7.01	1.48	278.38	直	両	41.0				H14調査	3326
775	121	139			ⅡD1c	Ⅱ層	石斧類	ⅢA	頁岩	−	14.50	8.80	2.10	220.02	円	両	46.0	撥形			H13調査	1124
776	121	139	SX	3		床面	石斧類	ⅢA	頁岩	−	16.50	8.60	1.20	220.93	円	両	52.0	分銅形			H13調査	1125
777	121	139			ⅠD10h	Ⅰ層	石斧類	ⅢA	ホルンフェルス	北上山地	17.53	12.55	2.00	458.43	円	両	61.0	撥形		○	H14調査	3254

第15表　礫石器観察表

(1)機能部の記載について、磨面部は各部位の面数、敲部は各部位の主に観察される敲打箇所数、凹部は各部位の凹痕数をそれぞれ表示している。
(2)法量について、( )は欠損部分の残存値を表示している。
(3)欠損がある場合は、欠損欄に○をしてある。

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部								特徴	欠損	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	磨面部			敲部			凹部					
															正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏			
778		112	SI	27	北東付近	床直上	礫器類	IA	頁岩	北上山地	18.21	7.92	2.85	602.95		1										H14調査	3273
779		112	SI	27	中央西	覆土1層	礫器類	IA	頁岩	北上山地	15.46	10.58	2.38	567.36												H14調査	3274
780		112	SI	33	QSE	覆土	礫器類	IA	ホルンフェルス	北上山地	10.60	7.17	2.26	268.15					1							H14調査	3292
781		112	SX	9		覆土1層	礫器類	IA	頁岩	北上山地	13.11	4.97	1.44	131.27												H14調査	3281
782		112	SK	28		覆土	礫器類	IA	砂岩	-	19.70	9.93	3.57	782.79		2					1					H14調査	3304
783		112	SK	29		覆土	礫器類	IA	頁岩	北上山地	14.02	5.53	2.99	328.39												H14調査	3306
784		112	SK	29		覆土	礫器類	IA	頁岩	北上山地	16.37	5.55	1.92	225.45												H14調査	3307
785		112	SK	29		覆土	礫器類	IA	頁岩	北上山地	15.42	9.42	2.91	481.55					2			4				H14調査	3503
786		112	SK	38		覆土1層	礫器類	IA	砂岩	-	(18.58)	6.52	3.44	577.02					2			3		2		○	H14調査	3507
787		112	SI	27		床直上	礫器類	IB	頁岩	北上山地	13.96	7.98	2.64	422.97												H14調査	3270
788		112	SI	27	南端	覆土	礫器類	IB	デイサイト	北上山地	15.48	8.44	5.55	919.27											石英安山岩	H14調査	3275
789	122	112	SI	29		覆土1層	礫器類	IB	頁岩	北上山地	16.17	5.98	3.03	302.64												H14調査	3258
790	122	112	SI	29	QSW	覆土	礫器類	IB	凝灰岩	北上山地	12.40	7.44	2.79	389.76	1							1				H14調査	3284
791		112	SI	34		床直上	礫器類	IB	頁岩	北上山地	21.93	6.97	2.44	558.04												H14調査	3259
792		112	SI	36		覆土1層	礫器類	IB	砂岩	-	23.98	13.01	5.59	2432.50											敲打痕	H14調査	3594
793	122	112	SX	3		床面	礫器類	IB	頁岩	北上山地	16.80	7.00	5.20	616.04												H13調査	1131
794	122	112	SX	3		床面	礫器類	IB	砂岩	北上山地	19.00	6.95	3.50	610.49												H13調査	1132
795		112	SK	38		覆土下位	礫器類	IB	頁岩	北上山地	13.55	5.99	2.04	201.36												H14調査	3261
796		113			IB8c　風倒木痕	覆土	礫器類	IB	頁岩	北上山地	22.15	10.27	2.37	644.10				1								H14調査	3303
797	122	113			IIB2b	II層中位	礫器類	IB	頁岩	北上山地	21.03	10.14	2.94	873.54	1			1								H14調査	3314
798		112			IIB1d～2d	II層中位	礫器類	IB	ホルンフェルス	北上山地	12.98	6.02	1.75	173.14												H14調査	3322
799		113			IIB1d～2d	II層中位	礫器類	IB	頁岩	北上山地	23.32	6.20	3.57	1112.62		2										H14調査	3414
800		113			IIB2c	I層下位	礫器類	IB	ホルンフェルス	北上山地	10.86	5.55	1.94	186.80				3	1					砥石	○	H14調査	3317
801		113			IIB3e	II層下位	礫器類	IB	砂岩	-	23.48	12.33	4.35	2051.31												H14調査	3262
802		113	SI	27	南西床直上	覆土1層	礫器類	IIA	頁岩	北上山地	12.83	7.31	1.30	154.26												H14調査	3264
803	123	113	SI	29	QNE	覆土	礫器類	IIA	頁岩	北上山地	14.00	7.89	1.16	205.99												H14調査	3257
804	123	113	SI	33	QSW	覆土下位	礫器類	IIA	頁岩	北上山地	12.20	8.64	1.84	230.75					2							H14調査	3293
805	123	113			IIB1d～2d	II層中位	礫器類	IIA	ホルンフェルス	北上山地	12.79	11.78	4.04	602.10												H14調査	3413
806	123	113	SI	27		床直上	礫器類	IIB	頁岩	北上山地	13.66	7.20	1.63	184.72												H14調査	3268
807		113	SI	27	南東	床直上	礫器類	IIB	頁岩	北上山地	14.62	3.71	0.92	61.01												H14調査	3657
808		113	SX	10		覆土1層	礫器類	IIB	頁岩	北上山地	25.01	7.39	2.44	504.06												H14調査	3256
809		113	SK	20		覆土下位	礫器類	IIB	凝灰岩	北上山地	10.95	8.55	2.35	274.93												H13調査	1130
810		113			IIB1d～2d	II層中位	礫器類	IIB	ホルンフェルス	北上山地	12.51	9.76	1.54	293.13												H14調査	3323
811		113			IIB2c	II層下位	礫器類	IIB	頁岩	北上山地	11.25	6.48	1.84	140.72												H14調査	3329
812	123	113	SI	27		床直上	礫器類	IB	頁岩	北上山地	9.90	6.19	2.03	172.59												H14調査	3269
813		114	SI	18	QNE	覆土	敲磨器類	IA	頁岩	-	18.42	4.13	2.20	212.09				1								H13調査	1315
814		114	SI	27		床直上	敲磨器類	IA	頁岩	北上山地	18.16	4.11	3.13	394.46				1								H14調査	3654
815		114	SI	27		床直上	敲磨器類	IA	砂岩	-	13.97	5.45	4.17	419.44				1								H14調査	3267
816		114	SK	28		覆土	敲磨器類	IA	頁岩	北上山地	24.75	5.08	4.56	879.85				1		1						H14調査	3305
817		114	SI	33	北西	3層黒褐色土	敲磨器類	IA	頁岩	北上山地	15.75	7.38	3.71	620.58				2								H14調査	3291
818		114	SI	36	炉付近	覆土	敲磨器類	IA	砂岩	-	16.64	6.85	2.99	483.15				2								H14調査	3297
819		114	SI	39		覆土	敲磨器類	IA	礫岩	北上山地	11.88	10.52	5.78	993.25				1								H14調査	3300
820		114	SX	10		覆土1層	敲磨器類	IA	頁岩	北上山地	20.23	5.99	4.84	907.21				1								H14調査	3282

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部								特徴	欠損	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	磨面部			敲部			凹部					
															正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏			
821		114	SK	39		覆土	敲磨器類	IA	砂岩	−	9.00	5.15	4.00	228.83				1							H14調査	3309
822	124	114	SK	39		覆土	敲磨器類	IA	砂岩	−	20.26	6.71	3.91	731.56				1							H14調査	3310
823		114			IIB1d～2d	II層中位	敲磨器類	IA	頁岩	北上山地	14.28	6.06	4.02	441.48				1							H14調査	3320
824		114			IIB1d～2d	II層中位	敲磨器類	IA	頁岩	北上山地	8.91	7.75	6.34	625.47				1		1					H14調査	3321
825		114			IIB1d～2d	II層中位	敲磨器類	IA	頁岩	北上山地	(12.31)	2.82	1.73	77.75				1						○	H14調査	3691
826		114			IC9a 攪乱	II層	敲磨器類	IA	砂岩	北上山地	(6.68)	2.77	2.59	57.69				1						○	H13調査	1356
827		114			IIB1f風倒木痕	II層	敲磨器類	IA	砂岩	−	13.48	6.27	2.19	297.56				1							H14調査	3312
828		114			IIB1f風倒木痕	II層	敲磨器類	IA	礫岩	北上山地	13.15	7.86	3.27	474.59				1							H14調査	3313
829		114			IIB2f攪乱北半	II層	敲磨器類	IA	凝灰岩	北上山地	13.65	10.40	2.77	620.32				1							H14調査	3325
830		114	SI	6		床面	敲磨器類	IB	凝灰岩	北上山地	(7.37)	5.57	5.48	173.19					1					○	H13調査	1198
831		114	SI	6	QNW	覆土	敲磨器類	IB	安山岩	北上山地	(11.70)	7.30	5.72	776.93					1					○	H13調査	1304
832	124	114	SI	9		床面	敲磨器類	IB	ホルンフェルス	北上山地	(16.15)	8.40	3.00	565.75					1					○	H13調査	1305
833	124	115	SI	9		床面	敲磨器類	IB	頁岩	奥羽山脈	15.90	5.20	1.60	224.97					1						H13調査	1157
834	124	115	SI	10	炉埋設土器内	炉	敲磨器類	IB	頁岩	−	17.40	4.20	3.60	296.26					1					○	H13調査	1307
835		115	SI	10		床面	敲磨器類	IB	頁岩	奥羽山脈	15.74	7.61	2.95	426.53					2						H13調査	1158
836		115	SI	14		覆土	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	16.83	6.64	2.31	362.09					1						H13調査	1159
837		115	SI	18		覆土	敲磨器類	IB	ひん岩	北上山地	13.08	5.89	4.99	550.02					1						H13調査	1160
838		115	SI	18	QNE	覆土中位	敲磨器類	IB	砂岩	北上山地	9.26	4.88	3.26	247.12					1						H13調査	1162
839		115	SI	18	周溝底面	覆土	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	11.45	5.51	1.92	177.52					1						H13調査	1163
840	124	115	SI	18	周溝	覆土	敲磨器類	IB	礫岩	北上山地	19.55	5.20	4.90	727.45					2						H13調査	1312
841		115	SI	18	QSE壁際(周溝上)	覆土下位	敲磨器類	IB	礫岩	北上山地	15.41	8.01	5.40	844.90					1						H13調査	1164
842	124	115	SI	18	焼土1北側	覆土	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	10.10	4.30	4.10	272.15					1						H13調査	1165
843		115	SI	18	IB8j QSE	覆土中位	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	21.69	5.08	3.45	559.30					1						H13調査	1317
844	125	115	SI	21		炉	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	15.80	9.00	4.30	657.93					3						H13調査	1168
845	125	115	SI	23		床面	敲磨器類	IB	砂岩	北上山地	11.25	4.65	3.10	205.73					1						H13調査	1170
846	125	115	SI	23		床面	敲磨器類	IB	頁岩	−	12.40	4.20	3.50	228.28					1						H13調査	1171
847		115	SI	24	IID5a	覆土	敲磨器類	IB	凝灰岩	北上山地	8.25	5.81	2.21	128.90					1					○	H13調査	1279
848	125	115	SI	25		床面	敲磨器類	IB	閃緑岩	北上山地	10.40	5.80	4.70	377.68					1						H13調査	1172
849		115	SI	25	壁上	覆土	敲磨器類	IB	砂岩	北上山地	12.94	10.02	2.68	506.34					4						H13調査	1173
850	125	115	SI	27	中央東	床直上	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	13.43	5.41	2.11	193.26					2						H14調査	3263
851		115	SI	27		床直上	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	17.13	8.97	2.56	552.43					3						H14調査	3272
852		115	SI	27		床直上	敲磨器類	IB	砂岩	−	(15.34)	8.10	2.75	481.95					2						H14調査	3271
853	125	115	SI	27	南端	覆土	敲磨器類	IB	凝灰岩	北上山地	19.21	10.12	3.61	1012.38					1						H14調査	3276
854		116	SI	27	北西	覆土	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	11.50	10.00	2.10	334.02					1						H14調査	3277
855	125	116	SI	27	南東	覆土	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	7.77	3.54	2.02	90.12					1						H14調査	3279
856		116	SI	29	QNE	覆土	敲磨器類	IB	砂岩	−	15.28	8.45	6.63	1311.21					1						H14調査	3283
857		116	SI	29	QSW	覆土	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	24.84	5.51	2.62	446.09					1						H14調査	3665
858		116	SI	29	QSW	覆土	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	18.50	4.16	3.99	379.60					1						H14調査	3666
859		116	SI	33		覆土1層	敲磨器類	IB	デイサイト	北上山地	11.05	10.01	6.97	1018.53					1				石英安山岩		H14調査	3289
860		116	SI	34		床面	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	13.71	2.98	2.00	138.54					1						H14調査	3670
861	125	116	SI	36		覆土1層	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	13.12	9.34	4.22	741.53					2						H14調査	3295
862	126	116	SI	37	QNE	覆土3層	敲磨器類	IB	砂岩	−	8.66	4.73	1.93	114.00					1						H14調査	3296
863		116	SI	38		覆土	敲磨器類	IB	砂岩	−	10.39	5.91	4.71	372.02					1						H14調査	3299
864	126	116	SX	1		底面	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	19.30	7.50	2.80	484.27					3						H13調査	1327
865	126	116	SX	1		底面	敲磨器類	IB	砂岩	北上山地	17.30	5.50	2.90	350.62					1						H13調査	1174
866		116	SX	1		覆土	敲磨器類	IB	頁岩	−	7.35	9.15	1.50	141.08					2						H13調査	1176
867	126	116	SX	3		底面	敲磨器類	IB	頁岩	北上山地	16.50	8.65	2.70	406.27					1						H13調査	1177

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部								特徴	欠損	備考	登録No.
															磨面部			敲部			凹部					
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
868	126	116	SX	3		底面	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	(15.40)	7.30	(6.10)	879.67					1						○	H13調査	1178
869	126	116	SX	3		底面	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	13.50	9.50	4.70	800.31					1							H13調査	1179
870	127	116	SX	3		底面	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	10.50	4.00	2.60	160.14					1							H13調査	1180
871		116	SX	3		底面	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	10.88	7.57	4.89	541.69					1							H13調査	1282
872		116	SX	3	QSW 壁際	覆土上位	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	20.54	6.61	5.97	1337.02					1							H13調査	1181
873	127	116	SX	4		底面	敲磨器類	ⅠB	頁岩	−	17.10	5.90	2.65	345.57					2							H13調査	1182
874	127	116	SX	4		底面	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	8.90	7.20	2.10	218.89					2							H13調査	1214
875		116	SX	4	QSE	覆土	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	(15.84)	8.65	3.05	510.30					3						○	H13調査	1183
876		117	SX	4	QSE	覆土	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	12.50	7.23	2.81	384.86					2							H13調査	1184
877		117	SX	4	QSE	覆土	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	16.70	7.01	2.40	543.41					1							H13調査	1292
878		117	SX	4	QSE	覆土	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	16.54	5.30	3.40	419.53					1							H13調査	1337
879		117	SX	4	QSW	覆土	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	14.99	2.38	1.05	69.00					1							H13調査	1338
880		117	SX	9		底面	敲磨器類	ⅠB	砂岩	−	16.51	6.87	5.09	700.49					1							H14調査	3280
881		117	SX	10		覆土1層	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	20.76	4.85	2.16	286.98					1							H14調査	3662
882		117	SK	8		底面	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	19.82	5.32	2.62	403.94					1							H13調査	1339
883		117	SK	11		覆土	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	9.36	4.47	1.81	110.27					1							H13調査	1185
884		117	SK	16		覆土	敲磨器類	ⅠB	凝灰岩	北上山地	9.25	4.77	5.02	293.29					1							H13調査	1186
885	127	117	SK	18		底面	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	(8.80)	6.90	2.80	229.34					1						○	H13調査	1187
886		117	SK	18		覆土	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	13.90	6.74	2.75	171.99					3							H13調査	1188
887		117	SK	18		覆土	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	6.00	5.12	4.06	139.38				1								H13調査	1286
888		117	SK	18		覆土	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	(10.07)	3.53	(0.87)	40.04					2						○	H13調査	1341
889		117	SK	18		覆土	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	(10.91)	4.72	2.74	278.22					3						○	H13調査	1342
890		117	SK	18		覆土	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	(13.39)	3.48	1.70	120.31					1							H13調査	1343
891		117	SK	20		覆土	敲磨器類	ⅠB	頁岩	−	15.24	5.39	3.77	458.71					1							H13調査	1190
892		117	SK	35		覆土	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	26.94	8.97	4.68	1470.25					1							H14調査	3641
893		117			ⅠB7i 攪乱	Ⅱ層	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	15.95	6.81	4.48	790.70					1							H13調査	1191
894		117			ⅠB6j 攪乱	Ⅱ層	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	22.27	8.19	3.86	915.15					2							H13調査	1193
895		117			ⅠB9j 攪乱	Ⅱ層	敲磨器類	ⅠB	礫岩	北上山地	12.92	9.25	3.81	546.32					2							H13調査	1194
896		117			ⅠB9j 攪乱	Ⅱ層	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	11.63	6.11	1.93	202.68					2							H13調査	1195
897		117			ⅠC6e 攪乱	Ⅱ層	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	9.10	5.62	1.34	123.94					1							H13調査	1197
898		117			ⅠD9a 攪乱	Ⅱ層	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	28.99	8.36	3.30	1155.58					1							H13調査	1349
899		117			ⅡB3i 攪乱	Ⅲ層直上	敲磨器類	ⅠB	砂岩	北上山地	12.01	5.87	1.77	190.81					3							H13調査	1192
900		118			ⅡA2f～2g	Ⅱ層下位	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	(13.31)	5.54	2.96	247.71					1							H14調査	3327
901	127	118			ⅡB1c 南	Ⅱ層	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	18.21	6.63	2.75	557.81					2							H14調査	3311
902		118			ⅡB1d	Ⅱ層中位	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	(16.53)	8.74	2.55	494.64					3							H14調査	3646
903		118			ⅡB2b	Ⅱ層	敲磨器類	ⅠB	頁岩	北上山地	(12.20)	4.56	2.04	180.20					2							H14調査	3316
904	127	118	SI	18		周溝底面	敲磨器類	ⅠC	砂岩	北上山地	(11.00)	5.80	4.90	444.27				1	1						○	H13調査	1161
905	127	118	SI	23	壁際		敲磨器類	ⅠC	砂岩	北上山地	18.70	2.70	6.40	349.72				1	1	1						H13調査	1169
906		118	SI	27	中央西	床直上	敲磨器類	ⅠC	砂岩	−	9.34	5.62	4.12	298.87				1	2							H14調査	3265
907		118	SI	27		床直上	敲磨器類	ⅠC	砂岩	−	13.76	10.56	3.98	768.32				1	1							H14調査	3266
908	128	118	SI	33		床直上	敲磨器類	ⅠC	砂岩	−	10.50	8.56	3.74	460.28				1	2							H14調査	3288
909		118	SI	34		覆土	敲磨器類	ⅠC	頁岩	北上山地	13.58	6.71	3.62	395.22				1	1							H14調査	3294
910		118	SI	39		覆土	敲磨器類	ⅠC	砂岩	−	10.55	9.43	5.67	685.08				1	1							H14調査	3301
911		118	SX	1		覆土	敲磨器類	ⅠC	砂岩	北上山地	7.86	6.42	5.72	388.40					2	1						H13調査	1280
912		118	SX	3	北ベルト	覆土上位	敲磨器類	ⅠC	砂岩	北上山地	10.73	9.21	9.37	1282.29				1	2							H13調査	1284
913		118	SX	8	QNW	覆土下位	敲磨器類	ⅠC	砂岩	北上山地	(16.98)	8.36	6.79	1147.86					3	1					○	H13調査	1167
914	128	118	SX	11		覆土	敲磨器類	ⅠC	頁岩	北上山地	16.74	5.36	2.91	347.83				1	2							H14調査	3302

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部								特徴	欠損	備考	登録No.
															磨面部			敲部			凹部					
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
915		118	SK	20		覆土中位	敲磨器類	IC	砂岩	北上山地	8.44	6.01	3.72	264.35				1	1							H13調査	1189
916	128	118			IIA2g	III層直上	敲磨器類	IC	頁岩	北上山地	9.72	8.25	2.55	300.81				1	2	1						H14調査	3328
917		118			IIB6e焼土付近	II層中位	敲磨器類	IC	砂岩	−	12.05	9.22	3.54	518.77				1	2							H14調査	3330
918		118			IA区	盛土	敲磨器類	IC	砂岩	−	13.11	7.72	4.35	624.73				1	1							H14調査	3331
919		118			IIB1h	I層下位	敲磨器類	IC	頁岩	北上山地	13.96	5.32	2.89	365.03					1							H14調査	3332
920	128	118	SI	27		床直上	敲磨器類	IIA1	デイサイト	北上山地	10.91	6.17	4.43	464.33	1			1						石英安山岩		H14調査	3334
921		118	SI	27	南東	覆土	敲磨器類	IIA1	凝灰岩	北上山地	10.77	9.99	6.17	909.16	1			1								H14調査	3365
922	128	118	SI	29	QNE	覆土	敲磨器類	IIA1	デイサイト	北上山地	12.40	5.52	3.95	347.08	1			1		1				石英安山岩		H14調査	3336
923		118	SK	38		覆土	敲磨器類	IIA2	凝灰岩	北上山地	11.10	9.47	5.66	836.01		1		1								H14調査	3308
924			SI	18		周溝覆土	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	14.89	5.82	3.38	517.30	1				1							H13調査	1199
925	128	119	SI	18		周溝底面	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	9.60	5.15	4.40	311.37			1		1							H13調査	1200
926		119	SI	18	IB9j～IIB3j風倒木痕	II層	敲磨器類	IIB1	凝灰岩	北上山地	9.12	4.92	4.04	245.66			1		1							H13調査	1202
927		119	SI	18		床面	敲磨器類	IIB1	凝灰岩	北上山地	9.72	6.56	4.24	409.82	1				1							H13調査	1203
928		119	SI	18	IB8i NE	覆土	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	9.70	7.57	3.20	357.36	1				2							H13調査	1204
929	128	119	SI	18		床直上	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	(6.20)	5.60	3.50	119.89	1				1						○	H13調査	1205
930	129	119	SI	18		床面	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	10.65	7.55	5.00	669.16	1				1							H13調査	1225
931	129	119	SI	18	p7部分	床直上	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	8.80	6.50	4.90	439.04	1				1							H13調査	1201
932		119	SI	21	QSE	覆土上位	敲磨器類	IIB1	頁岩	北上山地	11.10	6.01	3.90	367.47	1		1		2							H13調査	1209
933	129	119	SI	33	中央北	覆土下位	敲磨器類	IIB1	花崗閃緑岩	北上山地	13.12	9.83	5.70	1097.37	1		1		1							H14調査	3387
934		119	SX	1		覆土	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	16.73	4.63	3.63	360.55	1				1							H13調査	1175
935	129	119	SX	4		底面	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	12.50	6.80	5.50	715.99	1				1							H13調査	1213
936		119	SX	4		底面	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	14.28	5.72	2.76	274.02	1				2							H13調査	1215
937		119	SK	18		覆土(黒)	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	8.44	4.24	4.20	197.79			1		2							H13調査	1217
938		119	SK	20		覆土下位	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	12.15	4.14	2.74	150.73	1				1							H13調査	1218
939		119	SK	29		覆土	敲磨器類	IIB1	不明	北上山地	11.92	7.80	2.33	355.08	1				2							H14調査	3398
940		119	SK	39		覆土	敲磨器類	IIB1	頁岩	北上山地	9.63	4.80	2.23	141.43	1				2							H14調査	3402
941		119	SK	39		覆土	敲磨器類	IIB1	頁岩	北上山地	9.10	4.60	3.24	232.68	1				1							H14調査	3403
942		119			IB9i 風倒木痕	II層	敲磨器類	IIB1	頁岩	北上山地	6.51	1.99	1.30	27.32	1				1							H13調査	1220
943		119			IC10a	II層	敲磨器類	IIB1	砂岩	北上山地	12.67	6.29	4.49	506.43	1				1							H13調査	1196
944	129	119	SI	5		床面	敲磨器類	IIB2	頁岩	北上山地	14.50	6.15	3.05	453.51		1			1							H13調査	1136
945	129	119	SI	27		床直上	敲磨器類	IIB2	頁岩	北上山地	9.94	7.67	5.29	571.56		1			1							H14調査	3333
946		119	SI	27		床直上	敲磨器類	IIB2	砂岩	−	20.22	6.52	3.74	731.96		2			1							H14調査	3335
947		119	SI	27	北西端	床直上	敲磨器類	IIB2	頁岩	北上山地	11.88	7.26	2.47	368.93		1			1							H14調査	3362
948		119			IIB1h	II層下位	敲磨器類	IIB2	デイサイト	北上山地	16.59	7.80	3.18	471.56		1			1					石英安山岩		H14調査	3416
949		119			IIB2c	II層中位	敲磨器類	IIB2	デイサイト	北上山地	23.58	9.56	4.32	1068.12		1			2					石英安山岩		H14調査	3337
950		120			IA9f～10f攪乱	II層	敲磨器類	IIB2	砂岩	−	23.47	9.65	4.37	1544.01		1			1							H14調査	3406
951		120	SI	18	QSE 壁際(周溝上)	覆土下位	敲磨器類	IIB3	頁岩	北上山地	11.80	6.49	4.31	444.67	1	1			1							H13調査	1206
952		120	SI	18	QSE 壁際(周溝上)	覆土下位	敲磨器類	IIB3	砂岩	北上山地	11.05	5.01	4.66	355.84	1	2	1		1							H13調査	1207
953		120	SI	18		床面	敲磨器類	IIB3	閃緑岩	北上山地	8.09	2.73	1.91	62.21	1	1	1		1							H13調査	1208
954		120	SI	18	QSE壁際(周溝上)	覆土下位	敲磨器類	IIB3	砂岩	北上山地	13.98	6.07	4.59	610.36	1	1	1		1							H13調査	1226
955	129	120	SI	18		床直上	敲磨器類	IIB3	凝灰岩	北上山地	8.85	5.55	3.60	274.03	1	2	1		2							H13調査	1268
956		120	SI	24	中央部	覆土下位	敲磨器類	IIB3	斑岩	北上山地	13.84	5.46	4.78	643.98	1	1	1		1							H13調査	1211
957		120	SK	16		覆土	敲磨器類	IIB3	花崗閃緑岩	北上山地	8.62	6.70	4.12	375.15	1	1	1		1							H13調査	1216
958		120			IID1c	I層下位	敲磨器類	IIB3	砂岩	北上山地	14.71	6.32	4.70	591.31	1	1			1							H13調査	1221
959		120			IID1c	I層下位	敲磨器類	IIB3	砂岩	北上山地	7.28	2.66	1.72	67.48	1	2			1							H13調査	1222
960	130	120	SI	20	壁際	床直上	敲磨器類	IIC1			11.70	6.40	4.00	371.11			1		2	1						H13調査	1166
961	130	120	SI	23		床面	敲磨器類	IIC1	頁岩	北上山地	13.65	4.25	3.10	260.51			1		1	1						H13調査	1210

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部								特徴	欠損	備考	登録No.
															磨面部			敲部			凹部					
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
962	130	120	SI	31	QNW	覆土	敲磨器類	ⅢAa	頁岩	北上山地	23.35	6.32	3.79	741.68				3			2		2			H14調査	3458
963	130	120	SI	18	QSE 壁際	床直上	敲磨器類	ⅢBa	砂岩	北上山地	17.45	8.90	4.30	1068.13					1		1					H13調査	1244
964		120	SI	27	北西	覆土	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	7.83	5.12	1.22	72.14					1		2					H14調査	3443
965		120	SI	27	南西	床直上	敲磨器類	ⅢBa	砂岩	－	(17.70)	3.63	3.53	355.20					1		1					H14調査	3659
966		120	SI	29		覆土1層	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	17.65	6.09	5.16	830.78					1		1					H14調査	3451
967		120	SI	29	QSW	覆土	敲磨器類	ⅢBa	砂岩	－	12.93	7.20	4.25	362.15					1		3		1			H14調査	3455
968	130	120	SI	31		覆土	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	16.65	9.20	2.11	505.37					1		2		1			H14調査	3459
969		120	SI	34		床直上	敲磨器類	ⅢBa	砂岩	－	14.37	8.35	2.26	454.71					2		2		2			H14調査	3461
970		120	SI	34		床面	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	12.74	6.32	2.25	236.00					3		2					H14調査	3468
971		120	SI	33	QNE	覆土下位	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	9.53	8.88	2.01	252.44					1		1					H14調査	3472
972		120	SI	33	QNE	覆土下位	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	16.49	4.70	(2.18)	228.46					2		1					H14調査	3474
973		120	SI	33	中央西	覆土下位	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	15.00	5.71	2.27	289.13					1		1					H14調査	3479
974		121	SI	33		覆土	敲磨器類	ⅢBa	砂岩	－	9.67	4.91	3.18	211.32					1		1		2			H14調査	3483
975		121	SI	36	中央西	床直上	敲磨器類	ⅢBa	砂岩	－	(12.31)	6.24	3.04	329.48					2		2		2		○	H14調査	3489
976		121	SI	36	中央西	床直上	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	9.56	4.29	1.19	73.14					1		2					H14調査	3494
977		121	SX	9		底面	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	14.07	6.87	2.62	325.12					1		2		1			H14調査	3542
978		121	SK	20		覆土	敲磨器類	ⅢBa	凝灰岩	北上山地	5.95	5.19	2.19	74.53					1		1					H13調査	1254
979		121	SK	28		覆土	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	18.25	7.18	2.41	438.59					1		1					H14調査	3500
980		121	SK	28		覆土	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	15.06	6.20	(1.67)	192.73					1		4				○	H14調査	3502
981	131	121	SK	39		覆土	敲磨器類	ⅢBa	凝灰岩	北上山地	10.11	9.29	5.27	535.25					1		1		2			H14調査	3509
982		121	SK	39		覆土	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	37.00	8.18	4.96	2449.02					1		1					H14調査	3642
983	131	121			ⅠA10d	盛土	敲磨器類	ⅢBa	砂岩	－	15.80	5.65	2.74	327.53					2		6		5			H14調査	3514
984		121			ⅠA9f～10f攪乱	Ⅱ層	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	12.06	7.19	2.35	269.24					1		2		2			H14調査	3516
985		121			ⅡB2b	Ⅱ層	敲磨器類	ⅢBa	ホルンフェルス	北上山地	18.08	6.72	3.29	618.68					1		2					H14調査	3518
986		121			ⅡB1d	Ⅱ層	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	(9.87)	5.70	2.67	177.45					1		1		1			H14調査	3524
987		121			ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	敲磨器類	ⅢBa	ホルンフェルス	北上山地	6.09	6.04	1.27	55.16					2		1					H14調査	3528
988		121			ⅡB2d 北西	Ⅱ層中位	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	11.06	6.33	1.87	198.05					1		1					H14調査	3531
989		121			ⅡB2f 攪乱北半	Ⅱ層	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	12.72	7.69	4.43	625.45					2		3		1			H14調査	3534
990		121			ⅠB9h	Ⅲ層直上	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	11.67	6.66	2.35	327.56					1		1					H14調査	3535
991		121			ⅠB10d	Ⅱ層下位	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	13.66	5.39	2.69	252.88					1		2		2			H14調査	3536
992		121			ⅡA区	盛土	敲磨器類	ⅢBa	礫岩	北上山地	10.79	7.65	2.89	278.06					1		1					H14調査	3539
993		121			ⅡA区	盛土	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	9.97	5.20	2.22	165.62					1		1					H14調査	3540
994		121			ⅡE区	Ⅰ層中位	敲磨器類	ⅢBa	頁岩	北上山地	9.06	8.10	1.93	175.49					2		2					H14調査	3541
995		121	SI	35	床直上	床直上	敲磨器類	ⅢBc	砂岩	北上山地	11.63	3.64	3.47	227.69					1		2	2	1			H14調査	3465
996	131	121	SI	36	中央西 床直上	床直上	敲磨器類	ⅢBc	砂岩	－	14.39	4.41	4.20	363.96					1		1	1	1			H14調査	3488
997	131	121	SI	9		床面	敲磨器類	Ⅳ1	凝灰岩	北上山地	8.40	5.30	3.15	210.33	1		1									H13調査	1264
998	131	121	SI	10		床面	敲磨器類	Ⅳ1	石英安山岩	北上山地	5.90	5.00	4.40	183.91	1		1									H13調査	1265
999	131	121	SI	10		床面	敲磨器類	Ⅳ1	花崗閃緑岩	北上山地	10.10	9.70	6.90	1040.71			1									H13調査	1266
1000		121	SI	16		覆土	敲磨器類	Ⅳ1	斑岩	北上山地	7.46	6.80	6.20	413.72	1		2									H13調査	1267
1001		121	SI	18	攪乱	覆土	敲磨器類	Ⅳ1	頁岩		13.19	2.09	1.52	69.83	1											H13調査	1313
1002	131	121	SI	21		床面	敲磨器類	Ⅳ1	ひん岩	北上山地	11.10	6.30	6.60	676.45	1											H13調査	1227
1003	131	122	SI	23		床面	敲磨器類	Ⅳ1	頁岩	北上山地	7.80	9.60	4.50	455.89	1											H13調査	1228
1004	132	122	SI	23		床面	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	北上山地	12.00	6.90	3.60	464.67			1									H13調査	1230
1005	132	122	SI	23		床面	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	北上山地	5.45	6.00	2.30	99.48	1		1									H13調査	1277
1006		122	SI	23		床面	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	北上山地	8.10	6.69	2.96	213.62	1											H13調査	1278
1007	132	122	SI	24	周溝	覆土上位	敲磨器類	Ⅳ1	頁岩	北上山地	(6.00)	4.20	2.60	92.34	1										○	H13調査	1150
1008		122	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	－	(10.59)	6.13	2.51	228.56	1										○	H14調査	3340

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部									特徴	欠損	備考	登録No.
															磨面部			敲部			凹部						
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
1009		122	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅳ1	デイサイト	北上山地	13.12	7.16	4.34	550.57	1									石英安山岩		H14調査	3342
1010		122	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅳ1	閃緑岩	北上山地	9.68	7.53	5.13	510.01	1		1									H14調査	3346
1011		122	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅳ1	頁岩	北上山地	5.74	5.27	2.26	113.45	1		1									H14調査	3347
1012		122	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅳ1	凝灰岩	北上山地	10.07	9.74	5.30	749.97	1		1									H14調査	3349
1013		122	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅳ1	凝灰岩	北上山地	5.01	4.00	2.41	67.30	1											H14調査	3350
1014		122	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	－	10.53	7.72	3.41	378.74	1											H14調査	3358
1015		122	SI	27	南東	床直上	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	－	8.17	6.74	4.03	342.58			1									H14調査	3360
1016	132	122	SI	27	南端	覆土1層	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	－	7.56	5.50	2.64	172.57			1									H14調査	3366
1017	132	122	SI	27	南端	覆土	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	－	13.25	7.97	5.92	939.27	1											H14調査	3367
1018		122	SI	31	QNE	覆土	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	－	10.14	9.58	6.37	773.07	1		1									H14調査	3379
1019		122	SI	31			敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	－	9.04	6.91	4.52	436.63	1											H14調査	3381
1020		122	SI	31		覆土	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	－	8.63	7.22	5.55	472.02	1		1									H14調査	3716
1021	132	122	SI	32	炉付近	Ⅲ層直上	敲磨器類	Ⅳ1	花崗閃緑岩	北上山地	8.55	6.49	4.44	366.69	1											H14調査	3382
1022		122	SI	33		覆土	敲磨器類	Ⅳ1	デイサイト	北上山地	10.97	6.49	5.92	594.12	1									石英安山岩		H14調査	3391
1023		122	SI	33	中央南	覆土下位	敲磨器類	Ⅳ1	頁岩	北上山地	15.76	7.23	5.04	908.10	1		1									H14調査	3389
1024	132	122	SX	3		床面	敲磨器類	Ⅳ1	頁岩	北上山地	12.20	5.50	5.80	566.13			1									H13調査	1231
1025		122	SX	3	QNW	覆土	敲磨器類	Ⅳ1	凝灰岩	北上山地	8.37	10.26	2.74	291.96	1											H13調査	1232
1026		122	SX	4	QSE	覆土	敲磨器類	Ⅳ1	凝灰岩	北上山地	11.77	7.82	3.24	525.89	1											H13調査	1152
1027		122	SK	18		覆土	敲磨器類	Ⅳ1	花崗閃緑岩	北上山地	11.69	8.56	3.78	517.00	1											H13調査	1236
1028		122	SK	29		覆土	敲磨器類	Ⅳ1	頁岩	北上山地	9.30	3.47	3.15	157.97	1											H14調査	3397
1029		122			ⅠA9f～10f攪乱		敲磨器類	Ⅳ1	礫岩	北上山地	11.26	8.80	(3.30)	554.79	1										○	H14調査	3405
1030		123			ⅠB9j	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	北上山地	12.17	9.36	5.13	925.88	1											H13調査	1237
1031	132	123			ⅠB10d	Ⅱ層下位	敲磨器類	Ⅳ1		－	(8.92)	8.16	4.35	384.25	1										○	H14調査	3410
1032		123			ⅡB1d	Ⅱ層下位	敲磨器類	Ⅳ1	砂岩	－	11.95	9.59	5.46	809.53	1		1									H14調査	3411
1033		123			ⅡB3d	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅳ1	頁岩	北上山地	8.07	1.81	1.12	18.79	1											H14調査	3692
1034		123			ⅡE6e	Ⅲ層直上	敲磨器類	Ⅳ1	凝灰岩	北上山地	12.24	7.73	4.74	710.64	1		1									H14調査	3425
1035		123	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅳ2	頁岩	北上山地	(5.42)	(6.48)	(4.45)	149.26		1									○	H14調査	3338
1036		123	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅳ2	デイサイト	北上山地	10.37	4.23	4.16	290.66		1								石英安山岩		H14調査	3343
1037		123	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	－	19.02	5.98	2.99	454.57		1										H14調査	3351
1038		123	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	－	10.37	8.70	7.72	876.06		1										H14調査	3352
1039		123	SI	27	中央西	覆土1層	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	－	6.62	5.66	4.94	283.50		1										H14調査	3363
1040		123	SI	27	南東	覆土	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	－	18.57	7.45	3.14	671.96		1										H14調査	3364
1041		123	SI	34		床面	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	－	9.30	7.15	6.37	657.28		1										H14調査	3384
1042		123	SI	34		床面	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	－	12.60	6.51	3.92	483.75		1										H14調査	3385
1043		123	SI	33	中央北	覆土下位	敲磨器類	Ⅳ2	デイサイト	北上山地	10.41	5.95	5.37	482.04		2								石英安山岩		H14調査	3388
1044		123	SI	36		床面	敲磨器類	Ⅳ2	礫岩	北上山地	13.73	8.37	5.43	910.06		1										H14調査	3298
1045		123	SI	39		覆土	敲磨器類	Ⅳ2	閃緑岩	北上山地	21.14	6.07	5.01	1174.02		1										H14調査	3392
1046		123	SX	3	QNW	覆土	敲磨器類	Ⅳ2	頁岩		13.29	4.82	2.21	260.47		1										H13調査	1233
1047		123	SX	4	QSW	覆土下位	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	北上山地	12.56	7.22	6.52	898.24		1									○	H13調査	1151
1048		123	SX	9		覆土1層	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	－	17.76	5.94	5.06	762.98		1										H14調査	3370
1049	132	123	SX	9		覆土1層	敲磨器類	Ⅳ2	礫岩	北上山地	11.96	7.35	6.18	759.78		1										H14調査	3371
1050		123	SX	9		覆土1層	敲磨器類	Ⅳ2	頁岩	北上山地	13.63	4.88	2.40	270.69		1										H14調査	3372
1051		123	SK	38		覆土	敲磨器類	Ⅳ2	閃緑岩	北上山地	13.21	9.16	8.01	1312.18		2										H14調査	3399
1052		123	SK	39		覆土	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	－	14.03	7.55	4.05	513.86		1										H14調査	3401
1053		124	SK	40		覆土	敲磨器類	Ⅳ2	デイサイト	北上山地	12.71	5.91	3.66	400.89		1								石英安山岩		H14調査	3404
1054		124			ⅠB10d	Ⅱ層下位	敲磨器類	Ⅳ2	頁岩	北上山地	17.04	6.02	4.16	758.93		2										H14調査	3409
1055		124			ⅡB1d	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	－	16.24	4.61	4.70	538.27		1										H14調査	3412

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部								特徴	欠損	備考	登録No.
															磨面部			敲部			凹部					
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
1056		124			ⅡB1f風倒木痕	覆土(黒色土)	敲磨器類	Ⅳ2	頁岩	北上山地	9.39	8.52	3.00	217.83		1										H14調査	3415
1057		124			ⅡB3c	Ⅱ層中位	敲磨器類	Ⅳ2	凝灰岩	北上山地	4.35	4.02	2.97	65.93		1										H14調査	3423
1058		124			ⅠB9j～ⅠC9a風倒木痕	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	北上山地	(4.83)	7.33	4.55	236.72		1									○	H13調査	1155
1059		124			ⅠC10c	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅳ2	閃緑岩	北上山地	16.13	7.63	5.41	811.38		1										H13調査	1156
1060		124				表採	敲磨器類	Ⅳ2	砂岩	北上山地	6.16	5.09	5.05	213.34		4										H13調査	1288
1061	133	124	SI	2	QSE	覆土	敲磨器類	Ⅳ3	砂岩	北上山地	10.40	8.20	4.20	531.80	1	1										H13調査	1223
1062		124	SK	20		覆土中位	敲磨器類	Ⅳ3	デイサイト	北上山地	9.32	6.91	5.01	491.70	1	1										H13調査	1287
1063		124	SI	18	ⅠB9j～ⅡB1j 攪乱	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅳ3	花崗閃緑岩	北上山地	13.84	11.96	3.35	751.25	1	1										H13調査	1139
1064	133	124	SI	18		焼土	敲磨器類	Ⅳ3	凝灰岩	北上山地	6.70	8.30	3.00	247.39	1	2										H13調査	1290
1065	133	124	SI	23		床面	敲磨器類	Ⅳ3	頁岩	北上山地	12.10	9.30	5.50	816.31	1	1										H13調査	1229
1066	133	124	SI	29	QSW	覆土	敲磨器類	Ⅳ3	頁岩	北上山地	7.37	4.65	2.75	144.16	1	2										H14調査	3377
1067		124	SX	4	QSE	覆土	敲磨器類	Ⅳ3	凝灰岩	北上山地	(11.10)	4.40	3.43	175.37	1	2									○	H13調査	1235
1068		124	SK	10		覆土上位	敲磨器類	Ⅳ3	砂岩	北上山地	(15.46)	5.59	5.74	717.13	1	2	1								○	H13調査	1153
1069		124	SK	29		覆土	敲磨器類	Ⅳ3	砂岩	-	(13.92)	4.66	2.93	317.10	1	1									○	H14調査	3396
1070		124	SK	39		覆土	敲磨器類	Ⅳ3	頁岩	北上山地	10.07	6.75	3.99	424.38		1	1									H14調査	3400
1071		124			ⅠB9j	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅳ3	頁岩	北上山地	13.93	7.94	2.97	544.75	1	2										H13調査	1154
1072		124			ⅡB2b	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅳ3	頁岩	北上山地	5.34	3.69	2.88	83.59	1	2										H14調査	3418
1073		124			ⅠB9j～ⅠC9a 風倒木痕	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅳ3	ひん岩	北上山地	8.35	4.79	(3.52)	227.41	1	2									○	H13調査	1238
1074		124			風倒木痕	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅳ3	砂岩	北上山地	12.96	4.38	3.44	294.36	1	1										H13調査	1219
1075	133	124	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅴ1a	砂岩	-	8.89	8.42	3.78	410.27	1						1		1			H14調査	3431
1076		124	SI	34		床直上	敲磨器類	Ⅴ1a	砂岩	-	6.04	4.14	3.31	99.58			1				1					H14調査	3462
1077		124	SI	34		床直上	敲磨器類	Ⅴ1a	デイサイト	北上山地	(12.00)	8.40	4.80	784.25	1		1				1			石英安山岩	○	H14調査	3430
1078		125	SI	34		床面	敲磨器類	Ⅴ1a	頁岩	北上山地	13.31	6.00	2.88	370.33	1						1					H14調査	3469
1079		125	SI	33		覆土	敲磨器類	Ⅴ1a	砂岩	-	12.47	7.92	4.81	628.03	1						2					H14調査	3486
1080		125	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅴ2a	頁岩	北上山地	17.43	7.86	2.88	525.25		1					1		1			H14調査	3427
1081		125	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅴ2a	砂岩	-	12.09	5.94	5.50	528.22		1					1		3			H14調査	3436
1082		125			ⅡB2c	Ⅱ層下位	敲磨器類	Ⅴ2a	砂岩	-	8.68	7.01	4.12	370.97		1					1		1			H14調査	3520
1083		125			ⅡB1d	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅴ2a	砂岩	-	10.38	10.10	6.58	1018.17		2					1		1			H14調査	3525
1084	133	125	SI	9		床面	敲磨器類	Ⅵa	砂岩	北上山地	6.20	4.60	1.20	52.17							1					H13調査	1239
1085	133	125	SI	18	p7	床直上	敲磨器類	Ⅵa	頁岩	北上山地	9.60	5.10	3.80	250.98							1					H13調査	1240
1086		125	SI	18	風倒木痕	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅵa	頁岩	北上山地	9.49	4.95	2.80	194.64							1					H13調査	1241
1087		125	SI	18	QSE	覆土	敲磨器類	Ⅵa	斑岩	北上山地	12.45	7.43	4.53	539.39							1					H13調査	1242
1088		125	SI	18		攪乱	敲磨器類	Ⅵa	頁岩	北上山地	14.19	6.79	3.02	482.91							2		2			H13調査	1245
1089	133	125	SI	21		床面	敲磨器類	Ⅵa	砂岩	北上山地	(9.20)	5.00	(1.50)	88.41							1				○	H13調査	1247
1090	133	125	SI	24		周溝上面	敲磨器類	Ⅵa	砂岩	北上山地	8.40	4.90	3.20	158.68							1					H13調査	1249
1091		125	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅵa	砂岩	-	12.81	7.73	4.26	628.67							1		1			H14調査	3433
1092		125	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅵa	頁岩	北上山地	15.35	3.57	2.06	229.46							1					H14調査	3652
1093		125	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅵa	砂岩	-	11.49	7.08	3.23	269.18							2					H14調査	3434
1094		125	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅵa	頁岩	北上山地	18.00	5.71	3.45	552.38							2		1			H14調査	3435
1095		125	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅵa	砂岩	-	8.23	6.25	5.05	378.14							2		1			H14調査	3439
1096		125	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅵa	砂岩	-	9.86	9.05	5.58	618.51							2					H14調査	3440
1097		125	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅵa	砂岩	-	11.21	6.56	3.65	360.34							1					H14調査	3441
1098		125	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅵa	砂岩	-	11.08	5.98	2.89	306.70							2					H14調査	3442
1099		125	SI	27	北端	床直上	敲磨器類	Ⅵa	頁岩	北上山地	15.18	4.72	2.84	270.59							2		1			H14調査	3444
1100	134	125	SI	27	中央北	床直上	敲磨器類	Ⅵa	頁岩	北上山地	12.65	8.83	3.20	472.60							2		1			H14調査	3445
1101		125	SI	29	P6付近	覆土	敲磨器類	Ⅵa	砂岩	-	(6.41)	(6.34)	(2.47)	92.96							1		1		○	H14調査	3456
1102		126	SI	29		覆土1層	敲磨器類	Ⅵa	砂岩	-	13.84	11.99	6.03	1001.23							1		1			H14調査	3543

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部									特徴	欠損	備考	登録No.
															磨面部			敲部			凹部						
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
1103	134	126	SI	29		覆土	敲磨器類	VIa	凝灰岩	北上山地	10.73	7.79	4.84	503.99							2		3			H14調査	3457
1104		126	SI	30		覆土1層	敲磨器類	VIa	砂岩	-	(7.86)	(7.02)	(2.62)	170.59							1				○	H14調査	3452
1105		126	SI	30		覆土1層	敲磨器類	VIa	礫岩	北上山地	11.63	11.03	3.25	559.31							1		2			H14調査	3453
1106		126	SI	30		覆土1層	敲磨器類	VIa	デイサイト	北上山地	11.34	9.32	5.27	626.64							1			石英安山岩		H14調査	3454
1107		126	SI	31		覆土	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	14.57	5.57	2.36	291.99							2		1			H14調査	3460
1108		126	SI	32		覆土	敲磨器類	VIa	砂岩	-	9.04	8.64	2.59	313.38							1					H14調査	3286
1109		126	SI	34		床直上	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	16.57	9.13	3.02	577.17							3					H14調査	3287
1110		126	SI	33	中央西	覆土下位	敲磨器類	VIa	デイサイト	北上山地	(12.44)	12.05	5.34	676.89							1			石英安山岩	○	H14調査	3290
1111		126	SI	34		床直上	敲磨器類	VIa	砂岩	-	9.97	6.00	4.43	361.40							2		2			H14調査	3463
1112		126	SI	34		床面	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	17.25	7.40	4.85	968.82							2		1			H14調査	3467
1113		126	SI	33	QNE	覆土下位	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	12.09	8.34	1.74	238.68							2					H14調査	3470
1114		126	SI	33	QSE	覆土下位	敲磨器類	VIa	砂岩	-	16.59	5.40	2.97	370.34							2		2			H14調査	3471
1115		126	SI	33	QNE	覆土	敲磨器類	VIa	砂岩	-	12.53	(6.29)	5.60	711.52							2		2			H14調査	3473
1116		126	SI	33	QSE	覆土下位	敲磨器類	VIa	頁岩	-	10.48	8.07	6.58	638.10							2		1			H14調査	3475
1117		126	SI	33	QSE	覆土	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	16.23	7.12	3.58	498.93							1		2			H14調査	3476
1118		126	SI	33	QSW	覆土下位	敲磨器類	VIa	頁岩	-	5.17	5.07	3.20	118.18							1					H14調査	3477
1119		126	SI	33	中央西	覆土下位	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	14.17	3.92	3.68	318.05							2					H14調査	3481
1120		126	SI	33	中央西	覆土下位	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	10.80	7.36	2.53	271.99							1					H14調査	3478
1121		126	SI	33	中央南	覆土下位	敲磨器類	VIa	凝灰岩	北上山地	8.91	7.77	5.31	500.02							1		1			H14調査	3482
1122	134	126	SI	33		覆土	敲磨器類	VIa	砂岩	-	9.41	7.01	3.69	344.38							1		2			H14調査	3484
1123		126	SI	33		覆土	敲磨器類	VIa	砂岩	-	9.94	8.42	3.34	283.91							1					H14調査	3485
1124		127	SI	35	床直上	床直上	敲磨器類	VIa	礫岩	北上山地	18.82	5.87	2.81	470.30							1					H14調査	3464
1125		127	SI	36	中央東	覆土下位	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	9.79	(7.94)	(5.91)	582.99							1		1		○	H14調査	3490
1126		127	SI	36	中央東	覆土下位	敲磨器類	VIa	砂岩	-	11.27	8.72	4.33	610.59							4		2			H14調査	3491
1127		127	SI	36	中央東	覆土下位	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	15.87	7.60	3.07	501.89							1					H14調査	3492
1128		127	SI	36		覆土	敲磨器類	VIa	礫岩	北上山地	14.82	9.73	4.34	871.79							3		3			H14調査	3493
1129		127	SI	36	中央西 床直上	床直上	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	17.67	8.02	3.61	715.74							2					H14調査	3495
1130		127	SI	36	P付近	床面	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	14.65	7.69	3.52	623.01							2					H14調査	3496
1131		127	SI	36		床面	敲磨器類	VIa	ホルンフェルス	北上山地	11.32	10.08	6.11	986.68							2					H14調査	3497
1132		127	SI	36		床面	敲磨器類	VIa	凝灰岩	北上山地	19.31	4.75	4.07	375.72							2		2			H14調査	3498
1133		127	SX	1		覆土	敲磨器類	VIa	砂岩	北上山地	15.92	8.33	2.97	692.94							3		3			H13調査	1250
1134		127	SX	3	QSE	覆土	敲磨器類	VIa	砂岩	北上山地	14.67	6.53	3.15	552.79							5		1			H13調査	1251
1135	134	127	SX	4		底面	敲磨器類	VIa	砂岩	北上山地	17.50	7.65	4.70	540.00							3		2			H13調査	1252
1136		127	SX	8	QNW	覆土下位	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	8.13	4.86	4.27	250.21							1					H13調査	1246
1137		127	SX	9		覆土1層	敲磨器類	VIa	砂岩	-	(5.47)	(5.34)	(0.91)	36.16							1				○	H14調査	3447
1138		127	SX	9	QSW	覆土1層	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	10.39	7.00	1.04	128.92							2		1			H14調査	3448
1139		127	SX	9	QSW	覆土1層	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	3.89	3.07	1.76	27.31							1					H14調査	3449
1140		127	SX	10	QNW	覆土1層	敲磨器類	VIa	チャート	北上山地	8.09	7.60	5.27	465.15							1		2			H14調査	3450
1141		127	SK	18		覆土	敲磨器類	VIa	砂岩	北上山地	10.01	7.79	6.08	533.94							1		1			H13調査	1253
1142	134	127	SK	24		覆土	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	14.92	6.30	2.47	389.72							3		2			H14調査	3499
1143		127	SK	28		覆土	敲磨器類	VIa	砂岩	-	20.87	4.92	3.54	510.50							2		1			H14調査	3545
1144	134	127	SK	29		覆土	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	14.85	5.17	3.06	350.43							2		2			H14調査	3505
1145		127	SK	38		覆土	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	12.89	8.46	3.23	510.90							5		4			H14調査	3506
1146		128	SK	39		覆土	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	18.75	5.36	4.14	508.23							1					H14調査	3508
1147		128	SK	39		覆土	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	14.69	6.36	3.14	461.34							2					H14調査	3510
1148		128	SK	40		覆土	敲磨器類	VIa	礫岩	北上山地	12.90	5.38	4.41	358.10							1					H14調査	3511
1149		128	SK	40		覆土	敲磨器類	VIa	砂岩	-	10.39	6.44	5.28	498.28							2					H14調査	3512

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部									特徴	欠損	備考	登録No.
															磨面部			敲部			凹部						
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
1150		128	SK	49		覆土	敲磨器類	VIa	ホルンフェルス	北上山地	17.75	6.51	4.65	700.49							1					H14調査	3513
1151	135	128	SR	1		覆土上位	敲磨器類	VIa	砂岩	北上山地	15.00	6.80	3.30	466.21							2					H13調査	1255
1152	135	128			ⅠA10d	Ⅱ層中位	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	13.70	4.66	3.01	253.99							1		1			H13調査	3515
1153		128			ⅠB9i	Ⅱ層	敲磨器類	VIa	砂岩	北上山地	12.33	4.05	1.68	128.62							1					H13調査	1256
1154		128			ⅠB9i	Ⅱ層	敲磨器類	VIa	砂岩	北上山地	9.29	(8.99)	4.72	514.98							1				○	H13調査	1257
1155		128			ⅠB4j		敲磨器類	VIa	砂岩	北上山地	12.84	6.72	2.96	399.64							1					H13調査	1258
1156		128			ⅡA2g	Ⅳ層直上	敲磨器類	VIa	チャート	北上山地	15.51	5.52	4.60	596.34							1		1			H14調査	3517
1157		128			ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	敲磨器類	VIa	砂岩	-	8.98	7.23	3.51	341.43							1					H14調査	3527
1158		128			ⅡB2b	Ⅱ層中位	敲磨器類	VIa	礫岩	北上山地	7.53	6.46	1.96	129.55							1					H14調査	3519
1159		128			ⅡB2c	Ⅱ層中位	敲磨器類	VIa	砂岩	-	12.45	(8.11)	5.09	474.88							1				○	H14調査	3521
1160		128			ⅡB2c	Ⅱ層中位	敲磨器類	VIa	砂岩	-	15.03	3.90	2.61	203.20							1		1			H14調査	3522
1161		128			ⅡB2c	Ⅱ層下位	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	15.62	7.08	3.70	442.99							3					H14調査	3523
1162		128			ⅡE5e	Ⅲ層直上	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	17.10	5.61	2.29	296.65							1		1			H14調査	3537
1163		128			ⅡB2f 攪乱北半	Ⅱ層	敲磨器類	VIa	砂岩	-	12.86	6.09	3.89	429.51							2		2			H14調査	3533
1164		128			ⅠB5j 攪乱	Ⅱ層	敲磨器類	VIa	凝灰岩	北上山地	11.42	9.78	4.12	701.07							2		1			H13調査	1259
1165		128			ⅠB9j～ⅠB9i風倒木痕	Ⅱ層	敲磨器類	VIa	砂岩	北上山地	10.51	4.10	2.13	191.01							1					H13調査	1261
1166		128			ⅠC10c	Ⅱ層	敲磨器類	VIa	砂岩	北上山地	12.81	7.80	4.29	563.70							2		1			H13調査	1262
1167		128			ⅡD1c	Ⅱ層	敲磨器類	VIa	頁岩	北上山地	(10.78)	3.76	1.86	95.28							1				○	H13調査	1263
1168		128			ⅡA区	盛土	敲磨器類	VIb	礫岩	北上山地	13.26	6.08	4.55	536.53								1				H14調査	3538
1169		128	SI	21	QSE	覆土上位	敲磨器類	VIc	安山岩	北上山地	10.91	5.89	2.87	212.60							6	3	3			H13調査	1248
1170	135	129	SI	27		床直上	敲磨器類	VIc	砂岩	-	12.05	4.55	3.31	269.49							4	3	6			H14調査	3432
1171		129	SI	27		床直上	敲磨器類	VIc	頁岩	北上山地	10.64	5.99	4.31	429.37							1	1	1			H14調査	3438
1172		129	SI	34		床面	敲磨器類	VIc	デイサイト	-	9.03	6.99	5.63	507.46							1	2	1			H14調査	3466
1173	135	129	SX	9		底面直上	敲磨器類	VIc	砂岩	-	13.32	7.02	4.73	626.12							6	3	3			H14調査	3446
1174		129			ⅠB6j 攪乱		敲磨器類	VIc	砂岩	北上山地	11.02	6.63	5.87	526.76							2	3	1			H13調査	1260
1175		129	SI	18	(攪乱?)	床直上	敲磨器類	Ⅶ	頁岩	北上山地	10.84	8.56	3.50	525.94		3			1		1					○	H13調査	1224
1176		129	SI	18	QNE	覆土	敲磨器類	Ⅶ	デイサイト	北上山地	15.89	10.55	6.19	1447.56	1				1		1		1			H13調査	1243
1177		129			ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	敲磨器類	Ⅶ	砂岩	-	(9.77)	4.12	4.36	234.96	1		1		1		2				○	H14調査	3529
1178		129			ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	敲磨器類	Ⅶ	砂岩	-	(12.66)	6.00	3.07	388.67	1		1		2		2					H14調査	3530
1179	135	129			ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	敲磨器類	Ⅶ	頁岩	北上山地	13.92	9.84	3.41	618.62			1	2	4					敲石＋砥石		H14調査	3319
1180		129	SI	27	中央西	床直上	敲磨器類	ⅧA1	砂岩	-	(11.20)	6.79	5.56	478.41	1										○	H14調査	3359
1181	136	129	SI	27	南端	覆土	敲磨器類	ⅧA1	砂岩	-	14.58	8.45	4.29	673.47		1										H14調査	3368
1182		129	SI	33		覆土	敲磨器類	ⅧA1	砂岩	-	(8.12)	(4.51)	4.40	196.56		1									○	H14調査	3390
1183		129	SK	28		覆土	敲磨器類	ⅧA1	砂岩	-	15.46	7.40	4.11	754.85		1										H14調査	3394
1184	136	129			ⅠB9h	Ⅲ層直上	敲磨器類	ⅧA1	閃緑岩	北上山地	17.71	8.10	7.06	1642.04	1	2										H14調査	3408
1185		129			ⅡB2c	Ⅱ層	敲磨器類	ⅧA1	砂岩	-	(9.21)	5.99	5.51	330.84	1											H14調査	3419
1186		129	SI	11	QSW	覆土	敲磨器類	ⅧA1α	砂岩	北上山地	(13.10)	7.11	6.51	769.52	1	2			1						○	H13調査	1137
1187		129	SI	16		黒褐色	敲磨器類	ⅧA1α	砂岩	北上山地	(10.51)	6.48	7.16	686.43	1	2			1						○	H13調査	1138
1188	136	129	SI	18	ⅠB8h 南東隅	床面	敲磨器類	ⅧA1α	砂岩	北上山地	13.45	6.40	6.80	930.39	1		1		1							H13調査	1142
1189		129	SI	27		床直上	敲磨器類	ⅧA1α	砂岩	-	11.32	8.19	5.42	526.53		3										H14調査	3339
1190	136	129	SI	27		床直上	敲磨器類	ⅧA1α	砂岩	-	(12.14)	7.07	6.58	702.23	1	1									○	H14調査	3345
1191	136	129	SI	27		床直上	敲磨器類	ⅧA1α	砂岩	-	(13.39)	(9.17)	4.66	675.73		1			1						○	H14調査	3354
1192		130	SI	27		床直上	敲磨器類	ⅧA1α	デイサイト	北上山地	17.95	9.30	6.00	1270.80		1			1					石英安山岩		H14調査	3355
1193	136	130	SX	4		底面	敲磨器類	ⅧA1α	砂岩	-	(5.40)	(6.90)	(6.10)	216.56	1	1			1						○	H13調査	1212
1194		130	SX	8	QNW	覆土下位	敲磨器類	ⅧA1α	砂岩	北上山地	(16.15)	4.45	7.40	574.36	1	1			2					被熱	○	H13調査	1148
1195		130	SK	29		覆土	敲磨器類	ⅧA1α	砂岩	-	(12.20)	5.42	4.13	359.35							2	3	2			H14調査	3504
1196		130	SI	29	QSW	覆土	敲磨器類	ⅧA2	砂岩	-	10.52	3.93	2.37	134.83		2										H14調査	3378
1197		130	SX	9		覆土1層	敲磨器類	ⅧA2	ホルンフェルス	北上山地	18.70	4.03	3.55	472.92	1	1										H14調査	3374

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部								特徴	欠損	備考	登録No.
															磨面部			敲部			凹部						
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
1198	137	130	SI	18		床面	敲磨器類	Ⅷ A2 α	砂岩	北上山地	(13.50)	7.10	6.20	471.46		2	1		1						○	H13調査	1141
1199		130	SI	18	Ⅰ B8i 中央	床面	敲磨器類	Ⅷ A2 α	砂岩	北上山地	18.13	7.97	7.40	1351.66	1	3			1							H13調査	1143
1200		130	SI	18	Ⅰ C9a NE	覆土下位	敲磨器類	Ⅷ A2 α	砂岩	北上山地	18.24	8.12	5.88	1072.99	1	3						2				H13調査	1145
1201	137	130	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅷ A2 α	砂岩	−	(11.22)	6.17	5.87	607.15	1	2			1						○	H14調査	3356
1202		130	SX	3	ベルト南	覆土下位	敲磨器類	Ⅷ A2 α	デイサイト	北上山地	(14.60)	7.71	6.72	1004.92	1	3									○	H13調査	1234
1203		130	SX	9		覆土1層	敲磨器類	Ⅷ A2 α	砂岩	−	18.45	8.86	5.28	1174.96		2			1							H14調査	3369
1204		130	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅷ B1	デイサイト	北上山地	(8.30)	8.35	5.46	469.13		1								石英安山岩	○	H14調査	3353
1205	137	130	SX	3		床面	敲磨器類	Ⅷ B1 α	頁岩	北上山地	17.40	7.50	4.90	810.23				1	2							H13調査	1133
1206	137	130	SX	9		覆土1層	敲磨器類	Ⅷ B1 α	砂岩	−	(10.02)	7.01	6.72	529.63		1			1						○	H14調査	3375
1207	137	130	SI	5		床直上	敲磨器類	Ⅷ B2 α	砂岩	北上山地	12.30	6.70	3.85	535.94	1	2	1	1								H13調査	1135
1208	137	130	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅷ B2 α	砂岩	−	(16.48)	6.56	6.12	1080.65	1	1		1							○	H14調査	3344
1209	138	130	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅷ B2 α	デイサイト	北上山地	12.66	5.85	5.35	467.07	1	1	1				2	1	3	石英安山岩		H14調査	3428
1210		130	SX	9		覆土1層	敲磨器類	Ⅷ B2 α	頁岩	北上山地	15.50	5.75	5.11	622.30		1			2			1				H14調査	3373
1211	138	130			Ⅱ B2d 北東	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅷ B2 α	頁岩	北上山地	15.13	6.57	4.45	722.02	1	1	1	1	1							H14調査	3422
1212		130	SI	33	QNW	覆土	敲磨器類	Ⅷ C1	凝灰岩	北上山地	13.48	9.44	3.68	478.40		1										H14調査	3386
1213		130	SK	28		覆土	敲磨器類	Ⅷ C1	デイサイト	北上山地	(10.73)	(10.89)	4.31	636.70		1								朱？付着	○	H14調査	3395
1214		131			Ⅱ A2i 北西	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅷ C1	花崗閃緑岩	北上山地	15.67	5.14	4.23	508.77		1	1									H14調査	3407
1215		131	SI	18	西周溝 Ⅰ C8a SE	覆土	敲磨器類	Ⅷ C1 α	砂岩	北上山地	9.40	8.14	4.20	417.18	1	3			1							H13調査	1140
1216		131	SI	18	QSE 壁際(周溝上)	覆土下位	敲磨器類	Ⅷ C1 α	砂岩	北上山地	19.22	7.15	4.65	615.66		1			3						○	H13調査	1146
1217		131	SI	20	QSE	覆土下位	敲磨器類	Ⅷ C1 α	砂岩	北上山地	15.35	7.43	4.47	540.45	1	1			1							H13調査	1147
1218	138	131	SI	21		床面	敲磨器類	Ⅷ C1 α	砂岩	北上山地	(9.00)	5.50	5.50	305.32	1	1			1						○	H13調査	1149
1219	138	131	SI	27		床直上	敲磨器類	Ⅷ C1 α	砂岩	−	16.78	7.07	3.50	682.09		1					1		1			H14調査	3426
1220		131	SI	34		床直上	敲磨器類	Ⅷ C1 α	砂岩	−	14.88	5.79	3.38	356.59		1		1	1							H14調査	3383
1221		131	SI	34	中央西	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅷ C1 α	凝灰岩	北上山地	15.54	8.06	4.37	596.70							1					H14調査	3480
1222	138	131	SK	28		覆土	敲磨器類	Ⅷ C1 α	砂岩	−	19.03	7.88	4.47	939.31		1				1			1			H14調査	3501
1223	138	131			Ⅰ B7i	層位不明	敲磨器類	Ⅷ C1 α	砂岩	−	17.95	6.85	4.20	595.20		1			3							H13調査	1134
1224		131			Ⅱ B2c	Ⅱ層中位	敲磨器類	Ⅷ C1 α	砂岩	−	12.47	8.63	4.36	684.45	1	1										H14調査	3420
1225		131			Ⅱ B2c	Ⅱ層中位	敲磨器類	Ⅷ C1 α	デイサイト	北上山地	18.00	9.97	5.03	1113.15	1	1								石英安山岩		H14調査	3421
1226		131			Ⅱ B1d～2d	Ⅱ層中位	敲磨器類	Ⅷ C1 α	砂岩	−	20.52	8.14	4.33	811.55			2				2		4			H14調査	3526
1227		131			Ⅱ B2f 撹乱北半	Ⅱ層	敲磨器類	Ⅷ C1 α	花崗閃緑岩	北上山地	13.82	10.05	4.23	939.17		1					1					H14調査	3532
1228		131	SI	18	Ⅰ B9i 中央	床面	敲磨器類	Ⅷ C2 α	砂岩	北上山地	13.49	6.55	4.76	628.67	1	2	1									H13調査	1144
1229	139	131			Ⅰ B8c 風倒木痕	覆土1層	敲磨器類	Ⅷ C2 α	砂岩	−	16.48	8.65	6.43	1130.47		1			1							H14調査	3393
1230		131	SX	9		覆土1層	敲磨器類	Ⅷ D1 α	砂岩	−	14.92	7.23	3.53	478.83		1			1		2		2			H14調査	3429
1231		131			Ⅱ B2c	Ⅲ層中位	砥石	−	砂岩	−	7.77	5.57	5.16	330.29	1	2	1		1							H14調査	3546
1232		132	SI	5			台石類	Ⅰ	砂岩	北上山地	36.80	27.66	(10.30)	13560.00											○	H13調査	1358
1233		132	SI	5			台石類	Ⅰ	閃緑岩	北上山地	33.10	26.70	7.87	9750.00										磨痕		H13調査	1359
1234		132	SI	5			台石類	Ⅰ	砂岩	北上山地	40.60	21.70	11.01	12000.00										磨痕		H13調査	1360
1235		132	SI	5			台石類	Ⅰ	砂岩	北上山地	38.50	35.00	13.50	26800.00										敲打痕		H13調査	1361
1236		132	SI	6		床面	台石類	Ⅰ	凝灰岩	北上山地	28.11	22.83	3.92	4160.00										敲打痕		H13調査	1362
1237		132	SI	6		床面	台石類	Ⅰ	凝灰岩	北上山地	25.18	18.43	4.34	3457.00										敲打痕		H13調査	1363
1238		132	SI	6		床面	台石類	Ⅰ	閃緑岩	北上山地	24.95	19.53	4.85	4385.00										磨痕		H13調査	1364
1239		132	SI	8		床面	台石類	Ⅰ	礫岩	北上山地	31.20	19.49	7.22	6220.00										敲打痕・磨痕		H13調査	1365
1240	139	132	SI	10	炉埋設土器内	炉	台石類	Ⅰ			10.10	9.00	6.10	761.25										磨痕・被熱	○	H13調査	1366
1241		132	SI	13		覆土	台石類	Ⅰ	頁岩	北上山地	30.95	28.44	5.03	4635.24										磨痕		H13調査	1396
1242		132	SI	16		床面	台石類	Ⅰ	頁岩	北上山地	25.64	20.92	4.60	3824.00										敲打痕		H13調査	1367
1243		133	SI	18		床直上	台石類	Ⅰ	砂岩	北上山地	(15.06)	(12.82)	(5.42)	1663.00										敲打痕	○	H13調査	1368
1244		133	SI	18	Ⅰ B8i	覆土	台石類	Ⅰ	砂岩	北上山地	(10.83)	(9.98)	(2.75)	272.00										敲打痕	○	H13調査	1369

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部								特徴	欠損	備考	登録No.
															磨面部			敲部			凹部					
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
1245		133	SI	18	ＩC10a	覆土	台石類	I	砂岩	北上山地	(14.70)	(9.73)	7.29	1590.00										磨痕・被熱	○	H13調査	1370
1246		133	SI	18	QNE	覆土	台石類	I	－	－	(8.60)	(6.72)	6.41	604.00										磨痕・被熱	○	H13調査	1371
1247		133	SI	18	ＩC9a QNE	覆土中位	台石類	I	－	－	(7.49)	(7.96)	(1.70)	73.00										磨痕	○	H13調査	1372
1248		133	SI	18	焼土3付近	床面	台石類	I	砂岩	北上山地	(53.40)	(32.10)	13.80	35800.00										敲打痕		H13調査	1398
1249		133	SI	20		床直上	台石類	I	礫岩	北上山地	15.81	16.48	4.53	1606.00										磨痕		H13調査	1373
1250		133	SI	20		床面	台石類	I	デイサイト	北上山地	21.41	(18.96)	5.09	2107.00										磨痕	○	H13調査	1374
1251		133	SI	20		炉	台石類	I	砂岩	北上山地	(20.69)	16.25	6.06	1987.00										被熱・炉石転用	○	H13調査	1375
1252		133	SI	20		床直上	台石類	I	砂岩	北上山地	20.53	17.74	6.00	3645.00										磨痕		H13調査	1376
1253		133	SI	21		炉	台石類	I	－	－	(24.80)	(13.71)	6.19	4289.00										磨痕・被熱・炉	○	H13調査	1377
1254		133	SI	21		炉	台石類	I	花崗閃緑岩	北上山地	35.90	24.17	8.29	11500.00										磨痕		H13調査	1378
1255		133	SI	21		覆土	台石類	I	ひん岩	北上山地	(8.89)	(9.04)	(7.59)	935.00										磨痕	○	H13調査	1379
1256		133	SI	23		床面	台石類	I	砂岩	北上山地	45.00	26.50	10.00	22500.00										敲打痕・磨痕		H13調査	1397
1257		133	SI	26		炉	台石類	I	凝灰岩	北上山地	36.00	24.40	6.44	7370.00										敲打痕		H13調査	1381
1258		133	SI	27		床直上	台石類	I	閃緑岩	北上山地	(17.78)	(9.10)	7.68	1757.84										敲打痕	○	H14調査	3548
1259	140	133	SI	27		床直上	台石類	I	砂岩	－	20.00	16.18	6.36	2631.62										敲打痕		H14調査	3549
1260		133	SI	27		床直上	台石類	I	砂岩	－	(20.50)	(13.38)	(2.76)	1071.01										敲打痕	○	H14調査	3550
1261		133	SI	27		床直上	台石類	I	砂岩	－	23.75	17.10	3.80	2394.03										敲打痕・擦痕		H14調査	3551
1262	140	134	SI	29	QNE	覆土	台石類	I	砂岩	－	27.13	21.82	5.48	3766.70										敲打痕		H14調査	3557
1263		134	SI	29	QSW	覆土	台石類	I	砂岩	－	25.04	17.11	6.70	3351.10										敲打痕・擦痕		H14調査	3558
1264		134	SI	29	QSW	覆土	台石類	I	礫岩	北上山地	(25.00)	(18.61)	(5.61)	3725.60											○	H14調査	3559
1265		134	SI	29	QNE	覆土	台石類	I	凝灰岩	北上山地	26.42	15.64	6.30	3534.70										敲打痕・擦痕		H14調査	3560
1266		134	SI	29		覆土	台石類	I	砂岩	－	47.75	30.50	7.65	16500.00										敲打痕・擦痕		H14調査	3562
1267		134	SI	29	QSE	覆土	台石類	I	砂岩	－	32.25	16.50	3.67	3504.40										敲打痕・擦痕		H14調査	3563
1268		134	SI	29		覆土1層	台石類	I	凝灰岩	北上山地	24.48	18.74	5.92	3556.60										擦痕		H14調査	3564
1269		134	SI	29	QNE	覆土	台石類	I	砂岩	－	(12.46)	(12.40)	5.52	1353.14										敲打痕・擦痕		H14調査	3565
1270		134	SI	31	QNE	覆土	台石類	I	砂岩	－	23.75	18.58	2.20	1441.68										敲打痕・擦痕		H14調査	3567
1271		134	SI	31		覆土	台石類	I	デイサイト	北上山地	45.20	23.50	8.64	15500.00										敲打痕・擦痕		H14調査	3568
1272		134	SI	34		床直上	台石類	I	－	－	26.19	20.14	5.04	4438.60										敲打痕		H14調査	3569
1273		134	SI	34		床直上	台石類	I	－	－	30.90	22.49	5.27	7500.00										敲打痕・擦痕		H14調査	3570
1274		134	SI	34		床直上	台石類	I	デイサイト	北上山地	21.35	18.29	5.70	2787.39										敲打痕・擦痕		H14調査	3571
1275		134	SI	34		床直上	台石類	I	砂岩	－	22.71	19.95	6.14	4256.90										敲打痕		H14調査	3572
1276		134	SI	34		床直上	台石類	I	砂岩	－	15.68	14.67	(4.89)	1545.43										敲打痕・擦痕	○	H14調査	3573
1277		135	SI	34		床直上	台石類	I	砂岩	－	22.45	16.40	5.13	2865.09										敲打痕・擦痕		H14調査	3574
1278		135	SI	34		床直上	台石類	I	砂岩	－	22.75	21.00	4.73	3464.80										敲打痕・剥片		H14調査	3575
1279		135	SI	34		床直上	台石類	I	砂岩	－	26.23	18.83	5.10	3372.00										敲打痕・擦痕		H14調査	3576
1280		135	SI	34		床直上	台石類	I	砂岩	－	26.83	20.20	6.11	4833.40										敲打痕		H14調査	3577
1281		135	SI	34		床直上	台石類	I	頁岩	北上山地	18.95	14.05	5.76	2087.81										敲打痕		H14調査	3579
1282		135	SI	34		床直上	台石類	I	砂岩	－	25.65	17.81	5.74	4066.50										敲打痕		H14調査	3580
1283		135	SI	34		床直上	台石類	I	デイサイト	北上山地	24.74	23.45	3.96	4725.70										敲打痕・擦痕		H14調査	3581
1284		135	SI	33	QSE	覆土	台石類	I	礫岩	北上山地	24.30	16.26	5.98	3468.40										敲打痕・擦痕		H14調査	3583
1285	140	135	SI	33		覆土	台石類	I	－	－	32.50	20.45	5.52	5778.40										敲打痕・擦痕		H14調査	3587
1286		135	SI	33		覆土	台石類	I	デイサイト	北上山地	20.05	16.36	4.31	1886.46										敲打痕・擦痕		H14調査	3588
1287		135	SI	33		覆土	台石類	I	ホルンフェルス	北上山地	17.38	12.37	3.33	1101.63										敲打痕・擦痕		H14調査	3589
1288		135	SI	33		覆土	台石類	I	砂岩	－	20.91	12.15	4.30	1663.42										敲打痕		H14調査	3590
1289		135	SI	34		床直上	台石類	I	デイサイト	北上山地	29.15	26.32	6.16	8500.00										敲打痕・擦痕		H14調査	3591
1290		136	SI	34		床直上	台石類	I	凝灰岩	北上山地	24.41	24.46	5.68	5151.30										敲打痕・擦痕		H14調査	3592
1291		135	SI	36		覆土1層	台石類	I	凝灰岩	北上山地	(21.57)	(11.86)	(4.36)	1585.37										敲打痕・擦痕		H14調査	3593

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部									特徴	欠損	備考	登録No.
															磨面部			敲部			凹部						
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
1292		136	SK	29		覆土	台石類	I	凝灰岩	北上山地	(29.83)	(18.31)	(5.36)	3088.00										敲打痕		H14調査	3595
1293		136	SX	1	ⅠB8i	覆土	台石類	I	砂岩	北上山地	(18.90)	17.52	6.72	3504.00										敲打痕	○	H13調査	1383
1294		136	SX	1	ⅠB8i	覆土	台石類	I	デイサイト	北上山地	(15.06)	(15.08)	7.23	2486.00										敲打痕	○	H13調査	1384
1295		136	SX	3		床面	台石類	I	砂岩	北上山地	19.00	13.42	5.26	1859.00										磨痕	○	H13調査	1385
1296		136	SX	3	QSE	覆土下位	台石類	I	砂岩	北上山地	(7.71)	(6.11)	4.73	312.00										被熱	○	H13調査	1386
1297		136	SX	4		覆土	台石類	I	砂岩	北上山地	(19.63)	(10.86)	(4.78)	1521.00										敲打痕	○	H13調査	1387
1298		136	SX	4		覆土	台石類	I	－	－	33.50	(22.50)	11.40	10000.00										敲打痕・磨痕	○	H13調査	1388
1299		136	SX	4	QNE	覆土	台石類	I	デイサイト	北上山地	14.29	(9.38)	6.97	1146.00										磨痕	○	H13調査	1389
1300		136	SX	4	東ベルト	覆土	台石類	I	－	－	(9.50)	(7.43)	(5.50)	342.00										磨痕	○	H13調査	1390
1301		136	SX	6		床面	台石類	I	頁岩	北上山地	22.10	15.78	7.11	4309.00										敲打痕		H13調査	1391
1302		136	SX	6		床面	台石類	I	砂岩	北上山地	17.53	11.90	9.85	2657.00										敲打痕		H13調査	1392
1303		136	SX	7		覆土	台石類	I	頁岩	北上山地	39.60	26.90	6.80	11200.00										磨痕	○	H13調査	1393
1304		136	SX	7		覆土	台石類	I	砂岩	北上山地	56.30	36.50	6.90	28500.00										敲打痕・磨痕		H13調査	1400
1305		136	SX	8		床面	台石類	I	砂岩	北上山地	38.80	36.30	13.30	49300.00										敲打痕・磨痕		H13調査	1399
1306		136	SX	9	QNW	覆土1層	台石類	I	頁岩	北上山地	26.38	(18.44)	6.87	3530.90										敲打痕・擦痕	○	H14調査	3552
1307		136	SX	10		覆土1層	台石類	I	砂岩	－	22.99	16.21	5.44	5042.90										擦痕		H14調査	3553
1308		136	SK	20		覆土下位	台石類	I	砂岩	北上山地	24.80	18.61	6.89	3673.00										磨痕		H13調査	1394
1309		136			ⅡA2g	Ⅲ層直上	台石類	I	砂岩	－	(15.42)	14.74	3.44	1104.72										敲打痕・凹痕	○	H14調査	3596
1310		136			ⅠA9f～10f攪乱	Ⅱ層	台石類	I	デイサイト	北上山地	(29.35)	15.36	8.08	7000.00										敲打痕・擦痕	○	H14調査	3597
1311		136			ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	台石類	I	角閃玢岩	北上山地	21.41	13.00	5.26	1846.67										擦痕		H14調査	3599
1312		137			ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	台石類	I	砂岩	－	30.47	26.30	5.79	6000.00										敲打痕・擦痕		H14調査	3600
1313		137			ⅡB1d 北西	Ⅱ層	台石類	I	砂岩	－	21.59	12.99	3.50	1920.89										敲打痕		H14調査	3603
1314		137			ⅡB2c北西	Ⅱ層中位	台石類	I	砂岩	－	25.82	16.00	5.90	3439.10										敲打痕		H14調査	3604
1315		137			ⅡB3e	Ⅱ層下位	台石類	I	砂岩	－	(18.18)	(11.32)	6.03	1961.29										擦痕		H14調査	3605
1316		137	SI	23		覆土	台石類	Ⅱ	斑岩	北上山地	50.00	24.55	10.15	21000.00										磨痕		H13調査	1380
1317		137	SI	26		炉	台石類	Ⅱ	頁岩		32.60	14.80	6.36	3731.00										磨痕	○	H13調査	1382
1318		137	SI	28		床直上	台石類	Ⅱ	砂岩	－	(22.52)	(9.38)	3.97	1170.73										敲打痕・擦痕	○	H14調査	3554
1319		137	SI	28		床直上	台石類	Ⅱ	砂岩	－	(17.33)	(6.28)	5.85	1279.63										擦痕	○	H14調査	3555
1320		137	SI	29	QSE	覆土	台石類	Ⅱ	デイサイト	北上山地	(27.44)	(12.93)	5.66	3264.50										擦痕		H14調査	3561
1321		137	SI	34		床直上	台石類	Ⅱ	砂岩	－	39.15	18.39	5.59	6000.00										敲打痕・擦痕		H14調査	3578
1322		137	SI	34		床直上	台石類	Ⅱ	凝灰岩	北上山地	35.90	14.90	7.52	5788.10										敲打痕・擦痕		H14調査	3582
1323		137	SI	33	QNE	覆土	台石類	Ⅱ	砂岩	－	(17.45)	(7.22)	(6.64)	850.39										擦痕		H14調査	3584
1324		137	SI	33	QSE	覆土下位	台石類	Ⅱ	砂岩	－	22.25	10.70	4.05	1542.84										敲打痕		H14調査	3585
1325		137	SI	33	QNE	覆土	台石類	Ⅱ	デイサイト	北上山地	20.22	(9.69)	6.86	1193.00										敲打痕・擦痕	○	H14調査	3586
1326		137	SX	3		覆土	台石類	Ⅱ	砂岩	北上山地	51.30	24.50	12.70	18600.00										敲打痕		H13調査	1401
1327		137	SK	28		覆土	台石類	Ⅱ	頁岩	北上山地	32.31	11.76	6.74	4000.00												H14調査	3640
1328		137	SR	1		底面	台石類	Ⅱ	砂岩	北上山地	34.90	16.83	8.37	8600.00										敲打痕		H13調査	1395
1329		137			ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	台石類	Ⅱ	砂岩	－	24.34	9.99	5.80	2561.30										敲打痕		H14調査	3598
1330		138			ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	台石類	Ⅱ	砂岩	－	29.55	14.23	4.81	2895.31										敲打痕・擦痕		H14調査	3601
1331	140	138			ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	台石類	Ⅱ	礫岩	北上山地	38.98	10.57	6.11	3881.10										敲打痕・擦痕		H14調査	3602
1332		138	SI	27	中央	床面	礫石錘	I	砂岩	－	10.06	7.28	2.12	226.03										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3606
1333	141	138	SI	29	QNE	覆土	礫石錘	I	頁岩	北上山地	11.67	7.09	2.00	255.97										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3614
1334		138	SI	33	中央西	覆土下位	礫石錘	I	頁岩	北上山地	10.70	6.59	2.25	222.85										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3618
1335		138	SI	33		覆土	礫石錘	I	頁岩	北上山地	10.71	8.77	2.91	417.50										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3619
1336		138	SI	36	QNE	覆土3層	礫石錘	I	不明	北上山地	11.38	8.61	2.56	337.61					1		1			打ち欠き・亜円礫		H14調査	3544
1337		138	SX	9		覆土1層	礫石錘	I	頁岩	北上山地	12.74	7.40	2.99	383.40										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3607
1338		138	SX	9		覆土1層	礫石錘	I	頁岩	北上山地	10.33	6.96	2.11	223.25										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3608

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部								特徴	欠損	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	磨面部			敲部			凹部					
															正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
1339	141	138	SX	10		覆土1層	礫石錘(礫器？)	I	頁岩	北上山地	9.87	8.16	2.01	247.36										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3609
1340		138	SX	10		覆土1層	礫石錘	I	頁岩	北上山地	12.56	6.34	1.44	208.14										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3611
1341		138	SX	10		覆土1層	礫石錘	I	頁岩	北上山地	12.84	6.86	1.71	217.62										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3613
1342	141	138	SK	21		覆土1層	礫石錘	I	頁岩	北上山地	9.80	6.80	2.40	231.92										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3620
1343		138			ⅡA2f～2g	Ⅲ層下位	礫石錘(敲石)	I	頁岩	北上山地	18.40	6.39	2.61	477.47										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3622
1344		138	SI	21	QSE	覆土	礫石錘	Ⅱ	頁岩	北上山地	7.95	6.70	2.60	116.47										打ち欠き・亜円礫		H13調査	1126
1345		138	SI	29	QNE	覆土	礫石錘	Ⅱ	頁岩	北上山地	6.30	4.37	0.72	28.41										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3615
1346	141	138	SI	31	QNE	覆土	礫石錘	Ⅱ	頁岩	北上山地	13.44	5.28	1.75	168.01										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3616
1347	141	138	SI	34		床直上	礫石錘	Ⅱ	砂岩	－	9.71	6.39	1.81	137.25										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3617
1348		138	SX	10		覆土1層	礫石錘	Ⅱ	頁岩	北上山地	8.70	5.82	1.68	154.70										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3610
1349		138	SX	10		覆土1層	礫石錘	Ⅱ	頁岩	北上山地	8.46	6.55	1.83	146.61										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3612
1350	141	138	SK	11		覆土	礫石錘	Ⅱ	頁岩	北上山地	8.65	5.50	1.90	120.54										打ち欠き・亜円礫		H13調査	1127
1351	141	138	SK	18		覆土	礫石錘	Ⅱ	頁岩		9.50	7.20	1.70	160.97										打ち欠き・亜円礫		H13調査	1128
1352		138			ⅡA2f～2g	Ⅱ層下位	礫石錘	Ⅱ	頁岩	北上山地	9.96	6.68	1.25	128.25										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3621
1353		138			ⅡB1d	Ⅱ層中位	礫石錘	Ⅱ	凝灰岩	北上山地	8.98	5.35	1.71	108.89										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3623
1354		138			ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	礫石錘	Ⅱ	頁岩	北上山地	8.92	6.05	1.39	127.59										打ち欠き・亜円礫		H14調査	3624
1355	141	138			ⅡD3a 攪乱	Ⅱ層	礫石錘	Ⅱ	頁岩	－	9.20	6.80	1.70	171.58												H13調査	1129
1356		138	SI	18		覆土	球石	－	千枚岩	北上山地	5.50	5.20	0.70	26.96												H13調査	1109
1357		138	SI	18		覆土	球石	－	砂岩	北上山地	6.23	3.98	3.27	121.30			1		1							H13調査	1271
1358		138	SI	20	炉付近	床直上	球石	－	砂岩	北上山地	4.40	3.50	3.10	59.74				1								H13調査	1272
1359		138	SX	3		床面	球石	－	頁岩	奥羽山脈	4.90	5.50	0.60	20.91												H13調査	1110
1360		138	SK	28		覆土	球石	－	花崗閃緑岩	北上山地	3.80	3.42	3.06	56.04	1											H14調査	3631
1361		138			ⅡB2d 北東	Ⅱ層中位	球石	－	砂岩	－	3.97	3.30	3.25	53.15				1								H14調査	3633
1362		138	SX	8		覆土	球石	－	砂岩	北上山地	5.53	4.29	2.79	86.15	1											H13調査	1274
1363			SI	1		炉	自然礫	I	閃緑岩	北上山地	34.50	12.97	7.33	5535.00												H13調査	1300
1364			SI	2			自然礫	I	砂岩	北上山地	59.00	17.43	11.06	13000.00												H13調査	1301
1365			SI	5			自然礫	I	頁岩	北上山地	(40.00)	21.33	(13.13)	15000.00										被熱	○	H13調査	1302
1366			SI	5		床面	自然礫	I	頁岩	北上山地	16.86	3.20	1.75	199.78												H13調査	1303
1367			SI	10		床面	自然礫	I	頁岩	北上山地	19.40	4.05	2.40	262.31												H13調査	1306
1368			SI	13		床面	自然礫	I	頁岩	北上山地	15.50	4.00	2.60	226.38												H13調査	1308
1369			SI	13		覆土中位	自然礫	I	礫岩	北上山地	15.84	4.22	3.21	279.07												H13調査	1309
1370			SI	16		床面	自然礫	I	礫岩	北上山地	30.50	10.00	5.01	2763.86												H13調査	1310
1371			SI	16		床面	自然礫	I	砂岩	北上山地	37.20	(8.67)	7.53	4165.00											○	H13調査	1311
1372			SI	18		床面	自然礫	I	砂岩	北上山地	28.78	8.50	5.75	2064.42												H13調査	1314
1373			SI	18	QSE	覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	22.41	4.12	2.79	404.90												H13調査	1316
1374			SI	20		床直上	自然礫	I	砂岩	北上山地	33.90	10.21	4.19	2441.49												H13調査	1318
1375			SI	21		床面	自然礫	I	頁岩	北上山地	13.10	4.45	3.50	260.36												H13調査	1320
1376			SI	21		床面	自然礫	I	砂岩	北上山地	10.40	4.40	3.65	140.91											○	H13調査	1321
1377			SI	21		炉	自然礫	I	デイサイト	北上山地	58.00	16.74	10.06	14000.00												H13調査	1322
1378			SI	23		床面	自然礫	I	頁岩	北上山地	9.80	1.80	1.30	31.50												H13調査	1323
1379			SI	23		床面	自然礫	I	頁岩	北上山地	19.91	4.48	3.18	534.92												H13調査	1324
1380			SI	23			自然礫	I	安山岩	北上山地	66.20	18.30	9.41	13000.00												H13調査	1325
1381			SI	25	p1	覆土	自然礫	I	砂岩	北上山地	(8.88)	4.92	2.25	147.43											○	H13調査	1326
1382			SI	27		床直上	自然礫	I	砂岩	－	25.34	5.86	4.44	924.63												H14調査	3648
1383			SI	27		床直上	自然礫	I	頁岩	北上山地	18.95	4.42	3.90	536.81												H14調査	3649
1384			SI	27		床直上	自然礫	I	凝灰岩	北上山地	30.07	5.93	5.13	1101.61												H14調査	3650
1385			SI	27		床直上	自然礫	I	頁岩	北上山地	(15.63)	(2.60)	(1.00)	42.43											○	H14調査	3651

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部								特徴	欠損	備考	登録No.
															磨面部			敲部			凹部					
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
1386			SI	27		床直上	自然礫	I	頁岩	北上山地	21.08	3.83	1.44	165.49											H14調査	3653
1387			SI	27		床直上	自然礫	I	頁岩	北上山地	28.48	4.64	4.79	1041.65											H14調査	3655
1388			SI	27		床直上	自然礫	I	頁岩	北上山地	(10.56)	2.32	0.97	37.99										○	H14調査	3656
1389			SI	27	南西	床直上	自然礫	I	頁岩	北上山地	12.41	2.40	1.37	47.22											H14調査	3658
1390			SI	27	北半	覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	14.29	3.51	2.80	238.20											H14調査	3660
1391			SI	27	北半	覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	12.98	3.48	1.06	75.97											H14調査	3661
1392			SI	29		覆土1層	自然礫	I	頁岩	北上山地	10.15	2.52	1.47	63.82											H14調査	3663
1393			SI	29	QSE	覆土	自然礫	I	凝灰岩	北上山地	26.53	6.92	5.07	1557.65											H14調査	3664
1394			SI	31	QNE	覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	24.95	5.85	3.91	876.03											H14調査	3667
1395			SI	31		覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	13.00	2.66	(1.92)	114.82										○	H14調査	3668
1396			SI	31		覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	16.84	3.28	2.29	185.75											H14調査	3669
1397			SI	33	中央南	覆土下位	自然礫	I	砂岩	－	14.14	4.12	2.41	250.51											H14調査	3671
1398			SI	33	中央南	覆土下位	自然礫	I	頁岩	北上山地	9.30	1.79	1.30	25.51											H14調査	3672
1399			SI	33	QSE	覆土下位	自然礫	I	頁岩	－	15.95	4.12	1.67	154.66											H14調査	3673
1400			SI	33	QSW	覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	14.27	4.12	2.37	163.17											H14調査	3674
1401			SI	39		覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	35.00	6.15	3.00	979.37											H14調査	3675
1402			SX	1	QSE	底面直上	自然礫	I	凝灰岩(ジャール)	北上山地	(34.00)	11.43	6.60	4301.00										○	H13調査	1328
1403			SX	1	ⅠB9i	覆土	自然礫	I	礫岩	北上山地	(17.81)	8.26	6.82	541.69										○	H13調査	1329
1404			SX	2	西壁際	床面	自然礫	I	砂岩	北上山地	(18.39)	(6.38)	(3.32)	491.67										○	H13調査	1330
1405			SX	3		床面	自然礫	I	頁岩	北上山地	(8.22)	(3.58)	2.33	123.03										○	H13調査	1331
1406			SX	3		床面	自然礫	I	頁岩	北上山地	17.31	2.58	(1.34)	82.73										○	H13調査	1332
1407			SX	3		床面	自然礫	I	頁岩	－	25.20	5.20	4.25	792.76											H13調査	1333
1408			SX	3		床面	自然礫	I	頁岩	北上山地	17.40	2.80	1.50	757.70											H13調査	1334
1409			SX	3	北ベルト	覆土上位	自然礫	I	砂岩	北上山地	18.67	3.92	3.32	306.53											H13調査	1335
1410			SX	4	QNE	覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	8.63	2.69	1.89	62.40											H13調査	1336
1411			SX	8	QNE	覆土下位	自然礫	I	凝灰岩	北上山地	12.47	3.47	2.07	168.43											H13調査	1319
1412			SX	11		覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	17.01	4.66	2.32	244.68											H14調査	3676
1413			SK	16		覆土	自然礫	I	砂岩	北上山地	(27.68)	9.38	5.78	2373.06										○	H13調査	1340
1414			SK	19	南側	覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	12.72	2.10	1.80	66.99											H13調査	1344
1415			SK	24		覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	18.61	4.30	2.14	259.84											H14調査	3677
1416			SK	28		覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	19.57	5.28	1.62	205.67											H14調査	3678
1417			SK	28		覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	21.61	5.48	2.54	438.44											H14調査	3679
1418			SK	28		覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	18.76	3.77	3.70	527.51											H14調査	3680
1419			SK	28		覆土	自然礫	I	頁岩	北上山地	13.72	3.56	2.42	188.52											H14調査	3681
1420			SK	34		覆土	自然礫	I	ホルンフェルス	北上山地	13.60	3.92	3.12	179.85											H14調査	3683
1421			SK	35		覆土	自然礫	I	砂岩	－	10.15	3.35	3.02	152.53											H14調査	3684
1422			SR	1		覆土中位	自然礫	I	砂岩	北上山地	35.60	10.10	4.93	2593.23											H13調査	1345
1423					ⅡD1c	Ⅱ層	自然礫	I	砂岩	北上山地	15.23	2.83	(1.02)	106.50										○	H13調査	1350
1424					ⅡD1c	Ⅱ層	自然礫	I	砂岩	北上山地	(21.57)	4.70	21.20	314.42										○	H13調査	1351
1425					ⅠB9j	Ⅱ層	自然礫	I	砂岩	北上山地	51.10	14.01	12.30	10500.00											H13調査	1353
1426					ⅠB9j	Ⅱ層	自然礫	I	凝灰岩	北上山地	(10.94)	4.03	(0.84)	40.44										○	H13調査	1354
1427					ⅠB10d	Ⅱ層下位	自然礫	I	頁岩	北上山地	20.58	4.06	3.07	434.65											H14調査	3685
1428					ⅡB2c	Ⅱ層中位	自然礫	I	頁岩	北上山地	10.07	2.74	1.56	70.76											H14調査	3686
1429					ⅡB2d	Ⅱ層下位	自然礫	I	頁岩	北上山地	8.58	1.29	1.28	25.73											H14調査	3687
1430					ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	自然礫	I	凝灰岩	北上山地	12.38	3.07	2.24	118.69											H14調査	3688
1431					ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	自然礫	I	頁岩	北上山地	6.81	2.50	1.72	46.20											H14調査	3689
1432					ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	自然礫	I	凝灰岩	北上山地	11.15	3.64	1.70	124.98											H14調査	3690

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				機能部									特徴	欠損	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	磨面部			敲部			凹部						
															正	側	裏	正	側	裏	正	側	裏				
1433					ⅠB8h～9i 風倒木痕	Ⅱ層	自然礫	Ⅰ	頁岩	北上山地	7.88	2.08	1.01	30.03												H13調査	1346
1434					ⅠC8a 攪乱		自然礫	Ⅰ	頁岩	北上山地	26.70	5.21	3.38	847.63												H13調査	1347
1435					ⅠC9a 攪乱		自然礫	Ⅰ	砂岩	北上山地	(4.93)	2.34	1.77	25.77											○	H13調査	1355
1436					ⅠC5c 攪乱		自然礫	Ⅰ	砂岩	北上山地	38.20	11.20	7.64	5280.00										磨痕		H13調査	1357
1437					ⅠC6c 攪乱		自然礫	Ⅰ	頁岩	北上山地	13.05	4.67	1.54	156.71												H13調査	1348
1438					ⅠB9i 風倒木痕		自然礫	Ⅰ	砂岩	北上山地	18.90	3.01	1.93	164.00											○	H13調査	1352
1439			SI	25		床面	自然礫	Ⅱ	砂岩	北上山地	10.03	8.03	2.79	405.36												H13調査	1291
1440			SI	27		床直上	自然礫	Ⅱ	頁岩	北上山地	9.32	5.91	1.97	169.03										赤色付着物有		H14調査	3341
1441			SI	27		床直上	自然礫	Ⅱ	頁岩	北上山地	25.96	6.74	2.72	781.33												H14調査	3645
1442			SI	27		床直上	自然礫	Ⅱ	砂岩	－	35.10	8.70	5.70	2974.94												H14調査	3636
1443			SI	29		覆土	自然礫	Ⅱ	砂岩	－	46.35	10.10	8.69	7500.00												H14調査	3637
1444			SI	29		覆土	自然礫	Ⅱ	凝灰岩	北上山地	45.00	12.23	8.25	5500.00												H14調査	3638
1445			SI	29	QNE	覆土	自然礫	Ⅱ	凝灰岩	北上山地	(24.00)	12.78	10.06	5063.30												H14調査	3639
1446			SK	28		覆土	自然礫	Ⅱ	頁岩	北上山地	17.50	7.90	3.43	544.44												H14調査	3682
1447			SK	39		覆土	自然礫	Ⅱ	デイサイト	北上山地	30.50	9.36	4.89	2103.79												H14調査	3643
1448			SK	49		覆土	自然礫	Ⅱ	凝灰岩	北上山地	29.73	7.09	5.80	1849.58												H14調査	3644
1449					ⅡB1d～2d	Ⅱ層中位	自然礫	Ⅱ	頁岩	北上山地	23.46	6.78	4.31	1080.88												H14調査	3647
1450			SI	18	ⅠB8j SE	覆土下位	自然礫	Ⅲ	砂岩	北上山地	6.11	4.41	3.23	123.69											○	H13調査	1269
1451			SI	18	ⅠB9j～ⅡB2j 攪乱		自然礫	Ⅲ	礫岩	北上山地	4.91	4.53	3.29	88.49												H13調査	1270
1452			SI	20	QSE	覆土	自然礫	Ⅲ	礫岩	北上山地	5.05	3.99	2.62	67.16												H13調査	1273
1453			SI	21	床面	床面	自然礫	Ⅲ	砂岩	北上山地	3.80	3.50	2.70	42.07												H13調査	1275
1454			SI	23	床面	床面	自然礫	Ⅲ	砂岩	北上山地	9.07	7.26	2.23	249.80												H13調査	1276
1455			SI	27		床直上	自然礫	Ⅲ	砂岩	－	4.85	4.39	2.98	72.13												H14調査	3625
1456			SI	27	北西	床直上	自然礫	Ⅲ	頁岩	北上山地	5.19	3.63	2.60	66.69												H14調査	3626
1457			SI	27		床直上	自然礫	Ⅲ	砂岩	－	3.48	3.27	2.57	32.30												H14調査	3627
1458			SI	27		床直上	自然礫	Ⅲ	凝灰岩	北上山地	4.25	3.46	2.64	50.36												H14調査	3628
1459			SI	33	中央西	覆土下位	自然礫	Ⅲ	凝灰岩	北上山地	3.91	2.85	2.16	30.04												H14調査	3629
1460			SI	33		覆土	自然礫	Ⅲ	頁岩	北上山地	4.74	3.99	2.82	72.74												H14調査	3630
1461			SX	1	QSE	覆土	自然礫	Ⅲ	砂岩	北上山地	6.46	6.23	(2.22)	99.61											○	H13調査	1281
1462			SX	3		床面	自然礫	Ⅲ	砂岩	北上山地	5.32	4.23	3.95	118.20											○	H13調査	1283
1463			SK	11		覆土	自然礫	Ⅲ	砂岩	北上山地	5.41	4.56	3.95	107.84												H13調査	1285
1464				h9	攪乱		自然礫	Ⅲ	凝灰岩	北上山地	6.22	5.75	3.48	92.22												H13調査	1289
1465					ⅡB1d	Ⅲ層下位	自然礫	Ⅲ	砂岩	－	4.74	4.26	3.26	95.91												H14調査	3632
1466					ⅡE5e	Ⅲ層下位	自然礫	Ⅲ	アプライト	北上山地	6.10	4.55	3.37	138.25												H14調査	3634
1467					ⅡE6c	Ⅲ層上面	自然礫	Ⅲ	閃緑岩	北上山地	5.49	4.90	4.58	153.66												H14調査	3635

第16表　石製品観察表

(1)法量について、( )は欠損部分の残存値を表示している。
(2)玦状耳飾について、特徴欄に内径値を記載している。

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	分類	石材	石材産地	法量				特徴	欠損	自然面	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)					
1468	142	140	SI	16	中央部	床面	石棒類	Ⅰ	頁岩	－	9.30	3.10	0.80	29.22				H13調査	1105
1469	143	140	SI	18	QSE壁際(周溝上)	覆土下位	石棒類	Ⅰ	頁岩	－	33.47	8.44	1.60	609.59				H13調査	1120
1470	142	140	SI	20		床面	石棒類	Ⅰ	頁岩	－	32.06	3.70	1.05	159.18				H13調査	1106
1471	142	140	SI	27	中央西	覆土1層	石棒類	Ⅲ	頁岩	北上山地	(18.93)	3.83	2.47	220.00	全面を研磨	○		H14調査	3693
1472	142	140	SI	27	中央西	覆土1層	石棒類	Ⅲ	頁岩	北上山地	19.08	5.10	2.96	349.84	握り部有り	○	○	H14調査	3694
1473		140	SI	27	北西端	床直上	石棒類	Ⅲ	頁岩	北上山地	(6.84)	3.53	(1.20)	43.75	研磨痕有り	○	○	H14調査	3695
1474	142	140	SX	9	QSW	覆土1層	石棒類	Ⅲ	ホルンフェルス	北上山地	(23.48)	3.96	(1.27)	153.37	全面を研磨	○	○	H14調査	3696
1475	142	140	SI	32		覆土	石棒類	Ⅰ	頁岩	北上山地	(9.00)	3.33	1.37	63.95	全面を研磨	○		H14調査	3697
1476	142	140	SI	36	QNE	覆土3層	石棒類	Ⅰ	頁岩	北上山地	39.82	3.16	2.17	520.75	2個体	○		H14調査	3698
1477	142	140	SK	29		覆土	石棒類	Ⅲ	凝灰岩	北上山地	11.72	3.21	1.82	92.85	男根状			H14調査	3699
1478	143	140	SK	48		覆土上位	石棒類	Ⅱ	頁岩	北上山地	33.01	2.97	2.10	294.88	全面を研磨			H14調査	3700
1479		140			ⅡB3c	Ⅰ層下位	石棒類	Ⅰ	頁岩	北上山地	(20.07)	4.63	1.68	194.62	全面を研磨	○		H14調査	3701
1480	143	140			ⅠB8c	風倒木痕	石棒類	Ⅲ	砂岩	－	(13.90)	10.11	7.68	1636.71	大形	○		H14調査	3702
1481	143	140	SI	23		周溝底面	鰹節状石製品	－	頁岩	－	18.80	4.80	1.40	201.43				H13調査	1107
1482	144	140	SX	10		覆土1層	円盤状石製品	－	頁岩	北上山地	8.15	7.80	0.96	60.67	両面剥離		○	H14調査	3703
1483	144	140	SK	45		覆土	円盤状石製品	－	砂岩	北上山地	4.31	4.34	1.86	53.28	成形後、研磨			H14調査	3704
1484	144	140			ⅡB2b	Ⅱ層	円盤状石製品	－	頁岩	北上山地	5.20	4.89	1.01	36.02	両面剥離			H14調査	3705
1485	144	140			ⅡB2d　北西	Ⅱ層	円盤状石製品	－	頁岩	北上山地	3.88	3.43	0.45	10.53	両面剥離			H14調査	3708
1486	144	140	SX	4		床面	玦状耳飾	－	頁岩	奥羽山脈	4.30	3.00	0.60	8.50				H13調査	1104
1487	144	140	SI	27		床直上	玦状耳飾	－	頁岩	北上山地	4.30	3.60	0.52	11.37	内径0.9cm	○		H14調査	3709
1488	144	140	SI	27		覆土	玦状耳飾	－	滑石	北上山地	4.06	(3.00)	0.53	7.10	内径1.27cm	○		H14調査	3710
1489	144	140	SI	27	南端	覆土	玦状耳飾	－	滑石	北上山地	(3.49)	(2.19)	0.41	4.01	内径1.23cm	○		H14調査	3711
1490	144	140			ⅡA2g	Ⅱ層中位	玦状耳飾	－	滑石	北上山地	3.10	(2.86)	0.51	4.86	内径1.08cm	○		H14調査	3712
1491	144	140	SI	27		床直上	石製垂飾	－	頁岩	北上山地	9.01	5.69	1.63	104.01				H14調査	3713
1492	144	140			ⅠA10h	攪乱	石製垂飾	－	頁岩	北上山地	5.38	3.22	0.60	14.98				H14調査	3714
1493	144	140			ⅡB1f	風倒木痕	有孔石製品	－	頁岩	北上山地	11.09	6.97	0.67	77.64	内径0.77cm			H14調査	3715
1494		140	SX	1	ⅠB8i	覆土	不明石製品	－	頁岩	－	14.56	5.67	2.26	221.25				H13調査	1108
1495		140	SI	23		床面	線刻礫	－	凝灰岩	奥羽山脈	6.19	4.48	2.11	42.20				H13調査	1111
1496		140	SI	18	東ベルト	覆土上位	赤色顔料付着	－	凝灰岩	奥羽山脈	3.94	2.34	1.50	13.01				H13調査	1112

第17表　銭貨観察表

(1)法量の記載について、直径・穿径・厚さ・重量を表示している。

掲載No.	図版No.	写図No.	出土地点			層位	器種	法量				特徴	欠損	備考	登録No.
			種別	番号	位置(グリッド)			直径(cm)	穿径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
1497	104	102	SA	4	P6	覆土	熙寧元寶	2.37	0.65	0.16	2.84	北宋　初鋳年1068年		H14調査	3717

Ⅵ　まとめ

1．遺構

今回の2カ年に渡る調査で検出した遺構総数は、竪穴住居跡41棟、竪穴住居状遺構12基、土坑54基、土器埋設遺構1基、焼土遺構6基、柵列5列、ピット74基である。このうちのほとんどが削平の影響を受けており、また削平が少ない地点でも著しい重複のため遺構プランが判然としないものも数多くあった。

本項ではこれを踏まえて、出土遺物・遺構形態の点から本遺跡の存続時期を考える上で、変遷を追うのに適する竪穴住居跡について、その分布と形態を概観する。

(1) 時期別遺構分布図

本遺跡から検出された竪穴住居跡は出土遺物・遺構形態の点から大きく、2時期に大別される。

ａ．縄文時代前期

縄文時代前期に想定される竪穴住居跡は計4棟あり、出土遺物からさらに前期中～後葉2棟（SI23・SI27）、前期後葉2棟（SI18・24）に分けられる。平面形はいずれも長方形の大形プランを呈しており、長軸は1000～1300cm、短軸は370～500cmであり、床面積は約50㎡（SI18・27）、約30㎡（SI23・24）である。軸線はN-10～27°-Wに集中しており、斜面に対して長軸が直交する様相を呈し、ほぼ等間隔に配置されている。該期の代表的な遺跡として知られる秋田県協和町上ノ山Ⅱ遺跡や岩手県遠野市新田Ⅱ遺跡に見られる放射状大形住居跡群のような遺構配列は本遺跡には見られず、あくまで等高線に沿う形で形成されている。出土遺物は重複地点が多く、帰属が判然としないものもあるが、おおむねⅡ群の土器群を伴出しており、既存の土器型式に当て嵌めれば、大木4～5ａ式期（縄文時代前期後葉）がその中心時期となる。

比較的遺構の残存が良好であったSI27竪穴住居跡については、第31図に示したとおり、柱穴配置、周溝の拡幅などから遺構推定変遷図を表すことができた。柱穴は長軸壁内側に等間隔で配置され、壁際には周溝が巡らされている。一部周溝が途切れる箇所があり（北・東壁側）、入口施設であった可能性もある。炉施設については、床面中央に5基の地床炉が並列する形態を成しており、同時期に使用されていた可能性が高い。柱穴の多くは他柱穴と重複していることが多いため、周溝と合わせて住居跡を拡張したことが考えられ、最低2段階の変遷が想定される。

ｂ．縄文時代中期

縄文時代中期に想定される竪穴住居跡は計32棟あり、出土遺物・遺構形態からさらに中期末葉に想定される竪穴住居跡が計12棟抽出される（SI02･10･16･20･21･29･31･33～37）。残りの20棟についても中期末葉などに想定される遺構が多く含まれていると考えられるが、出土遺物・遺構形態の両面からも詳細な時期を見出すには至らなかった。平面形はいずれも円形もしくは楕円形を呈し、直径約300～600cm前後、平均値は約400cm前後である。床面積は遺構プランが削平または重複により破壊されているものが多いため、一概には言えない。軸線も同様であるが、東側（斜面下方）に偏る、または寄る炉配置を持つものが多い傾向がある。柱穴配置は軸線とも関係するが、中期の住居跡全体には不規則な配置が多く、中期末葉の住居跡になると、炉・柱穴配置など構造的にかなり類似性が見られる。

炉の形態に着眼すると、中期全体では地床炉が最も多く12棟、次いで石囲炉10棟、土器埋設炉・複式炉・土器埋設複式炉各3棟、土器埋設石囲炉1棟となる。この中で中期末葉と想定した住居跡だけを見ると、土器埋設複式炉・複式炉・石囲炉各3棟、土器埋設炉2棟、地床炉1棟という構成になる。削平により、石囲

炉などの形態を成していたものが、地床炉状を呈している可能性も大いにあるが、Ⅲ群の大木10式に比定される土器群を伴出する住居跡に中期末葉に強い類似性を持つ複式炉などが見られることも特徴のひとつとして挙げられる。また、この場合の柱穴配置は、炉の軸線を中心に左右対称になる傾向が顕著である。複式炉の形態で共通性を持つ遺構としては、①比較的小規模の燃焼部を持ち前庭部にも燃焼の痕跡が見られるSI31とSI33（埋設土器も付属）、②燃焼部側面に斜位に設置された埋設土器を伴うSI35とSI36があり、住居跡に伴出する土器にも共通性が見られることから、同時期に存在していた可能性が高い。

中期末葉の竪穴住居跡で、重複関係からその変遷を追うのに適した遺構として、比較的遺構の残存が良好であったSI33～35竪穴住居跡がある。重複関係を見ると、SI35が最も古期にあたり、SI33が最も新期である。詳細な遺構変遷については第38・39図を参照して頂きたいが、最も古期にあたるSI35は土器埋設複式炉を有する住居跡であり、燃焼部壁に斜位に埋設されたⅢ群土器（No.188・大木10式期）を持つ。この炉を埋めた後、対面に新たな複式炉（石組の残存なし）を構築しSI34が作られ（床面出土土器No.190）、さらに最も新期の燃焼部が比較的小規模な複式炉を有するSI33が再構築されている。この3遺構はいずれも中期末葉に想定される竪穴住居跡で、短期間に炉も含めた「建て替え」が行われたことを表している。

中期全体の竪穴住居跡分布を概観すると、調査区の北側ⅡB1～2dグリッド付近、ⅠB8～9iグリッド付近に遺構が集中して重複していることが分かる。また、南側にも小規模な重複が見られ、その他の地点は極端に遺構密度が散漫になる傾向が見られる。これは、削平により遺構が消滅したことも考えられるが、土地利用の点から、同一地点に建て替えを行う理由があるのかもしれない。それは、住居を構築する際の部族内の決まりなのか、単に以前使用していた住居の窪んだ箇所を利用して、新たに掘削する仕事量を軽減するためなのか、まったく推測の域を脱し得ないが、着眼すべき点のひとつであるのは確かである。

(2) 他遺構との関係性

(1)で述べたように、本遺跡で検出された竪穴住居跡41棟は大きく縄文時代前期と中期という2つの時期に分けられる。この他の遺構についても、竪穴住居跡とほぼ同一の時期が想定される。まれに、SX12竪穴住居状遺構のように縄文時代早期中葉の遺物のみが含まれその時期に所属すると考えられる遺構、SK08土坑のように縄文時代後期の遺物のみが含まれる遺構などがあるが、その数は散逸的であり、多くの場合、中期の遺物が含まれている。

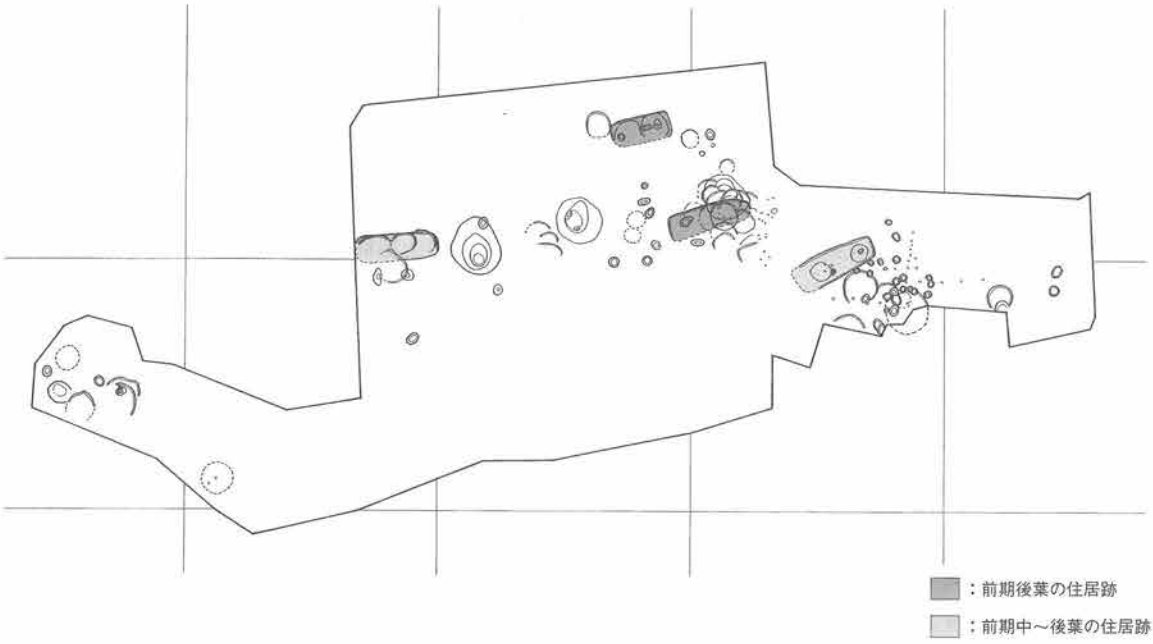
(3) 集落としての存続時期

本遺跡の存続時期は出土土器の型式年代、遺構形態に見られる時期変遷、放射性炭素年代測定の結果などから、①縄文時代前期の中でも特に前期後葉、②縄文時代中期の中でも特に中期末葉が主体とされる集落としての存続時期を成している。2つの時期の間には、約1000年間の空白時期がある。縄文時代中期中葉などの遺物も検出されているが、非常に散発的である。

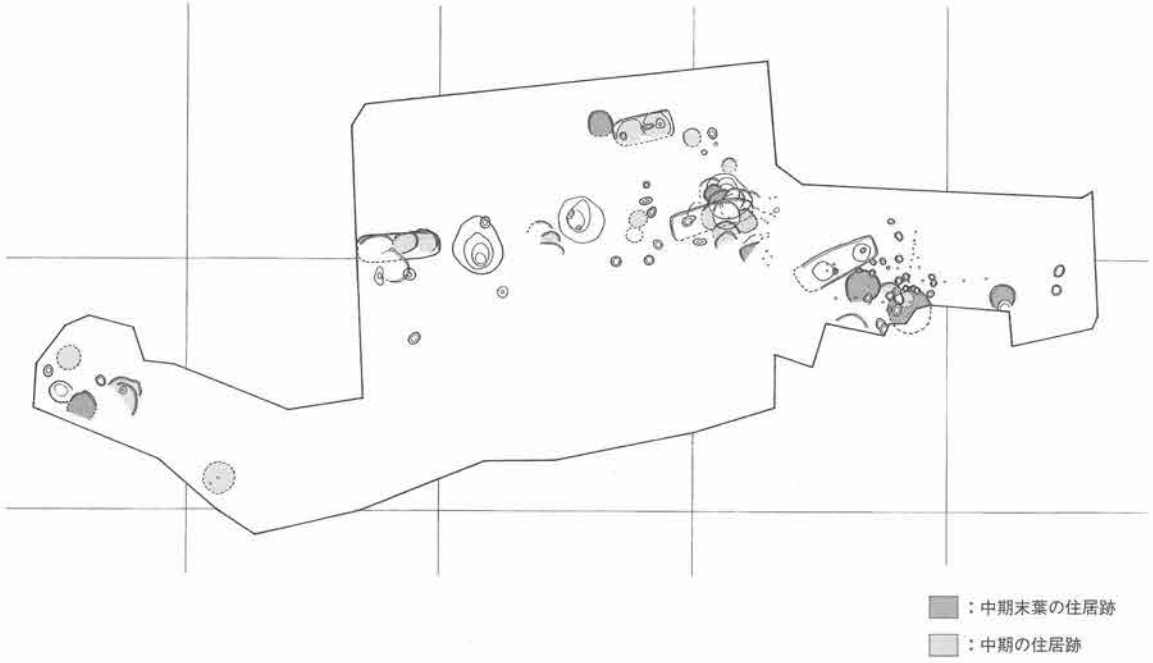
前期後葉に長軸10mを越える規模の大形住居跡を数棟形成するほどの集落が営まれたにも関わらず、その後衰退し、中期末葉になり再び集落として居住されるに至った。この間、集落本体は何らかの理由により他の土地に移動したものと考えられる。

中期の住居跡の多くが重複し、同一地点に何度も「建て替え」が行われていることについては、古期の住居が完全に埋没する前に、ほぼ同一床面レベルで新期の住居が構築され、短期間にほぼ連続的に生活が行われたことを示している。集落としての存続時期は、短時期に限られ、集落規模は大きくなるに至らず、集落の構成員数はほとんど変化がなかったことを表していると考えられる。

a. 縄文時代前期



b. 縄文時代中期



第145図　時期別遺構配置図

2．遺物

本遺跡から出土した遺物は、縄文土器大コンテナ（T40：42×32×30cm）約30箱・平安時代の土器３片・土製品15点・石器大コンテナ（T40：42×32×30cm）約50箱・石製品29点・銭貨１点で、登録点数は土器443点・土製品15点・石器901点・石製品29点・銭貨１点の合計1389点である。

このうち、本遺跡の相対年代を考える上で欠くことの出来ない土器と、最も多くの出土量を得た石器について概略的なまとめを行う。

(1) 土器

今回の調査で出土した土器は、縄文時代早期～後期の４時期と、平安時代に所属するものである。このうち、本遺跡の主体となる縄文時代前期後葉と、縄文時代中期末葉の土器群について若干の考察をする。

a．縄文時代前期後葉

第Ⅱ群縄文時代前期の土器は、既存の土器型式から大木2a式・大木３式・大木４～5a式に比定される土器群である。特に、大木４～5a式土器は出土事例が少なく、秋田県協和町上ノ山Ⅱ遺跡・岩手県遠野市新田Ⅱ遺跡・同県陸前高田市牧田貝塚などでまとまった資料が出土している。本遺跡に見られる該期土器群は、植木鉢形や朝顔形の器形を呈し、口唇部・口縁部・胴部上半に小波状文やハート形・三角形、梯子状文を構成する細粘土紐貼付を行うもので、興野氏の指摘するところの大木４式に当たると考えられる（興野 1969）。また、鋸歯状沈線文を横位に施文するものもあり、大木5a式に比定される。

b．縄文時代中期末葉

第Ⅲ群縄文時代中期の土器は、既存の土器型式から大木8a式・大木10式に比定される土器群である。その中で主体を成すのは大木10式に比定される土器群であり、おもに沈線によって文様が施される沈線文系土器である。文様モチーフは横方向に展開され、口縁から胴部上半のみに描かれる。胴部下半は地文のみとなり、頸部に文様帯と非文様帯を区画する沈線が引かれるものと、文様を連結させて区画するもの、区画しないものがある。

施文技法には磨消縄文が用いられ、予め地文である縄文を器面全体に施した後に沈線を引いて区画を行い、その内側をナデて磨り消す手法が行われている。地文には斜縄文が多いが、単軸絡条体第１類による施文も行われている（池谷 1988）。

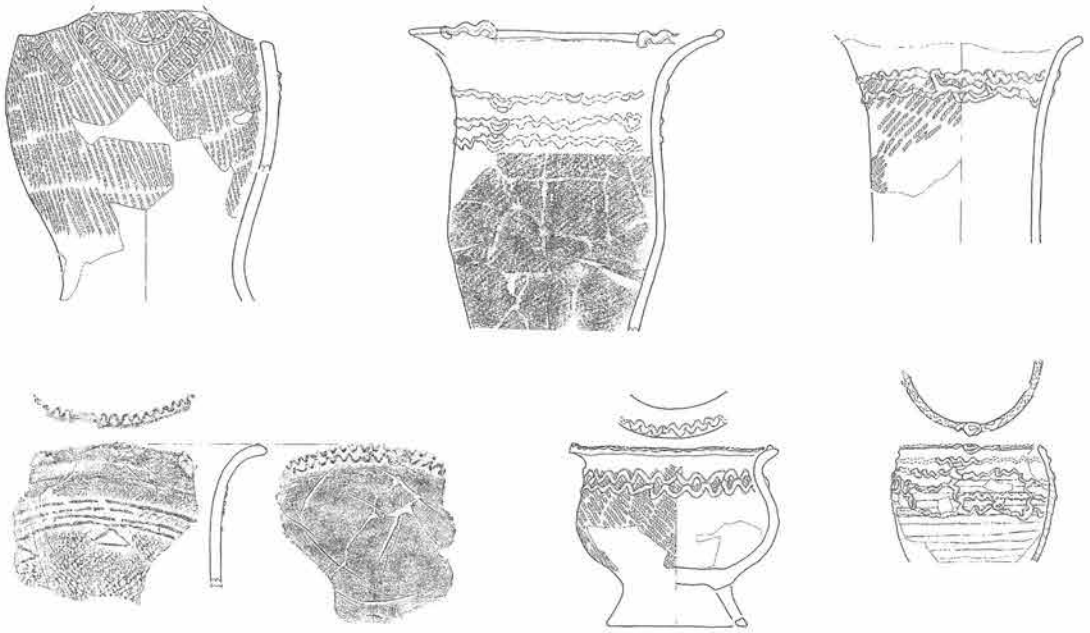
本遺跡の大木10式は池谷氏の分類（池谷 1988）によれば、大木10b式の第１段階及び第２段階にあたる。第１段階は「短隆起線が無文部の先端や、無文部どうしの接する部分に貼り付けられている段階」であり、№164･232･229などである。また、第２段階は「短隆起線がのびて器面を全周する段階」であり、№47･165･170･171･323などである。

また、本間氏の分類（本間 1994）によれば、中村氏の論考を引用しながら（中村 1986）、観音堂・湯沢両遺跡（三浦他 1983）に見られる土器組成が一型式内に包括されるものであるとし、深鉢形土器の変遷系列を時期幅に内在されるものとした、大木10b式にあたる土器群である。

よって、本遺跡出土土器から見ても、本遺跡の中期末葉における存続時期は長期間に渡るものではなく、土器型式という観点から見れば、大木10b式期という一型式の枠に収まるものであると考えられる。

(2) 石器

本遺跡の出土土器は縄文時代早期から後期にまで及ぶが、その主体となる時期は縄文時代前期後葉と中期末葉であると考えられる。その他に前期中葉から後葉にかけて、または中期中葉などの土器群が出土している。よって、本遺跡出土石器については、遺構内は共伴する出土土器と同様の縄文時代前期後葉または中期



S＝1/6

縄文時代前期後葉

S＝1/6

縄文時代中期末葉

第146図　土器集成図

末葉、遺構外については早期～後期（主体は前期後葉、中期末葉）とある程度の時期幅を持って捉えたい。

今回の調査で出土した石器の総数は合計1161点に及ぶ。この内260点が石器製作に伴う剥片（石屑片）で、トゥールとして認定したのは901点である。石器の内訳は尖頭器６点（0.7%）、石鏃46点（5.1%）、石錐１点（0.1%）、石匙19点（2.1%）、石篦２点（0.2%）、楔形石器５点（0.6%）、スクレイパー類61点（6.8%）、二次加工ある剥片64点（7.1%）、微細剥離痕ある剥片87点（9.7%）、石核２点（0.2%）、石斧類23点（2.6%）、礫器類35点（3.9%）、敲磨器類418点（46.4%）、砥石１点（0.1%）、台石類100点（11.1%）、礫石錘24点（2.7%）、球石７点（0.8%）である（第147-1図）。このほかに素材礫とみられる自然礫が105点ある。

このなかで、本項では剥片石器の尖頭器・石鏃の先端部に見られる先端角及び石匙・スクレイパー類・二次加工ある剥片の刃部に見られる刃角について、若干の考察を行う。

ａ．先端角について

先端角は、尖頭器及び石鏃など尖頭部を有するものから得られる角度で、石器の機能部として実際の狩猟行動に大きく関わるものである。

本遺跡出土の尖頭器は６点あり、このうち５点について計測可能である。最小値はNo.461の43.0°、最大値はNo.460の85.0°、計５点の平均値は61.2°である。最小値及び最大値の２点は大きく離れているものの、残りの３点はほぼ平均値である。

また、本遺跡出土の石鏃は46点あり、このうち38点について計測可能である。これも尖頭器と同様に石器の機能部として実際の狩猟行動に大きく関わるものであり、規格性が窺われる資料である。最小値はNo.465の27.0°、最大値はNo.479の119.0°であり、計38点の平均値は60.3°である。分類ごとの平均値を比較すると、ＩＡ類（１点）は27.0°、ＩＢ類（１点）は43.0°、ⅡＡ類（７点）は56.1°、ⅡＢ類（８点）は84.2°、ⅡC1類（15点）は54.1°、ⅡC2類（１点）は37.5°、ⅡC3類（５点）は61.3°である。

この両者を見ると、最小値・最大値に幅は見られるものの平均値は尖頭器61.2°、石鏃60.3°と概ね同等の数値が得られる。製作工程の中で、素材となる石材の質にもよるが、この先端角が意識されていたことは確かであろう。平均値を頂点として、尖頭器は43.0°≦α≦85.0°、石鏃は27.0°≦α≦119.0°の範囲で作出された先端部は、平均値以下のより鋭角なものと、平均値以上のより鈍角なもの、わずかだが鈍角のものが見られる。ほとんどの場合は、平均値もしくはそれ以下の角度で成形されており、イレギュラー的に鈍角なものが散見されるというのが、先端角に観察される事項である。

ｂ．刃角について

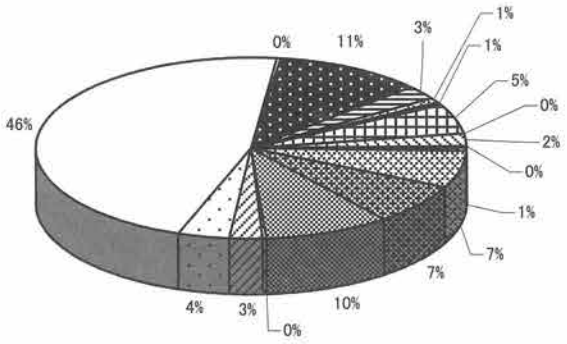
刃角は、石匙及びスクレイパー類、二次加工ある剥片など刃部を有するものから得られる角度で、石器の機能部として実際の切る、削るという作業に直接関わる箇所である。計測については、刃角は刃部（二次加工部位）計測箇所により大きく異なる場合があるため、３箇所以上を計測した平均値を記載している。

①本遺跡出土の石匙は19点あり、全点について計測可能である。最小値はNo.529の30.0°、最大値はNo.528の68.0°であり、計19点の平均値は49.3°である。二次加工部位の両面・片面作出については、両面の平均値は14点で50.4°、片面の平均値は５点で46.0°である。

②本遺跡出土のスクレイパー類は61点あり、全点について計測可能である。最小値はNo.586の30.0°、最大値はNo.539の83.0°であり、計61点の平均値は57.0°である。二次加工部位の両面・片面作出については、両面の平均値は14点で58.1°、片面の平均値は47点で56.7°と大差はない。

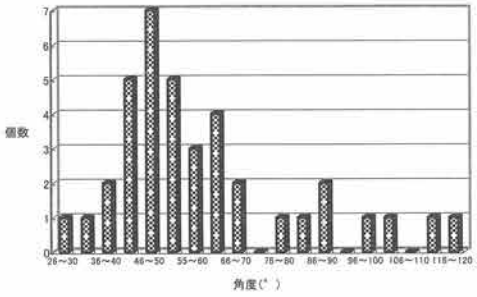
③本遺跡出土の二次加工ある剥片は64点あり、63点について計測可能である。最小値はNo.614の37.0°、最大値はNo.637の104.0°であり、計63点の平均値は56.0°である。二次加工部位の両面・片面作出については、

第147-1図　石器組成表

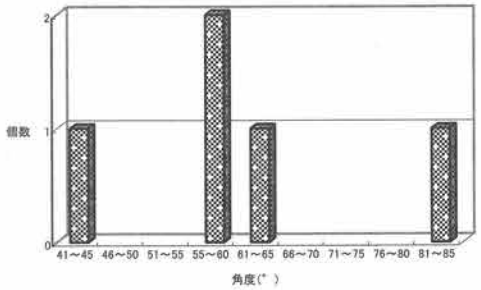


■尖頭器　□石鏃
▨石錐　▨石匙
□石篦　▨楔形石器
▨スクレイパー類　▨二次加工ある剥片
▨微細剥離痕ある剥片　▨石核
▨石斧類　□礫器類
□敲磨器類　□砥石
■台石類　▤礫石錘
▨球石

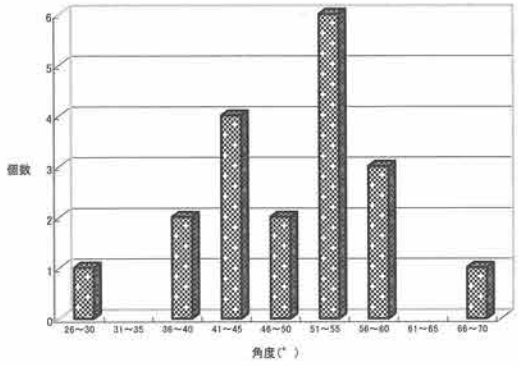
第147-2図　石鏃先端角分布図



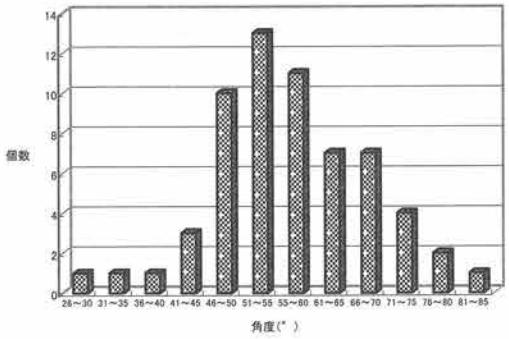
第147-3図　尖頭器先端角分布図



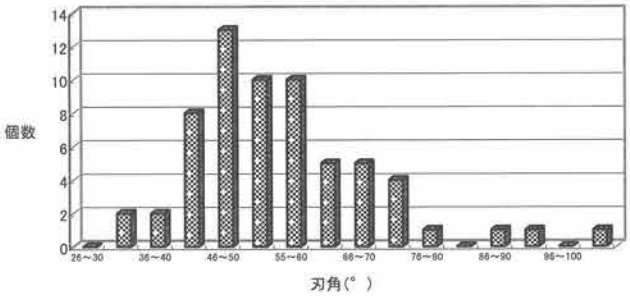
第147-4図　石匙刃角分布図



第147-5図　スクレイパー類刃角分布図



第147-6図　二次加工ある剥片刃角分布図



第147図　石器組成

両面の平均値は3点で58.5°、片面の平均値は60点で55.9°である。

以上、3器種について刃角を観察すると、平均値は石匙49.3°、スクレイパー類57.0°、二次加工ある剥片56.0°となり、49.3°≦α≦57.0°のおよそ50°台前半という平均刃角が得られる。また、二次加工部位の両面・片面作出について見ると、両面の平均値は石匙50.4°、スクレイパー類58.1°、二次加工ある剥片58.5°であり、片面の平均値は石匙46.0°、スクレイパー類56.7°、二次加工ある剥片55.9°となる。3器種ともに片面加工の場合が、両面加工の時よりも鋭角に作出されることが理解される。

第147-4～6図に3器種の刃角分布図を示した。石匙は51～55°、スクレイパー類は51～55°、二次加工ある剥片は46～50°にそれぞれピークがある。刃角はピークを頂点になだらかな山脈状を描き、より鋭角またはより鈍角へと下がっている。これにより、各平均値である50°台前半に刃角が集中し、意識的に二次加工部位作出の剥離工程が成されたことが理解されよう。

3．総括

(1) 館遺跡は岩手県気仙郡住田町世田米字小股地内に所在し、大股川や小股川によって形成された、舌状河岸段丘の東向き緩斜面上に立地している。この地点が国道397号道路整備事業の対象箇所となり、遺跡の消滅する5,500㎡について2カ年に及ぶ発掘調査を実施した。

(2) 本遺跡で検出された遺構は、縄文時代の竪穴住居跡41棟、縄文時代の竪穴住居状遺構12基、縄文時代の土坑54基、縄文時代の土器埋設遺構1基、時期不明の焼土遺構6基、時期不明の柵列5列、時期不明のピット74基である。

(3) これらの遺構の主体となる時期は大きく2時期に分けられ、縄文時代の前期後葉及び中期末葉である。この他に早期～後期の遺構もあると考えられる。主体となる時期にはそれぞれ継続して集落が営まれており、各時期の集落や遺構の分布の一部（削平箇所を除く）が明らかとなった。特に縄文時代前期後葉は、大形住居跡を中心とする集落形態であり、大木3、4～5a式期の住居跡であることが分かった。また、中期には同一地点に著しい重複が見られ、何度も建て替えが行われていたことも分かった。

(4) 本遺跡で出土した遺物は、縄文土器大コンテナ（T40：42×32×30cm）約30箱・平安時代の土器3片・土製品15点・石器大コンテナ（T40：42×32×30cm）約50箱・石製品29点・銭貨1点である。土器は早期～後期に位置付けられるものが出土し、特に大木2，3，4～5a，10式に比定される土器群が大半を占めた。石器は総数1161点に及び、尖頭器、石鏃、石錐、石匙、石篦、楔形石器、スクレイパー類、二次加工ある剥片、微細剥離痕ある剥片、石核、石斧類、礫器類、敲磨器類、砥石、台石類、礫石錘、球石、剥片の各器種が出土した。土製品は土偶や耳飾、円盤状土製品、石製品は石棒類、鰹節状石製品、円盤状石製品、玦状耳飾などが出土した。

4．謝辞

この度、本報告をまとめるにあたり、多くの関係者の皆様に貴重な御指導を頂いた。また、野外調査、室内整理においては期限付職員・日々雇用職員の方々に的確かつ迅速に作業を進めて頂いた。厚くお礼申し上げたい。最後に調査に絶大な協力を頂いた大船渡地方振興局土木部、住田町教育委員会、関係者各位に衷心よりお礼申し上げる次第である。

参考文献

会津若松市教育委員会　2001　「本能原遺跡」『上三寄区県営ほ場整備事業発掘調査報告書』
会津若松市文化財調査報告書第70号

青森県教育委員会　2000　『畑内遺跡Ⅵ』　青森県埋蔵文化財発掘調査報告書第276集

秋田県教育委員会　1988　「上ノ山Ⅰ遺跡・館野遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡」『東北自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅱ』
秋田県文化財調査報告書第166集

秋田県教育委員会　1989　「上ノ山Ⅱ遺跡」『東北自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅱ（補遺）』
秋田県文化財調査報告書第186集

岩手県大迫町教育委員会　1986　『観音堂遺跡』　大迫町埋蔵文化財報告第11集

岩手県北上市教育委員会　1978　『八天遺跡（図版編）』　北上市文化財調査報告24集

岩手県北上市教育委員会　1979　『八天遺跡（本文編）』　北上市文化財調査報告27集

岩手県遠野市教育委員会　2002　『新田Ⅱ遺跡』　遠野市埋蔵文化財調査報告書第13集

㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1977　『都南村　湯沢遺跡』
岩手県埋文センター文化財調査報告書第2集

㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1995　『柳上遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第213集

㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1996　『牧田貝塚発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第241集

㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1998　『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第273集

㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1999　『下館銅屋遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第297集

㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2003　『久田遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第406集

㈶長野県埋蔵文化財センター　1998　「松原遺跡」『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書4　－長野市内　その2－』　㈶長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書

仙台市教育委員会　1980　『三神峯遺跡発掘調査報告書』　仙台市文化財調査報告書第25集

滝根町教育委員会　1984　『福島県田村郡観音山遺跡』　滝根町文化財調査報告第1集

宮城県教育委員会　1985　『七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書』　宮城県文化財調査報告書第107集

宮城県教育委員会　1986a　『今熊野遺跡Ⅱ　縄文・弥生時代編』　宮城県文化財調査報告書第114集

宮城県教育委員会　1986b　「小梁川遺跡　遺物包含層土器編」『七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
宮城県文化財調査報告書第117集

宮城県教育委員会　1987　「小梁川遺跡」『七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ』宮城県文化財調査報告書第122集

宮城県教育委員会　1988　「大梁川・小梁川遺跡（石器編）」『七ヶ宿ダム関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
宮城県文化財調査報告書第126集

福島県いわき市教育委員会　1986　『弘源寺貝塚』　いわき市埋蔵文化財調査報告第13冊

新潟県教育委員会　1990　「清水上遺跡」『関越自動車道関係発掘調査報告書』新潟県埋蔵文化財調査報告書第55集

新潟県教育委員会　1999　「和泉A遺跡」『上信越自動車道関連発掘調査報告書Ⅴ』
新潟県埋蔵文化財調査報告書第93集

池谷信之　1988　「東北地方における縄文時代中期末葉土器の変遷と後期土器の成立」『沼津市博物館紀要』12

梶原　洋　1982　「石匙の使用痕分析－仙台市三神峯遺跡出土資料を使って－」『考古学雑誌』第68巻第2号

興野義一　1967　「大木式土器理解のために（Ⅰ）」『考古学ジャーナル』13　ニューサイエンス社

興野義一　1968　「大木式土器理解のために（Ⅱ）」『考古学ジャーナル』16　ニューサイエンス社

興野義一　1968　「大木式土器理解のために（Ⅲ）」『考古学ジャーナル』18　ニューサイエンス社

興野義一　1968　「大木式土器理解のために（Ⅳ）」『考古学ジャーナル』24　ニューサイエンス社

興野義一　1969　「大木式土器理解のために（Ⅴ）」『考古学ジャーナル』32　ニューサイエンス社

興野義一　1970　「大木式土器理解のために（Ⅵ）」『考古学ジャーナル』48　ニューサイエンス社
興野義一　1984　「大木式土器について」『宮城の研究1　考古学篇』　清文堂
鈴木俊成　1992　「縄文時代の石鏃について」『新潟考古』第3号　p1－22
本間　宏　1994　「大木10式土器の考え方」『しのぶ考古』10
丹羽　茂　1971　「東北地方南部における中期縄文時代中・後葉土器群研究の現段階」『福島考古』第12号
福島県考古学会
丹羽　茂　1981　「中期の土器－大木式土器」『縄文文化の研究』4　雄山閣
丹羽　茂　1989　「中期大木式土器様式」『縄文土器大観』1　小学館
山内清男　1979　『日本先史土器の縄紋』　先史考古学会

Ⅵ　まとめ

1．テフラ分析

岩手県住田町館遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

（1）はじめに

東北地方北部岩手県域には、岩手、十和田、秋田駒ヶ岳、焼石、鬼首など岩手県域とその周辺に分布する火山のほか、北海道、中部、中国、九州地方などの火山などから噴出したテフラ（tephra，火山砕屑物，いわゆる火山灰）が数多く分布している。テフラの中には、すでに噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、それらとの関係を求めることにより、地層の堆積年代や土壌の形成年代のみならず、遺構や遺物の年代などについても知ることができるようになっている。

そこで、住田町館遺跡において採取された試料を対象に屈折率測定とエレクトロンプローブX線マイクロアナライザー（EPMA）による主成分化学組成分析を行って、指標テフラとの同定を試みることになった。分析の対象となった試料は、層厚2cm程度の橙色細粒火山灰層（試料①）である。

（2）屈折率測定

A．測定方法

試料①について、日本列島とその周辺のテフラカタログ（町田・新井，1992）の作成にも利用された温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）により、テフラ粒子の屈折率の測定を行った。

B．測定結果

屈折率測定の結果を表1に示す。試料に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.509-1.513である。重鉱物としては、斜方輝石や単斜輝石がごく少量含まれている。斜方輝石の屈折率（γ）は、1.706-1.708である。

（3）主成分化学組成分析

A．分析試料と分析方法

試料①について、指標テフラとの同定精度を向上させるために波長分散型エレクトロンプローブX線マイクロアナライザー（WDS型EPMA）により、火山ガラスの主成分化学組成分析を行った。分析に仕様したWDS型EPMAは、山形大学理学部の日本電子JXA8600MWDS型EPMAである。加速電圧15kV、照射電流0.01μA、ビーム径5μmの条件で行った。補正法はOxide ZAF法を用いた。

B．分析結果

試料に含まれる9粒子の火山ガラスの主成分化学組成分析結果を表2に示す。分析の対象となった10粒子は、その主成分分析結果から6粒子と3粒子に分けることができる。

（4）考察

試料が採取されたテフラ層については、火山ガラスの色調、形態、屈折率、6粒子の主成分化学組成分析、斜方輝石や単斜輝石が含まれていること、さらに斜方輝石の屈折率などから、従来東北地方においてデータが得られている後期旧石器時代以降の主要な火山ガラス質指標テフラの中では、約5,500年前*1に十和田火山から噴出した十和田中掫テフラ（To-Cu，大池ほか，1966，早川，1983，福田，1986，町田・新井，1992）の可能性がもっとも高い。

しかしながら、EPMA分析の対象となった9粒子のうち3粒子については、十和田a火山灰（To-a：915年，町田ほか，1981）など、他のテフラに由来すると考えられる。この理由については、層厚が薄いためにテフラ層が植物や動物による攪乱などをひどく受け、ほかのテフラに由来する粒子が混入した可能性などが考えられよう。より良い状況での分析を行うために、分析担当者による現地での土層観察や試料採取が期待される。

（5）まとめ

館遺跡において採取された試料について、屈折率測定とEPMAによる火山ガラスの主成分化学組成分析を行った。その結果、試料が採取されたテフラについては、十和田中掫テフラ（To-Cu，約5,500年前*1）の可能性が高いと考えられる。

*1　放射性炭素（^{14}C）年代.

文献

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究. 第四紀研究，11，p.254-269.
新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法－研究対象別分析法」 p.138-148.
福田友之（1986）考古学からみた「中掫軽石」の降下年代．弘前大学考古学研究，3，p.4-15.
早川由紀夫（1983）十和田火山中掫テフラ層の分布，粒度組成，年代．火山，第2集，28，p.263-273.
町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

表1　屈折率測定結果

試料	火山ガラス（n）	重鉱物	斜方輝石（γ）	角閃石（n2）
①	1.509-1.513	(opx,cpx)	1.706-1.708	-

屈折率の測定法は，温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）．opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石．重鉱物の()は，量が少ないことを示す．

表2　火山ガラスの主成分化学組成分析結果

試料	SiO2	TiO2	Al2O3	FeO	MnO	MgO	CaO	Na2O	K2O	P2O5	Total	n
①	75.54	0.45	13.43	2.28	0.08	0.60	2.61	3.70	1.23	0.07	100.00	6
	0.20	0.04	0.09	0.07	0.04	0.03	0.08	0.09	0.11	0.03		
	78.39	0.31	12.43	1.81	0.12	0.39	1.83	3.40	1.30	0.04	100.00	3
	0.45	0.05	0.14	0.05	0.05	0.05	0.10	0.30	0.04	0.04		
To-Cu	75.08	0.44	13.28	2.46	0.08	0.63	2.63	4.04	1.29	0.07	100.00	10
	0.33	0.05	0.12	0.13	0.03	0.05	0.07	0.24	0.06	0.05		
To-a	77.87	0.37	12.81	1.75	0.10	0.42	2.00	3.29	1.34	0.06	100.00	33
	0.18	0.05	0.13	0.10	0.08	0.03	0.08	0.18	0.09	0.04		
As-K	78.15	0.27	11.99	1.33	0.04	0.26	1.30	3.72	2.89	0.05	100.00	10
	0.23	0.04	0.14	0.08	0.05	0.01	0.05	0.23	0.14	0.02		
AT	78.18	0.12	12.26	1.22	0.02	0.11	1.10	3.37	3.57	0.04	99.99	10
	0.36	0.03	0.10	0.09	0.04	0.02	0.05	0.47	0.22	0.03		

山形大学理学部のWDS型EPMAによる．分析値は，無水状態に再計算されている．n：分析ポイント数．上段が平均値，下段は標準偏差．To-Cu, As-KおよびATのデータは，山形県白鷹山における分析値．To-aのデータは、岩手県北上市における分析値（以上，八木浩司山形大学助教授の未公表資料）．

2．放射性炭素年代測定

岩手県、館遺跡の放射性炭素年代測定

株式会社 古環境研究所

1．試料と方法

No.	試料	種類	前処理・調整	測定法
1	SI35炉埋設土器	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄・石墨調整	加速器質量分析（AMS）法

2．測定結果

試料	^{14}C年代（年BP）	δ^{13}C（‰）	補正^{14}C年代（年BP）	暦年代（西暦）	測定No.（Beta-）
No.1	4360±40	-26.2	4340±40	交点：BC 2920 1σ：BC 3000 ～ 2980, BC 2940 ～ 2900 2σ：BC 3030 ～ 2890	177257

1）^{14}C年代測定値

試料の^{14}C/^{12}C比から、単純に現在（1950年AD）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は、国際慣例に従って5,568年を用いた。

2）δ^{13}C測定値

試料の測定^{14}C/１２C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C/^{12}C）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3）補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C/^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を補正することにより算出した年代（西暦）。補正には、年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベース（"INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3)）により、約19,000年BPまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年BP以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

暦年代の交点とは、補正^{14}C年代値と暦年代較正曲線との交点の暦年代値を意味する。1σ（68%確率）・2σ（95%確率）は、補正^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

写　真　図　版

調査区遠景（北東から俯瞰）

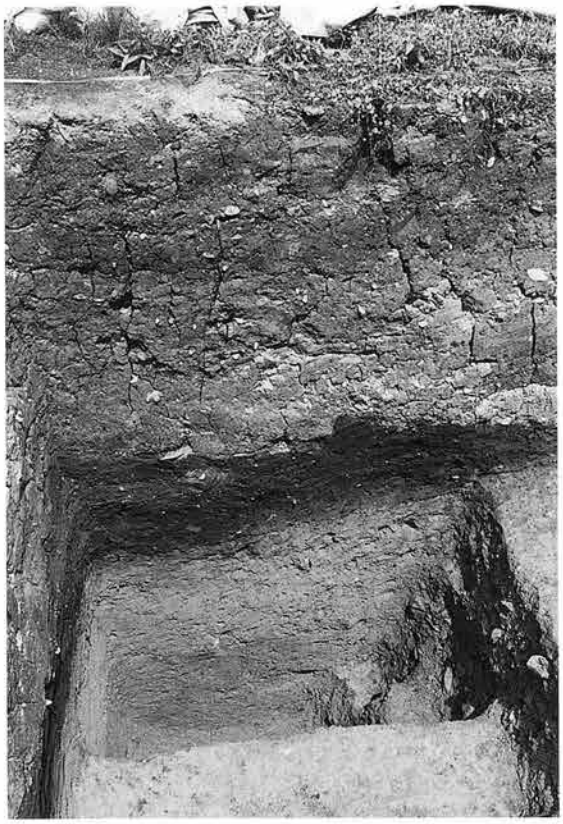
調査区近景（直上）

写真図版1　調査区全景航空写真（H13年度）

調査区遠景（東から俯瞰）

調査区近景（直上）

写真図版2　調査区全景航空写真（H14年度）



基本土層①

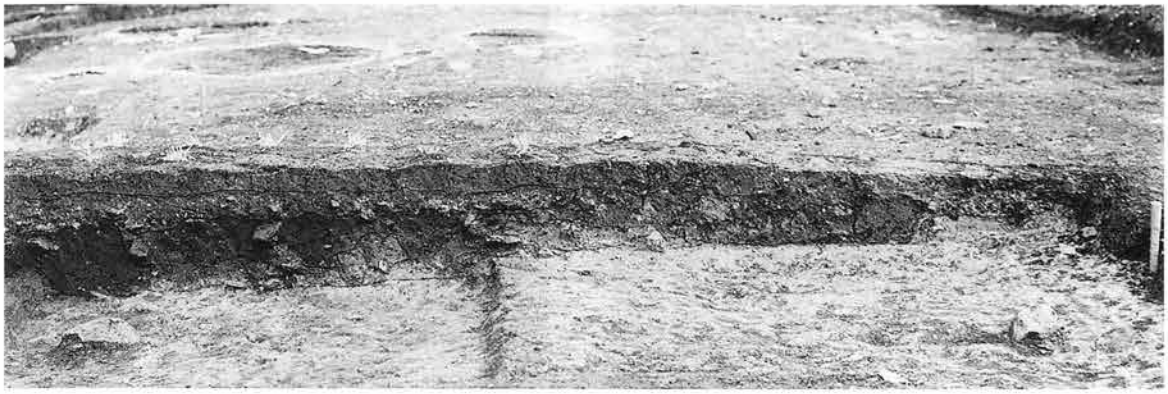
基本土層②

基本土層③

基本土層④

写真図版3　基本層序（1）

メインベルト②－1



メインベルト②－2

メインベルト②－3

メインベルト②－4

写真図版4　基本層序（2）

メインベルト③－1

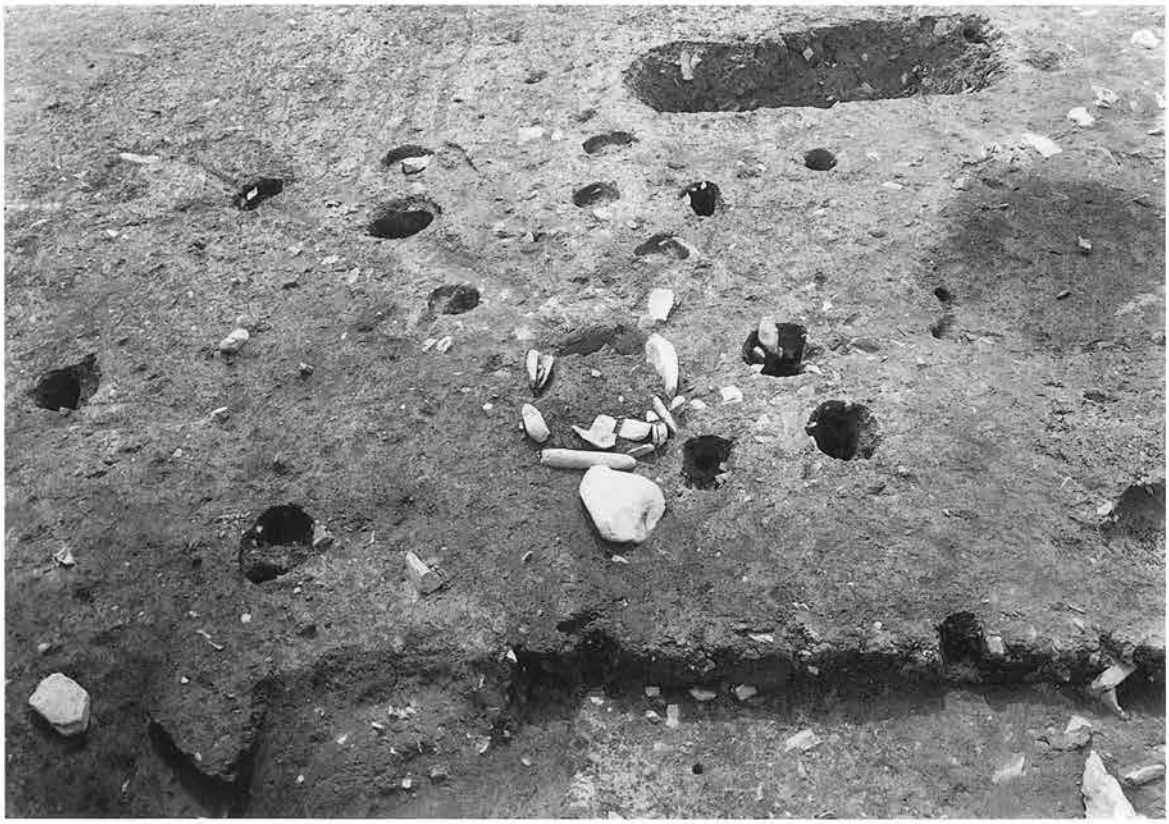
メインベルト③－2

メインベルト③－3

調査区遠景

調査前風景

写真図版5　基本層序（3）



SI01 平面

SI01 断面

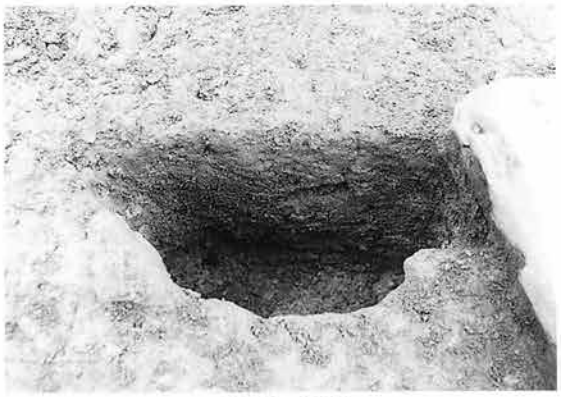
SI01 炉　平面

SI01 炉　断面

写真図版6　SI01 竪穴住居跡

SI02 平面

SI02 P1 平面



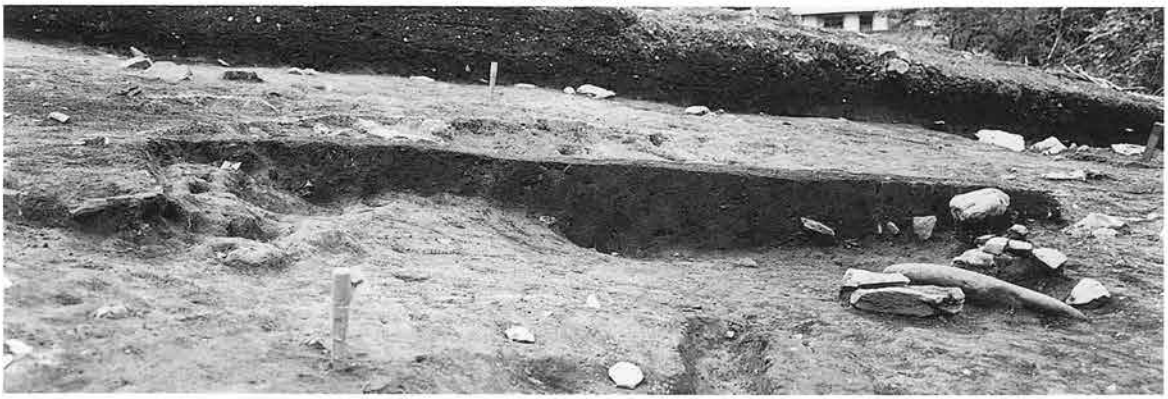
SI02 P1 断面

SI02 炉　平面

SI02 炉　断面

写真図版7　SI02 竪穴住居跡

SI03 平面

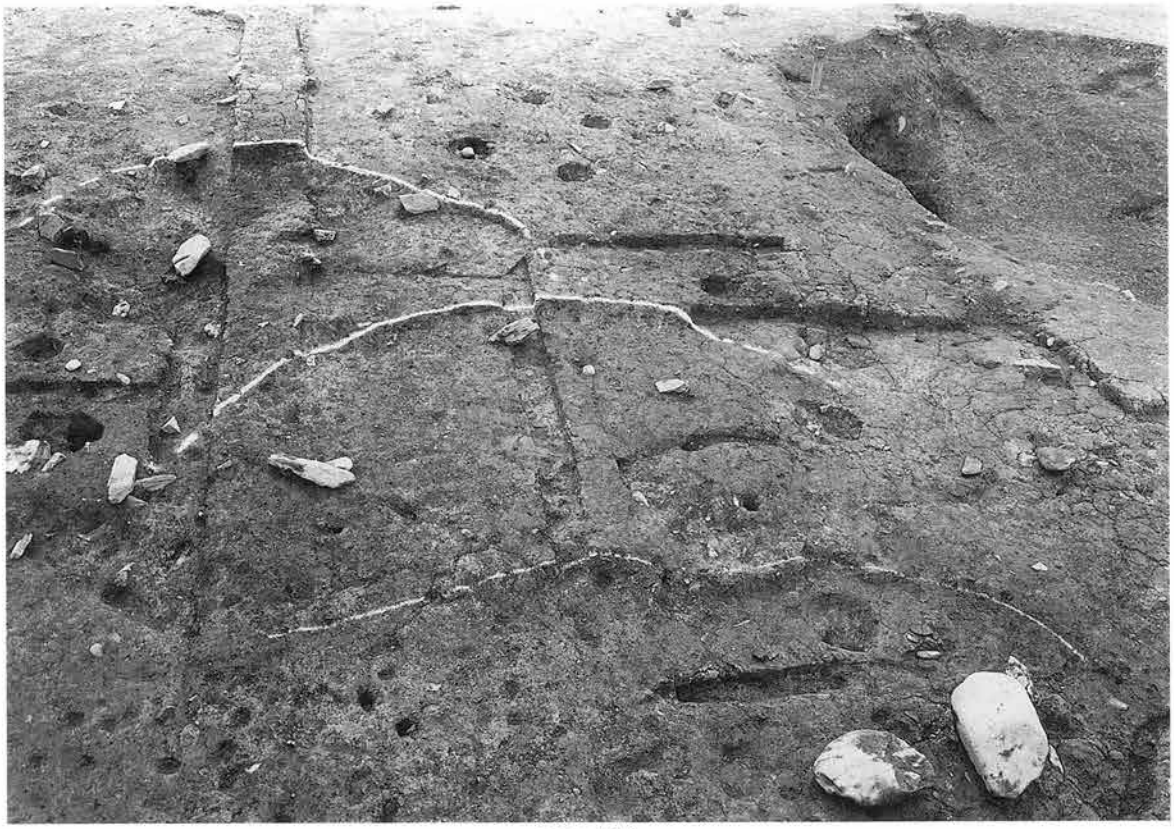


SI03 断面

SI03炉 断面

SI03炉 断面

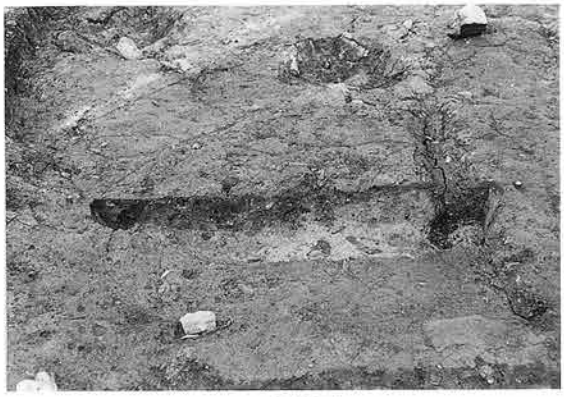
写真図版8　SI03 竪穴住居跡



SI04 平面

SI04 断面

SI04炉 平面



SI04炉 断面

写真図版9　SI04 竪穴住居跡

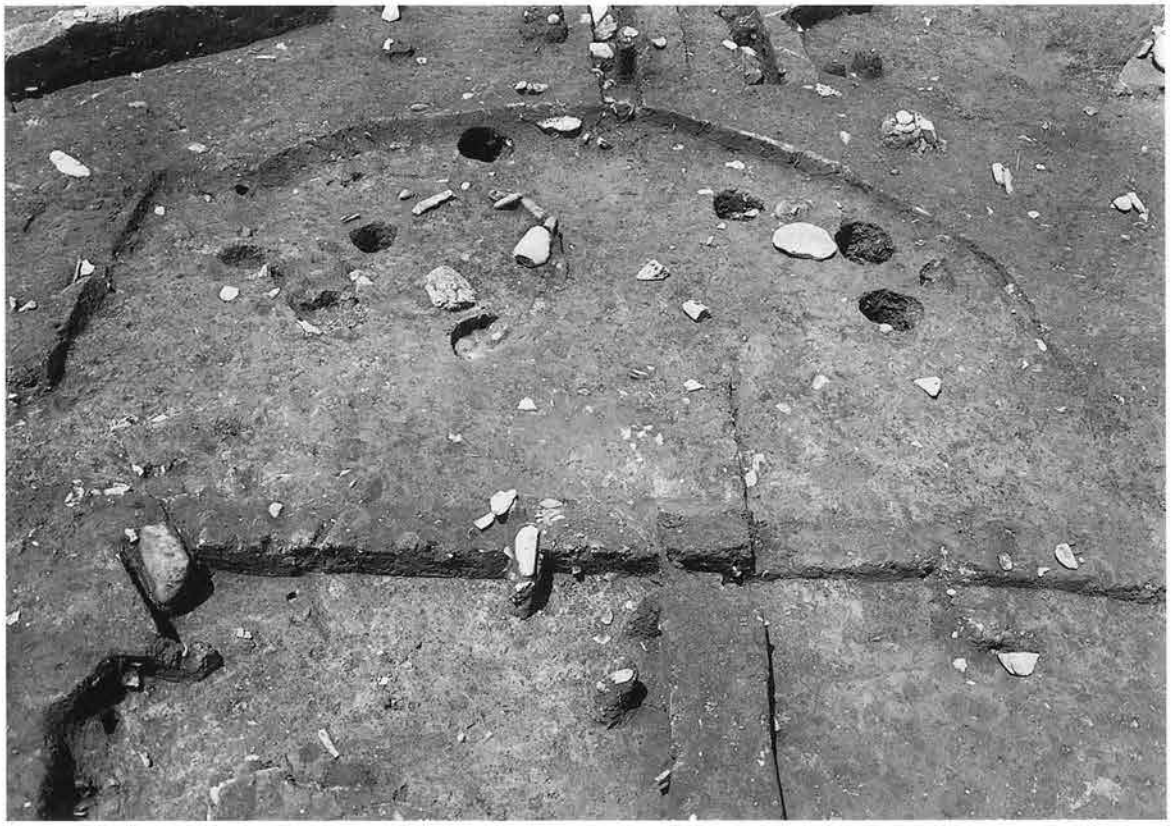
SI05 平面

SI05 断面

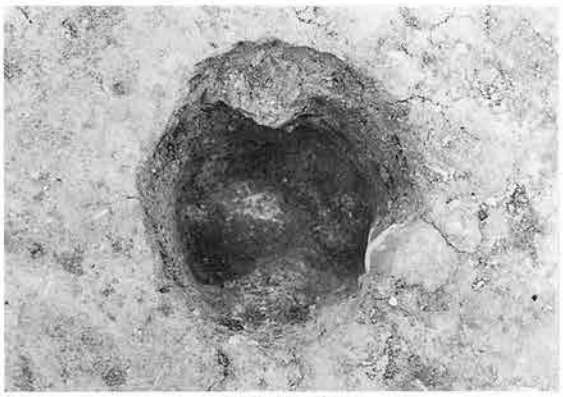
SI05炉 平面

SI05炉 断面

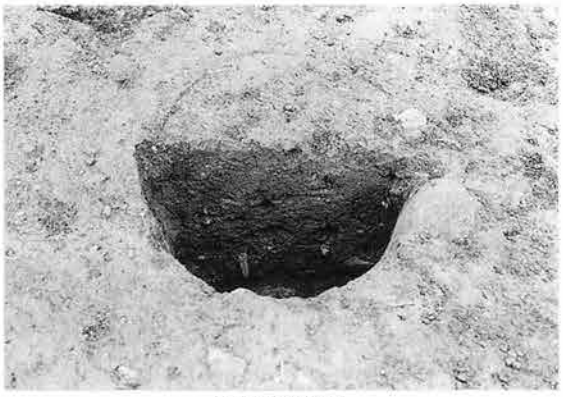
写真図版10　SI05 竪穴住居跡



SI06 平面



SI06 P1 平面



SI06 P1 断面

SI06炉 平面

現地説明会風景

写真図版11　SI06 竪穴住居跡

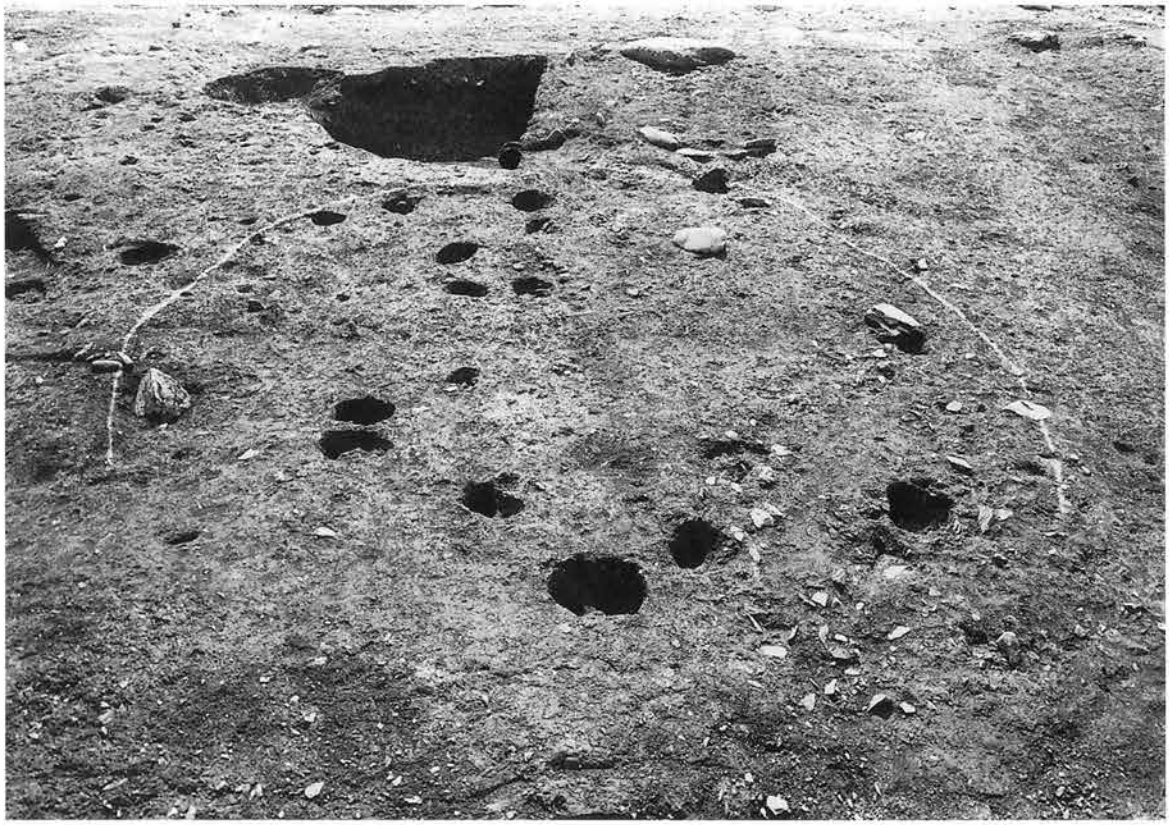
SI07 平面

SI07 断面

SI07炉 平面

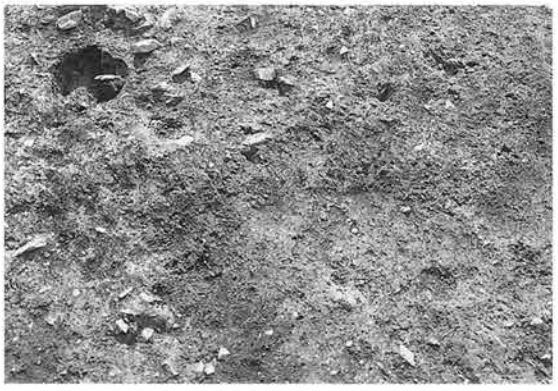
SI07炉 断面

写真図版12　SI07　竪穴住居跡

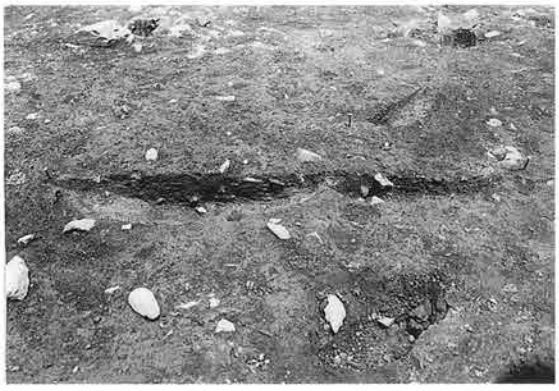


SI08 平面

SI08 断面



SI08炉 平面



SI08炉 断面

写真図版13　SI08　竪穴住居跡

SI09 平面

SI09 断面

SI09炉 平面

SI09炉 断面

写真図版14　SI09 竪穴住居跡

SI10 平面

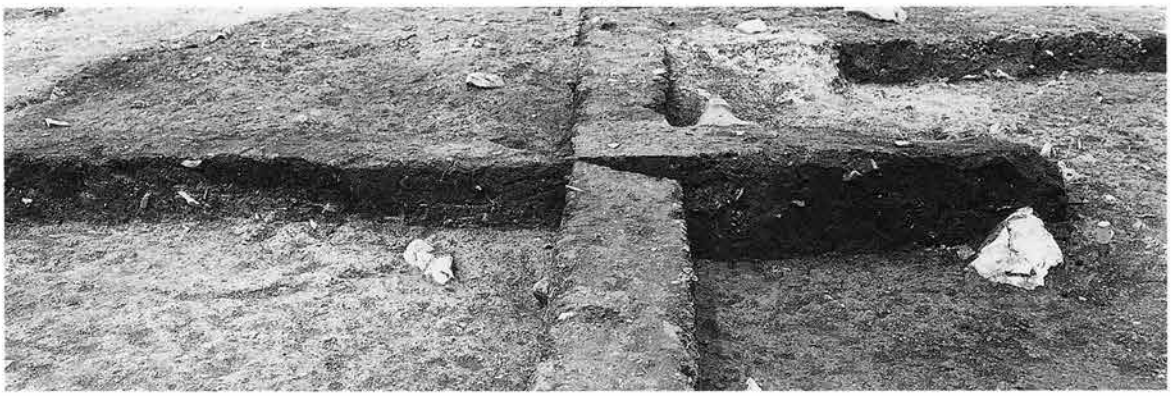
SI10 断面

SI10炉 平面

SI10炉 断面

写真図版15　SI10 竪穴住居跡

SI11 平面



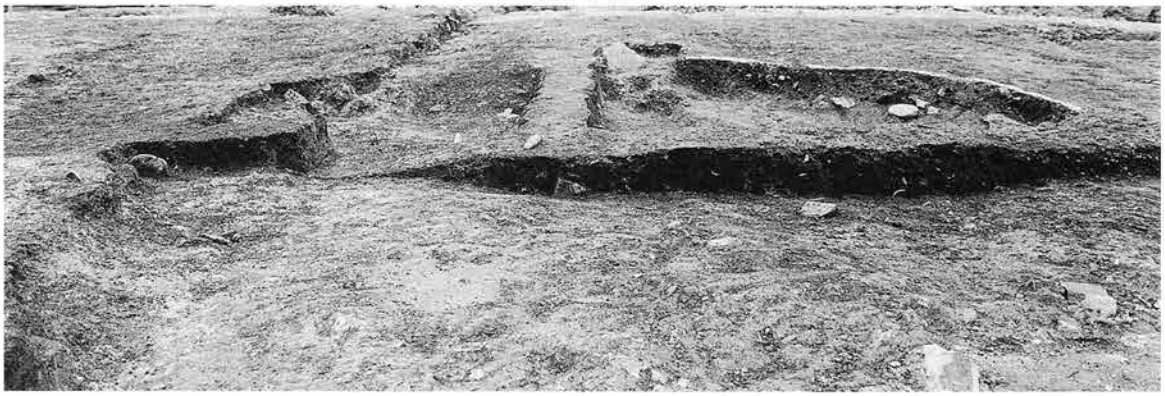
SI11 断面

SI11炉 平面

SI11炉 断面

写真図版16　SI11　竪穴住居跡

SI12 平面

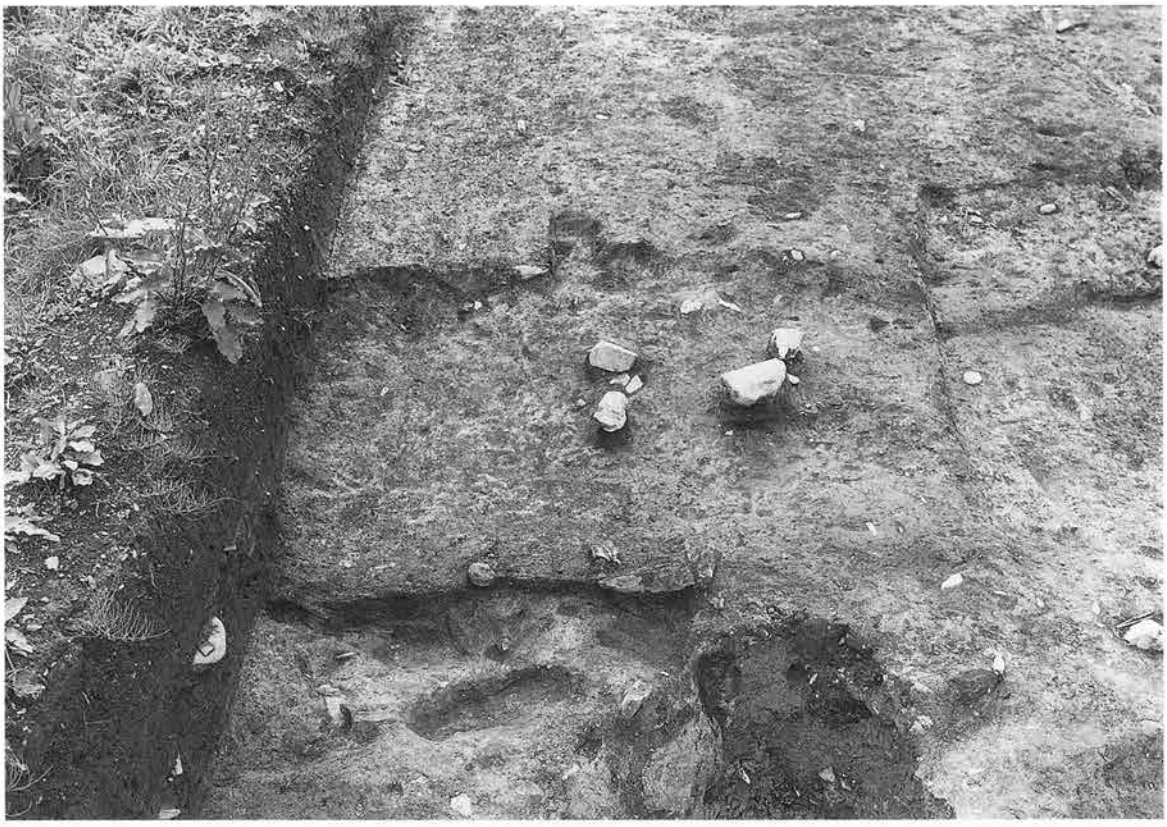


SI12 断面

SI12炉 平面

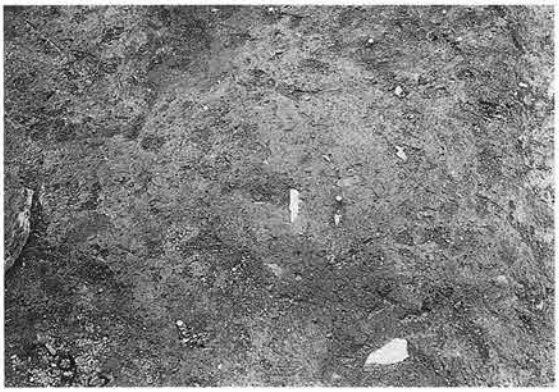
SI12炉 断面

写真図版17　SI12　竪穴住居跡



SI13 平面

SI13 断面



SI13炉 平面

SI13炉 断面

写真図版18　SI13 竪穴住居跡

SI14 平面

SI14 断面

SI14炉 平面

SI14 遺物出土状況

写真図版19　SI14　竪穴住居跡

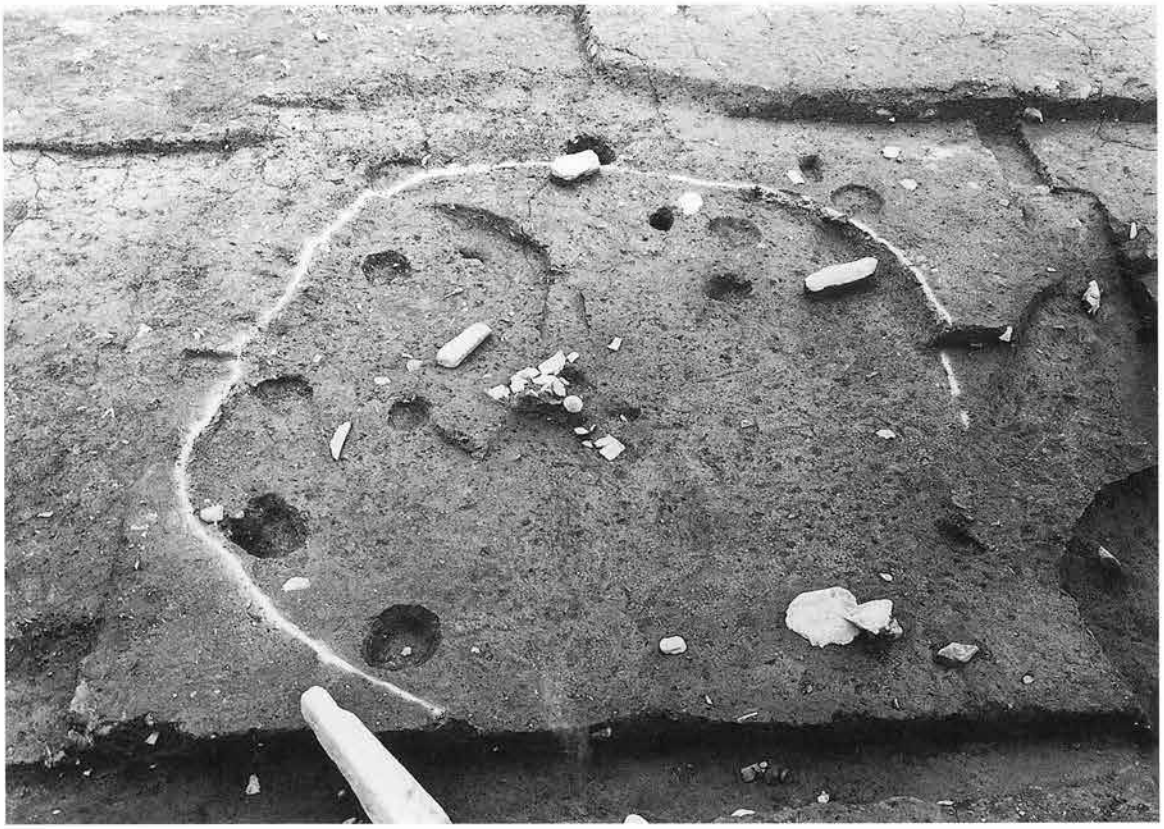
SI15 平面

作業風景

作業風景

作業風景

写真図版20　SI15　竪穴住居跡



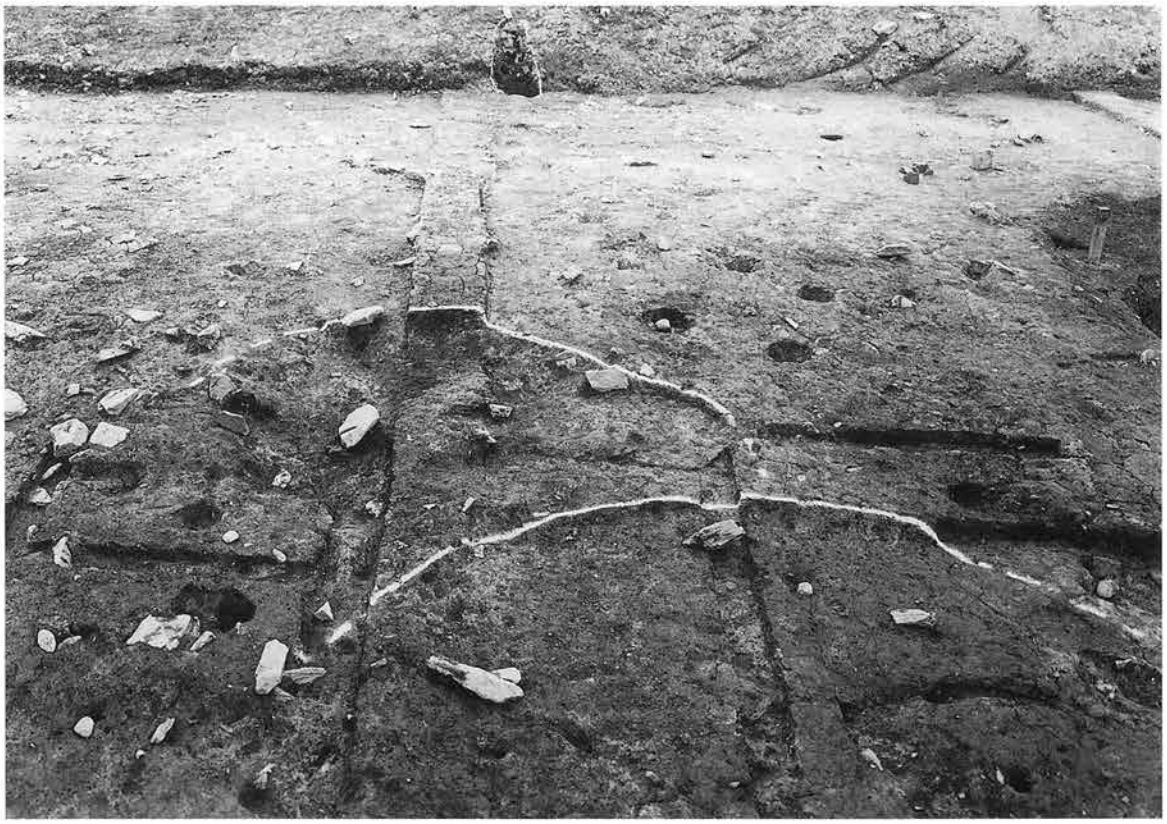
SI16 平面

SI16 断面

SI16炉 平面

SI16 遺物出土状況

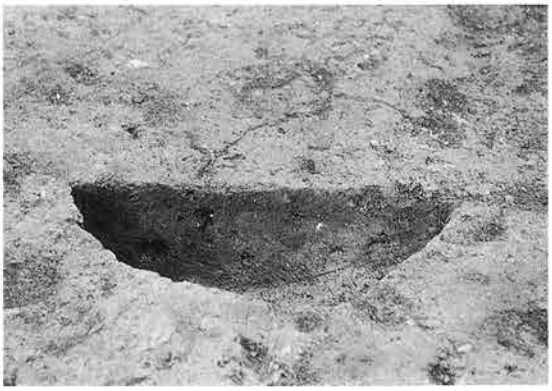
写真図版21　SI16　竪穴住居跡



SI17 平面

SI17 断面

SI17炉 平面

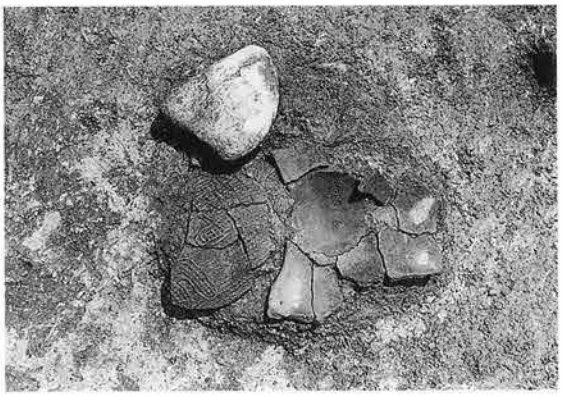


SI17炉 断面

写真図版22　SI17　竪穴住居跡

SI18 平面

SI18 断面



SI18 遺物出土状況

SI18 遺物出土状況

写真図版23　SI18　竪穴住居跡

SI19 平面

SI19 断面

SI19炉 平面

SI19炉 断面

写真図版24　SI19 竪穴住居跡

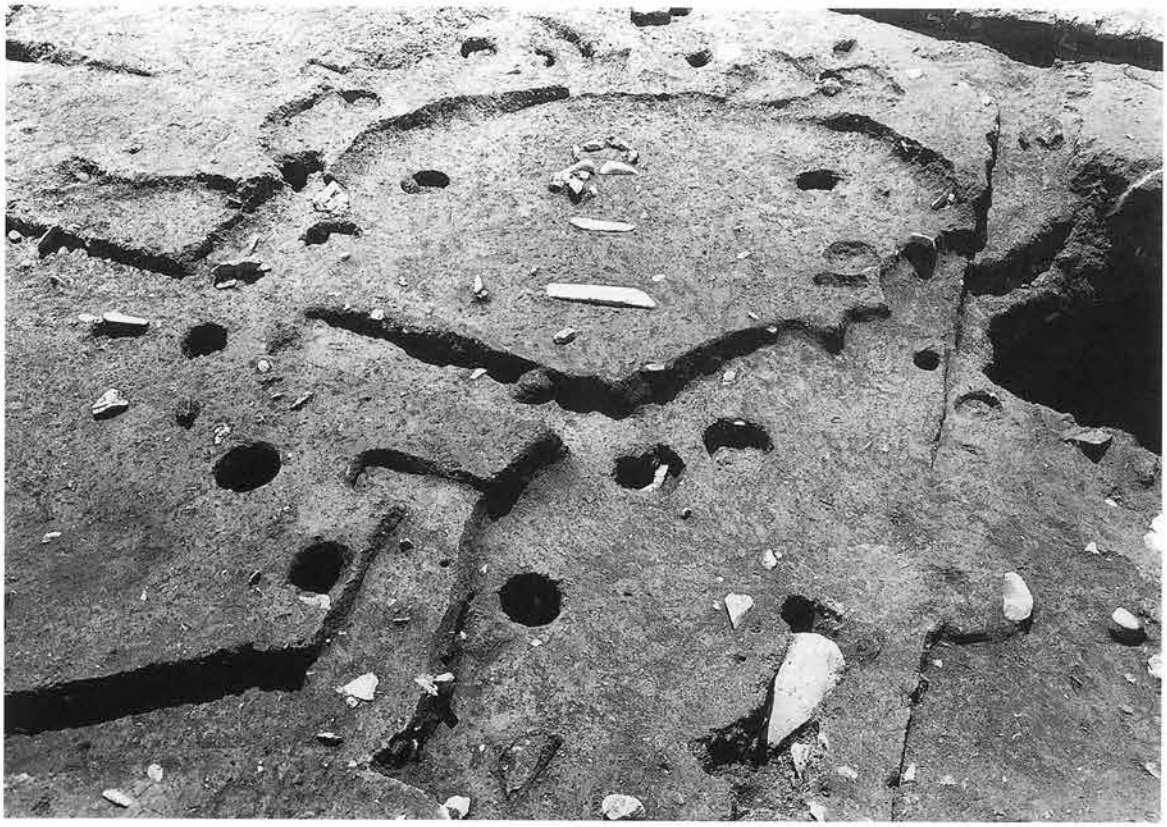
SI20 平面

SI20 断面

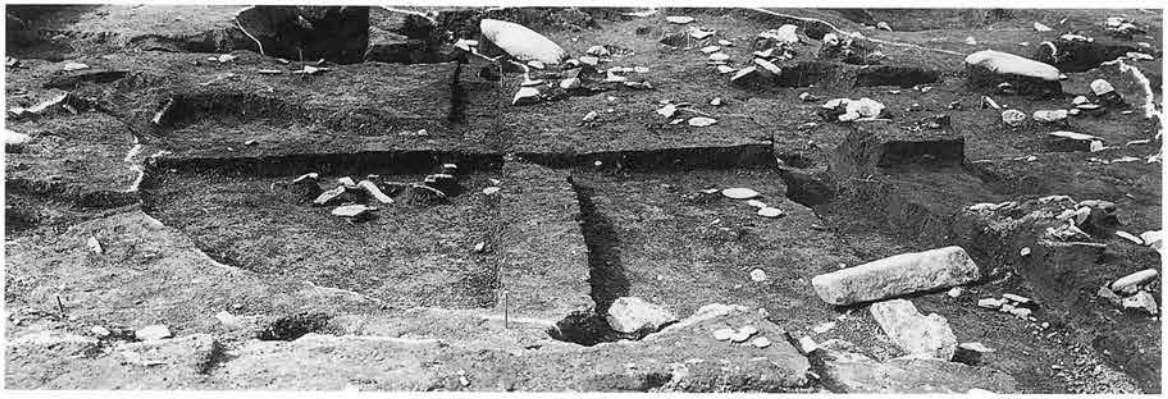
SI20炉 平面

SI20炉 断面

写真図版25　SI20　竪穴住居跡

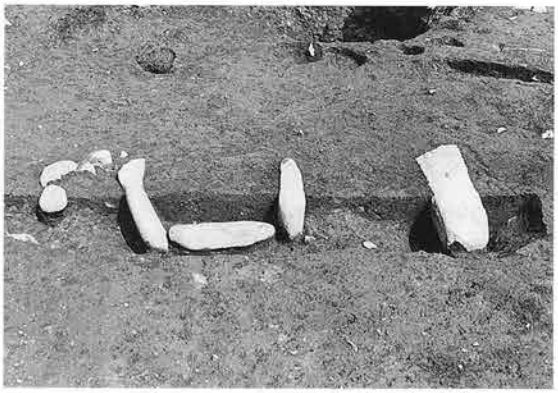


SI21 平面



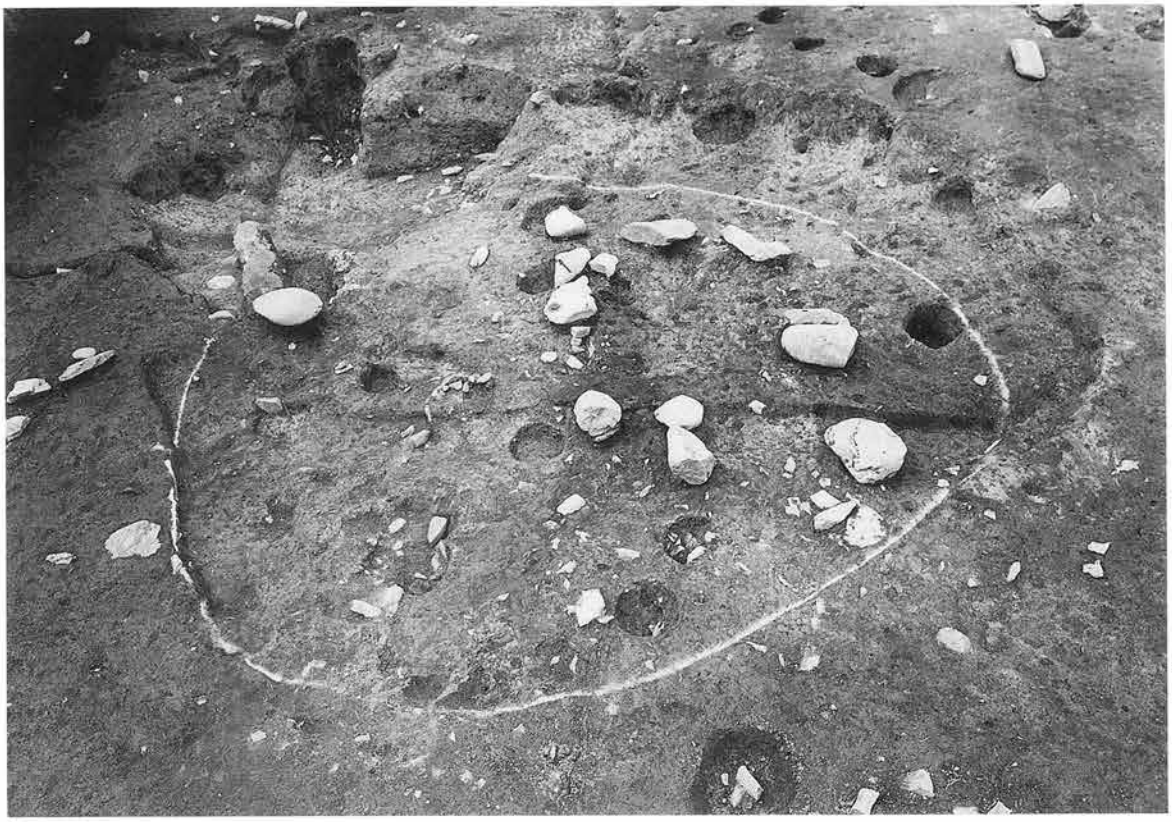
SI21 断面

SI21炉 平面

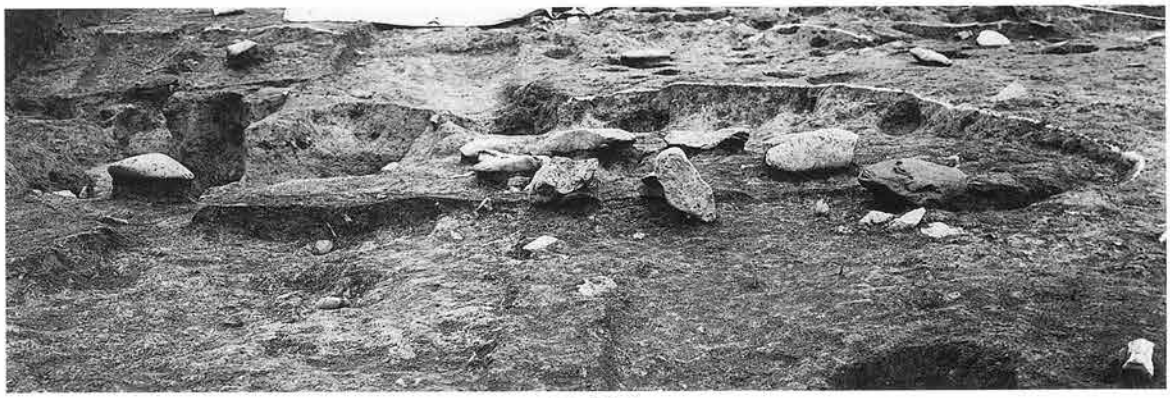


SI21炉 断面

写真図版26　SI21　竪穴住居跡



SI22 平面



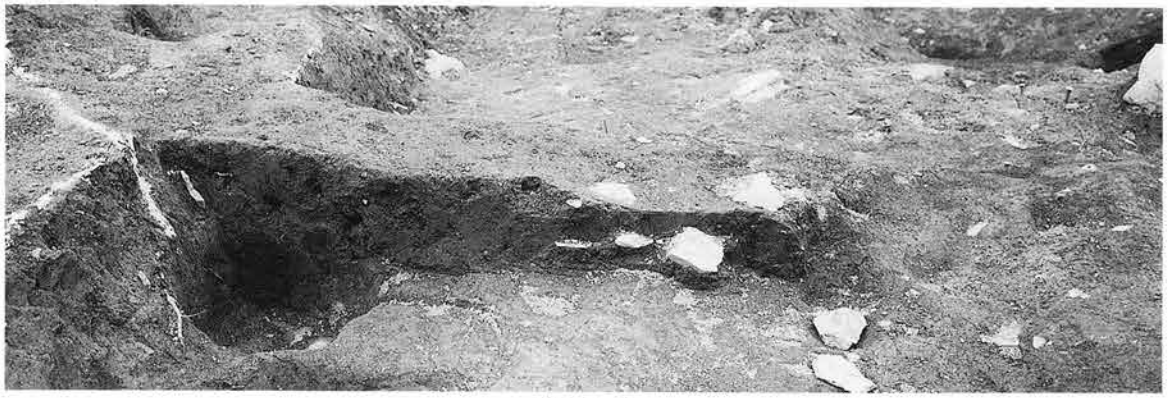
SI22 断面

SI22炉 平面

SI22炉 断面

写真図版27　SI22　竪穴住居跡

SI23 平面



SI23 断面

SI23 断面

写真図版28　SI23　竪穴住居跡

SI24 平面

SI24 断面

SI24 断面

写真図版29　SI24　竪穴住居跡

SI25 平面

SI25 断面

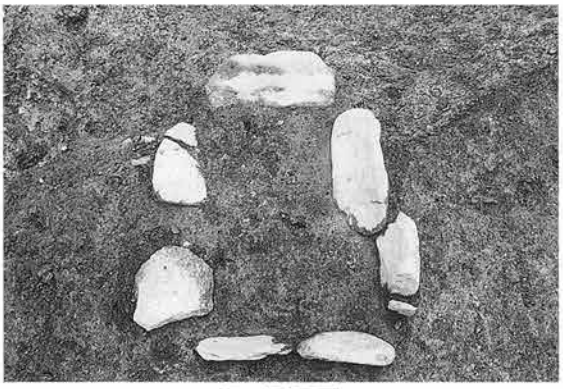
SI25炉 平面

SI25 遺物出土状況

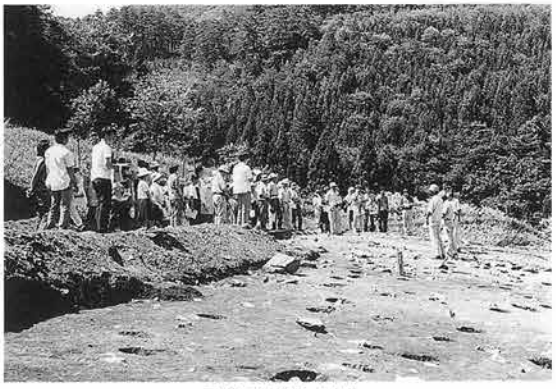
写真図版30　SI25　竪穴住居跡

SI26 平面

SI26 断面



SI26炉 平面



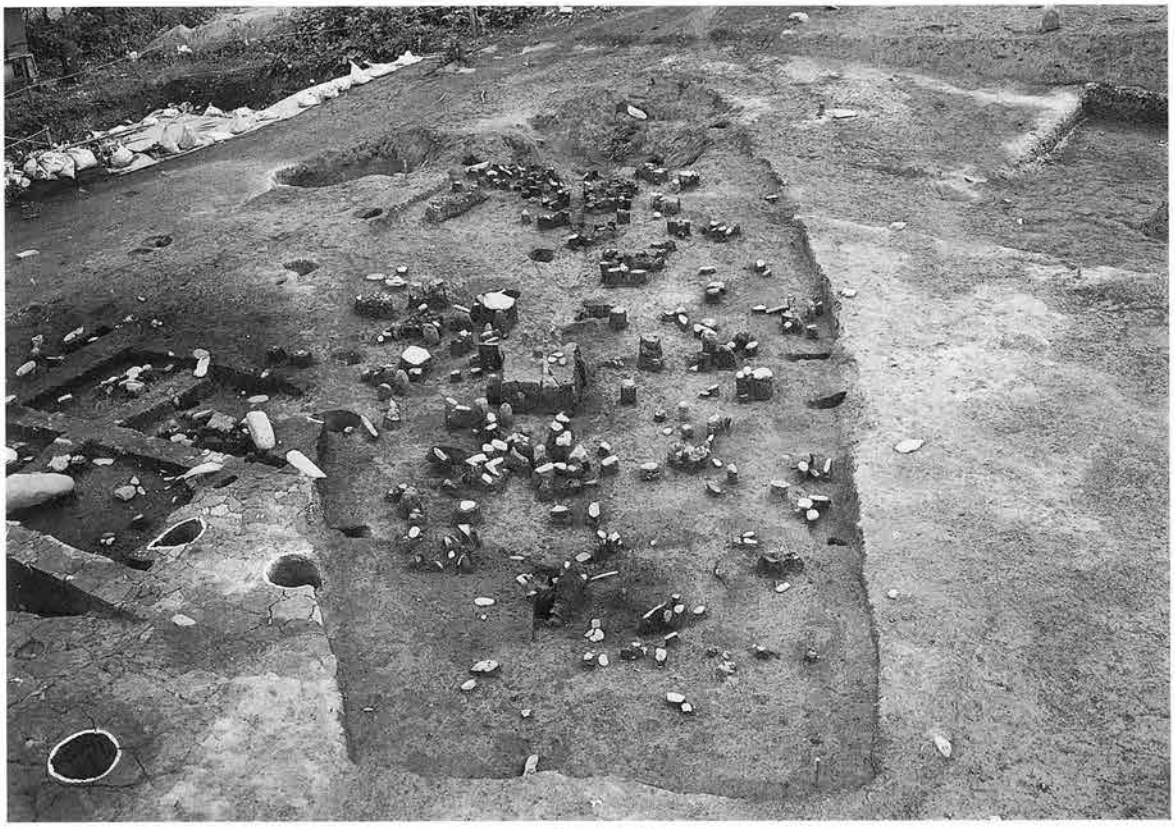
現地説明会風景

写真図版31　SI26　竪穴住居跡

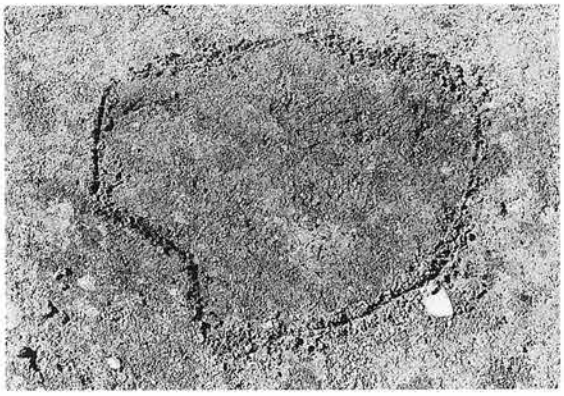
SI27 平面

SI27 断面

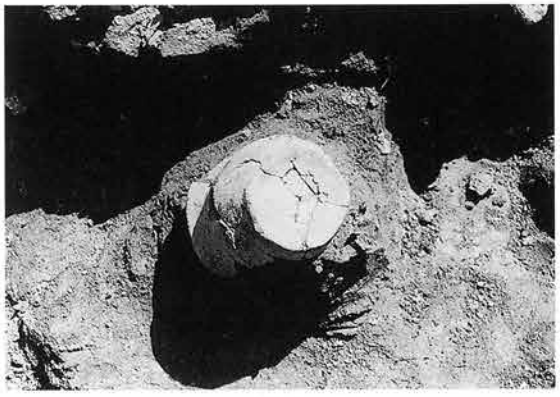
写真図版32　SI27　竪穴住居跡（1）



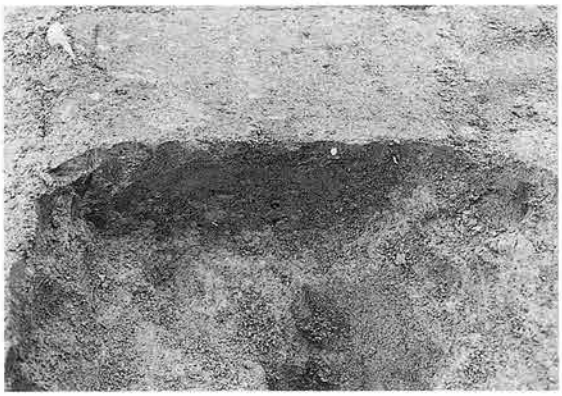
SI27 遺物出土状況



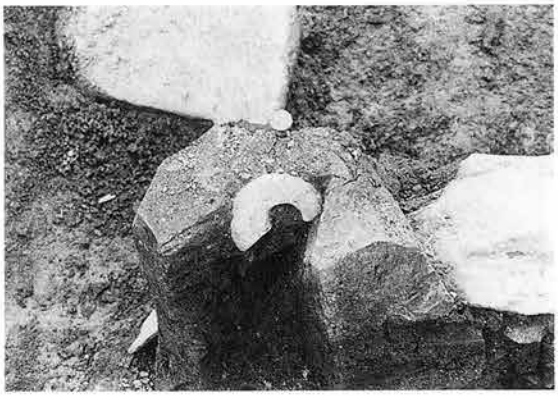
SI27炉 平面



SI27 遺物出土状況



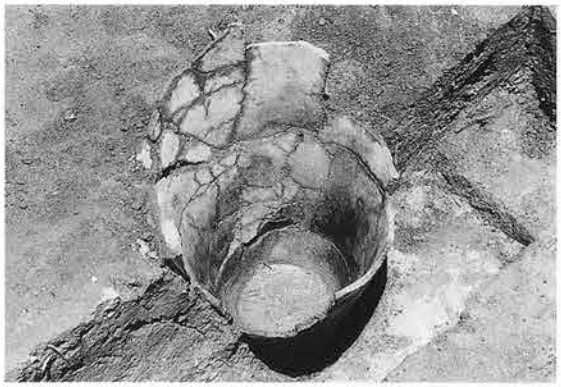
SI27周溝 断面



SI27 遺物出土状況

写真図版33　SI27　竪穴住居跡（2）

SI28 平面



SI28 埋設土器 平面

SI28 埋設土器 断面

SI28炉 断面

作業風景

写真図版34　SI28　竪穴住居跡

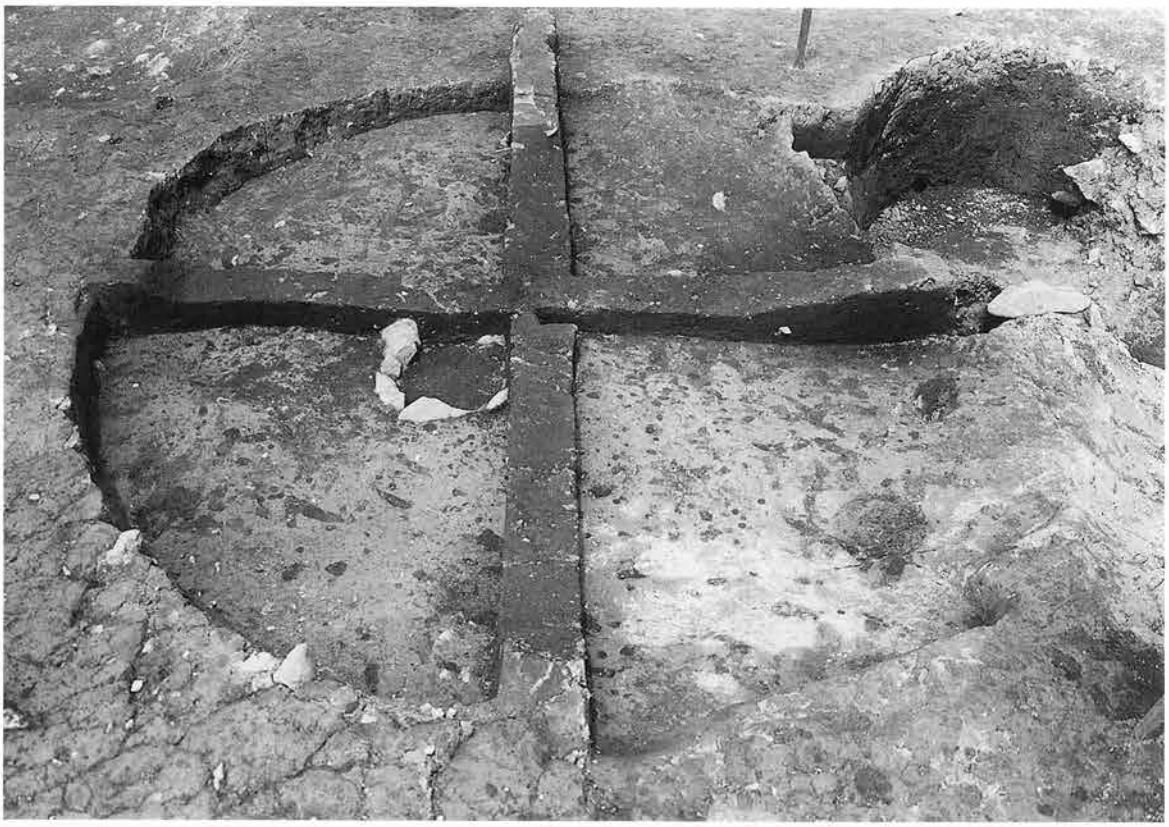
SI29 平面

SI29 断面

SI29炉 平面

復元された住居

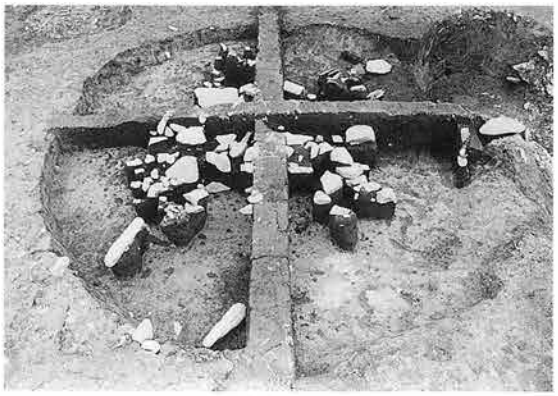
写真図版35　SI29　竪穴住居跡



SI30 平面

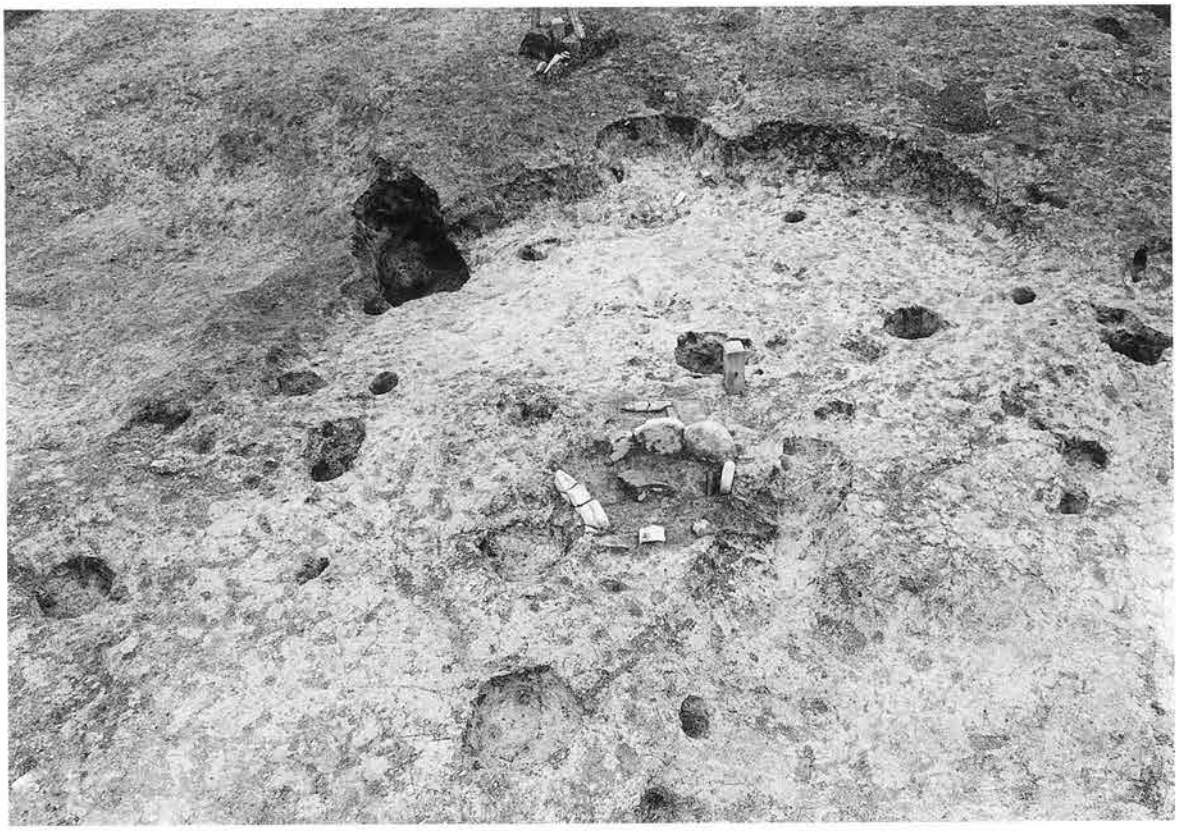
SI30 断面

SI30炉 平面



SI30 遺物出土状況

写真図版36　SI30　竪穴住居跡



SI31 平面

SI31 断面

SI31炉 平面

SI31 遺物出土状況

写真図版37　SI31　竪穴住居跡

SI32 平面

SI32炉 平面

SI32炉 断面

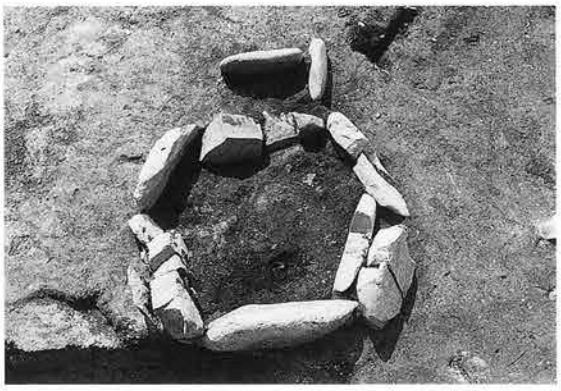
調査終了風景（調査区南端）

調査終了風景（調査区南端）

写真図版38　SI32 竪穴住居跡

SI33 平面

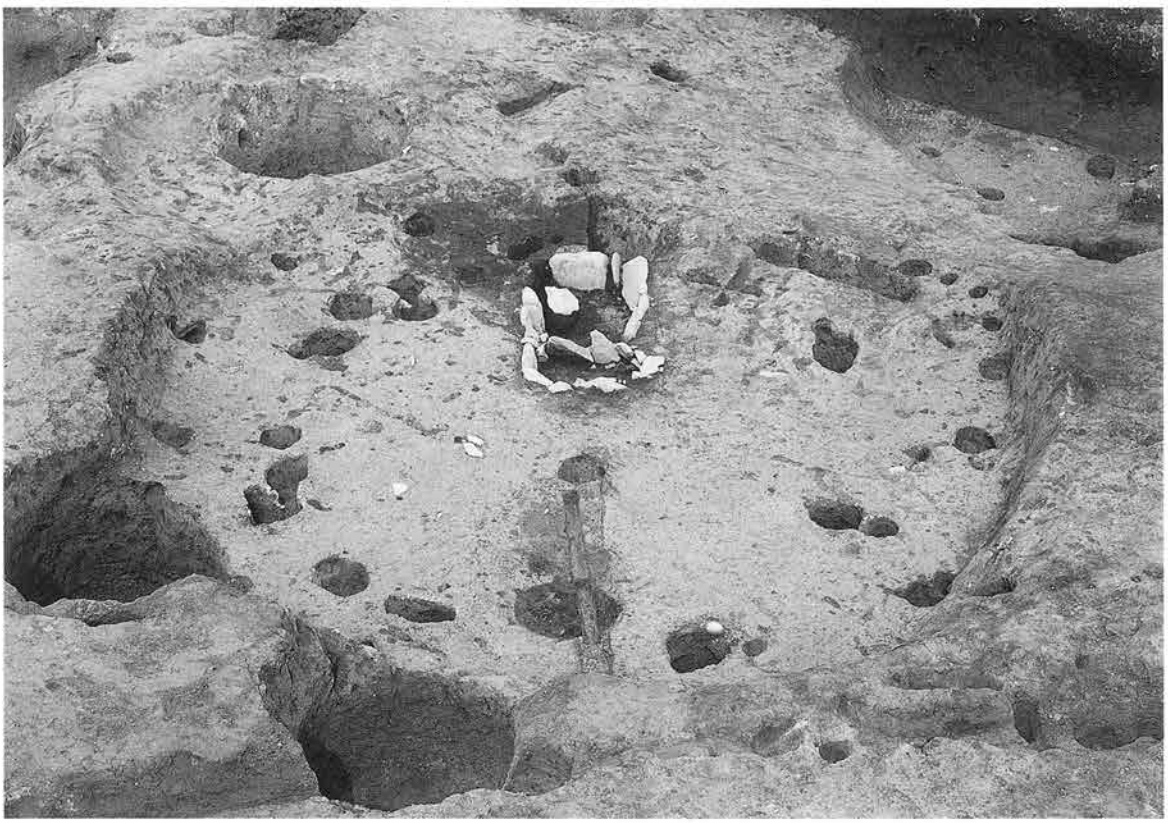
SI33 断面



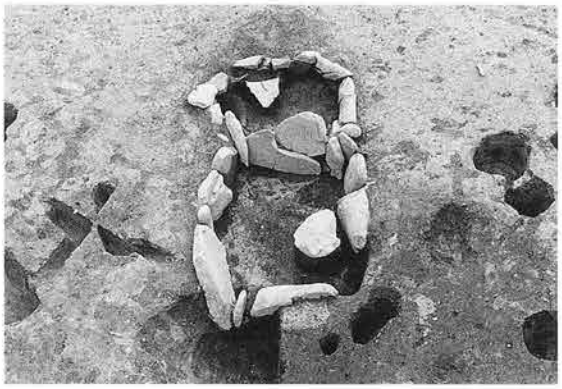
SI33炉 平面

SI33 遺物出土状況

写真図版39　SI33 竪穴住居跡



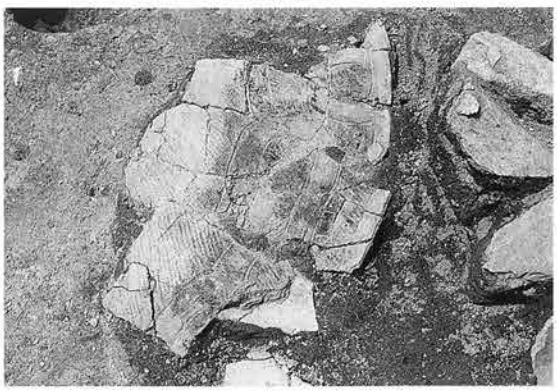
SI34・SI35 平面



SI35炉 平面

SI35炉 断面

SI34炉 平面



SI35 遺物出土状況

写真図版40　SI34・35 竪穴住居跡

SI36・SI37 平面

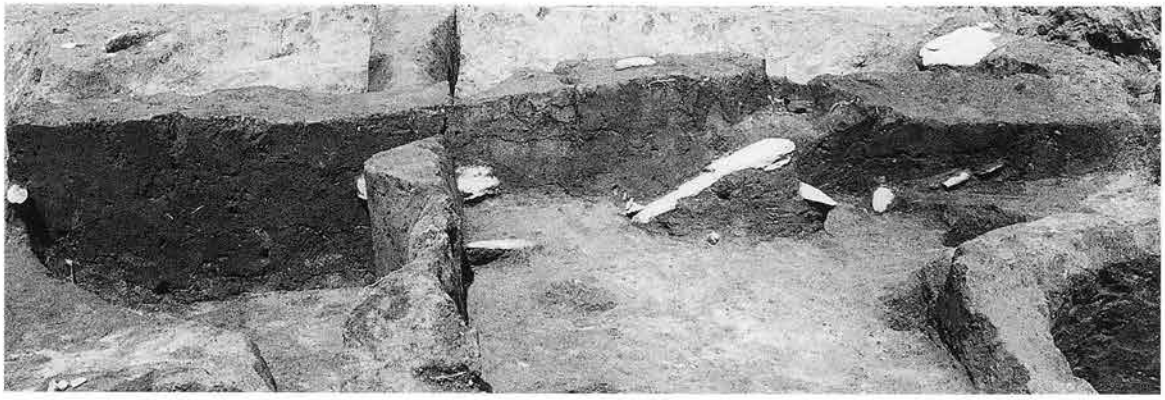
SI36・SI37 断面

SI36炉 平面

SI37炉 平面

写真図版41　SI36・37 竪穴住居跡

SI38 平面



SI38 断面

SI38炉 平面

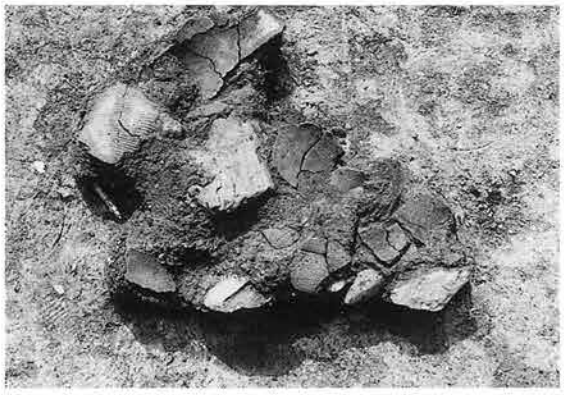
SI38炉 断面

写真図版42　SI38 竪穴住居跡

SI39 平面

SI39 断面

SI39炉 平面



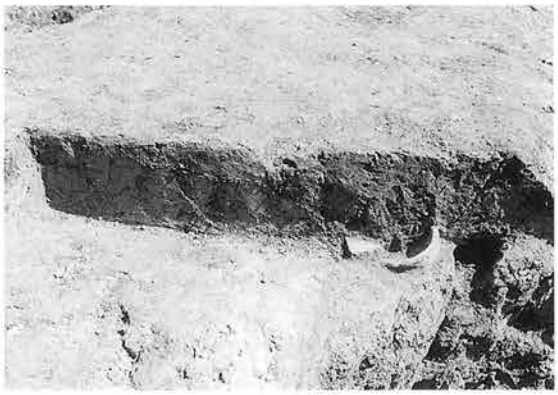
SI39 遺物出土状況

写真図版43　SI39 竪穴住居跡

SI40・41 平面

SI40・41 断面

SI40炉 断面



SI41炉 断面

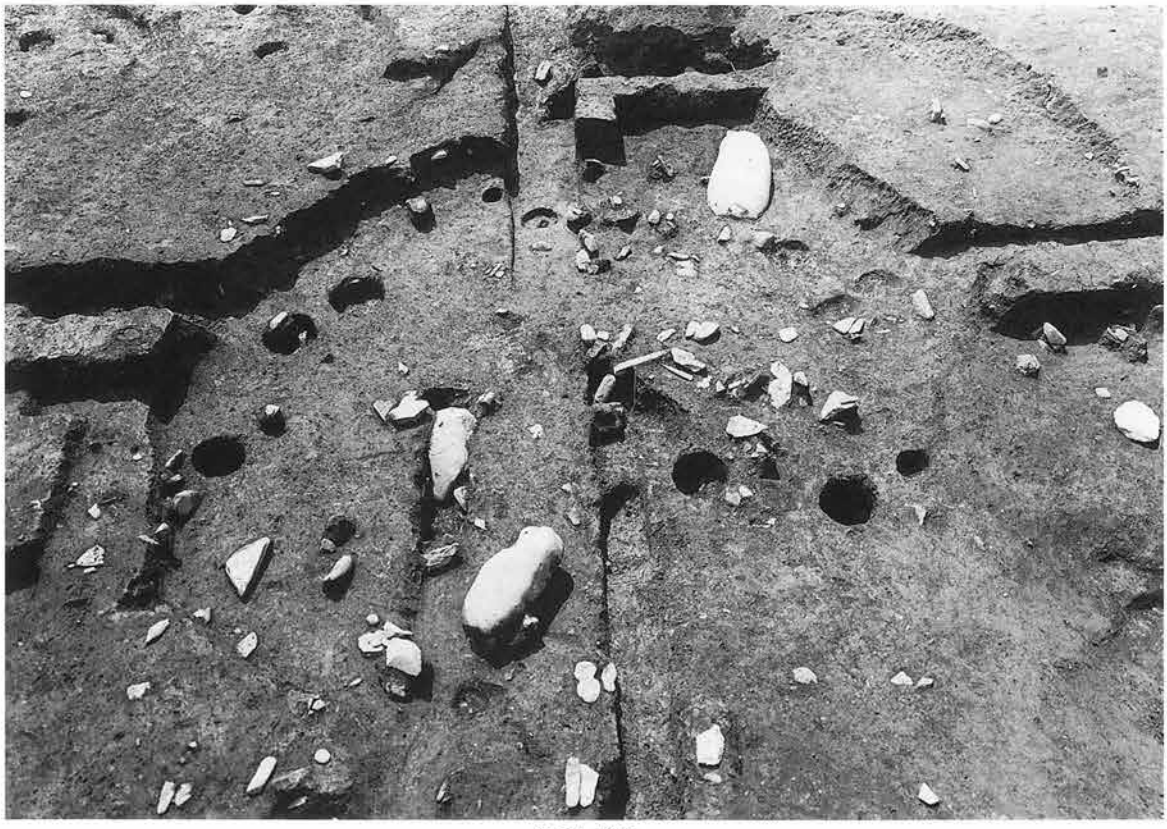
写真図版44　SI40・41 竪穴住居跡

SX01 平面

SX02 平面

写真図版45　SX01・02 竪穴住居状遺構

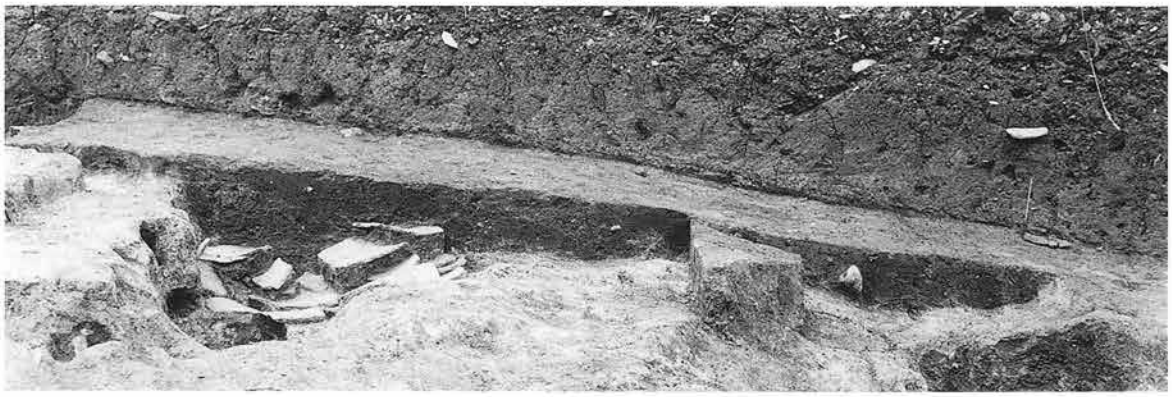
SX03 平面



SX04 平面

写真図版46　SX03・04 竪穴住居状遺構

SX05 平面



SX05 断面

SX05 遺物出土状況

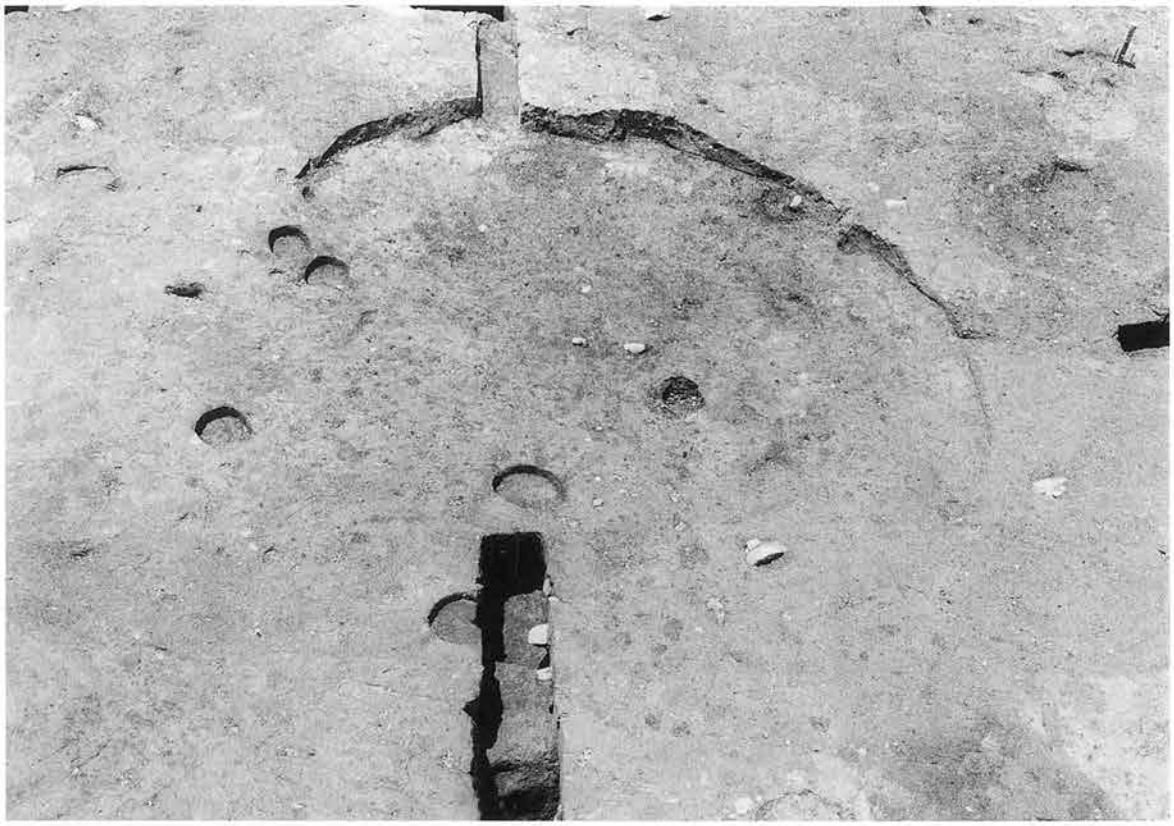
現地説明会風景

写真図版47　SX05 竪穴住居状遺構

SX07 平面

SX08 平面

写真図版48　SX07・08 竪穴住居状遺構



SX09 平面

SX09 断面

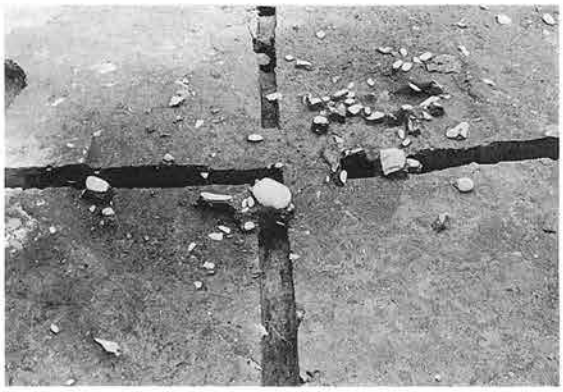
SX09 遺物出土状況

SX09 遺物出土状況

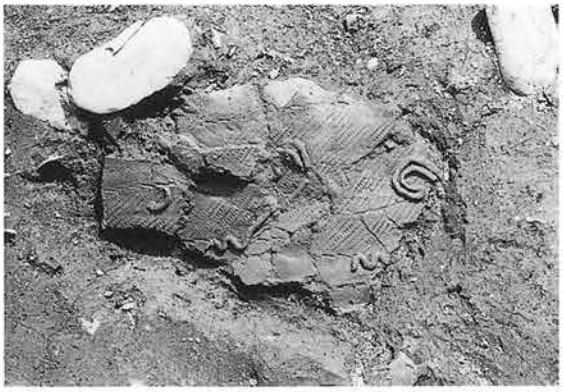
写真図版49　SX09 竪穴住居状遺構

SX10 平面

SX10 断面



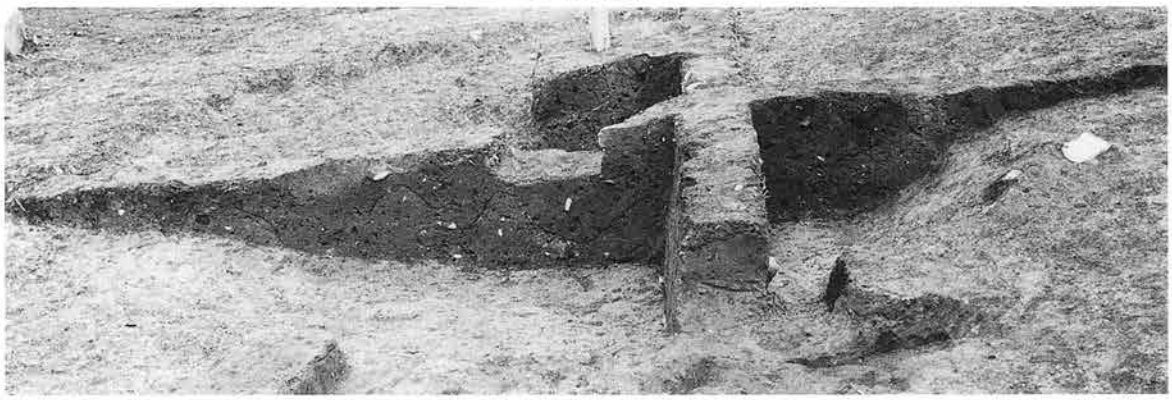
SX10 遺物出土状況



SX10 遺物出土状況

写真図版50　SX10 竪穴住居状遺構

SX11 平面



SX11 断面

現地説明会風景

調査区遠景（調査区北側）

写真図版51　SX11 竪穴住居状遺構

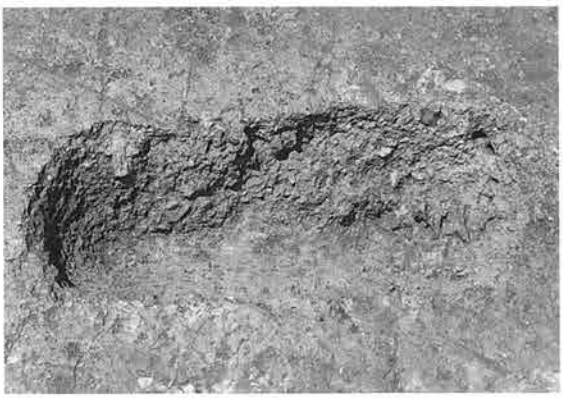
SX12 平面

SX12 断面

作業風景

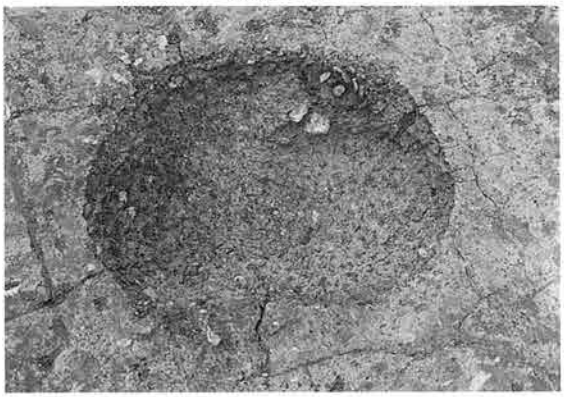
作業風景

写真図版52　SX12 竪穴住居状遺構



SK01 平面

SK01 断面



SK02 平面

SK02 断面

SK03 平面

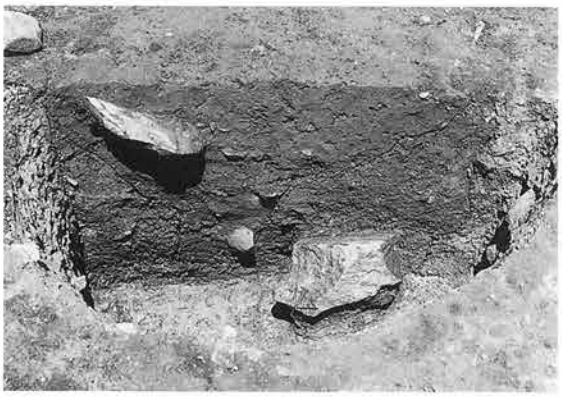
SK03 断面

SK04 平面

SK04 断面

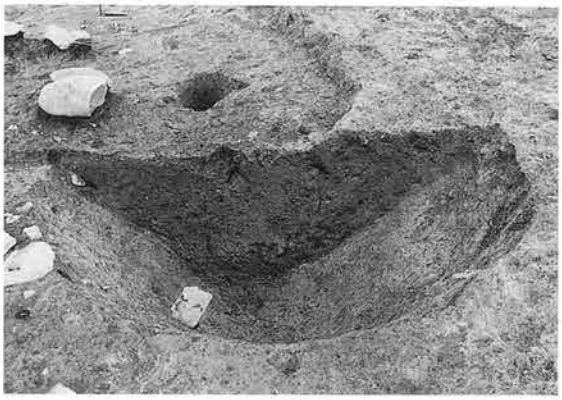
写真図版53　SK01～04 土坑

現地説明会風景

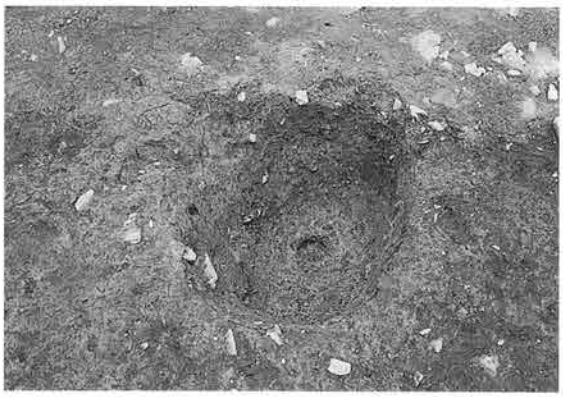


SK05 断面

SK06 平面



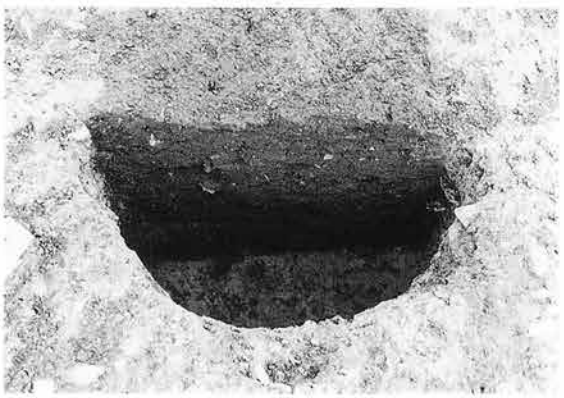
SK06 断面



SK07 平面

SK07 断面

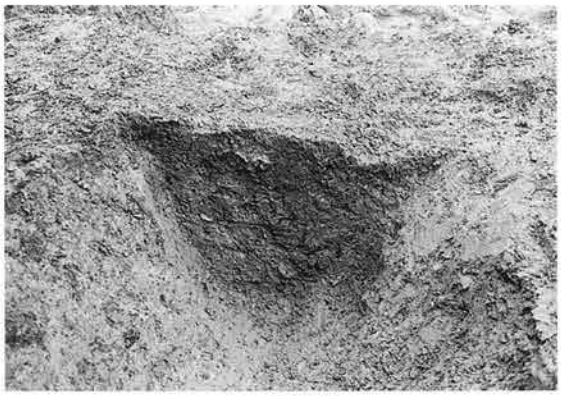
SK08 平面



SK08 断面

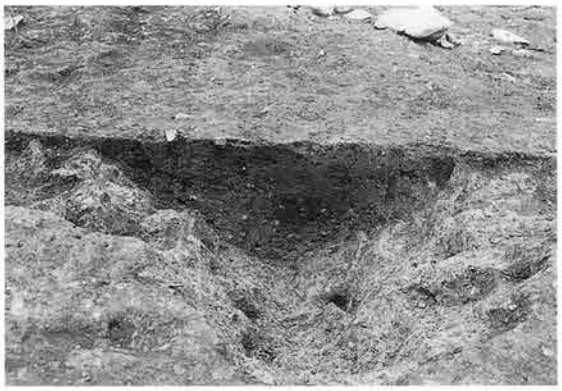
写真図版54　SK05～08 土坑

SK09 平面



SK09 断面

SK10 平面



SK10 断面

SK11 平面

SK11 断面

SK12 平面

SK12 断面

写真図版55　SK09～12 土坑

SK13 平面

SK13 断面

SK14 平面

SK14 断面

SK15 平面

SK15 断面

SK16 平面

SK16 断面

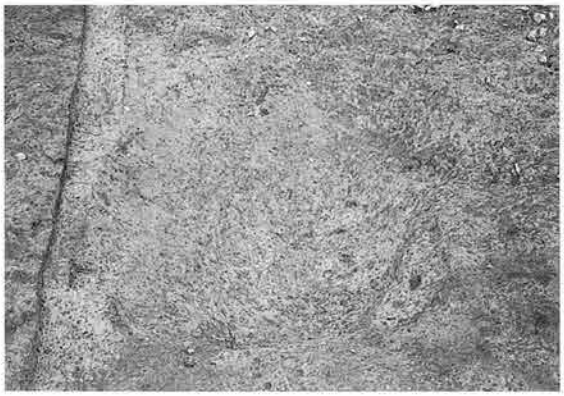
写真図版56　SK13～16 土坑

SK17 平面

SK17 断面

SK18 平面

SK18 断面



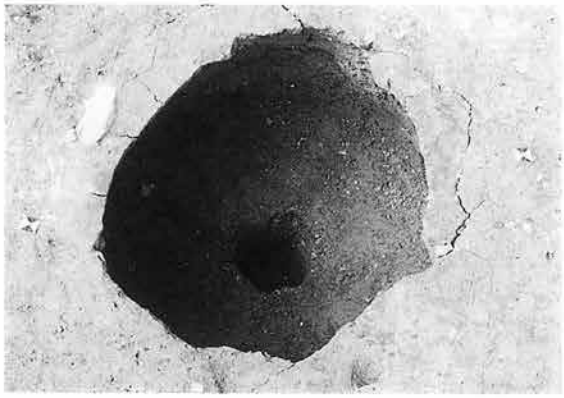
SK19 平面

SK19 断面

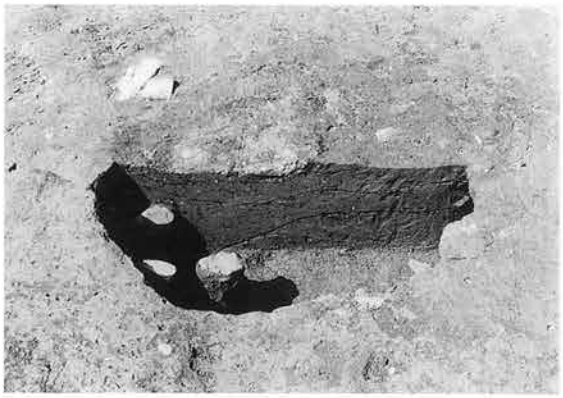
SK20 平面

SK20 断面

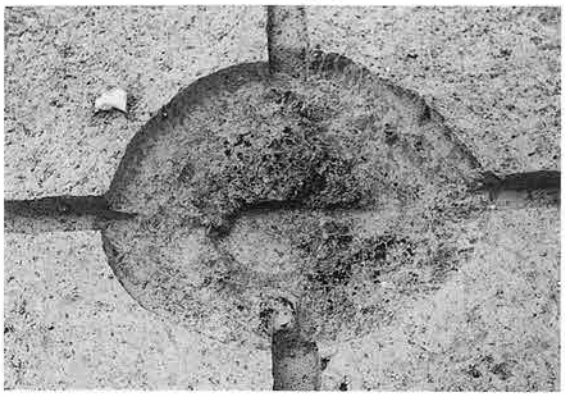
写真図版57　SK17～20 土坑



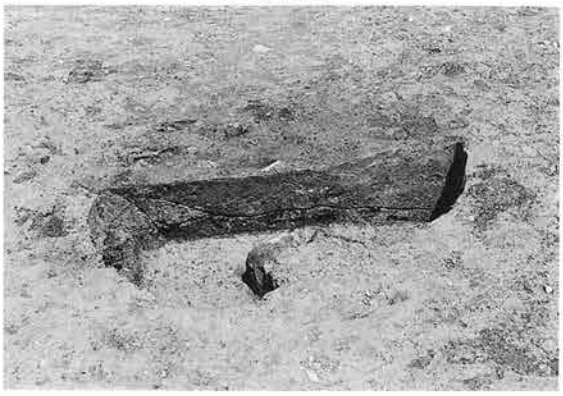
SK21 平面



SK21 断面



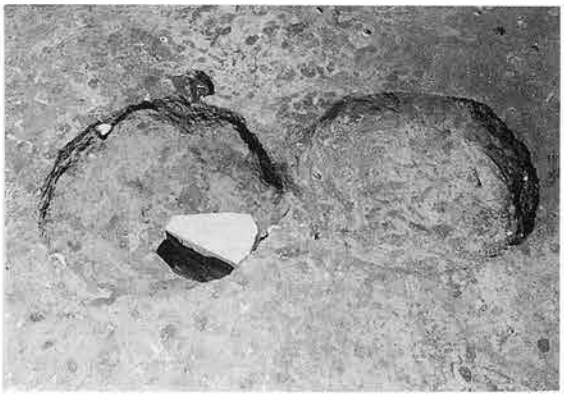
SK22 平面



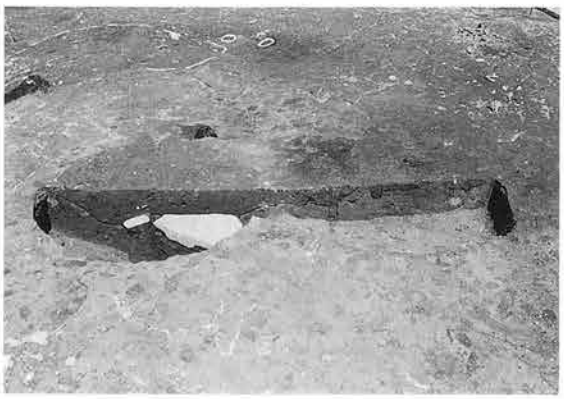
SK22 断面

SK23 平面

SK23 断面



SK24・25 平面



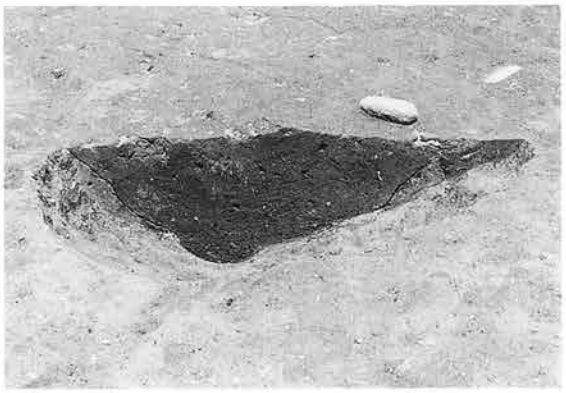
SK24・25 断面

写真図版58　SK21～25 土坑

SK26 平面

SK26 断面

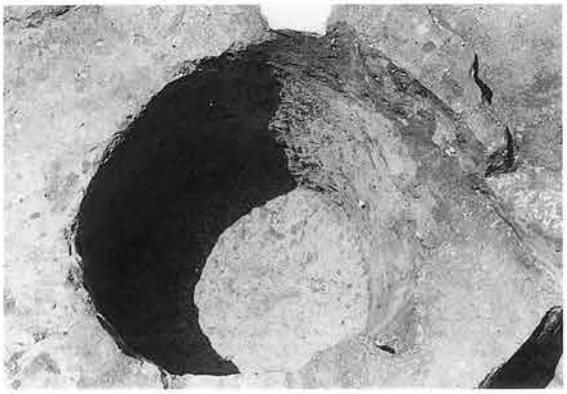
SK27 平面



SK27 断面

SK28 平面

SK28 断面



SK29 平面

SK29 断面

写真図版59　SK26～29 土坑

SK30 平面

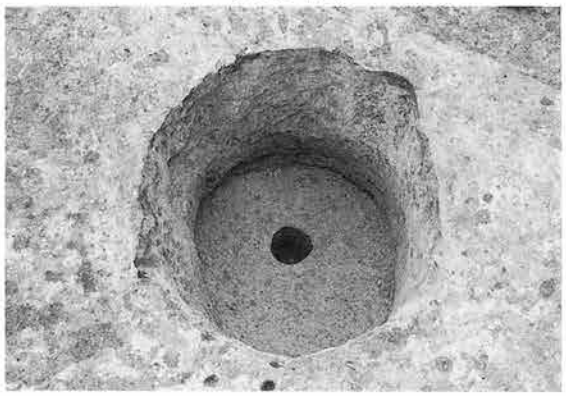
SK30 断面

SK31 平面

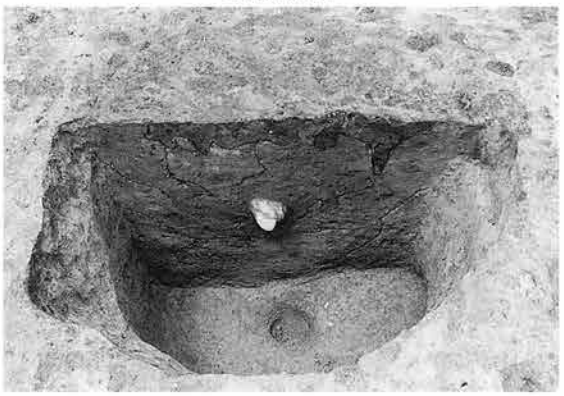
SK31 断面

SK32 平面

SK32 断面



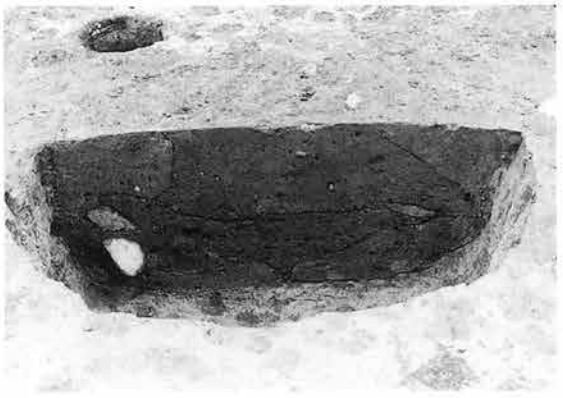
SK33 平面



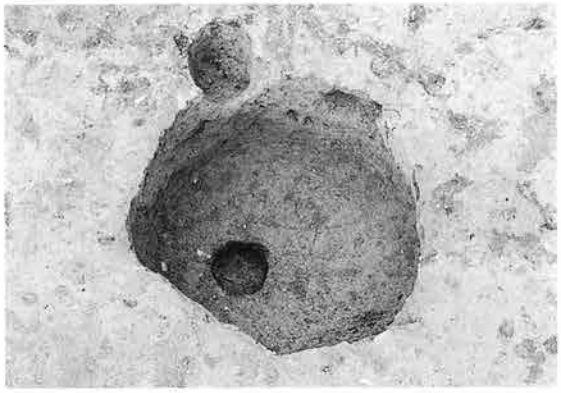
SK33 断面

写真図版60　SK30～33 土坑

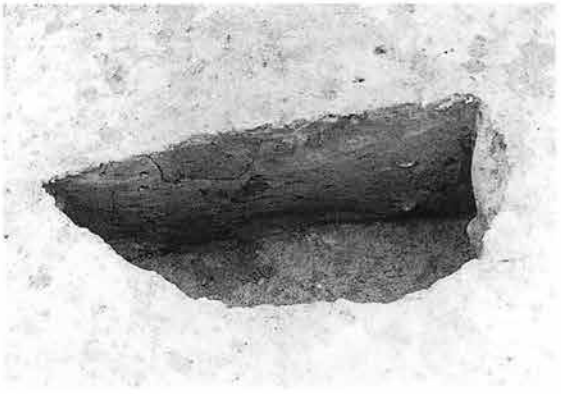
SK34 平面



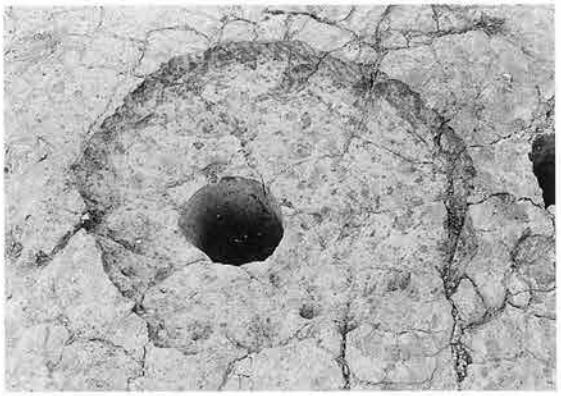
SK34 断面



SK35 平面



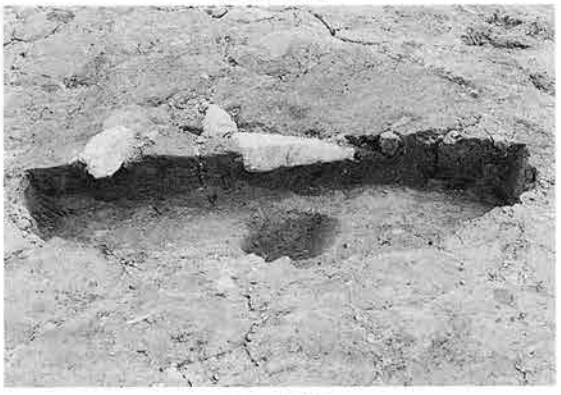
SK35 断面



SK36 平面

SK36 断面

SK37 平面



SK37 断面

写真図版61　SK34~37 土坑

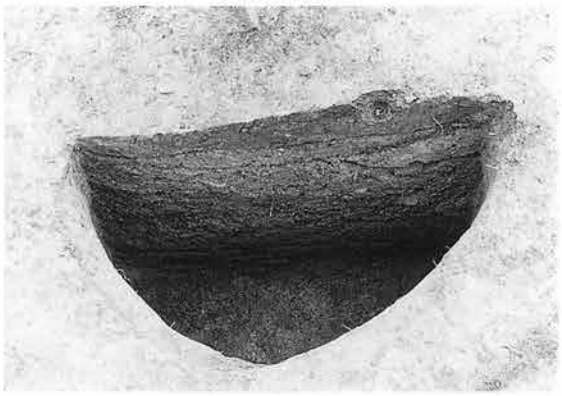
SK38 平面

SK38 断面

SK39 平面

SK39 断面

SK40 平面



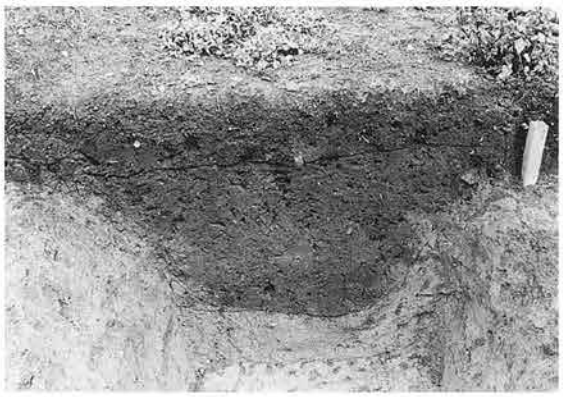
SK40 断面

作業風景

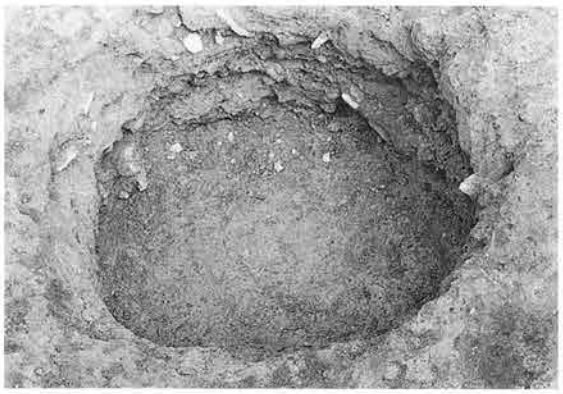
SK41 断面

写真図版62　SK38～41 土坑

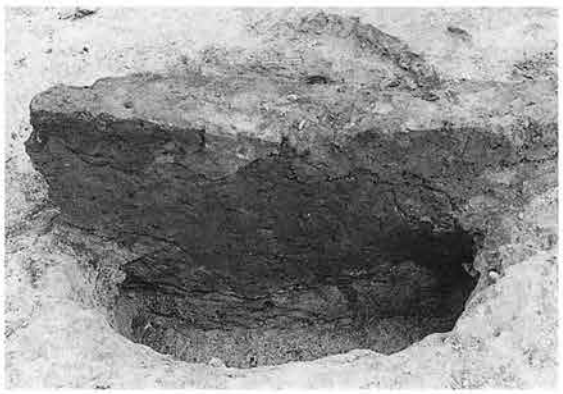
SK42 平面



SK42 断面

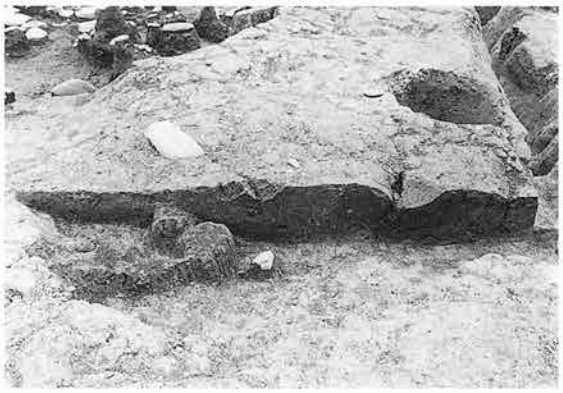


SK43 平面



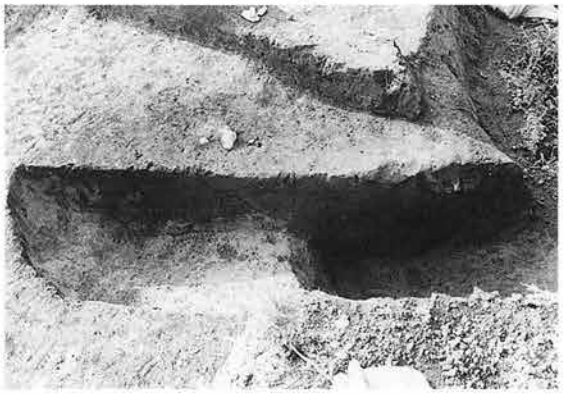
SK43 断面

SK44 平面



SK44 断面

SK45・46 平面



SK45・46 断面

写真図版63　SK42～46 土坑

SK47 平面

SK47 断面

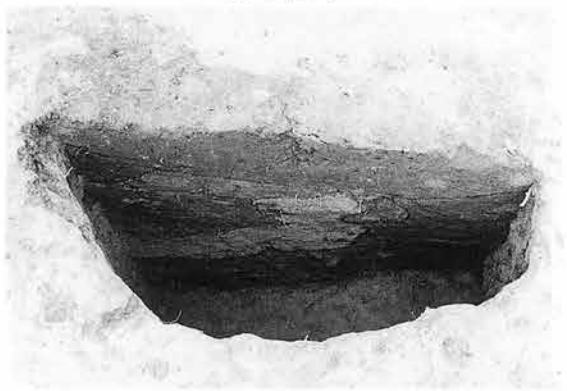
SK48 平面

SK48 断面

作業風景

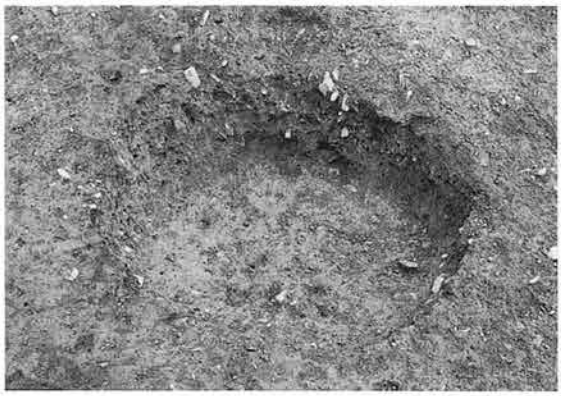
SK49 断面

SK50 平面



SK50 断面

写真図版64　SK47～50 土坑



SK51 平面

SK51 断面

SK52 平面

SK52 断面

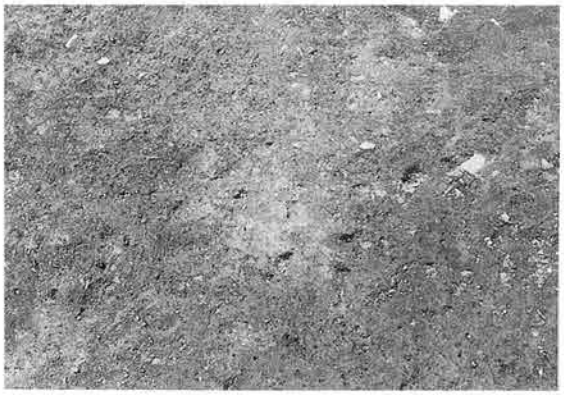
SK54・SR01 平面

SK54・SR01 断面

SR01 埋設土器

SR01 土器埋設部分断面

写真図版65　SK51・52・54 土坑、SR01 土器埋設遺構

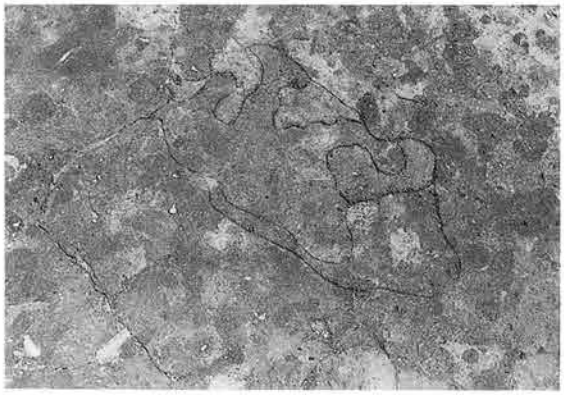


SF01① 平面

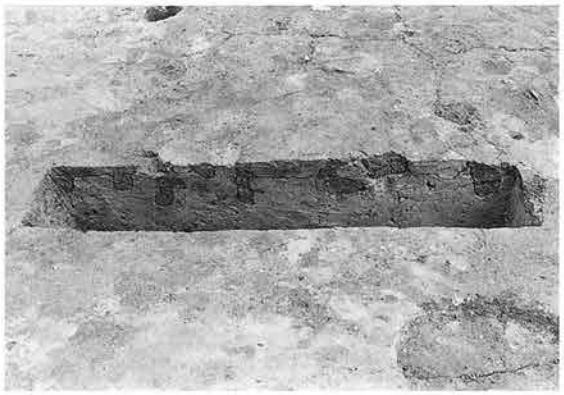
SF01① 断面

SF01② 平面

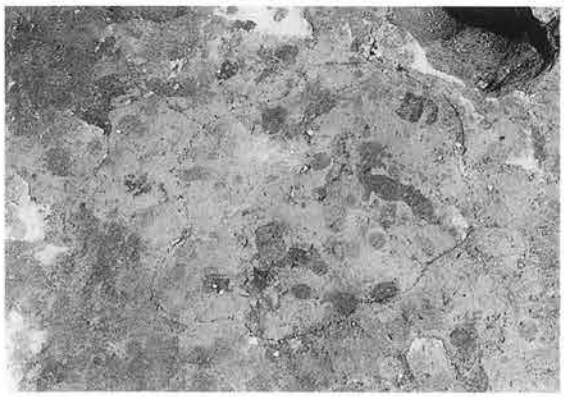
SF01② 断面



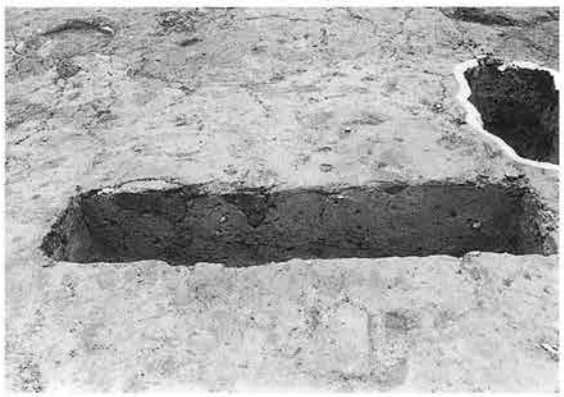
SF02① 平面



SF02① 断面

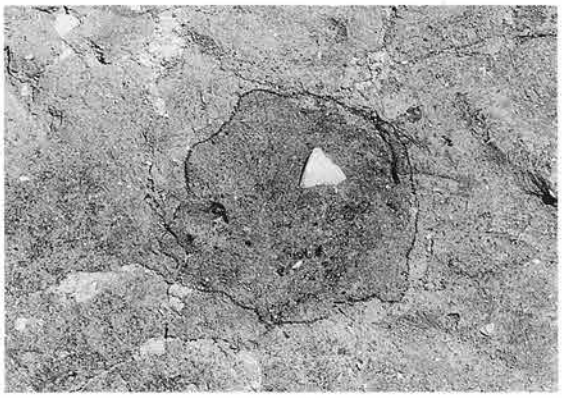


SF02② 平面

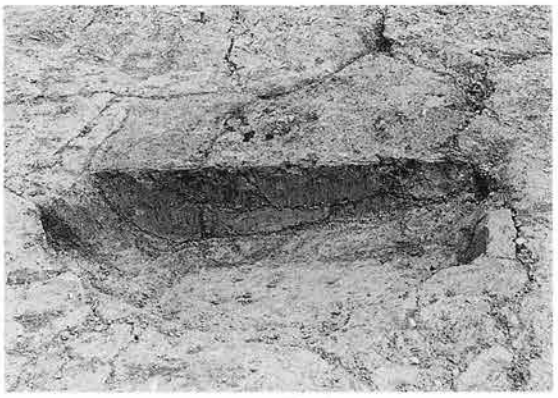


SF02② 断面

写真図版66　SF01・02 焼土遺構



SF04 平面



SF04 断面

SF04 平面（底面）

作業風景

SF05 断面

SF05 断面

SF06 平面

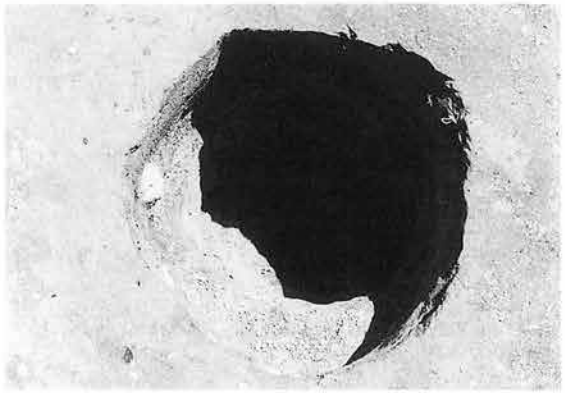
SF06 断面

写真図版67　SF04・05・06 焼土遺構

SA01・02 平面

SA02　P5 平面

SA02　P5 断面



SA01　P8 平面

SA01　P8 断面

写真図版68　SA01・02 柵列

SA03 平面

SA04 平面

SA05 平面

SA03　P1 平面

SA04　P5 平面

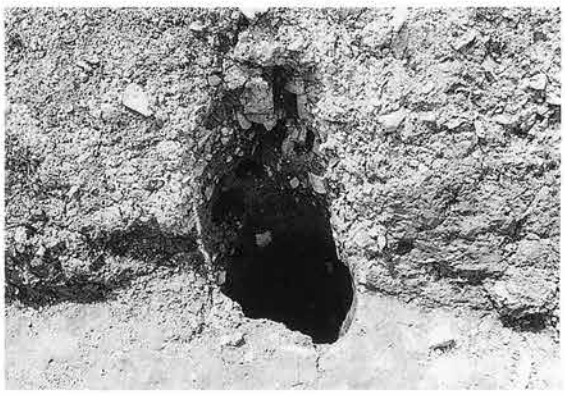
写真図版69　SA03～05 柵列

IC7g～ID7b ピット群

P6 平面

P21 平面

P22 平面

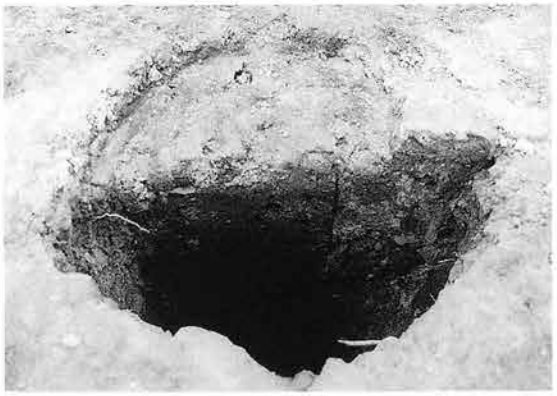


P45 平面

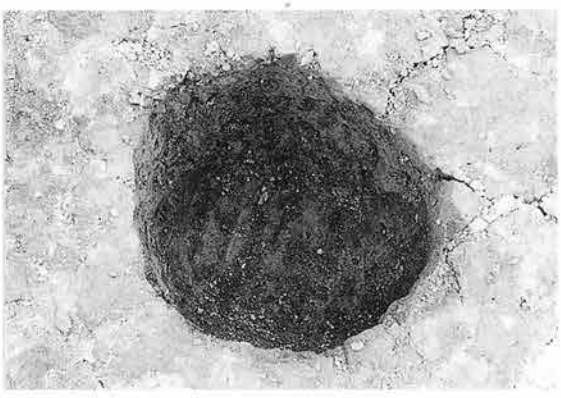
写真図版70　ピット（1）

IB9h～IB10h ピット群

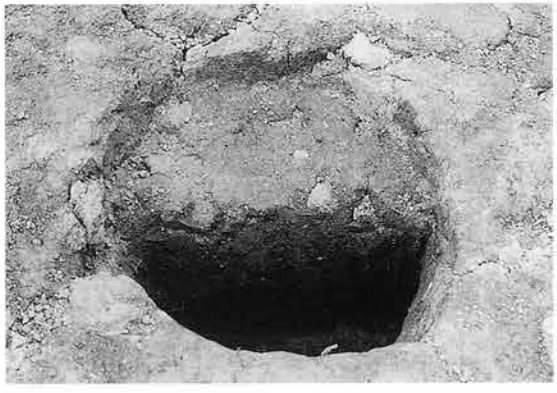
P67 平面



P67 断面



P70 平面



P70 断面

写真図版71　ピット（2）

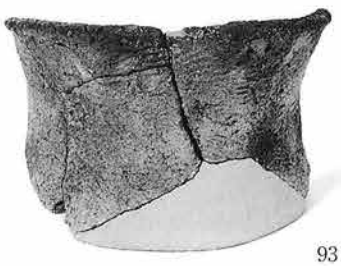
1

40

47

59

54

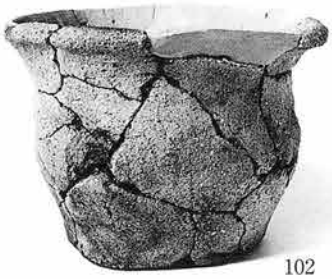


93

写真図版72　土器（1）　　S=1/3

98

100



102

104

117

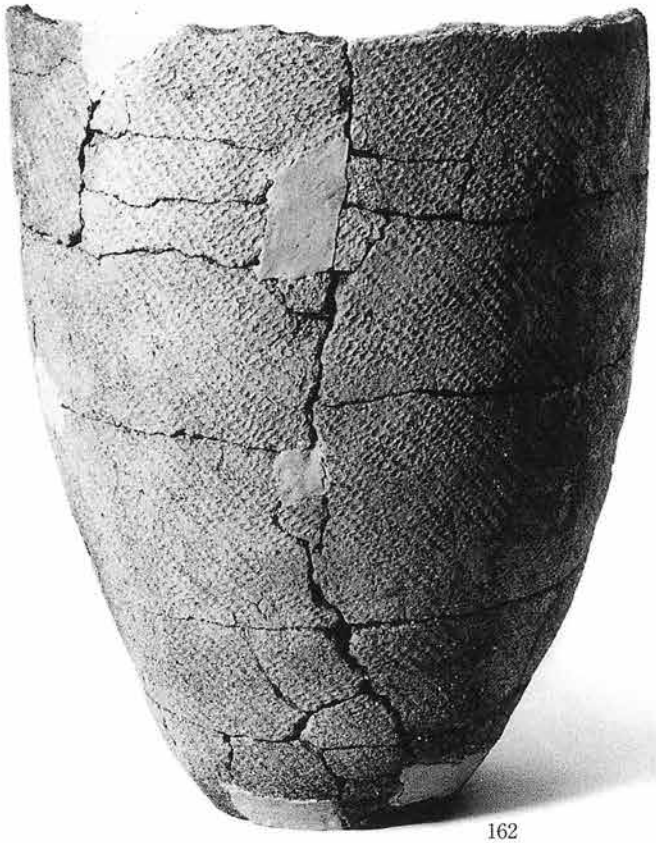
写真図版73　土器（2）　　S=1/3

139

120

152

写真図版74　土器（3）　　S=1/3



162

163

164

写真図版75　土器（4）　　S=1/3

173

191

194

写真図版76　土器（5）　　S=1/3

187

195

199

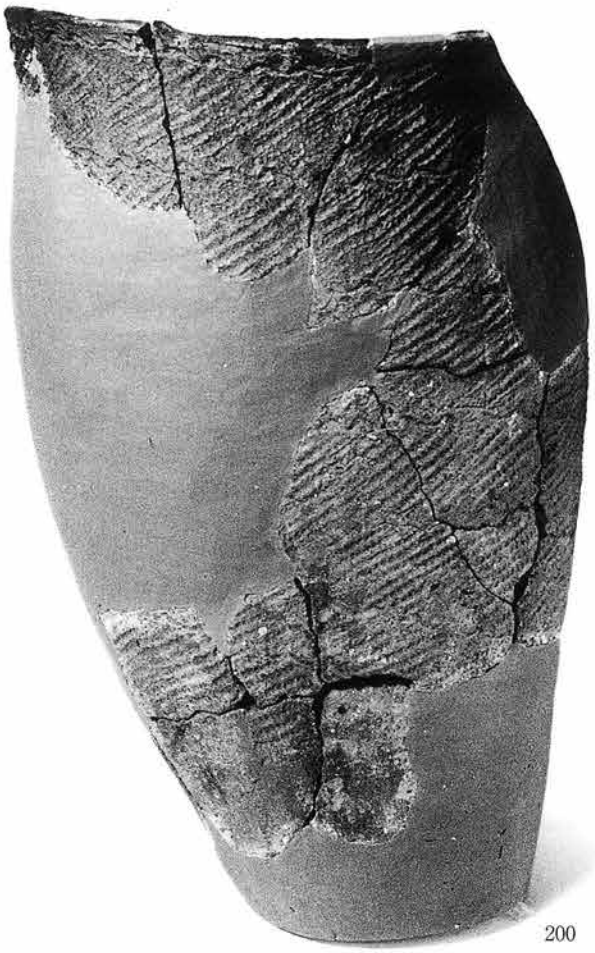
写真図版77　土器（6）　　S=1/3

188

202

210

写真図版78　土器（7）　S=1/3


200

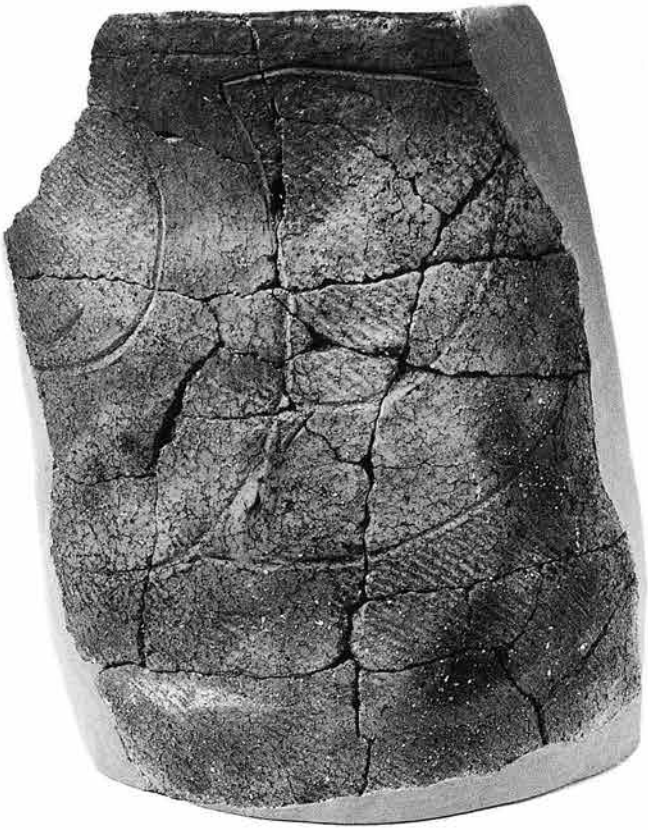
226

228

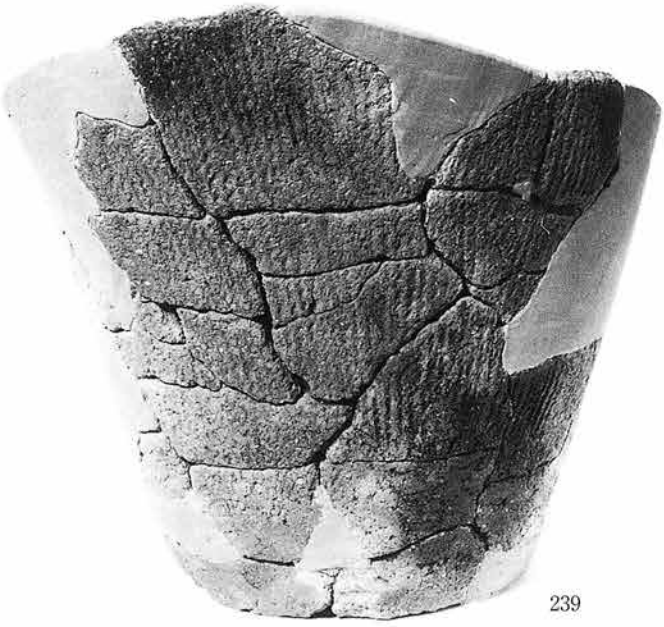
221

232

写真図版79　土器（8）　　S=1/3



229



239

247

写真図版80　土器（9）　S=1/3

243

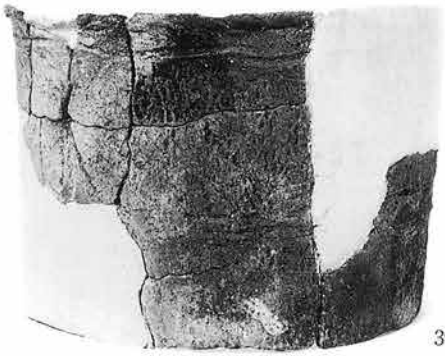
271

344

351

写真図版81　土器（10）　　S=1/3

383


393

350

37

5

15

18

写真図版82　土器（11）　　S=1/3

25

35

36

41

50

68

91

92

144

160

161

169

424

425

426

写真図版83　土器（12）　　S=1/3

428

429

430

431

432

433

434

435

436

437

438

177

186

211

212

写真図版84　土器（13）　　S=1/3

218

253

254

290

291

309

310

338

346

422

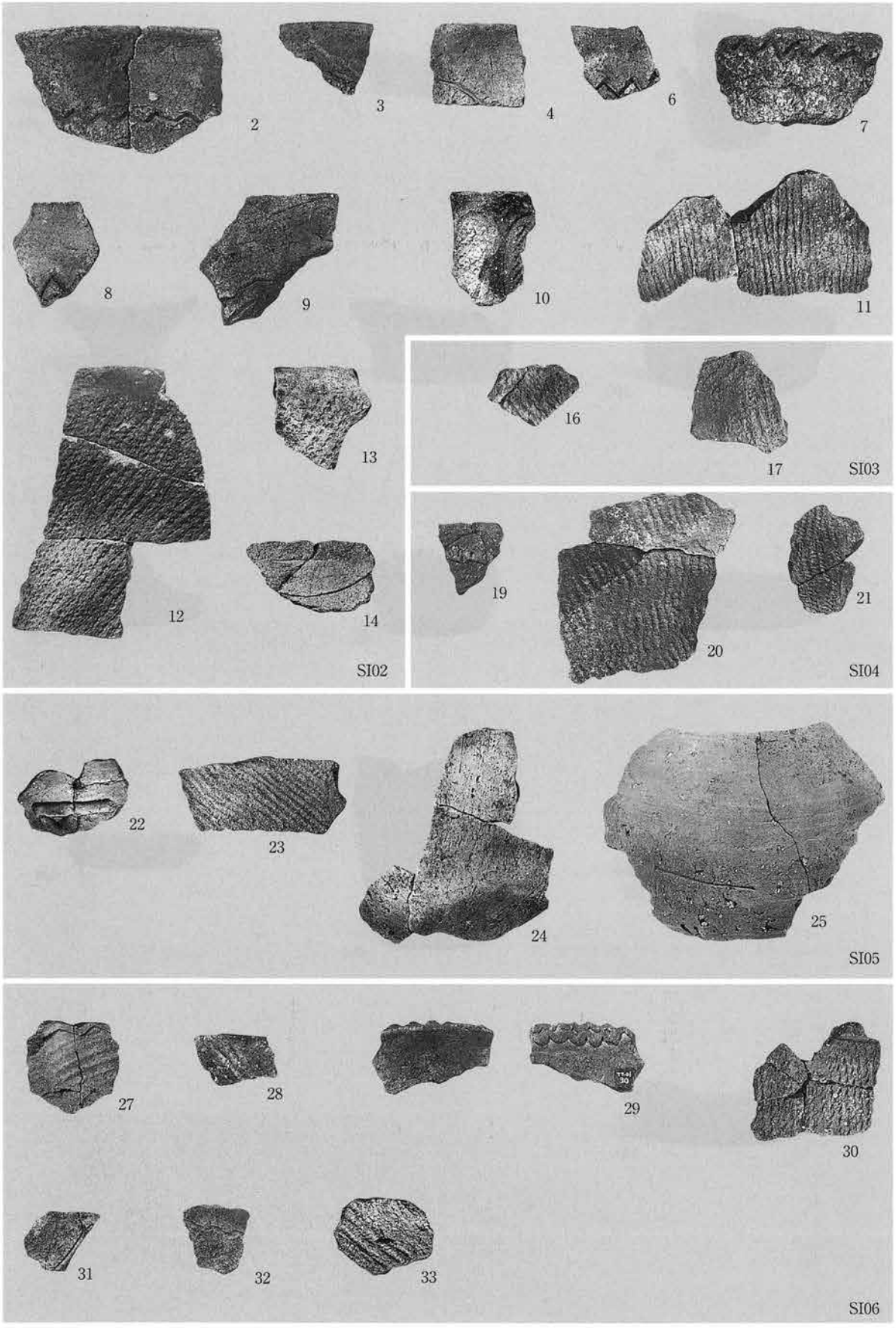
423

439

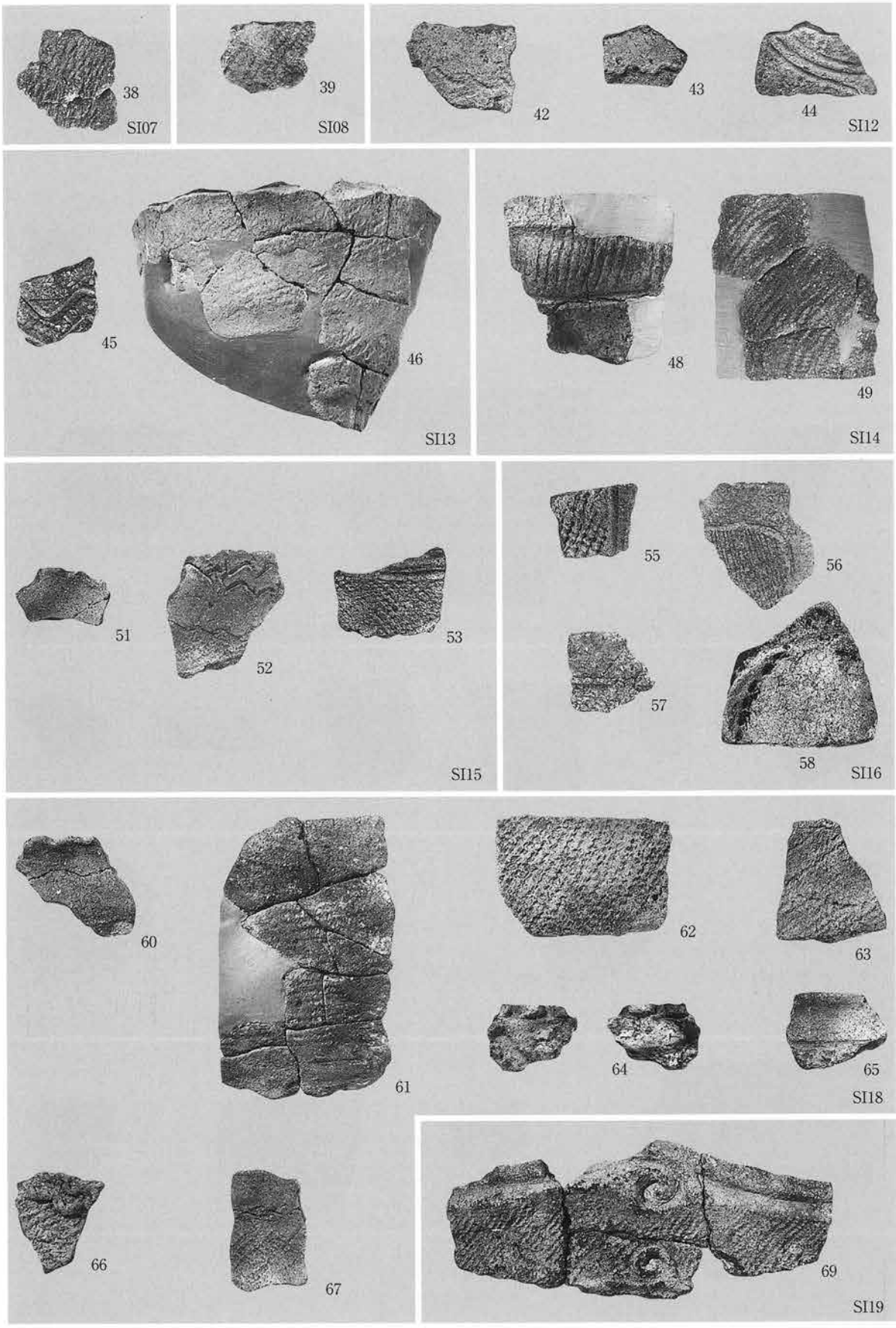
440

写真図版85　土器（14）

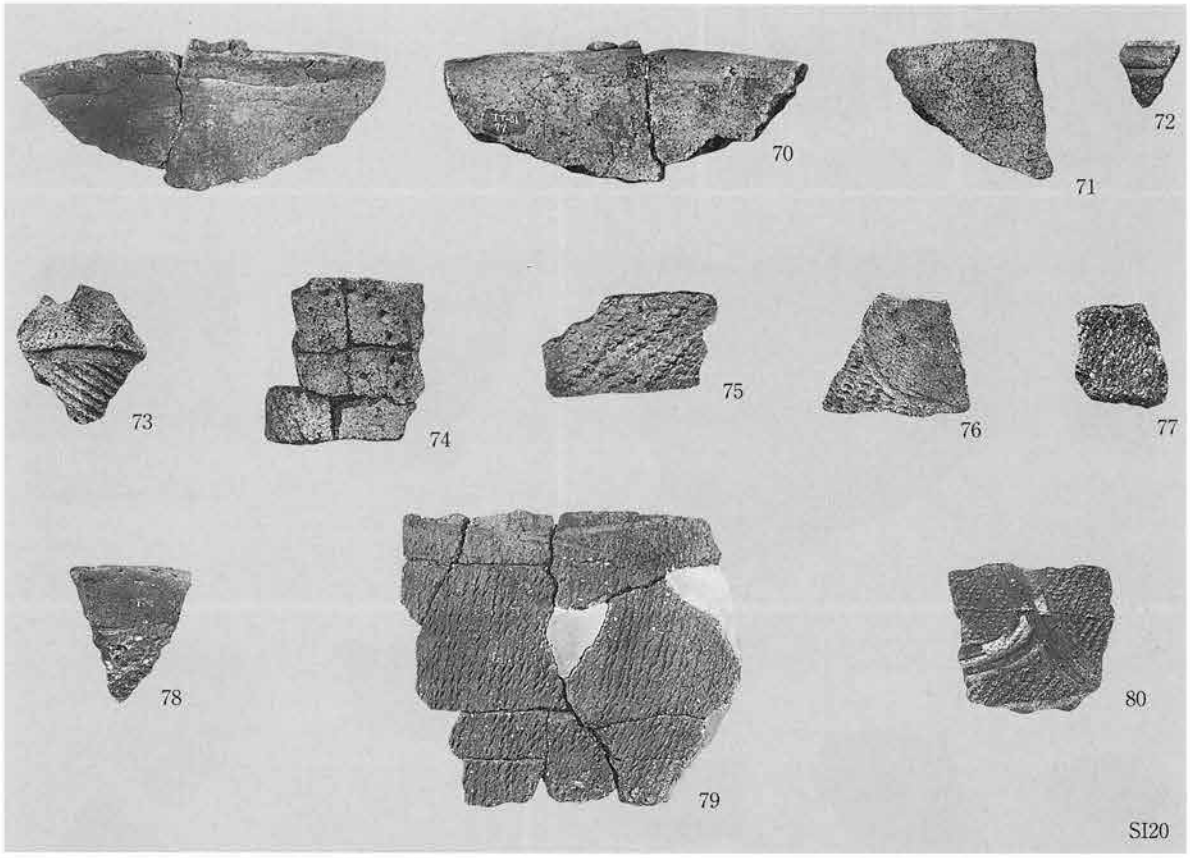
S=1/3

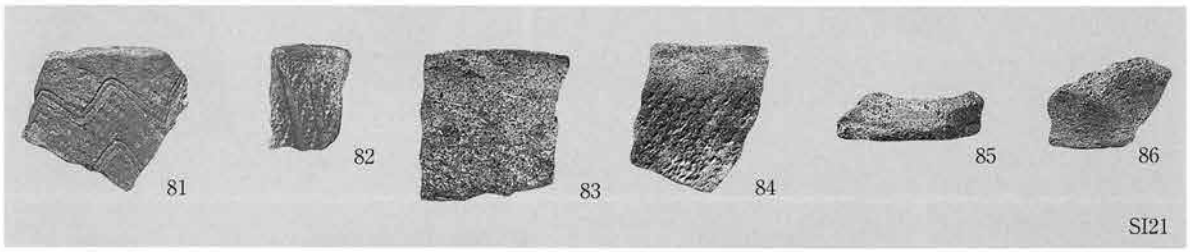


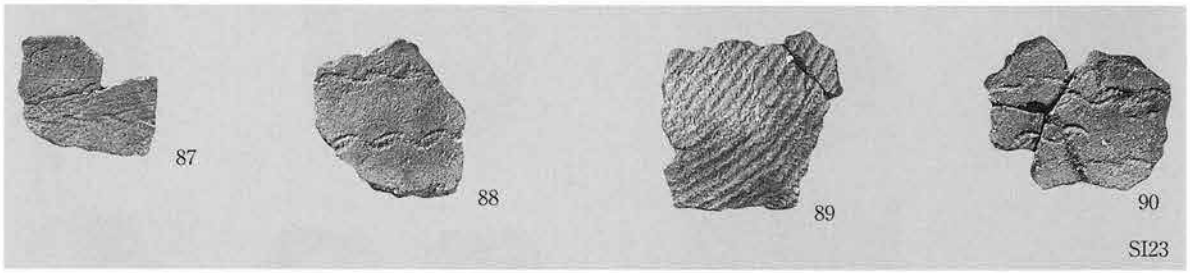
写真図版86　土器（15）　　S=1/3

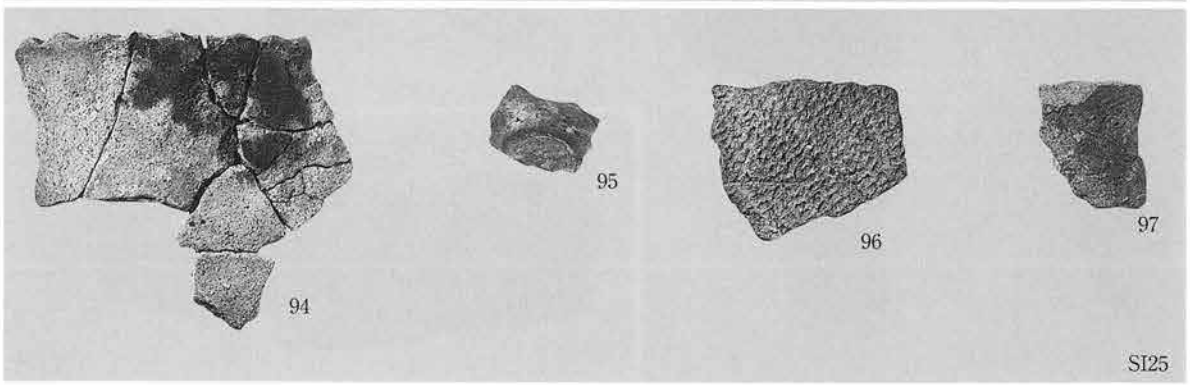


写真図版87　土器（16）　　S=1/3

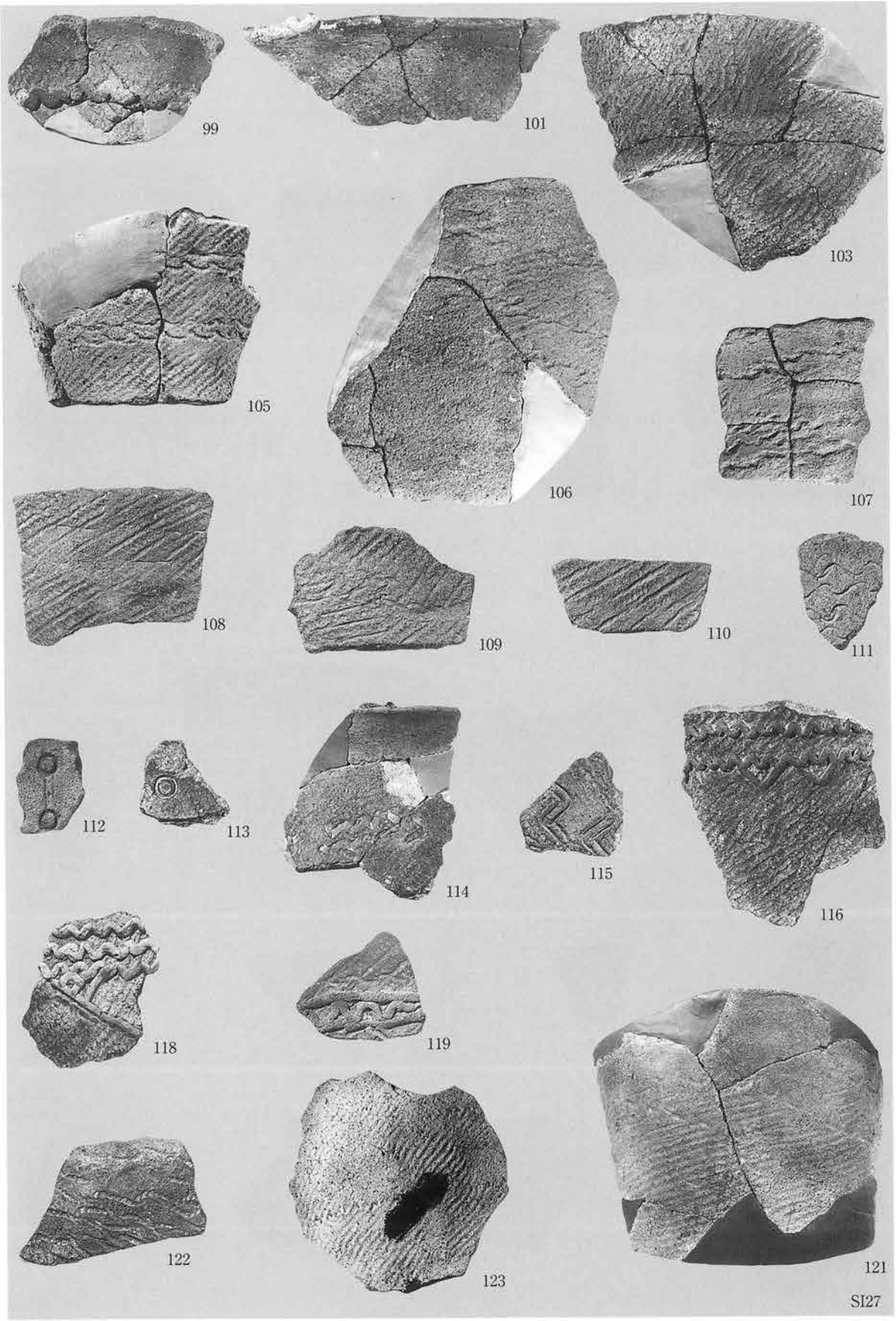




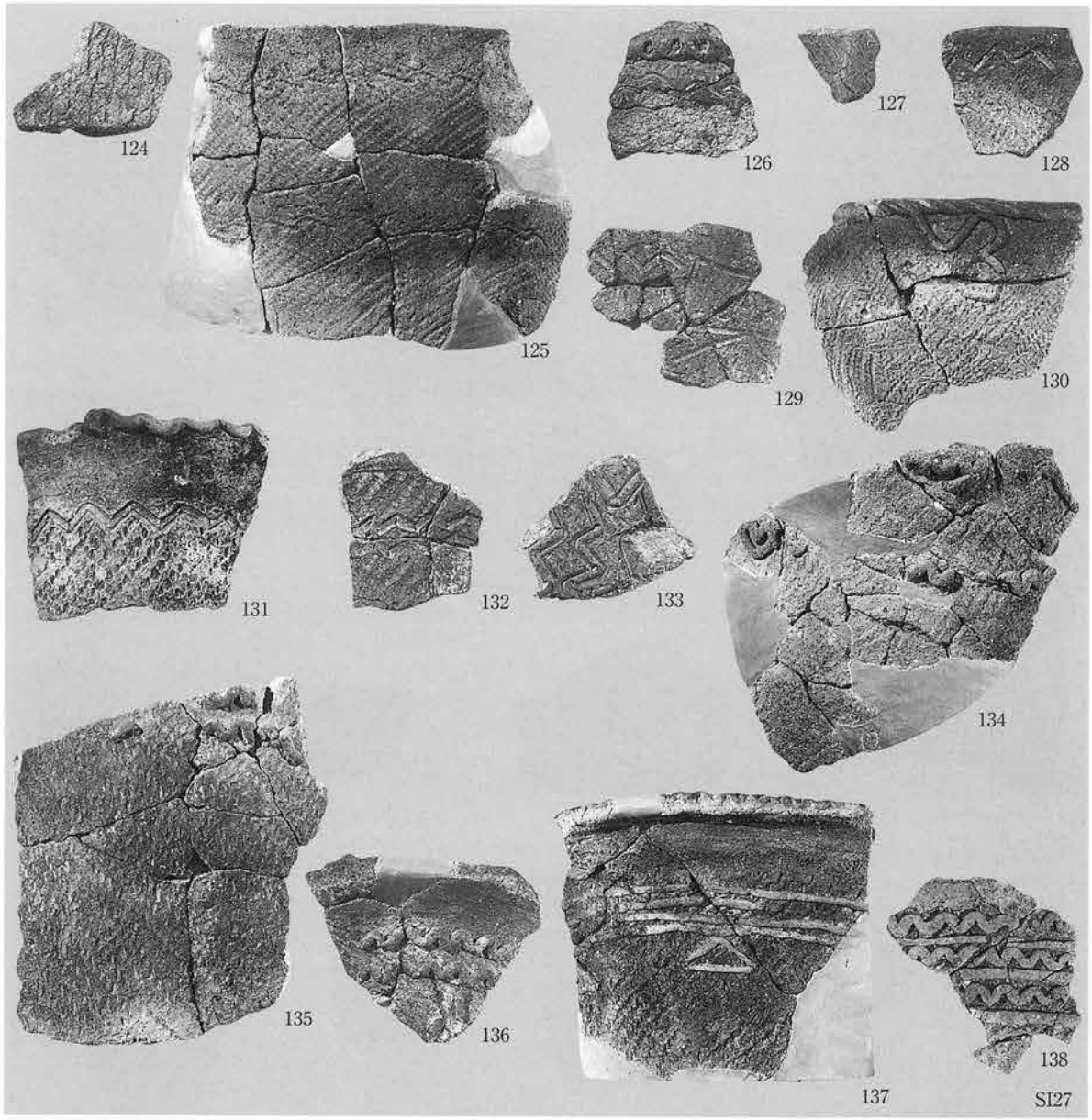




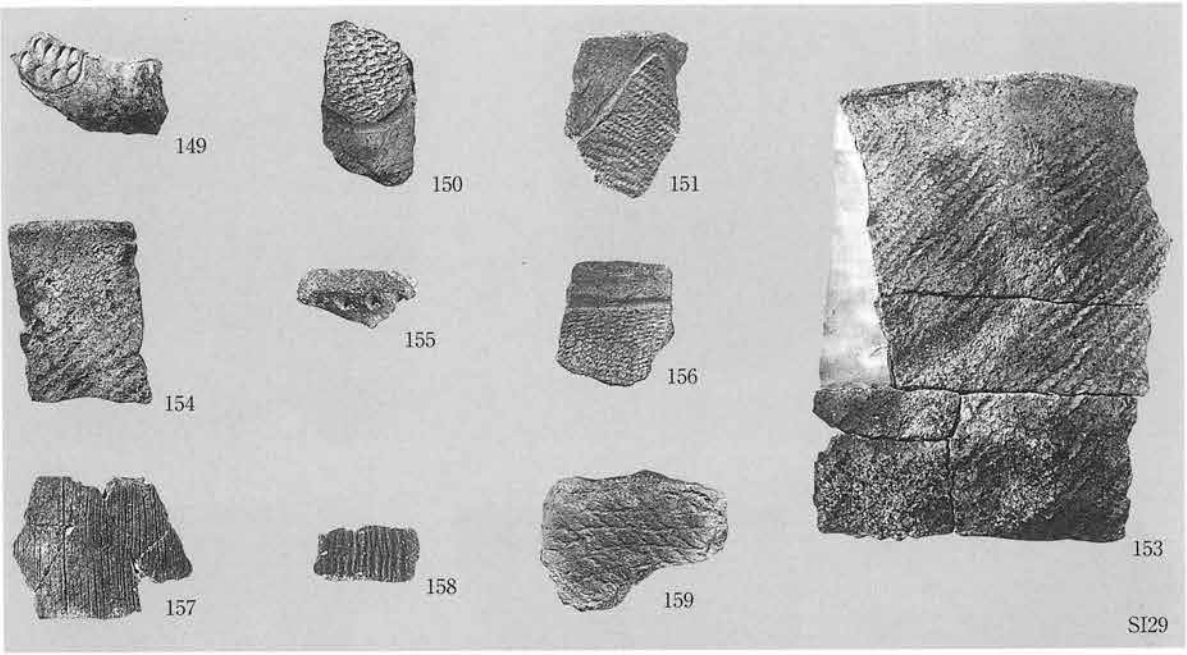
写真図版88　土器（17）　　S=1/3

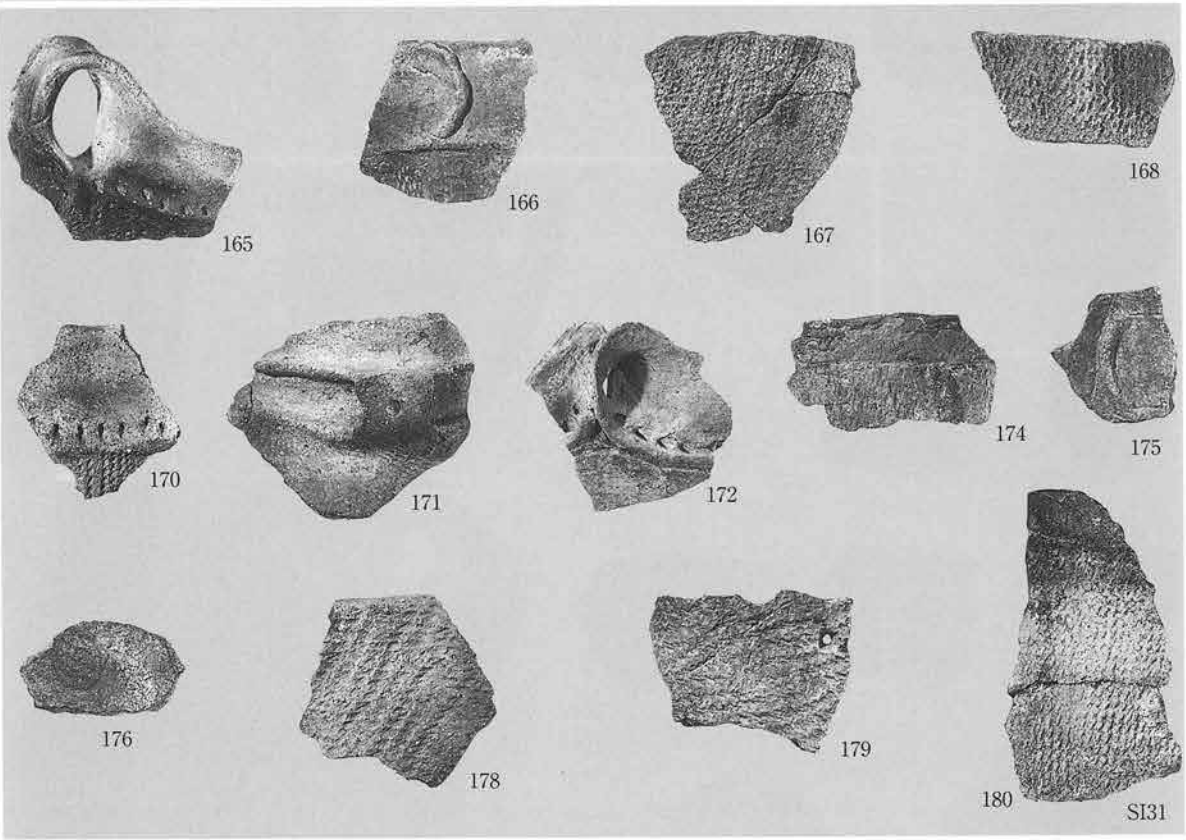


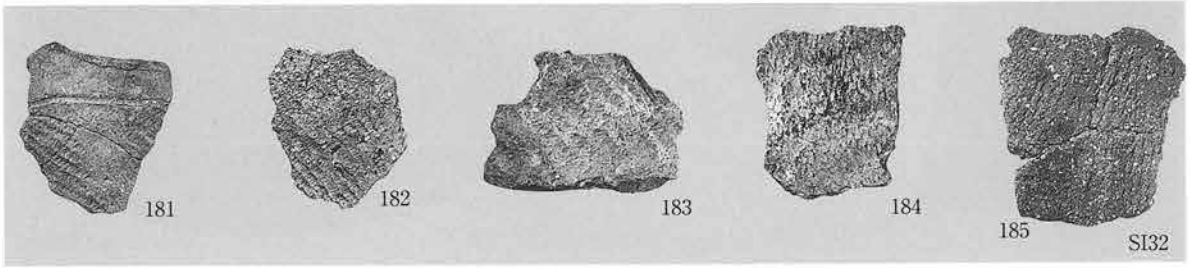
写真図版89　土器（18）　　S=1/3



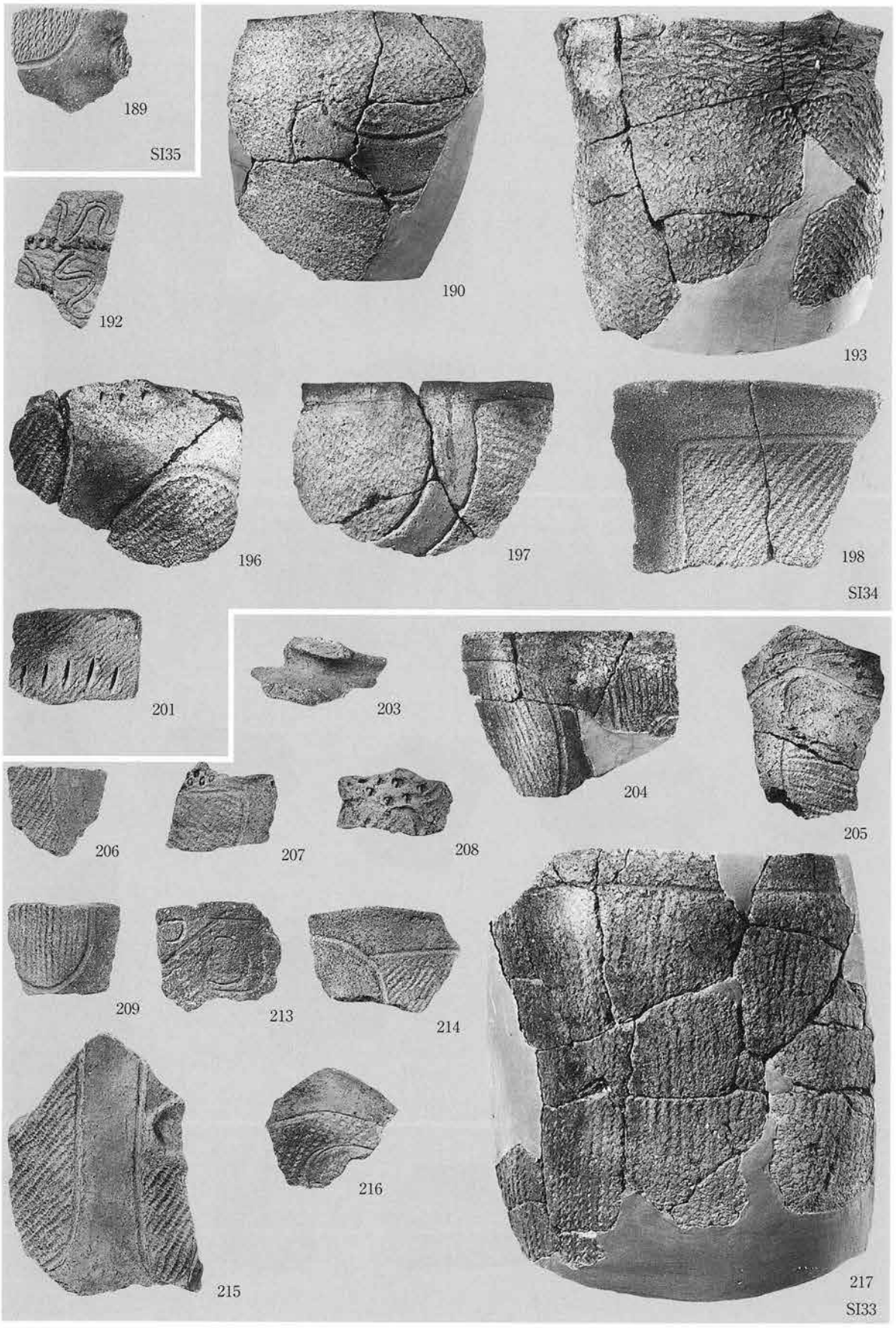
写真図版90　土器（19）　　S=1/3



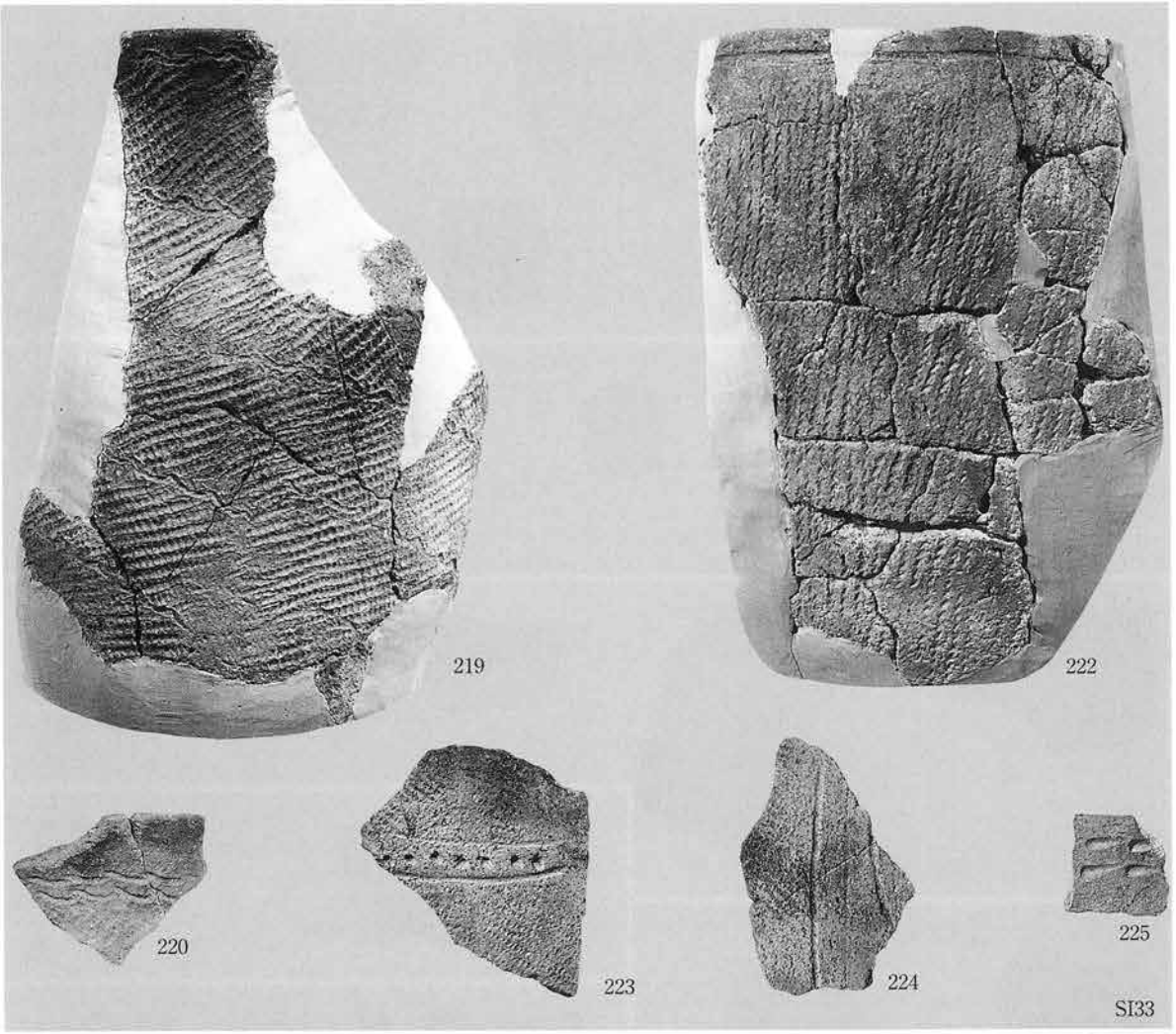


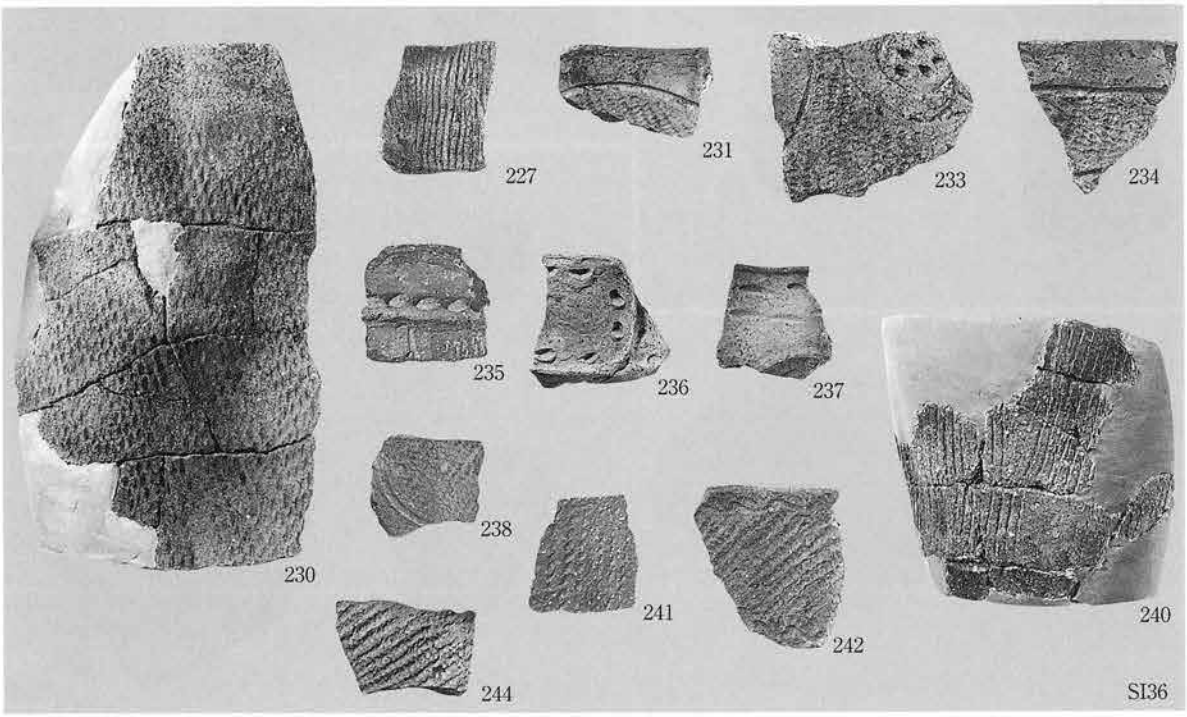


写真図版91　土器（20）　S=1/3

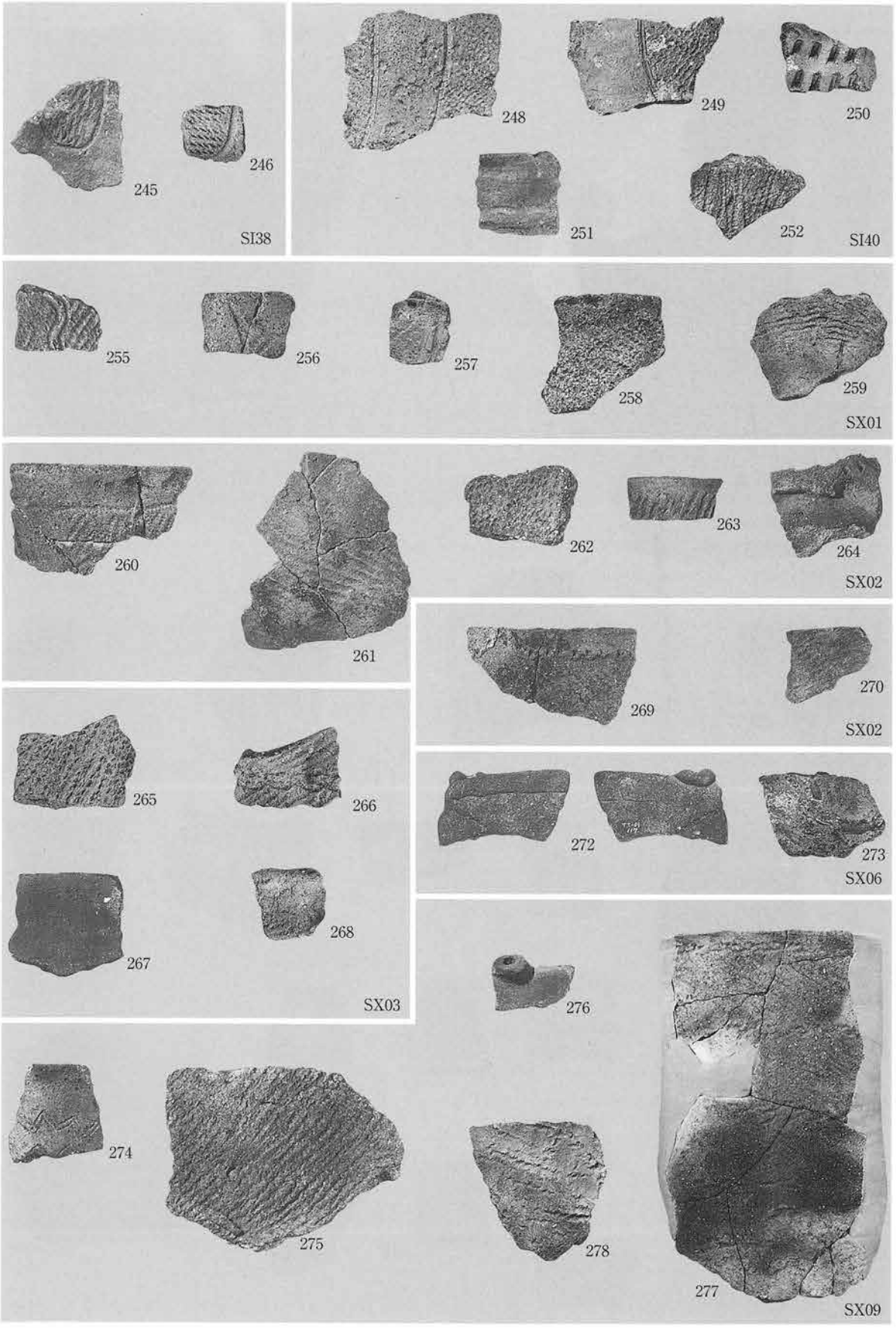


写真図版92　土器（21）　　S=1/3

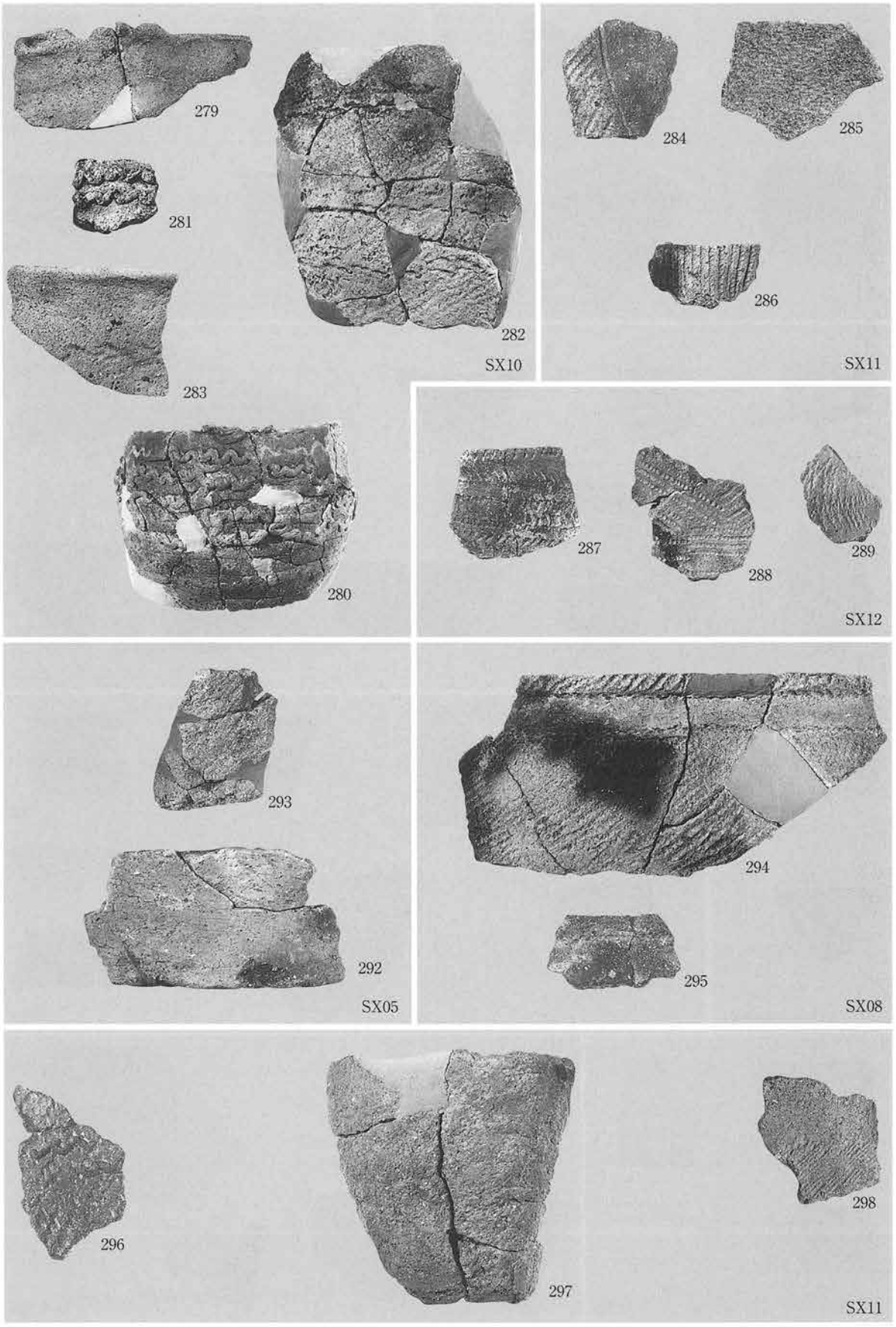




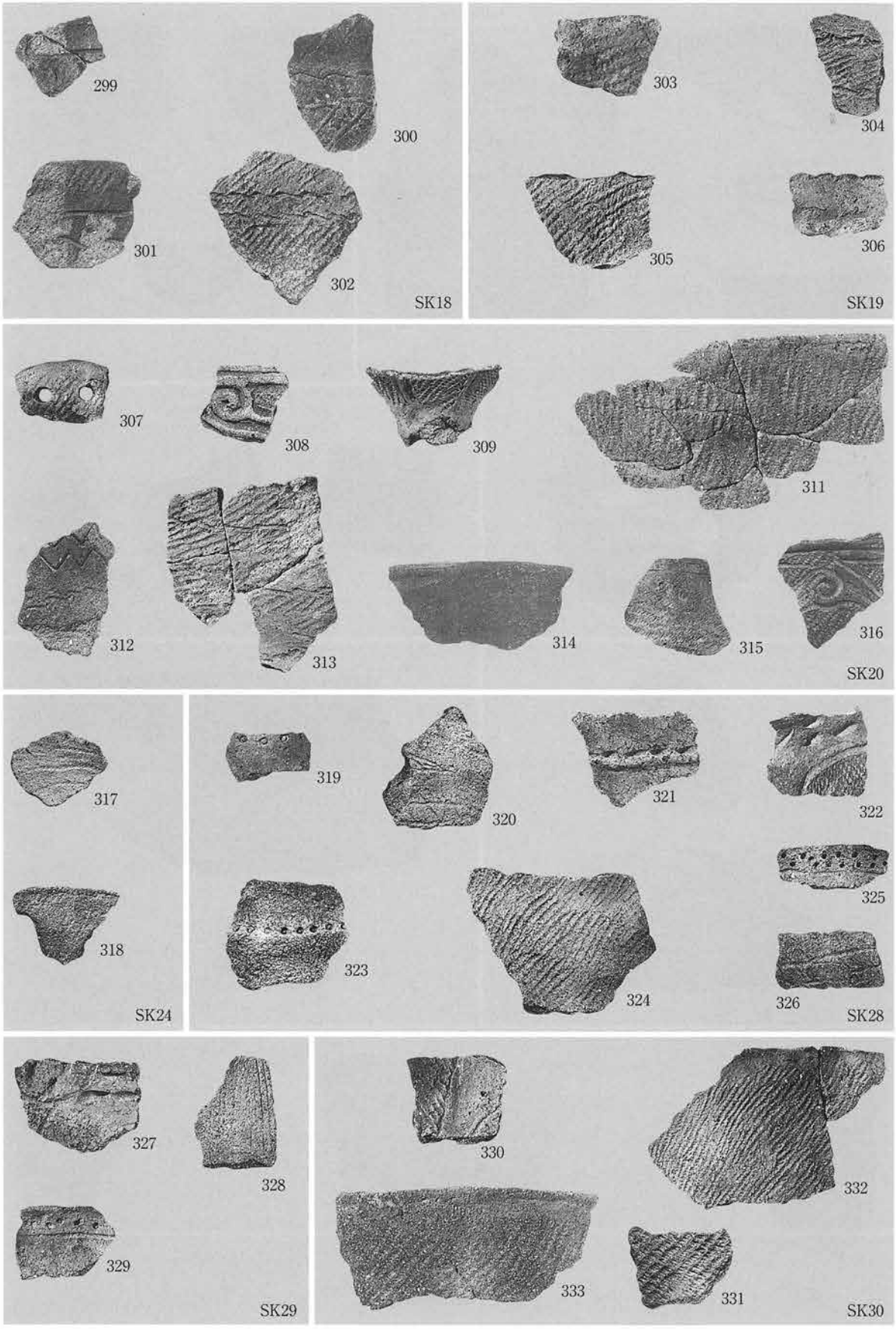
写真図版93　土器（22）　S=1/3



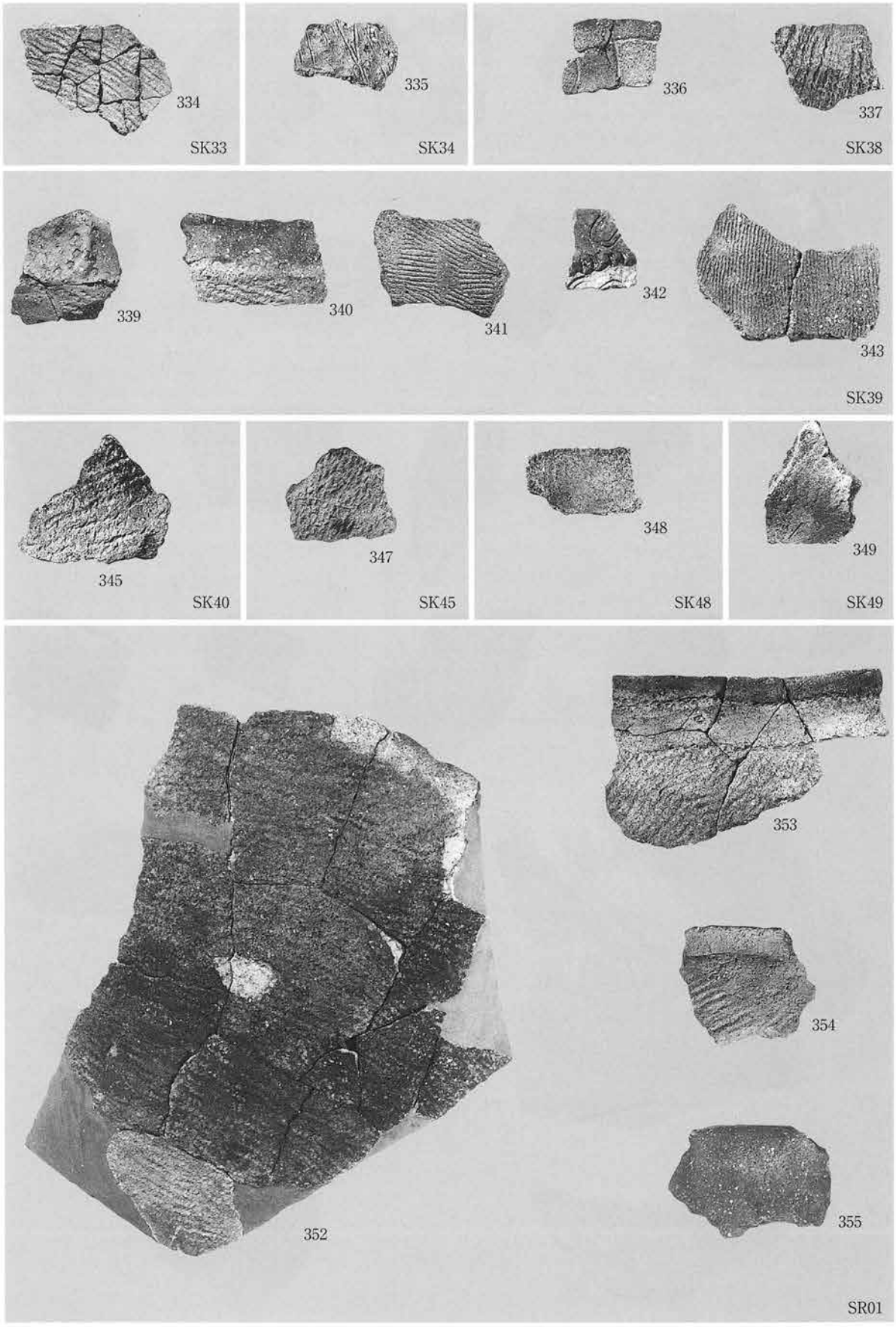
写真図版94　土器（23）　　S=1/3



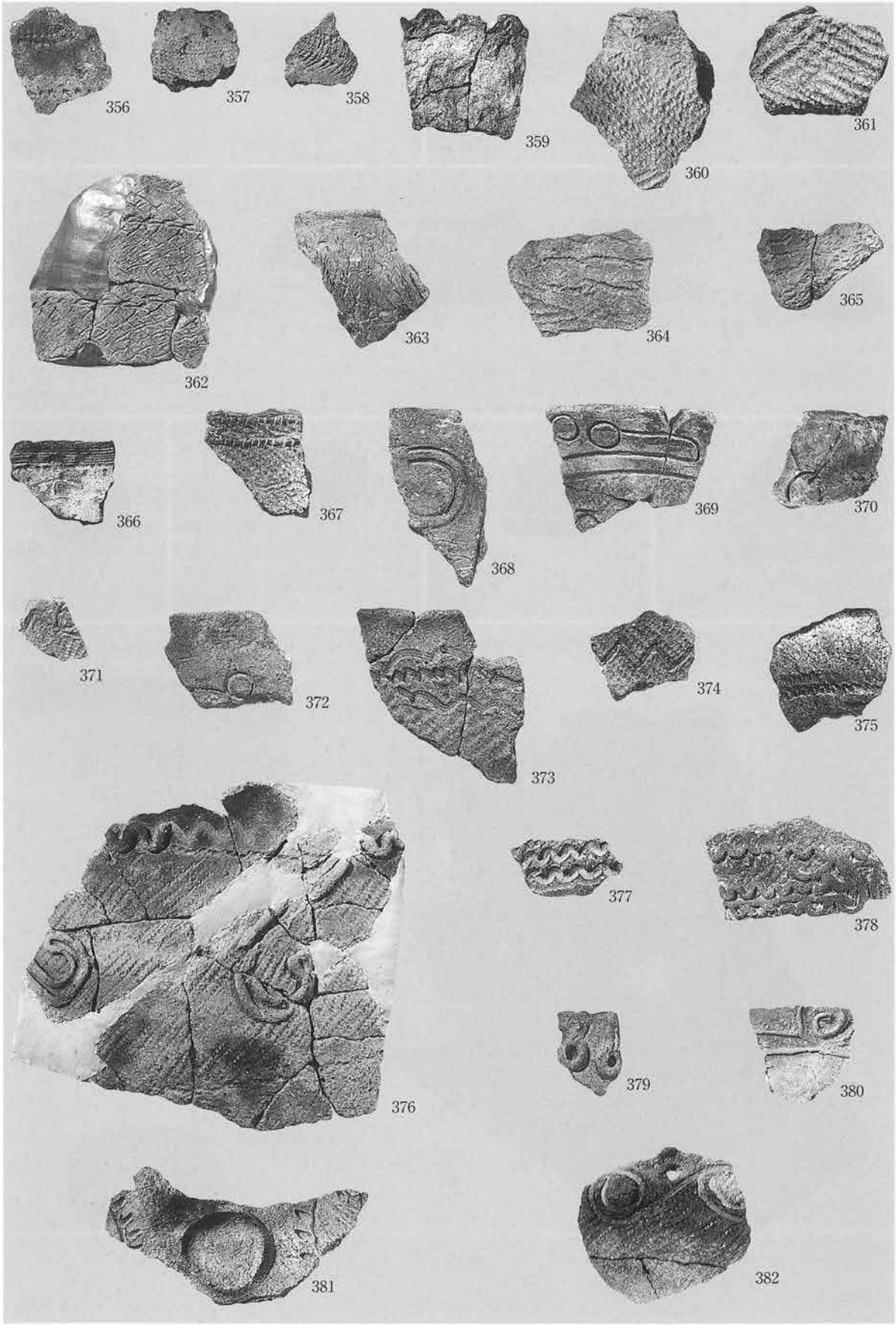
写真図版95　土器（24）　　S=1/3



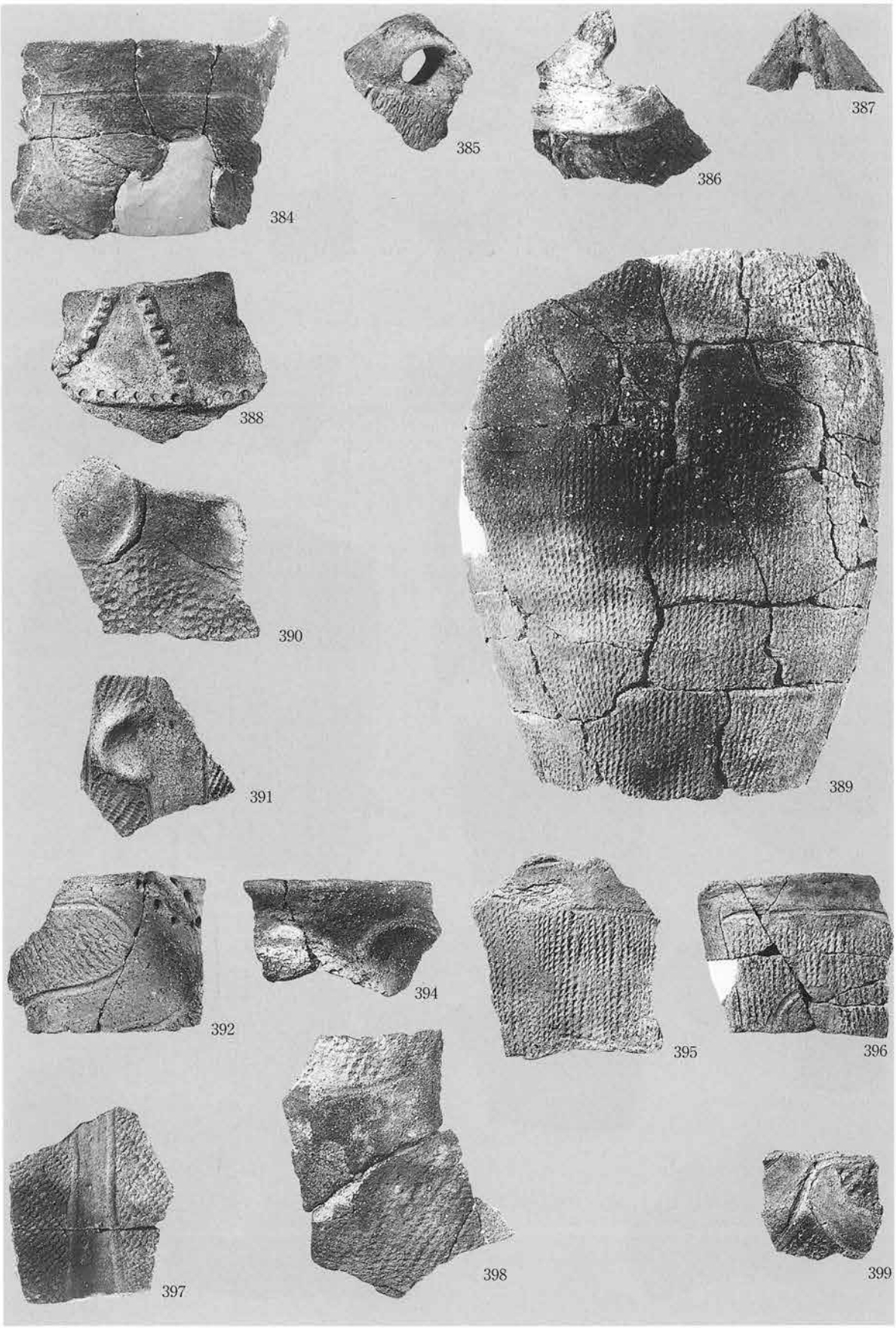
写真図版96　土器（25）　　S=1/3



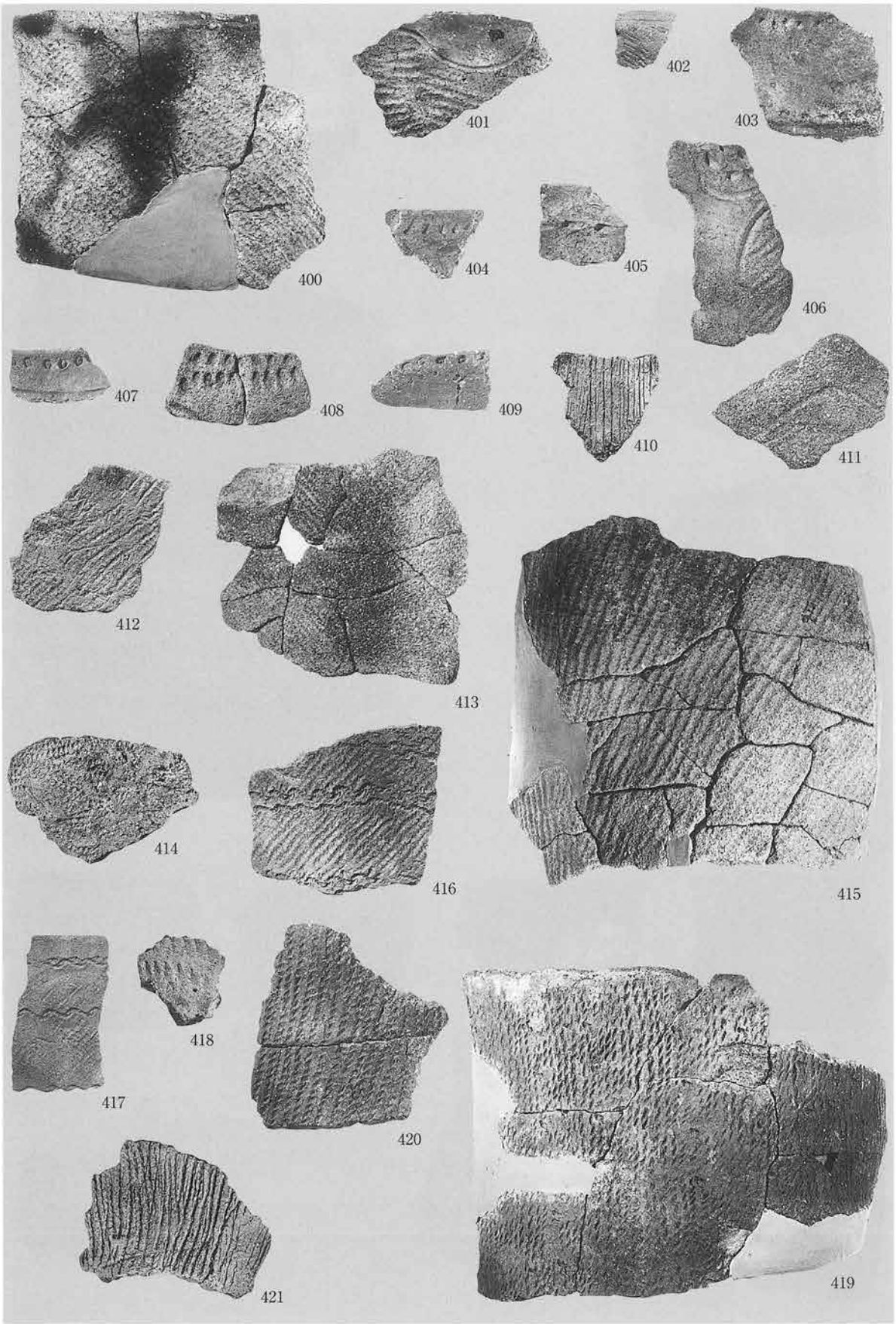
写真図版97　土器（26）　　S=1/3



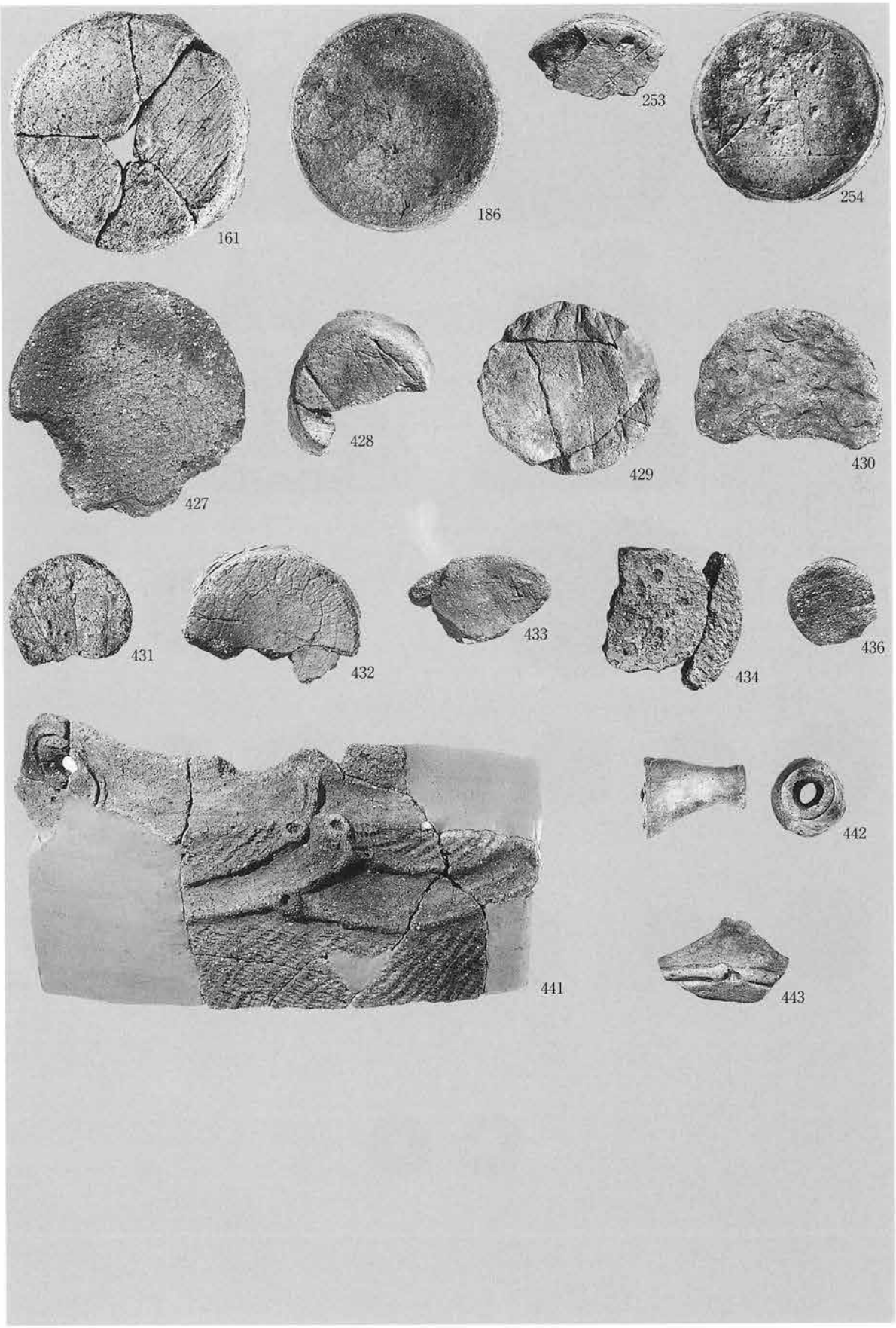
写真図版98　土器（27）　　S=1/3



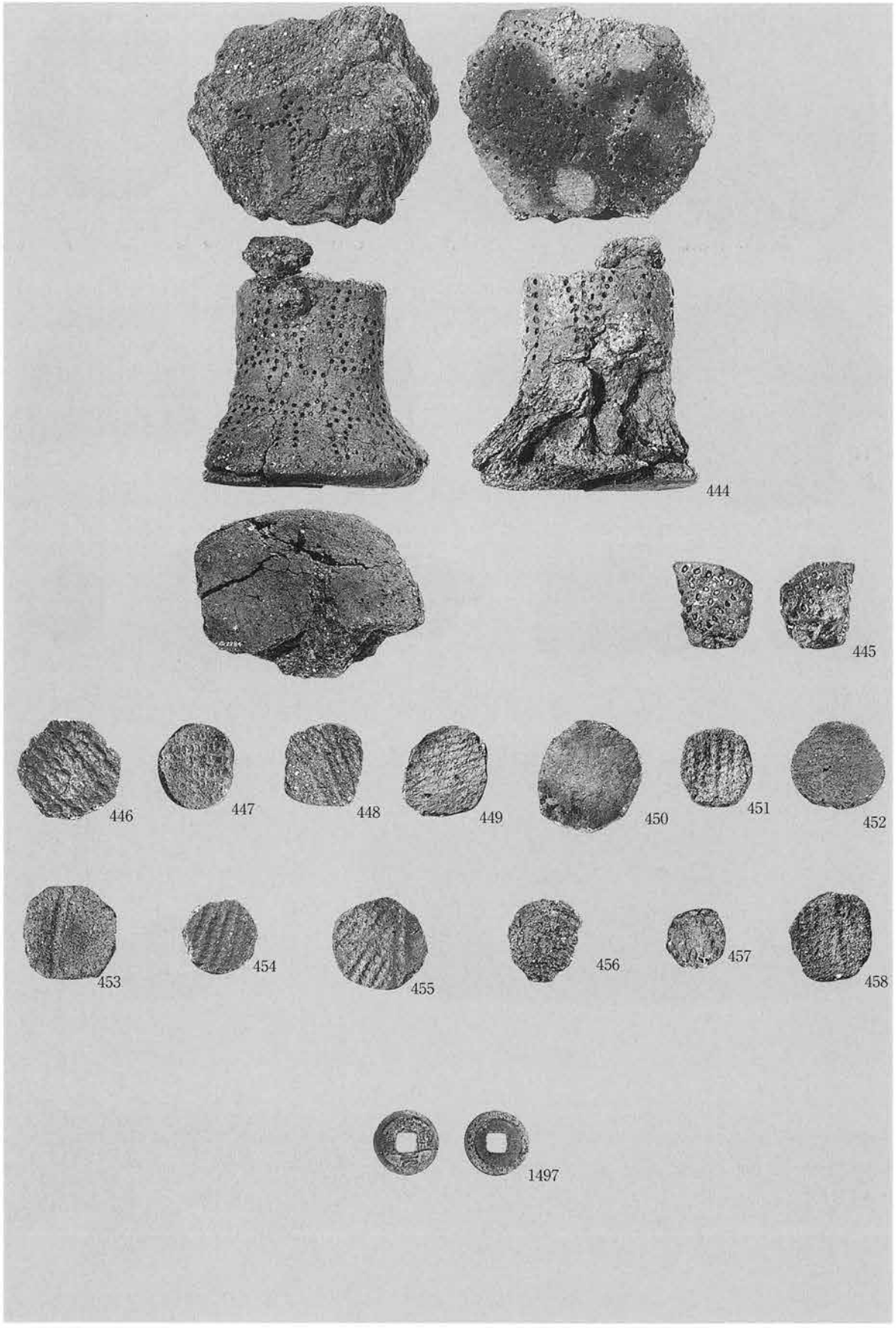
写真図版99　土器（28）　S=1/3



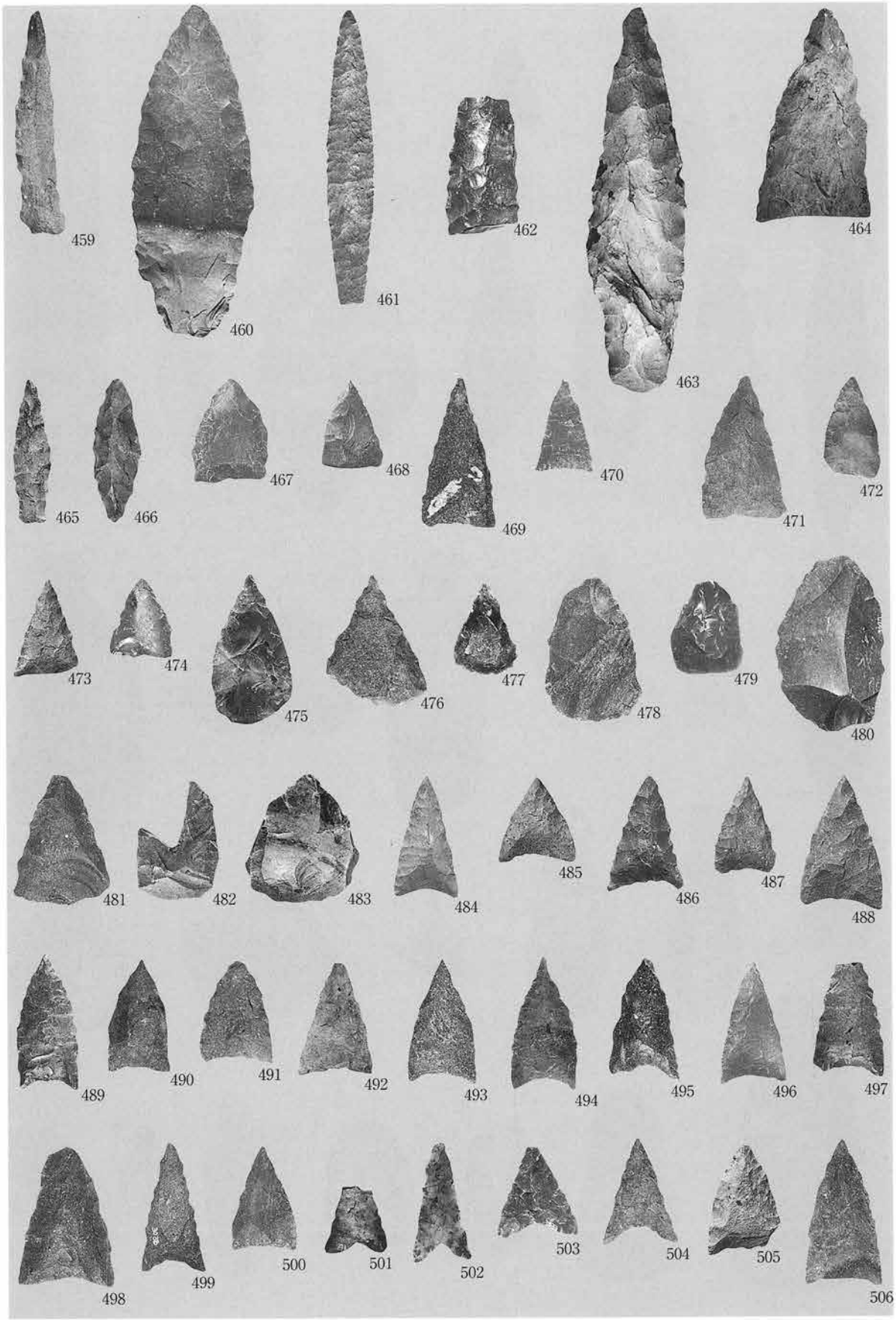
写真図版100　土器（29）　S=1/3



写真図版101　土器（30）　S=1/3

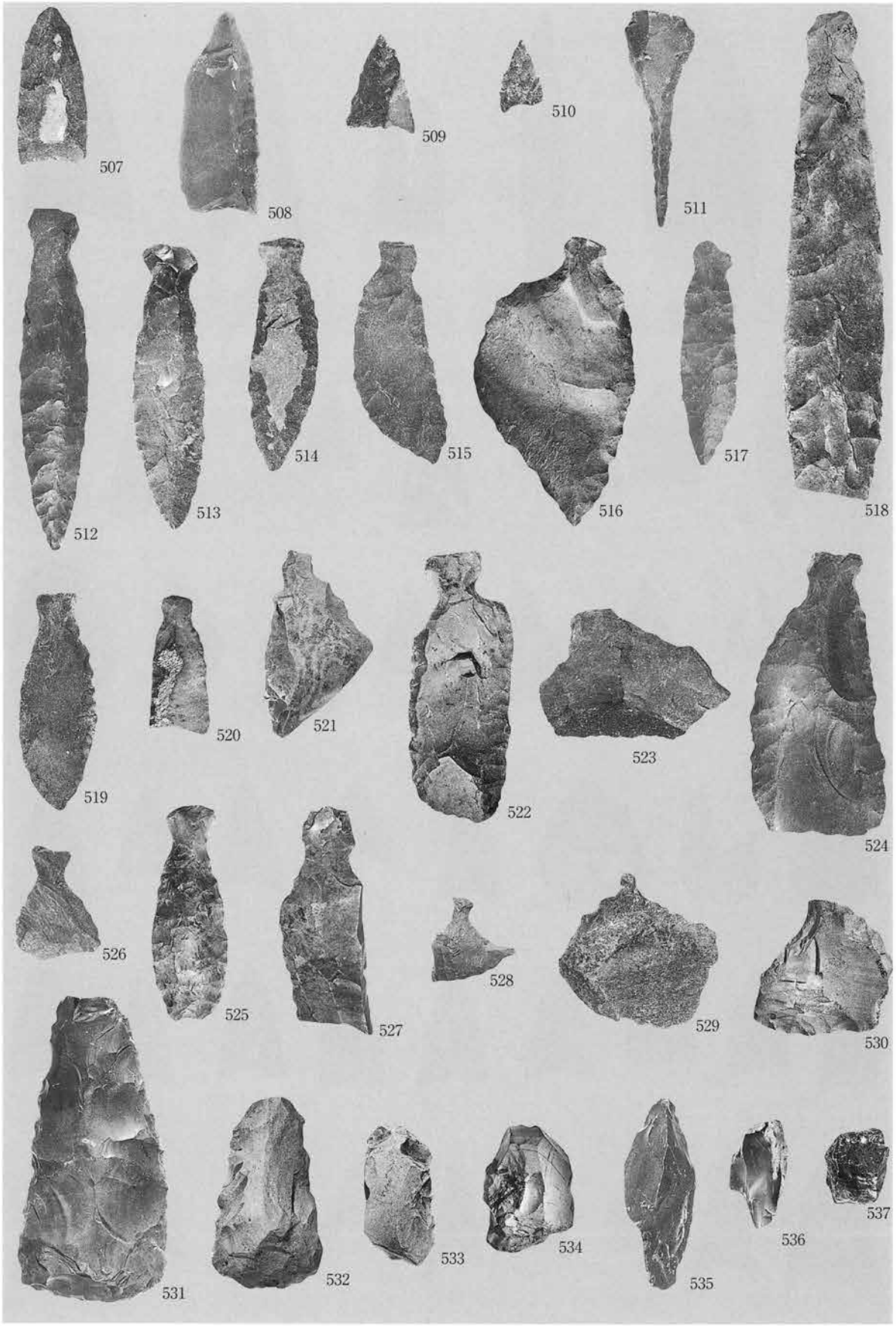


写真図版102　土製品（1）　S=1/2



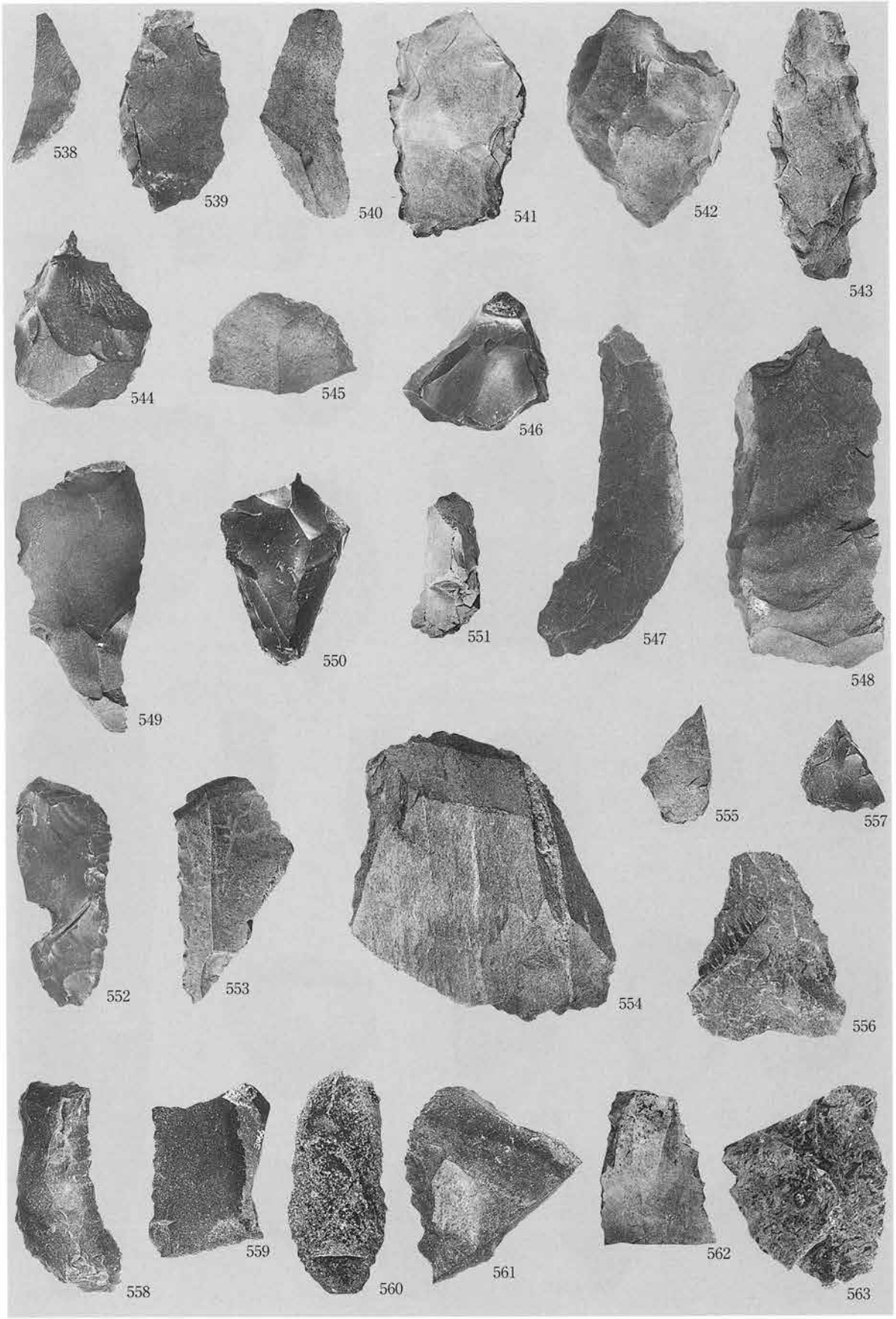
写真図版103　石器（1）

No.459～464：S=2/3
その他：S=3/4



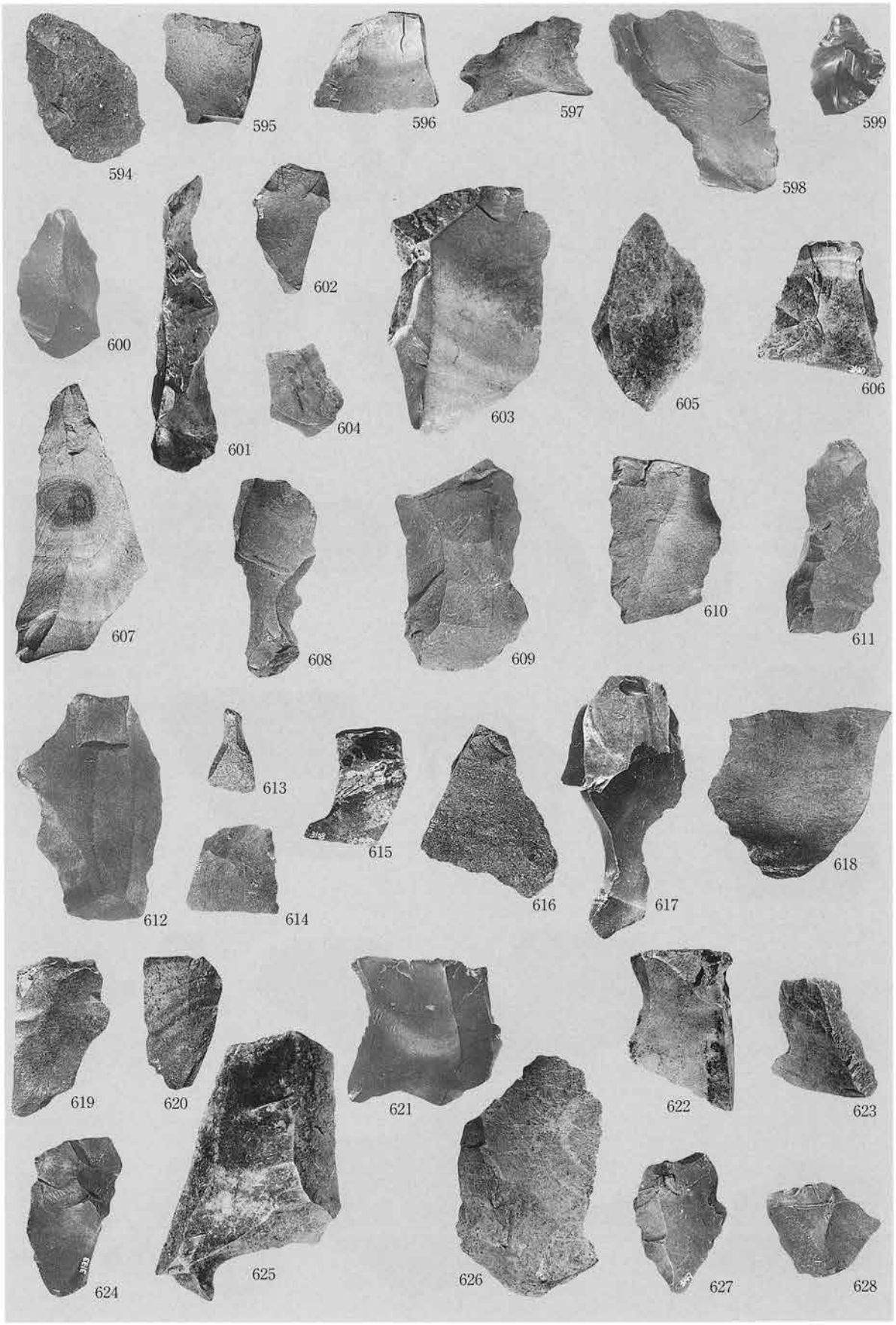
写真図版104　石器（2）

No.507～510：S=3/4
その他：S=2/3

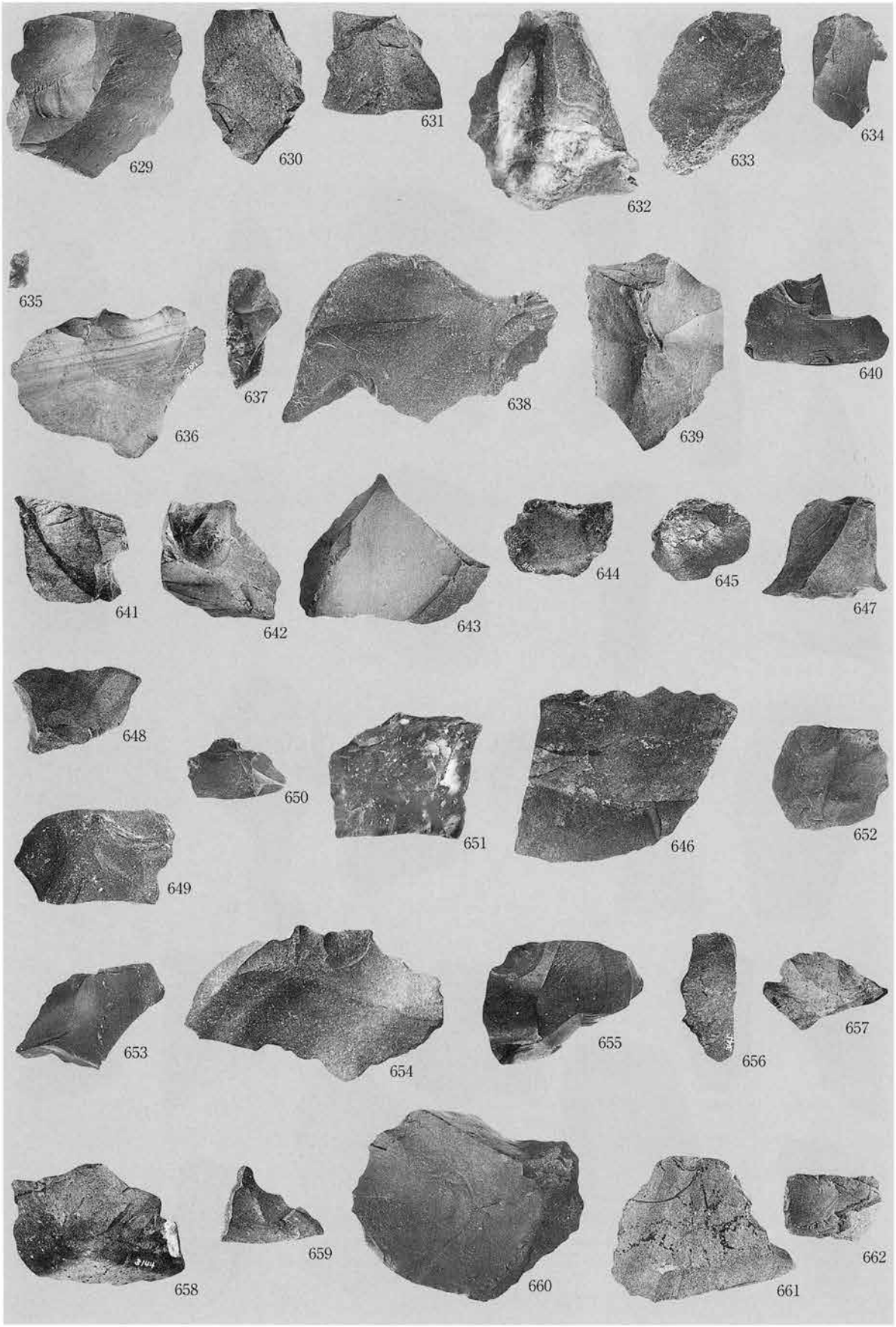


写真図版105　石器（3）　S=2/3

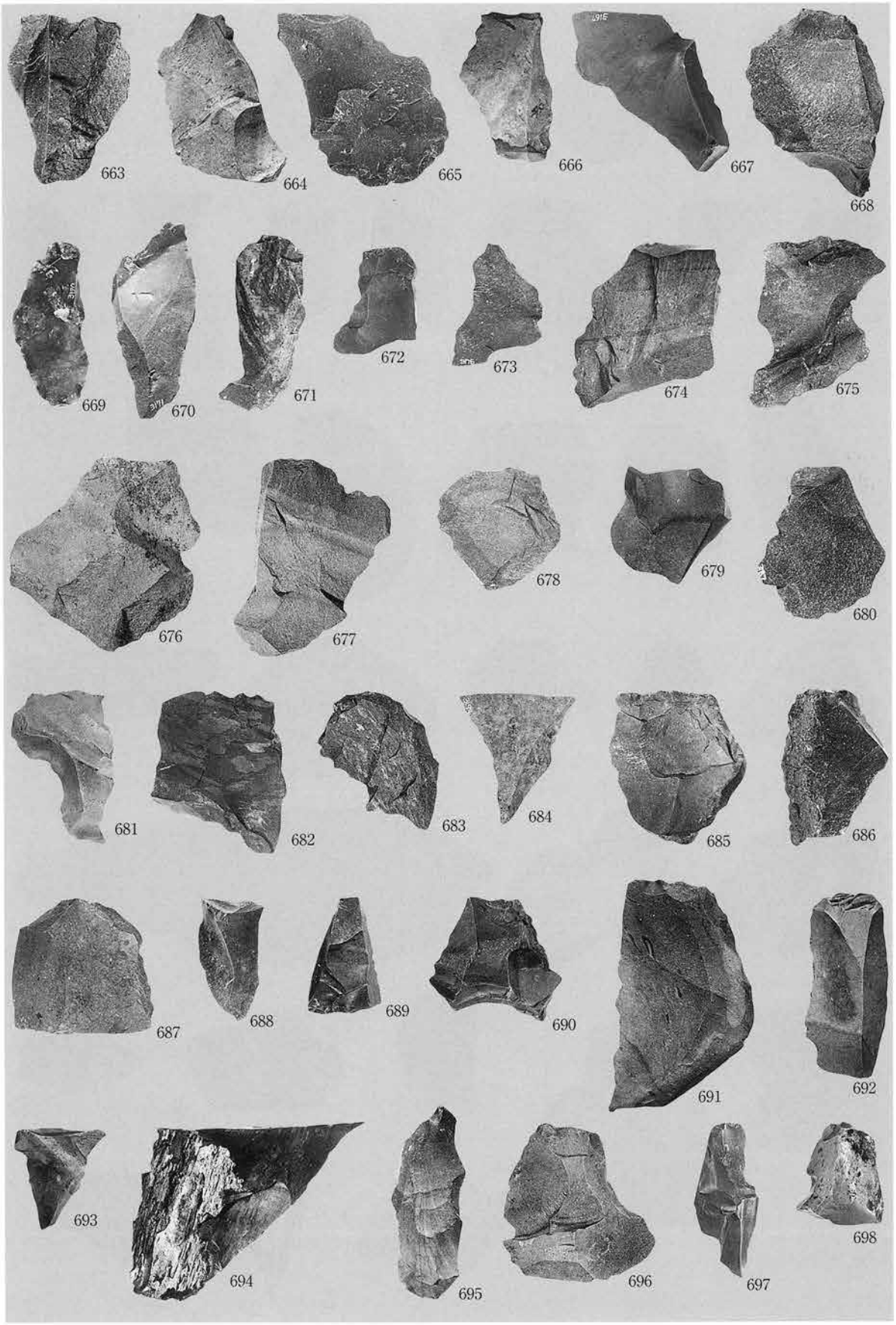
写真図版106　石器（4）　S=2/3



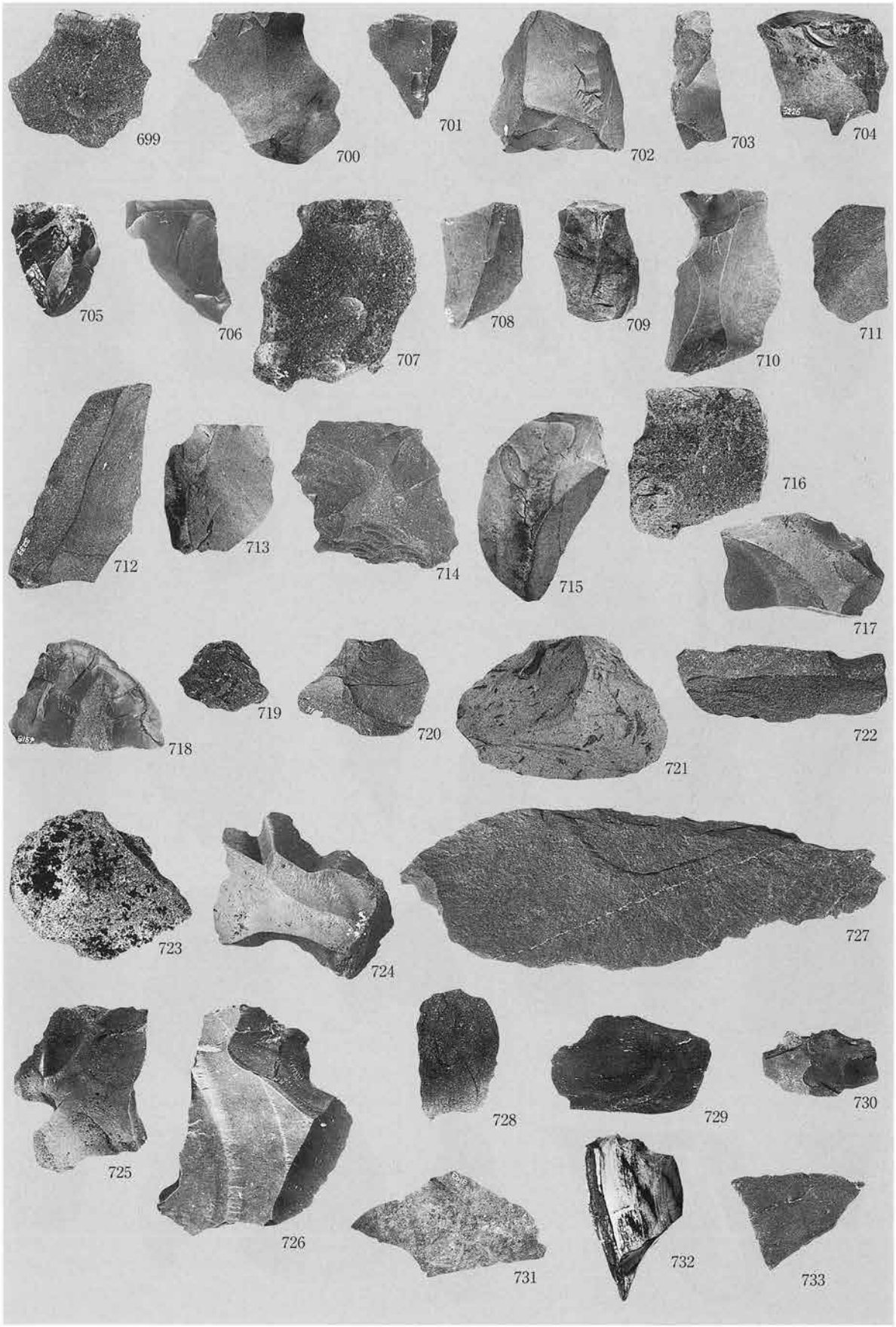
写真図版107　石器（5）　S=2/3



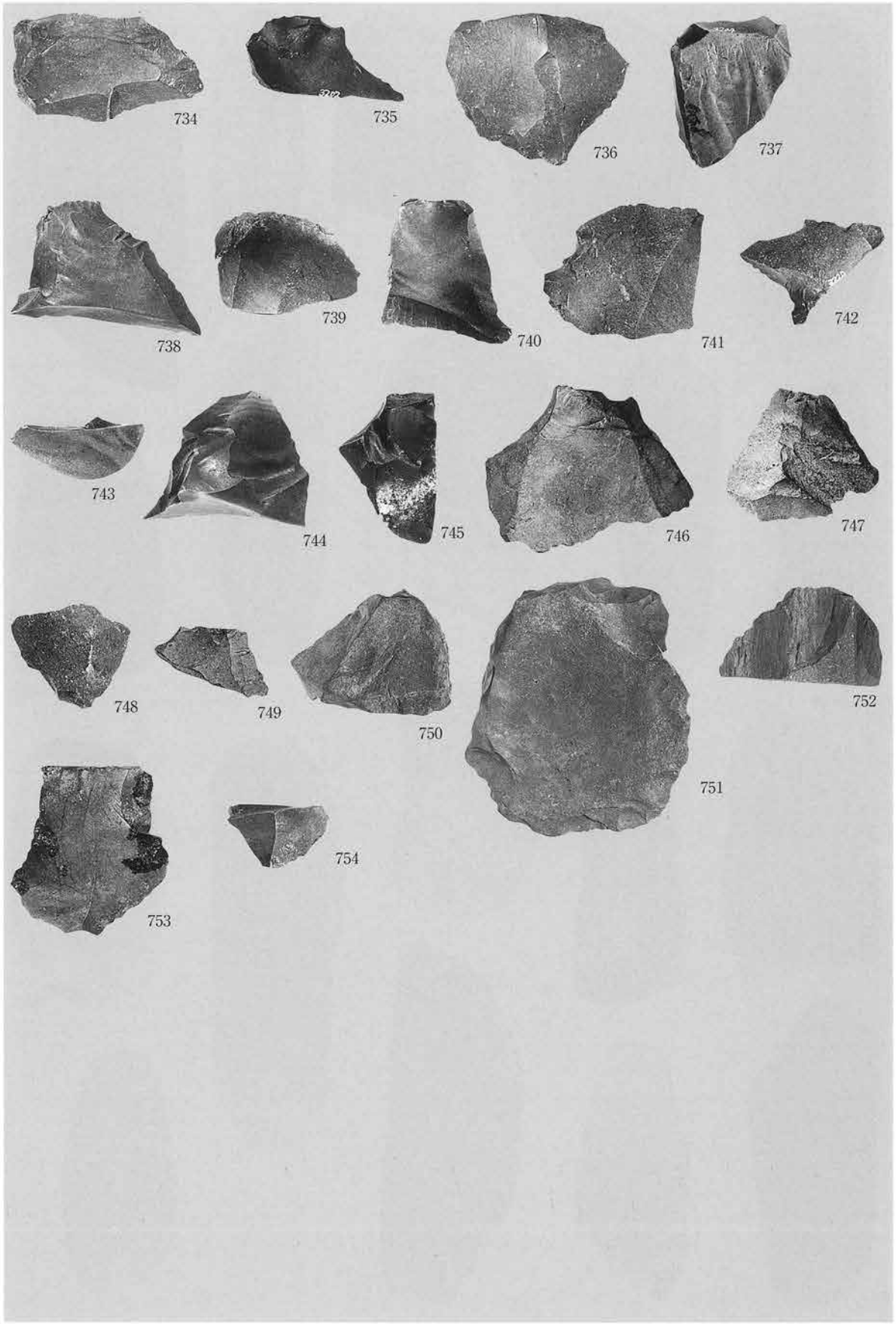
写真図版108　石器（6）　S=2/3



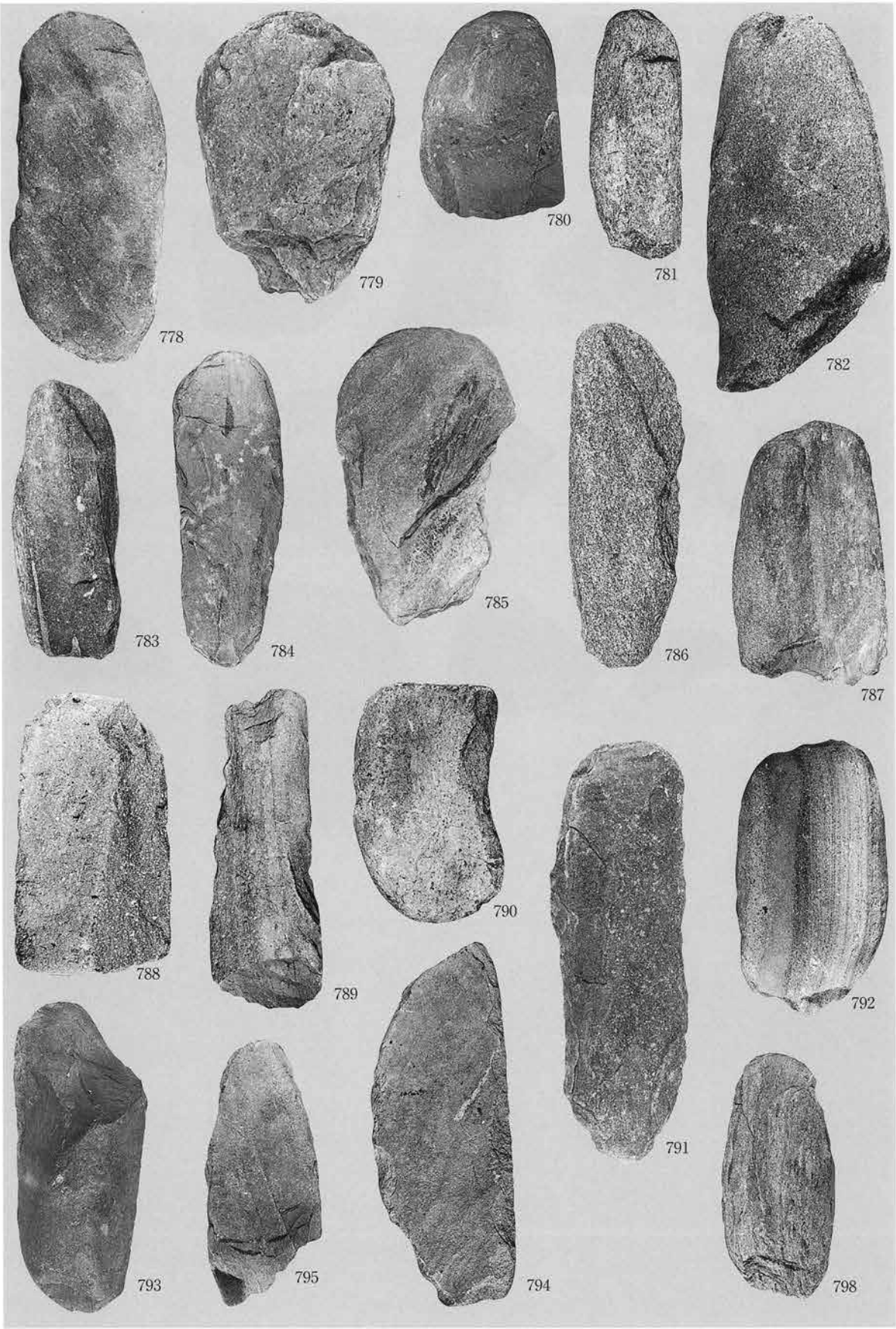
写真図版109　石器（7）　S=2/3



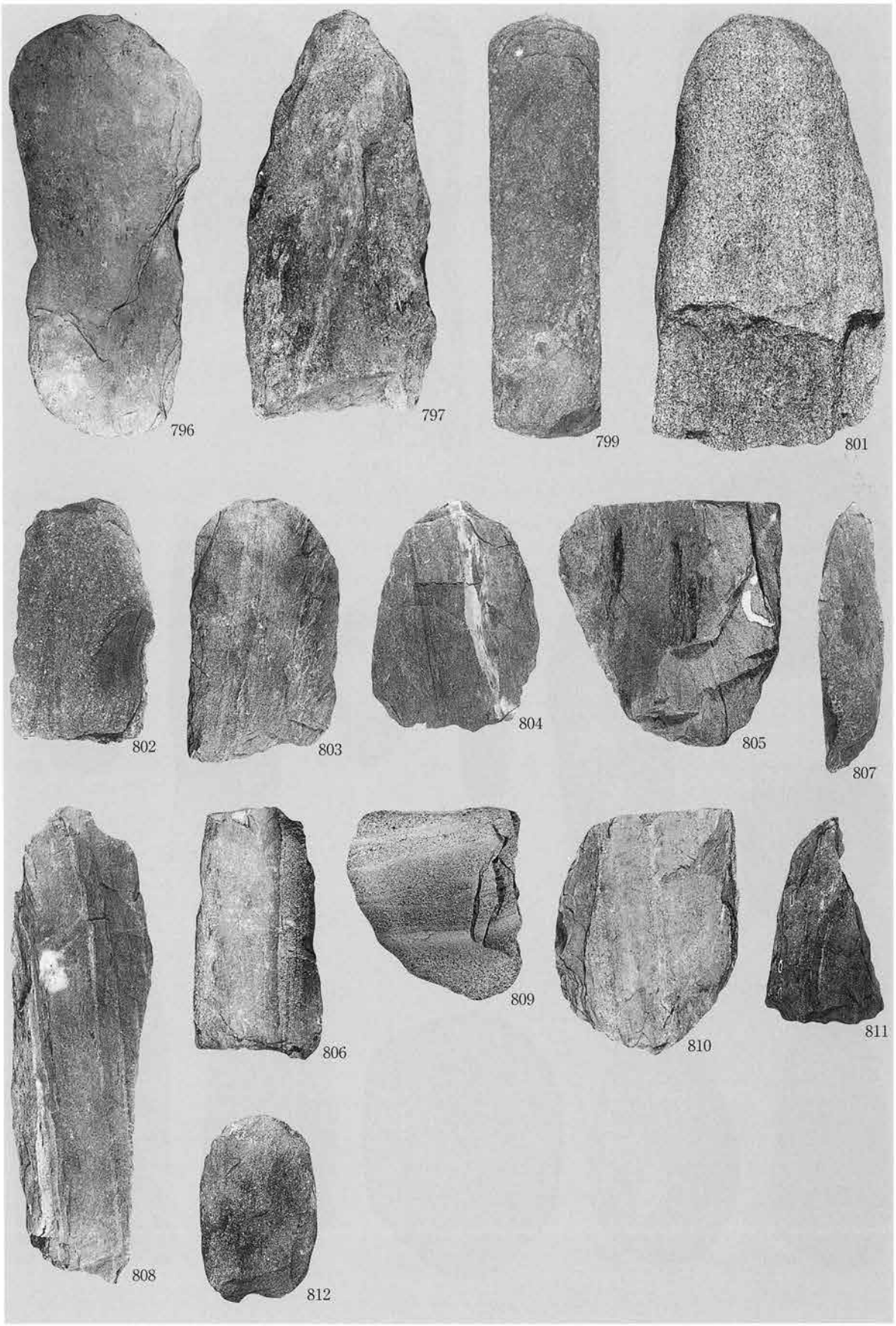
写真図版110　石器（8）　S=2/3



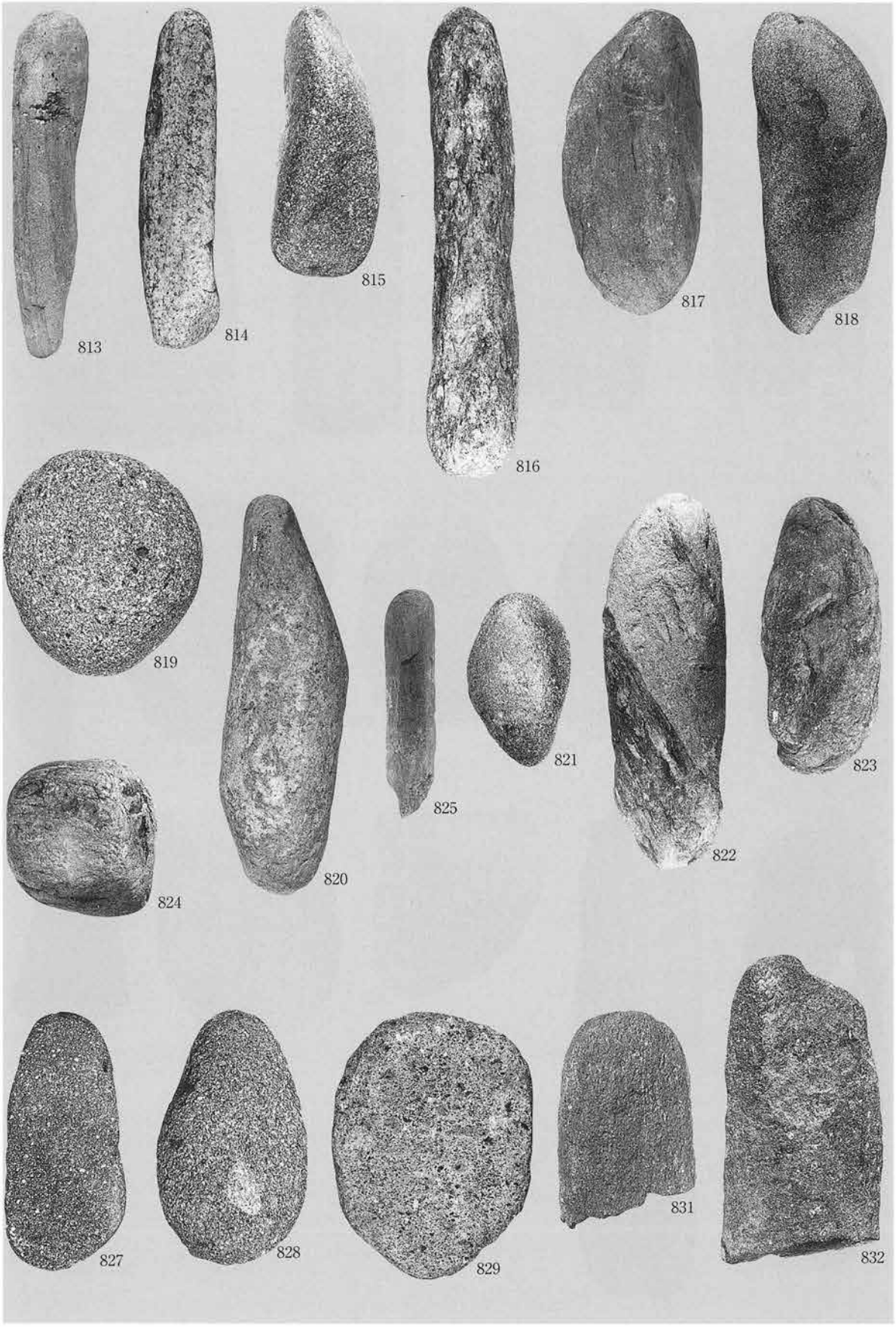
写真図版111　石器（9）　S=2/3



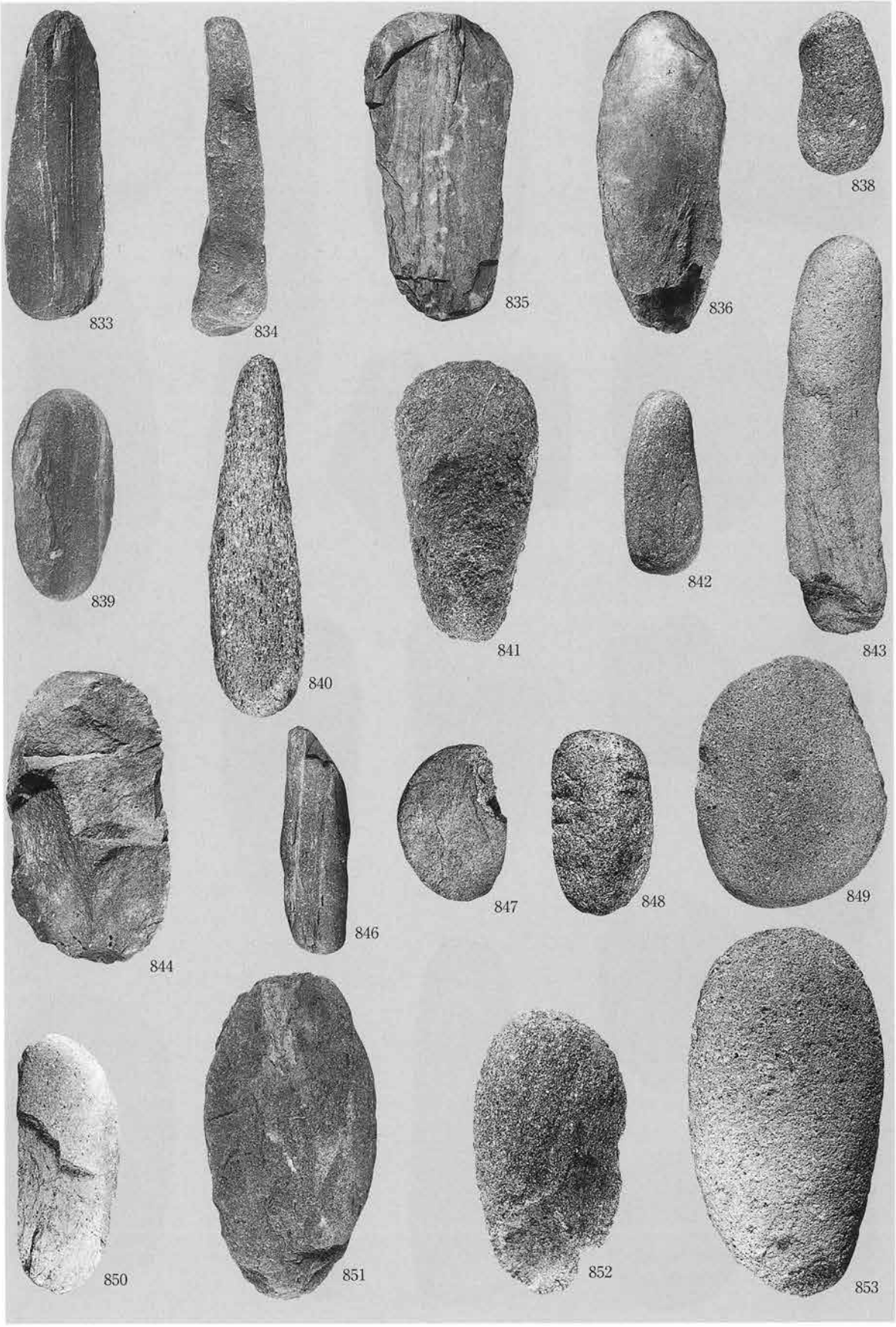
写真図版112　石器（10）　S=1/3



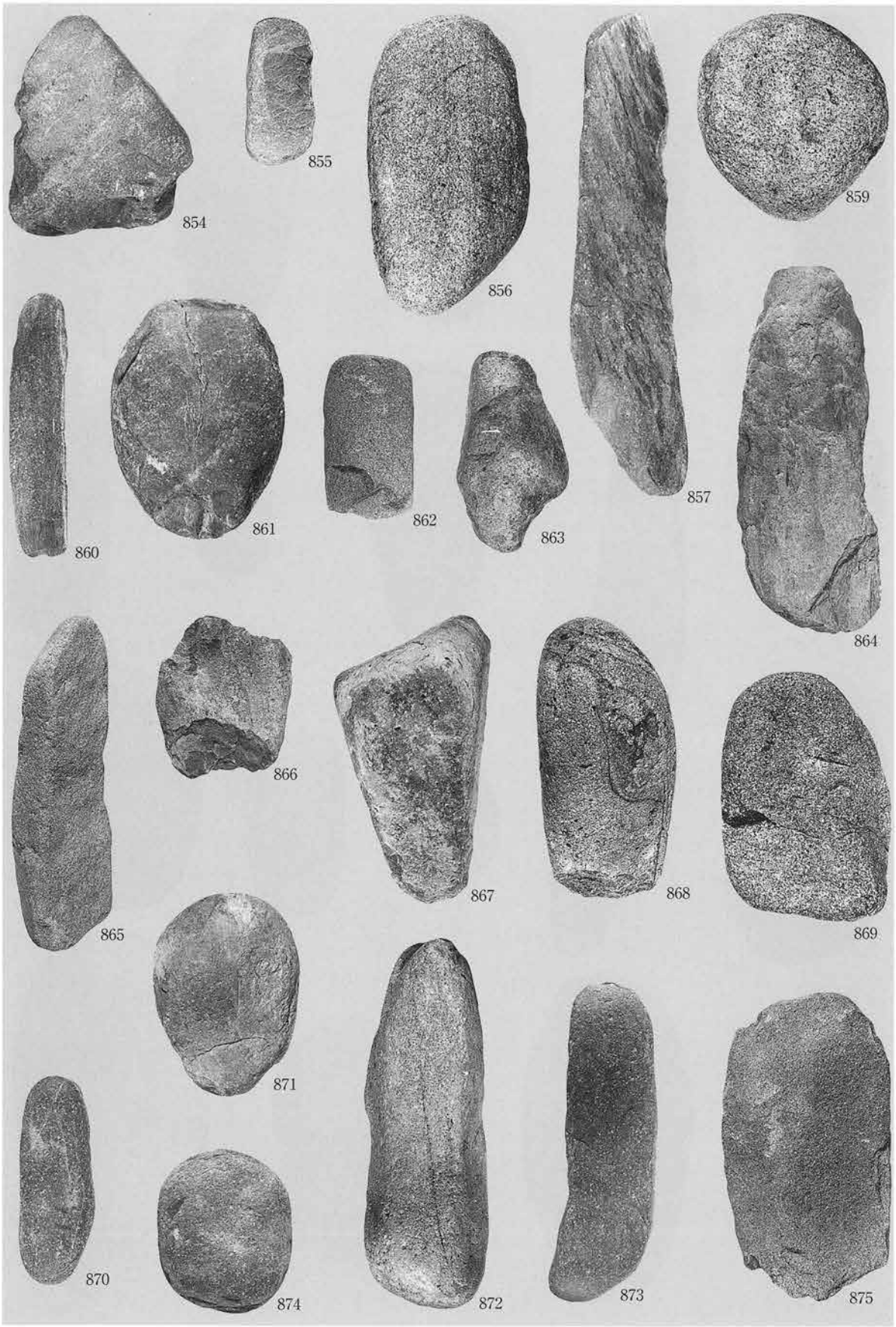
写真図版113　石器（11）　S=1/3



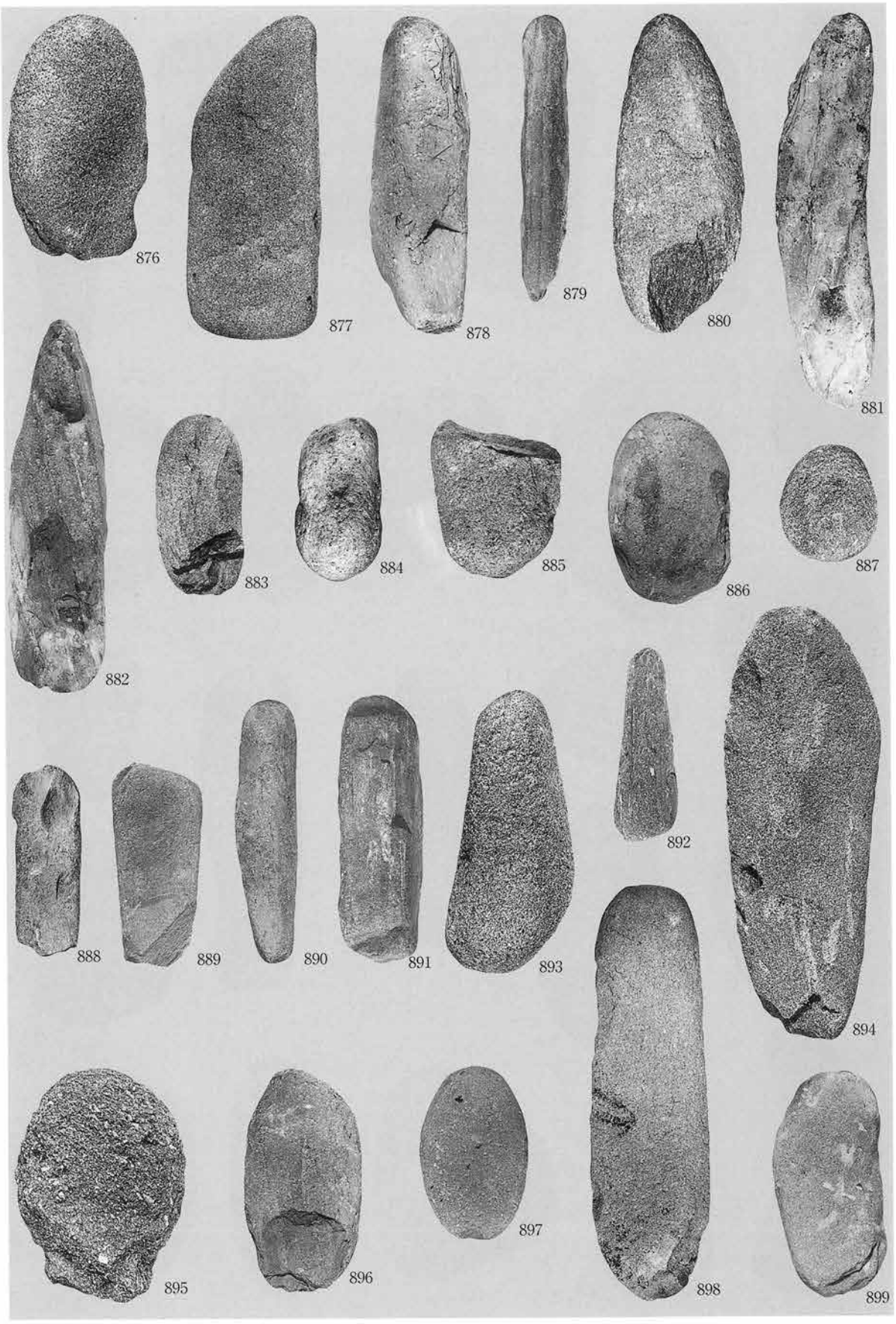
写真図版114　石器（12）　S=1/3



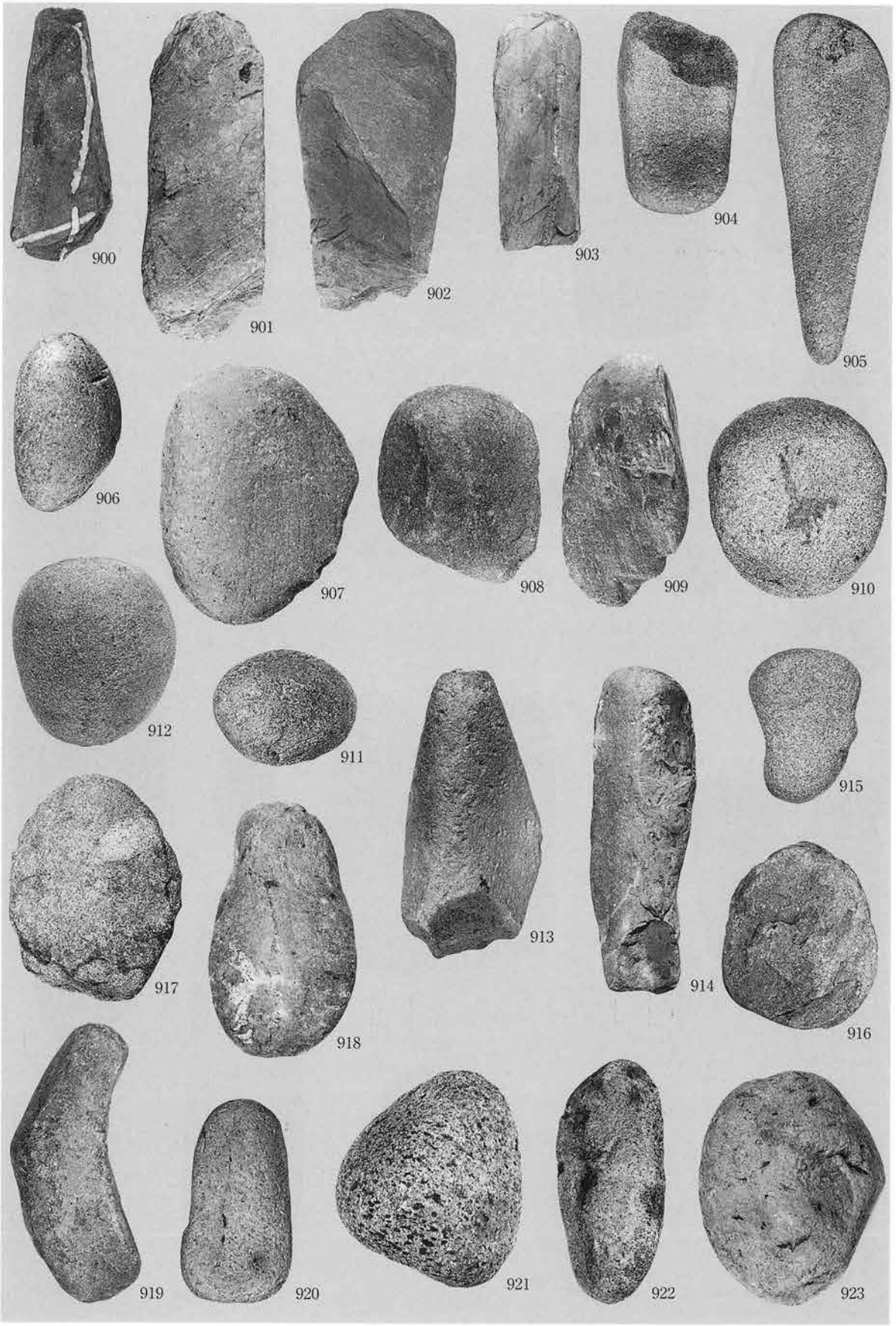
写真図版115　石器（13）　S=1/3



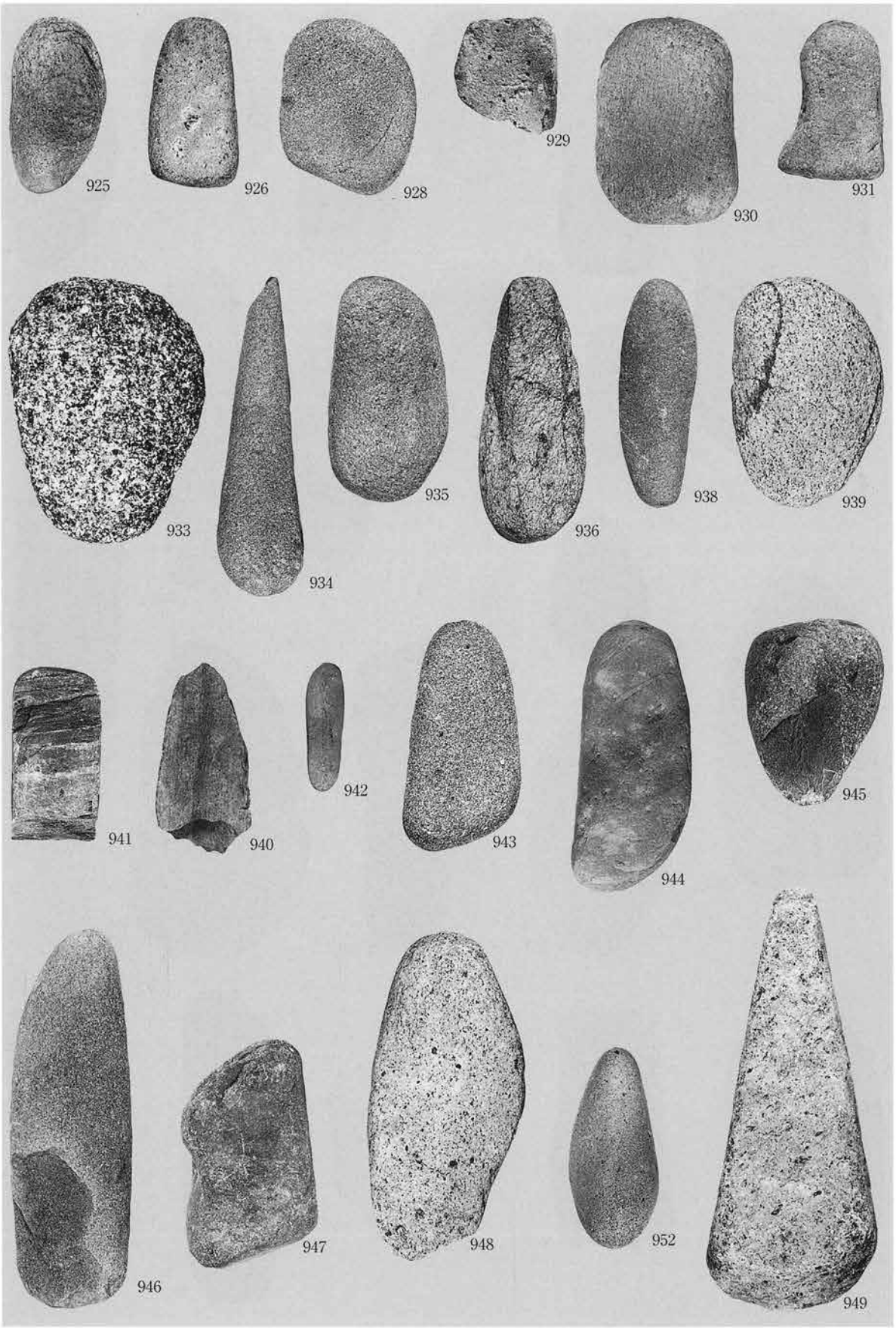
写真図版116　石器（14）　S=1/3



写真図版117　石器（15）　S=1/3

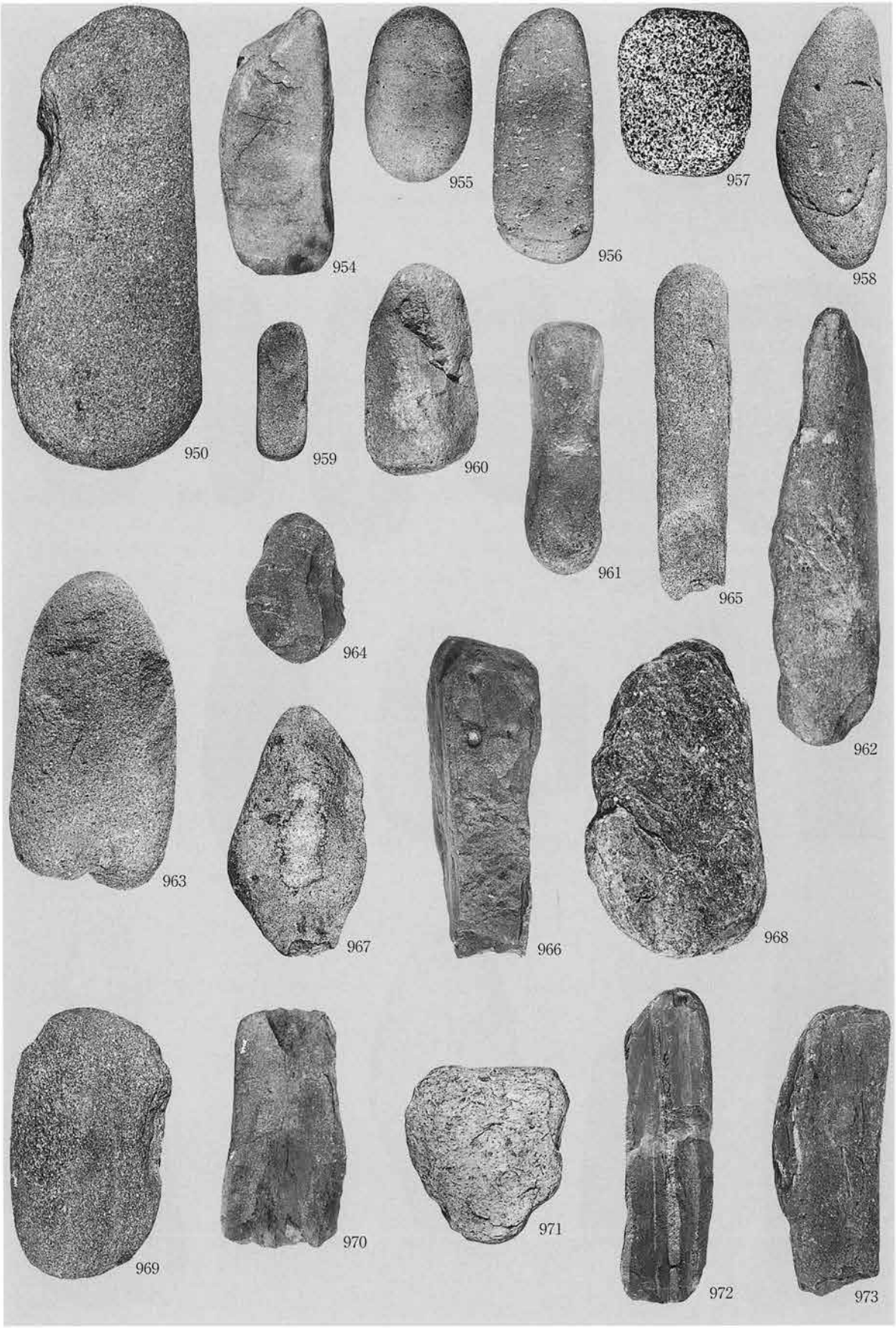


写真図版118　石器（16）　S=1/3

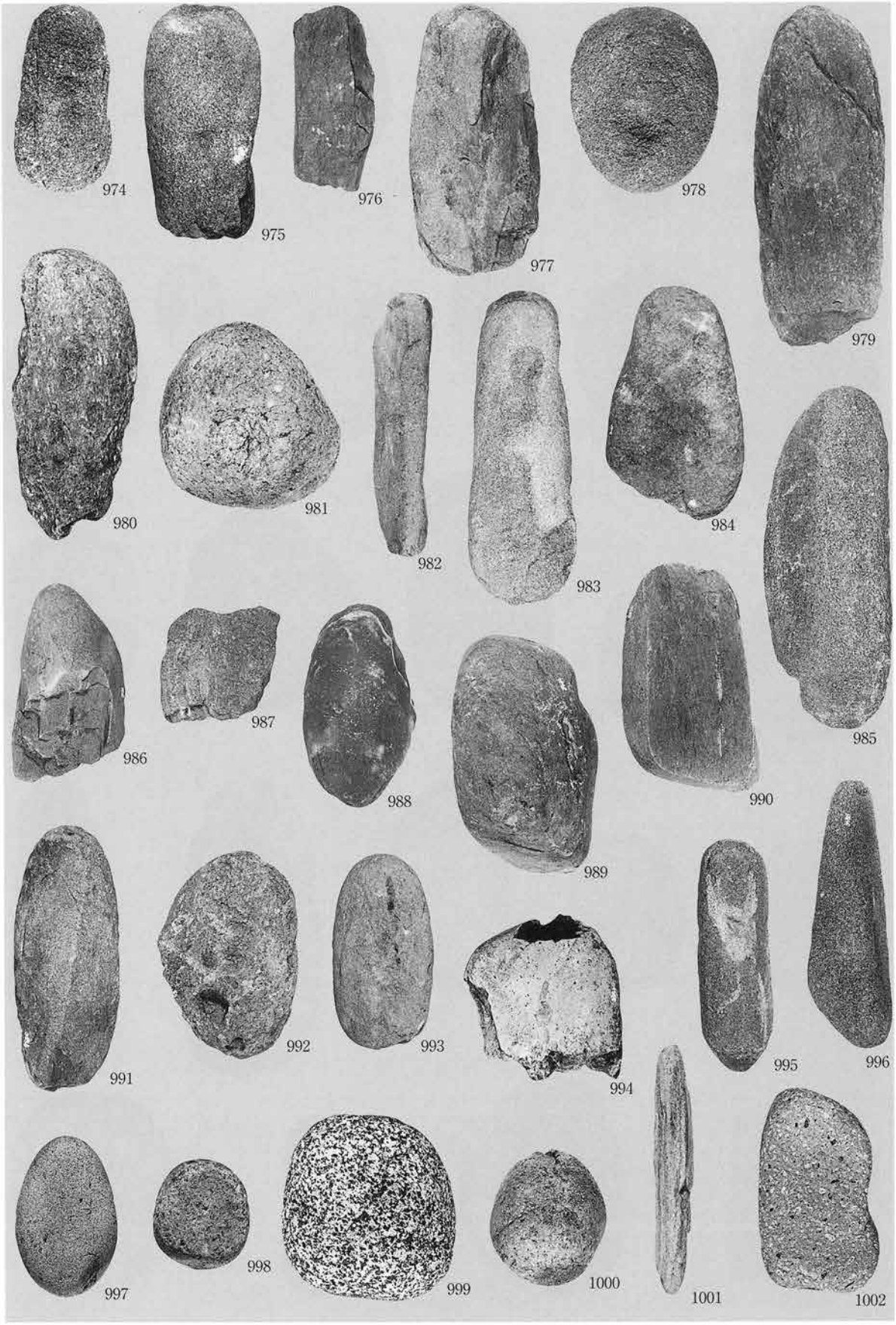


写真図版119　石器（17）

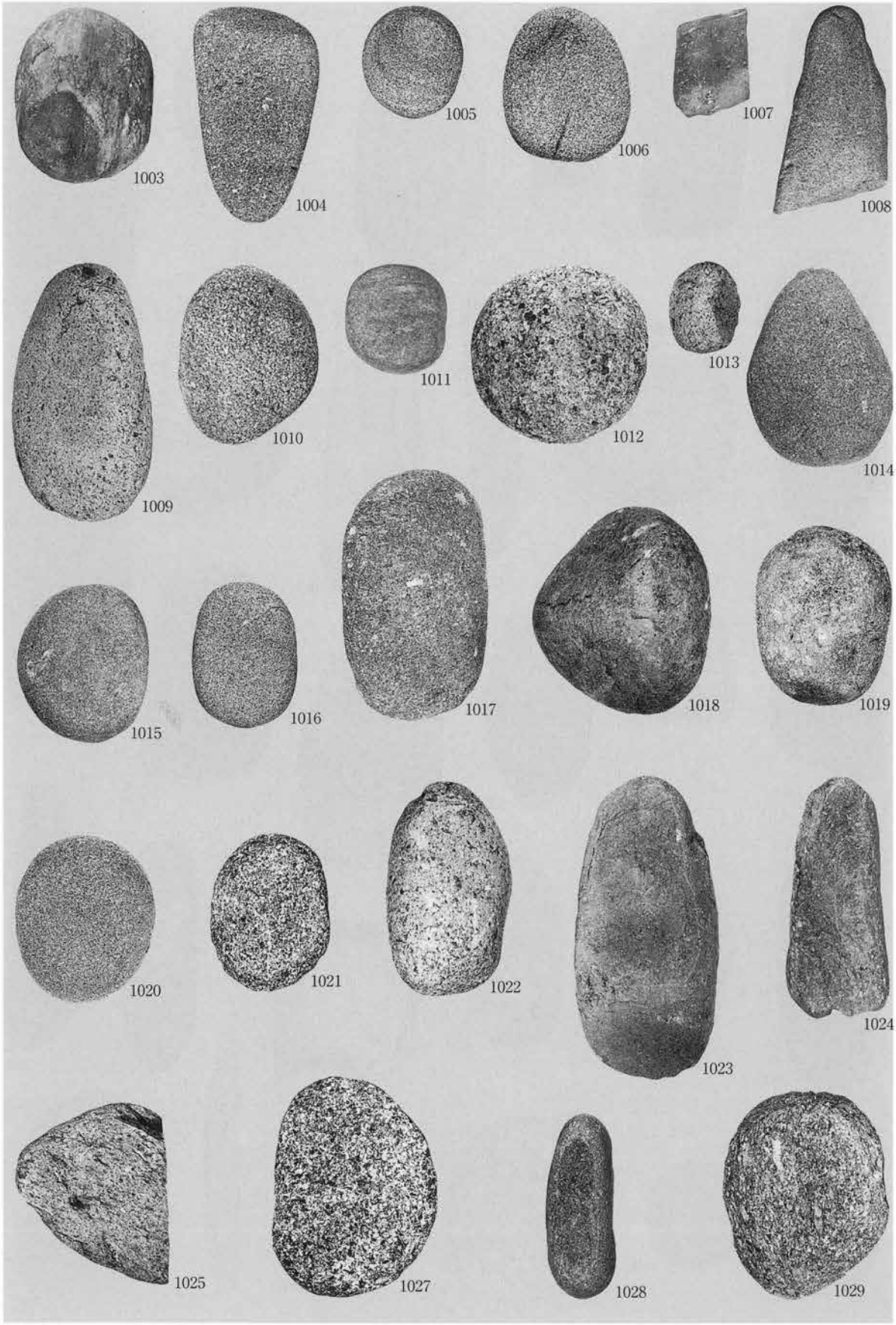
S=1/3



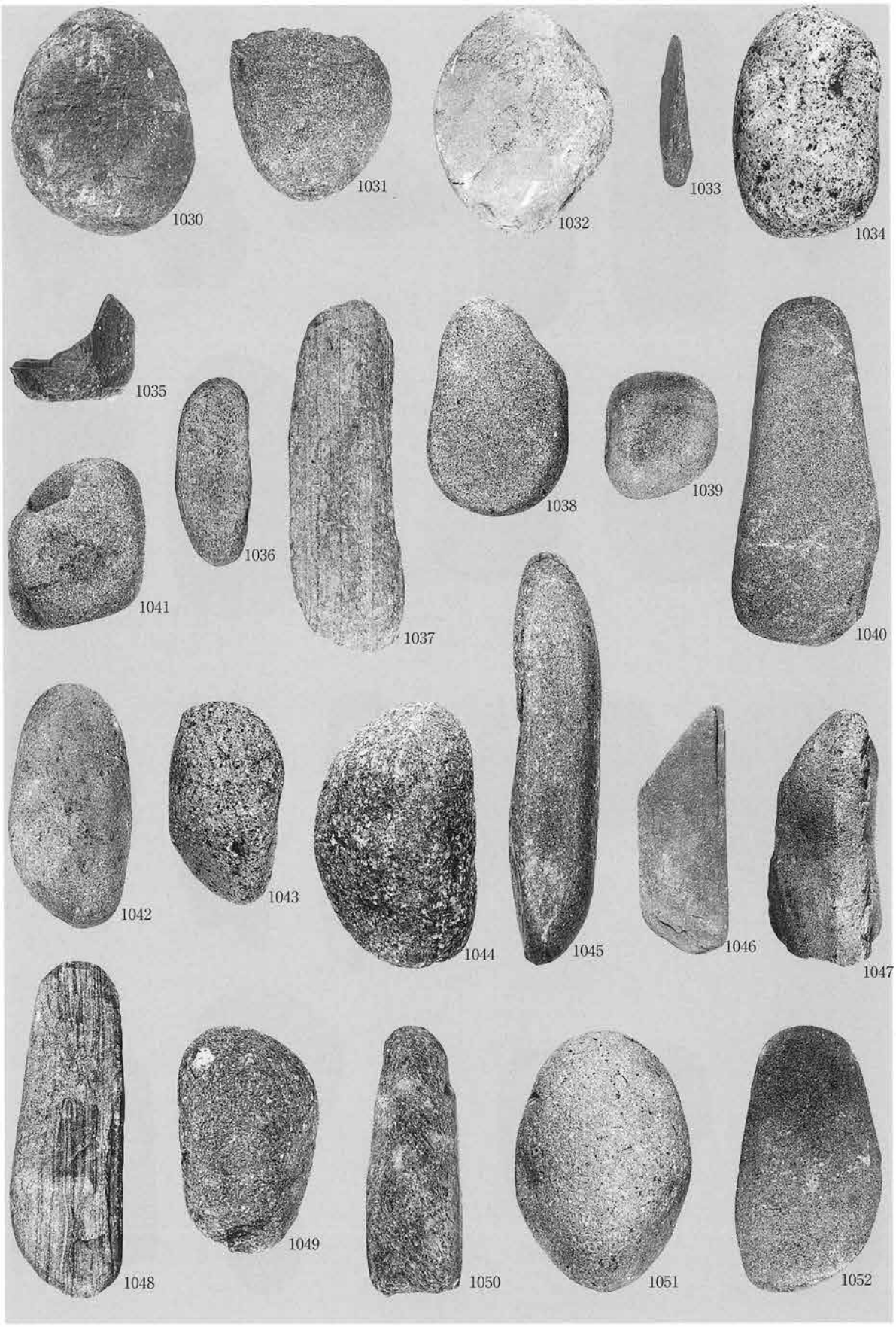
写真図版120　石器（18）　S=1/3



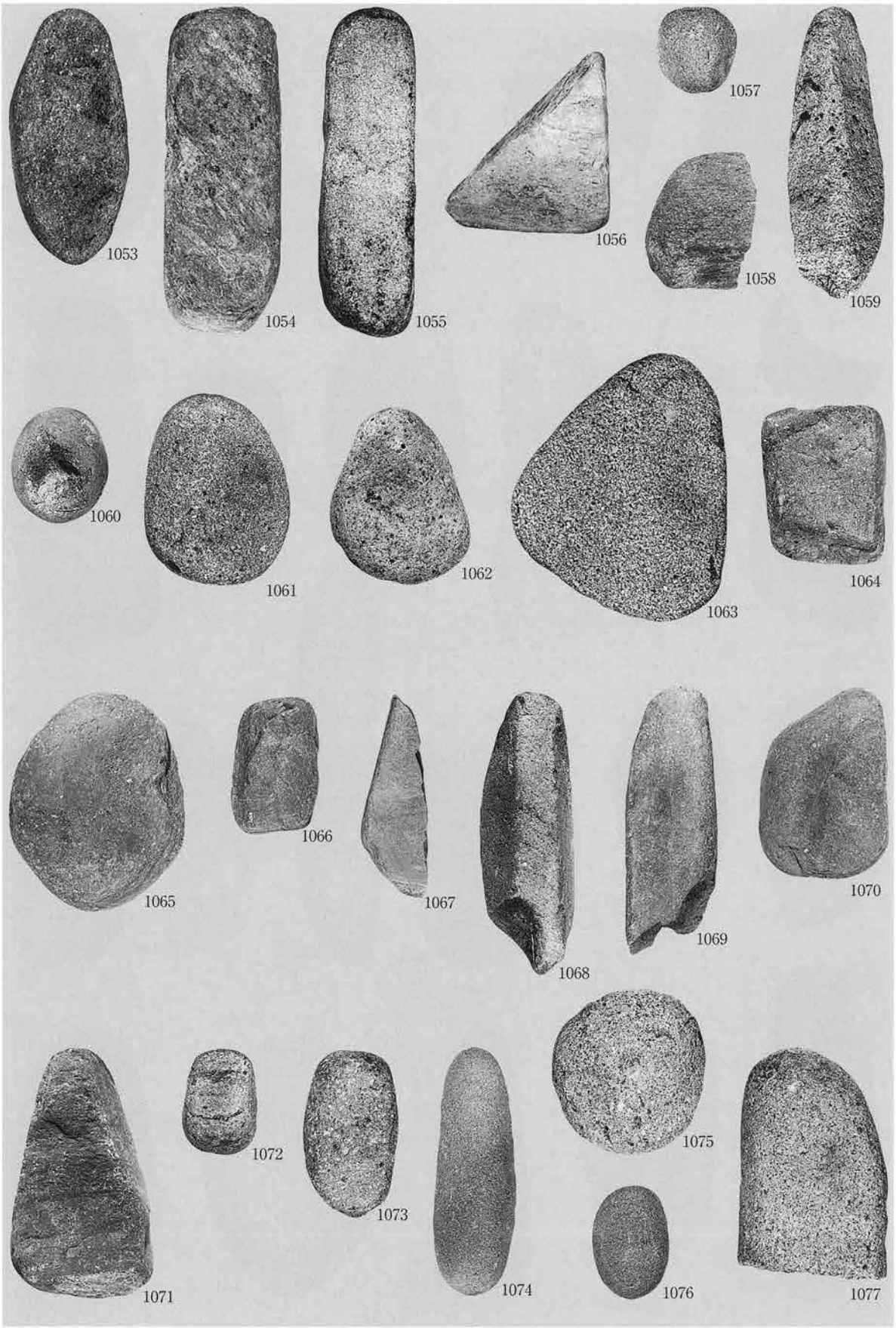
写真図版121　石器（19）　S=1/3



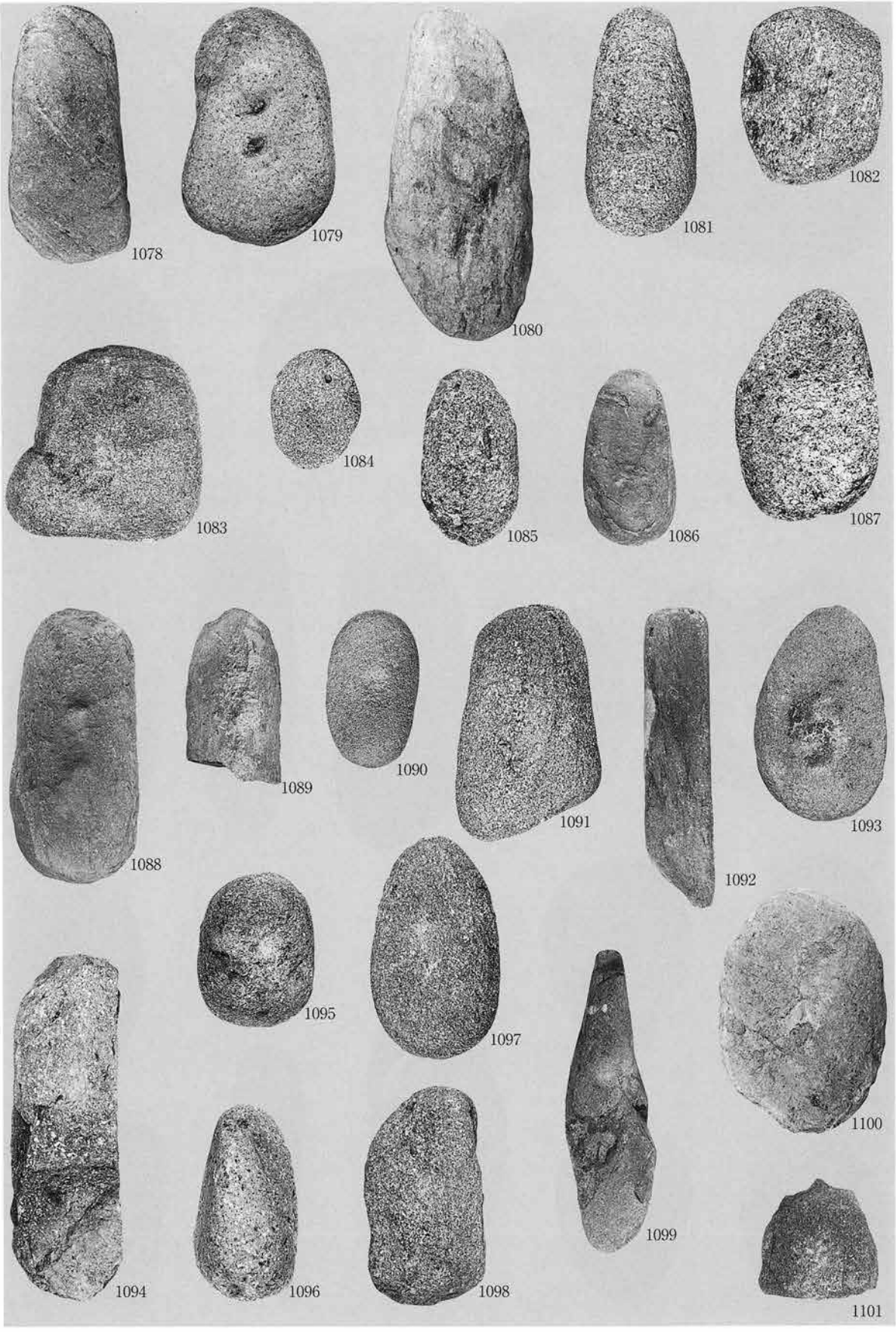
写真図版122　石器（20）　S=1/3



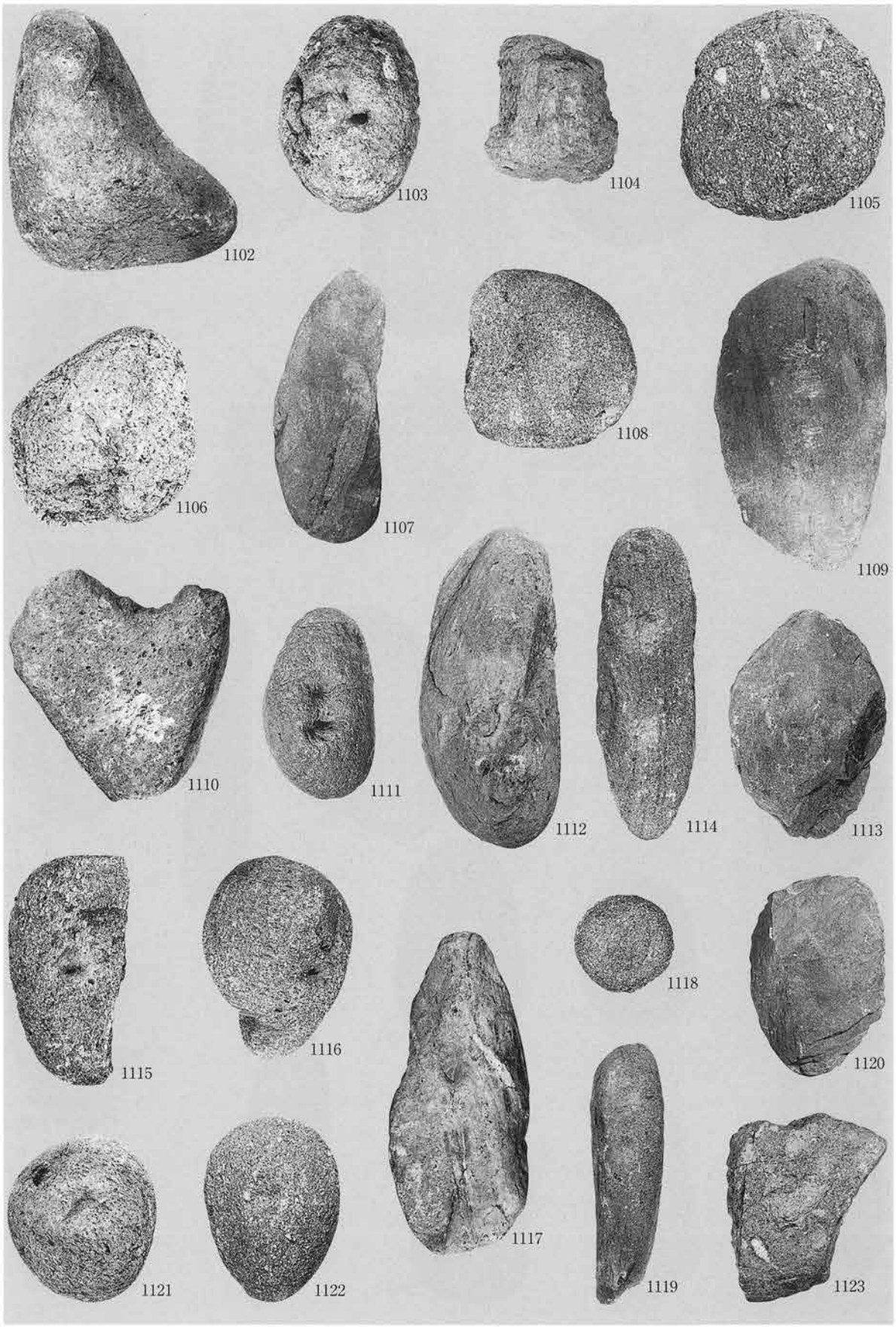
写真図版123　石器（21）　　S=1/3



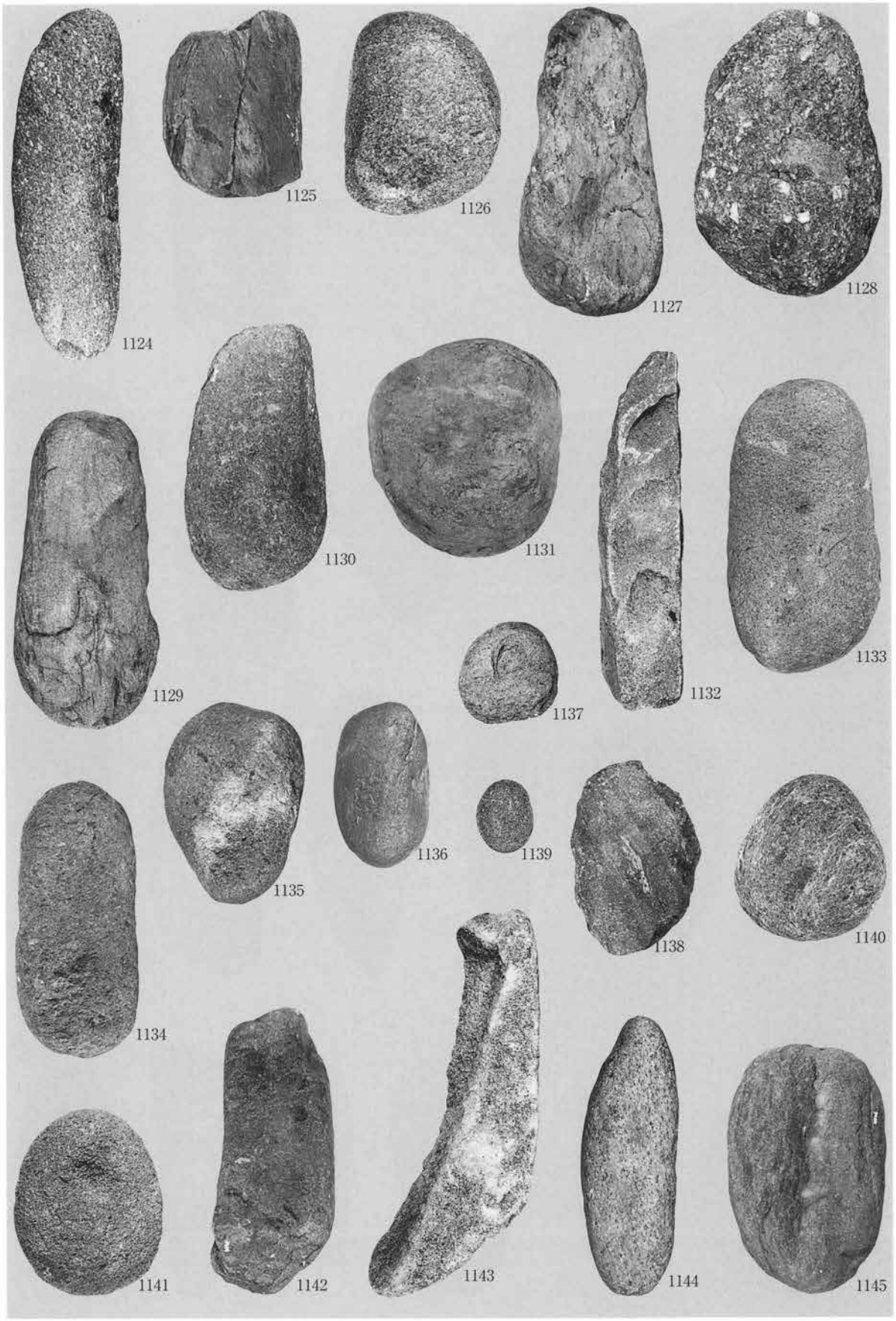
写真図版124　石器（22）　　S=1/3



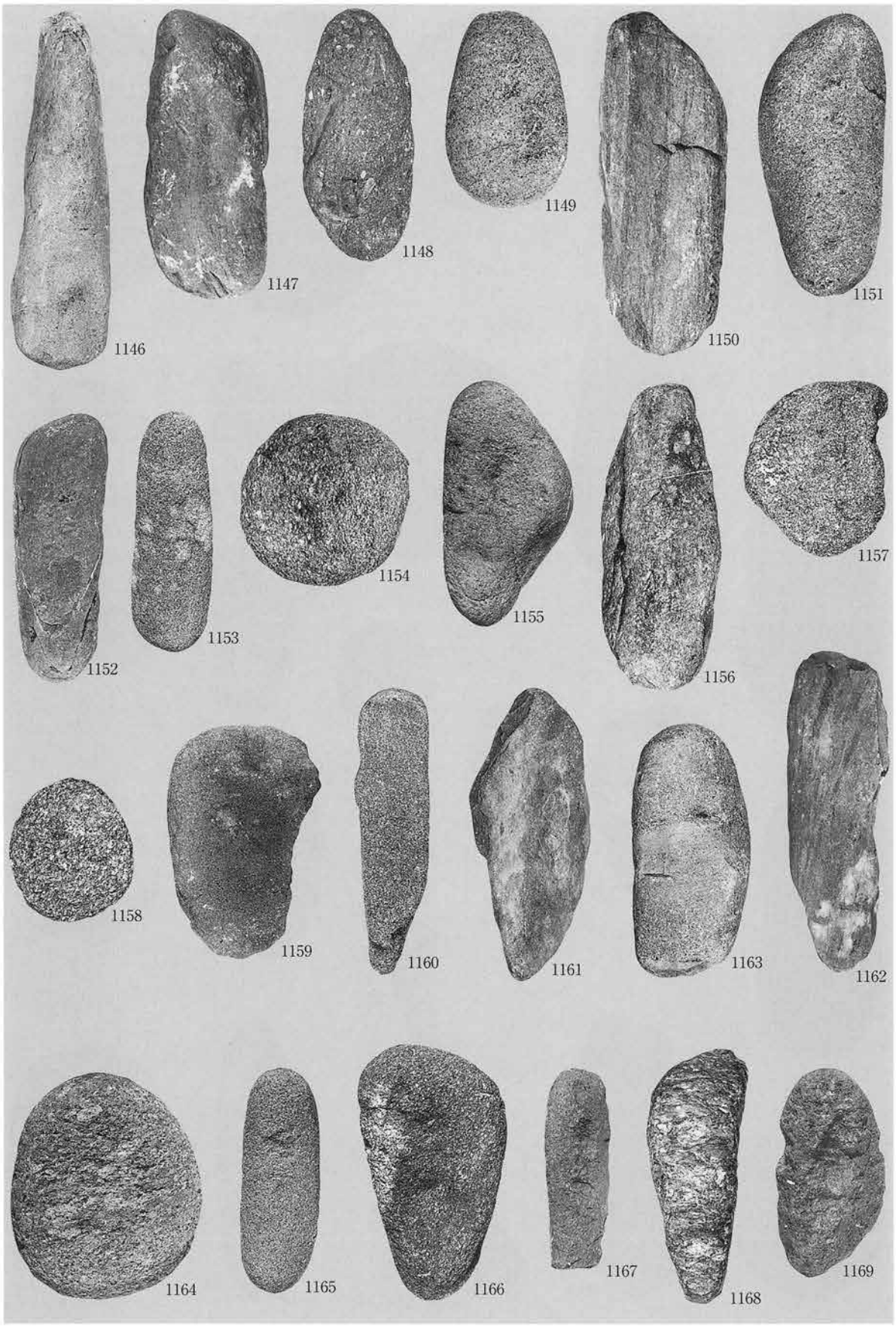
写真図版125　石器（23）　S=1/3



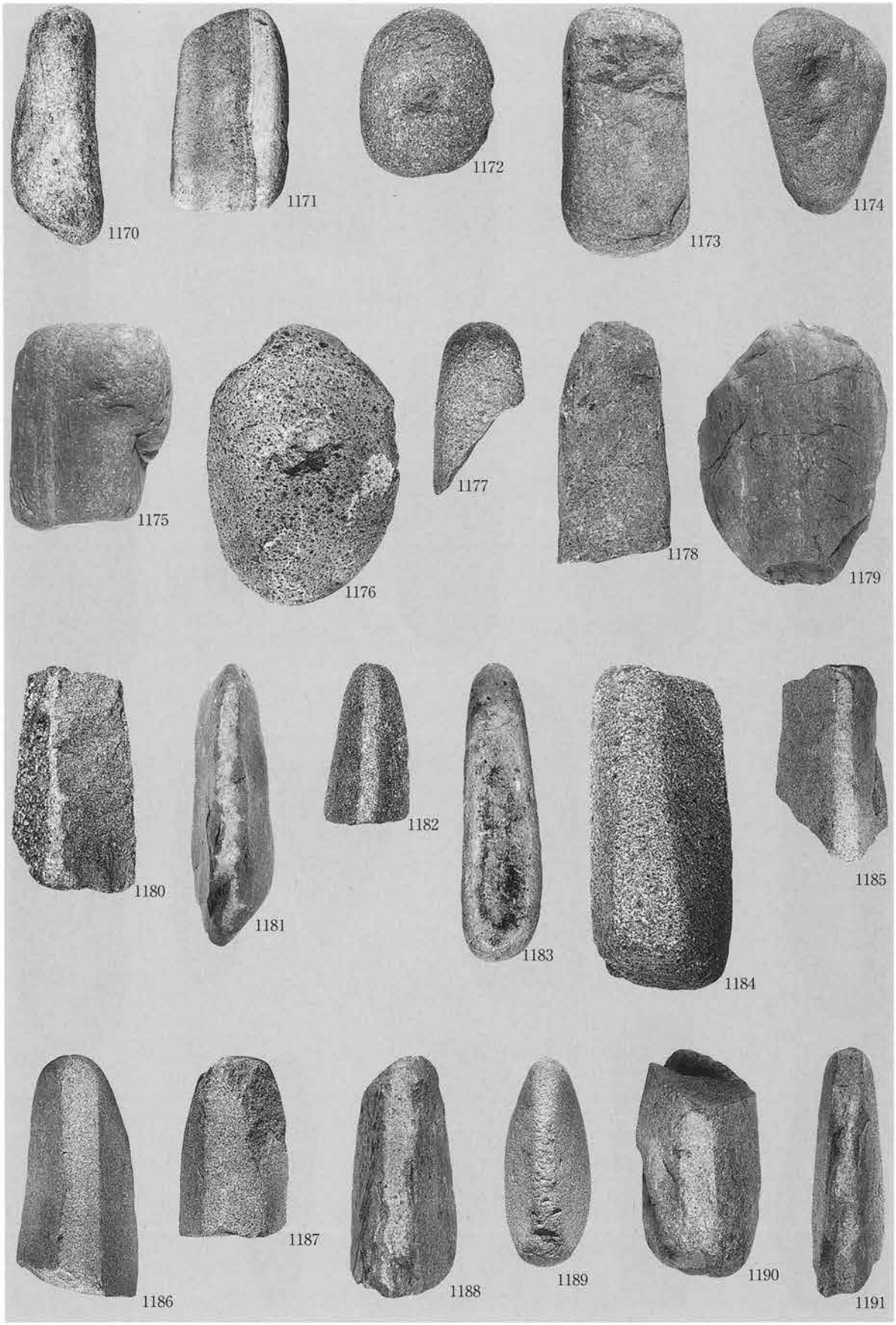
写真図版126　石器（24）　　S=1/3



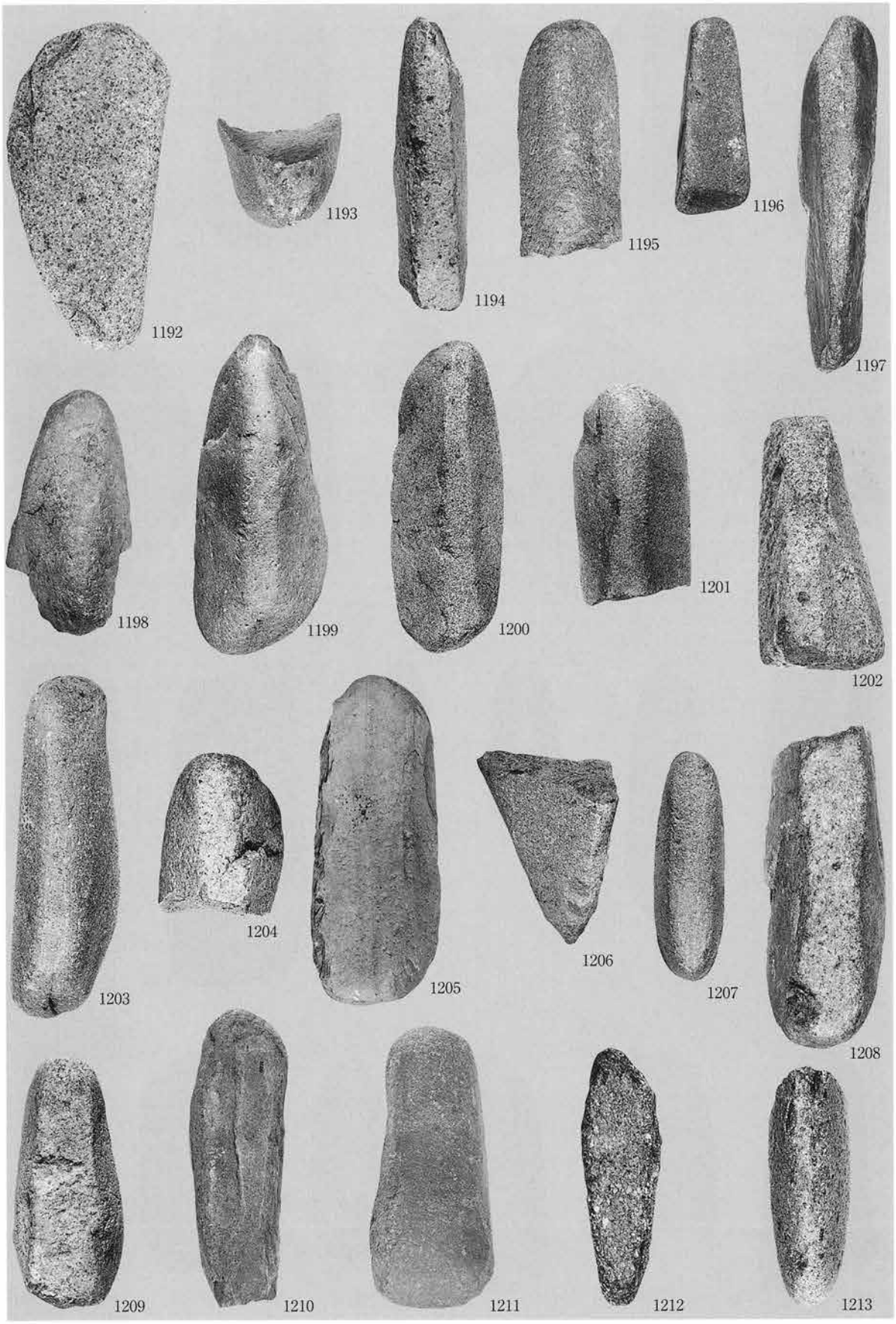
写真図版127　石器（25）　S=1/3



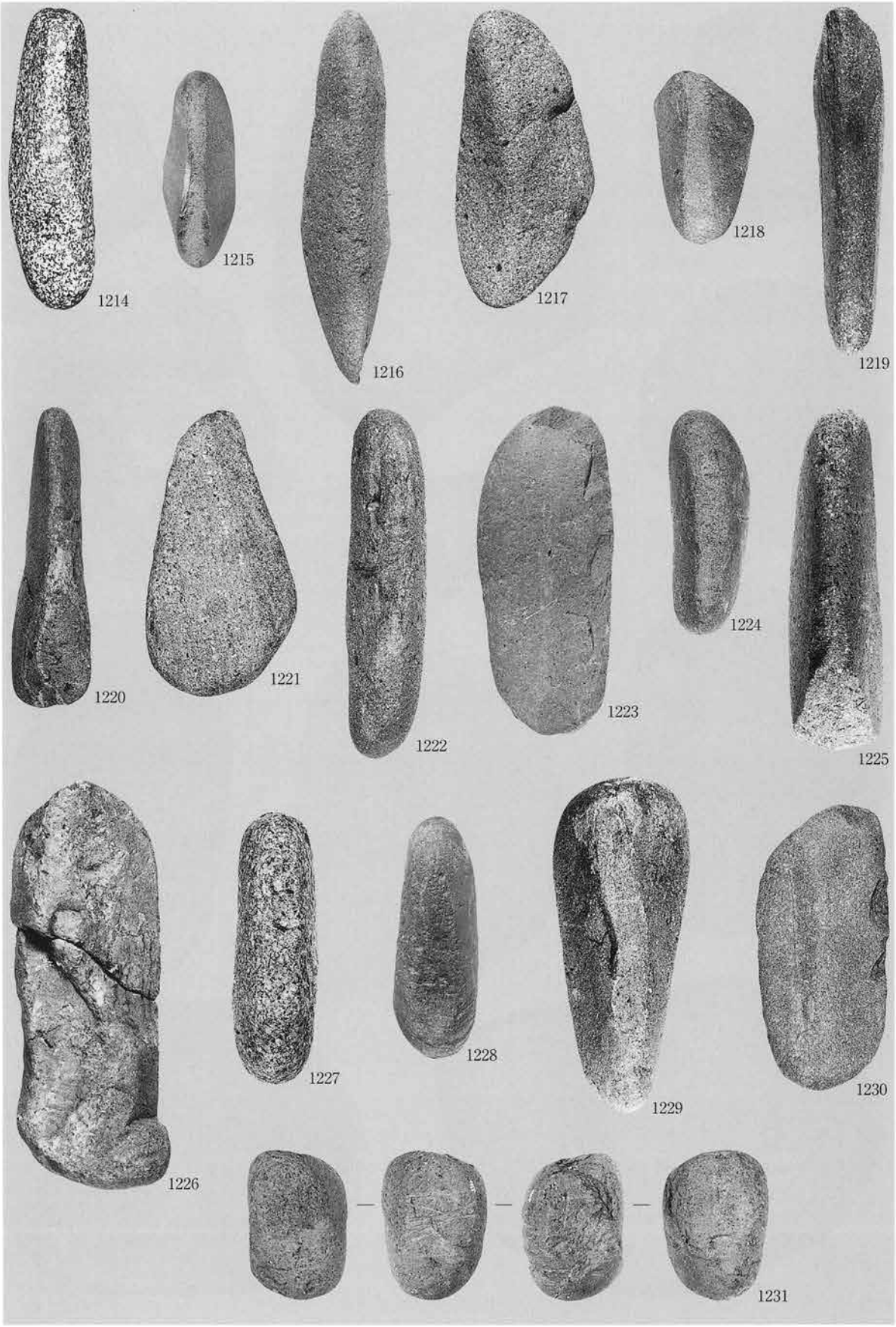
写真図版128　石器（26）　　S=1/3



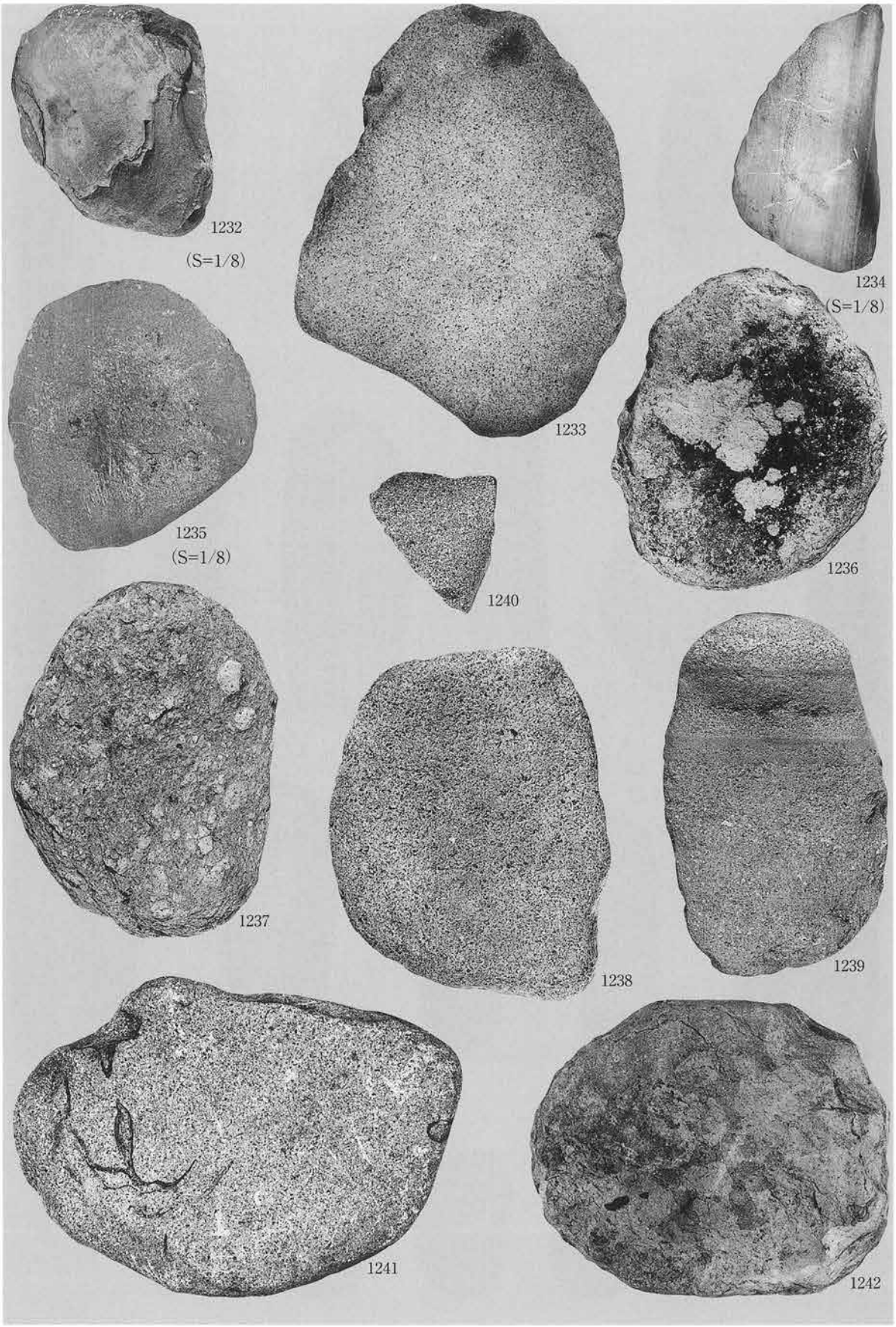
写真図版129　石器（27）　　S=1/3



写真図版130　石器（28）　　S=1/3

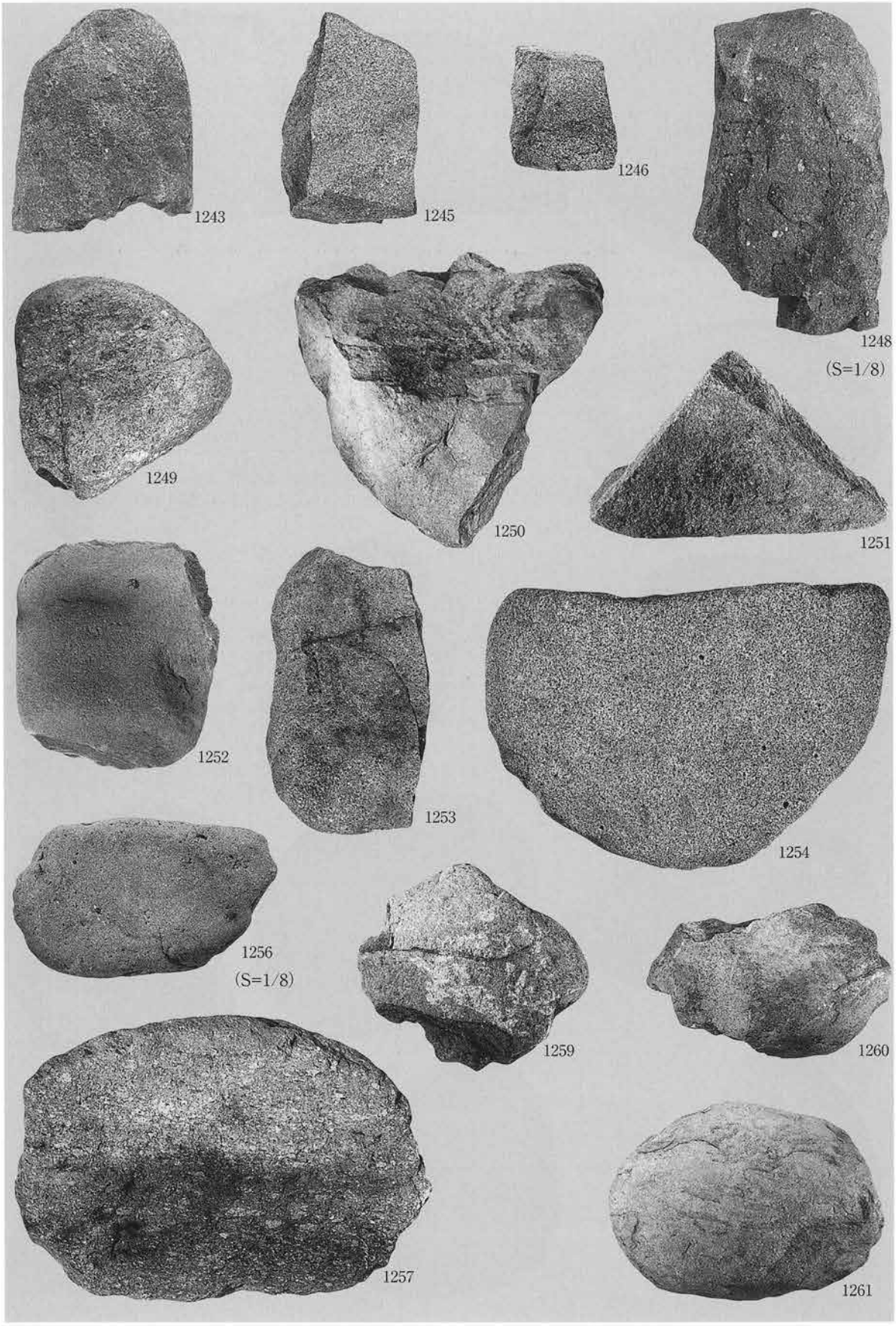


写真図版131　石器（29）　S=1/3



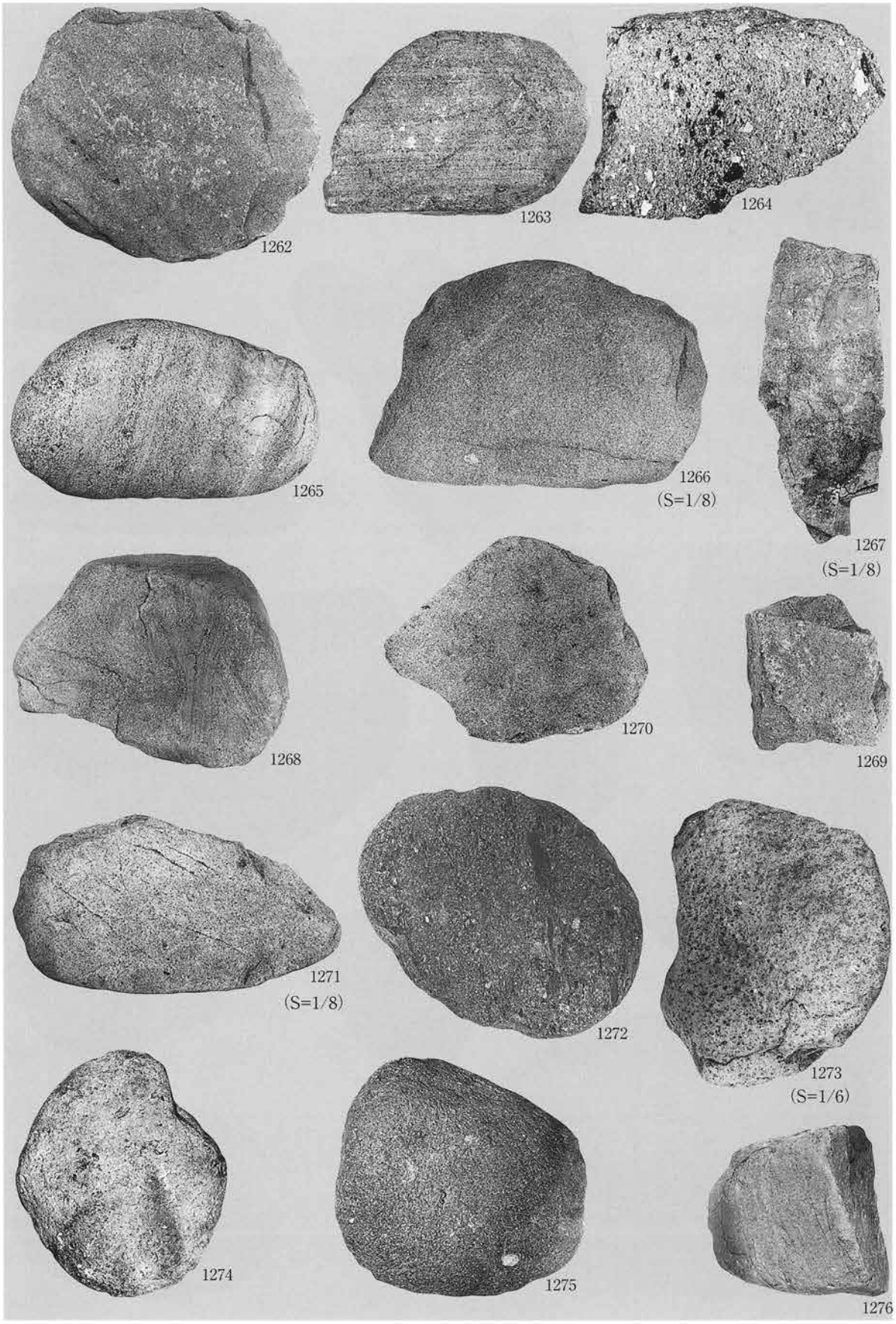
写真図版132　石器（30）

No.1233・36・39・41：S=1/5
No.1237・38・40・42：S=1/4

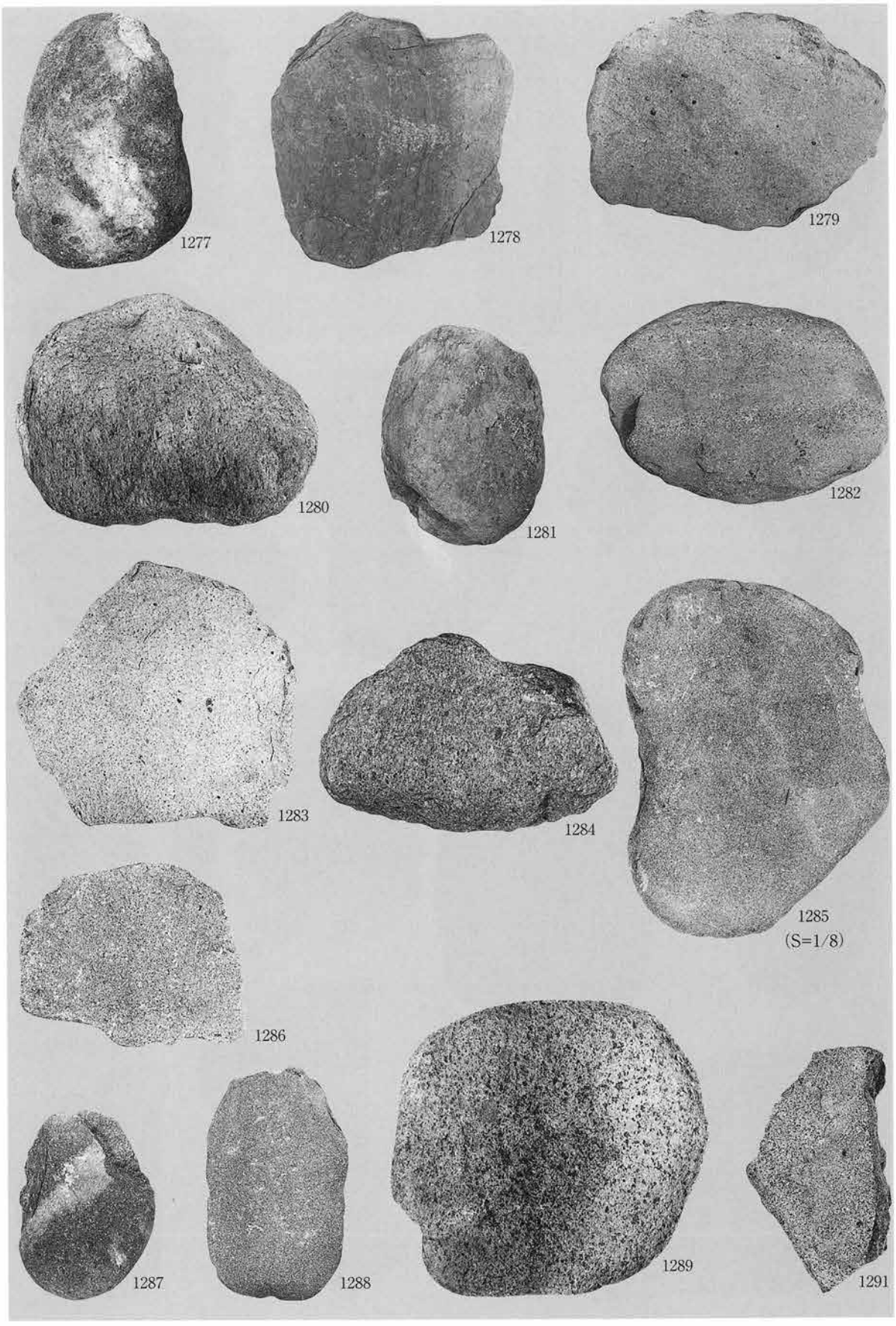


写真図版133　土器（31）

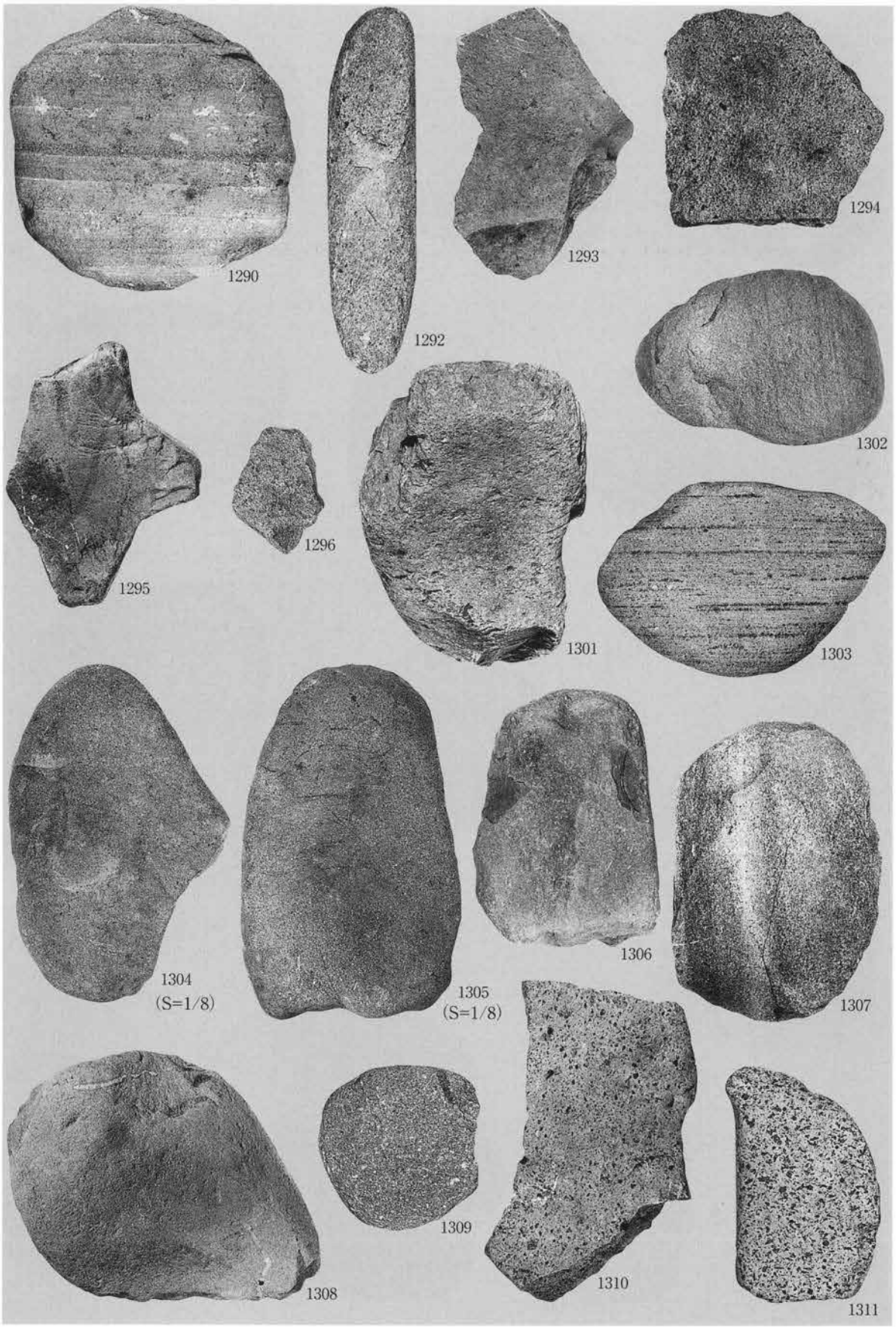
No.1243～1251：S=1/4
No.1252～1261：S=1/5



写真図版134　石器（32）　　S=1/5

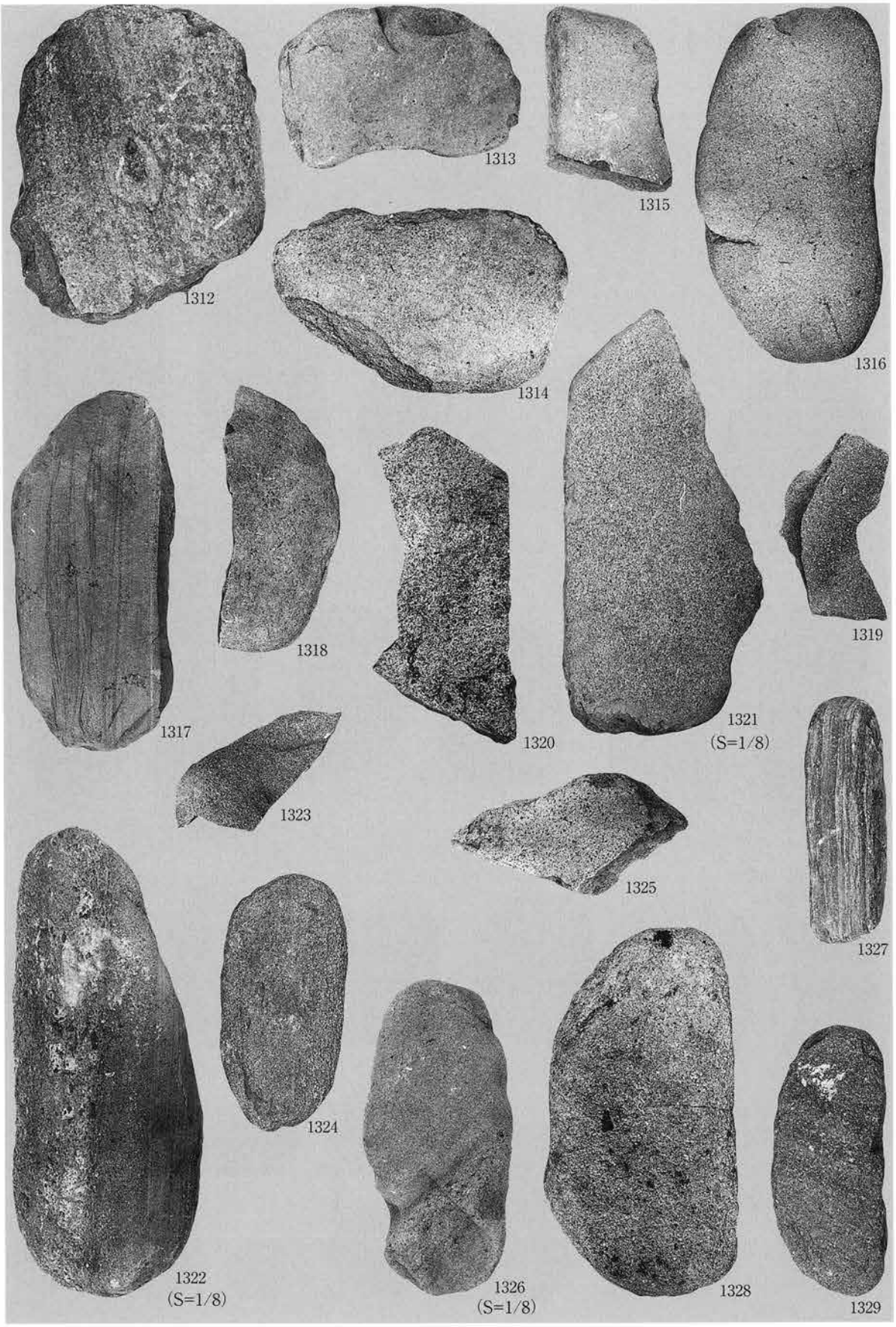


写真図版135　石器（33）　S=1/5

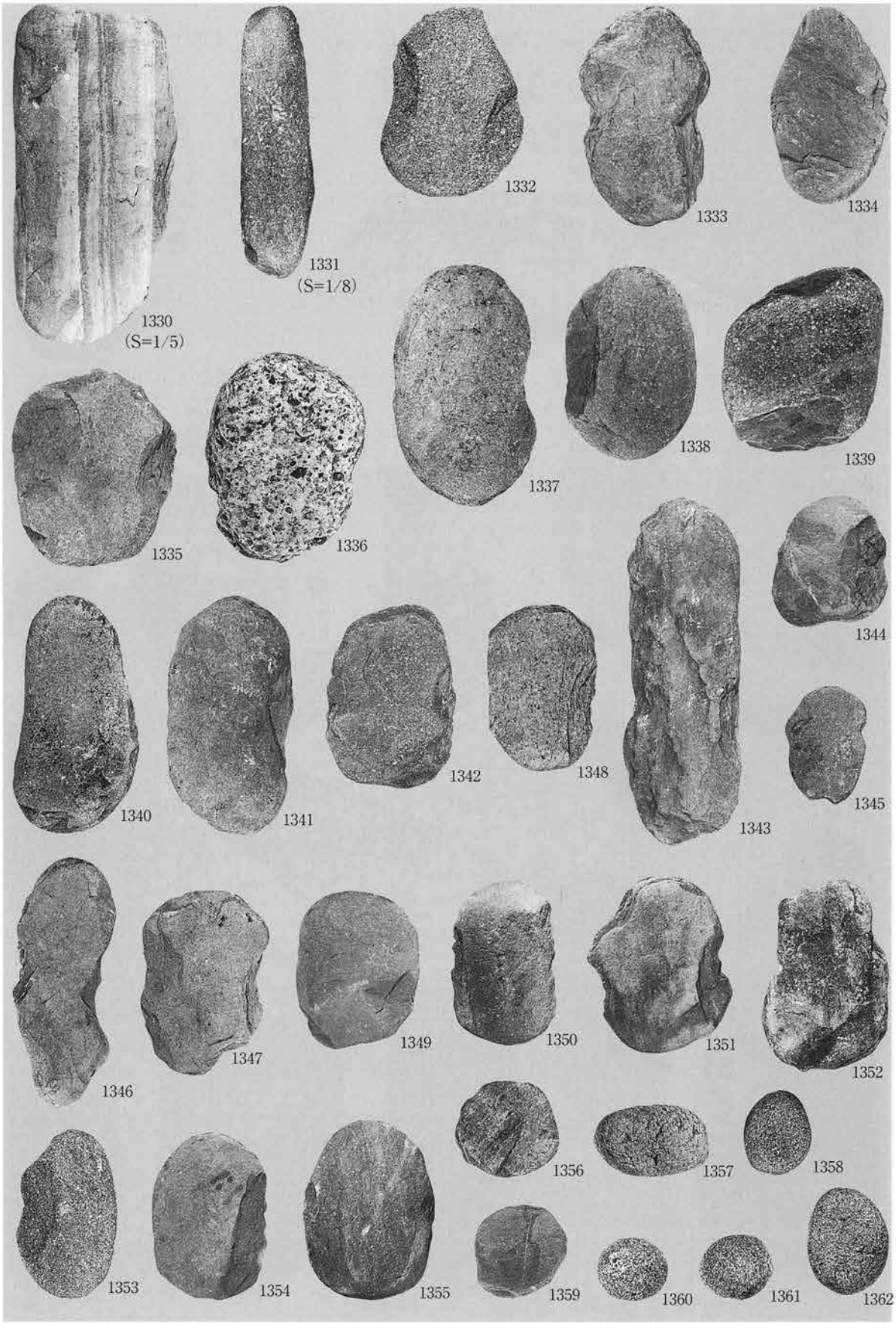


写真図版136　石器（34）

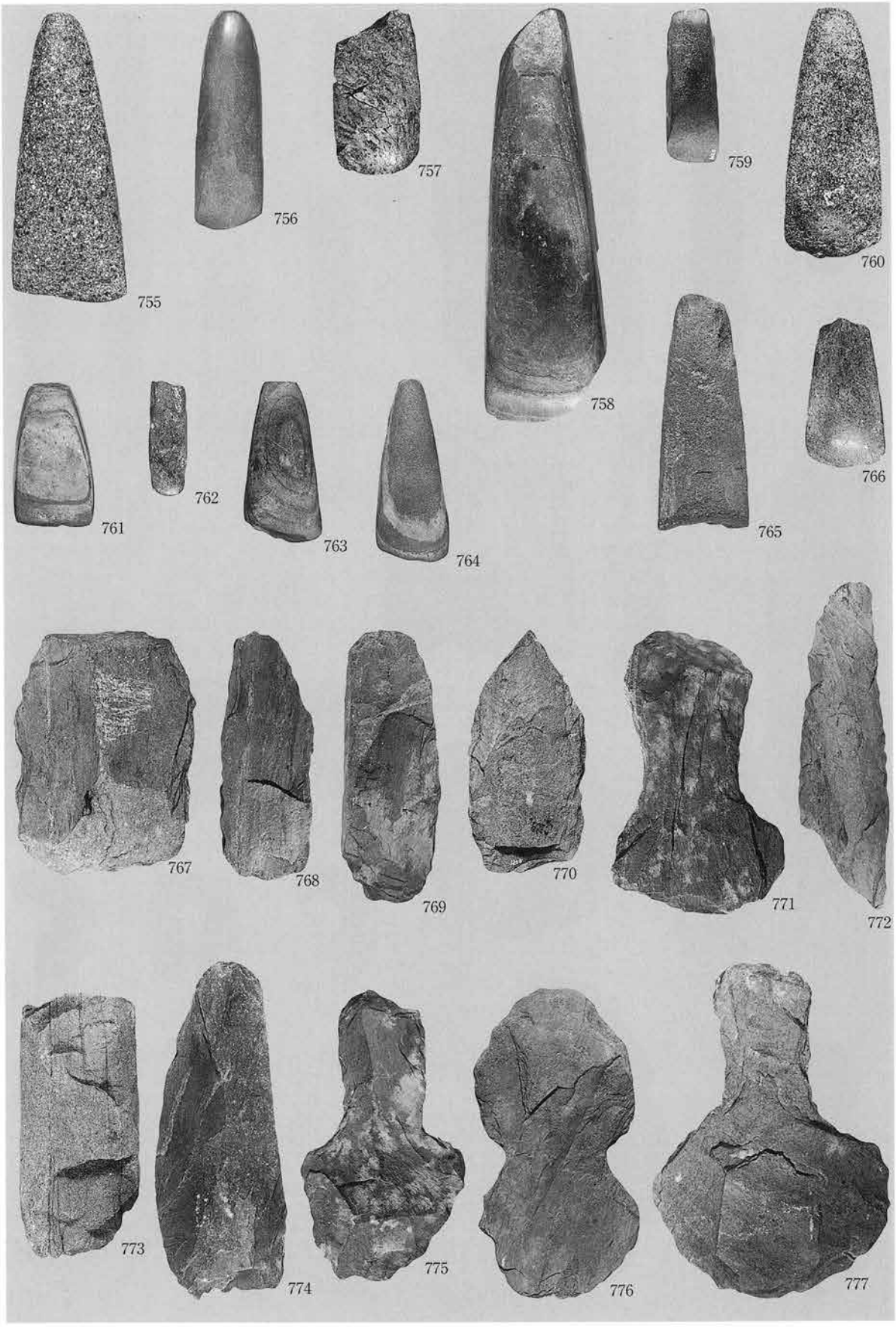
No.1294～6・1301・02・08：S=1/4
記載除き：S=1/5



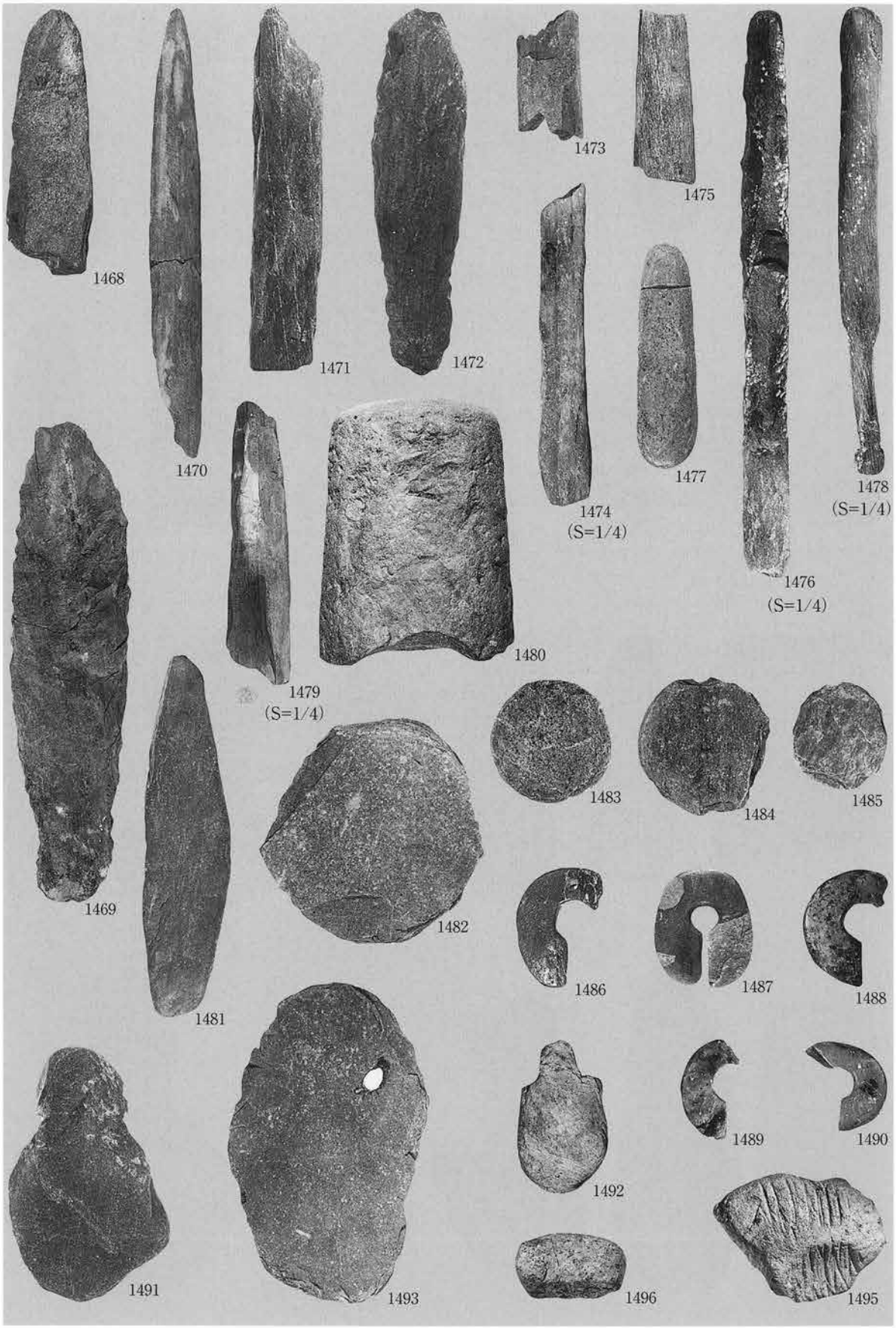
写真図版137　石器（35）　　S=1/5



写真図版138　石器（36）　　S=1/3



写真図版139　石器（37）　S=1/3



写真図版140　石製品（1）

No.1468～1481：S=1/3
No.1482～1496：S=1/2

報告書抄録

ふりがな	たていせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	館遺跡発掘調査報告書
副書名	国道397号道路整備事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第432集
編著者名	吉田　充・丸山浩治・北田　勲・川又　晋
編集機関	(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地　TEL 019-638-9001・9002
発行年月日	西暦　2004年　3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
たていせき 館遺跡	いわてけんけせんぐん 岩手県気仙郡 すみたちょうせたまい 住田町世田米 あざこまたちない 字小股地内	03441	NF14 －0159	39度 9分 27秒	141度 30分 1秒	2001. 04. 12 ～ 2001. 08. 23	2,500㎡	国道397号道路整備に伴う緊急発掘調査
						2002. 04. 11 ～ 2002. 08. 12	3,000㎡	
				世界測地系				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
館遺跡	集落跡	縄文時代	竪穴住居跡　41棟 竪穴住居状遺構　12基 土坑　54基 土器埋設遺構　1基 焼土遺構　6基	土器（縄文時代早期～後期、平安時代） 石器（剥片石器、石斧類、礫石器など） 石製品（石棒類、玦状耳飾など） 土製品（土偶、耳飾、円盤状土製品など） 銭貨	縄文時代前期後葉の大形住居跡群と中期末葉の住居跡群が検出された集落遺跡
		時期不明	柵列　5列 ピット　74基		

平成15年度（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所長　木村　昇　　副所長　平野允苗

【管理課】

課長	韮沢正吾	嘱託	高橋照雄
課長補佐	山岸直美	〃	湯沢邦子
主査	中嶋賢一	〃	沼田テル子
主事	猿橋幸子	〃	伊藤滋子

【調査第一課】

課長	佐々木勝	文化財調査員	北村忠昭
課長補佐	佐々木清文	〃	丸山浩治
文化財専門員	金子昭彦	〃	八木勝枝
文化財調査員	吉田充	〃	島原弘征
〃	亀大二郎	〃	北田勲
〃	野中真盛	期限付調査員	坂部恵造
〃	新妻伸也	〃	小林弘卓
〃	阿部勝則	〃	藤原大輔
〃	杉沢昭太郎	〃	太田代一彦
〃	西澤正晴	〃	小針大志
〃	村木敬	〃	新井田えり子

【調査第二課】

課長	三浦謙一	文化財調査員	星雅之
課長補佐	中川重紀	〃	佐藤淳一
〃	高橋義介	〃	星幸文
文化財専門員	小山内透	〃	溜浩二郎
〃	金子佐知子	〃	本多準一郎
〃	濱田宏	〃	丸山直美
文化財調査員	赤石登	〃	福島正和
〃	阿部眞澄	〃	米田寛
〃	水上明博	〃	中村絵美
〃	阿部憲	〃	須原拓
〃	早坂淳	〃	川又晋
〃	小松則也	〃	村田淳
〃	阿部徳幸	〃	（村上拓）
〃	窓岩伸吾	期限付調査員	斎藤麻紀子
〃	亀澤盛行	〃	石崎高臣
〃	飯坂一重	〃	吉田里和
〃	鈴木裕明	〃	立花裕
〃	林勲	〃	江藤敦
〃	阿部孝明	〃	駒木野智寛
〃	羽柴直人		

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第432集

館遺跡発掘調査報告書

国道397号支援道路整備事業関連遺跡発掘調査

印刷　平成16年 3月19日

発行　平成16年 3月26日

発行　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020－0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
ＴＥＬ (019) 638−9001・9002
ＦＡＸ (019) 638−8563

印刷　山口北州印刷株式会社
〒020－0133 岩手県盛岡市青山４丁目10−5
ＴＥＬ (019) 641−0585
ＦＡＸ (019) 648−1026

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2004